

令和6年度実施
「鳥取大学の教育力」
アンケート調査結果報告書

令和8年2月
教育支援・国際交流推進機構

目 次

| | |
|-----------------------------|-----|
| 調査の概要 | 1 |
| ・調査の趣旨・目的 | 1 |
| ・調査対象 | 1 |
| ・実施方法・回答率 | 2 |
| ・調査内容（別紙調査票のとおり） | 2 |
| ・調査結果の分析と報告書の構成 | 3 |
| 第 I 部 学部卒業生に対する調査結果 | 4 |
| 調査概要 | 5 |
| 第 1 章 全学 集計結果 | 7 |
| ・回答者全体の属性 | 8 |
| ・総合的な満足度 | 13 |
| ・教育・研究の充実度 | 15 |
| ・交流活動・支援体制の充実度 | 23 |
| ・大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力 | 29 |
| ・社会に出て教育成果として役立った DP 能力 | 36 |
| ・修得度×役立ち度 | 43 |
| ・学んでおけば良かったこと | 44 |
| ・H29・R2・R6 比較 | 45 |
| ・R2・R6 比較 | 48 |
| 第 2 章 学部別 集計結果 | 50 |
| ・地域学部 | 51 |
| ・医学部 | 64 |
| ・工学部 | 77 |
| ・農学部 | 90 |
| 第 II 部 大学院修了生に対する調査結果 | 103 |
| 調査概要 | 104 |
| ・回答者全体の属性 | 105 |
| ・総合的な満足度 | 112 |
| ・教育・研究の充実度 | 115 |
| ・大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力 | 125 |
| ・社会に出て教育成果として役立った DP 能力 | 139 |
| ・修得度×役立ち度 | 153 |
| ・修得度×もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力 | 155 |

| | |
|---|-----|
| 第Ⅲ部 グローバル教育（該当する学生のみ） | 158 |
| ・海外研修・留学プログラムの目的 | 159 |
| ・海外研修・留学プログラムの満足度..... | 160 |
| ・海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度 | 161 |
| ・海外研修・留学プログラムに対する 具体的な事例等（自由記述） | 162 |
| 第Ⅳ部 就職先企業に対する調査結果 | 163 |
| 調査概要..... | 164 |
| 第1章 回答企業の属性・新卒者一般に関する回答 | 165 |
| ・回答企業全体の属性 | 166 |
| ・新卒採用時に重視する能力・態度等..... | 168 |
| ・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い..... | 169 |
| ・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い（具体的記述） | 170 |
| 第2章 本学卒業生に関する回答 | 172 |
| ・本学卒業生の採用実績 | 173 |
| ・本学卒業生のイメージ..... | 175 |
| ・本学卒業生のイメージ（具体的記述） | 176 |
| ・新卒採用時に重視する能力・態度等×身につけている DP 能力 | 179 |
| ・本学卒業生の DP 能力 | 180 |
| ・教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述） | 182 |
| 第Ⅴ部 就職先企業・学部卒業生・大学院修了生のデータ関連性 | 185 |
| ・分析の観点 | 186 |
| ・設問項目の関係..... | 187 |
| ・【修得度】企業の評価×卒業生の自己評価 | 188 |
| ・【修得度】企業の評価×修了生の自己評価 | 190 |
| ・【修得度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価 | 192 |
| ・【要望度】企業の評価×卒業生の自己評価 | 193 |
| ・【要望度】企業の評価×修了生の自己評価 | 195 |
| ・【要望度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価 | 197 |
| ・【ギャップ度】企業の評価×卒業生の自己評価 | 198 |
| ・【ギャップ度】企業の評価×修了生の自己評価 | 200 |
| ・【ギャップ度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価 | 202 |
| ・【不足度】企業の評価×卒業生の自己評価 | 203 |
| ・【不足度】企業の評価×修了生の自己評価 | 205 |
| ・【不足度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価 | 207 |

| | |
|--------------------------|-----|
| 第VI部 まとめ..... | 208 |
| 資料..... | 223 |
| ・令和6年度及び令和2年度の比較データ..... | 224 |
| ・「鳥取大学の教育力アンケート」調査票..... | 228 |

調査の概要

1. 調査の趣旨・目的

本学は、基本理念「知と実践の融合」のもと、学則で教育の目標を定めるとともに、これを「教育グランドデザイン」として具現化し、「現代的教養と人間力を根底に置いた教育」を展開することによって、「社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成」を目指している。

これまでに、学外者等からの客観的な意見を聴取し、本学の教育内容等の改善に活かすことを目的として、第1期（平成19年度）、第2期（平成24年度）及び第3期（平成29年度、令和2年度）に、本学の卒業生等へのアンケート調査を全学的に実施し、学生の本学に対する満足度、在学中に修得した能力・知識の修得度、社会に出てからの役立ち度等について分析を行い、教育改善等に活用してきた。

<参考：過去の実施状況>

| 実施年度 | 対 象 | 卒業・修了年度 | 備 考 |
|------------|----------------------------------|---------------------|--------------------------|
| 令和 2年度 | 学部卒業生 大学院修了生 卒業（修了）生の就職先企業 | 平成30年3月 ～令和2年3月 | 鳥取大学の教育力アンケート報告書としてHPで公表 |
| 平成 29年度 | 学部卒業生 大学院修了生 卒業（修了）生の就職先企業 | 平成25年3月 ～平成29年3月 | 鳥取大学の教育力アンケート報告書としてHPで公表 |
| 平成 24年度 | 学部卒業生 大学院修了生 卒業（修了）生の就職先企業 | 平成20年3月 ～平成24年3月 | 鳥取大学の教育力アンケート報告書としてHPで公表 |
| 平成 19年度 | 学部卒業生 大学院修了生 | 平成11年3月 ～平成16年3月 | 日経リサーチ (21世紀大学経営協会) |

第4期中期目標期間においては、「本学の教育効果や学生の学修成果の把握等を目的とした卒業（修了）生や就職先企業向け「鳥取大学教育力アンケート」等の体系的調査の実施」を明確に中期計画として掲げている。そこで、前回（令和2年度）調査後から4年が経過した令和6年度に、以下の3つを目的として実施し、その結果を教育プログラムの改善に活用することとする。

1. 卒業生・修了生から見た本学における教育効果とその役立ち度
2. 就職企業から見た本学学生の学修成果の把握
3. 学位授与方針に示された学修成果（DP能力）が修得されたかどうかの検証

2. 調査対象

調査対象とする学部及び大学院、就職先企業及び期間は、以下のとおりである。

| | |
|---------|--|
| 卒業・修了年月 | 令和3年3月～令和6年3月 * 社会に出てからの教育成果の役立ち度を問うため、卒業（修了）後、1年以上が経過した学生を対象とする。 |
| 学 部 | 地域学部、医学部、工学部、農学部（4,457名） |
| 大学院 | 地域学研究科、持続性社会創生科学研究科、医学系研究科、工学研究科、連合農学研究科、共同獣医学研究科（1,420名） |
| 就職先企業 | 上記の卒業生・修了生の就職先企業（2,052件） |

3. 実施方法・回答率

- ・アンケートの実施方法は、Web アンケート方式（Google Forms 及び Microsoft Forms を活用）とする。
- ・学務支援システムに登録された、卒業生・修了生の保護者等連絡先情報を利用して、保護者等の住所へアンケート依頼状（ハガキ）を送付し、協力依頼を行う。併せて、学務支援システムに登録された本人のメールアドレスにもメールを送信し、協力依頼を行う。
- ・留学生については、ハガキは送らず、メールのみで協力依頼を行う。
- ・教育支援・国際交流推進機構キャリアセンターが保有する卒業生・修了生の就職先企業のデータを利用して、企業へアンケート依頼文書を郵送し、協力依頼を行う。
- ・アンケートは、令和7年3月上旬に送付を行い、令和7年5月末に回答を締め切った。
回答率は以下のとおりである。

| 対 象 | 送 付 数 | 回 答 数 | 回 収 率 | 有効回収率 |
|--------|-------------|-------|-------|-------|
| 学部卒業生 | 4,457(267) | 608 | 13.6% | 14.5% |
| 大学院修了生 | 1,420 (91) | 268 | 18.9% | 20.2% |
| 就職先企業 | 2,052 (227) | 391 | 19.1% | 21.4% |

* 送付数の（ ）内は、住所不明等による日本郵便株式会社からの返却数を示す（内数）。

4. 調査内容（別紙調査票のとおり）

アンケート調査票は、学部卒業生用・大学院修了生用・就職先企業用の3種類とした。
主な内容及び調査項目は、次のとおりである。

| | |
|----------|--|
| 【卒業生】 | Q 1：基本属性（卒業時期／卒業した学部学科／アンケートをどうやって知ったか） Q 2：現在の職業・業種 Q 3：鳥取大学の教育と研究の充実度 Q 4：鳥取大学の交流活動とサポート体制の充実度 Q 5：鳥取大学に対する総合的な満足度 Q 6：鳥取大学での DP 能力の修得度 Q 7：鳥取大学での学修成果の役立ち度 Q 8：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述） Q 9：教育・学生支援の改善に対する意見・要望等（自由記述） <u>グローバル教育（該当する学生のみ）</u> Q 1：海外研修・留学プログラムの目的 Q 2：海外研修・留学プログラムの満足度 Q 3：海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度 Q 4：海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等（自由記述） |
| 【大学院修了生】 | Q 1：基本属性（修了時期／修了した研究科専攻／アンケートをどうやって知ったか） Q 2：現在の職種・業種 Q 3：鳥取大学大学院の教育や研究の充実度 Q 4：鳥取大学大学院に対する総合的な満足度 Q 5：鳥取大学大学院での DP 能力の修得度 Q 6：鳥取大学大学院での学修成果の役立ち度 |

| | |
|---------|---|
| | Q 7 : 社会に出てから役立った具体的な事例 (自由記述) Q 8 : 研究指導の改善に対する意見・要望等 (自由記述) |
| 【就職先企業】 | Q 1 : 従業員規模 Q 2 : 業種 Q 3 : 本社所在地 Q 4 : 鳥取大学卒業生の採用実績 (人数) Q 5 : 鳥取大学卒業生の採用実績 (学部・研究科) Q 6 : 新卒採用活動で重視する学生の能力・態度等 Q 7 : 学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い Q 8 : 鳥取大学卒業生のイメージ Q 9 : 鳥取大学卒業生の DP 能力 Q10 : 教育・学生支援に対する意見・要望等 (自由記述) |

5. 調査結果の分析と報告書の構成

調査結果については、第Ⅰ部(学部卒業生)は高等教育開発センター小林教授, 瀬戸准教授, 三好准教授, データサイエンス教育センター橋本教授, 第Ⅱ部(大学院修了生)は高等教育開発センター香川教授, 第Ⅲ部(グローバル教育)は入学センター森川教授, 第Ⅳ部(就職先企業)についてはキャリアセンター長尾准教授, 前回調査との比較については、経営戦略本部大野教授が中心となり、それぞれ分析・とりまとめを行った。

第Ⅰ部は、「学部卒業生」に対する調査結果であり、主に本学の教育・研究等に対する満足度、大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力、卒業後に役立った DP 能力について、第 1 章では大学全体、第 2 章では学部毎の結果について分析を行っている。併せて、平成 29 年度及び令和 2 年度のアンケート結果との比較も行っている。

第Ⅱ部は、「大学院修了生」に対する調査結果であり、学部卒業生と同様に、主に本学大学院の教育・研究内容の充実度、大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力、社会へ出てから役立った DP 能力について分析を行っている。

第Ⅲ部は、「グローバル教育」に対する調査結果であり、海外研修・留学プログラムに参加した目的、満足度、修得した能力・知識等について分析を行っている。

第Ⅳ部は、「就職先企業」に対する調査結果であり、第 1 章として企業が一般的に採用時に重視する学生の能力・態度等について、第 2 章では、企業から見た本学卒業生の印象、DP 能力等について分析を行っている。

第Ⅴ部は、就職先企業・学部卒業生・大学院修了生への調査で共通する学部・研究科における教育成果について、関連性の分析を行っている。

なお、各グラフに記載の構成比の数値は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも 100%とならない場合がある。

第 I 部

学部卒業生に対する

調査結果

調査概要(1/2)

1. 目的

学部卒業生を対象として、本学が実施した教育の効果ならびに学生が身につけた学習の成果等を把握する。

2. 対象

令和3年3月～令和6年3月卒業生（過去4か年）

3. 実施・回答時期

令和7年3月上旬に対象者へ依頼，5月末回答締切

4. 実施方法

卒業生の保護者等の住所にアンケート協力依頼文書を送付。アンケートの実施方法は、Web アンケート方式（Google 及び MS フォームを活用）とした。

5. サンプル件数

4,457 件送付，603 件回収（回収率 13.6%）

調査概要(2/2)

6. アンケート項目

- Q 1 : 基本属性 (卒業時期 / 卒業した学部学科)
- Q 2 : 現在の職業・業種
- Q 3 : 鳥取大学の教育と研究の充実度
- Q 4 : 鳥取大学の交流活動とサポート体制の充実度
- Q 5 : 鳥取大学に対する総合的な満足度
- Q 6 : 鳥取大学での DP 能力の修得度
- Q 7 : 鳥取大学での学修成果の役立ち度
- Q 8 : 社会に出てから役立った具体的な事例 (自由記述)
- Q 9 : 教育・学生支援の改善に対する意見・要望等 (自由記述)

<グローバル教育 (該当する学生のみ) >

- Q 1 : 海外研修・留学プログラムの目的
- Q 2 : 海外研修・留学プログラムの満足度
- Q 3 : 海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度
- Q 4 : 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等 (自由記述)

第1章

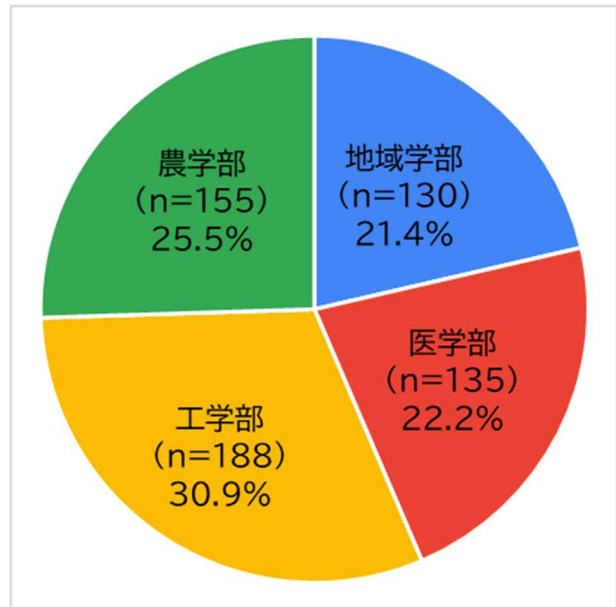
全学 集計結果

回答者全体の属性(1/5)

<学部学科>

【学部別・全体】

| 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 130 | 135 | 188 | 155 | 608 |
| 21.4% | 22.2% | 30.9% | 25.5% | 100.0% |



【学部別×学科別】

| 地域学部 | 地域学科 | | | 地域政策学科 | 地域文化学科 | 地域環境学科 | 計 |
|-------|-----------|---------|---------|--------|--------|--------|---|
| | 国際地域文化コース | 人間形成コース | 地域創造コース | | | | |
| | 43 | 44 | 36 | | | | |
| 33.1% | 33.8% | 27.7% | 3.1% | 1.5% | 0.8% | 100.0% | |

| 医学部 | 医学科 | 生命科学科 | 保健学科 | | 計 |
|-------|-------|-------|-------|----------|---|
| | | | 看護学専攻 | 検査技術科学専攻 | |
| | | | 46 | 33 | |
| 34.1% | 24.4% | 25.9% | 15.6% | 100.0% | |

| 工学部 | 機械物理系学科 | 電気情報系学科 | 化学バイオ系学科 | 社会システム土木系学科 | 機械工学科 | 知能情報工学科 | 電気電子工学科 | 社会開発システム工学科 | 計 | |
|-----|---------|---------|----------|-------------|-------|---------|---------|-------------|---|--------|
| | 39 | 41 | 52 | 41 | 5 | 2 | 7 | 1 | | 188 |
| | 20.7% | 21.8% | 27.7% | 21.8% | 2.7% | 1.1% | 3.7% | 0.5% | | 100.0% |

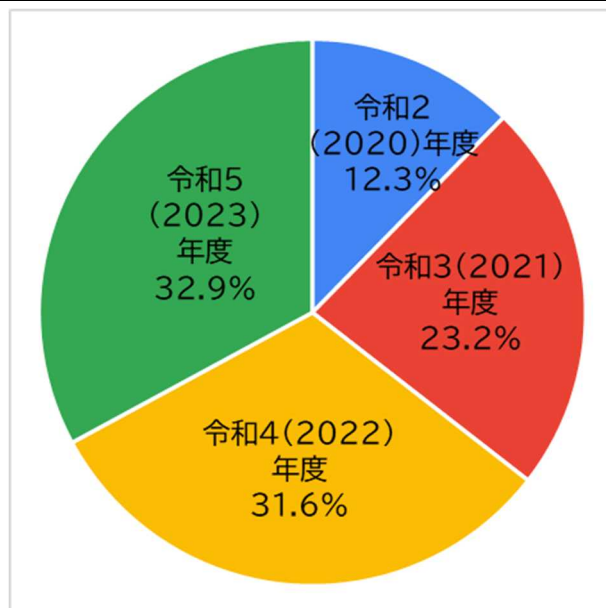
| 農学部 | 生命環境農学科 | 共同獣医学科 | 生物資源環境学科 | 獣医学科 | 計 | |
|-----|---------|--------|----------|------|---|--------|
| | 125 | 17 | 6 | 7 | | 155 |
| | 80.6% | 11.0% | 3.9% | 4.5% | | 100.0% |

回答者全体の属性(2/5)

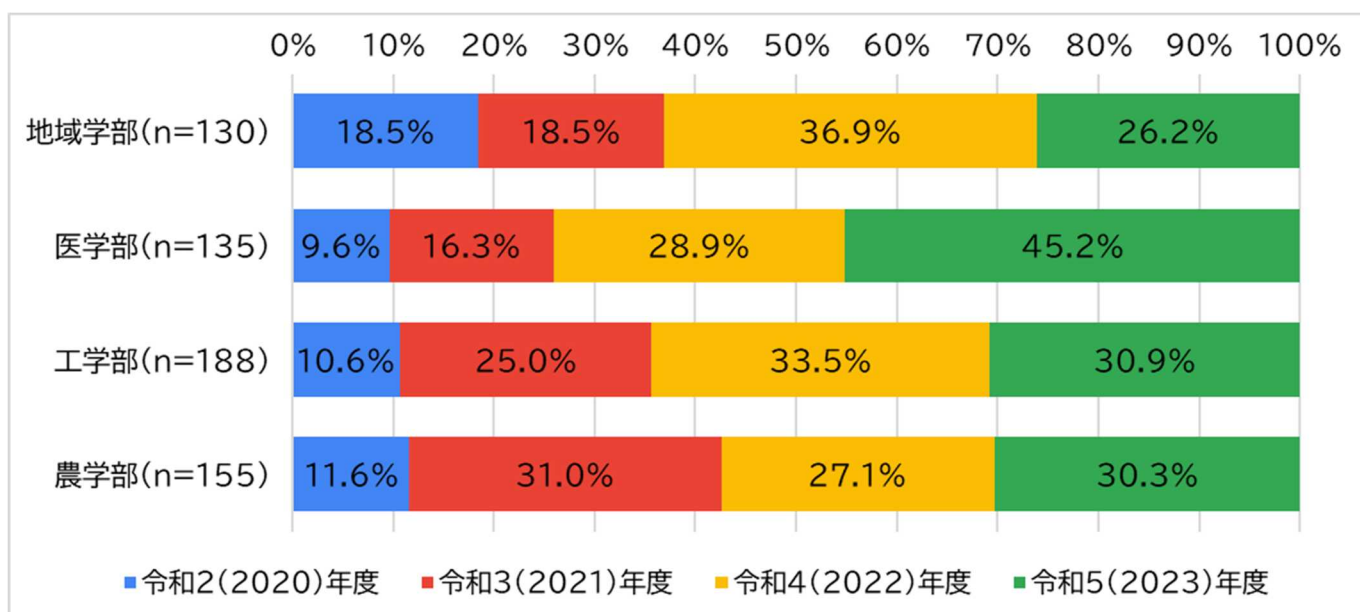
<卒年>

【卒年別・全体】

| 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 75 | 141 | 192 | 200 | 608 |
| 12.3% | 23.2% | 31.6% | 32.9% | 100.0% |

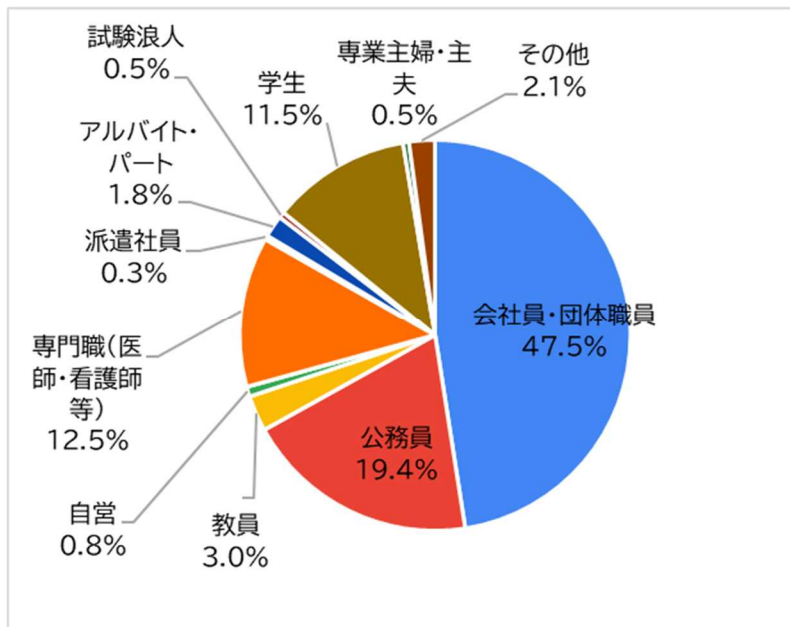


【卒年別×学部別】

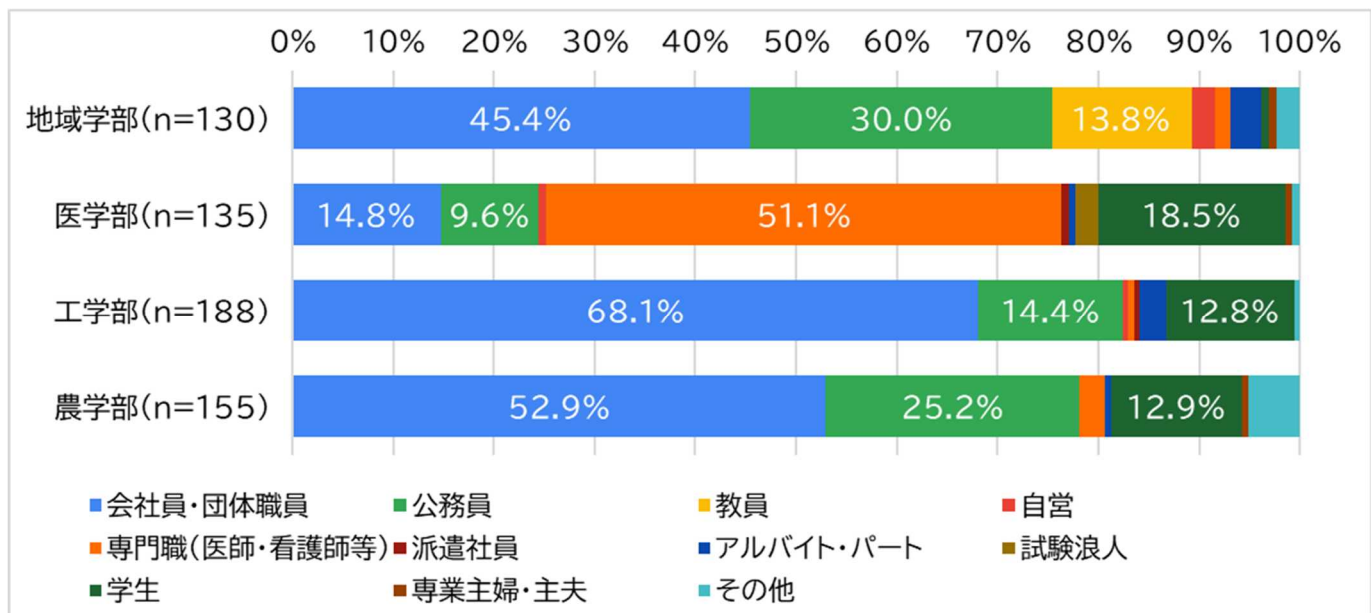


回答者全体の属性(3/5) <現在の職業>

【現在の職業・全体】



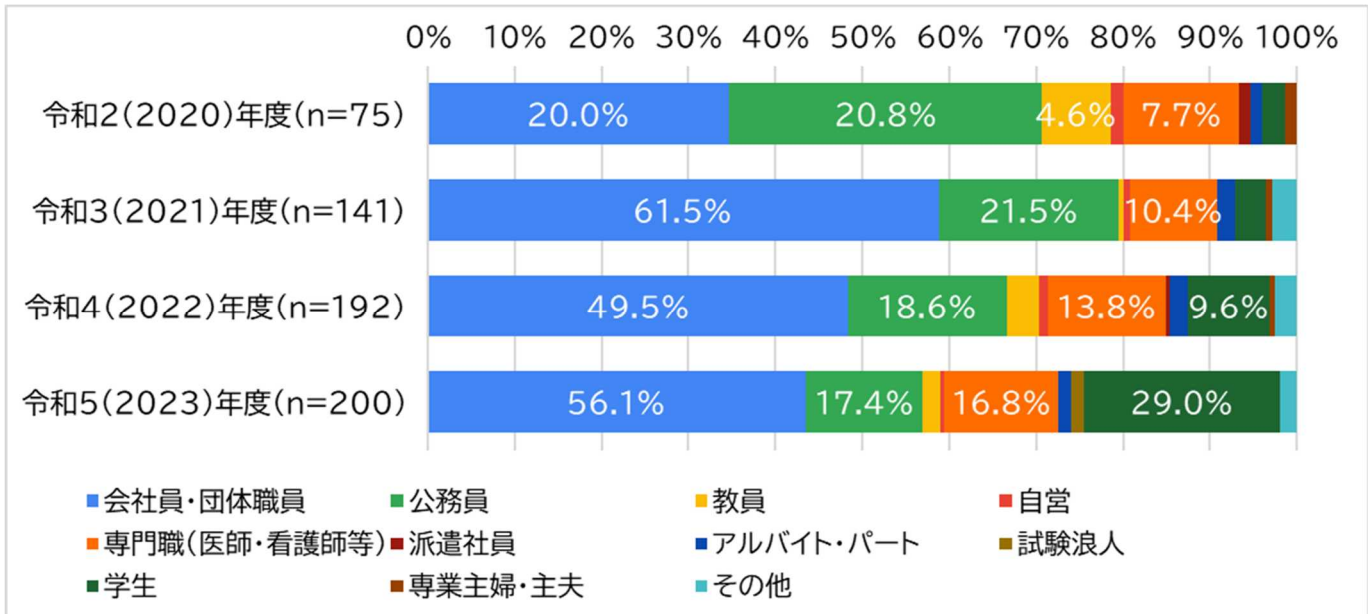
【現在の職業×学部別】



回答者全体の属性(4/5)

<現在の職業>

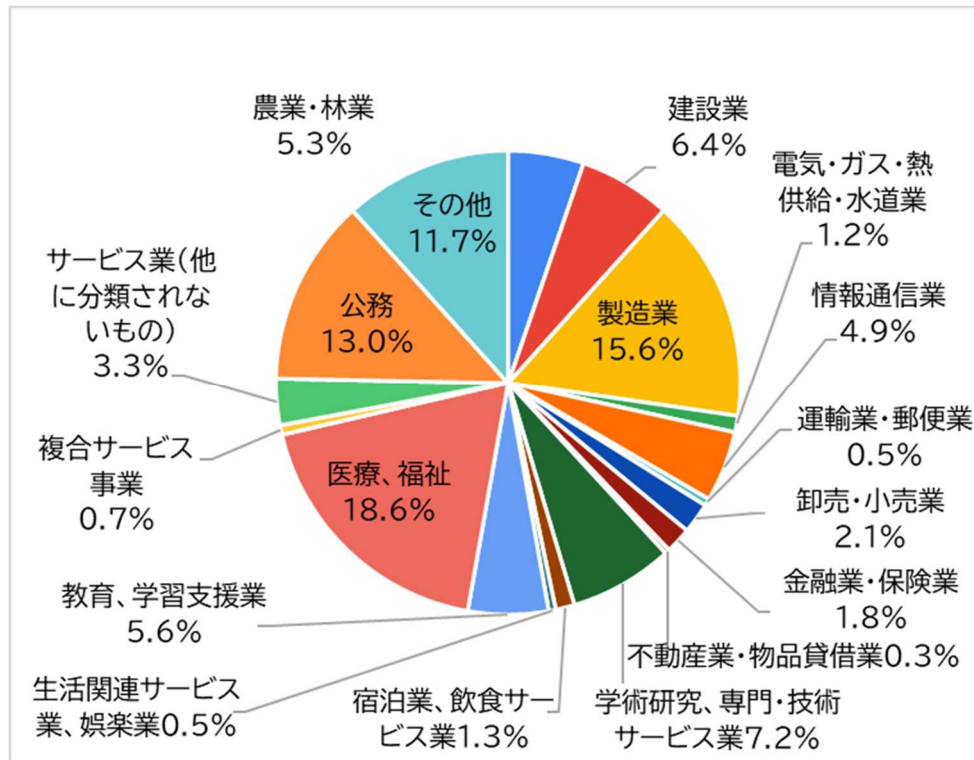
【現在の職業×卒年別】



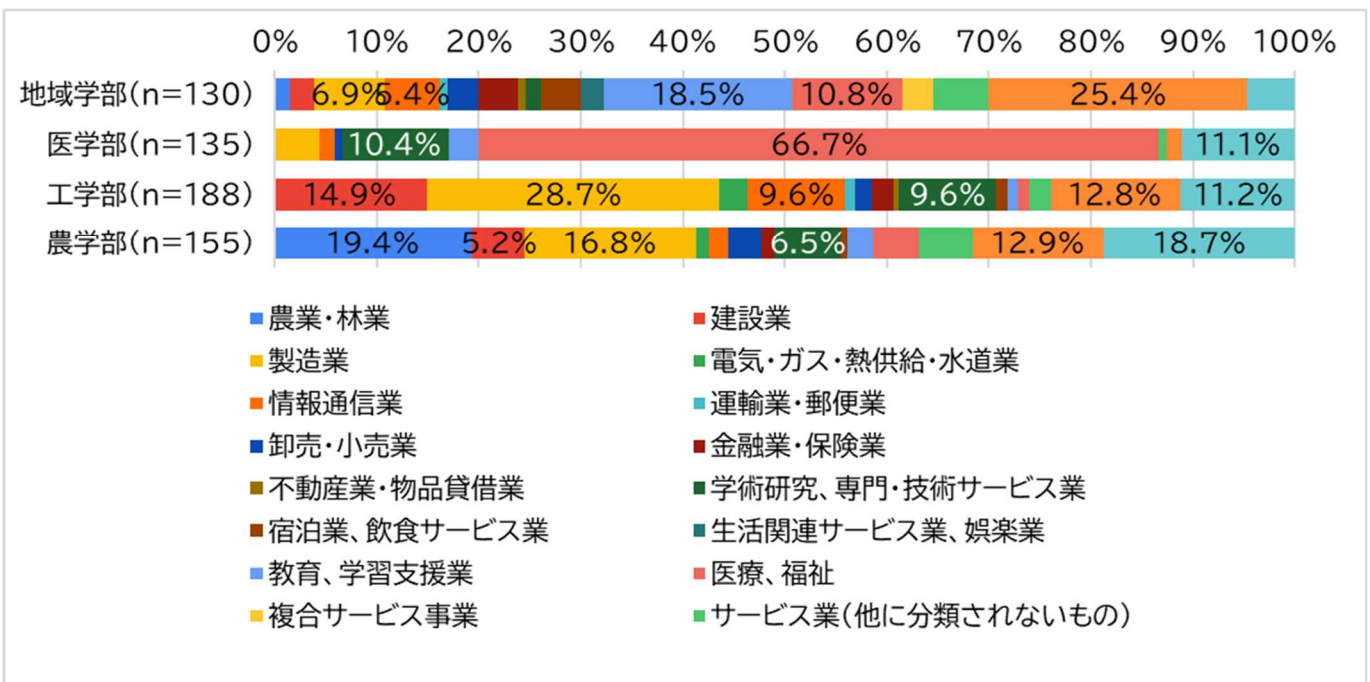
回答者全体の属性(5/5)

<現在の業種>

【現在の業種・全体】



【現在の業種×学部別】



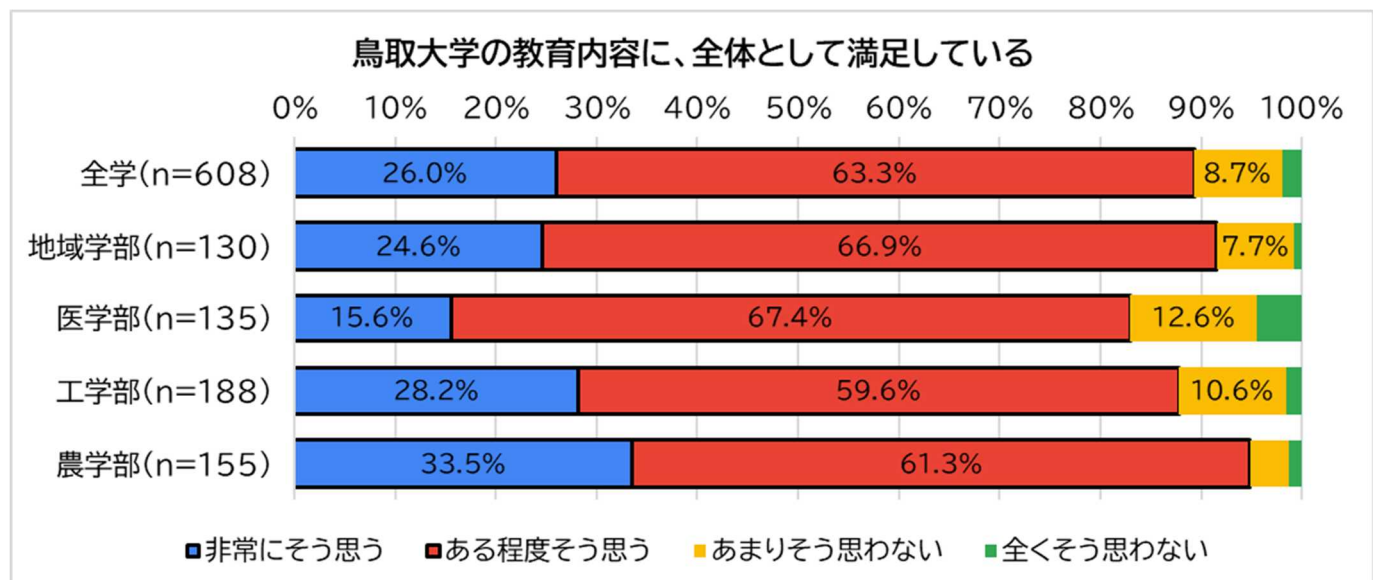
総合的な満足度(1/2)

<教育内容> <卒業後の役立ち度>

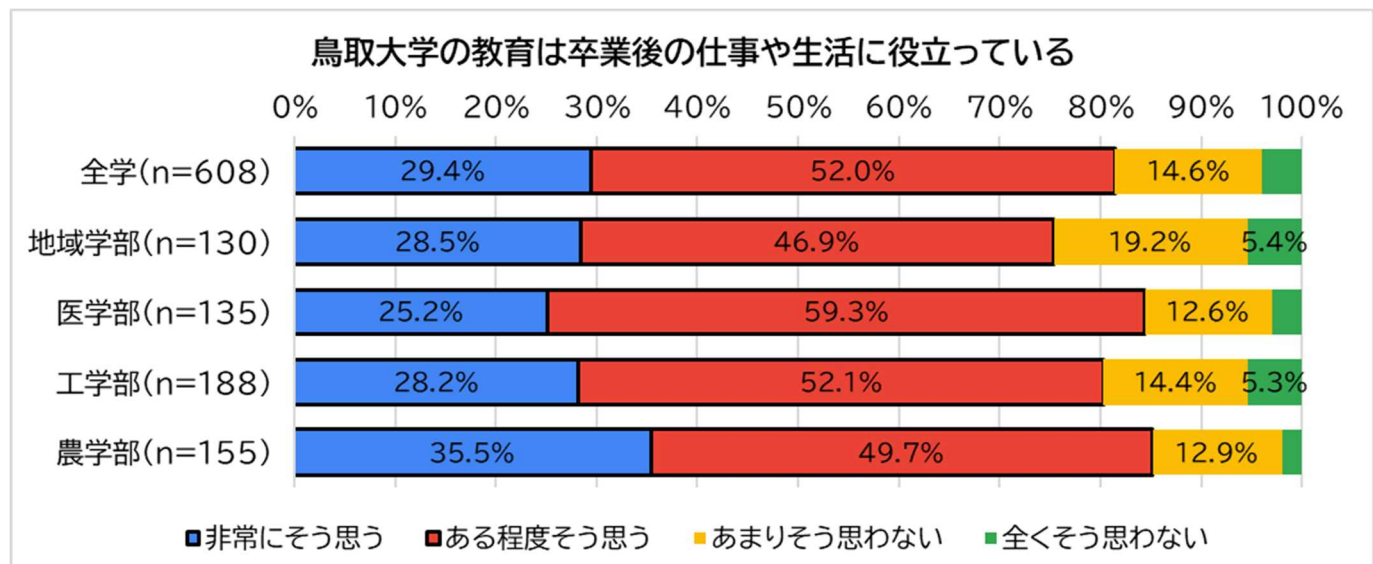
・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、全学で 89.3%が肯定的回答（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」、以下本調査結果において同じ）をした。学部別では地域学部 91.5%，医学部 83.0%，工学部 87.8%，農学部 94.8%で、地域学部と農学部では 9 割をこえる高い肯定的回答であった。

・「大学教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、全学で 81.4%と比較的高い肯定的回答をした。学部別では農学部が最も多く 85.2%だった。次いで医学部 84.5%，工学部 80.3%，地域学部 75.4%だった。

鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



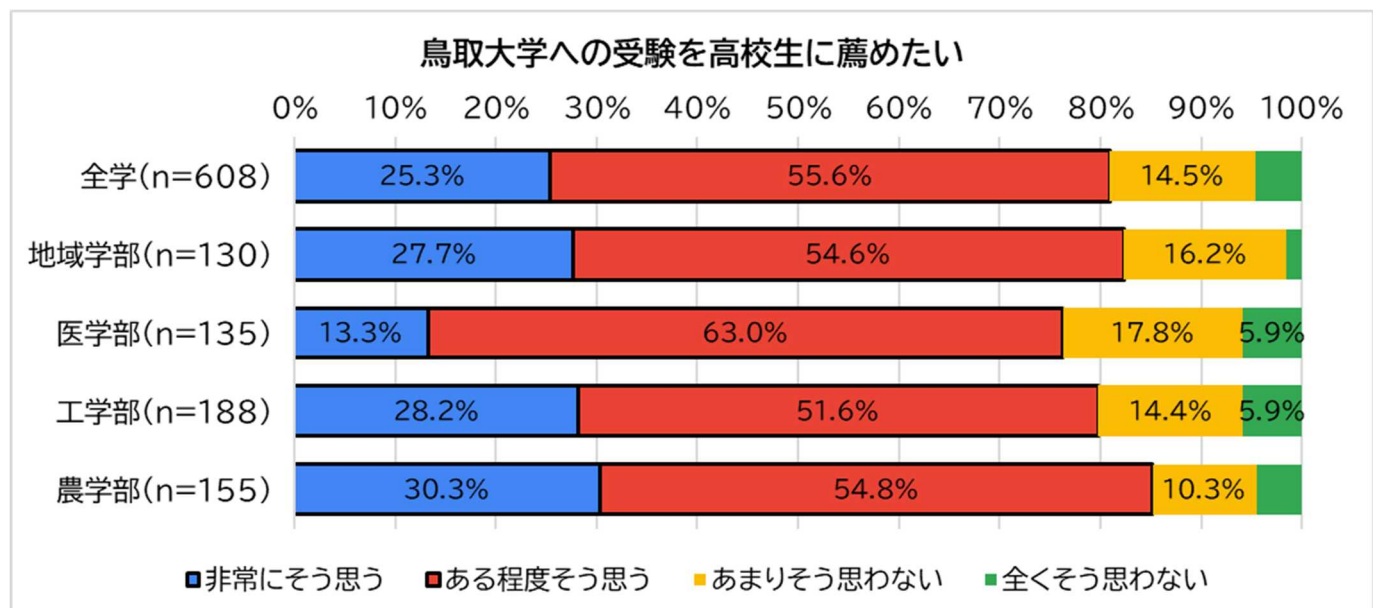
鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



総合的な満足度(2/2) 〈高校生への受験推奨度〉

・「高校生に対する本学受験の推奨度」は、全学で 80.9%が肯定的回答をした。学部別では、農学部 85.1%、地域学部 82.3%で 2 学部が 8 割を超える肯定的回答をした。工学部は 79.8%で、医学部は 76.3%で 8 割には及ばなかったが 75%をこえる肯定的回答であった。

鳥取大学への受験を高校生に薦めたい



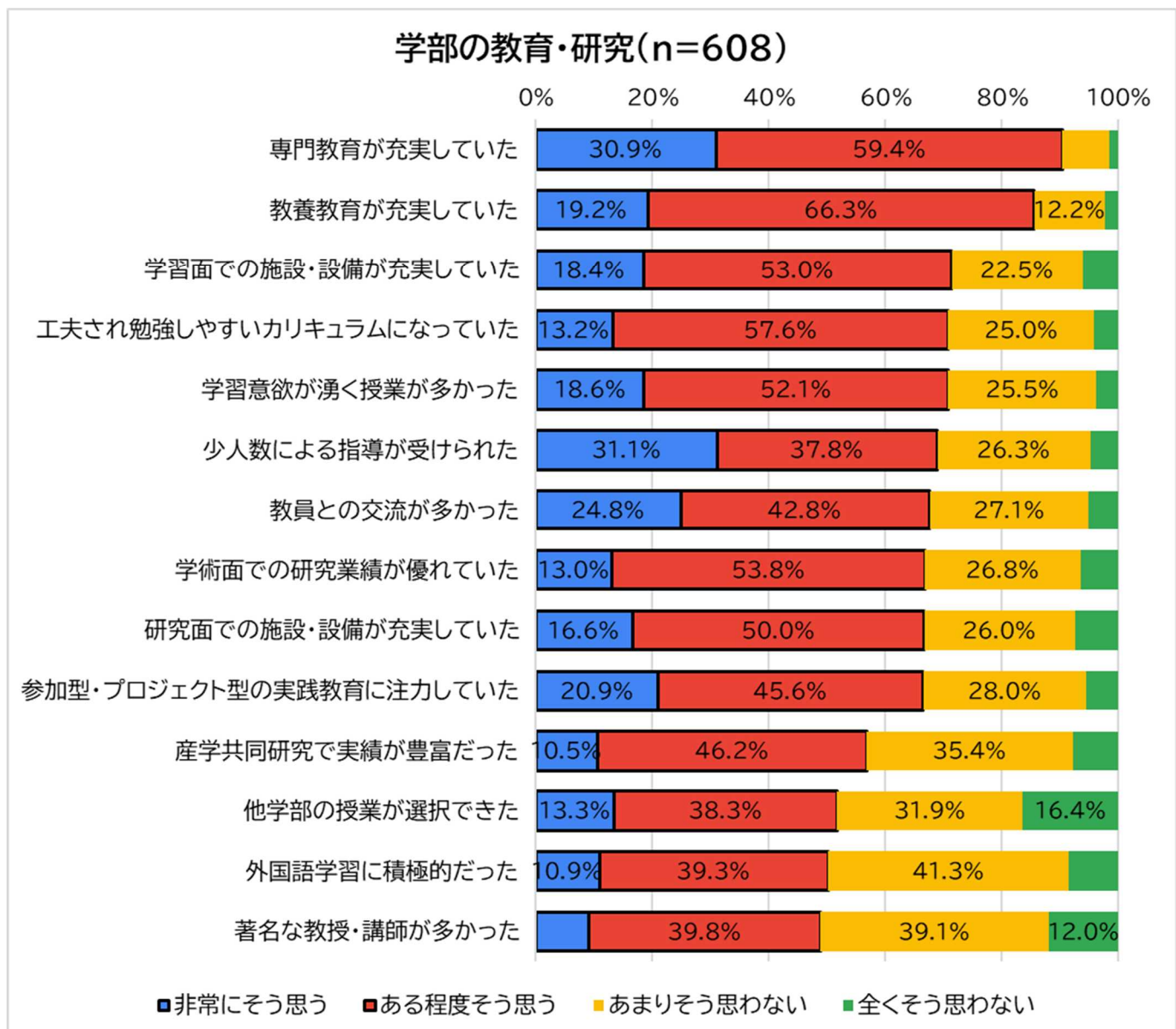
教育・研究の充実度(1/8)

<全体>

・大学の教育・研究の充実度に関する 14 項目のうち、肯定的回答は「専門教育が充実していた」(90.3%) で最も多かった。最も少なかったものは「著名な教授・講師が多かった」(48.8%) で、14 項目の全てにおいて 4 割以上の肯定的回答を得た。

・「非常にそう思う」という強い肯定的回答が 2 割を超えるものは、「少人数による指導が受けられた」(31.1%) , 「専門教育が充実していた」(30.9%) , 「教員との交流が多かった」(24.8%) , 「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた」(20.9%) の 4 項目だった。

大学の教育・研究の充実度

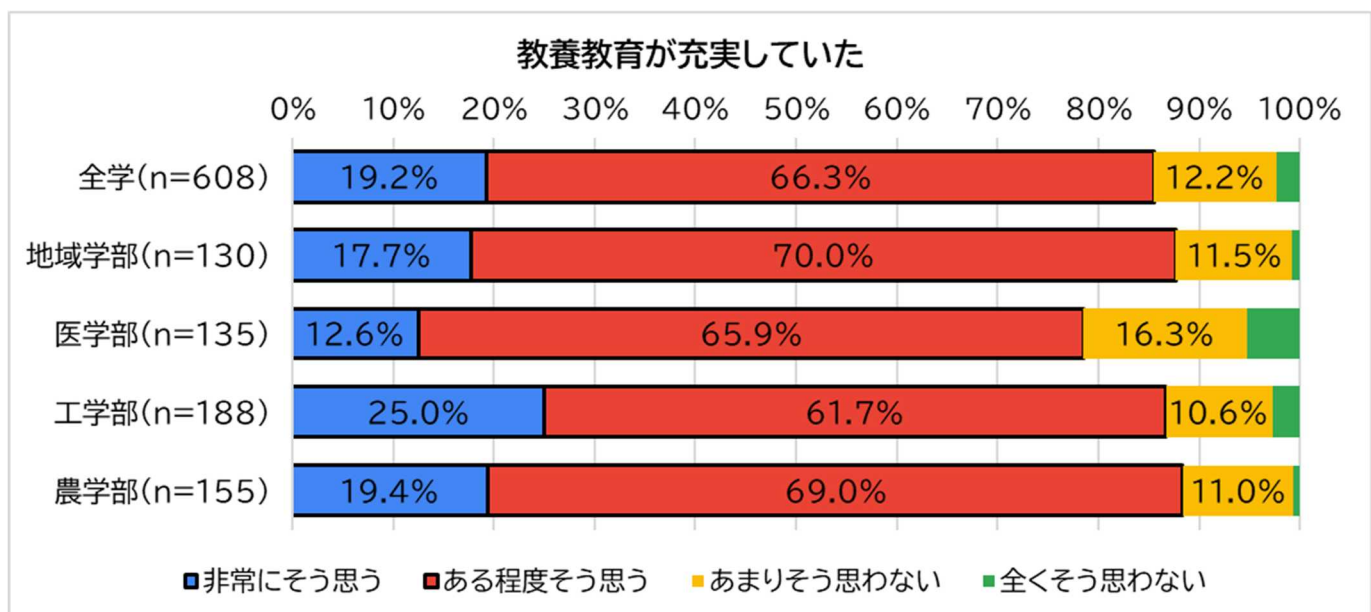


教育・研究の充実度(2/8) <教養教育> <専門教育>

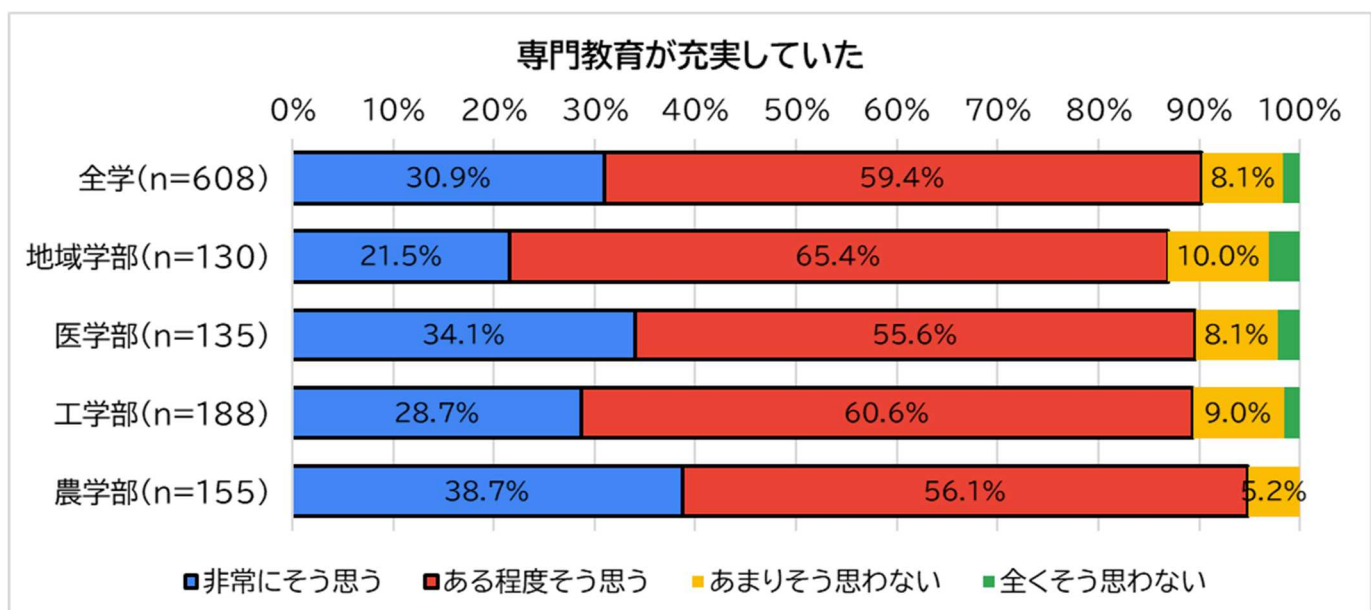
・「教養教育の充実」に関して、全学では85.5%が肯定的回答であり、農学部では88.4%が肯定的回答であった。一番少ない医学部でも78.5%であった。全体的に高い肯定的回答であった。

・「専門教育の充実」については、農学部で94.8%、医学部と工学部でも約9割の肯定的回答であった。地域学部でも87.7%の肯定的回答であり、全学的に専門教育が充実していたという結果であった。

教養教育が充実していた



専門教育が充実していた



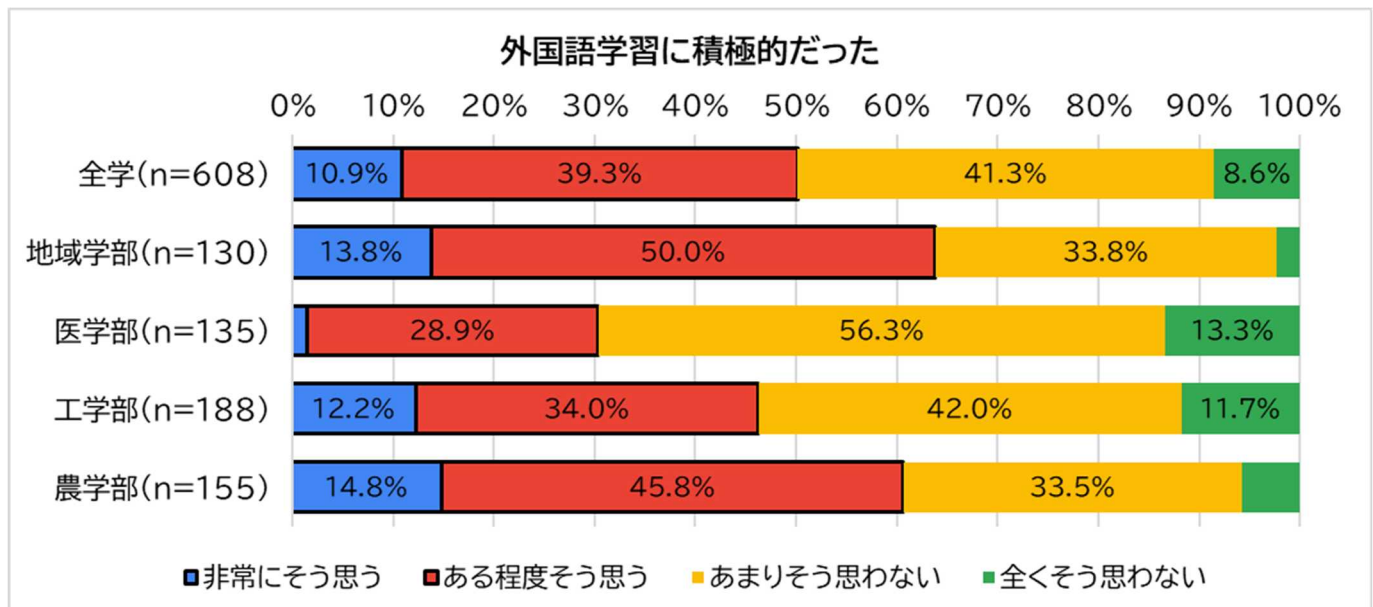
教育・研究の充実度(3/8)

<外国語学習> <カリキュラム>

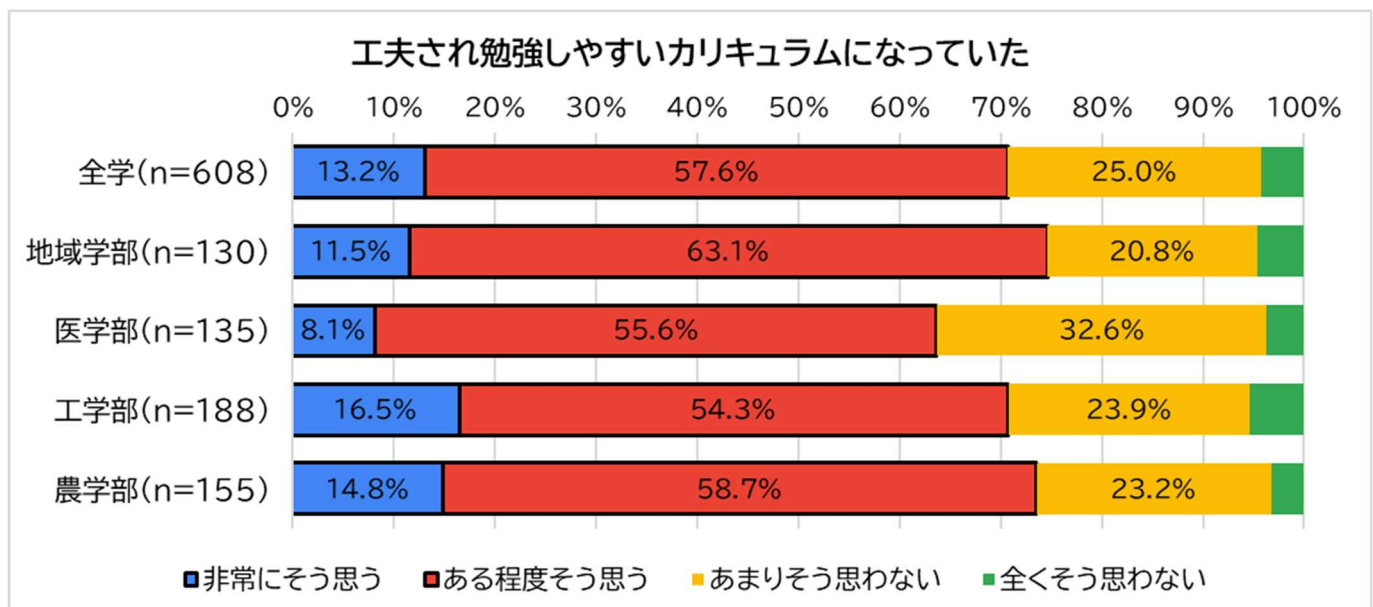
・「外国語学習に積極的」であったかどうかの質問には、農学部と地域学部では肯定的回答が6割を超えていた。医学部では30.4%，工学部では46.2%と低めの肯定的回答であり，学部間で差が見られた。

・「工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた」について，全学では70.8%の肯定的回答であった。地域学部で最も高く74.6%の肯定的回答で，農学部73.5%，工学部70.8%，医学部63.7%の肯定的回答であった。医学部を除く3学部では肯定回答が7割を超えた結果となった。

外国語学習に積極的だった



工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた



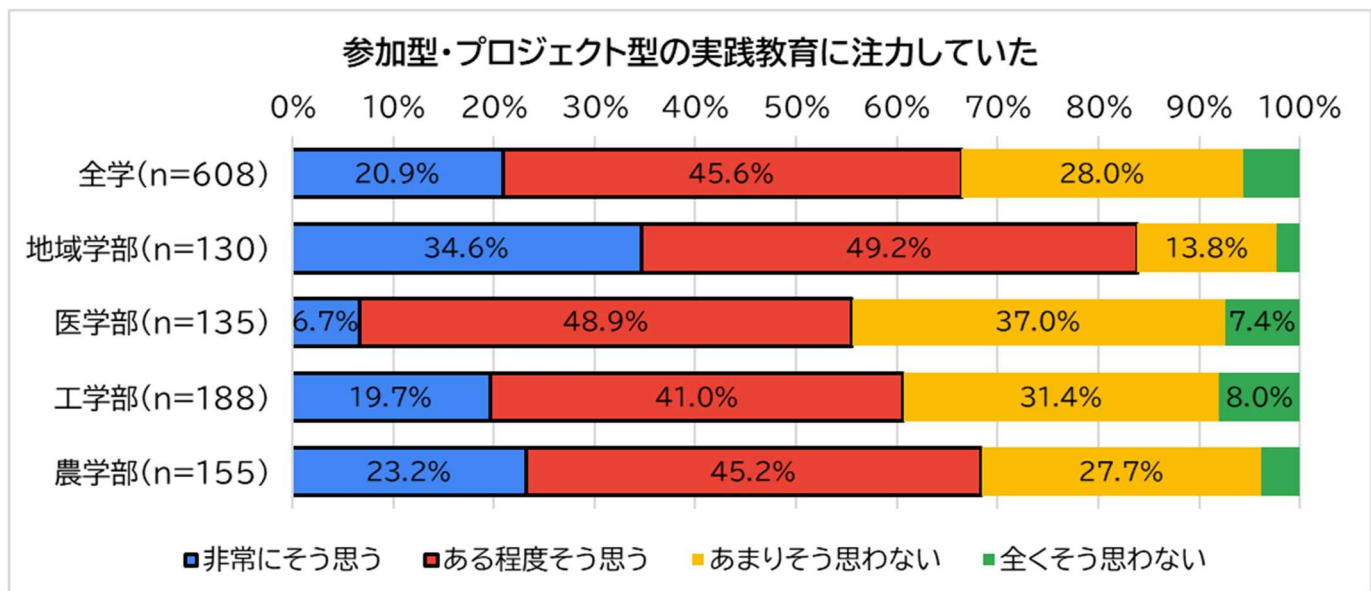
教育・研究の充実度(4/8) <実践教育> <少人数の指導>

・「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」に関しては、地域学部で83.8%の肯定的回答であったのに対し、医学部では6割を下回る肯定的回答となった。学部間で差が見られた。

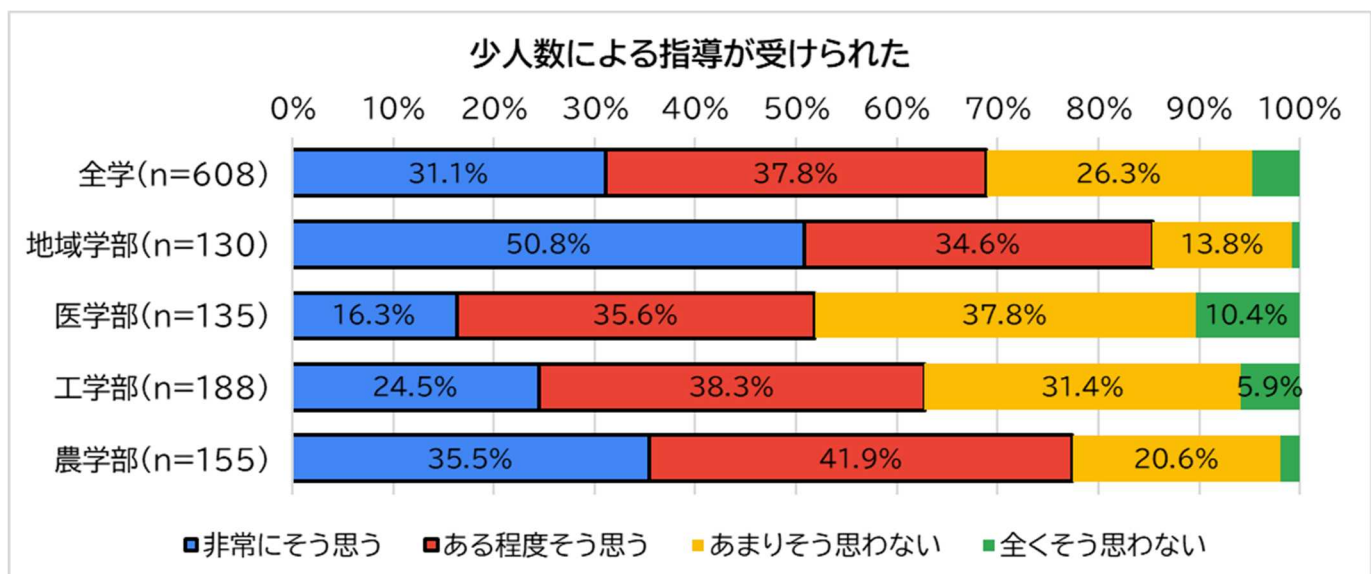
・「少人数による指導が受けられた」に関しても、学部間で差がみられる。肯定的回答は地域学部で最も多く85.4%、医学部で一番少なく51.9%であった。農学部が77.4%、工学部62.8%であった。

・「実践教育」と「少人数の指導」という観点では、地域学部が他学部より目立って高い肯定的回答となった。

参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた



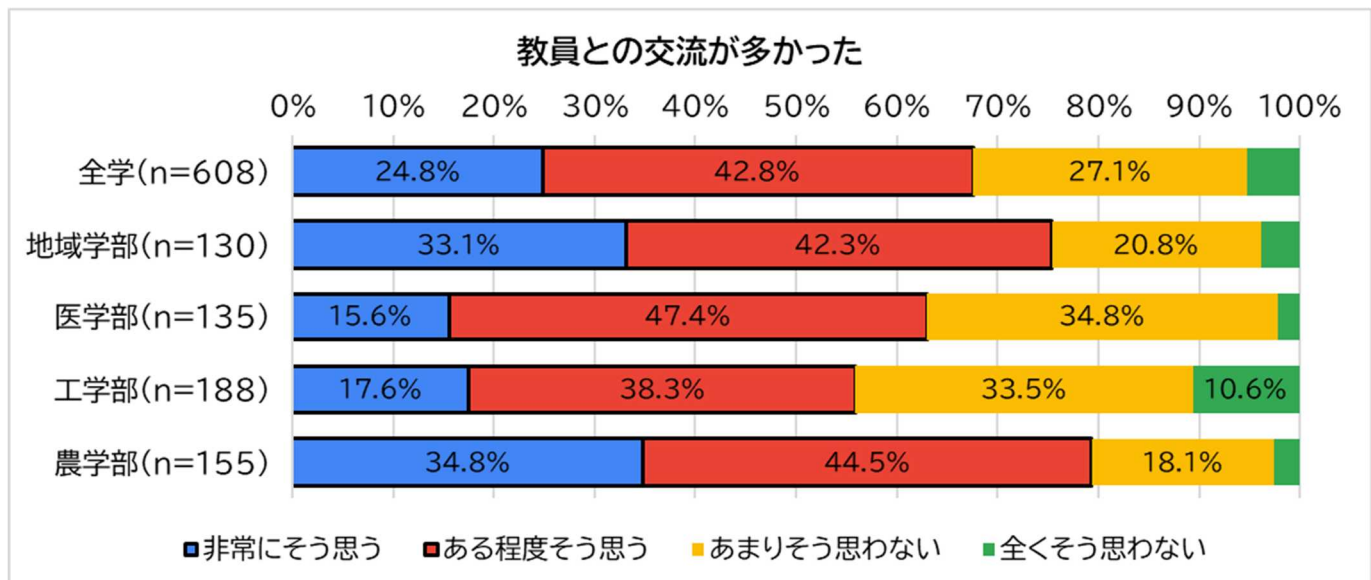
少人数による指導が受けられた



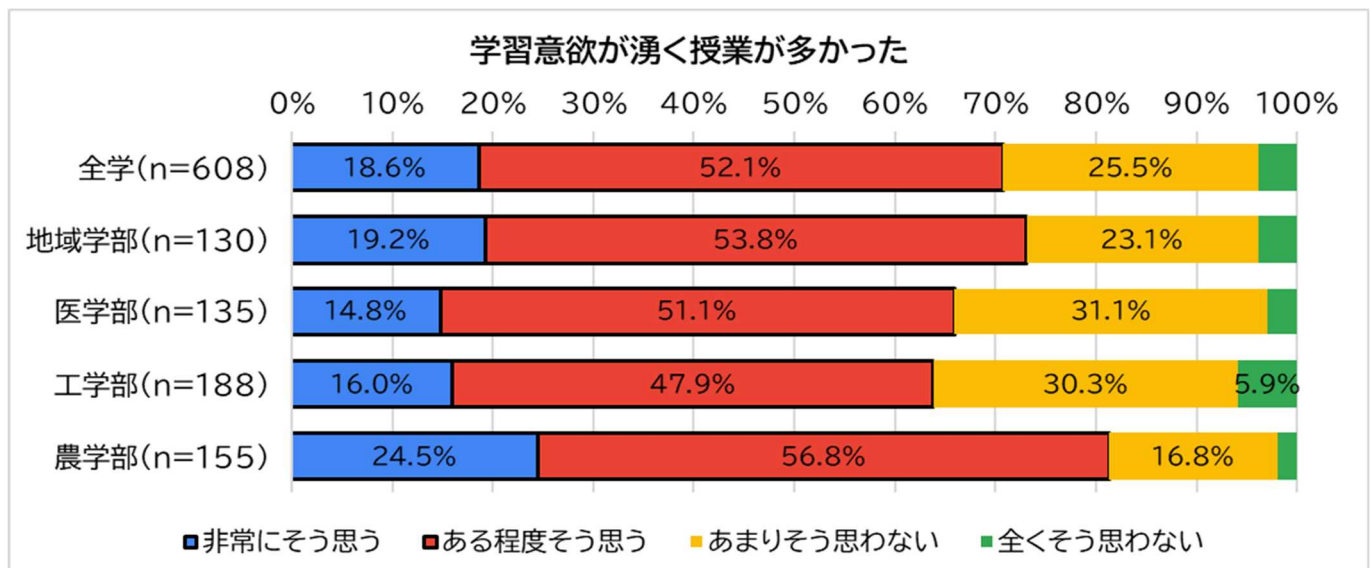
教育・研究の充実度(5/8) <教員との交流> <学習意欲>

- ・「教員との交流が多かった」に関しては、学部間の差がみられた。肯定的回答は農学部で79.3%、一方、工学部では55.9%となった。地域学部は75.4%で、医学部は63.0%であった。
- ・「学習意欲が湧く授業が多かった」について、農学部では81.3%の肯定的回答であった。ついで地域学部が73.0%、医学部と工学部がそれぞれ65.9%、63.9%となった。
- ・「教員との交流」と「学習意欲」の点では、工学部が一番低い肯定的回答であった。

教員との交流が多かった



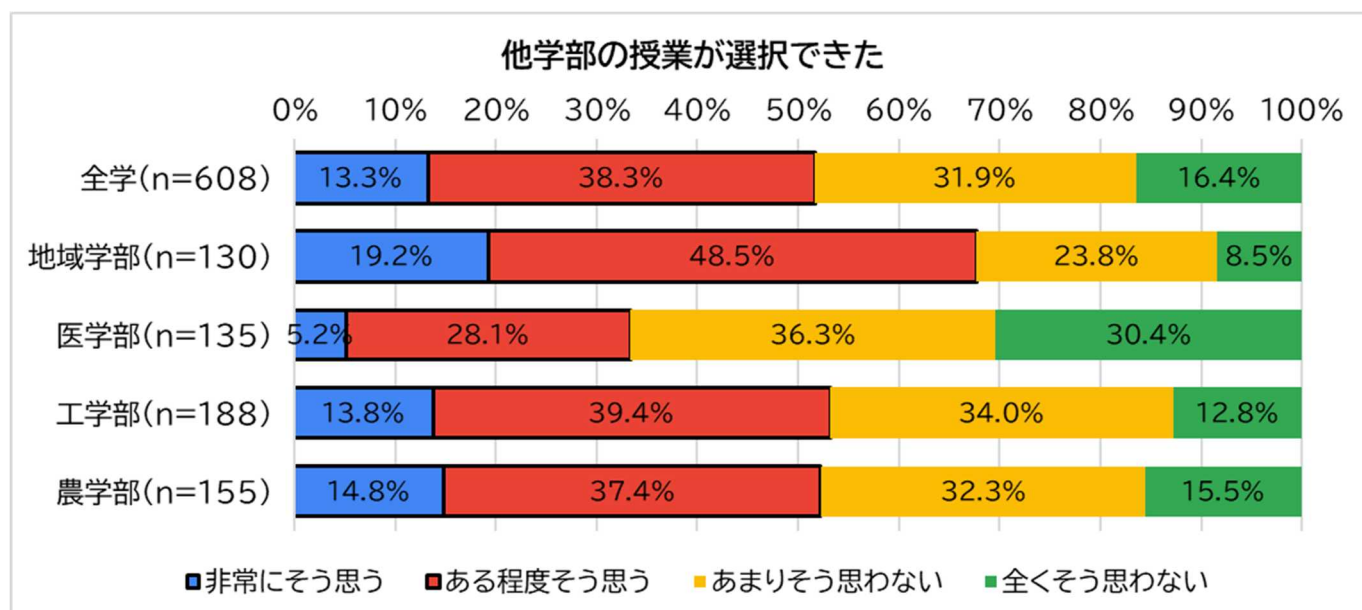
学習意欲が湧く授業が多かった



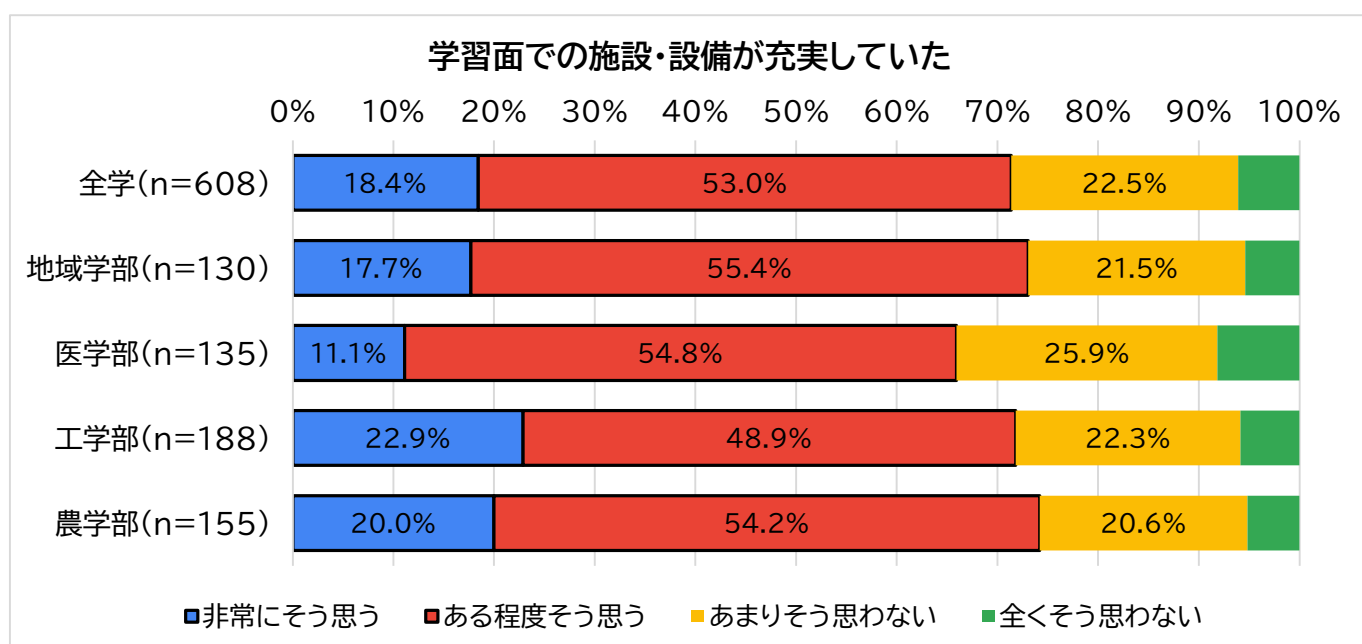
教育・研究の充実度(6/8) <他学部授業> <施設・設備>

・「他学部の授業が選択できた」について、地域学部で67.7%，工学部で53.2%，農学部で52.2%，医学部では33.3%の肯定的回答であった。
 ・「学習面での施設・設備が充実していた」について、全学平均が71.4%の肯定的回答であった。医学部で7割を下回っていたが、学部間で大きな差はなかった。

他学部の授業が選択できた



学習面での施設・設備が充実していた



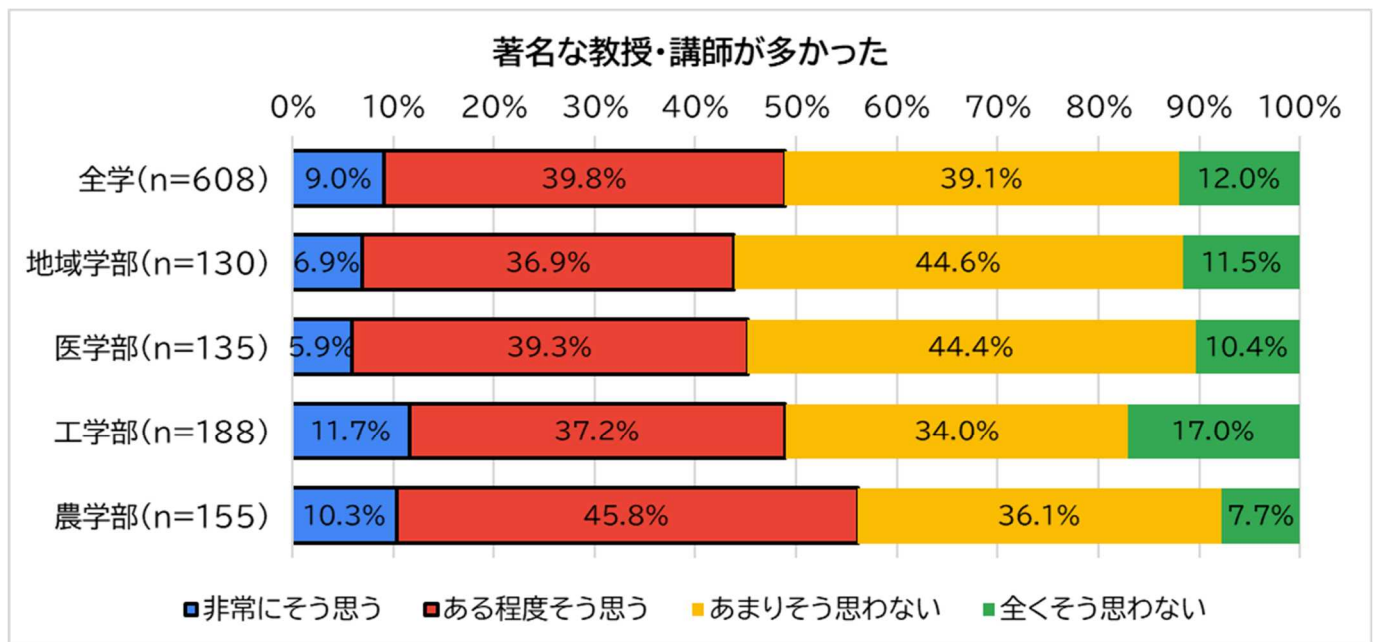
教育・研究の充実度(7/8)

<著名な教員> <研究業績>

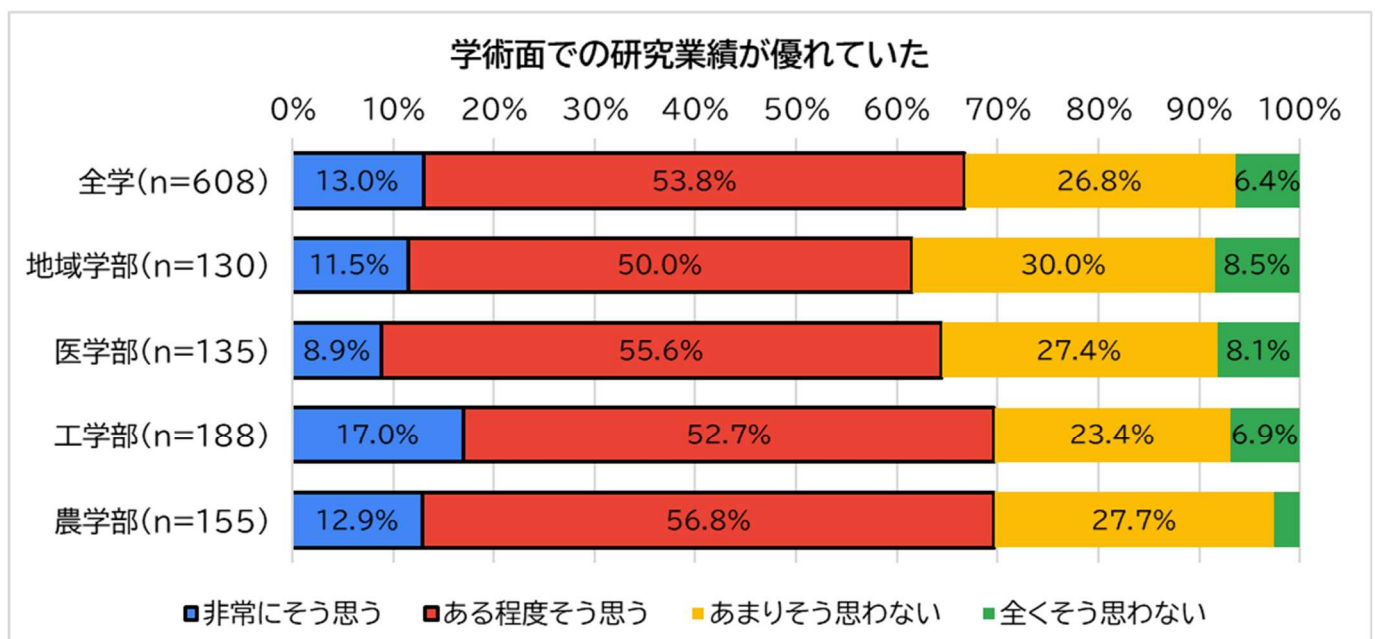
・「著名な教授・講師が多かった」について、全学平均では約 5 割が肯定的回答をしている。

・「学術面での研究業績が優れていた」について、全学平均では 66.8%で、比較的高い肯定的回答であった。農学部と工学部では約 7 割の肯定的回答であった。

著名な教授・講師が多かった



学術面での研究業績が優れていた

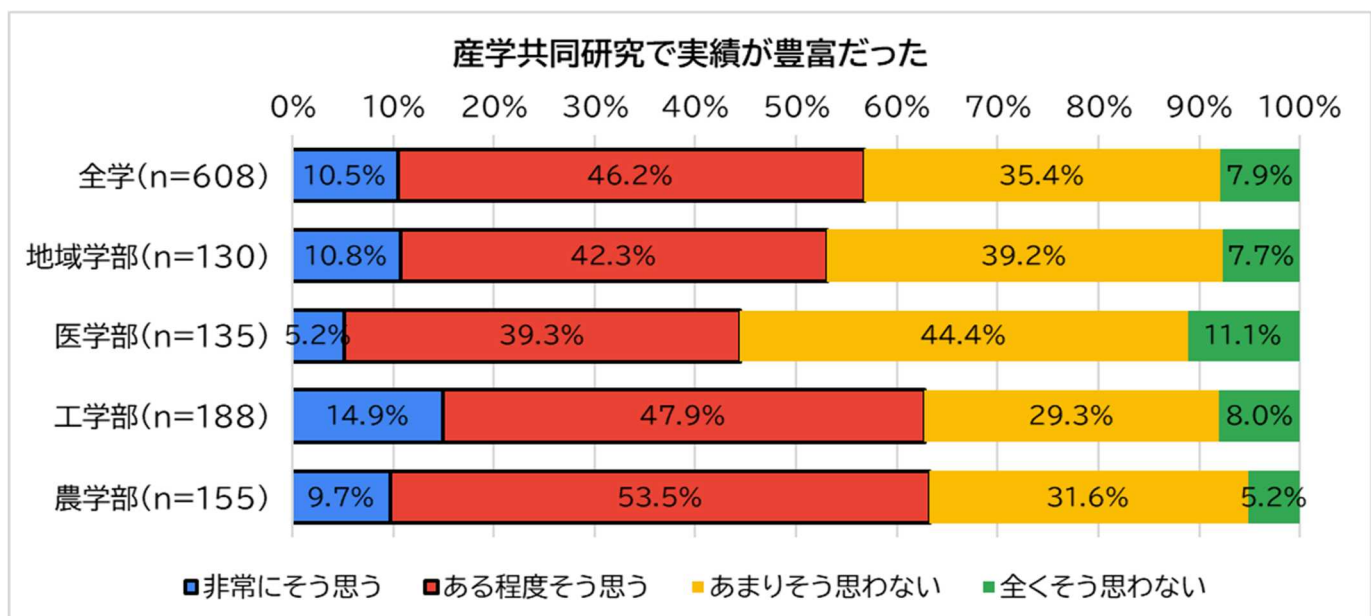


教育・研究の充実度(8/8) <産学共同研究> <施設・設備>

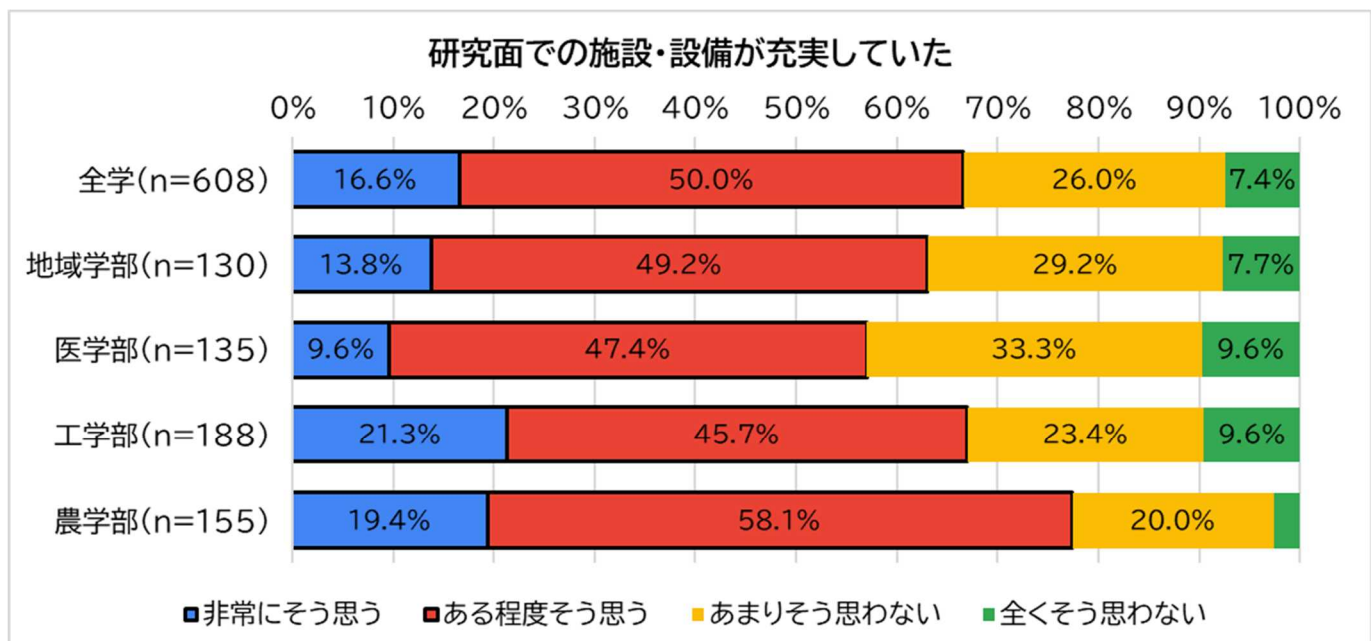
・「産学共同研究で実績が豊富だった」に関して、全学で 56.7%，農学部 63.2%，工学部で 62.8%と比較的高い肯定的回答であり，医学部では少し低めの 44.5%であった。

・「研究面での施設・設備が充実していた」については，農学部で 77.5%と一番高い肯定的回答であった。地域学部と工学部では 60%台であるが，医学部では 57%と比較的低めの肯定的回答であった。

産学共同研究で実績が豊富だった



研究面での施設・設備が充実していた



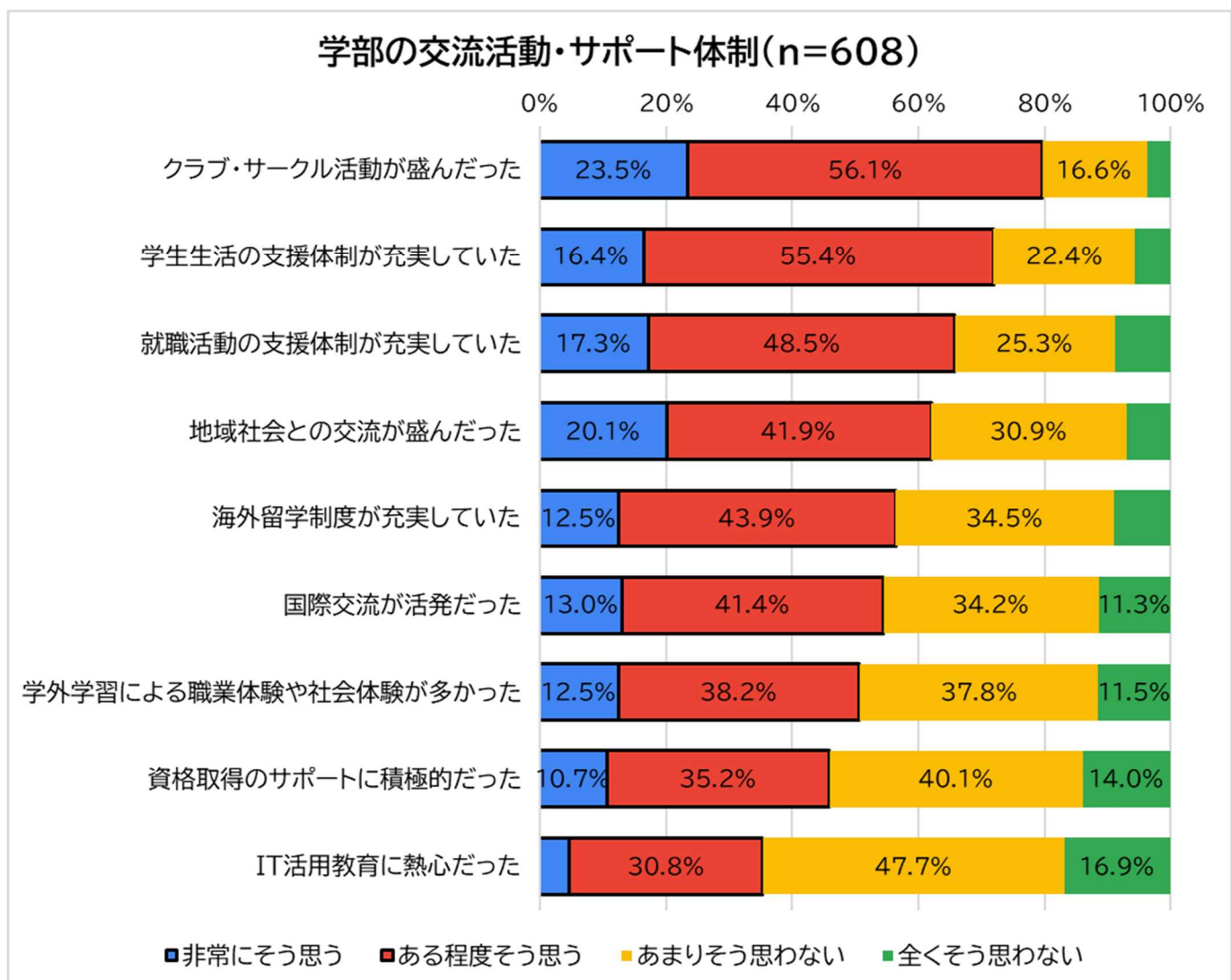
交流活動・支援体制の充実度(1/6)

<全体>

・「大学の交流活動・サポート体制に対する肯定的回答」について問う9項目のうち、肯定的回答の多い順でみると「クラブ・サークル活動が盛んだった」(79.6%)が最も多く、「IT活用教育に熱心だった」(35.4%)が最も少なくなっており、今後改善の余地がある。

・「学生生活の支援体制」と「就職活動の支援体制」の充実度、「地域社会との交流」の活発さに関しては6割以上が肯定的回答であった。

大学の交流活動・サポート体制に対する肯定的回答



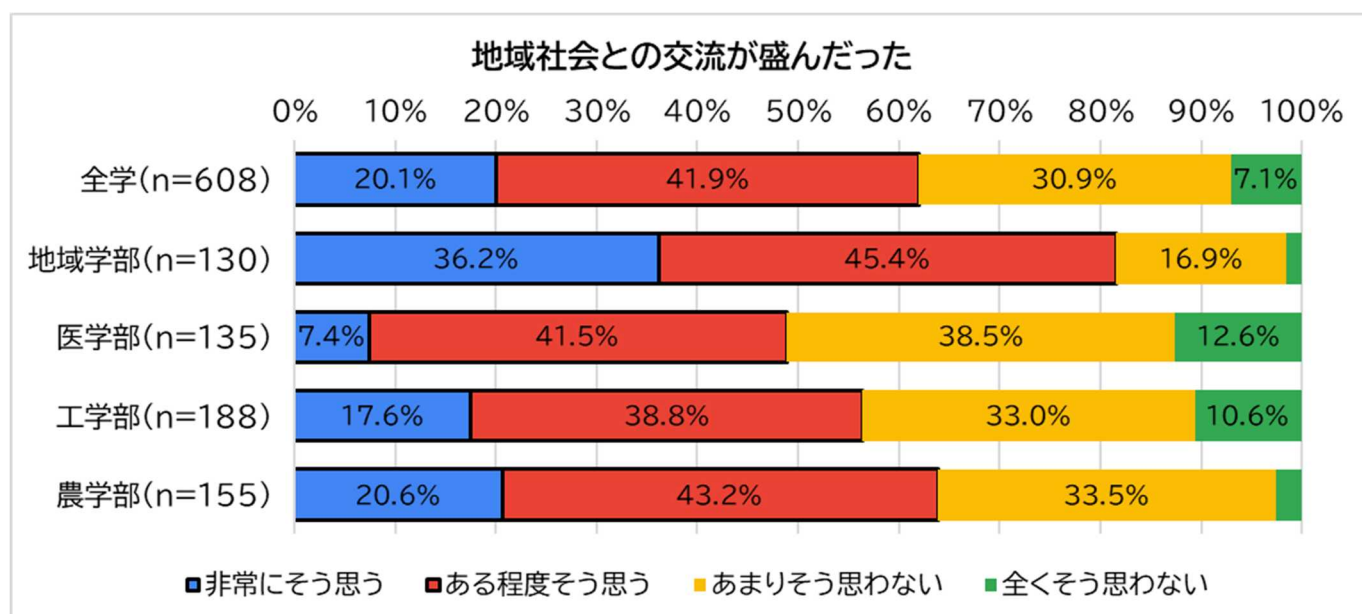
交流活動・支援体制の充実度(2/6)

＜地域交流＞ ＜国際交流＞

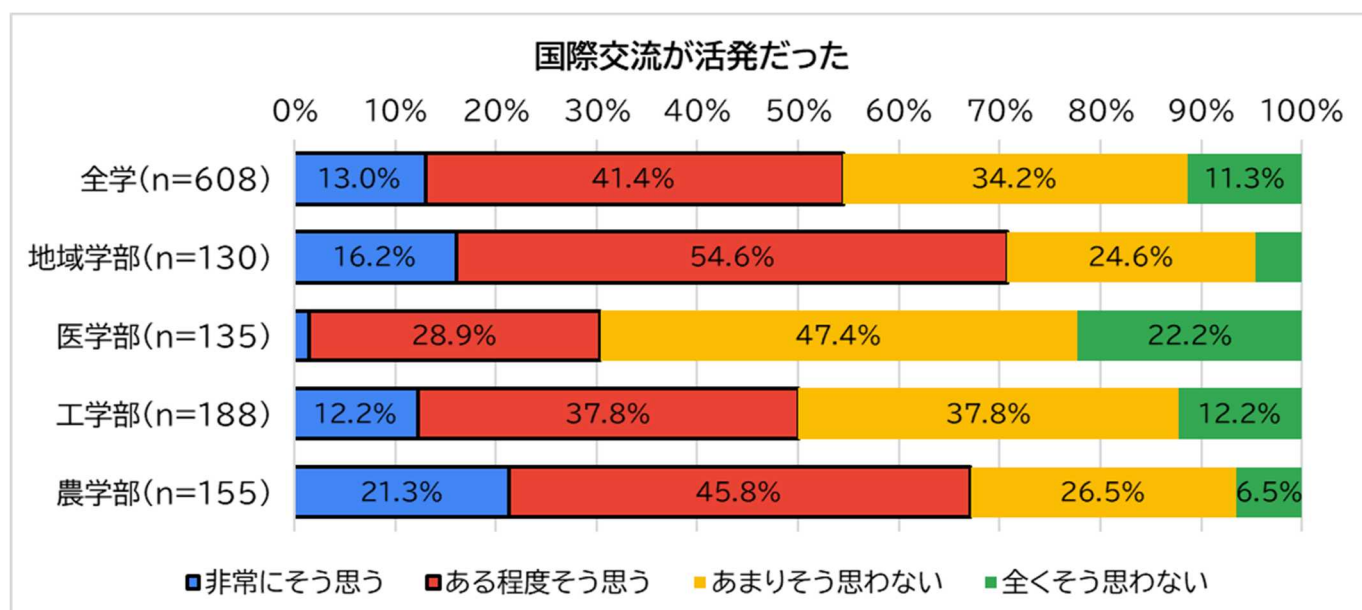
・「地域社会との交流が盛んだった」について、地域学部が圧倒的に高く81.6%を超える肯定的回答であった。農学部で63.8%，工学部で56.4%，医学部では5割未満であり，学部間で差が見られた。

・「国際交流が活発だった」について，地域学部で最も高く70.8%の肯定的回答である一方で，医学部では30.4%と学部間で差が大きく見られた。

地域社会との交流が盛んだった



国際交流が活発だった

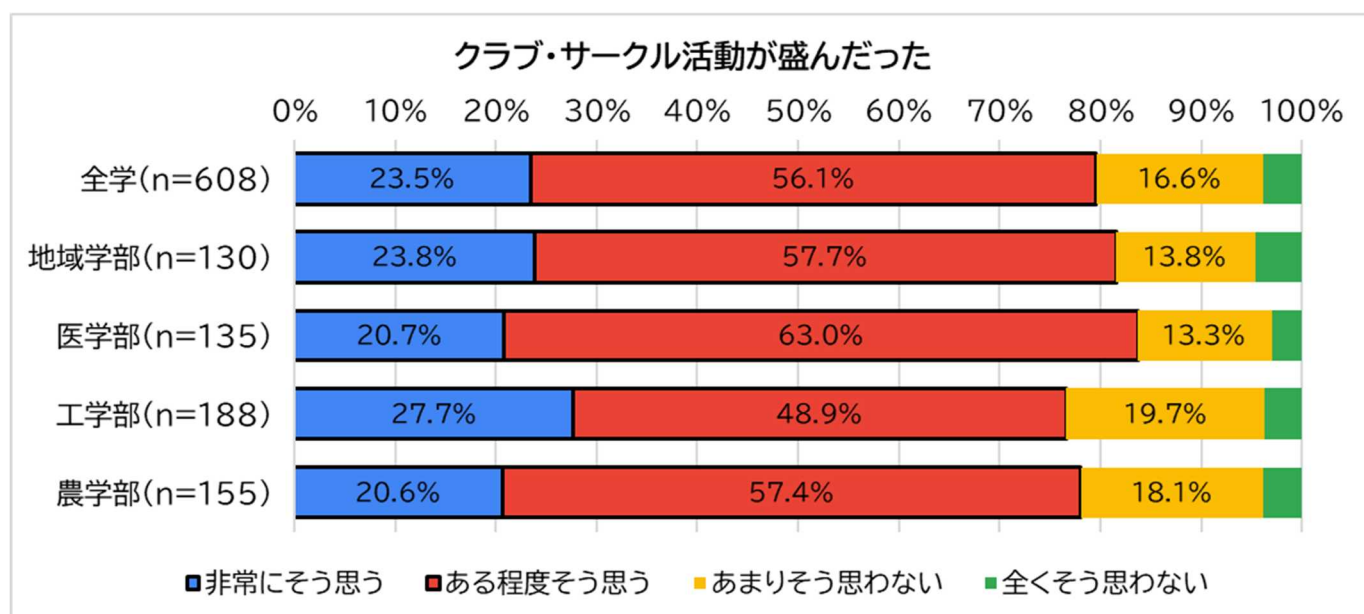


交流活動・支援体制の充実度(3/6) <クラブ・サークル> <学外学習>

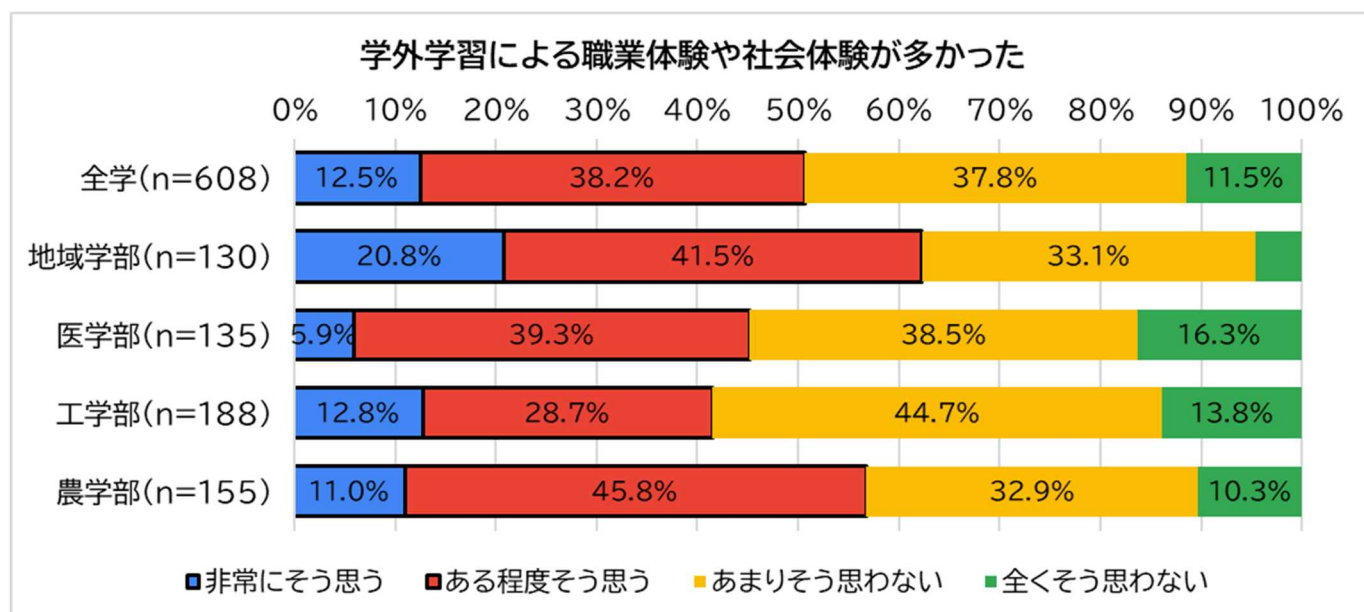
・「クラブ・サークル活動が盛んだった」について、全学で約 8 割の肯定的回答であった。医学部で最も多く 83.7%で、一番低い工学部でも 76.6%と高い回答率で学部間の差もあまりなかった。

・「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」に関しては、地域学部が 62.3%で肯定的回答が一番多く、工学部が 41.5%で一番少なかった。医学部と農学部は 40%台であった。

クラブ・サークル活動が盛んだった



学外学習による職業体験や社会体験が多かった

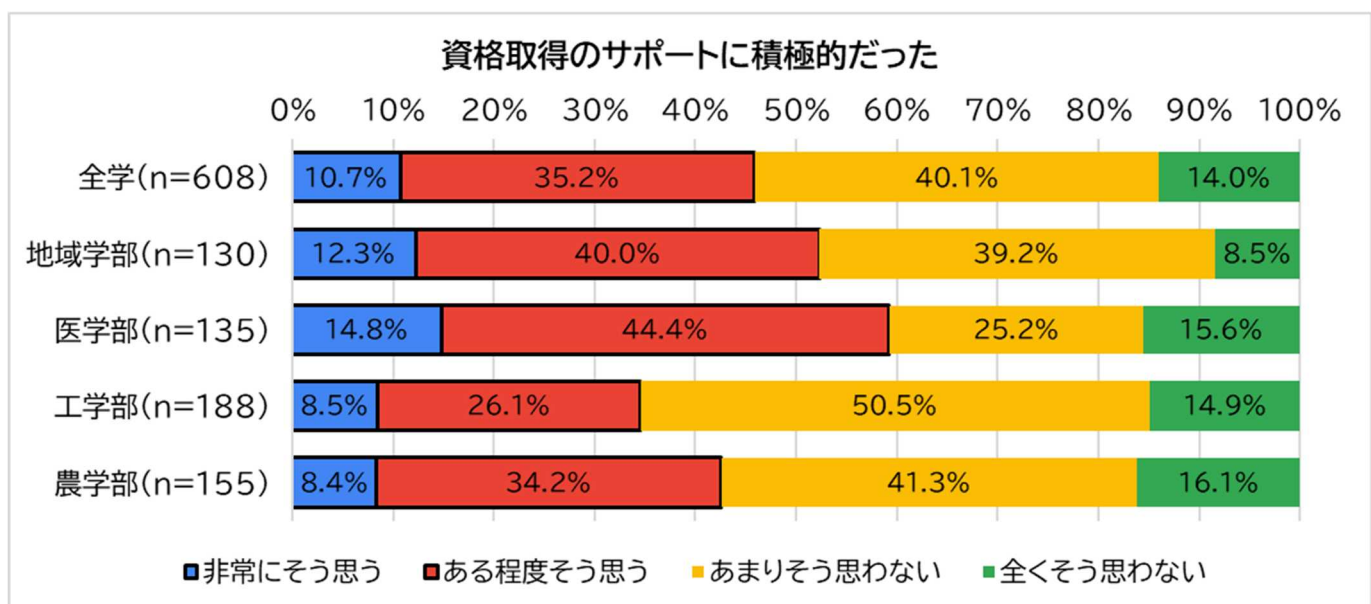


交流活動・支援体制の充実度(4/6) <資格取得> <IT教育>

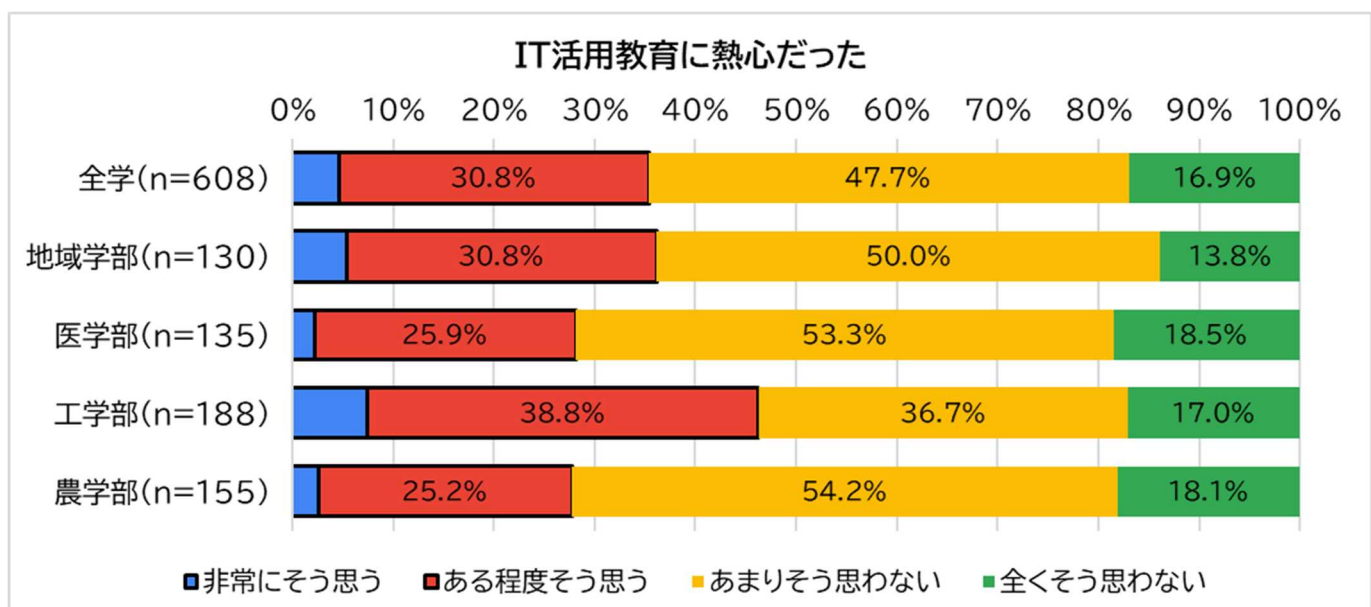
・「資格取得のサポートに積極的だった」について、医学部で最も多く59.2%の肯定的回答であった。地域学部でも5割を超えているが、工学部では34.6%と比較的低めの肯定的回答であった。

・「IT活用教育に熱心だった」について、全学的に35.4%と肯定的回答が低く、工学部が一番高く46.3%だったものの、医学部、農学部では3割を下回った。全体的に肯定的回答が低く、改善の余地が見られる。

資格取得のサポートに積極的だった



IT活用教育に熱心だった

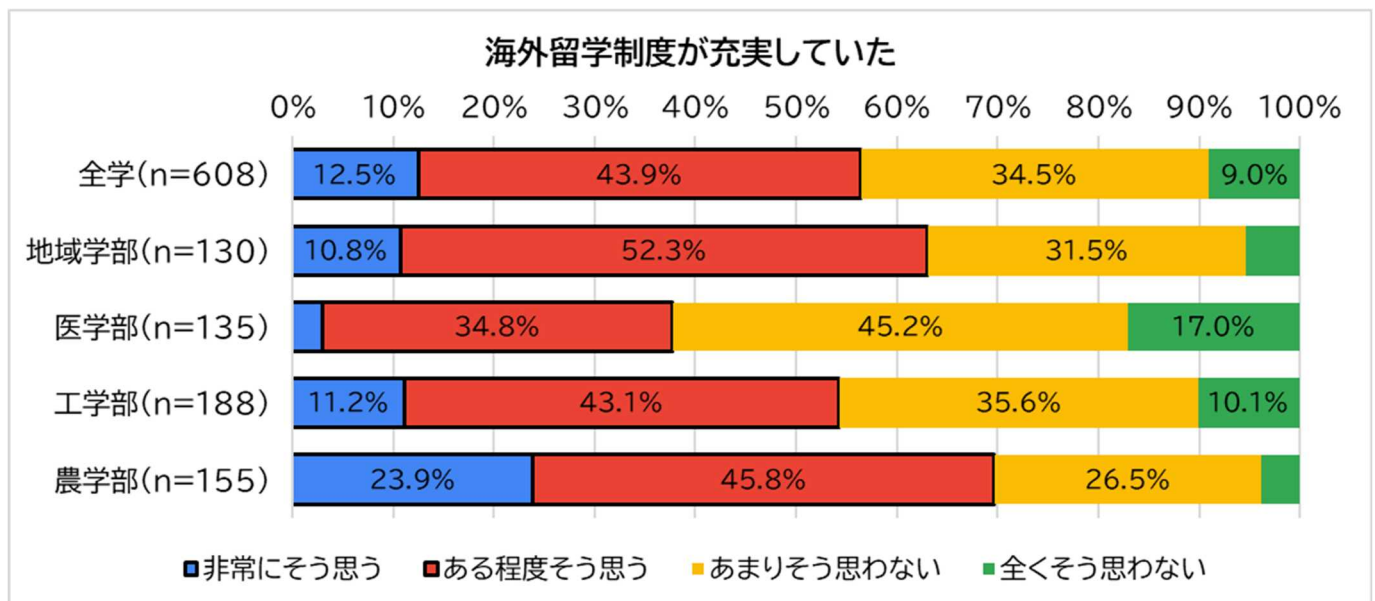


交流活動・支援体制の充実度(5/6)

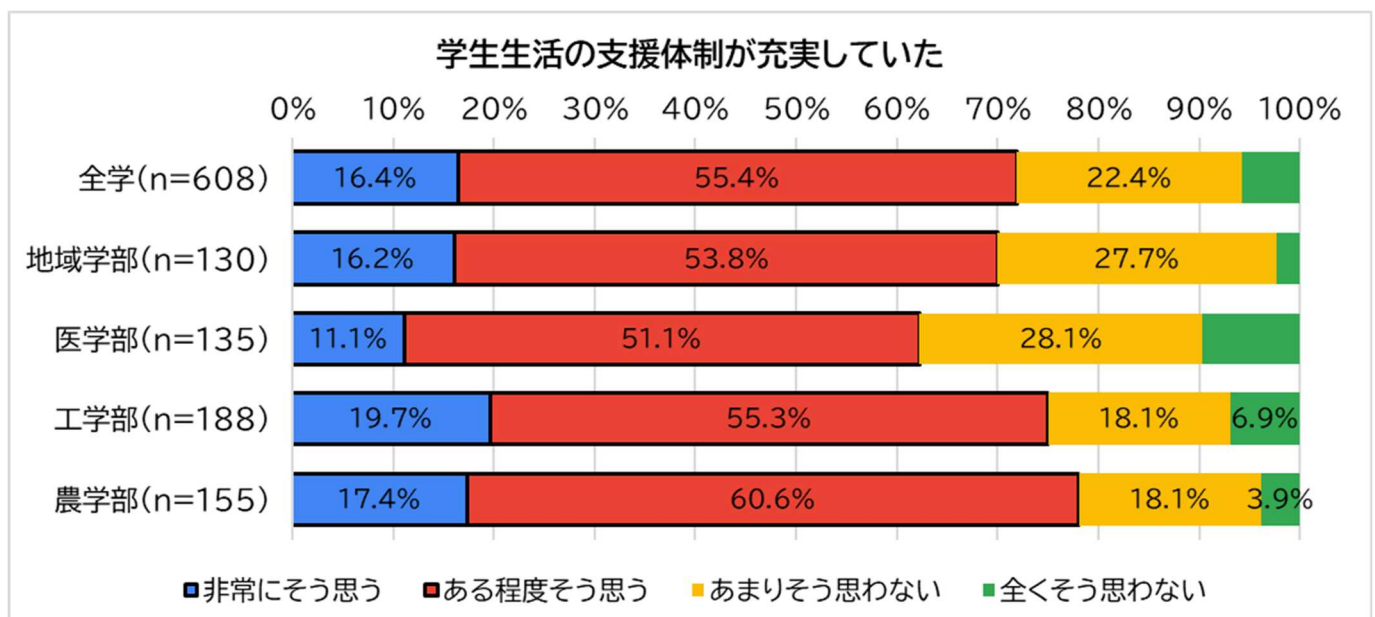
<海外留学> <学生生活>

・「海外留学制度が充実していた」に関しては、学部間で差が見られた。農学部で最も多く約7割が肯定的回答で、地域学部で63.1%、工学部で54.3%、医学部で最も少なく37.8%であった。学部間で差が見られた。
 ・「学生生活の支援体制が充実していた」について、全学平均が71.8%、地域学部、工学部、農学部で7割を超える肯定的回答であった。一番低い医学部でも62.2%と学部間で大きな差はなかった。

海外留学制度が充実していた



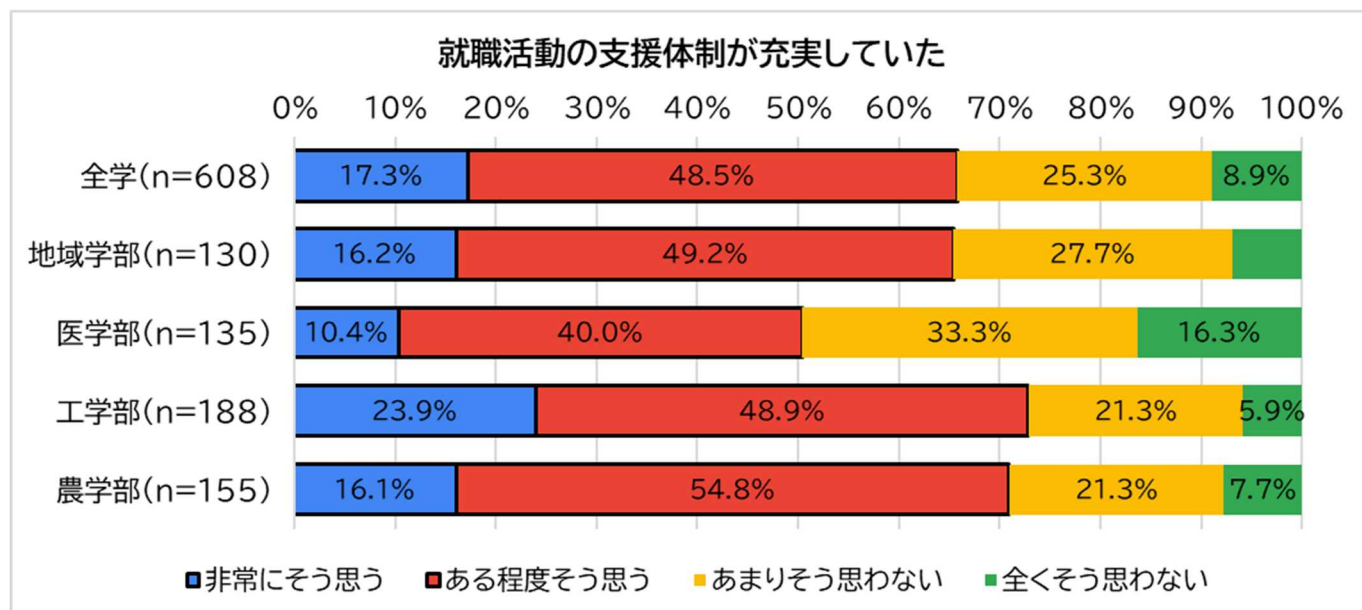
学生生活の支援体制が充実していた



交流活動・支援体制の充実度(6/6) ＜就職活動＞

・「就職活動の支援体制が充実していた」に関しては、全学では65.8%の肯定的回答であった。農学部と工学部の2学部では7割を超えていた一方で、医学部では約5割の肯定的回答であった。

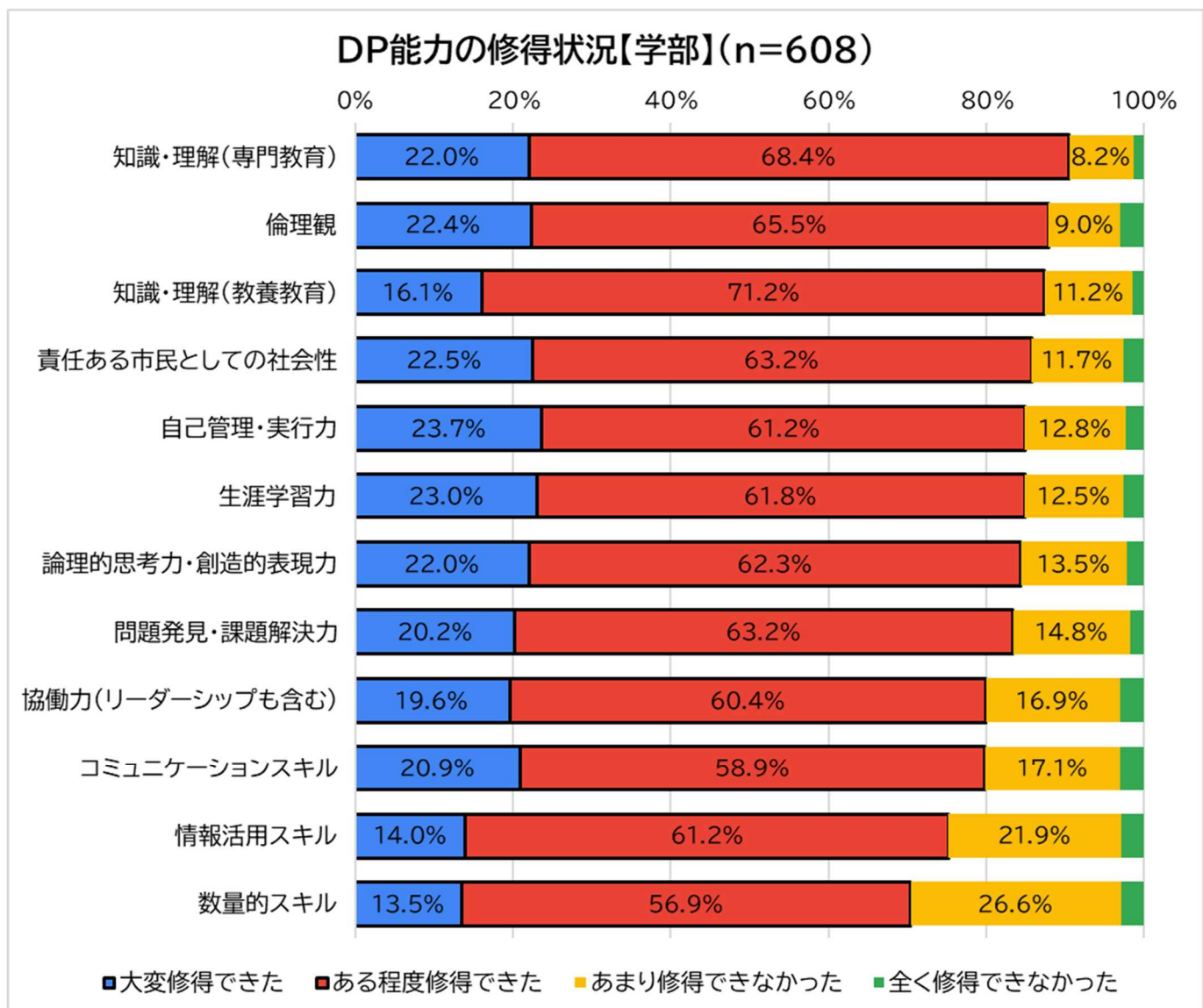
就職活動の支援体制が充実していた



大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(1/7) <全体>

・大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力 12 項目の中で、「知識・理解（専門教育）」が最も高い修得度だった（90.4%）。「倫理観」「知識・理解（教養教育）」「責任ある市民としての社会性」「自己管理・実行力」「生涯学習力」「論理的思考力・創造的表現力」「問題発見・課題解決力」「協働力」で 8 割を超える肯定的回答であった。
 ・「コミュニケーションスキル」は 78.9%，また「情報活用スキル」「数量的スキル」の肯定的回答はそれぞれ 75.2%，70.4%であった。

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力



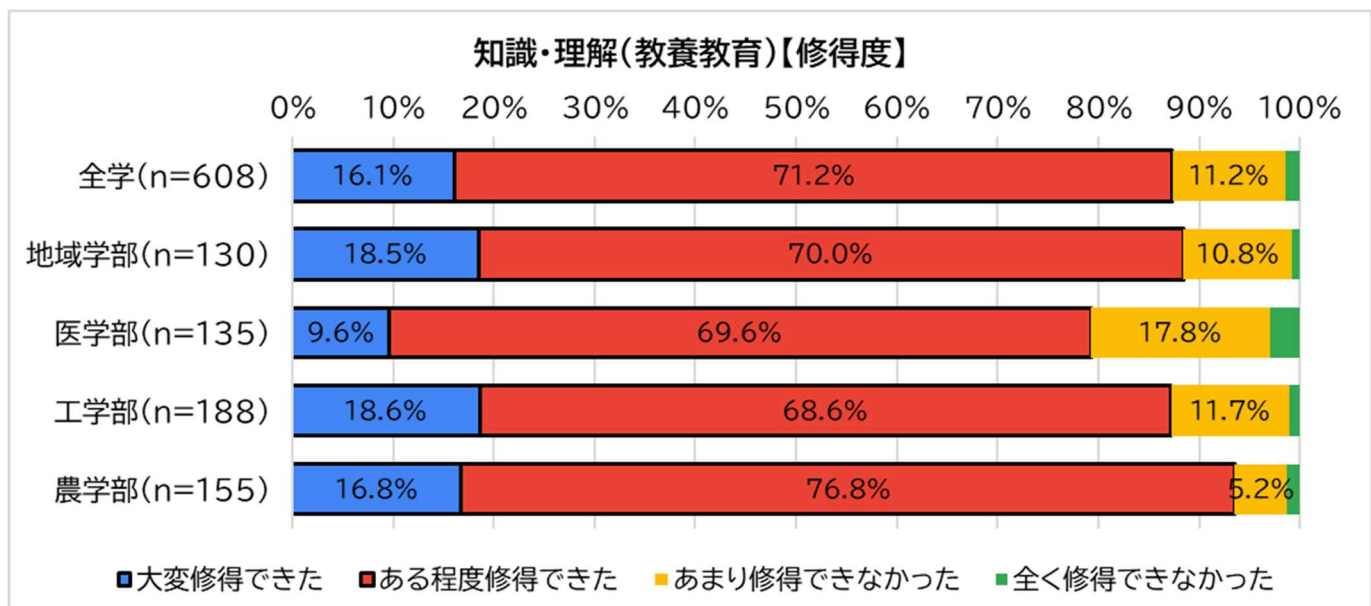
大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(2/7)

<知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

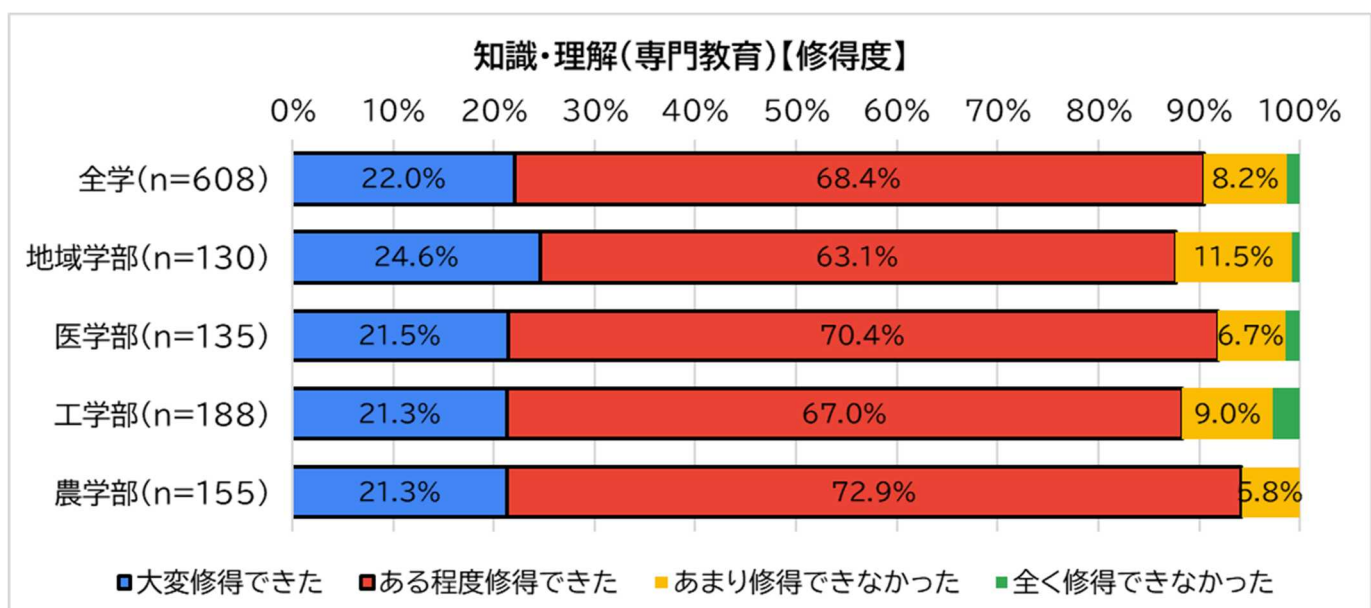
・「知識・理解（教養教育）」について、全学で 87.3%の高い肯定的回答であった。農学部で最も多く 93.6%，地域学部，工学部では 85%以上，医学部で最も少なく 79.2%であった。「大変修得できた」に限れば医学部が他学部の約 1/2 であった。

・「知識・理解（専門教育）」についても全学で 90.4%の高い肯定的回答であった。特に農学部では 94.2%，医学部で 91.9%と高い肯定的回答であった。他の 2 学部でも 85%を超える肯定的回答であった。

知識・理解（教養教育）



知識・理解（専門教育）

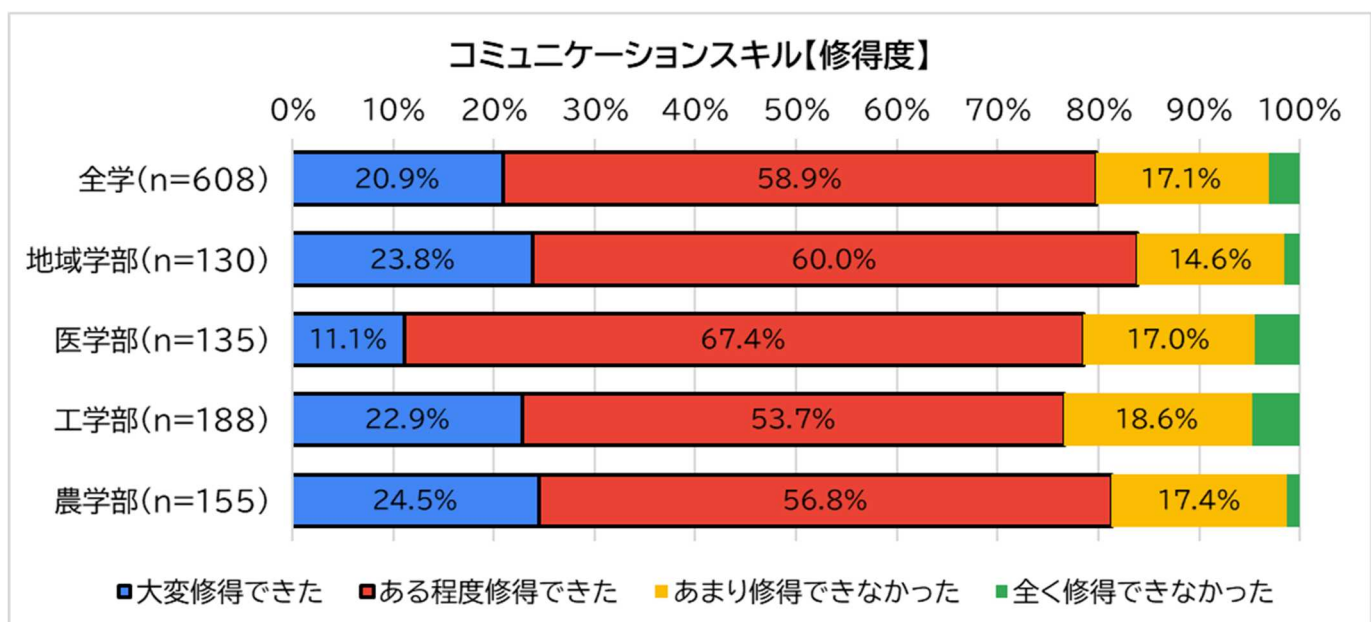


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(3/7) <コミュニケーションスキル> <数量的スキル>

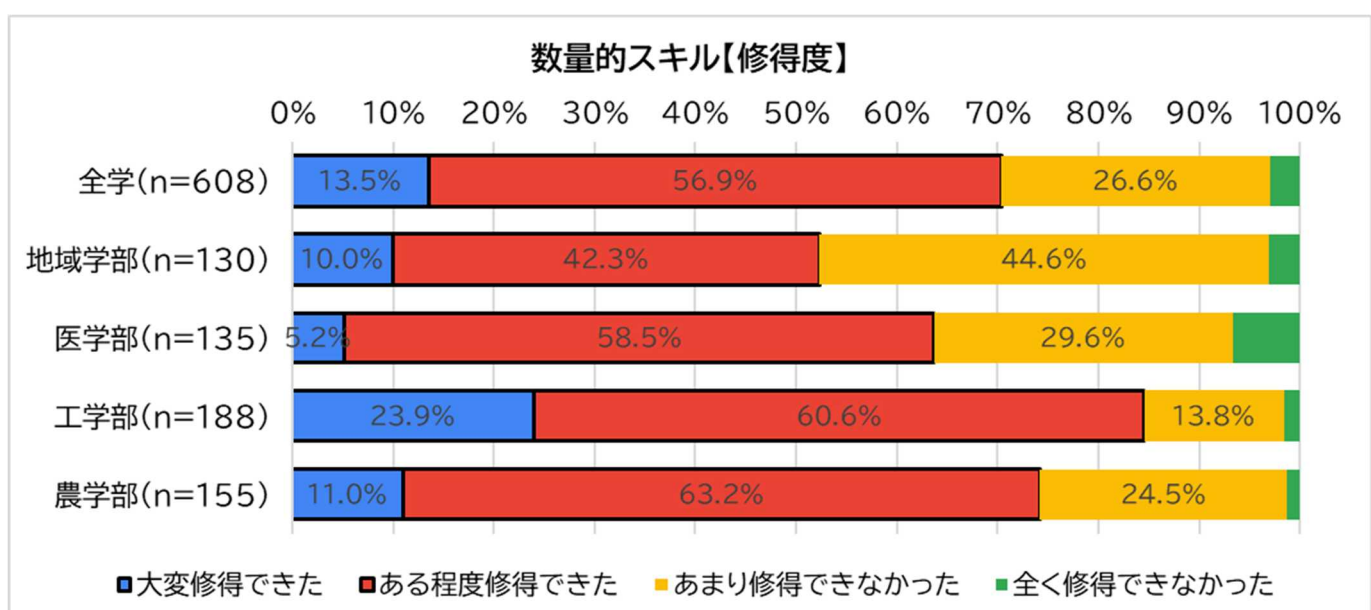
・「コミュニケーションスキル」について、全学で約 8 割の肯定的回答で、地域学部、農学部で 8 割以上、医学部と工学部で 8 割弱の肯定的回答であった。「大変修得できた」に限れば医学部が他学部の約 1/2 であった。

・「数量的スキル」について、全学で 70.4%の肯定的回答であった。4 学部のうち、工学部が最も高く 84.5%、地域学部が最も低い 52.3%の肯定的回答であり、学部間の差が際立っている。

コミュニケーションスキル



数量的スキル

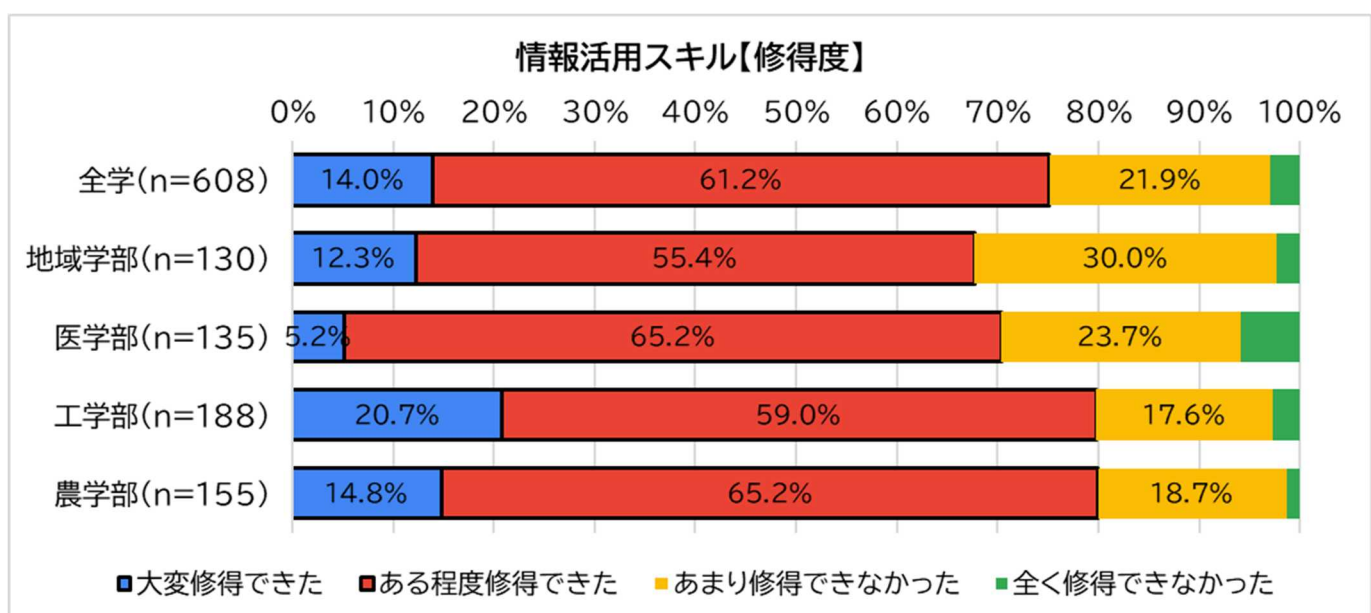


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(4/7) <情報活用スキル> <論理的思考力・創造的表現力>

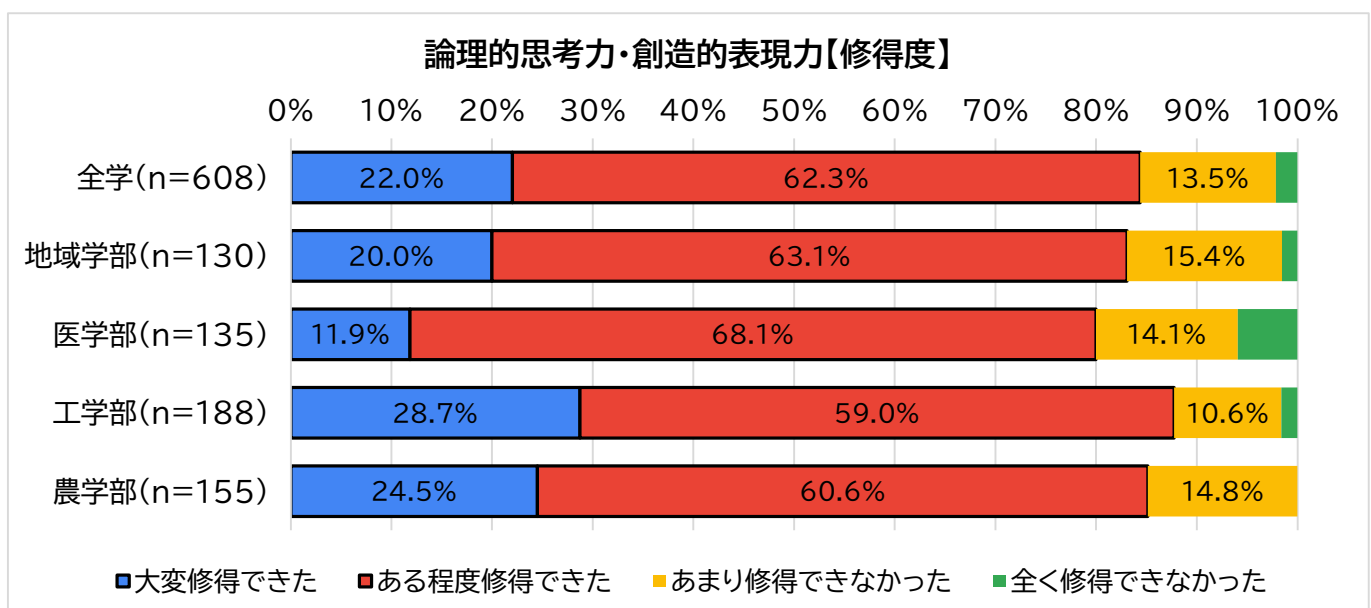
・「情報活用スキル」について、全学で 75.2%の肯定的回答であった。農学部・工学部でそれぞれ 80.0%、79.7%であるのに対し、医学部・地域学部でそれぞれ 70.4%、67.7%の肯定的回答。「大変修得できた」に限れば学部間の差が際立っている。

・「論理的思考力・創造的表現力」について、全学で 84.3%の肯定的回答であった。工学部が最も高く 87.7%、次いで農学部、地域学部、医学部の順で、それぞれ 85.1%、83.1%、80.0%の肯定的回答であった。

情報活用スキル



論理的思考力・創造的表現力

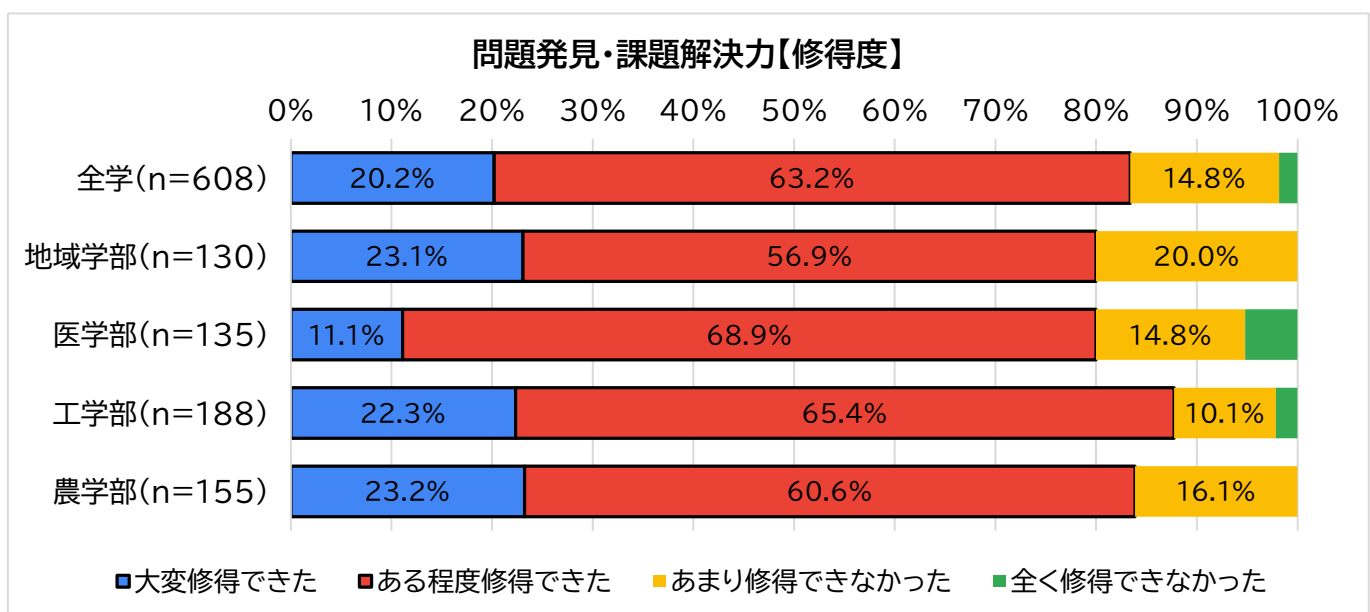


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(5/7) <問題発見・課題解決力> <自己管理・実行力>

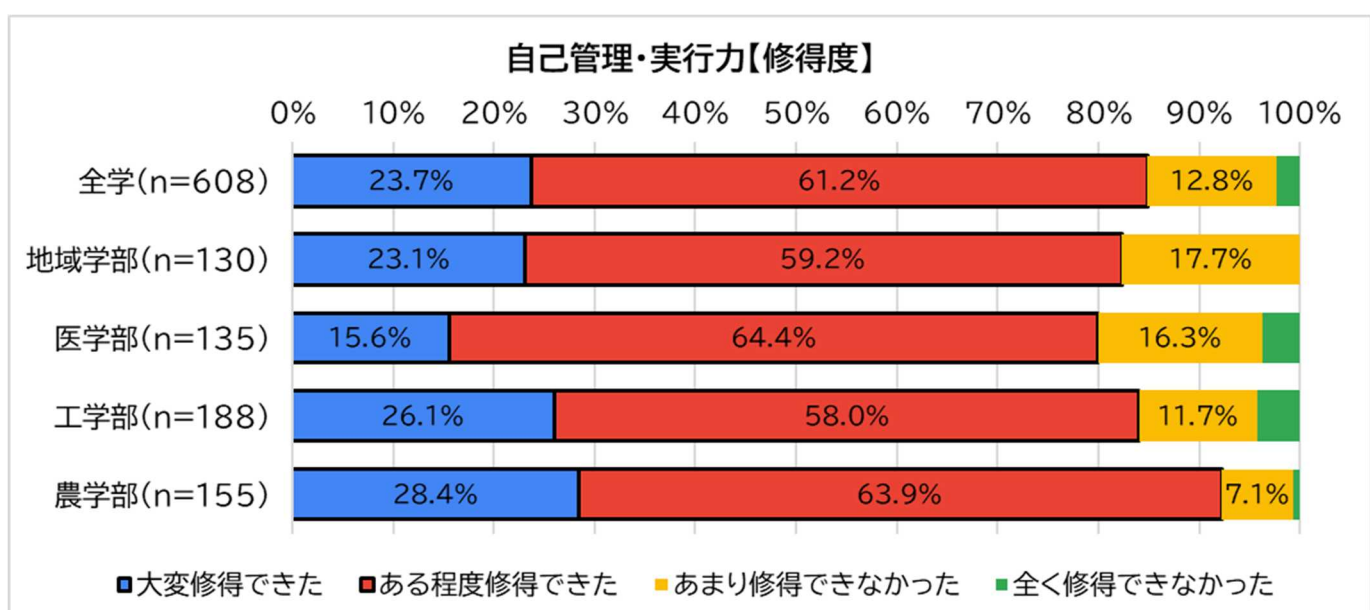
・「問題発見・課題解決力」について、全学で 83.4%の肯定的回答であった。工学部で 87.7%，農学部で 83.8%，地域学部・医学部で 80.0%の肯定的回答であった。

・「自己管理・実行力」について、全学で 84.9%の肯定的回答，なかでも農学部で 92.3%と最も高く，次いで工学部 84.1%，地域学部 82.3%，医学部 80.0%であった。

問題発見・課題解決力



自己管理・実行力

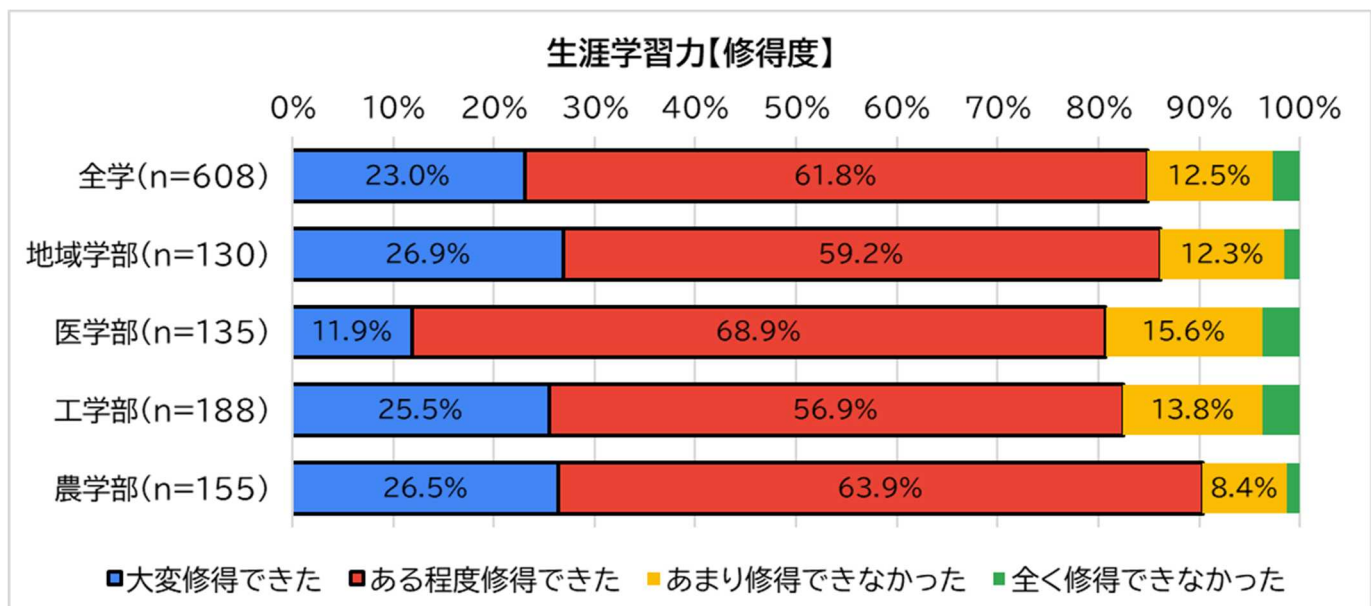


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(6/7) <生涯学習力> <協働力>

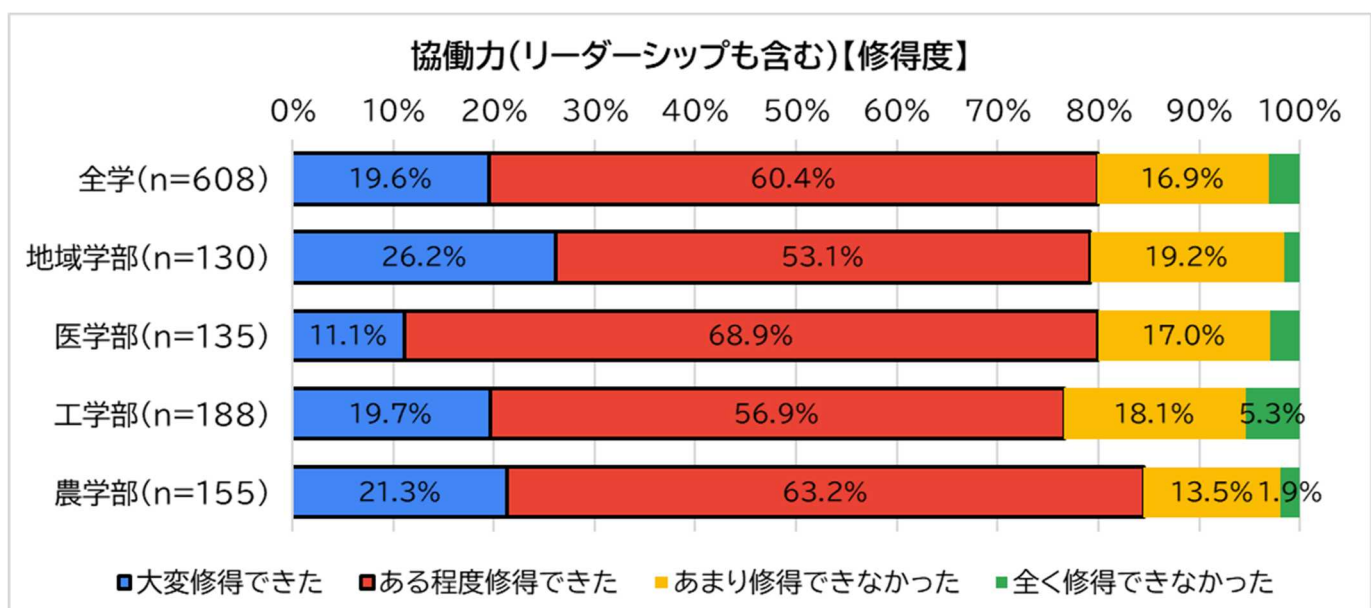
・「生涯学習力」について、全学で 84.8%の肯定的回答であった。農学部 90.4%，地域学部 86.1%と相対的に高く，工学部 82.4%，医学部 80.8%と低めの肯定的回答であった。医学部の「大変修得できた」の割合が他 3 学部の 1/2 に満たないのが目立つ。

・「協働力（リーダーシップも含む）」について、全学で 80.0%の肯定的回答。農学部 84.5%，医学部 80.0%，地域学部 79.3%，工学部 76.6%であった。医学部の「大変修得できた」の割合が他 3 学部の約 1/2 である。

生涯学習力



協働力（リーダーシップも含む）

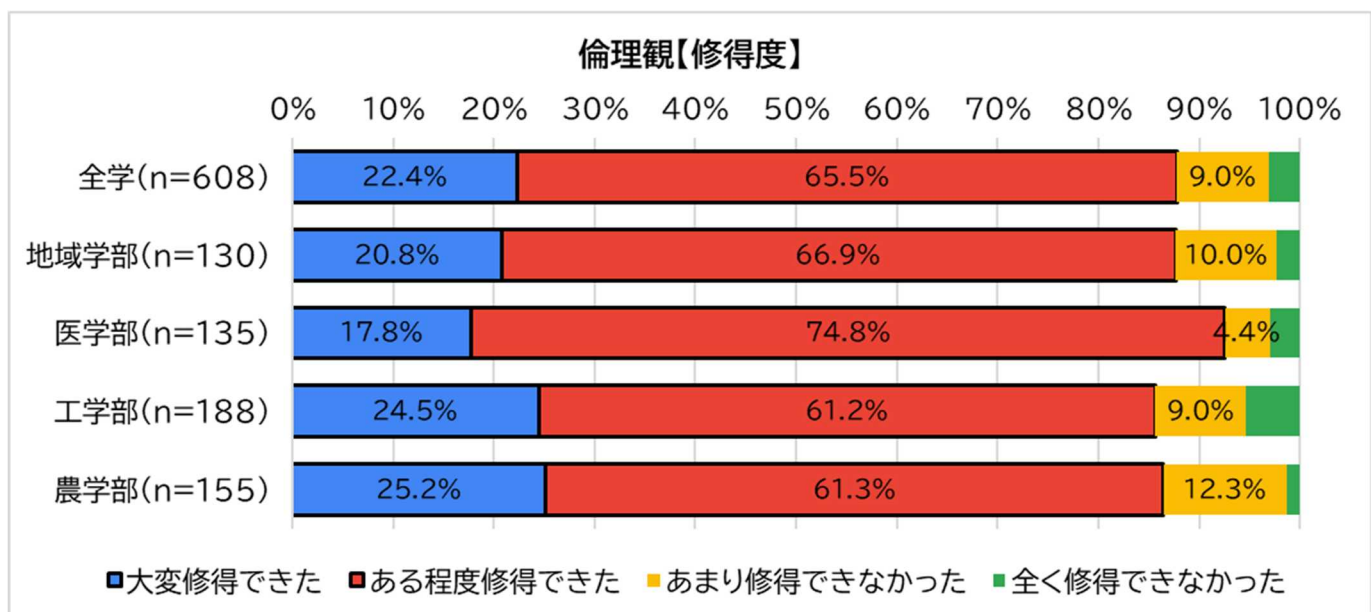


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(7/7) <倫理観> <社会性>

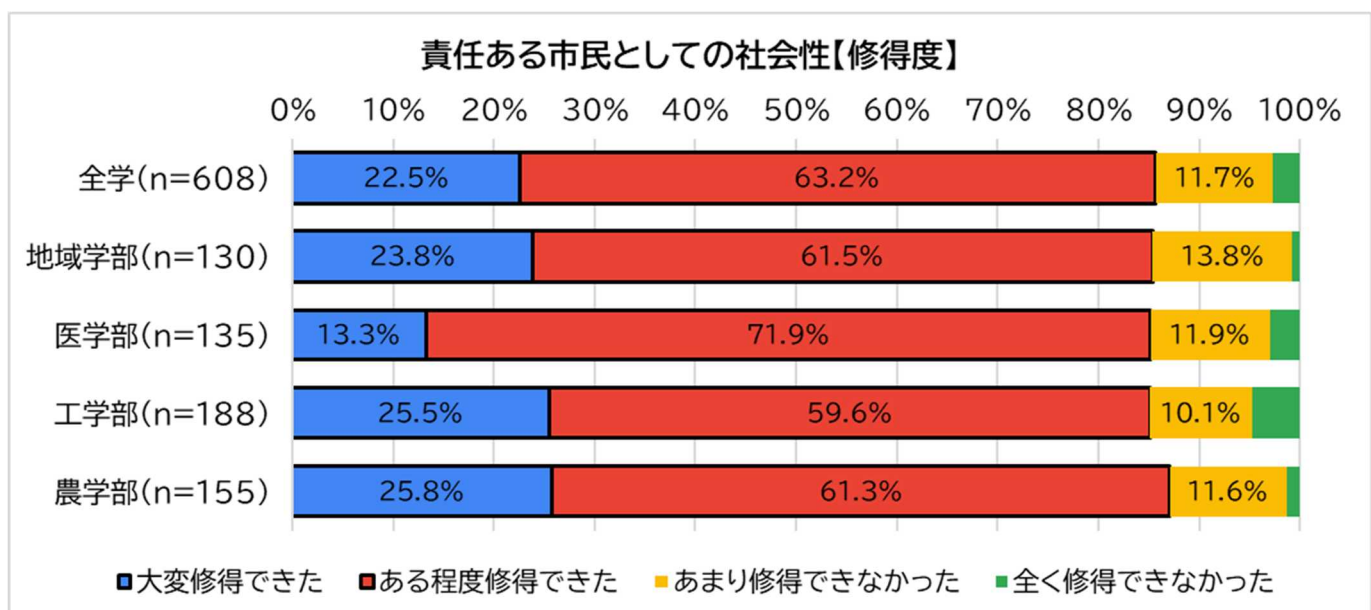
・「倫理観」について、全学平均では 87.9%の肯定的回答であった。医学部が相対的に最も高く 92.6%，次いで地域学部の 87.7%，農学部の 86.5%，工学部の 85.7%であった。

・「責任ある市民としての社会性」について、全学は 75.7%の肯定的回答であった。農学部で 87.1%，地域学部，工学部，医学部で約 85%であったが、医学部の「大変修得できた」の割合が他 3 学部の約 1/2 である。

倫理観



責任ある市民としての社会性

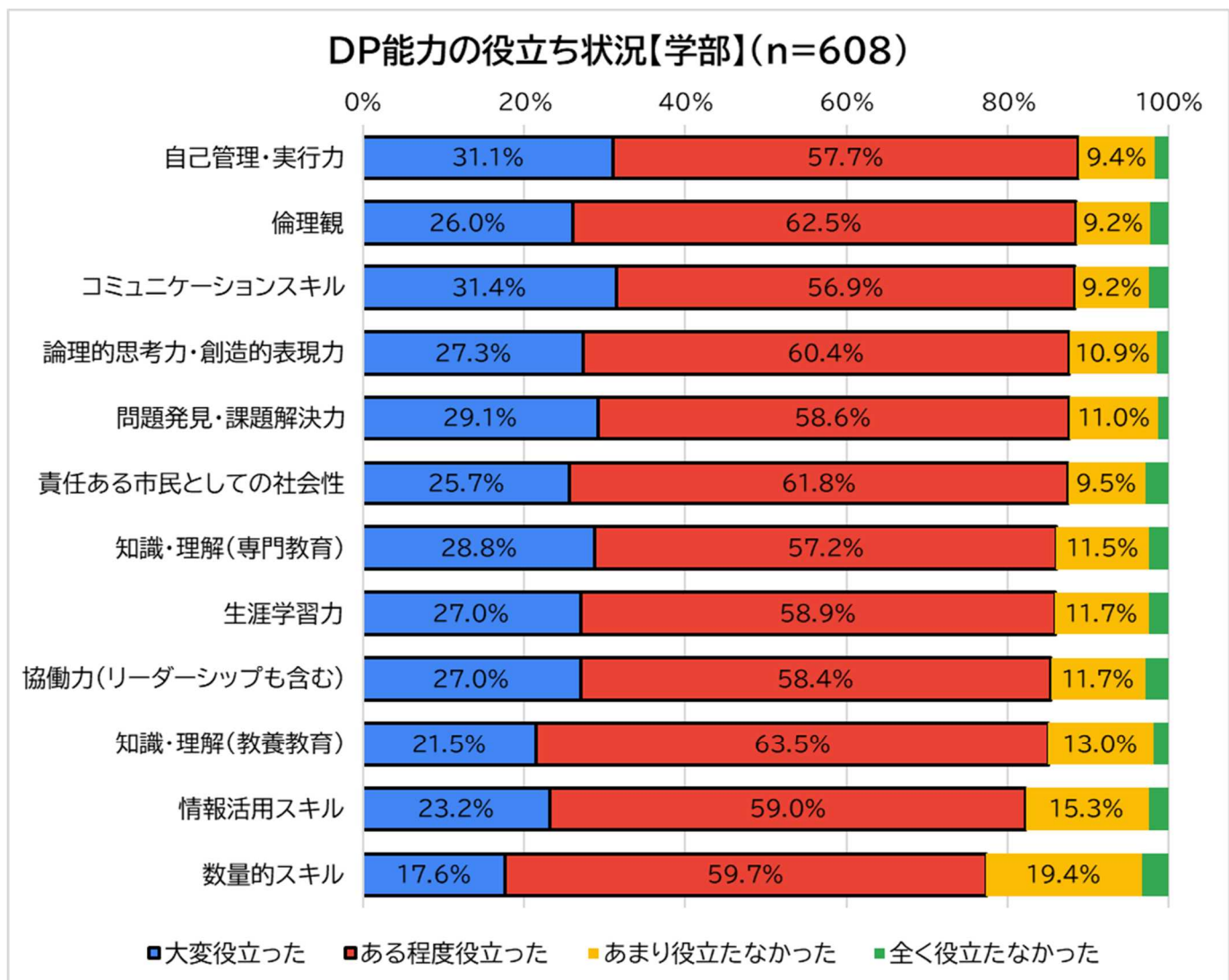


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(1/7)

<全体>

・社会に出て教育成果として役立った DP 能力について、「大変役立った」または「ある程度役立った」と回答した割合の多い順に、「自己管理・実行力」、「倫理観」、「コミュニケーションスキル」、「論理的思考力・創造的表現力」、「問題発見・課題解決力」、「責任ある市民としての社会性」、「知識・理解（専門教育）」、「生涯学習力」、「協働力（リーダーシップも含む）」、「知識理解（教養教育）」、「情報活用スキル」と続く。12 項目中 11 項目の能力について 80%以上が役立ったとの回答に対し、相対的に低いのは「数量的スキル」（77.3%）であり、今後改善する必要がある。

社会に出て教育成果として役立った DP 能力



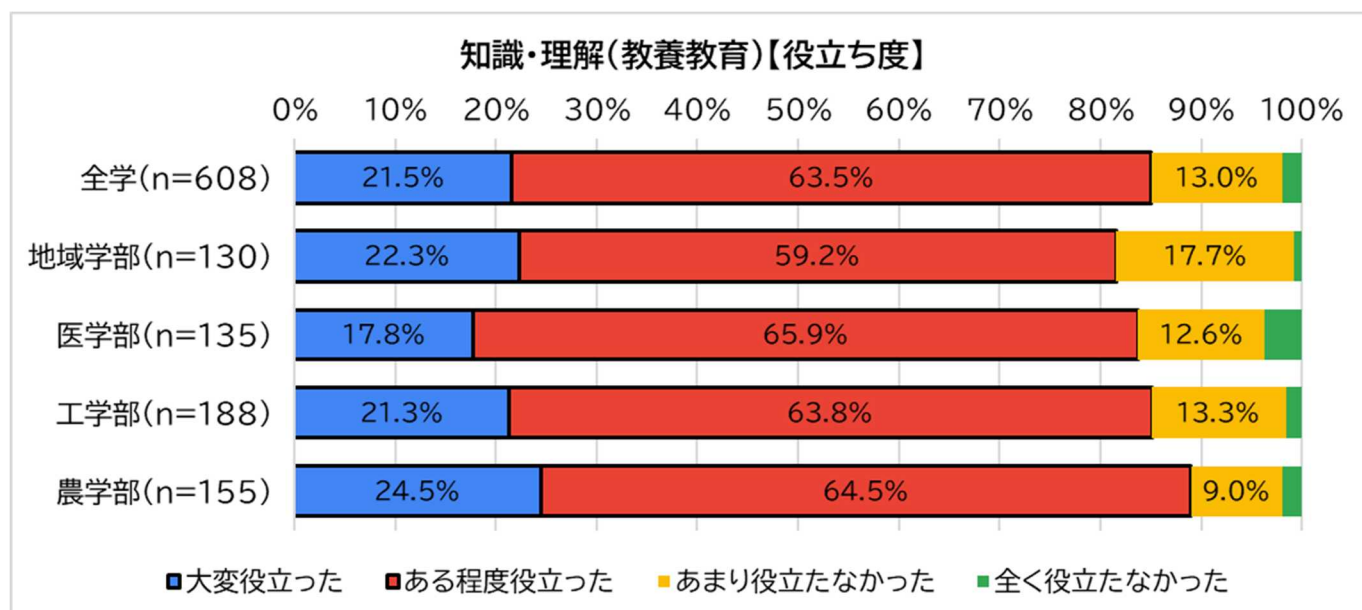
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(2/7)

<知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

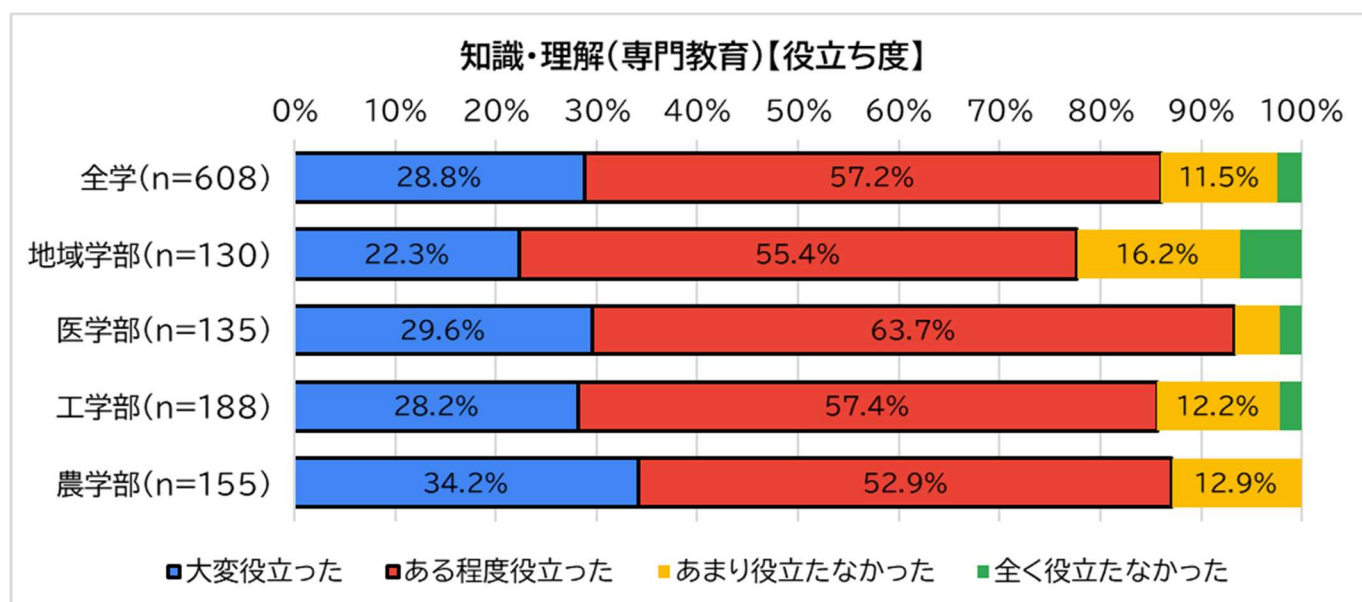
・「知識・理解（教養教育）」に関しては、全学で 85.0%が役立ったとしている。このうち農学部が 89.0%で最も高く、次いで工学部が 85.1%，医学部 83.7%，地域学部 81.5%となっている。

・「知識・理解（専門教育）」に関しては、全学で 86.0%が役に立ったとしている。なかでも医学部は 93.3%となっており、次いで農学部 87.1%，工学部 85.6%と続き、地域学部は相対的に最も低く 77.7%であった。

知識・理解（教養教育）



知識・理解（専門教育）



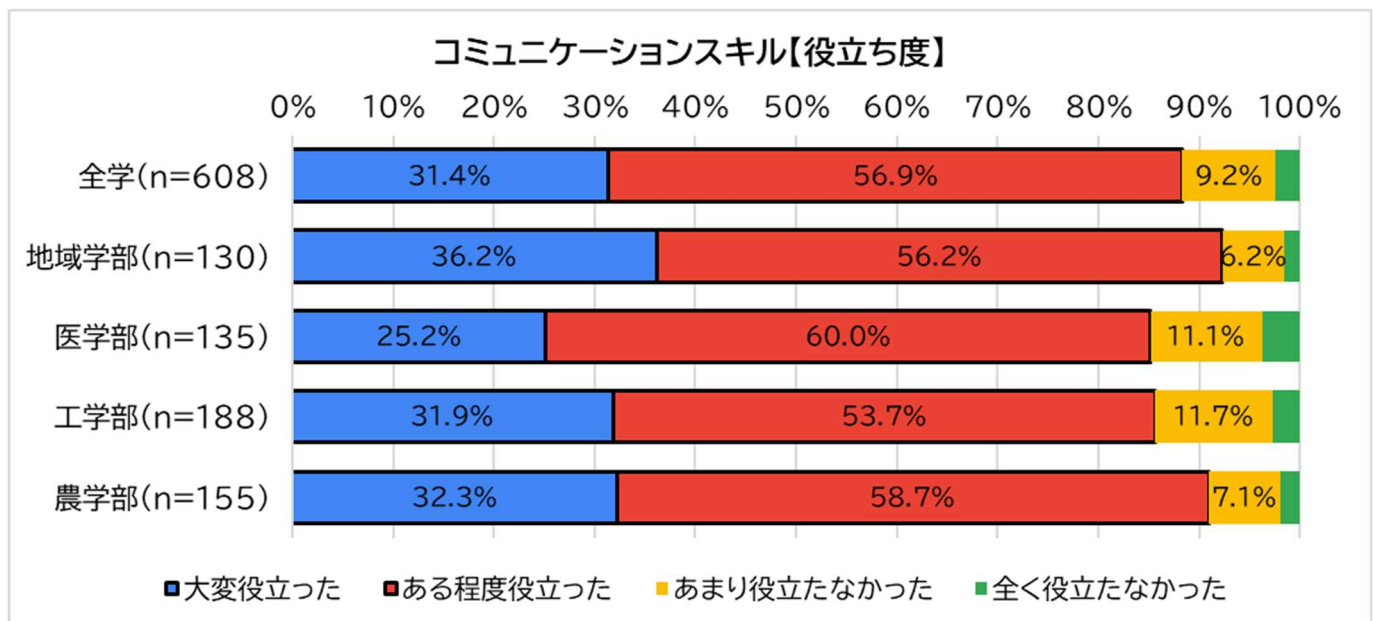
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(3/7)

<コミュニケーションスキル> <数量的スキル>

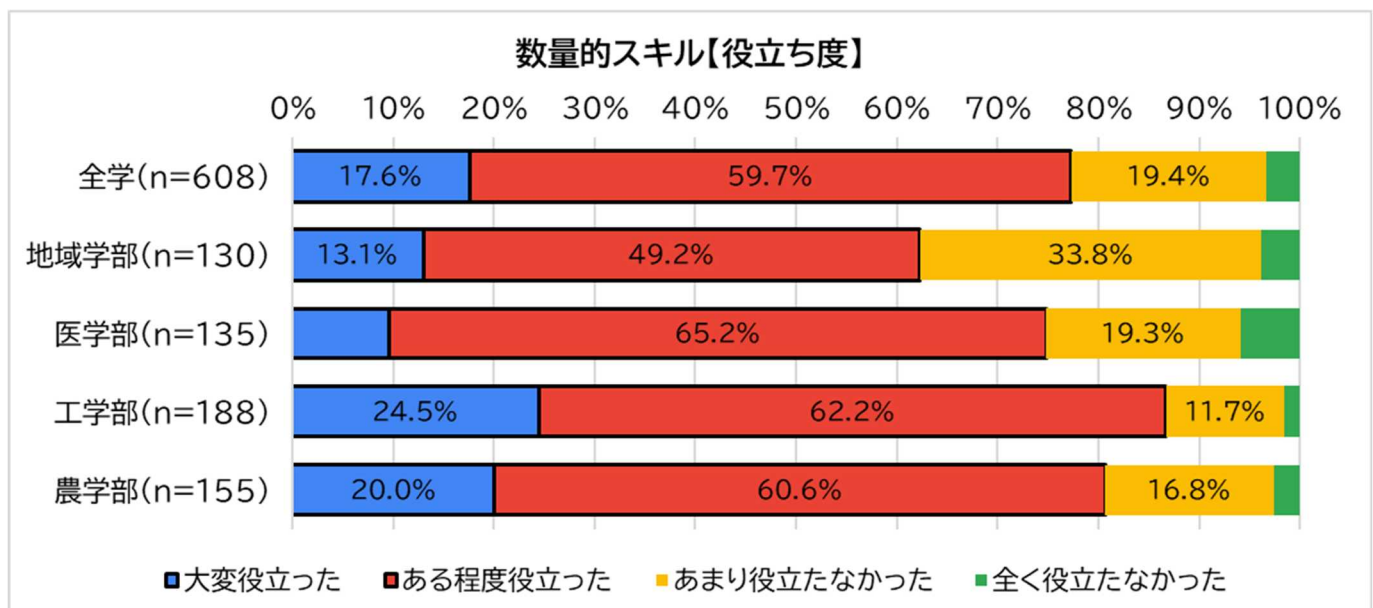
・「コミュニケーションスキル」については、全学で 88.3%が役立ったと回答している。学部別では地域学部，農学部がそれぞれ 92.4%，91.0%と高く，工学部，医学部がそれぞれ 85.6%，85.2%となっている。

・「数量的スキル」については、全学で 77.3%が役立ったと回答している。学部別では工学部が 86.7%で最も高く，次いで農学部が 80.6%，医学部が 74.8%と続き，地域学部が 62.3%で最も低い。学部間の差が顕著である。

コミュニケーションスキル



数量的スキル



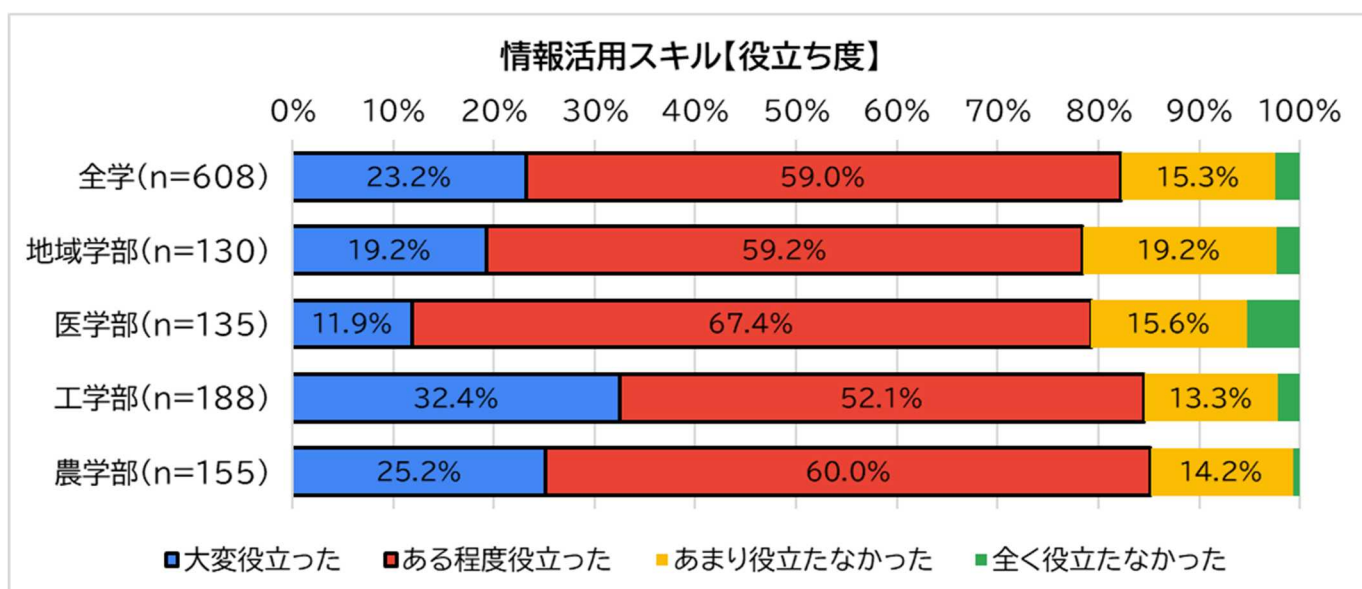
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(4/7)

<情報活用スキル> <論理的思考力・創造的表現力>

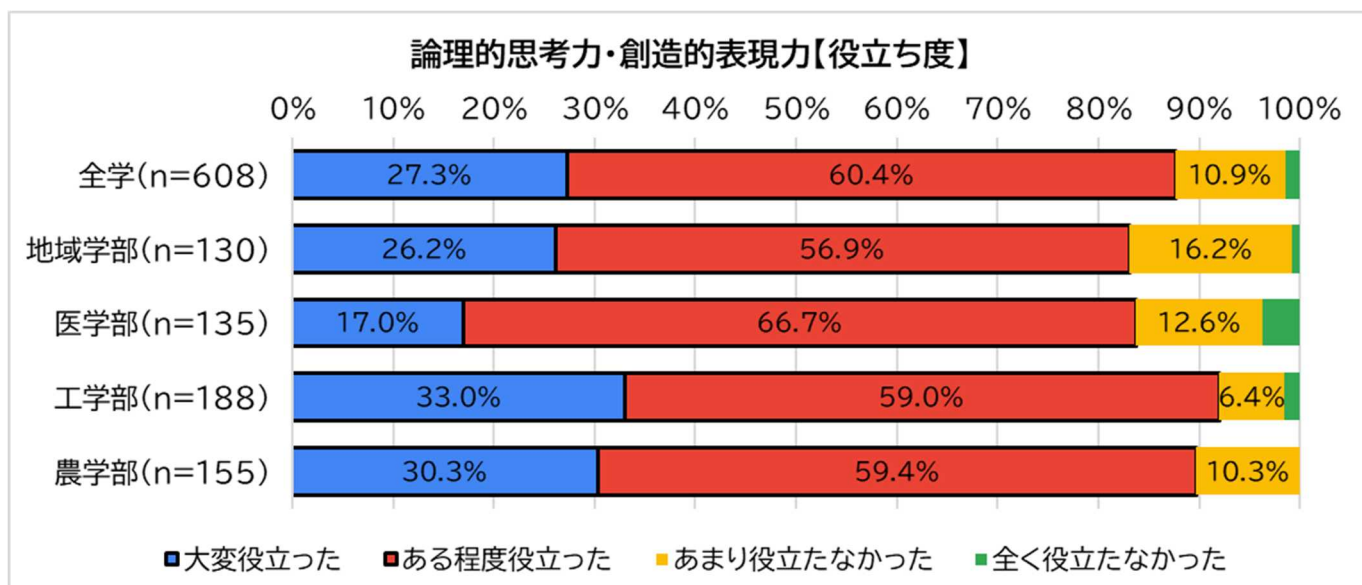
・「情報活用スキル」については、全学で 82.2%であった。農学部・工学部に比べ、地域学部・医学部の肯定的回答が低い（農学部 85.2%，工学部 84.5% vs. 地域学部 78.4%，医学部 79.3%）。なお「大変役立った」のみを見ると、医学部 11.9%は工学部 32.4%の約 1/3 にとどまる。

・「論理的思考力・創造的表現力」については全学で 87.7%であった。農学部・工学部に比べ、地域学部・医学部の肯定的回答が低い（工学部 92.0%，農学部 89.7% vs. 医学部 83.7%，地域学部 83.1%）。医学部の「大変役立った」の割合が 17.0%と低いのが目立つ。

情報活用スキル



論理的思考力・創造的表現力

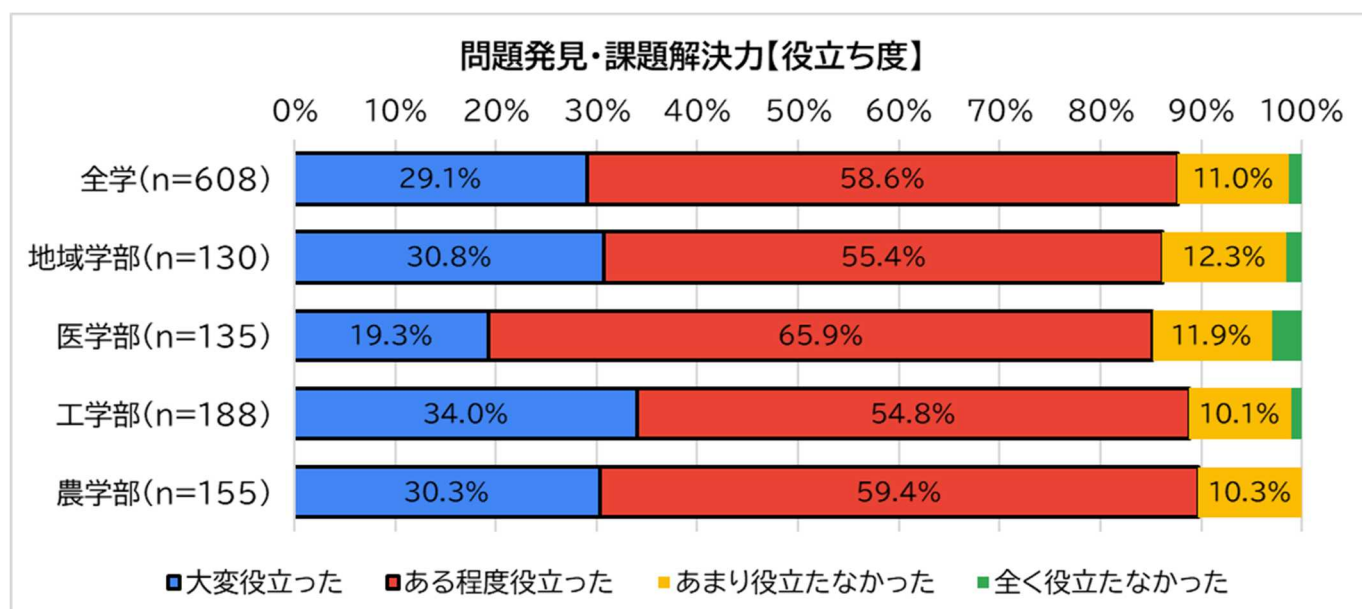


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(5/7) <問題発見・課題解決力> <自己管理・実行力>

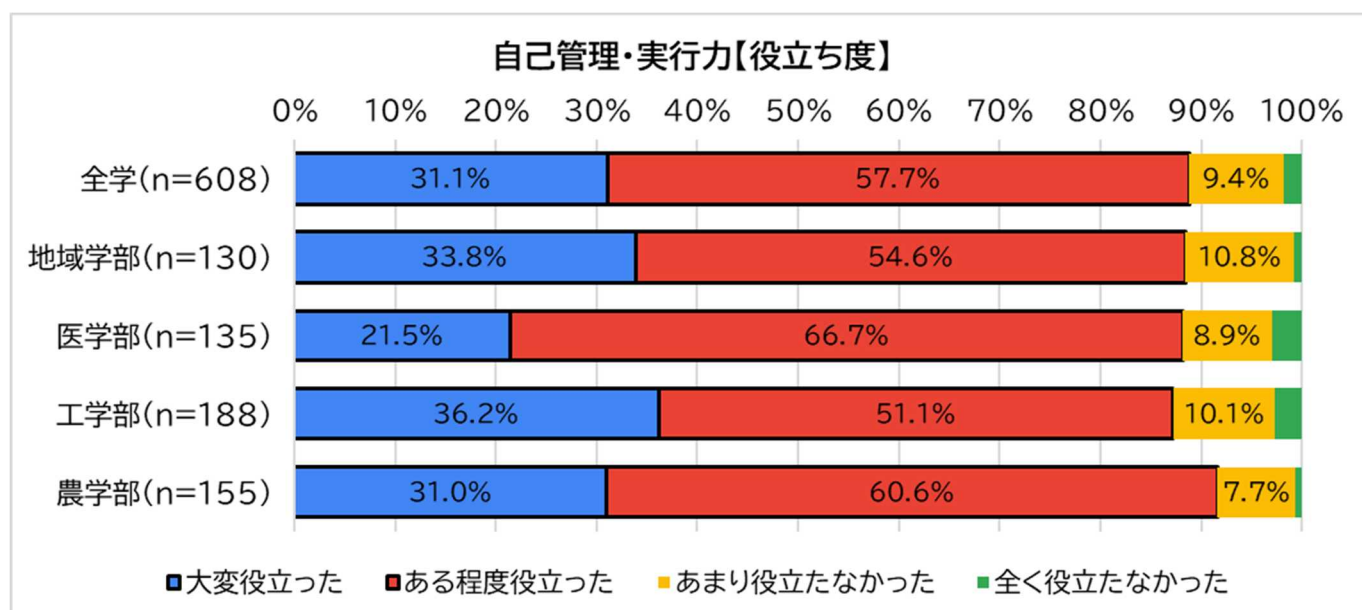
・「問題発見・課題解決力」については、全学で 87.7%が役立ったと回答。学部別では農学部が 89.7%で最も高く、工学部が 88.8%，地域学部が 86.2%，医学部が 85.2.%と続く。医学部の「大変役立った」との回答割合が 19.3%と相対的に低いのが目立つ。

・「自己管理・実行力」については、全学で 88.8%が役立ったと回答。学部別では農学部が 91.6%で最も高く、地域学部 88.4%，医学部 88.2%，工学部 87.3%と続く。「大変役立った」の割合は医学部が他学部に比べ低い。

問題発見・課題解決力



自己管理・実行力



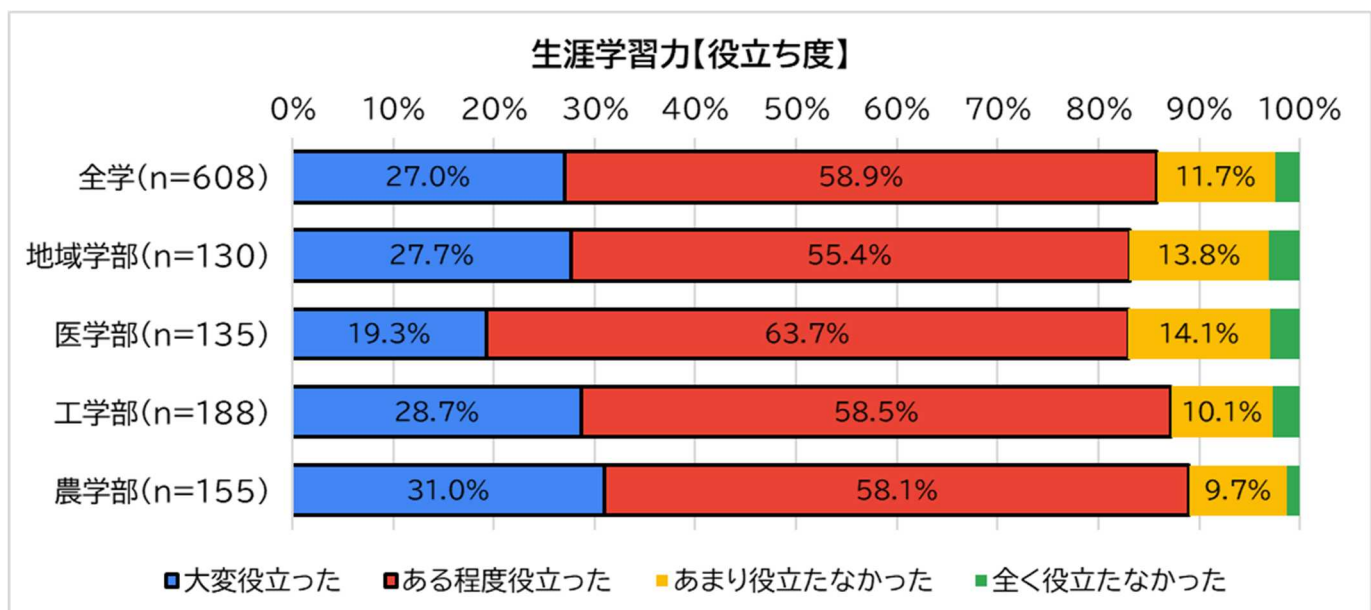
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(6/7)

<生涯学習力> <協働力>

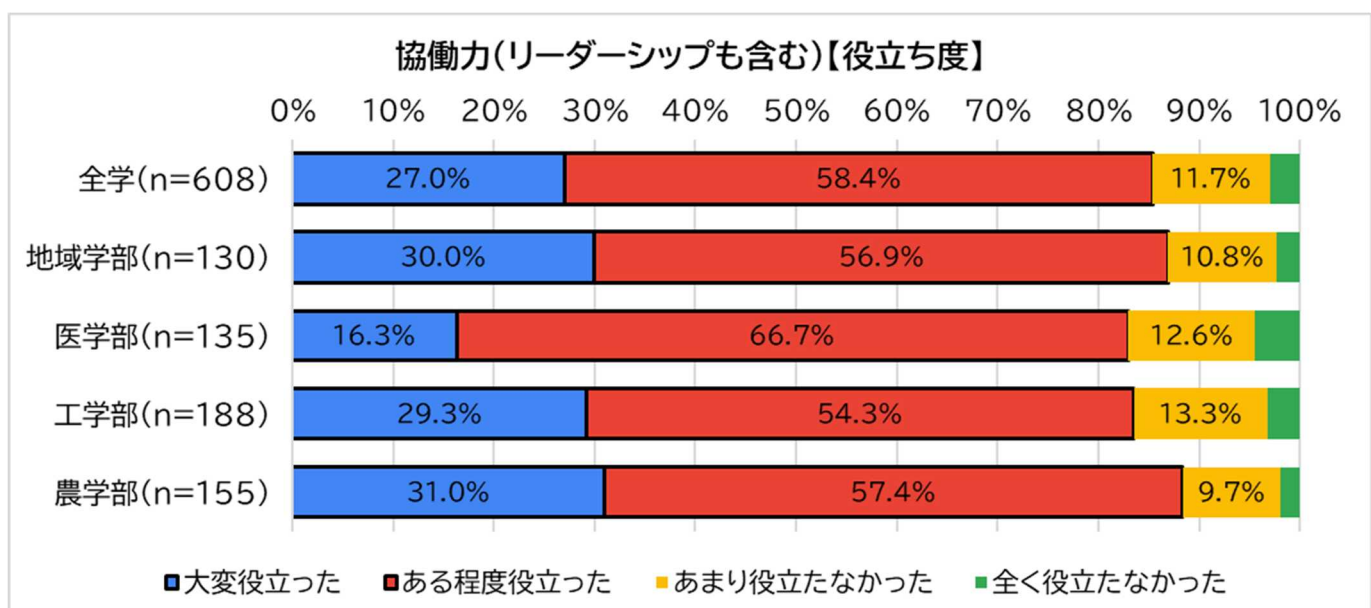
・「生涯学習力」については、全学で 85.9%が役立ったとの回答。農学部が最も高く 89.1%，次いで工学部 87.2%，地域学部 83.1%，医学部 83.0%と続く。医学部で「大変役立った」が他学部に比べ低い。

・「協働力（リーダーシップも含む）」については、全学では 85.4%が役立ったと回答。農学部が最も高く 88.4%，地域学部 86.9%，工学部 83.6%，医学部 83.0%と続く。「大変役立った」について医学部が他学部の約 1/2 に留まるのが目立つ。

生涯学習力



協働力（リーダーシップも含む）



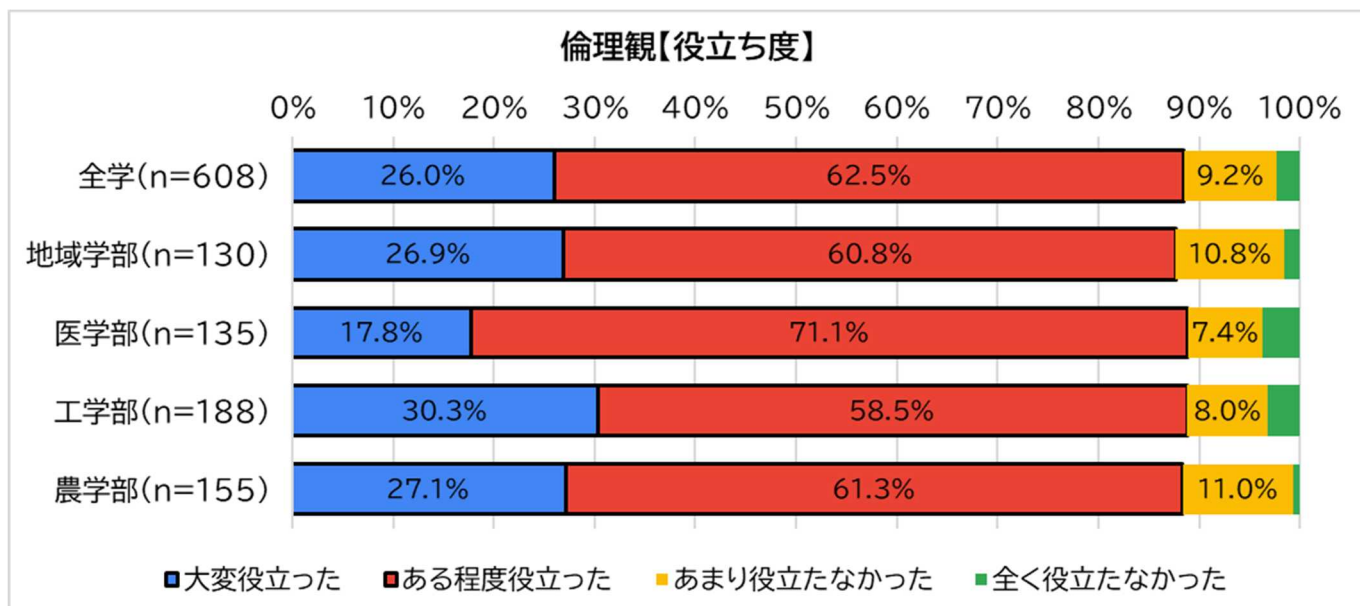
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(7/7)

<倫理観> <社会性>

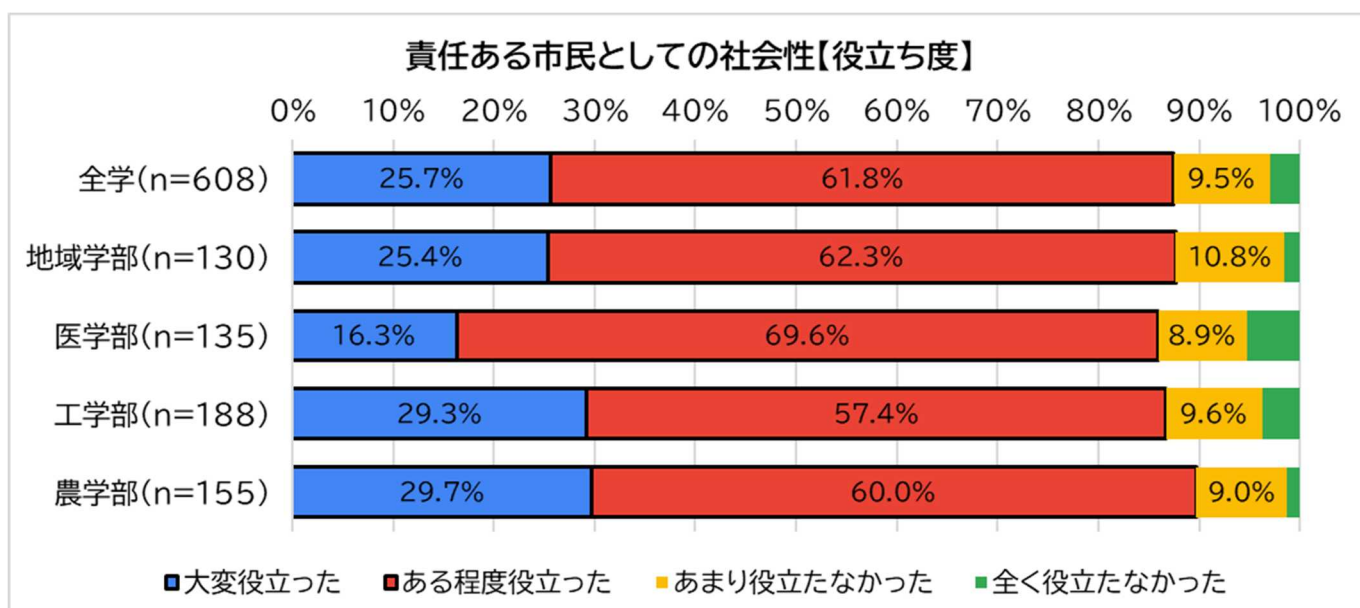
・「倫理観」については、全学で 88.5%が役立ったと回答。肯定的回答は 4 学部でほとんど同じ回答率であるが、医学部の「大変役立った」との回答割合が他 3 学部の 2/3 となっている。

・「責任ある市民としての社会性」については、全学で 87.5%が役立ったと回答。学部別では農学部が 89.7%で最も高く、地域学部 87.7%，工学部 86.7%，医学部 85.9 と続く。前項同様、医学部の「大変役立った」との回答割合が他 3 学部の約 1/2 であるのが目立つ。

倫理観

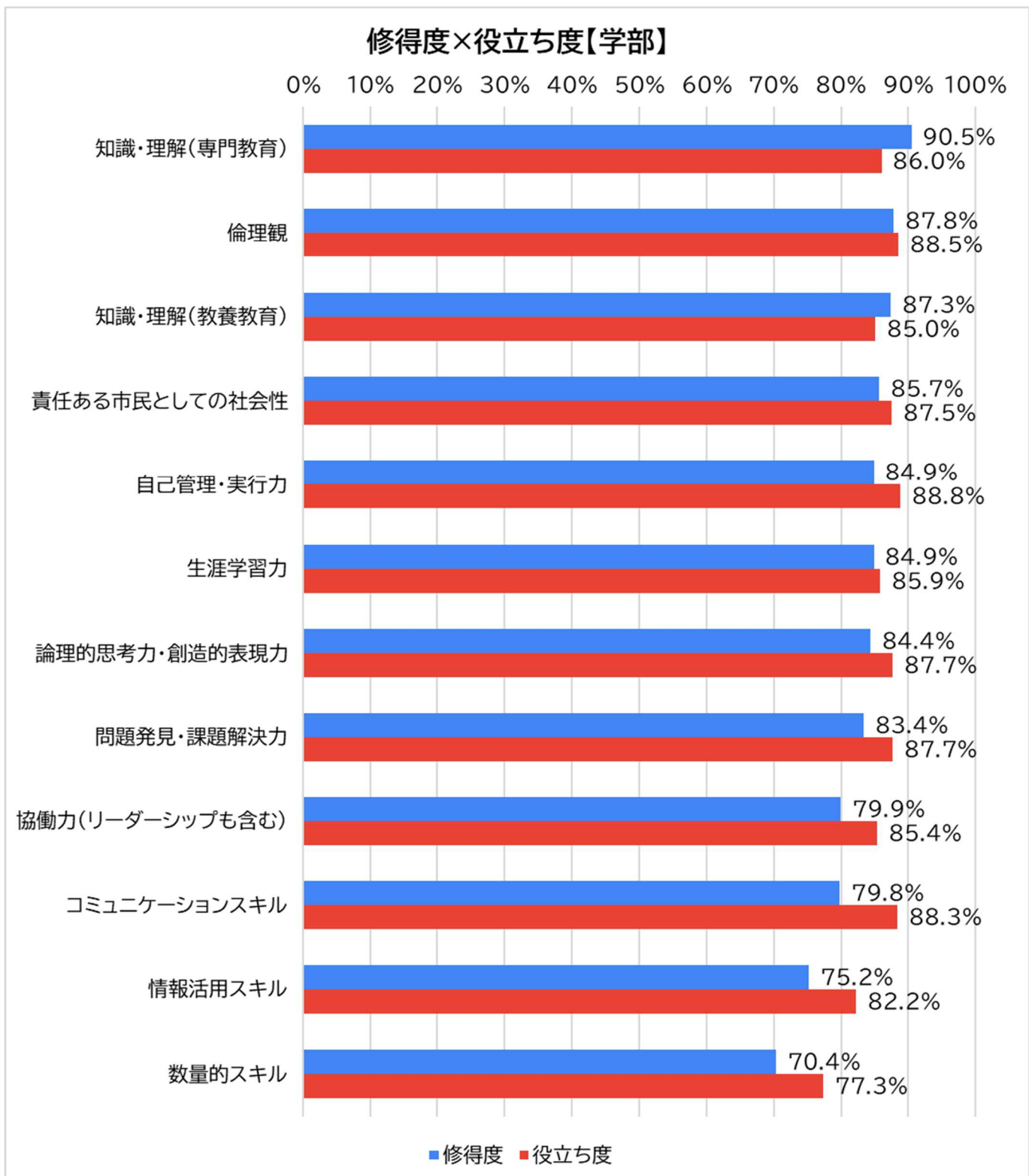


責任ある市民としての社会性



修得度×役立ち度

・「修得度」（「大変」+「ある程度」）と学修成果としての「役立ち度」（「大変」+「ある程度」）を比較すると、「知識・理解」（専門教育および教養教育）を除き、役立ち度が修得度を上回っている。特に「コミュニケーションスキル」「情報活用スキル」「数量的スキル」についてはその上回り幅が大きい。

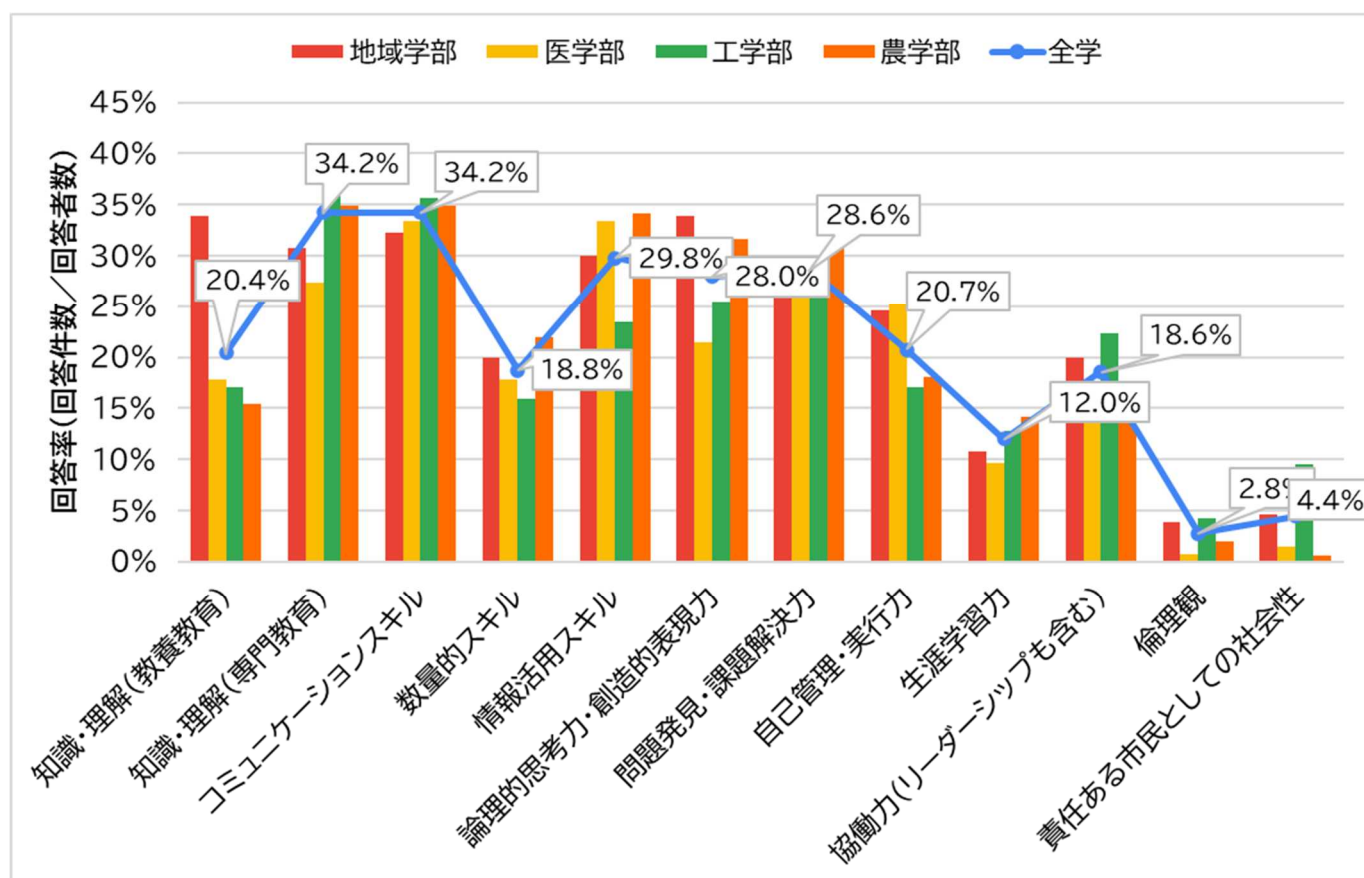


学んでおけば良かったこと

・「在学中にもっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」について、全学では「知識・理解（専門教育）」「コミュニケーションスキル」を選択した割合が最も高く 34.2%，次いで「情報活用スキル」が 29.8%と続く。「知識・理解（専門教育）」は、全学の 90.5%が「十分」・「ある程度」修得したと回答しているので、さらに専門分野に対する知識・理解を深めたい意識が強いと思われる。なお最も低い項目の「倫理観」・「責任ある市民としての社会性」については、修得度は低い。

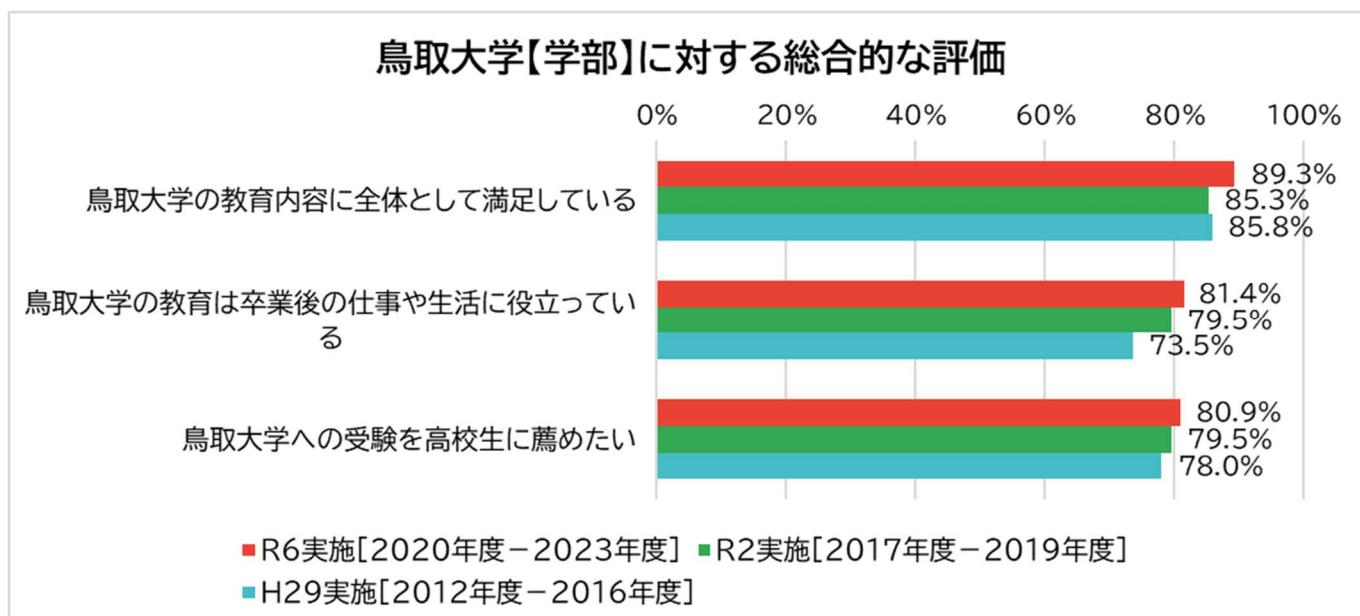
・選択した割合が高い項目を学部別で見ると、地域学部では「知識・理解（教養教育）」「論理的思考力・創造的表現力」，医学部では「情報活用スキル」「コミュニケーションスキル」，工学部では「知識理解（専門教育）」「コミュニケーションスキル」，農学部では「知識理解（専門教育）」「コミュニケーションスキル」「情報活用スキル」となっており、地域学部とその他学部間に明らかな差異が見られる。

在学中にもっと学んでおけば良かったと思う DP 能力



H29・R2・R6 比較(1/3) ＜総合的な満足度＞

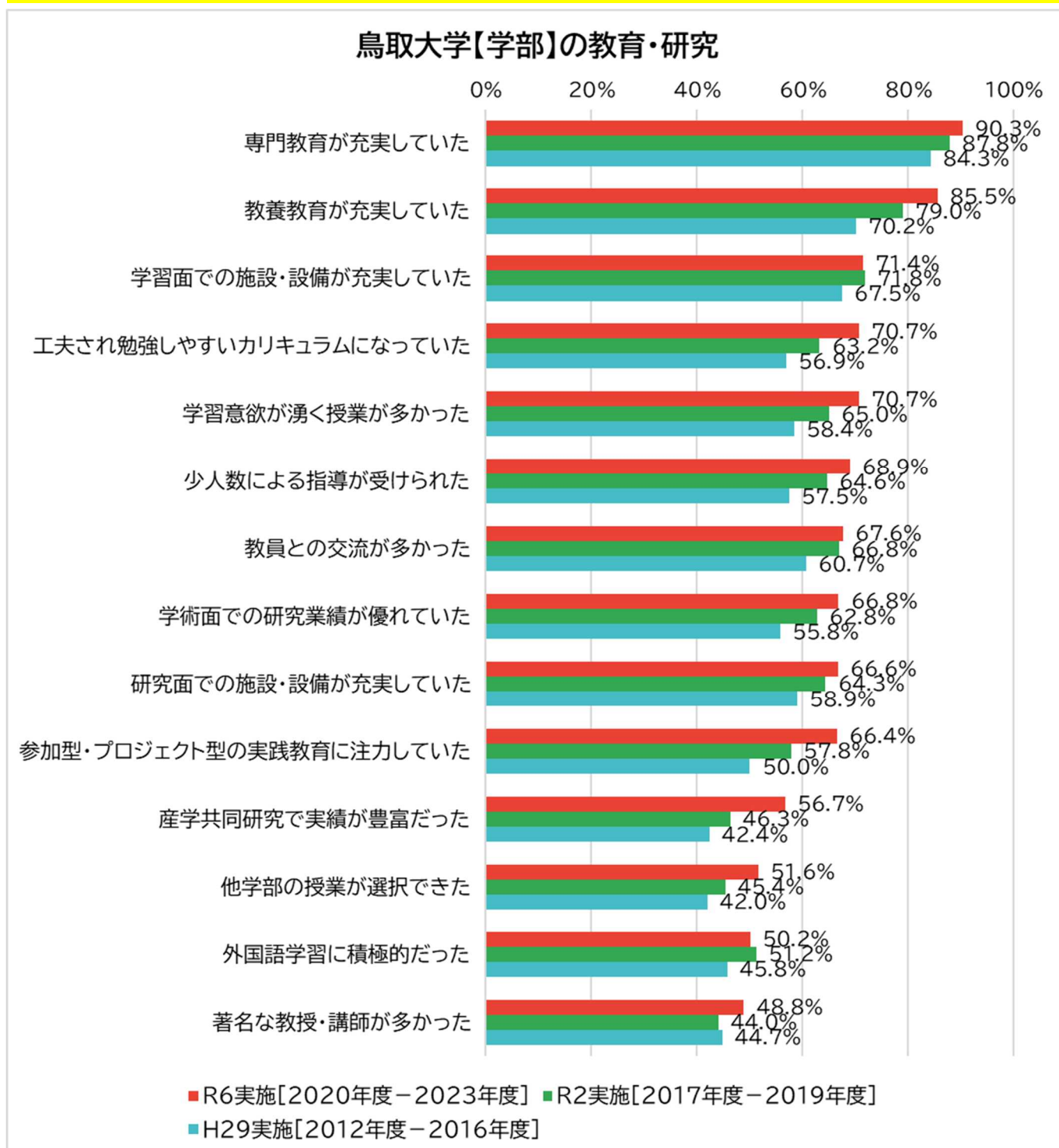
・前回, 前々回の調査に比べ, 3項目すべてにおいて肯定的な回答率は増えている。増加幅については, 「教育内容に全体として満足している」の回答率が85.3%から89.3%へと4.0ポイントの増加であるのに対し, 「卒業後に役立っている」は1.9ポイント, 「鳥取大学への受験を薦めたい」は1.4ポイントの増加に留まる。このことから推測されることとしては, 鳥取大学に入学して良かったと思っている卒業生が増えたものの, 他に進学したい大学があるならば, 鳥取大学への入学をぜひ薦めたい割合はそれほどでもないということになるのか。



H29・R2・R6 比較(2/3)

<教育・研究の充実度>

・「教育・研究の充実度」については、前回、前々回の調査から今回令和6年度調査にかけて、14項目中12項目で肯定的回答が上昇している。最も増加幅が大きかったのは「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた」(+8.6ポイント)。減少した2項目は「学習面での施設・設備が充実していた」「外国語学習に積極的だった」である。前者の減少幅は0.4ポイント、後者の減少幅は1.0ポイントとわずかであるが、前者については次回の調査においても引き続き注視する必要がある。



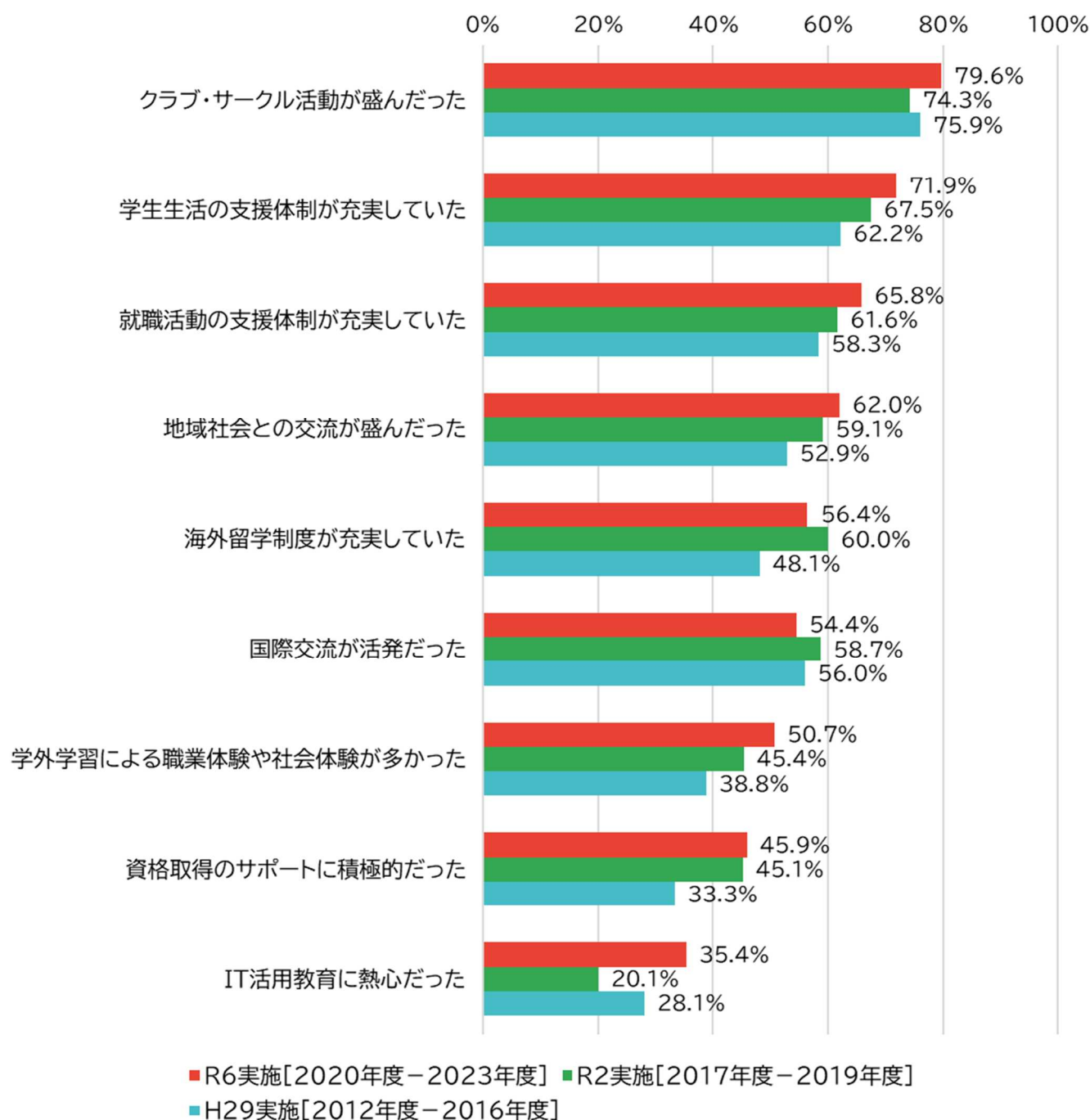
H29・R2・R6 比較(3/3)

<交流活動・支援体制の充実度>

・2項目を除いて前回調査より増加している。前回調査より上回った項目のうち、最も上回り幅が大きかったのが「IT活用教育に熱心だった」で、15.3ポイントの増加であった。

・前回から減少している2項目はいずれも国際交流に関する「海外留学制度が充実していた」「国際交流が活発であった」で、特に後者は前々回の調査よりも減少している。「IT活用教育に熱心だった」も含めコロナ禍での影響がかなり関係していると思われる。

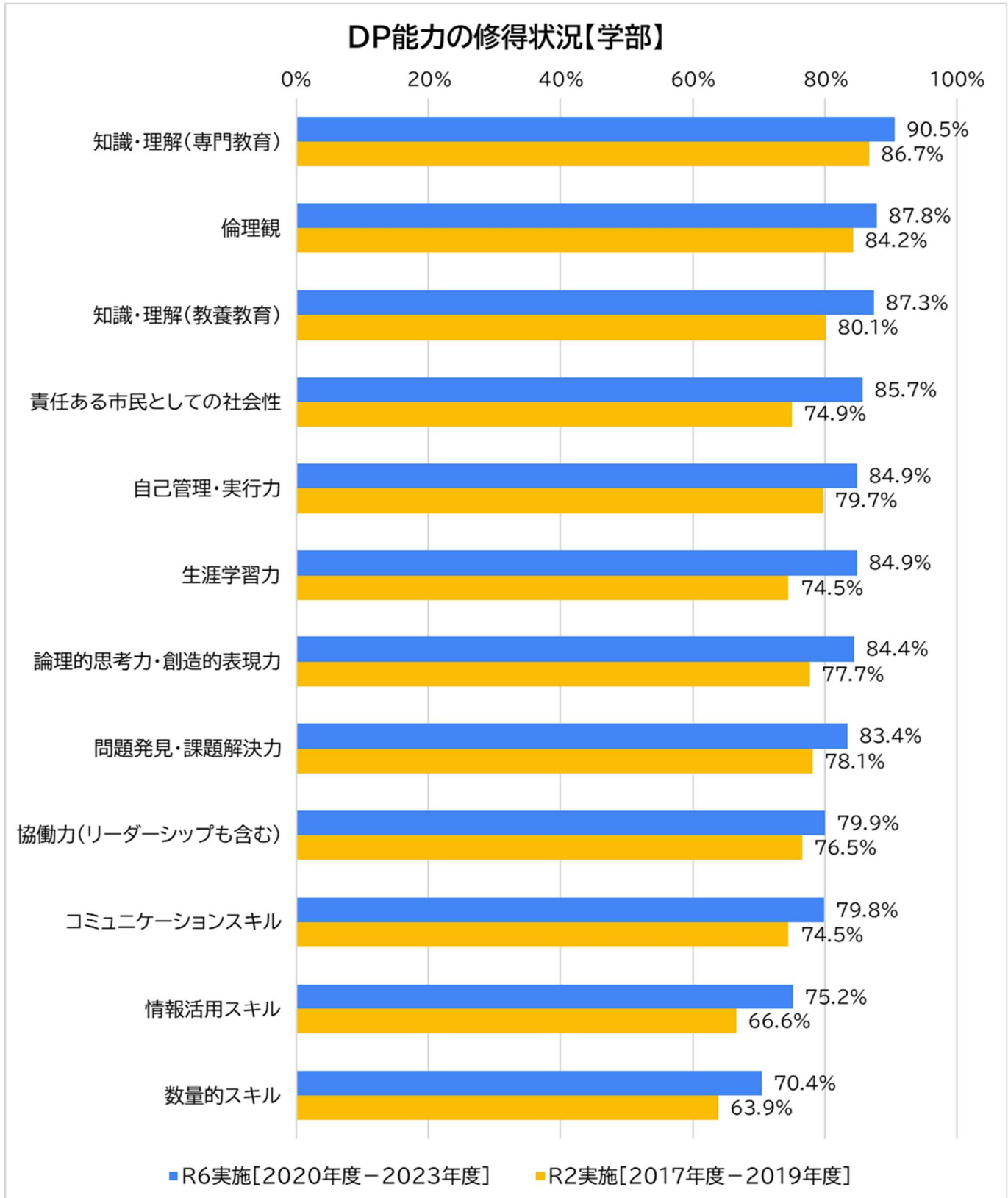
鳥取大学【学部】の交流活動・サポート体制



R2・R6 比較(1/2)

<大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力>

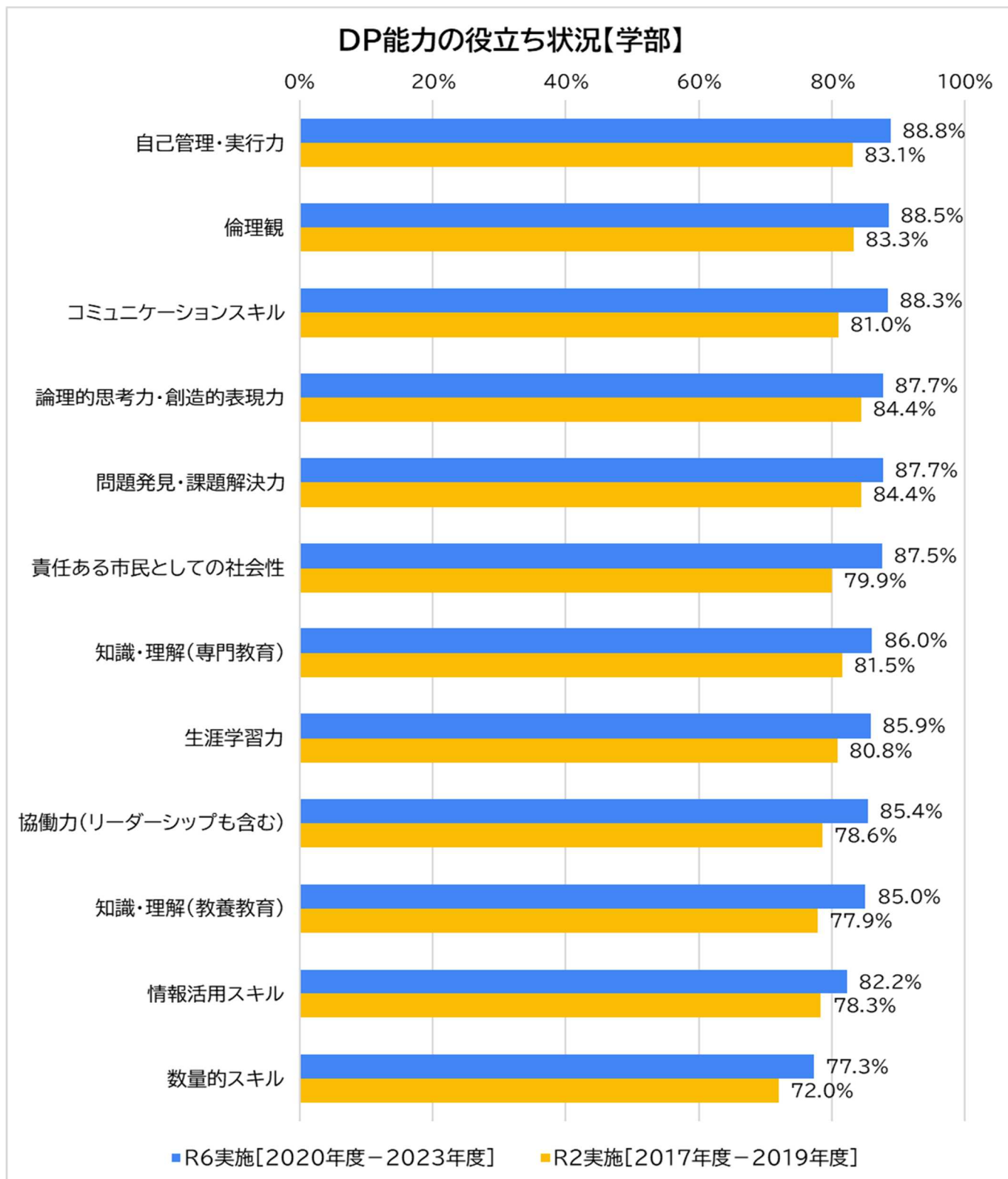
今回調査において、全ての項目が前回調査よりも上回っている。前回調査では8割を超える項目が12項目中3項目であったが、今回調査では8項目に増えており、残り4項目についても2項目はほぼ8割に達している。



R2・R6 比較(2/2)

<社会に出て教育成果として役立った DP 能力>

今回調査において、全ての項目が前回調査よりも上回っている。前回調査では8割を超える項目が12項目中7項目であったが、今回調査では11項目に増えている。下位2項目が「修得した DP 能力」の下位2項目と同じであることは検討を要する。



第2章

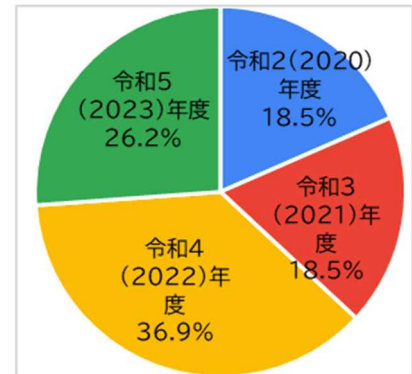
学部別 集計結果

地域学部

地域学部 回答者の属性

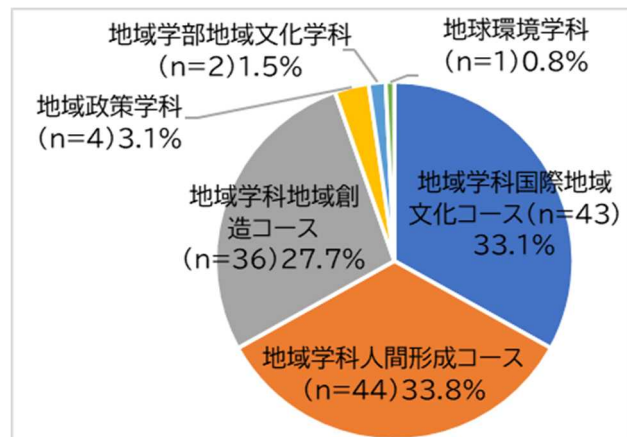
【学部・学科】

| 地域学科 | | | 地域政策学科 | 地域文化学科 | 地域環境学科 | 計 |
|-----------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 国際地域文化コース | 人間形成コース | 地域創造コース | | | | |
| 43 | 44 | 36 | 4 | 2 | 1 | 130 |
| 33.1% | 33.8% | 27.7% | 3.1% | 1.5% | 0.8% | 100.0% |

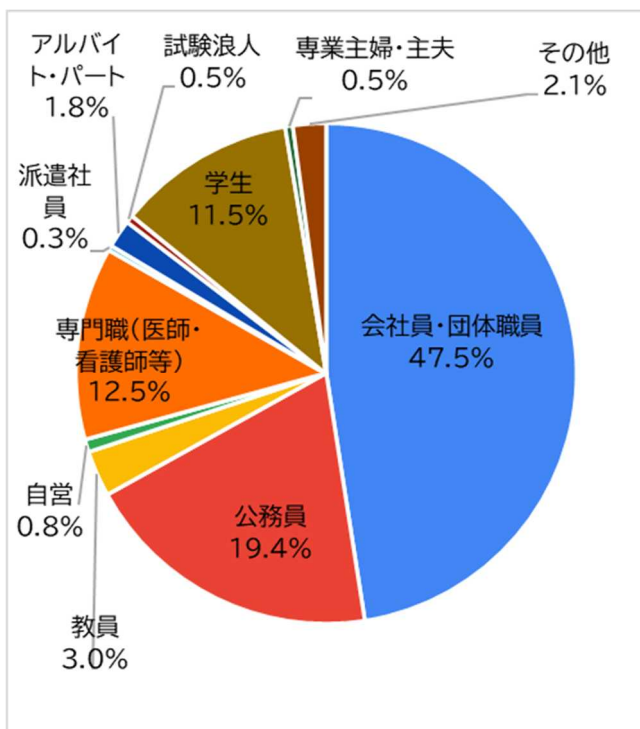


【学部・卒年】

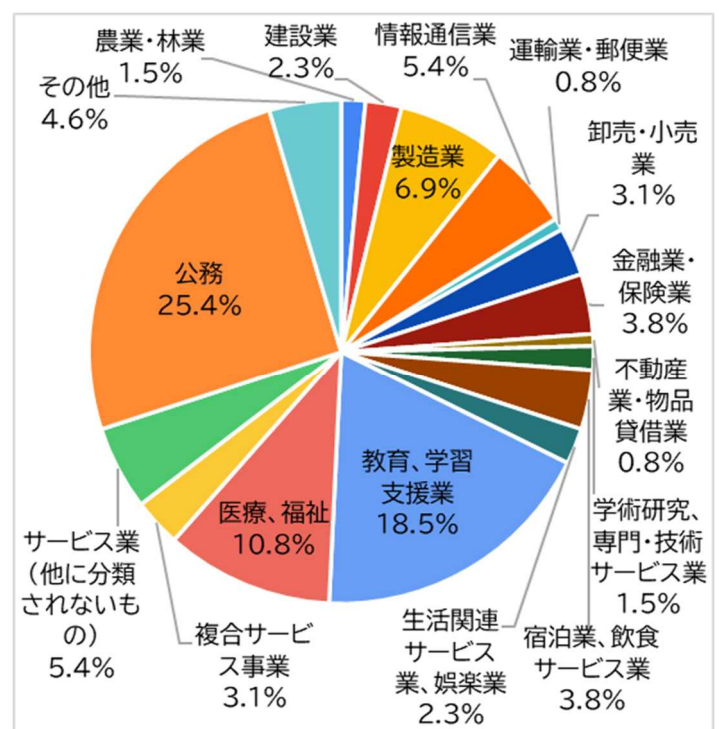
| 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 24 | 24 | 48 | 34 | 130 |
| 18.5% | 18.5% | 36.9% | 26.2% | 100.0% |



【学部・職業】



【学部・業種】



地域学部

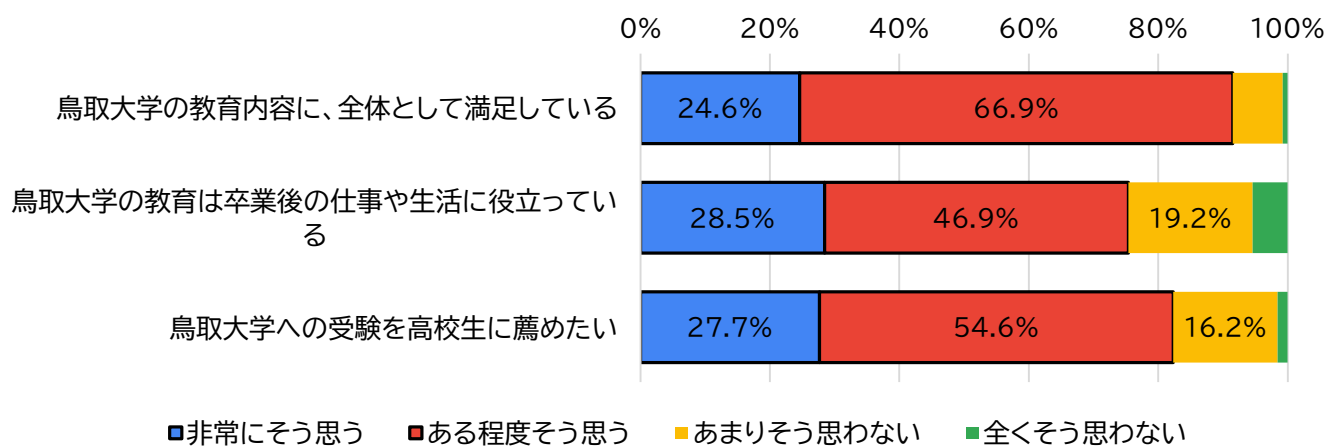
総合的な満足度

・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」24.6%、「ある程度そう思う」66.9%で、9割以上が肯定的回答だった。

・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」が27.7%であり約4人に1人が強い肯定的回答だった。また「ある程度そう思う」54.6%とあわせると、8割以上が肯定的回答だった。

・以上の回答結果から、総合的な満足度は高いといえる。

地域学部に対する総合的な評価(n=130)



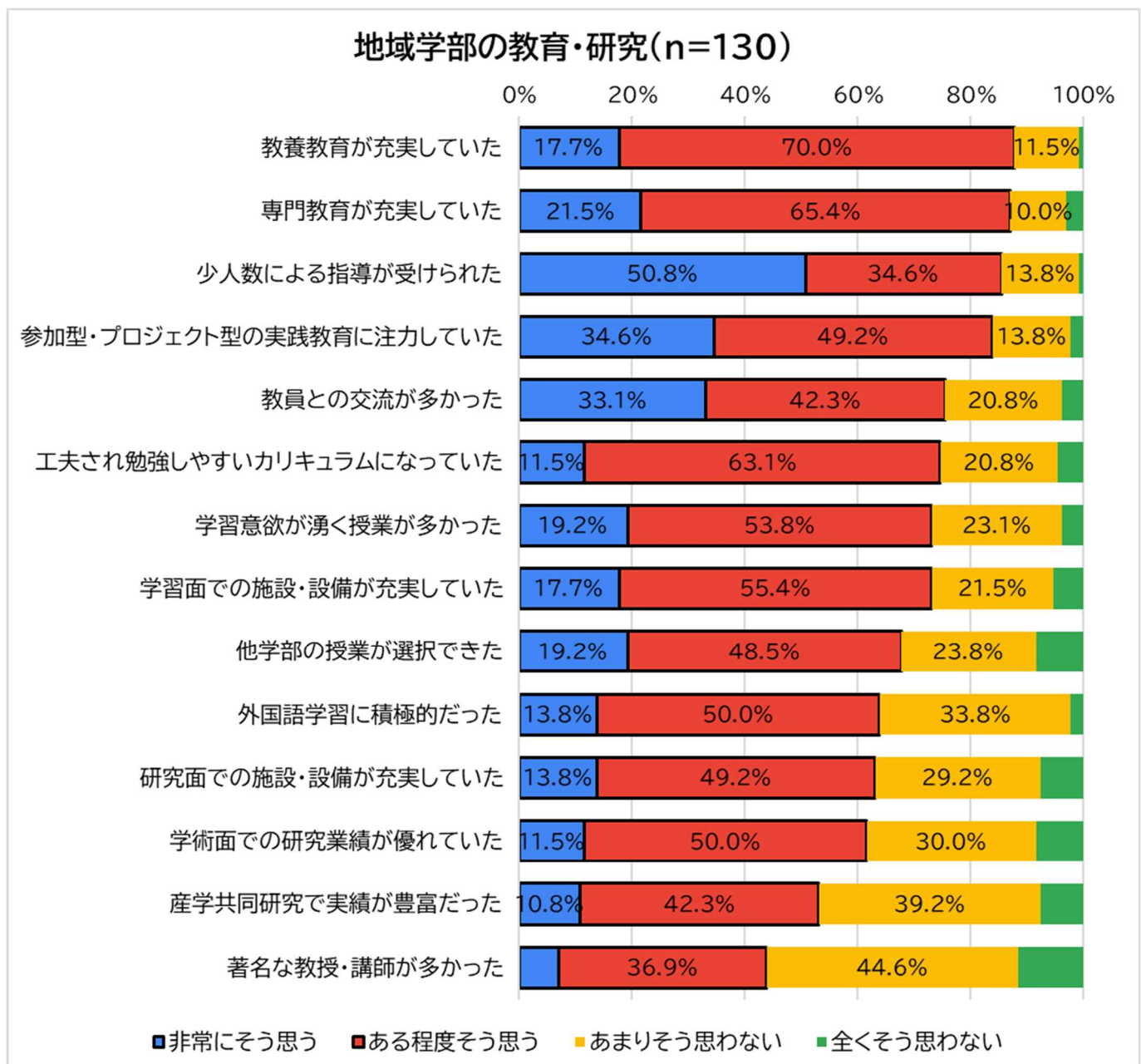
地域学部

教育・研究の充実度

・「教養教育が充実」「専門教育が充実」はともに 8 割以上の肯定的回答を得ており、教育面の充実度は高い。

・「少人数による指導」は 86.9%の肯定的回答であり、「非常にそう思う」の回答が 4 割を占め、注目に値する。また「教員との交流」は 75.4%の肯定的回答であり、3 割が「非常にそう思う」と強い肯定的回答だった。これは「少人数による指導」の結果と連動したものでしょう。

・「工夫され勉強しやすいカリキュラム」は 8 割近く、「参加型・プロジェクト型の実践教育」「学習意欲が湧く授業」「学習面での施設・設備の充実」は約 7 割以上が肯定的回答であり、学習面の充実度も高いと評価できる。



地域学部

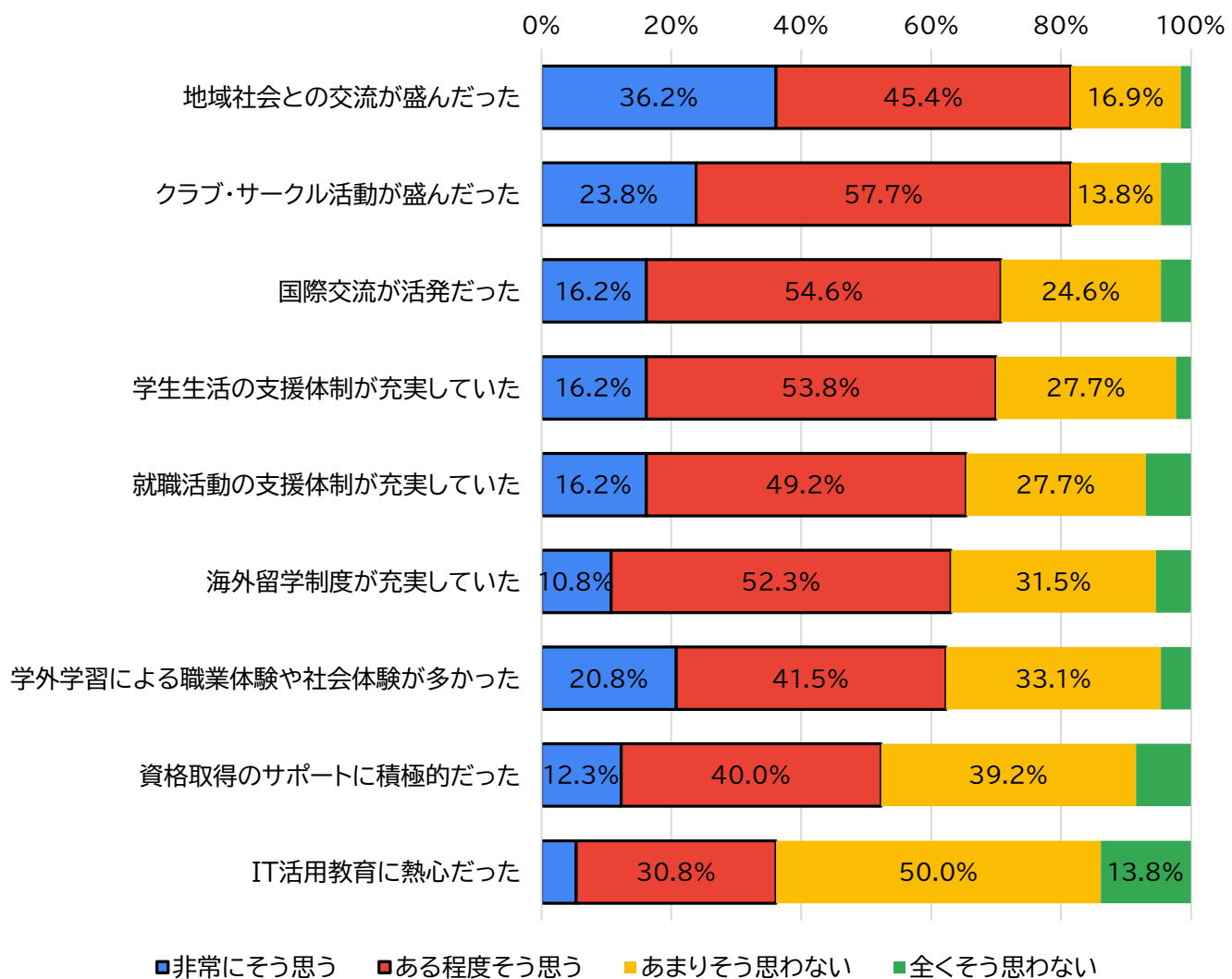
交流活動・支援体制の充実度

・「地域社会との交流」は81.6%が肯定的回答で、「非常にそう思う」は3割以上だった。「クラブ・サークル活動」および「国際交流」は7-8割近くが肯定的回答だった。これらから、交流活動の充実度の高さがうかがえる。また「海外留学制度」の肯定的回答は63.1%であり、「国際交流」の充実度と関係があると思われる。

・「学生生活の支援体制」は7割、「就職活動の支援体制」および「学外学習による職業体験や社会体験」は6割以上の肯定的回答であり、支援体制の充実度も高いといえる。

・「IT活用教育に熱心」は否定的な回答が6割以上を占め、改善が求められる。

地域学部の交流活動・サポート体制(n=130)



地域学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

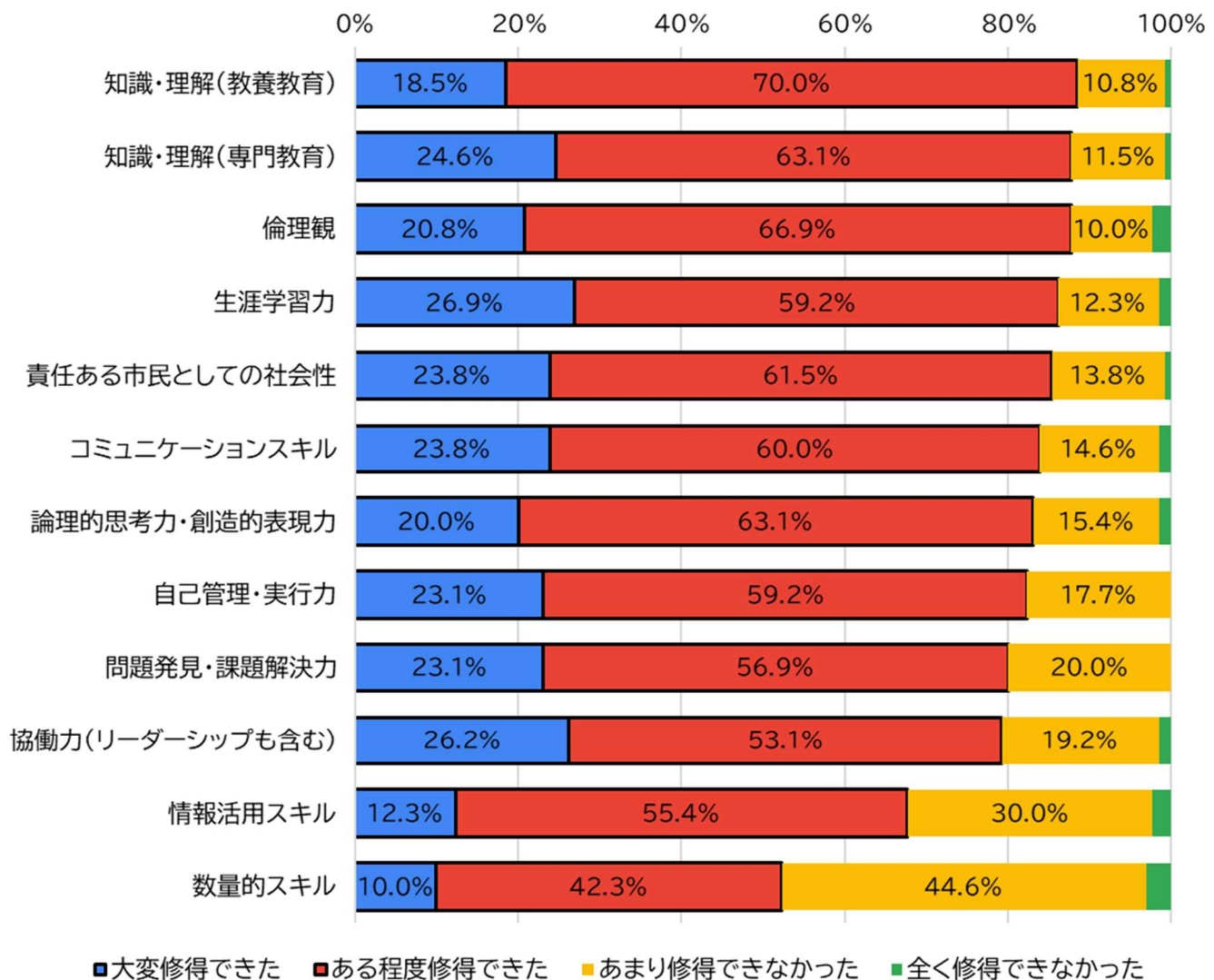
・「倫理観」(87.7%)、「責任ある市民としての社会性」(85.3%)といった地域社会との関連の深い項目で高い修得度であった。

・「知識・理解」は専門教育，教養教育ともに8割以上が修得できたと回答した。

・「協働力」「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」「コミュニケーションスキル」「自己管理・実行力」「生涯学習力」は8割前後の高い肯定的回答だった。

・一方、「情報活用スキル」，「数量的スキル」は他の項目と比較して修得できなかったという回答が多く，改善が必要である。

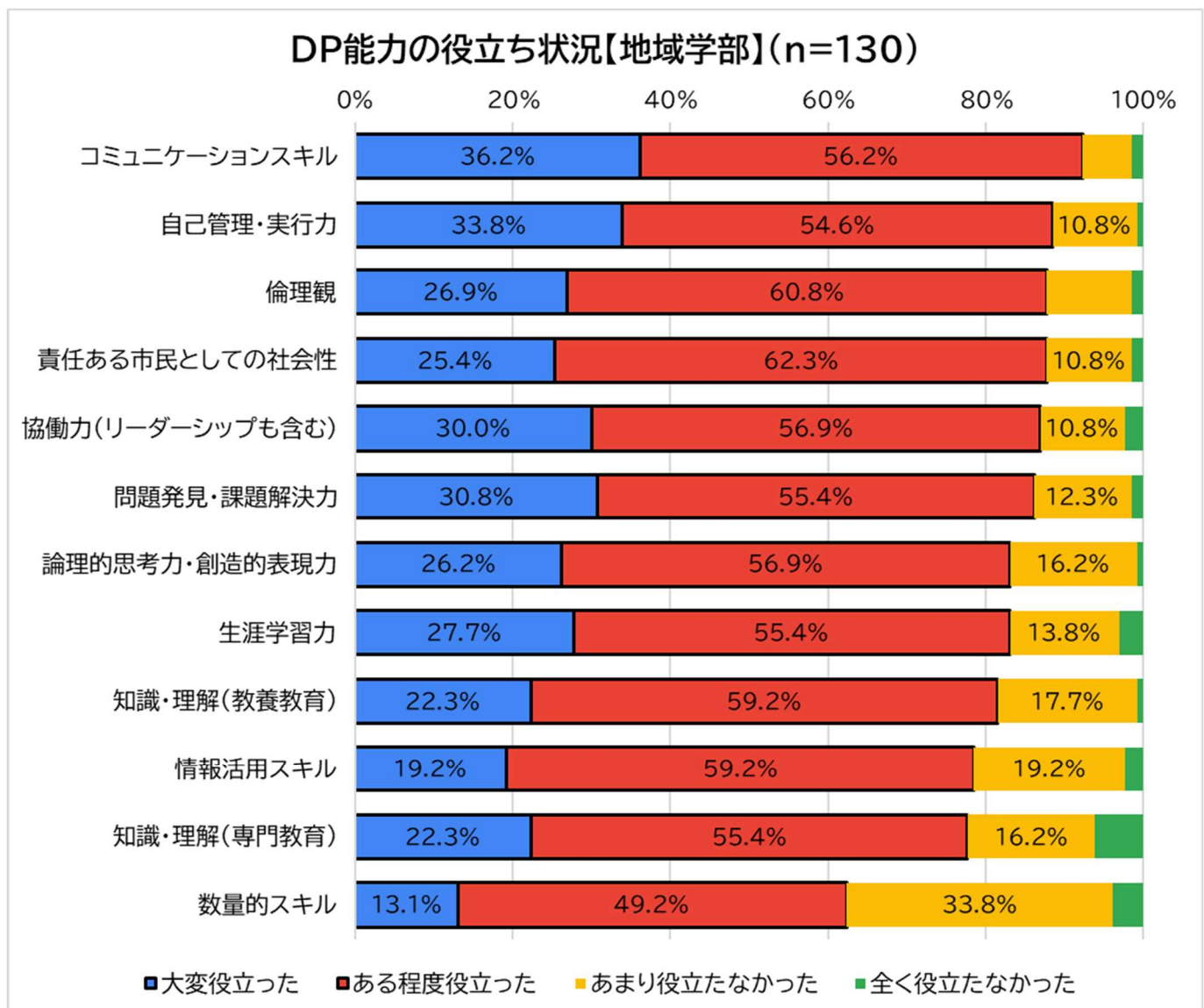
DP能力の修得状況【地域学部】(n=130)



地域学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

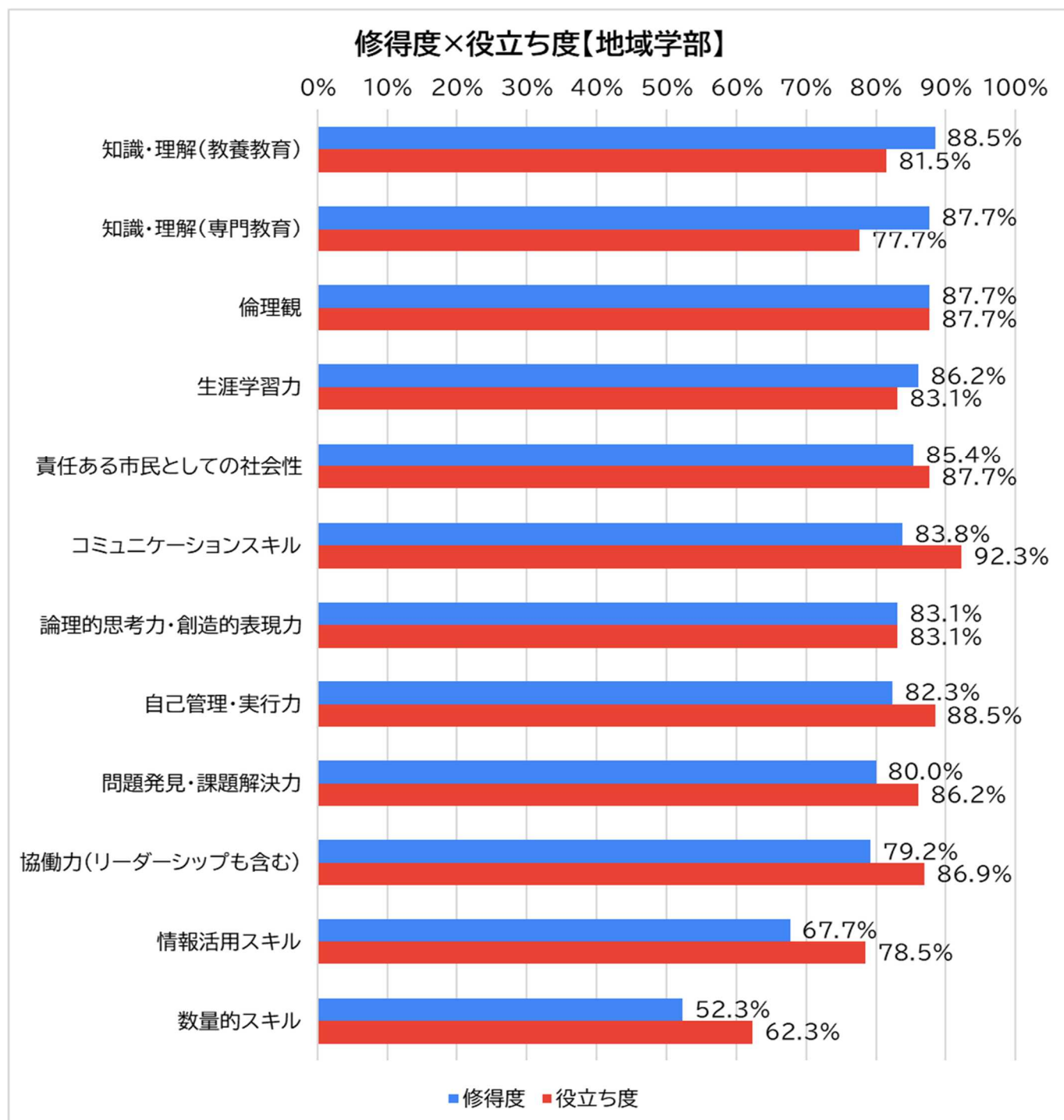
- ・「責任ある市民としての社会性」「生涯学習力」はいずれも 8-9 割が肯定的回答だった。
- ・「自己管理・実行力」「コミュニケーションスキル」「協働力」「倫理観」「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」「知識・理解（教養教育）」は 8 割以上が肯定的回答だった。
- ・「情報活用スキル」「知識・理解（専門教育）」は 8 割近くが肯定的回答だった。
- ・一方、「数量的スキル」は 4 割近くが役立たなかったという回答であり、改善が必要と考えられる。



地域学部

修得度×役立ち度

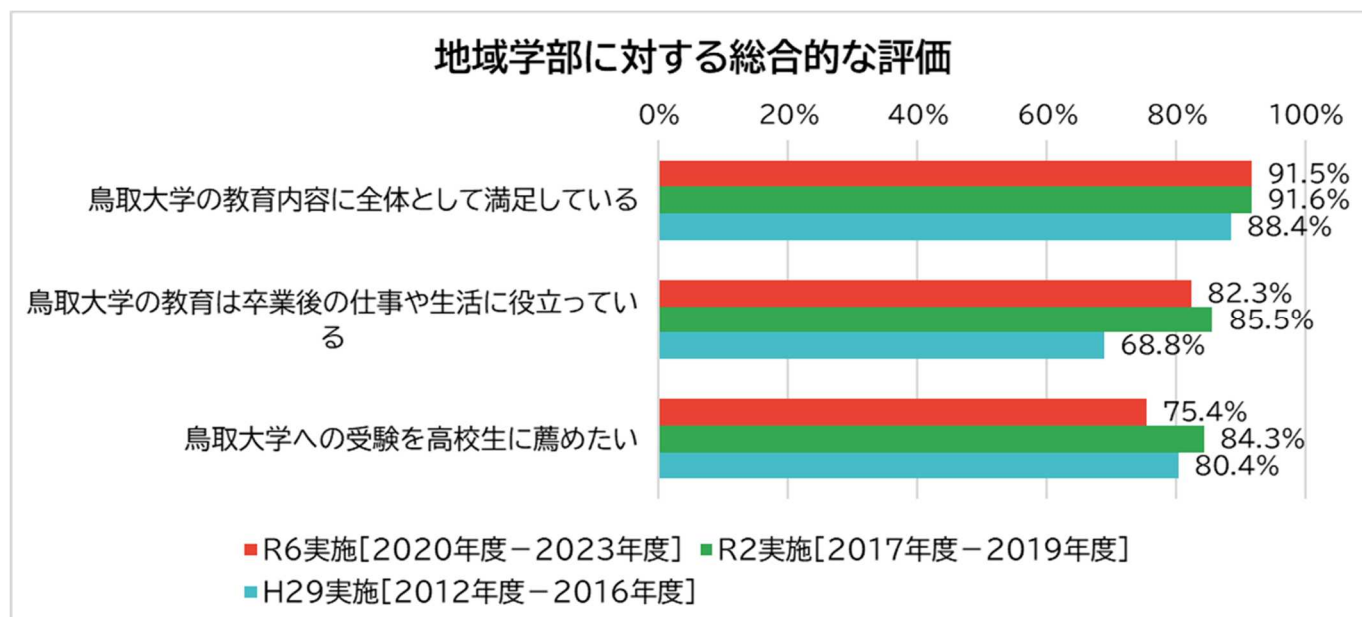
- ・多くの項目で、大学での修得度に対し、社会での役立ち度の値が高かった。逆に、修得度の方が値の大きいものは「知識・理解（教養教育）」「知識・理解（専門教育）」「生涯学習力」の3項目である。
- ・以上の結果から、大学で修得した能力が、社会での活動を通じて十分に発揮され、活用されていることがうかがえる。
- ・「数量的スキル」については他の項目と比較して低い傾向にあり、改善検討が必要と考えられる。



地域学部 H29・R2・R6 比較(1/3)

<総合的な満足度>

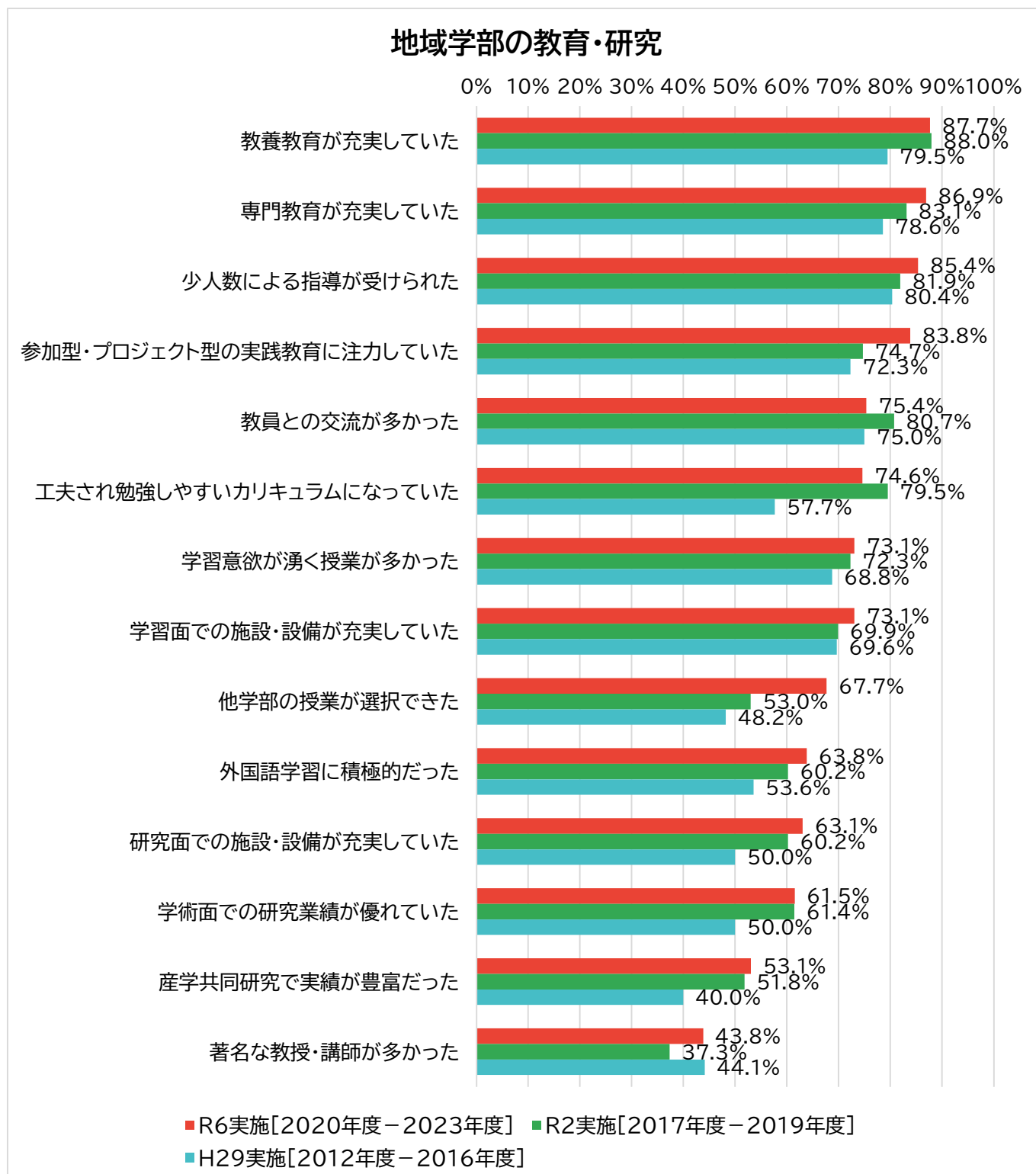
- ・平成 29 年度調査から令和 6 年度調査にかけて「総合的な満足度」は 9 割前後が肯定的であった。とくに「鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」に関しては、80%台の肯定的回答へ向上して推移している。
- ・「鳥取大学への受験を薦めたい」という回答については R6 年度調査では 80%台から 70%台となっている。



地域学部 H29・R2・R6 比較(2/3)

＜教育・研究の充実度＞

・平成 29 年度調査から令和 6 年度調査の「教育・研究の充実度」を比較すると、14 項目中 9 項目で令和 6 年度の値が最も大きかった。とくに「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」は 9.1%の肯定的回答の上昇、「他学部の授業が選択できた」は 14.7%の上昇が認められた。「学習面での施設・設備」はほぼ同じ値であった。

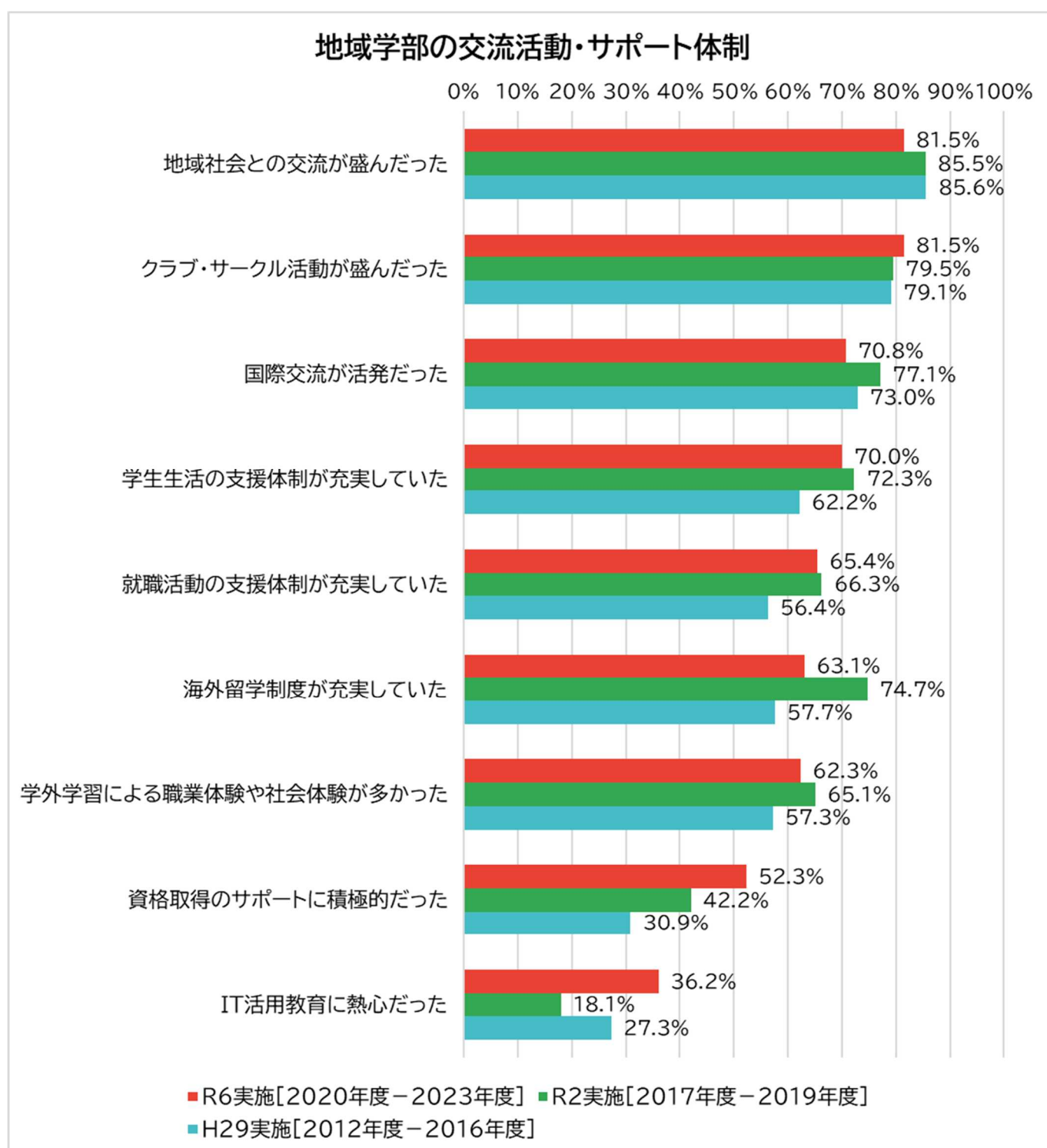


地域学部 H29・R2・R6 比較(3/3)

<交流活動・支援体制の充実度>

・「地域社会との交流が盛んである」「国際交流が活発」「海外留学制度の充実」について令和6年度調査では令和2年度調査と比較してポイントを下げた。これは、対象者がコロナ禍に大学生活を送っていたことも関連している可能性がある。

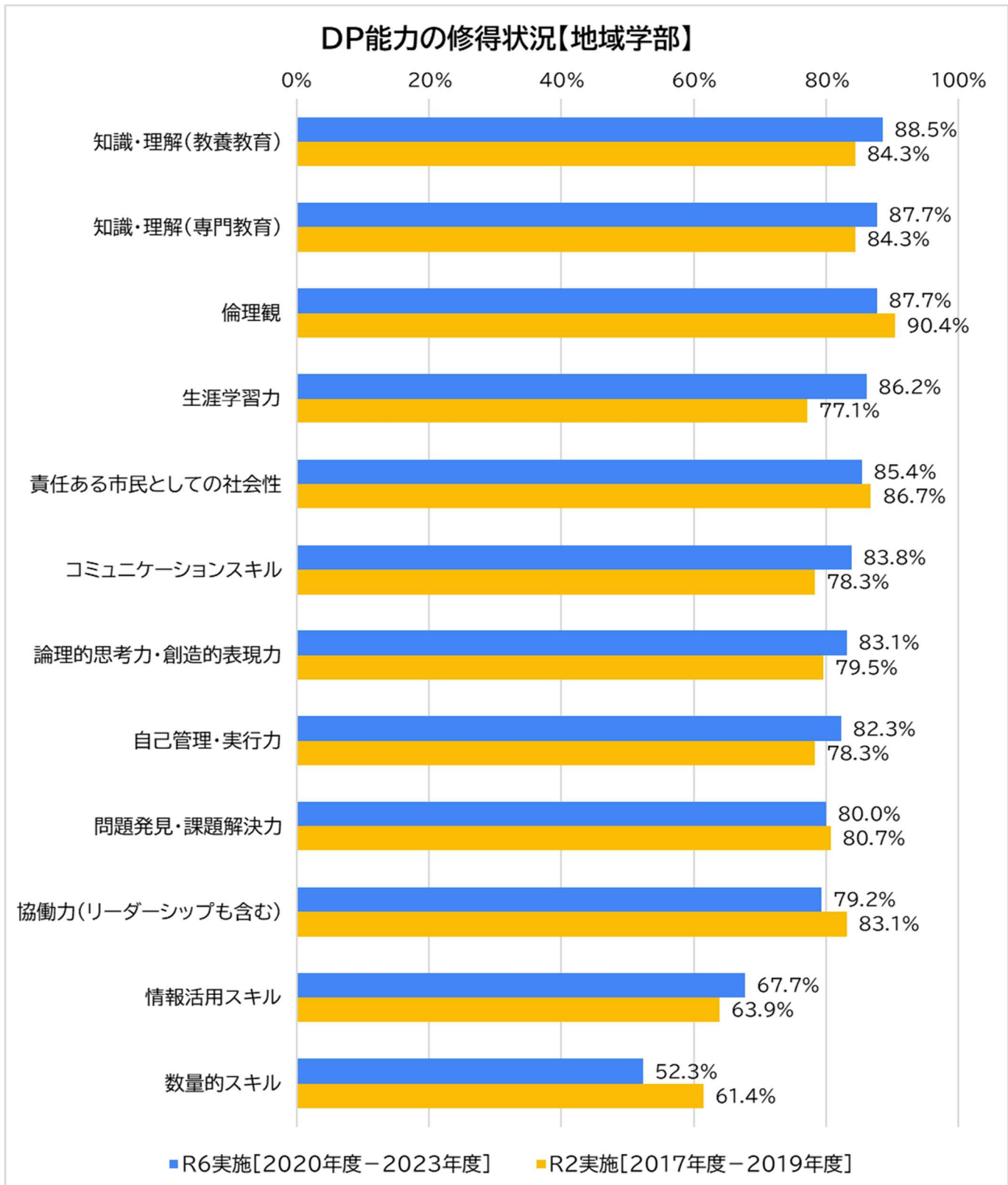
・「IT活用教育」について肯定的と捉えている回答は36.2%に留まっており、継続した改善が求められる。



地域学部 R2・R6 比較

＜大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力＞

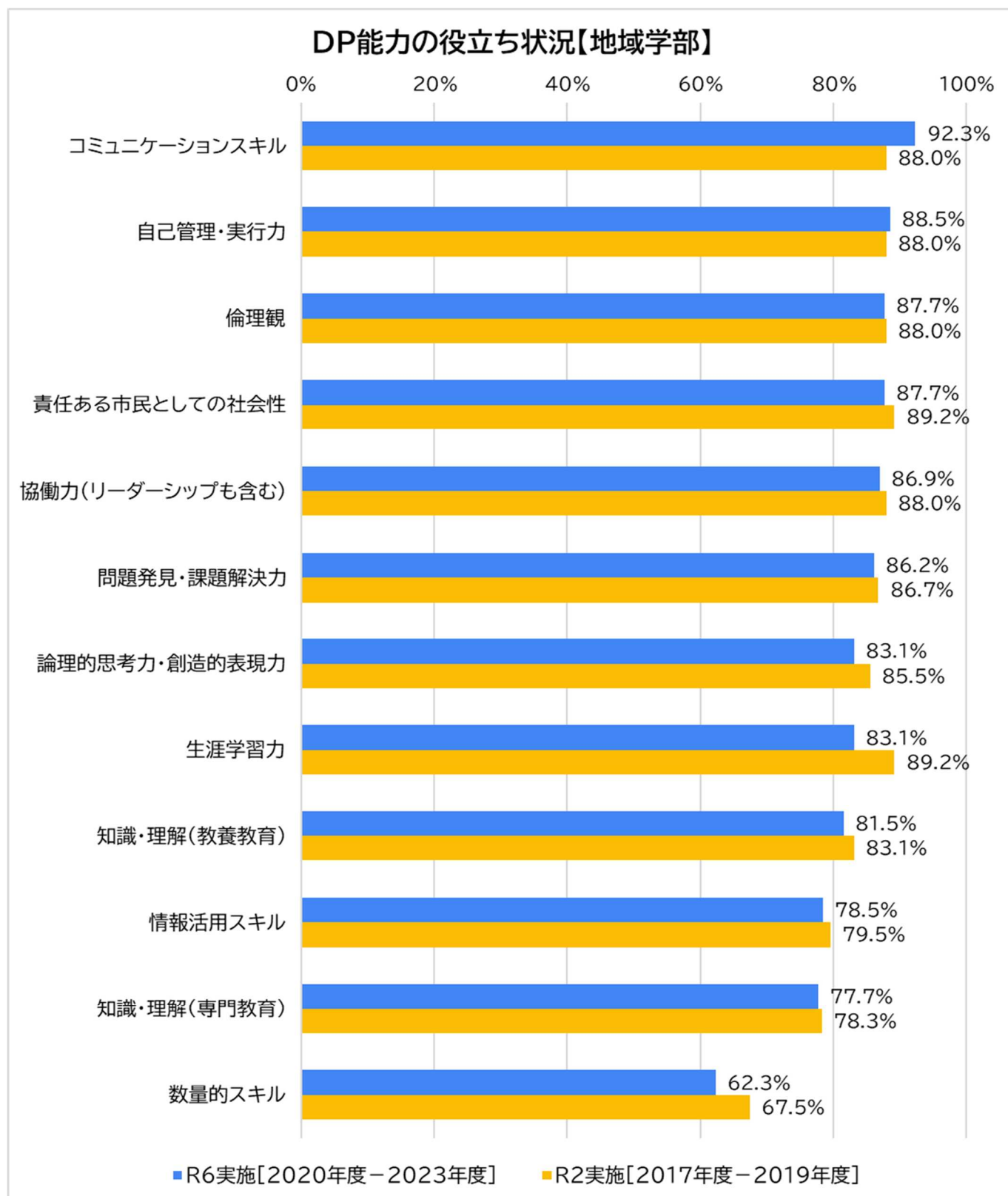
- ・12 項目ある DP 能力において、10 項目が 8 割方修得できたと肯定的な回答であった。
- ・「情報活用スキル」「数量的スキル」については 50% 台にとどまっており、改善が必要である。



地域学部 R2・R6 比較

＜社会に出て教育成果として役立った DP 能力＞

- ・「数量的スキル」を除いて、どの DP も 8 -9 割役立ったと回答している。
- ・「数量的」スキルについては令和 2 年、令和 6 年の調査共に 6 割にとどまっており、社会で必要な数量的スキルを身につけるための教育改善が必要である。

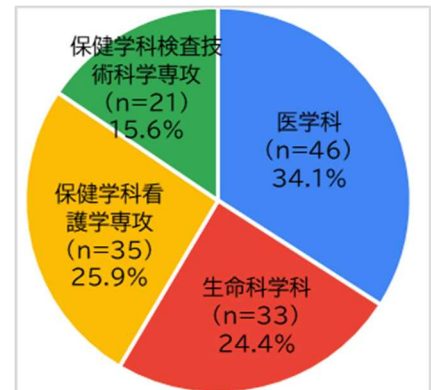


医学部

医学部 回答者の属性

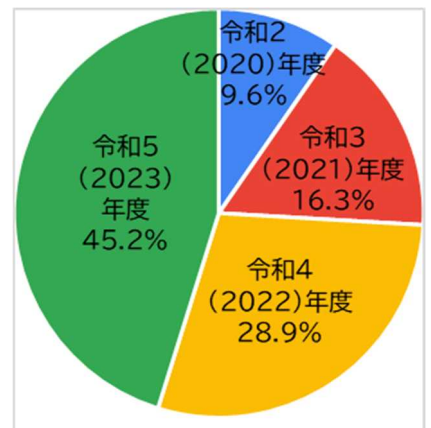
【学部・学科】

| 医学科 | 生命科学科 | 保健学科 | | 計 |
|-------|-------|-------|----------|--------|
| | | 看護学専攻 | 検査技術科学専攻 | |
| 46 | 33 | 35 | 21 | 135 |
| 34.1% | 24.4% | 25.9% | 15.6% | 100.0% |

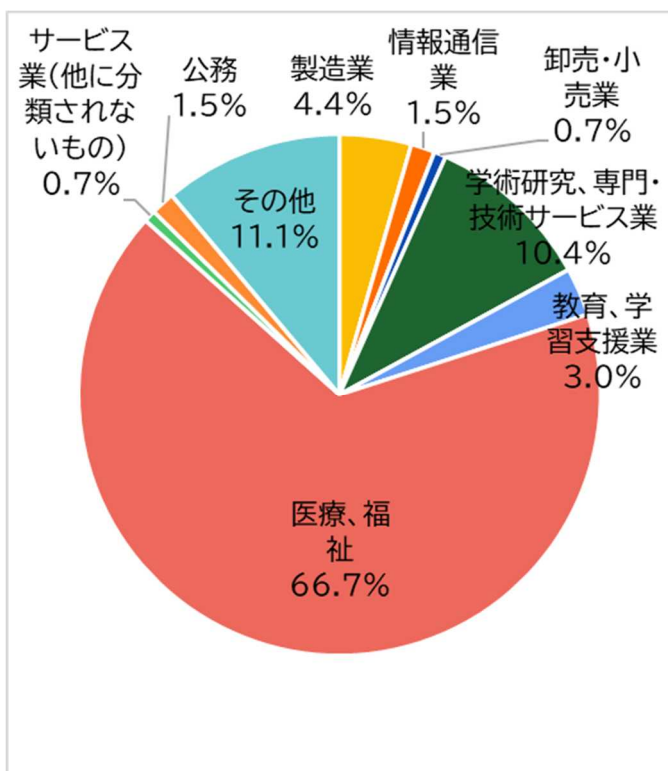


【学部・卒年】

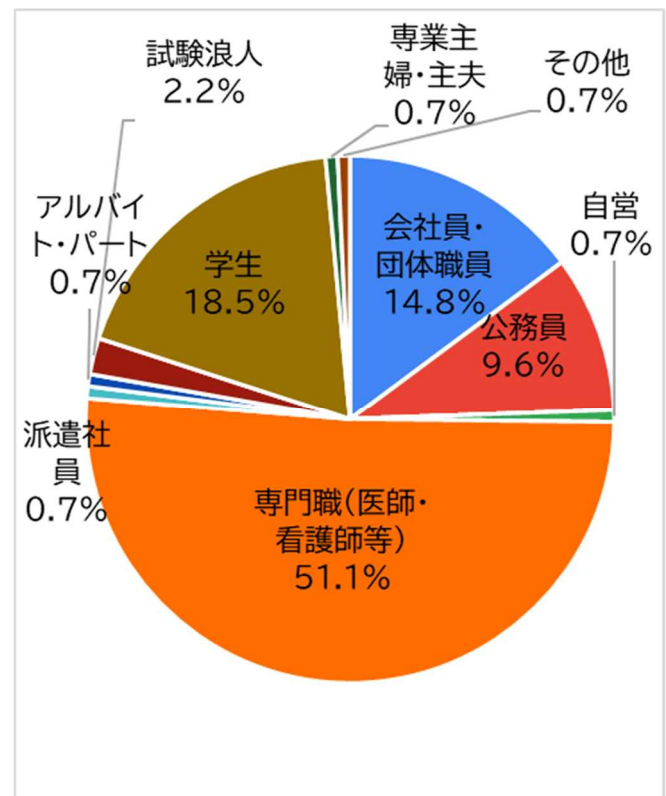
| 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 13 | 22 | 39 | 61 | 135 |
| 9.6% | 16.3% | 28.9% | 45.2% | 100.0% |



【学部・職業】



【学部・業種】

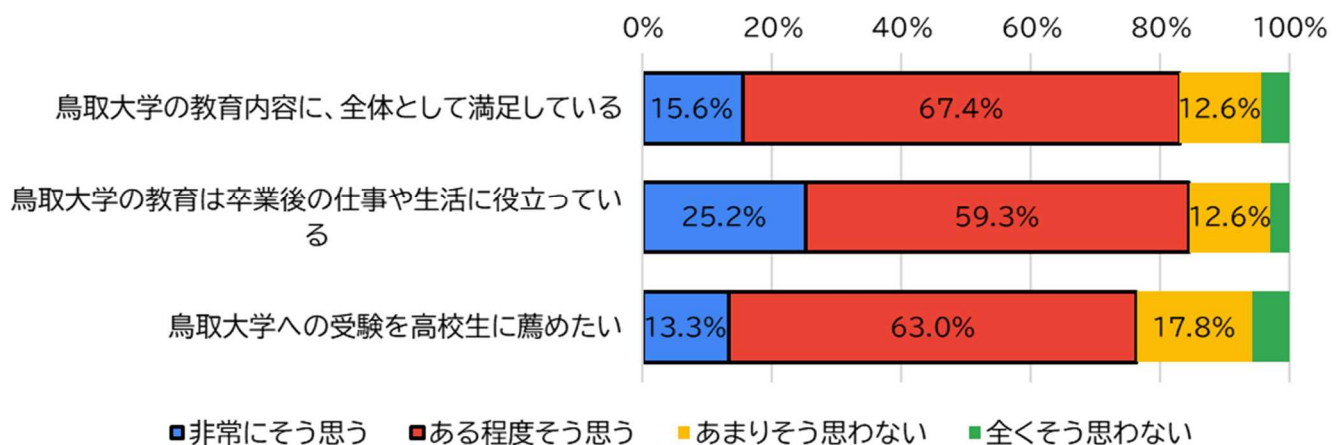


医学部

総合的な満足度

- ・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、「非常にそう思う」25.2%、「ある程度そう思う」59.3%で、8割以上が肯定的回答だった。
- ・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」15.6%、「ある程度そう思う」67.4%で、約8割が肯定的回答だった。
- ・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」13.3%、「ある程度そう思う」63.0%で、76.3%が肯定的回答だった。

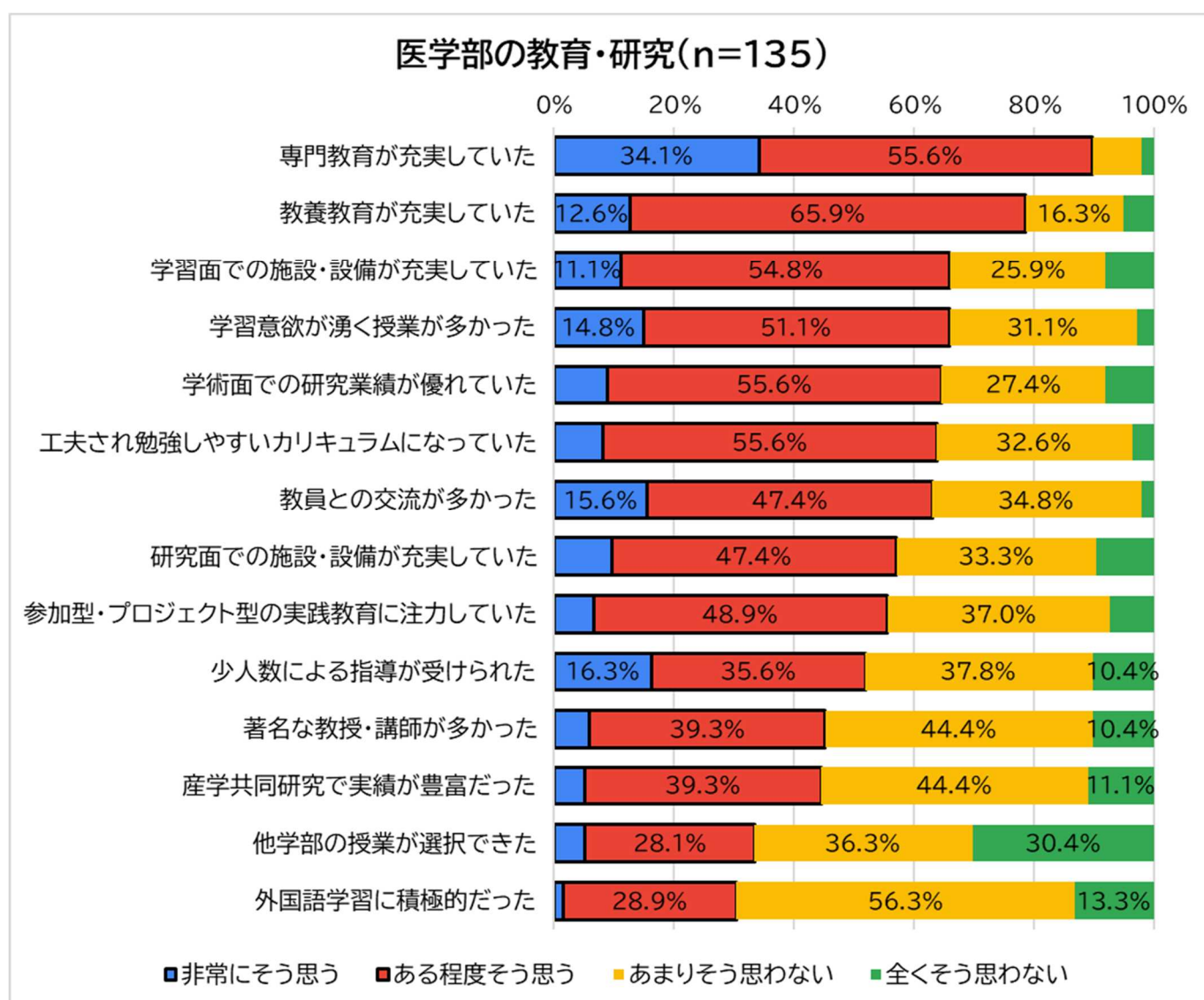
医学部に対する総合的な評価(n=135)



医学部

教育・研究の充実度

- ・「専門教育の充実」の肯定的回答は約 9 割で、最も高いものだった。
- ・「教養教育の充実」は約 8 割が肯定的回答だった。
- ・「学習面での施設・設備の充実」「学習意欲が湧く授業が多い」「学術面での研究業績が優れていた」「工夫され勉強しやすいカリキュラム」「教員との交流」が 6 割以上の肯定的回答であった。
- ・「他学部の授業が選択できた」は「全くそう思わない」が 30.4%であり、他の項目に比べて顕著であった。

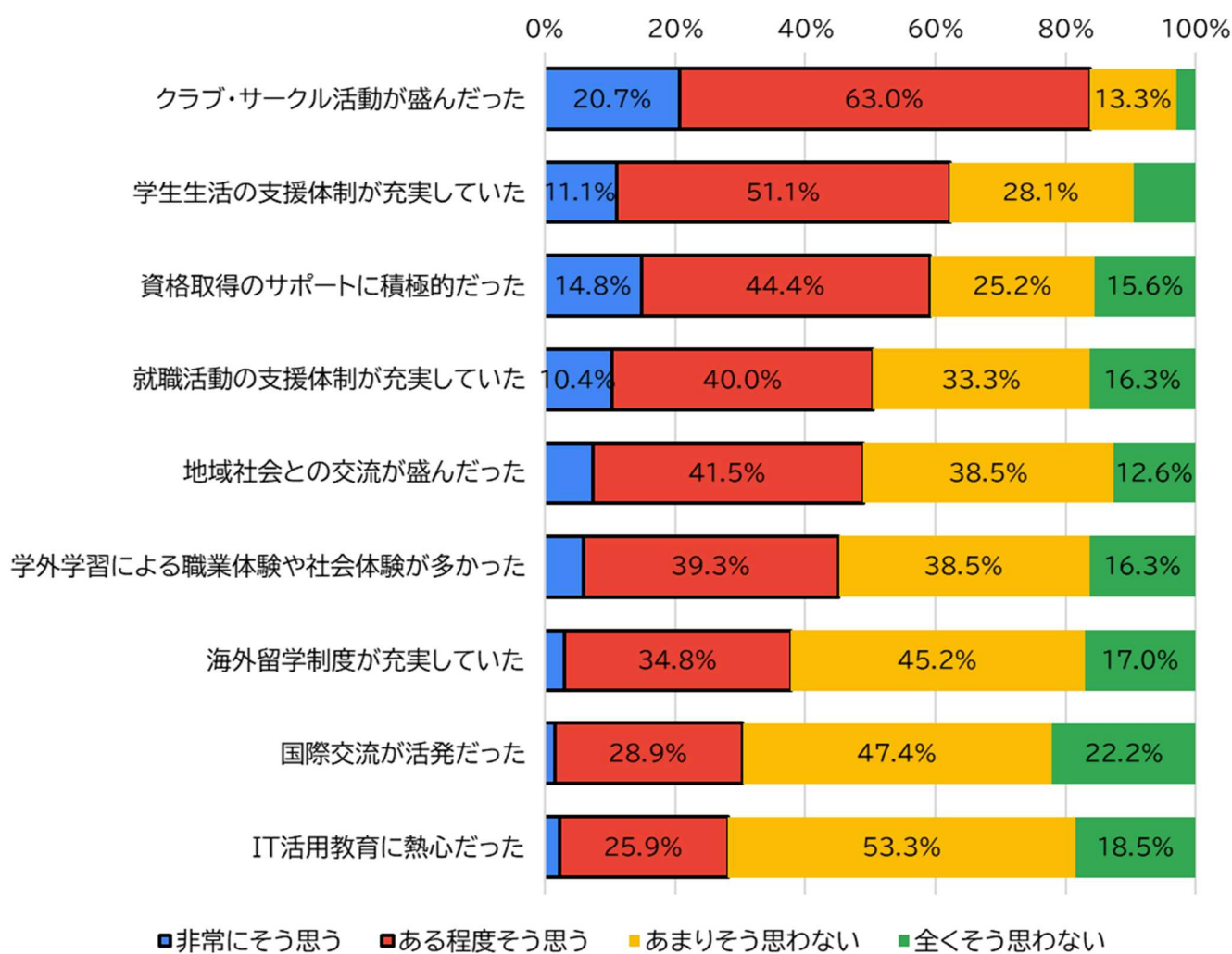


医学部

交流活動・支援体制の充実度

- ・「クラブ・サークル活動」は 83.7%が肯定的回答だった。
- ・「学生生活の支援体制」「資格取得のサポート」「就職活動の支援体制」は 6割前後の肯定的回答だった。
- ・「国際交流が活発」「IT 活用教育に熱心」は 7割前後が否定的回答であった。コロナ禍における影響も考えられるが、改善検討が必要である。

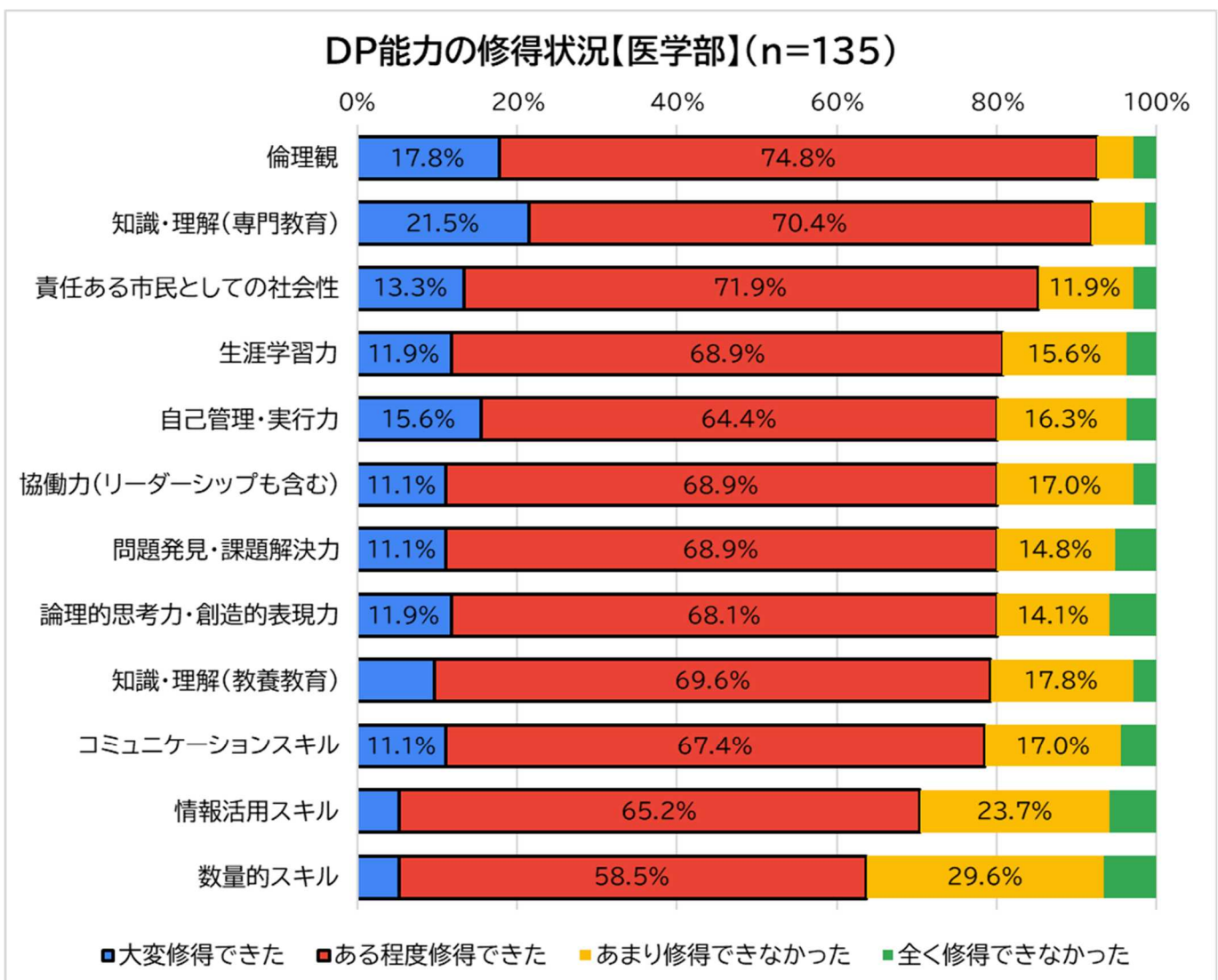
医学部の交流活動・サポート体制(n=135)



医学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

- ・「知識・理解」に関しては専門教育が約 9 割，教養教育が約 8 割の肯定的回答だった。
- ・「責任ある市民としての社会性」の項目は 8 割以上の肯定的回答であった。
- ・「生涯学習力」「自己管理・実行力」「協働力」「問題発見・課題解決力」「論理的思考・創造的表現力」「コミュニケーションスキル」は約 8 割の肯定的回答だった。
- ・「情報活用スキル」「数量的スキル」は 6-7 割の肯定的回答であり，他項目よりも低い結果であった。

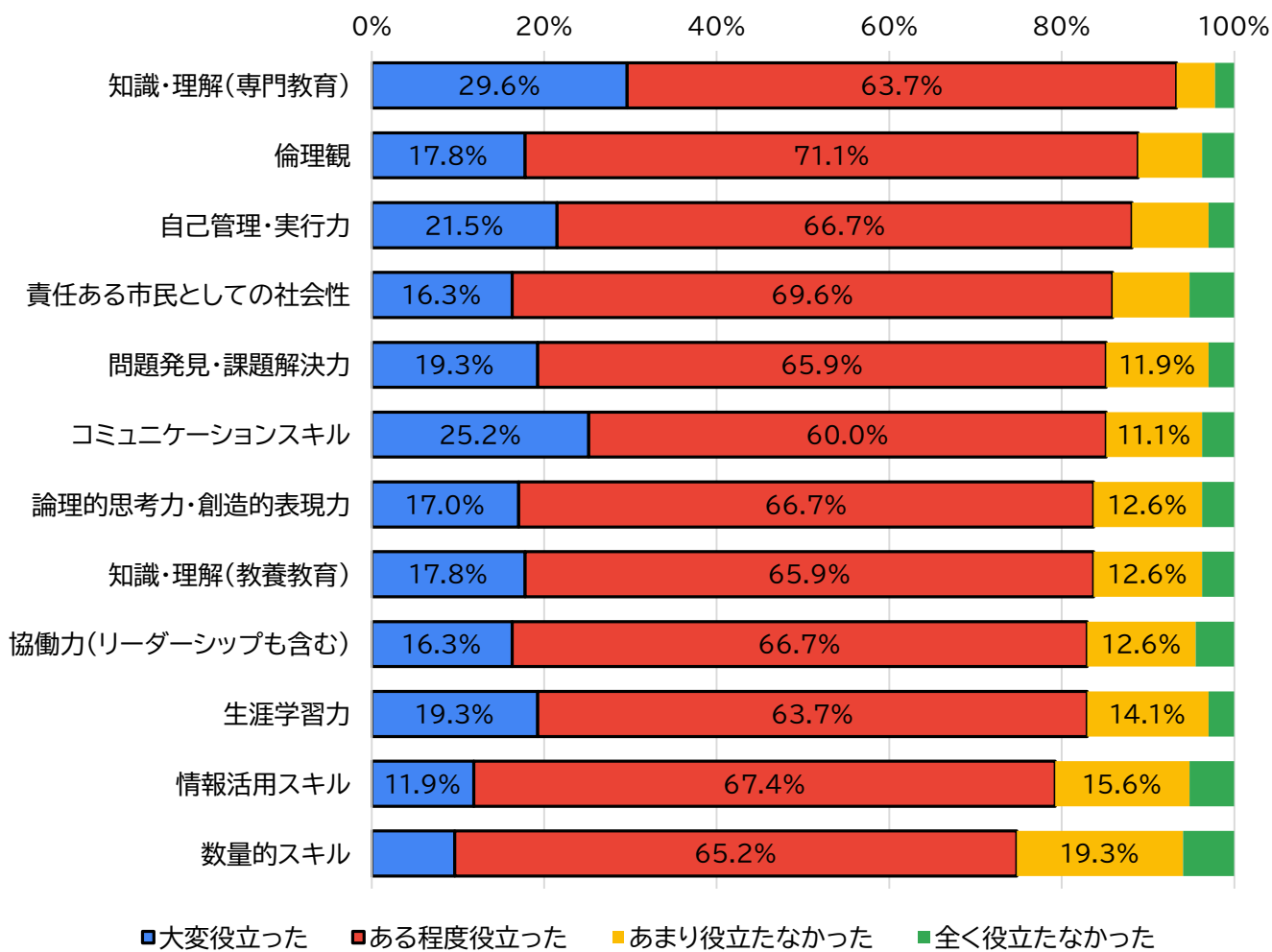


医学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

- ・12 項目中 10 項目で 8 割以上が肯定的な回答だった。
- ・「知識・理解（専門教育）」が最も高く、93.3%の肯定的回答だった。
- ・「情報活用スキル」は約 8 割の肯定的回答、
- ・「数量的スキル」は約 75%が肯定的な回答をしたものの、他の項目と比較して低い傾向であった。

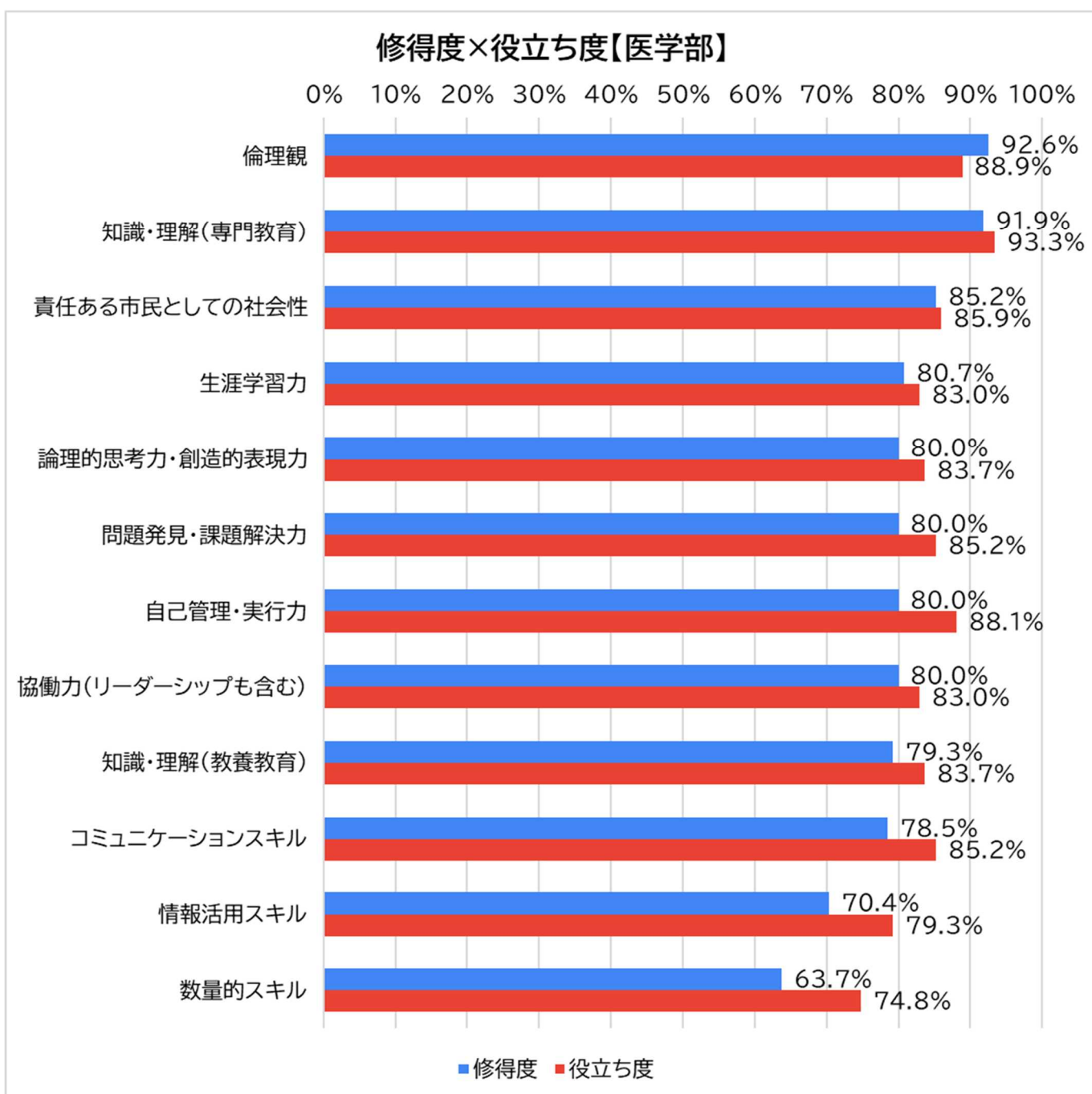
DP能力の役立ち状況【医学部】(n=135)



医学部

修得度×役立ち度

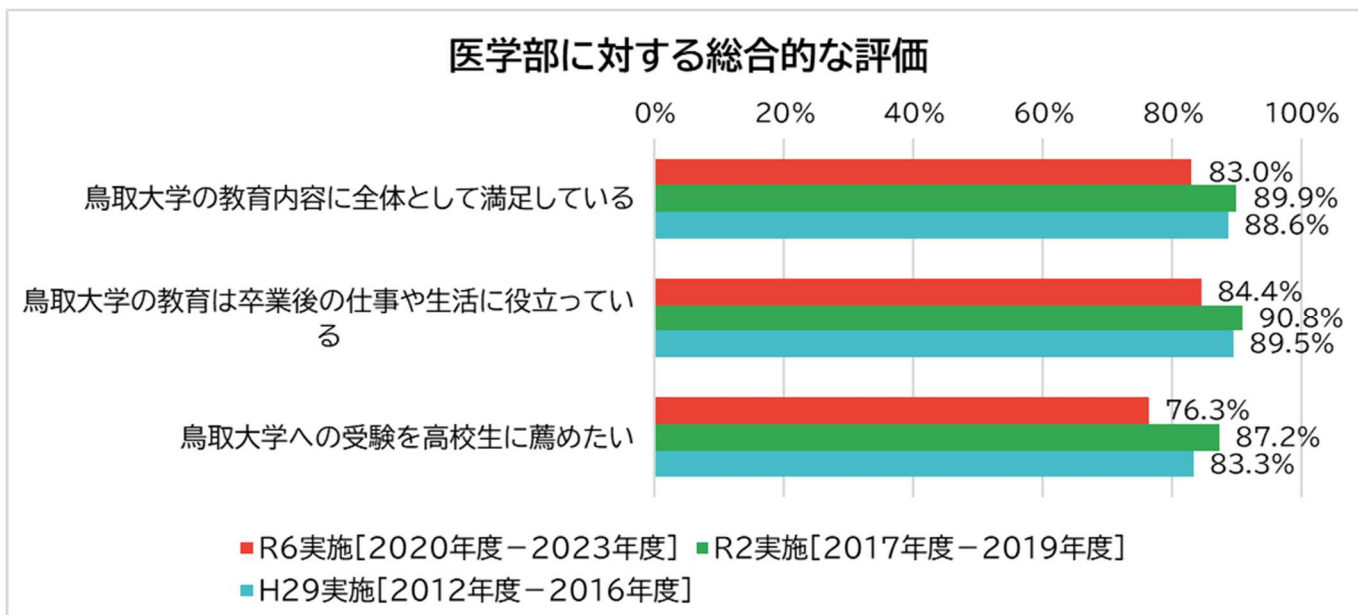
- ・全体的に修得度よりも役立ち度の方が高い値を示した。
- ・「情報活用スキル」「数量的スキル」では，修得度に対し役立ち度が10%程度高い値となっている。しかしながら修得度は60-70%台であり，改善が必要と考えられる。
- ・以上の結果から，大学で修得した能力が，社会での活動を通じて十分に発揮され，活用されていることがうかがえる。



医学部 H29・R2・R6 比較 (1/3)

<総合的な満足度>

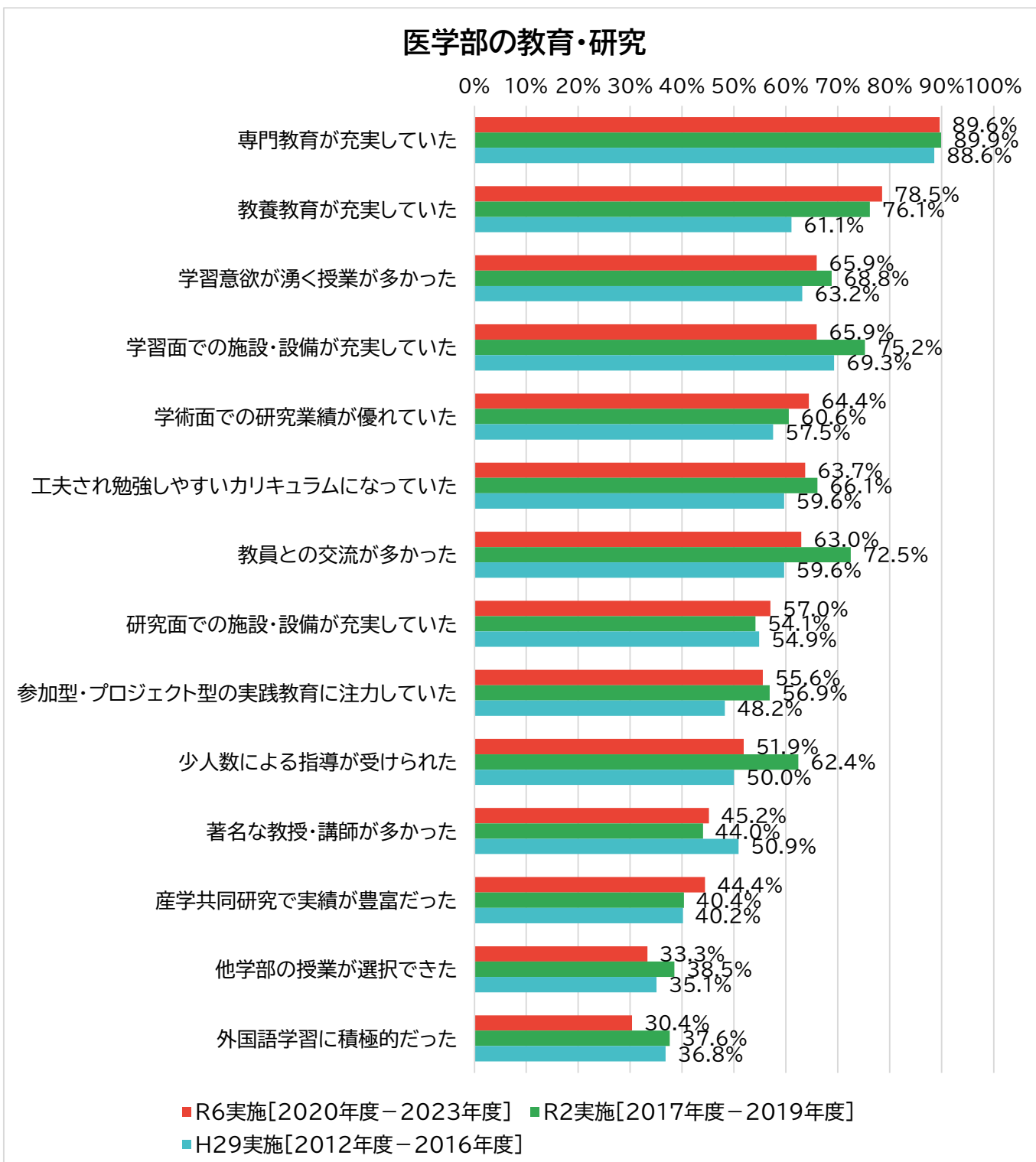
・令和6年度調査と過去の「総合的な満足度」を比較すると、3項目ともに令和6年度調査結果が低い数値であった。これは、コロナ禍における期間が関連している可能性を考慮する必要がある。



医学部 H29・R2・R6 比較(2/3)

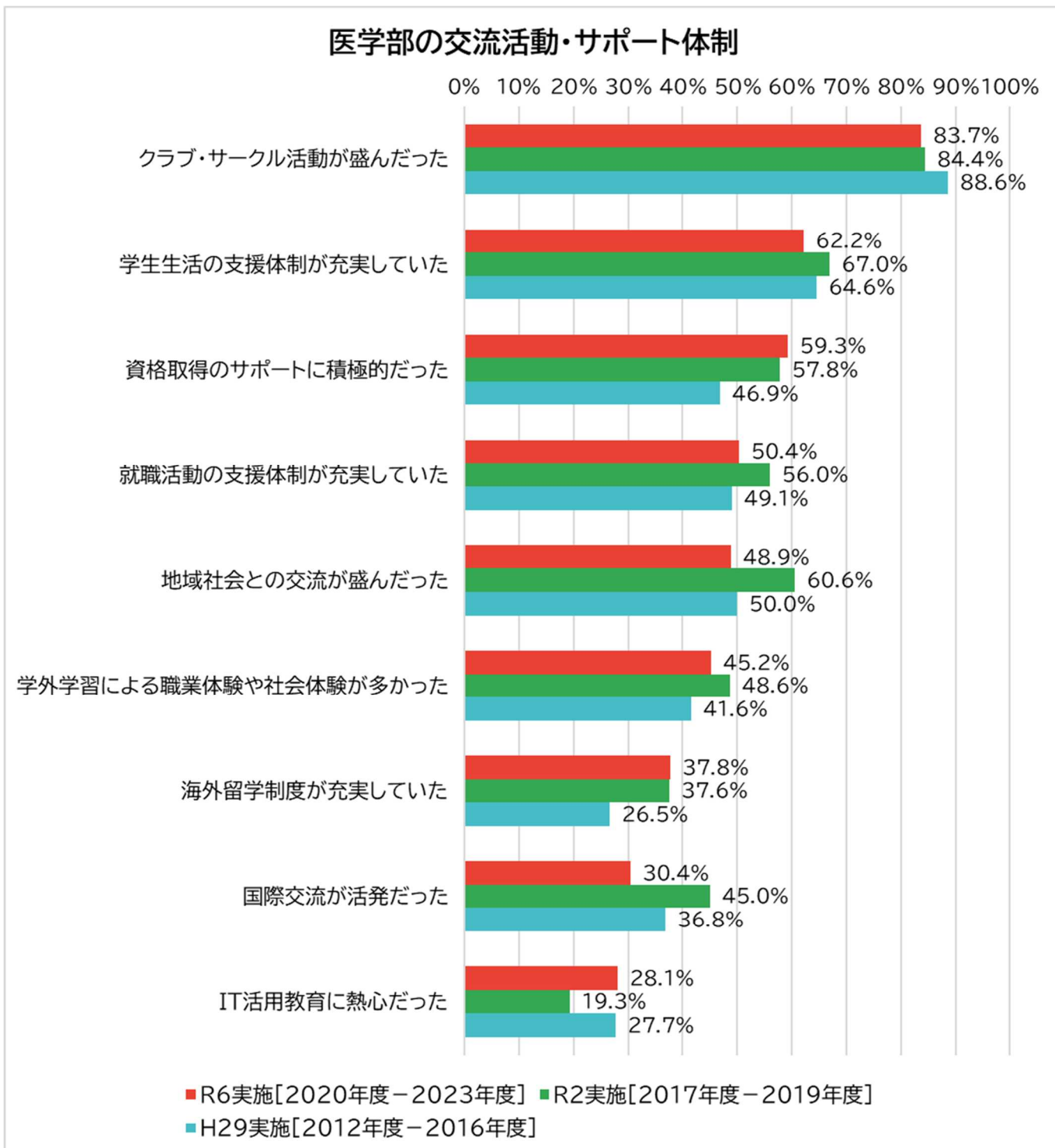
＜教育・研究の充実度＞

・令和2年度調査と令和6年度調査を比較し、「専門教育が充実」「教養教育が充実」については大きな変化はなかった。「教員との交流」「少人数による指導」はポイントを下げているが、これはコロナ禍の期間が影響していると考えられる。「他学部の授業選択」「外国語学習」についてもポイントを下げているが、コロナ禍の影響も考えられるが、改善検討が必要である。



医学部 H29・R2・R6 比較(3/3) <交流活動・支援体制の充実度>

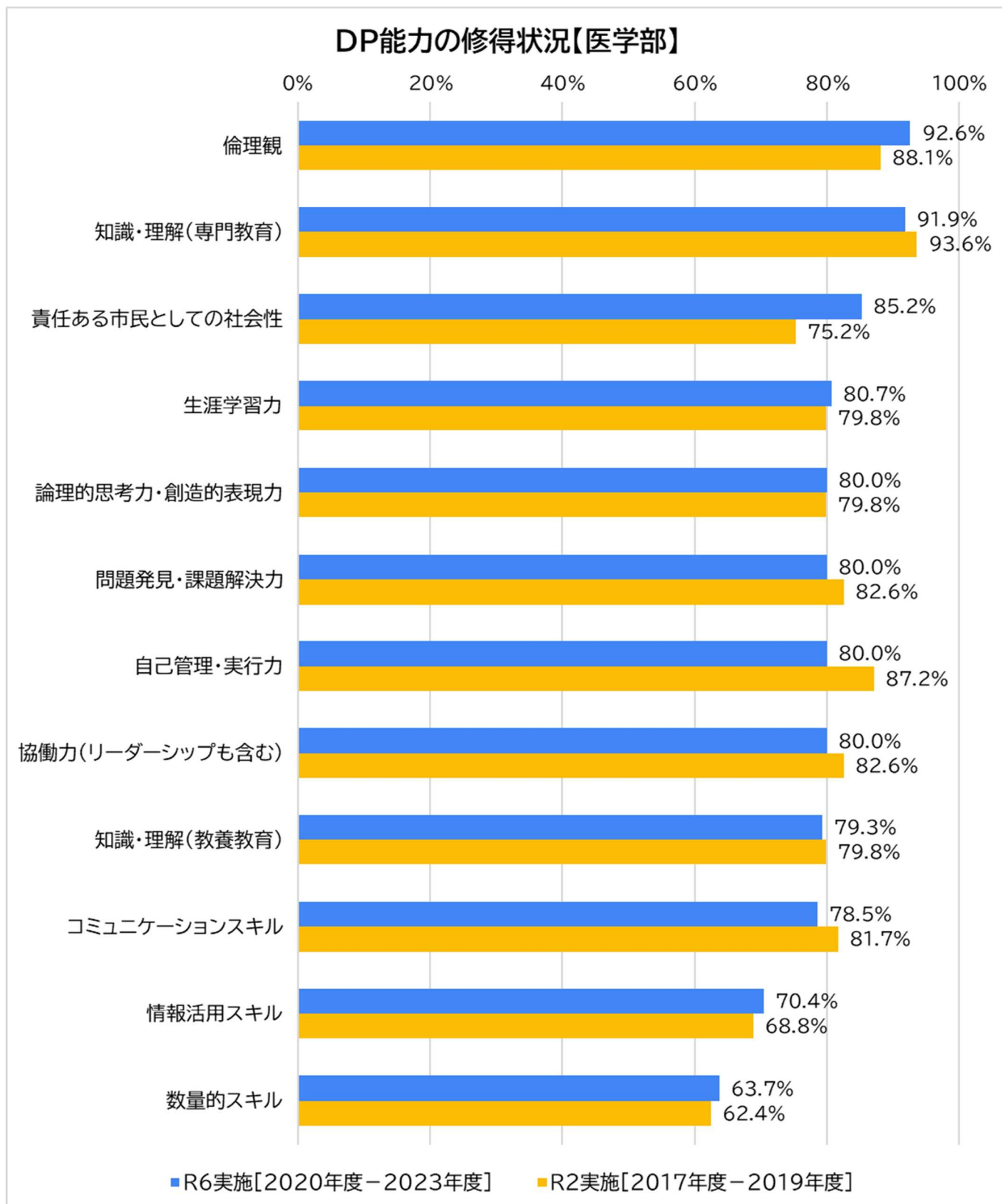
- ・「クラブ・サークル活動」については80%を超える肯定的回答を維持した。
- ・「地域社会との交流」「国際交流」の活発についてはポイントを下げているが、これらはコロナ禍の影響が考えられる。
- ・「IT活用教育に熱心」については低いポイントで推移しており改善検討が必要である。



医学部 R2・R6 比較

＜大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力＞

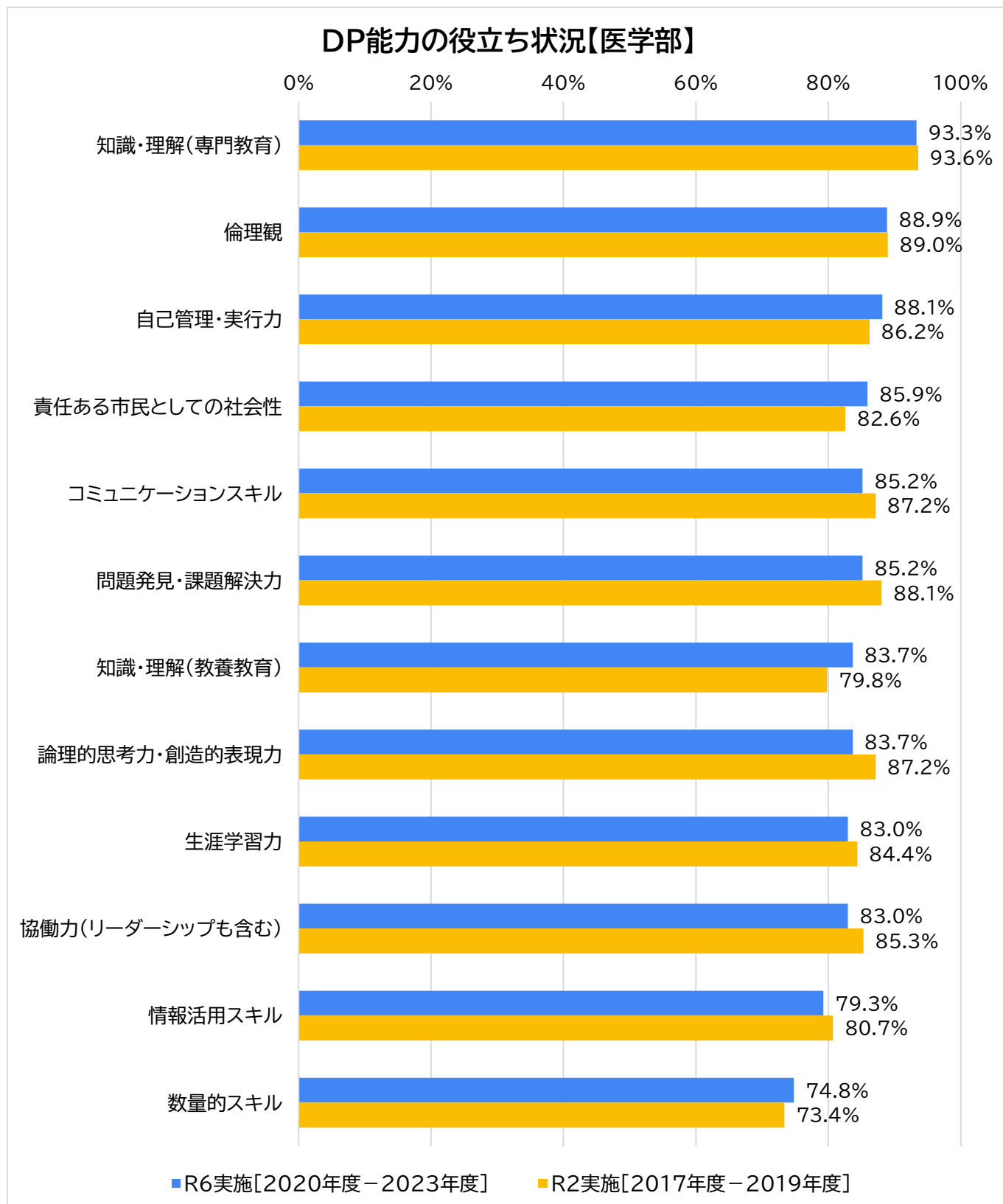
令和 6 年度調査では「責任ある市民としての社会性」が 10%ポイントを伸ばした。「自己管理・実行力」は 87%から 80%へ低下したものの、その他の項目に大きな変化は見られなかった。



医学部 R2・R6 比較

＜社会に出て教育成果として役立った DP 能力＞

どの項目も 80-90%台の肯定的回答であった。数量的スキルは 70%台で推移している。



工学部

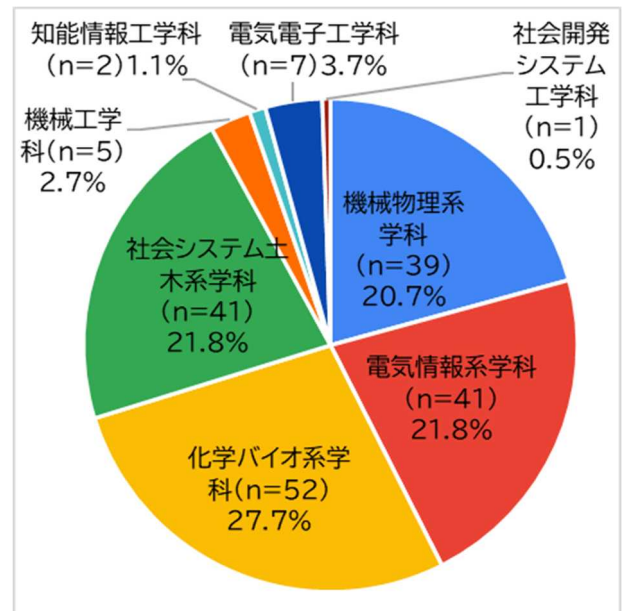
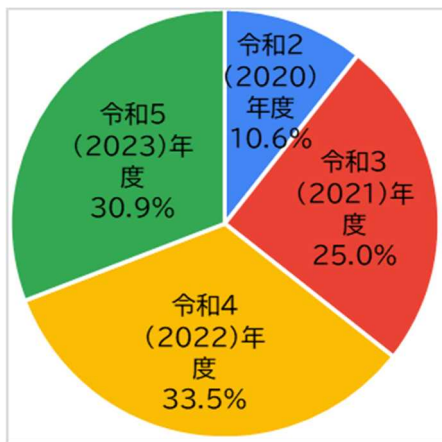
工学部 回答者の属性

【学部・学科】

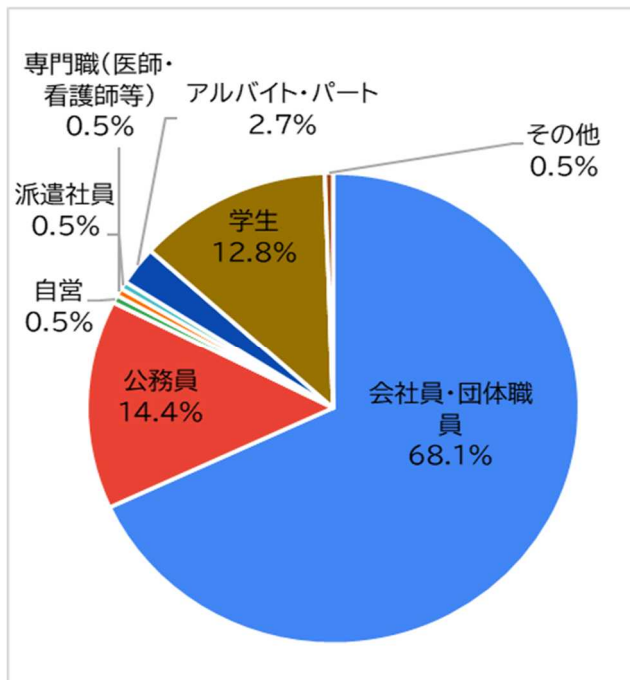
| 機械物理系学科 | 電気情報系学科 | 化学バイオ系学科 | 社会システム土木系学科 | 機械工学科 | 知能情報工学科 | 電気電子工学科 | 社会開発システム工学科 | 計 |
|---------|---------|----------|-------------|-------|---------|---------|-------------|--------|
| 39 | 41 | 52 | 41 | 5 | 2 | 7 | 1 | 188 |
| 20.7% | 21.8% | 27.7% | 21.8% | 2.7% | 1.1% | 3.7% | 0.5% | 100.0% |

【学部・卒年】

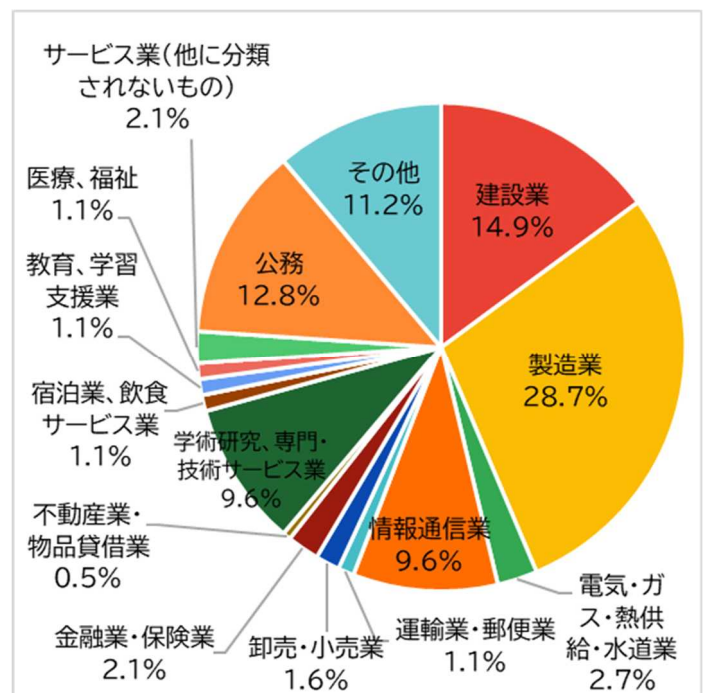
| 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 20 | 47 | 63 | 58 | 188 |
| 10.6% | 25.0% | 33.5% | 30.9% | 100.0% |



【学部・職業】



【学部・業種】

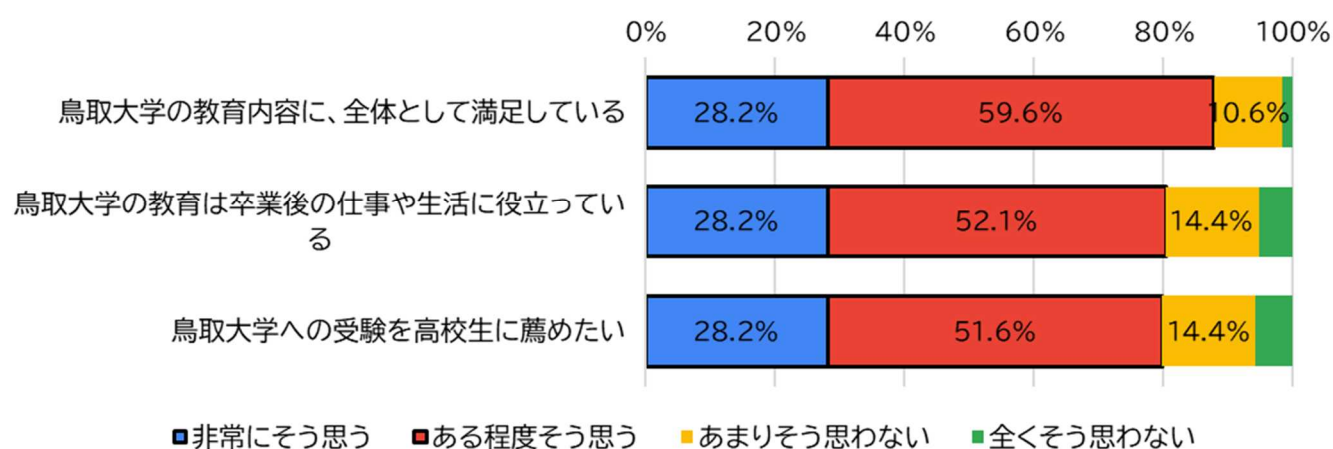


工学部

総合的な満足度

「大学における教育内容」への満足度は、ある程度そう思う 59.6%、非常にそう思う 28.2%、「卒業後の仕事への役立ち度」への満足度はある程度そう思う 52.1%、非常にそう思う 28.2%であり、それぞれ 70%以上の肯定的回答を得ており、総合的な満足度は高水準にある。また、その傾向は「受験生へ本学を推薦したい（できる）」という評価にも表れており、こちらもある程度そう思う 51.6%、非常にそう思う 28.2%の肯定的回答を得ている。

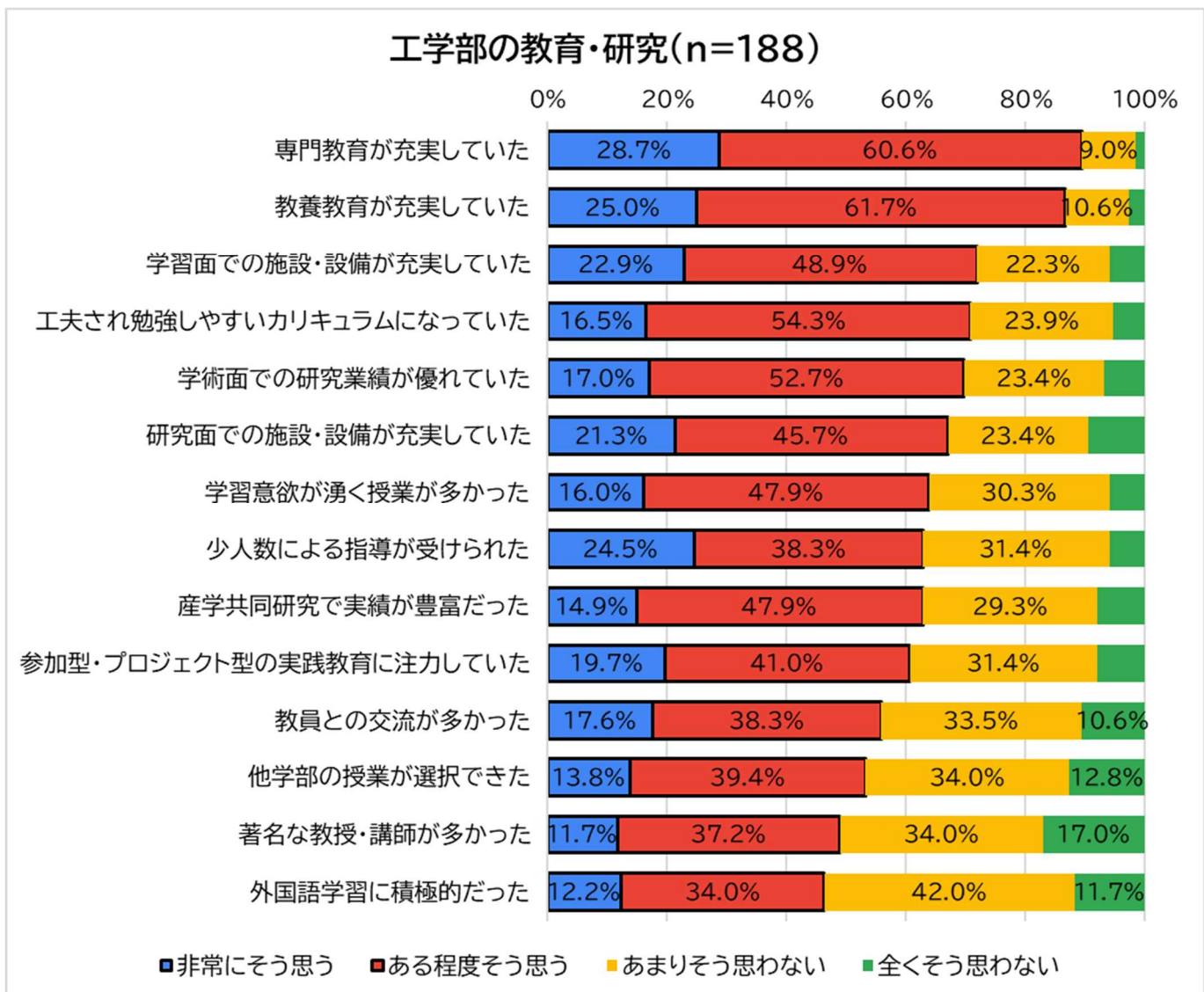
工学部に対する総合的な評価(n=188)



工学部

教育・研究の充実度

大学教育の要である「専門教育が充実していた」はある程度そう思う60.6%、非常にそう思う28.7%の評価を得ている。また、教養教育の充実度もある程度そう思う61.7%、非常にそう思う25.0%と肯定的回答が大半を占めている。またそれは「学習面での施設・設備」の評価に繋がり、こちらも、ある程度そう思う48.9%、非常にそう思う22.9%と70%以上の肯定的回答を得ている。一方で「外国語学習」や「他学部での学び」は45%以上の否定的回答を得ており、改善の余地が残されている。

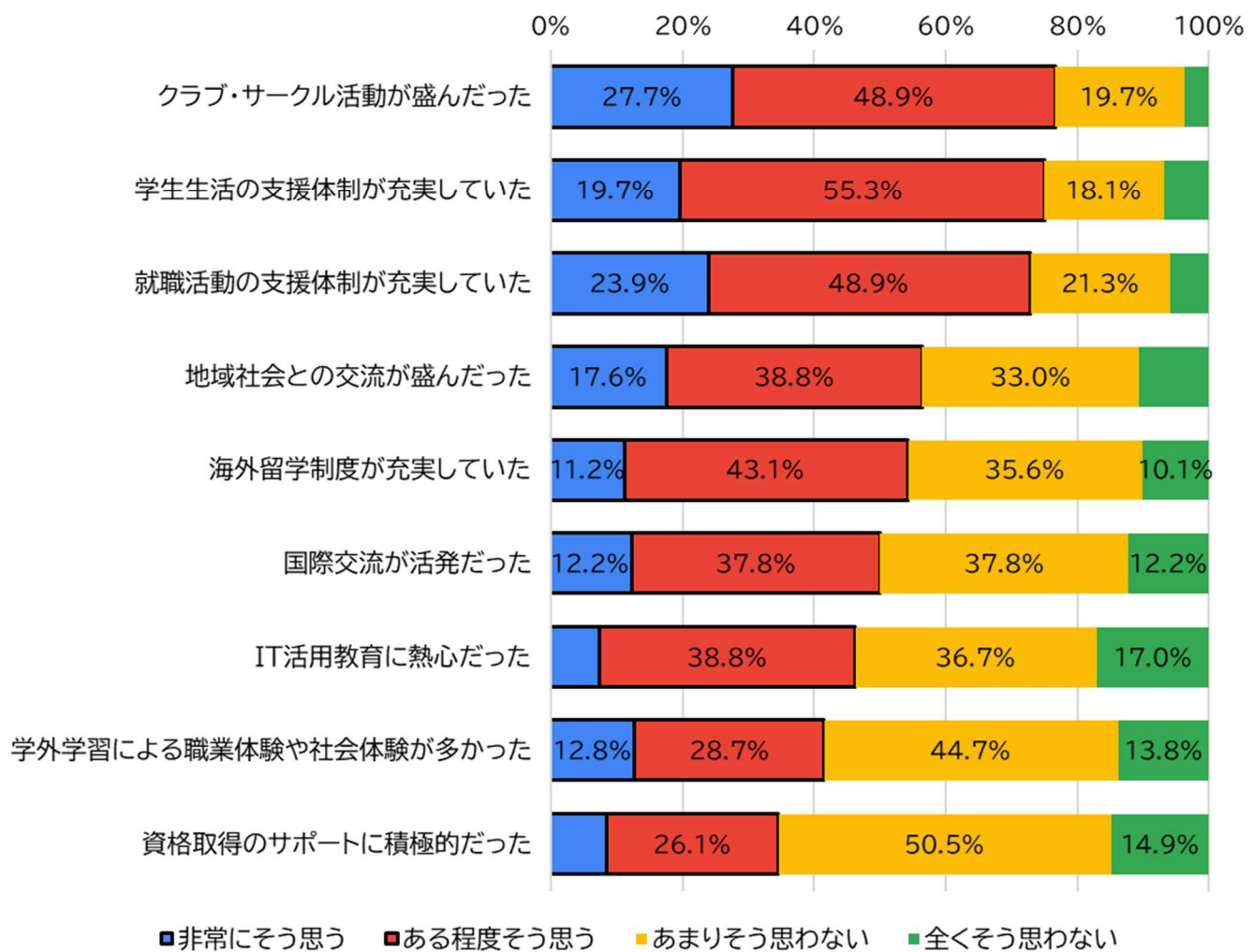


工学部

交流活動・支援体制の充実度

「クラブ・サークル活動」や「生活支援」、「就職支援」などに関しては概ね 75% の肯定的回答を得ている。一方で、例えば、「国際交流」や「留学制度」など、学外・国際的な学びに関する肯定的回答は概ね 50% に留まり、また、「学外学習」に関してはある程度そう思う、非常にそう思う、を加算しても肯定的回答は 40% 程度であり、大きな課題となっている。

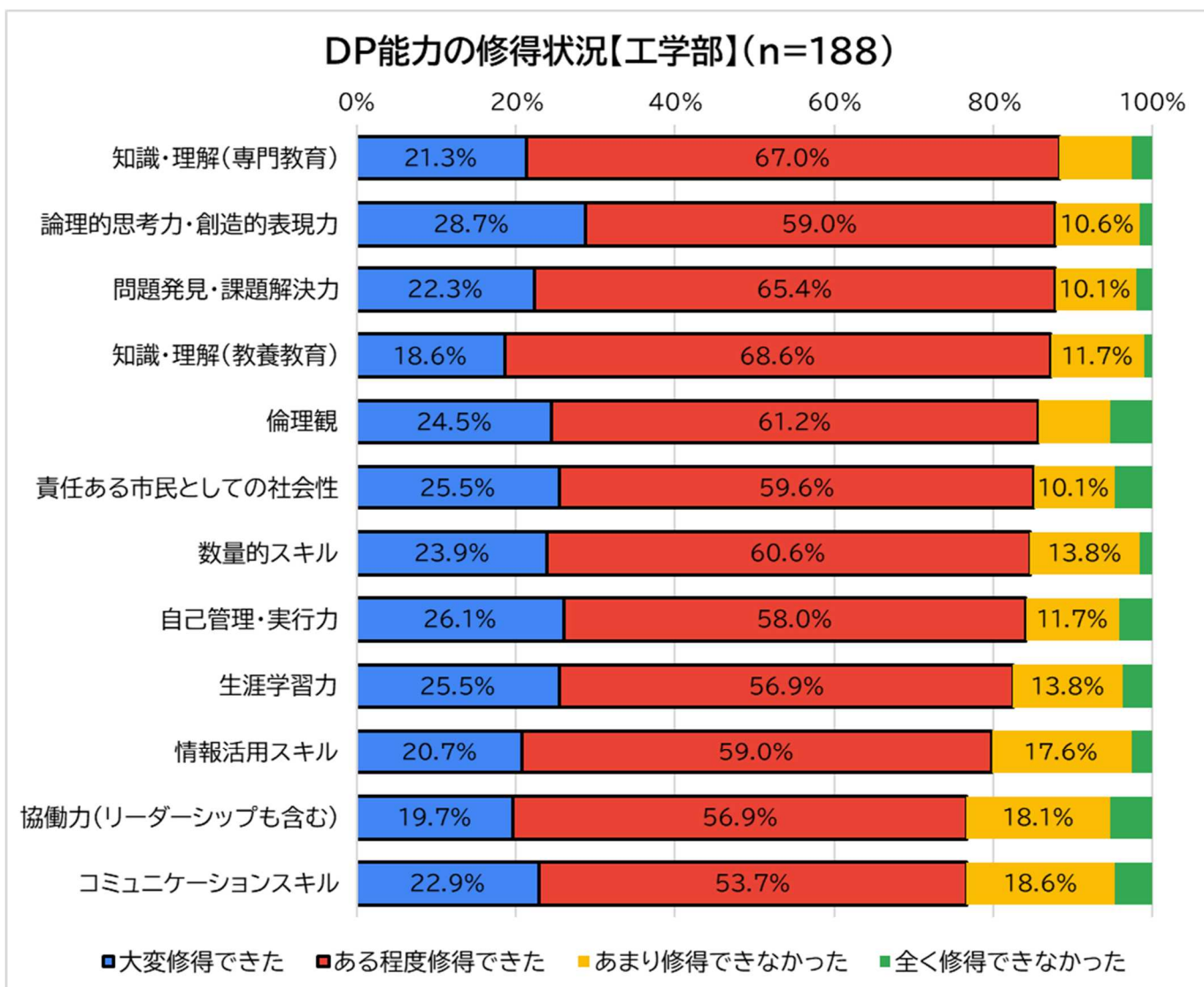
工学部の交流活動・サポート体制(n=188)



工学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

「専門教育に関する知識や理解」、社会一般における「倫理観」の修得に関して85%以上の肯定的回答を得ており、評価されるべき点といえよう。また、全体を通してある程度そう思う、非常にそう思う、を合算した肯定的回答が75%程度に達しており、これまでの対応が評価されつつあると言えよう。

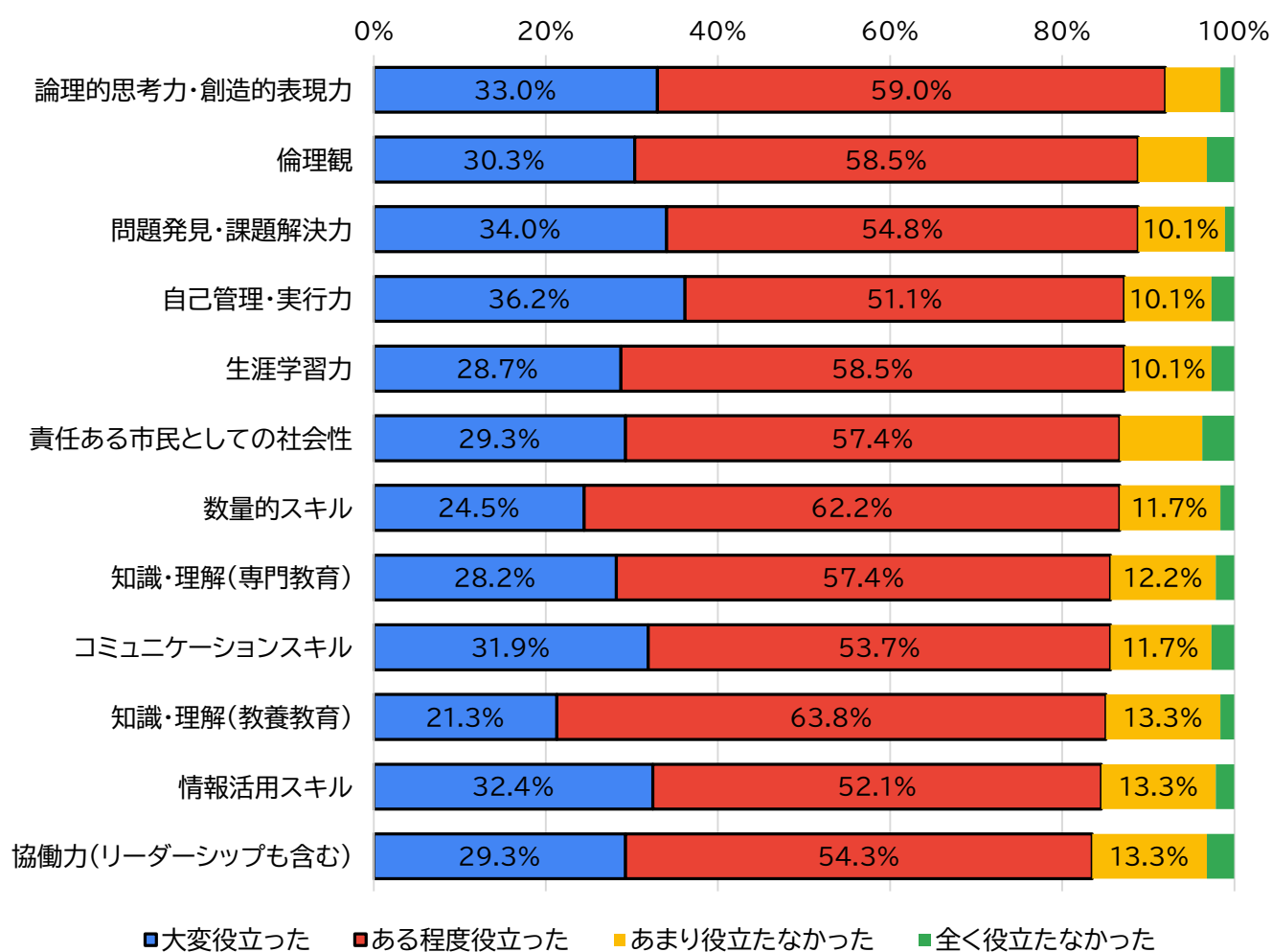


工学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

本質問で問われた DP 能力に関しては全般的に高評価が下されている。例えば「論理的思考力・創造的表現力」は肯定的回答が 90%を超えている。また、「倫理観」や「問題発見」、「自己管理・実行力」なども肯定的回答（ある程度と思う、非常に思う）が 85%を超えており、評価でき、もっとも低い評価の「協働能力」においても肯定的回答が 80%を超えており、これまでの対応が一定の成果をみたと見えよう。

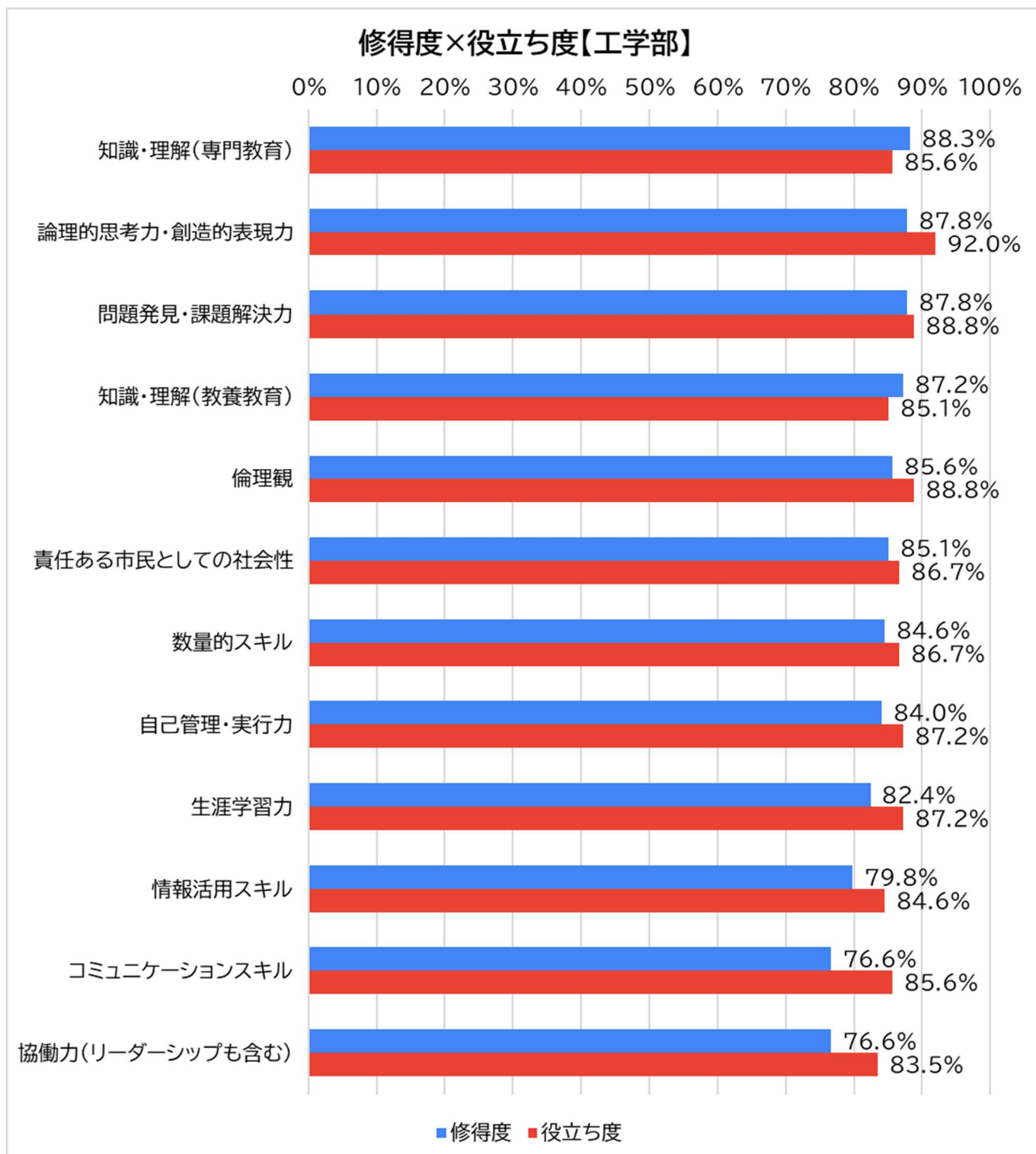
DP能力の役立ち状況【工学部】(n=188)



工学部

修得度×役立ち度

「論理的思考力・創造的表現力」や「問題発見・課題解決力」などは修得度、役立ち度ともに80後半～90%前半の肯定的回答を得ており評価できる。一方で、「コミュニケーションスキル」修得度76.6%や「協働力」修得度76.6%などに関しては、決して低い水準とはいえないが、今後もさらに高い評価を目指し対応する必要があると言えよう。

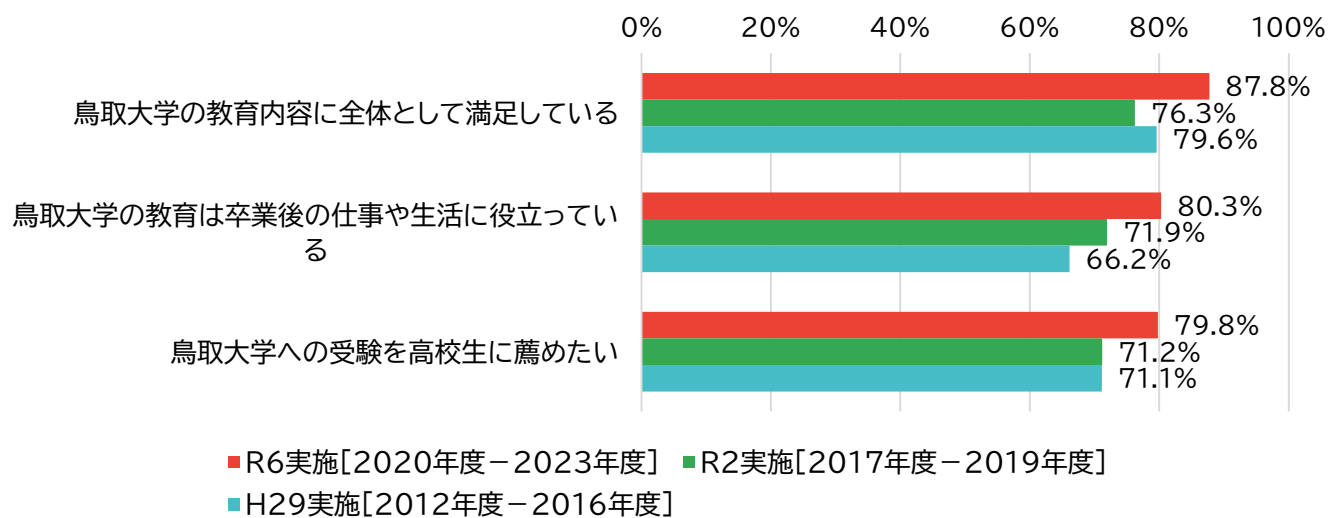


工学部 H29・R2・R6 比較(1/3)

<総合的な満足度>

教育への満足度は前回減退したが今回の調査では回復を見せ、大きく数字を伸ばしたと言える（H29年度 79.6%⇨R2年度 76.3%⇨R6年度 87.8%）。卒業後の役立ち度も前回より8%上昇しており、大学の学びが「実学」として評価を高めたと言える。また、本学を推薦する傾向も上記二つに連動して上昇傾向にあり、評価できる。

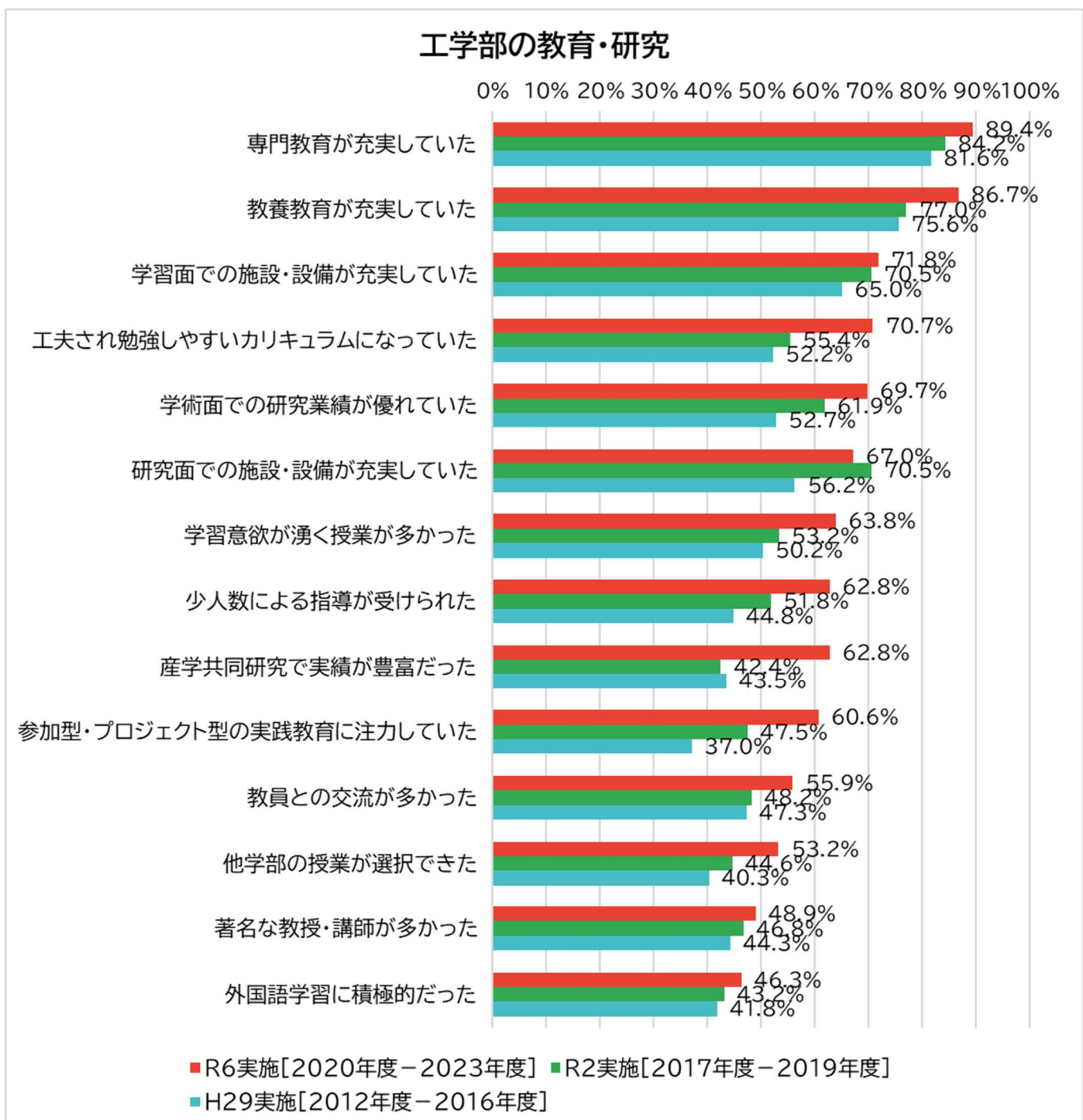
工学部に対する総合的な評価



工学部 H29・R2・R6 比較(2/3)

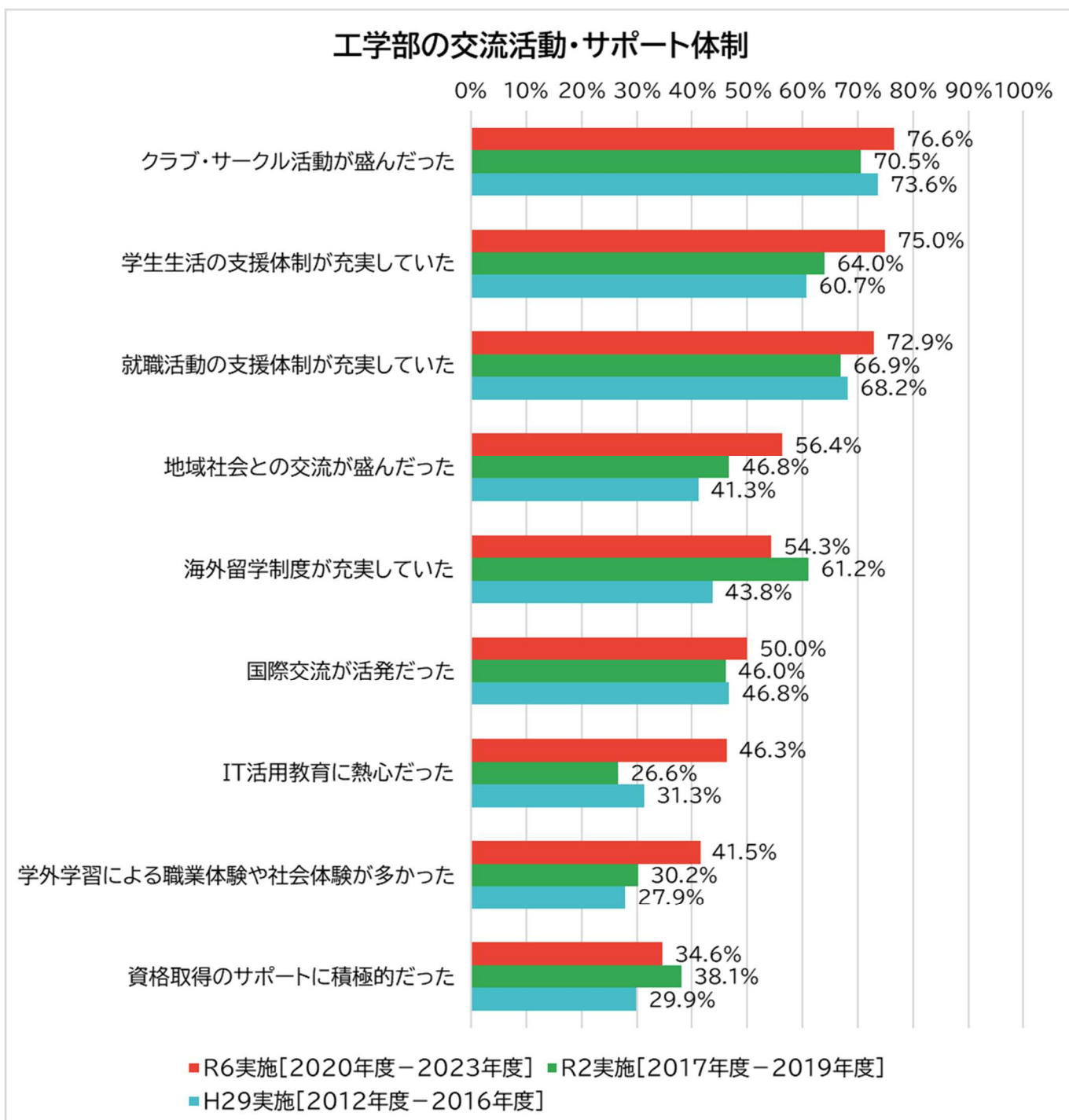
＜教育・研究の充実度＞

三か年の結果を比較すると、例えば、「教養教育の充実」(H29年度 75.6% R6年度 86.7%) や「カリキュラムの工夫」(H29年度 52.2% ⇒ R6年度 70.7%)、「産学共同研究」(H29年度 43.5% ⇒ R6年度 62.8%) と R6 に大きく評価を伸ばした項目が確認できる。一方で、「外国語学習への積極的参加」や「著名な教授の数」に関しては、上昇傾向がみられるも微増に留まり、50%未満を推移しており、更なる対応が待たれる。



工学部 H29・R2・R6 比較(3/3) <交流活動・支援体制の充実度>

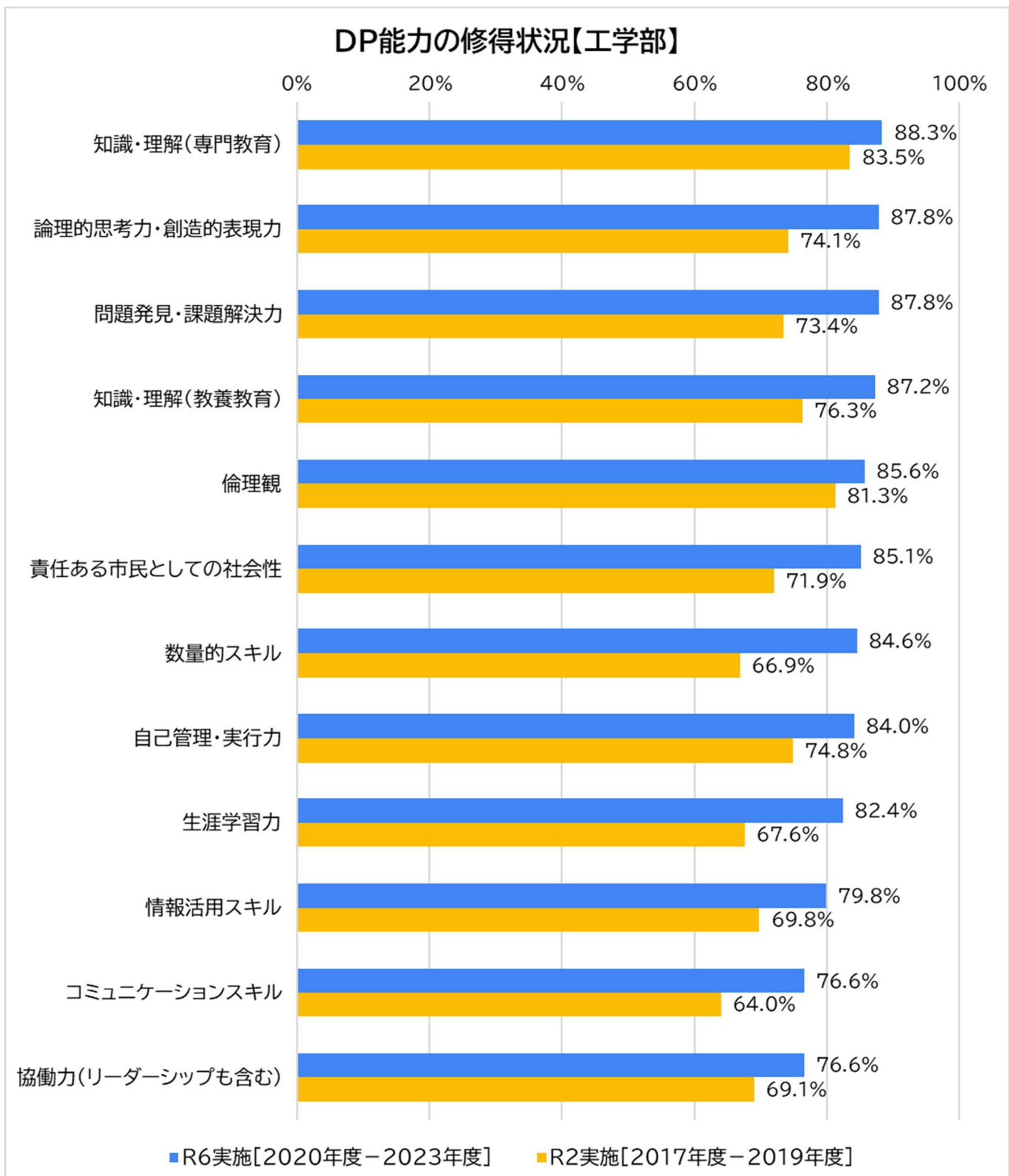
「クラブ・サークル活動の盛り上がり」や「就職活動支援」は一度数字を落とすも盛り返し傾向にあり、その点はこれまでの対応の成果と言えよう。た、改善傾向として「地域との交流」への評価は前々回に比べ 15 ポイント以上の上昇がみられ(H29 年度 41.3%⇨R6 年度 56.4%)、特筆に値する。一方で「海外留学制度」(H29 年度 43.8%⇨R2 年度 61.2%⇨R6 年度 54.3%) と評価が下降傾向にあり、原因の確認及び、改善の余地があると言えよう。



工学部 R2・R6 比較

＜大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力＞

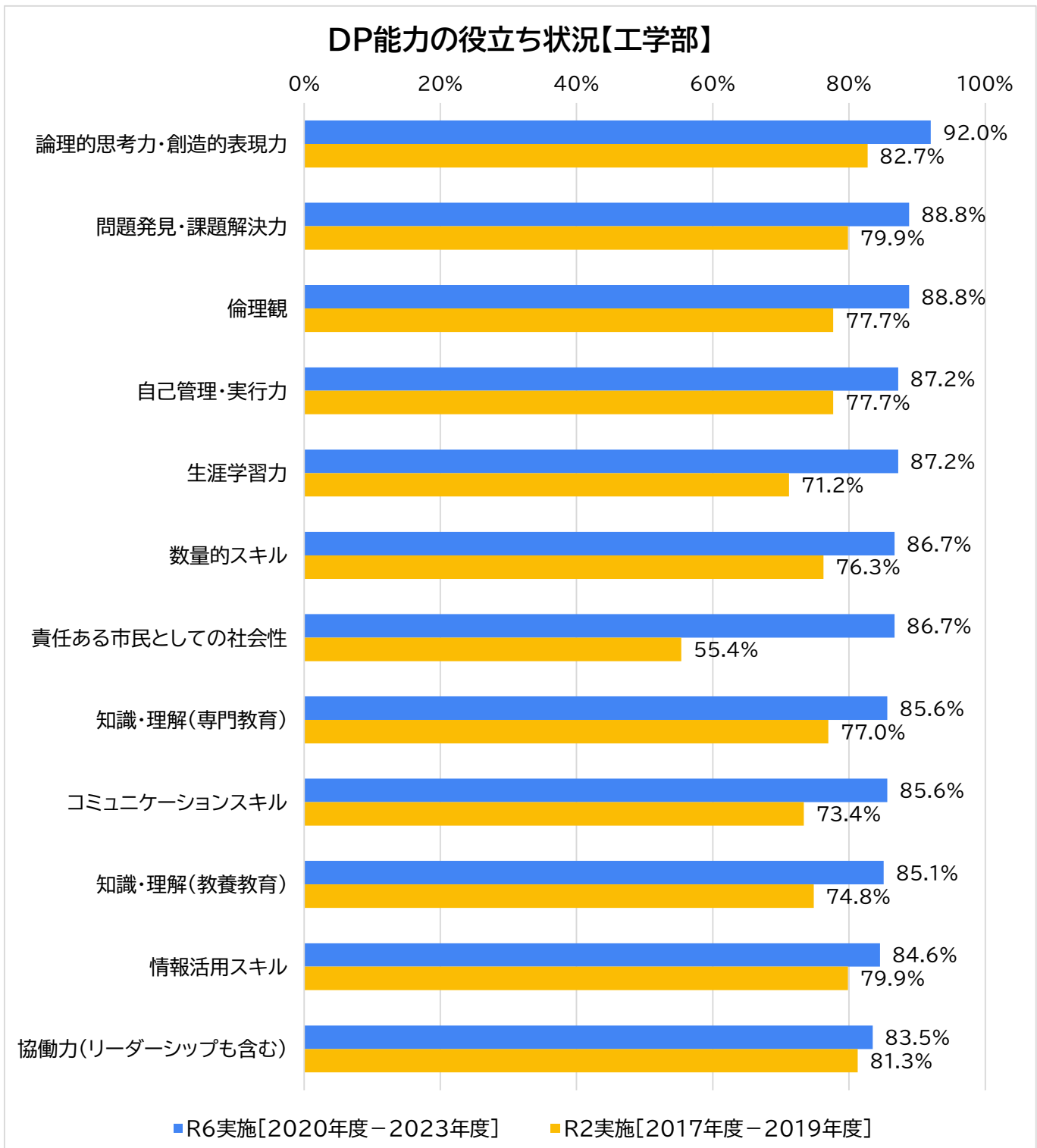
「論理的思考力」や「知識・理解」、「問題発見・課題解決力」、「数量的スキル」、「コミュニケーションスキル」などについては大きな伸びが確認され、評価できる。その他の項目も全てにおいて評価が上昇しており、その点、これまでの対応の成果と言えよう。



工学部 R2・R6 比較

<社会に出て教育成果として役立った DP 能力>

「倫理観」や「生涯学習力」、「自己管理・実行力」などに関しては大きな伸びが確認され、評価できる。特に「責任ある市民としての社会性」は R2 年度 55.4%⇒R6 年度 86.7%と大きな伸びが見られ特筆されよう。また、その他の項目も全てにおいて評価が上昇しており、その点、これまでの対応の成果と言えよう。

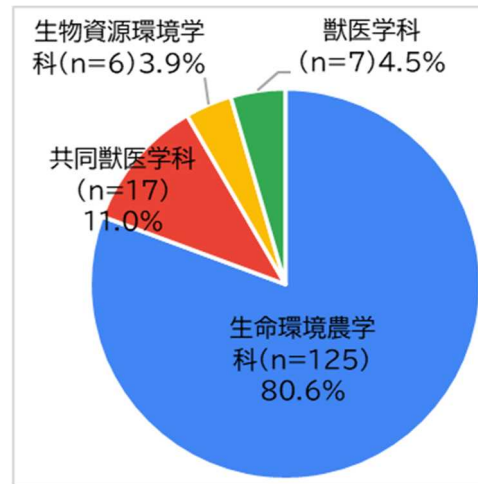


農学部

農学部 回答者の属性

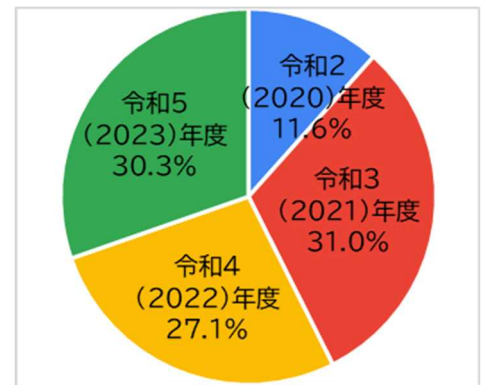
【学部・学科】

| 生命環境農学科 | 共同獣医学科 | 生物資源環境学科 | 獣医学科 | 計 |
|---------|--------|----------|------|--------|
| 125 | 17 | 6 | 7 | 155 |
| 80.6% | 11.0% | 3.9% | 4.5% | 100.0% |

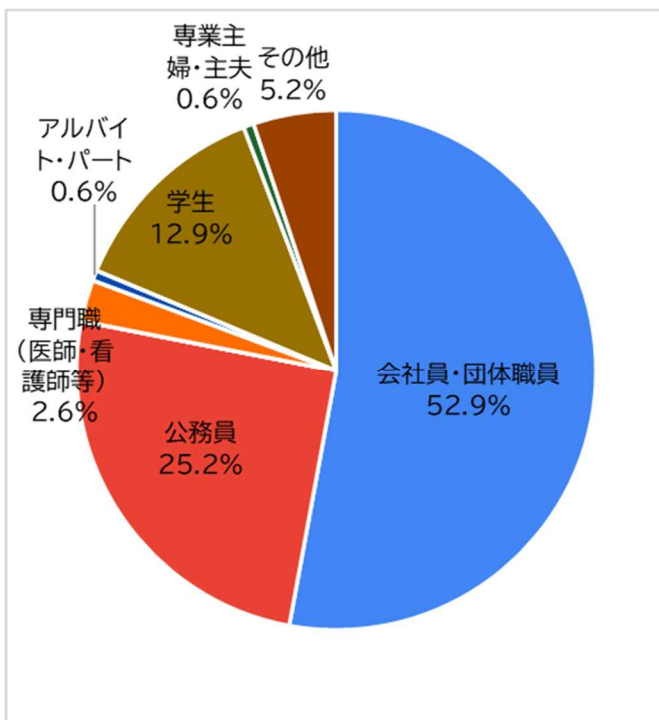


【学部・卒年】

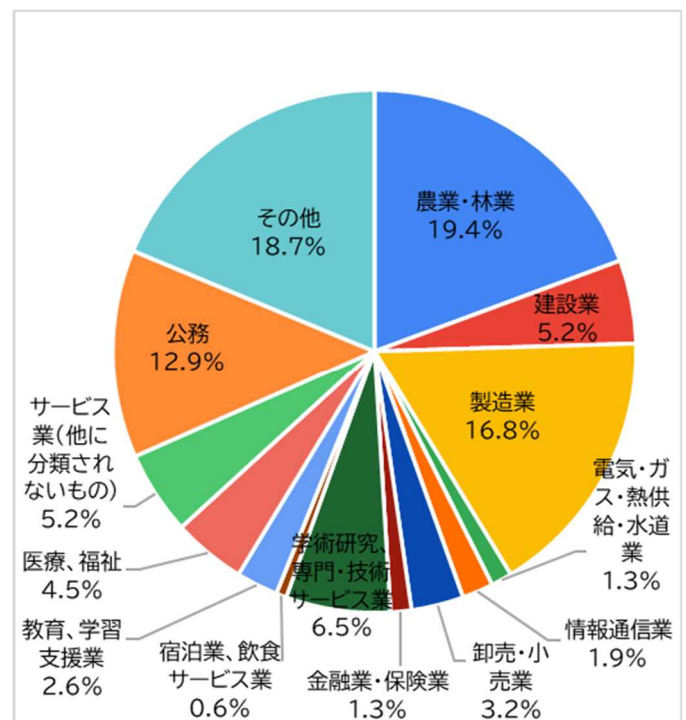
| 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 18 | 48 | 42 | 47 | 155 |
| 11.6% | 31.0% | 27.1% | 30.3% | 100.0% |



【学部・職業】



【学部・業種】

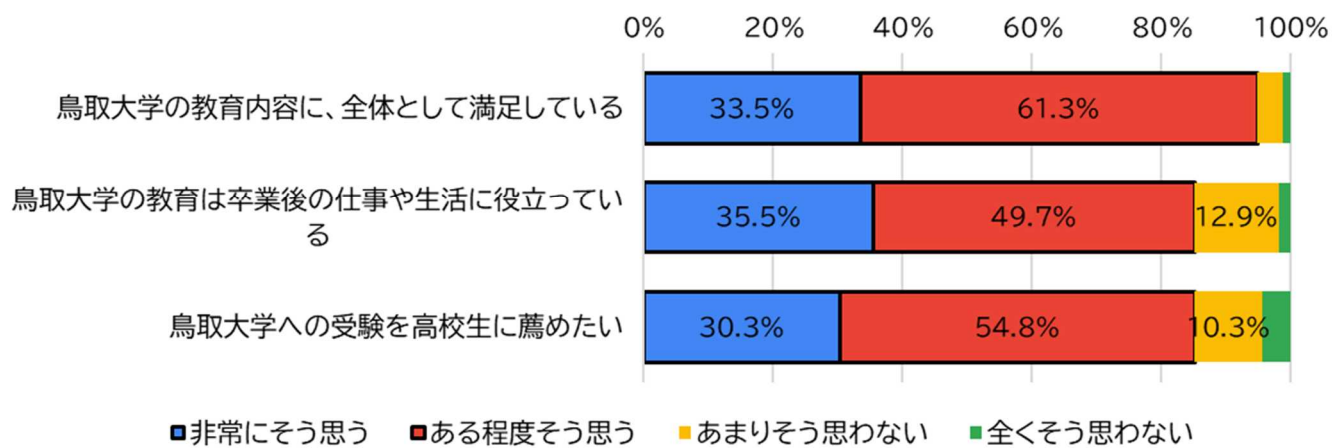


農学部

総合的な満足度

教育内容総合的な満足度は、ある程度そう思う61.3%、非常にそう思う33.5%を足して90%以上の肯定的回答を得ており、満足度は高水準にあると判断できる。また、その傾向は「受験生へ本学を推薦したい（できる）」、「卒業後の仕事への役立ち度」という評価にも表れており、こちらも80%以上の肯定的回答を得ており、全体的に満足度は高水準といえ、評価できる。

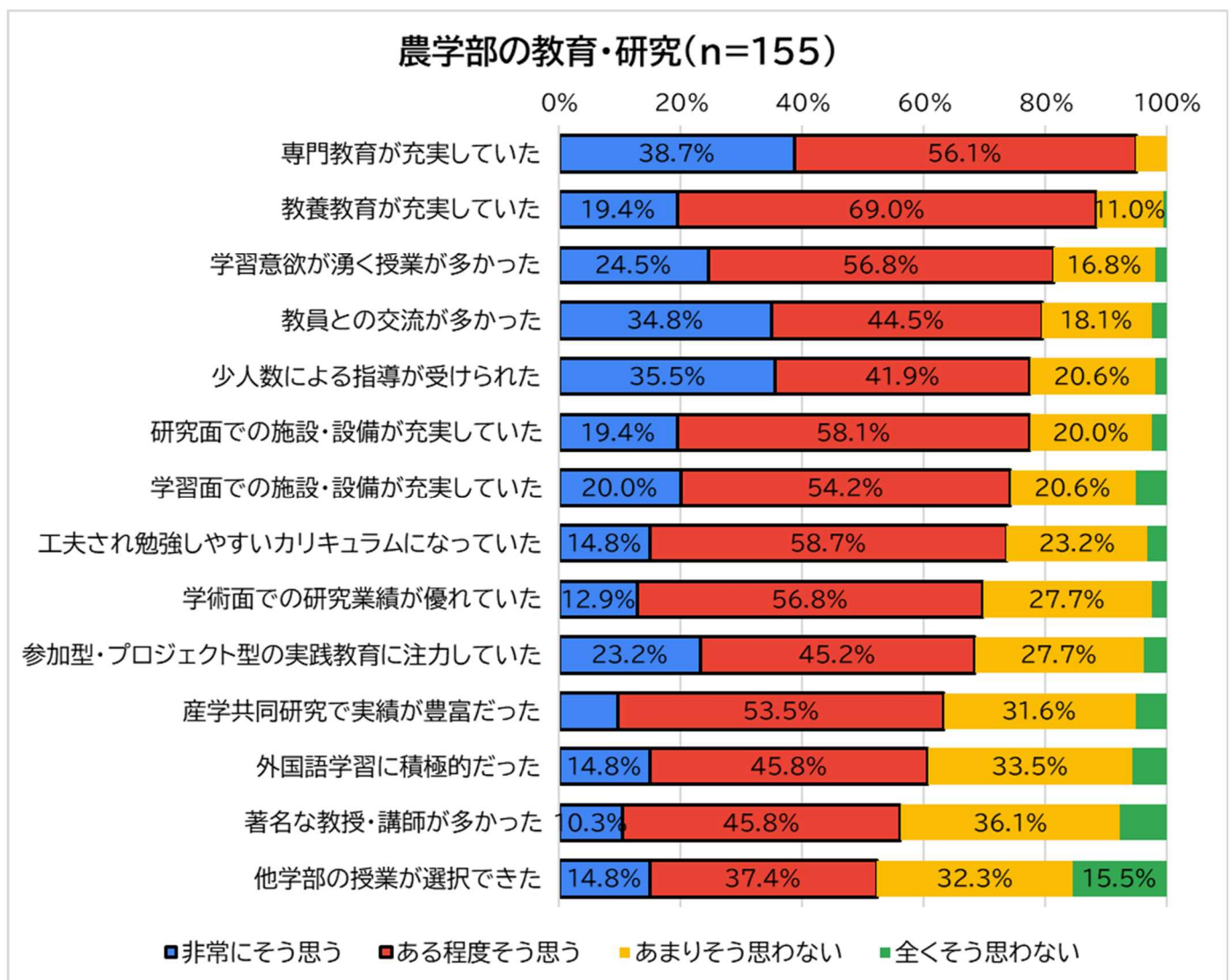
農学部に対する総合的な評価(n=155)



農学部

教育・研究の充実度

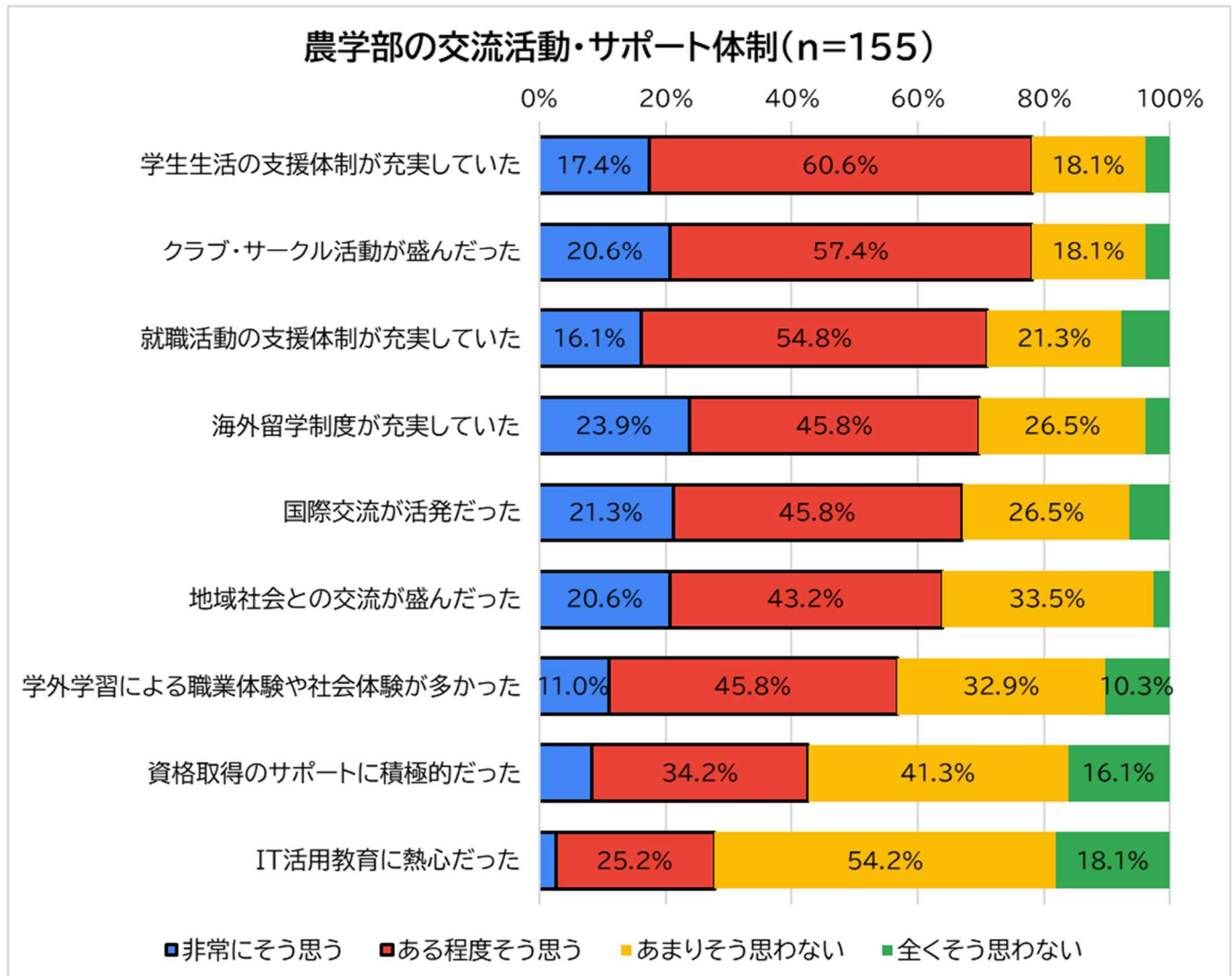
教養教育や専門教育に関しては高水準の評価を得ている。例えば、大学教育の要である「専門教育の充実度」に関しては、ある程度そう思う57.1%、非常にそう思う36.6%を合算し95%以上の肯定的回答を、また、教養教育も90%近くの肯定的回答を得ており、これらはいへん高い評価を得ているといえる。また「教員との交流」、「学習意欲」への評価は、それぞれ「非常にそう思う」で80%程度の評価を得ており、農学部の目指す教育スタイルが一定程度の結果を出しているといえよう。一方で、「他学部授業の選択」に関しては概ね50%程度の肯定回答にとどまり、更なる改善の余地が残されている。



農学部

交流活動・支援体制の充実度

「学生生活の支援体制」、「クラブ・サークル活動の盛んさ」などは概ね 80% の肯定的回答を得ており、学部取り組みの成果として評価できる。一方で、「学外での社会体験」や「資格取得へのサポート」「地域との交流」は概ね 50-60% の肯定的回答にとどまっており、改善の余地がある。また、「IT 活用」に関しては肯定的回答が 30% に満たず、大きな課題と言える。

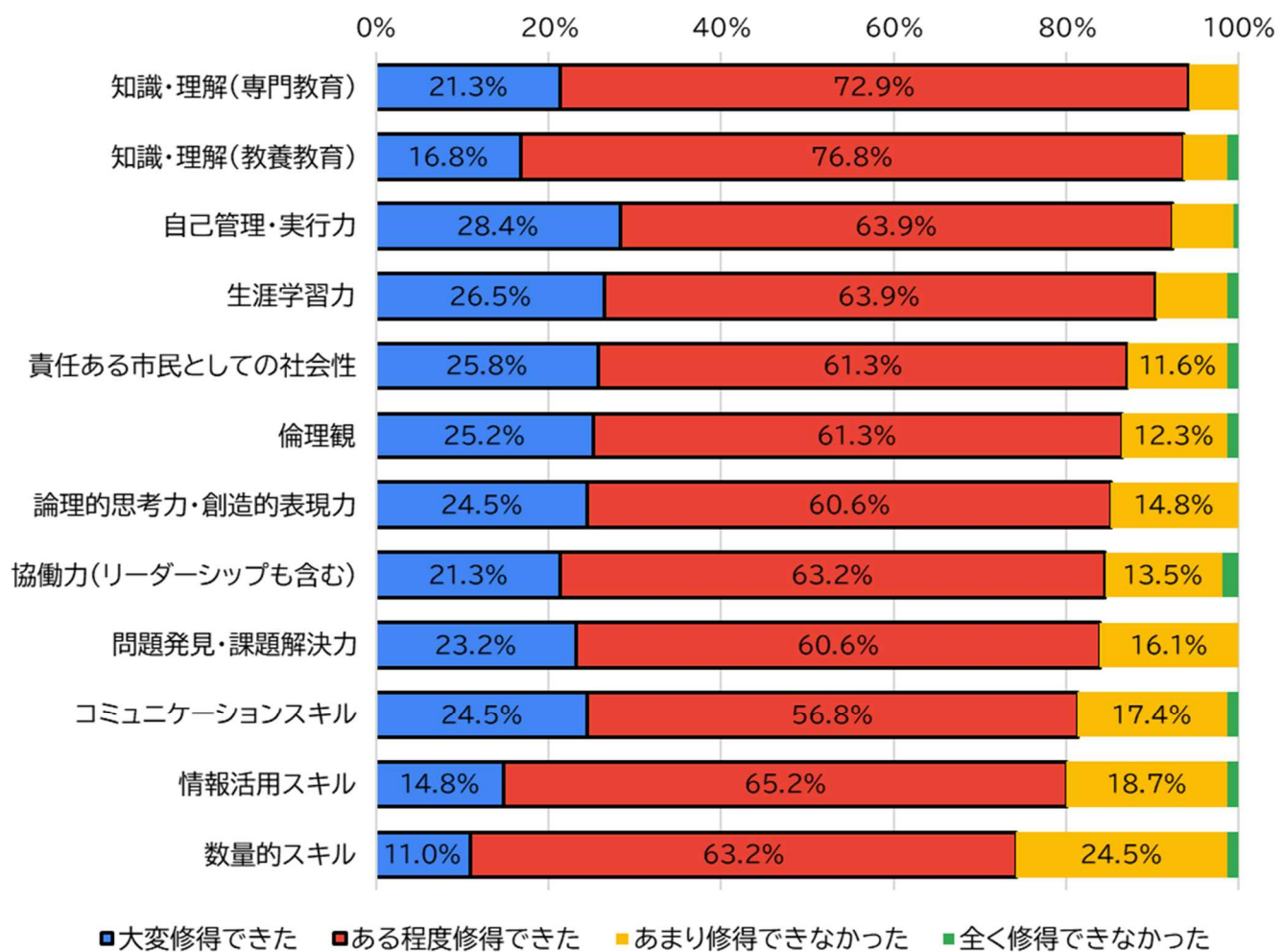


農学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

「専門教育・教養教育に関する知識や理解」、そして「自己管理・実行力」の修得に関しては概ね 80% の肯定的回答を得ており、学部の取り組みの結果として評価されるべき点といえよう。一方で、「数量的スキル」の修得などに関しては、肯定的回答が概ね 70% 程度に留まり、決して、低い数値ではないのだが、更なる改善の余地があると言えよう。

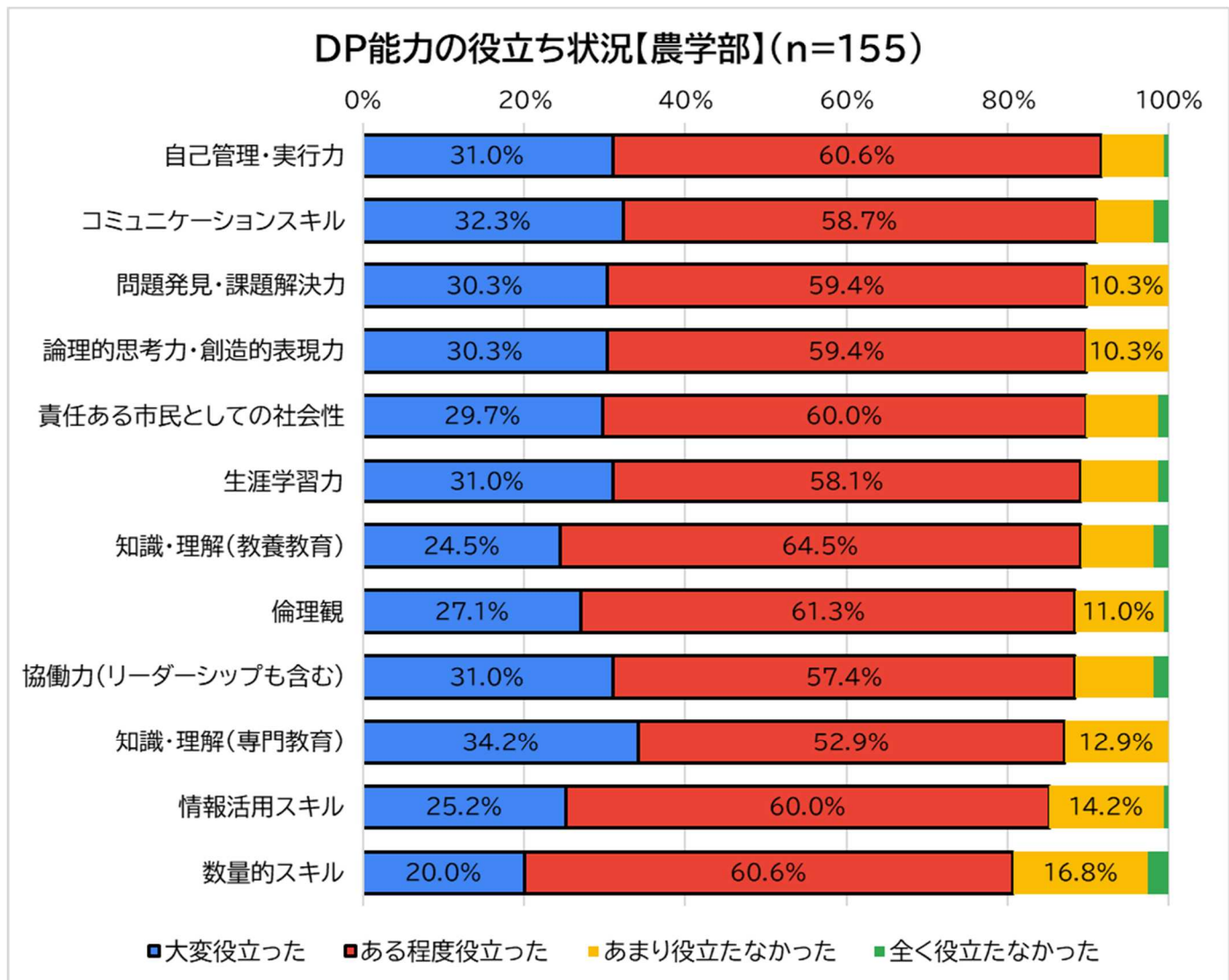
DP能力の修得状況【農学部】(n=155)



農学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

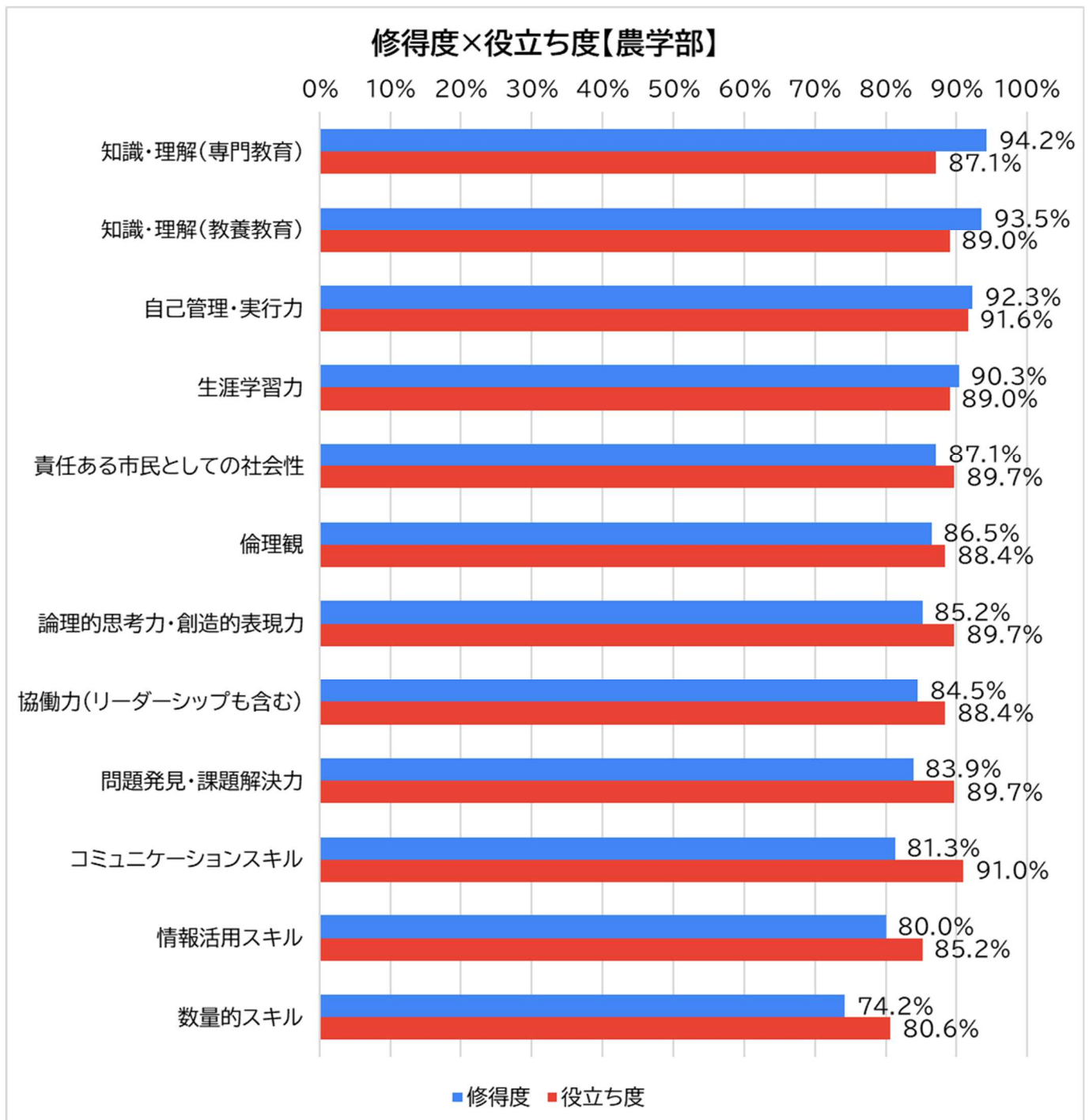
DP 能力全般の修得に関しては概ね高評価が得られている。例えば「問題発見・課題解決力」や「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」などは 90%以上の肯定的回答を得ており、学部教育の成果といえる。そして、最も低い評価である「数量的スキル」においても肯定的回答が 80%を超えており、学部のこれまでの対応に一定の成果が見られると言えよう。



農学部

修得度×役立ち度

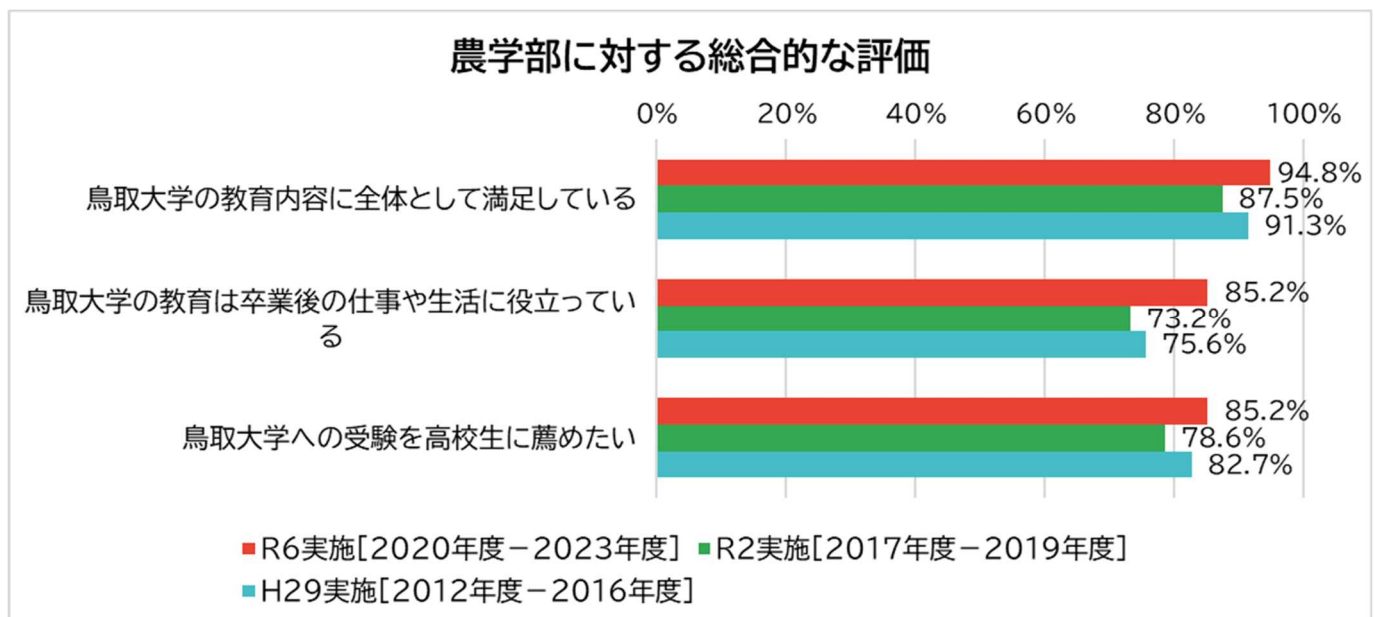
修得度と役立ち度双方に関して、概ね高評価が得られたといえよう。例えば、「専門教育・教養教育に関する知識や理解」、「自己管理・実行力」は、修得度が90%を超える評価を得ており、特に「自己管理・実行力」は双方とも90%を超えており教育成果が社会実践の中で実を結び、評価されているといえる。一方で、「数量的スキル」に関しては役立ち度が80%を超えるにも関わらず、修得度は74.2%となっており、この乖離に関しては今後の検討・対応課題となろう。



農学部 H29・R2・R6 比較(1/3)

<総合的な満足度>

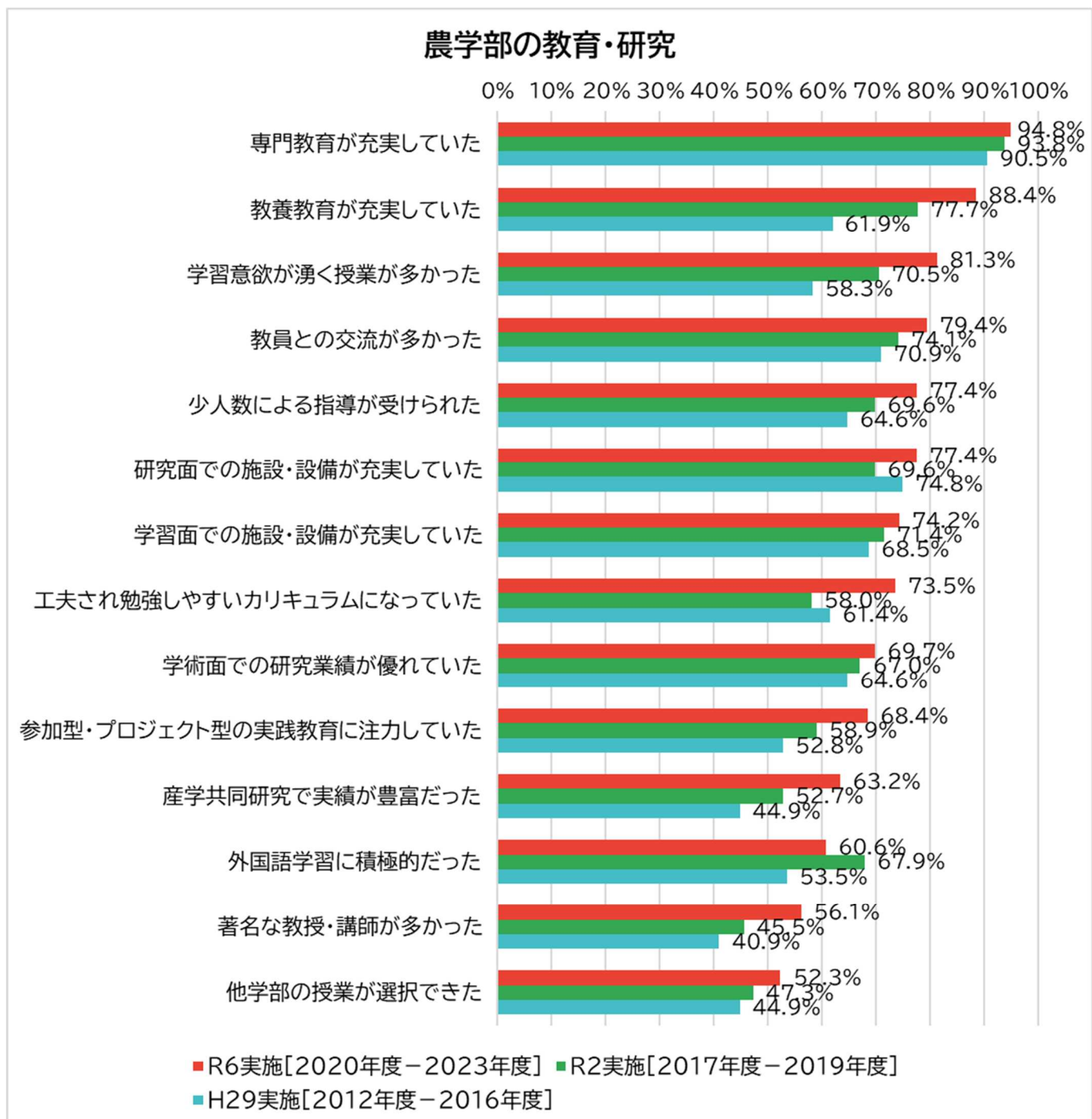
教育内容への満足度は全体的に回復傾向にあると言え、評価できる（H29年度 91.3%⇨R2年度 87.5%⇨R6年度 94.8%）。また、それは卒業後の役立ち度への評価も同様であり（H29年度 75.6%⇨R2年度 73.2%⇨85.2%）、結果として高校生への推薦意識も回復傾向にあるようである（H29年度 82.7%⇨R2年度 78.6%⇨R6年度 85.2%）。本結果を踏まえると前回の評価を基に学部の行った改善策が実を結んでいると考えられよう。



農学部 H29・R2・R6 比較(2/3)

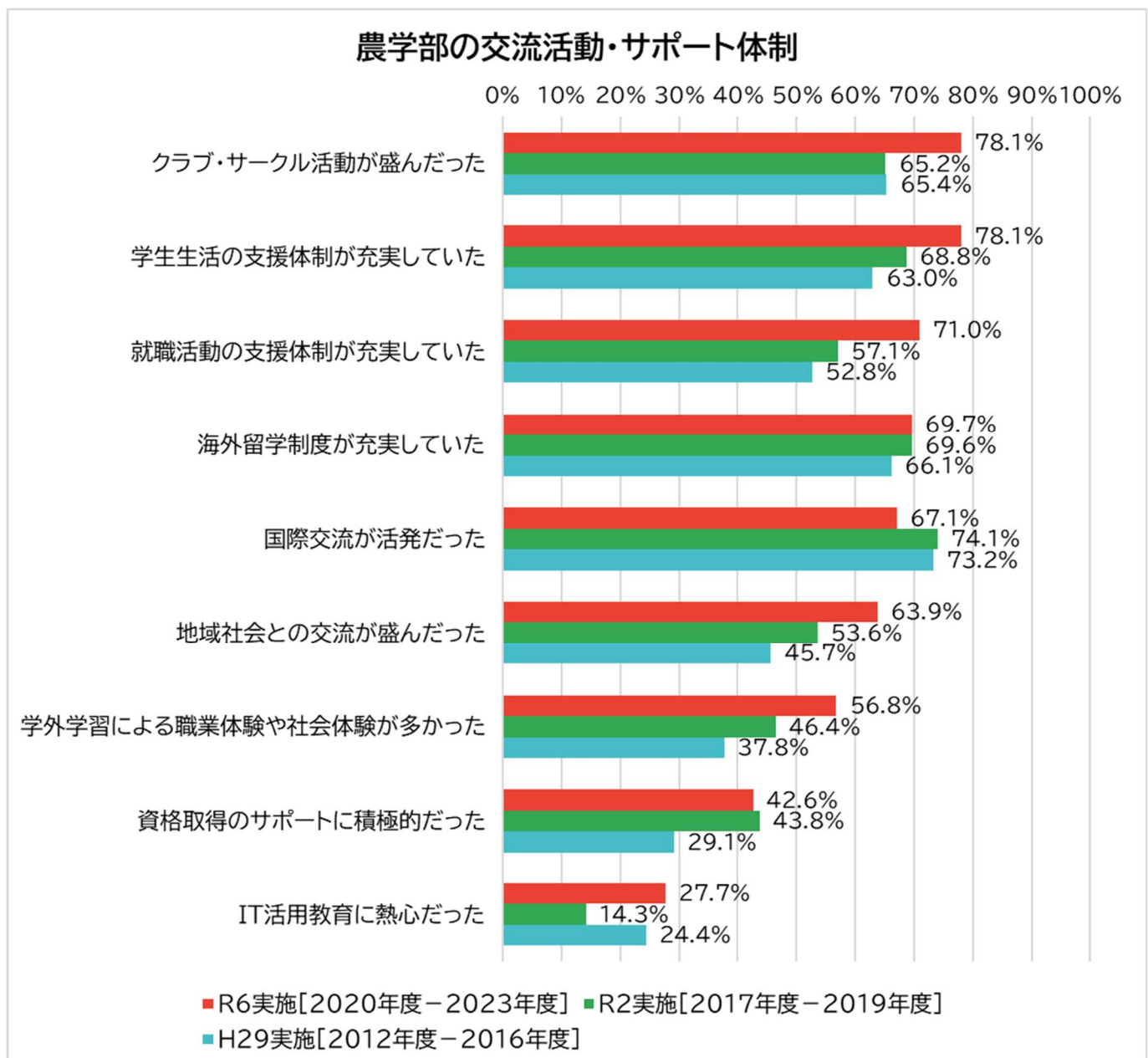
<教育・研究の充実度>

傾向として全体的に改善傾向にあると言えよう。特に「教養教育」や「少人数指導」、「研究施設・設備」、「カリキュラム」に関しては評価が上昇傾向にあり大いに評価できる。特に「研究施設・設備」に関しては、前回調査で減退傾向にあったが、今回の調査で前々回の数値も超える更なる上昇傾向にあり、学部の対応の成果と理解できよう。一方で、「外国語学習の積極性」に関しては評価の減退がみられ、今後対応すべきであろう。



農学部 H29・R2・R6 比較(3/3) <交流活動・支援体制の充実度>

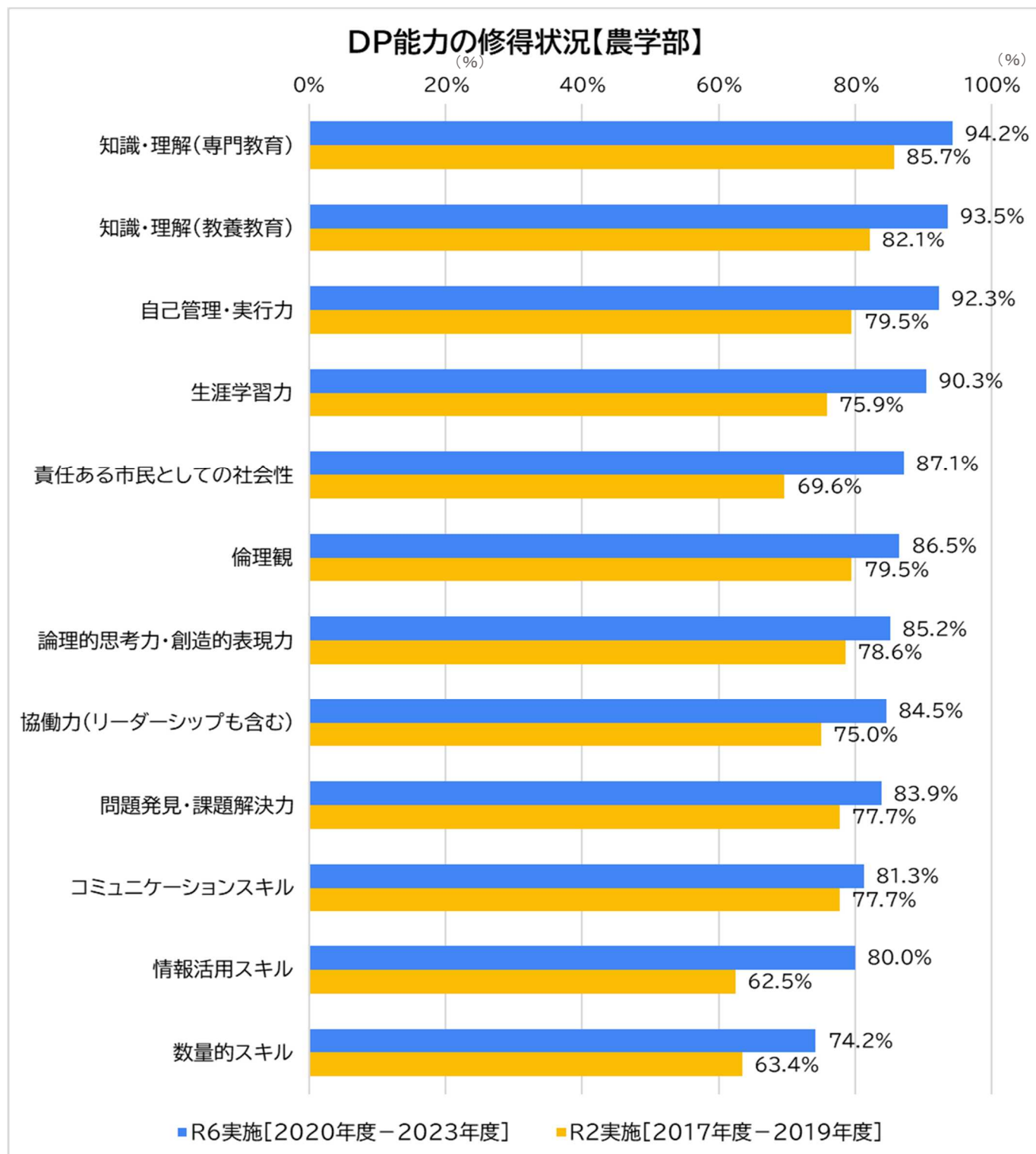
傾向として全体的に改善傾向にあると言えよう。特に「クラブ・サークル活動」や「学生生活の支援体制」、「就職活動の支援体制」などは、評価が大きく上昇しており、この点は評価できる。特に「クラブ・サークル活動」、「IT 活用教育」に関しては前回調査で減退傾向にあったが、今回の調査で前々回の数値も超える上昇傾向が確認でき、学部の対応成果と理解できる。一方で「国際交流」、「資格のサポート」に関しては評価の減退がみられ、今後対応すべきであろう。



農学部 R2・R6 比較

＜大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力＞

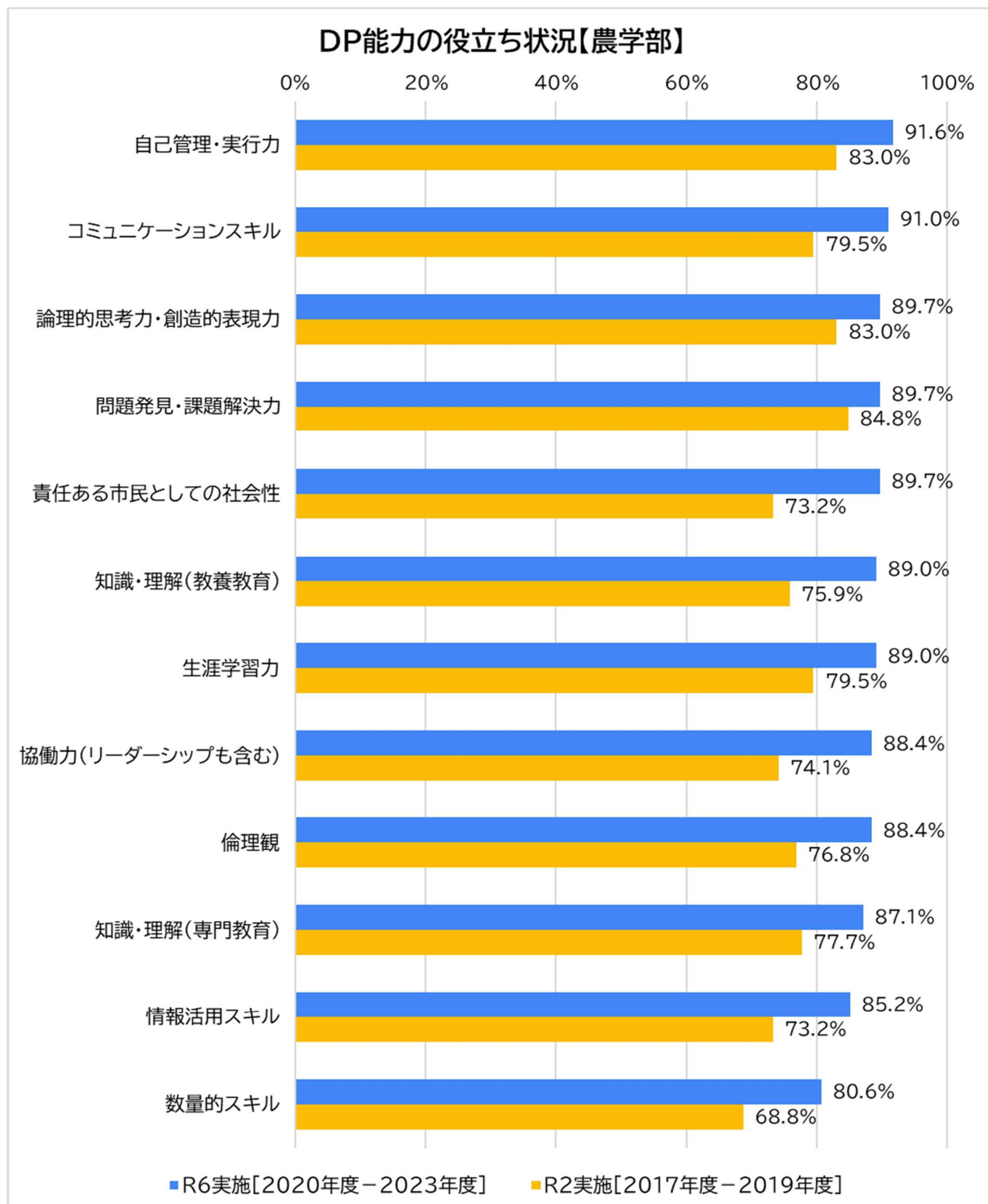
「知識・理解」や「自己管理・実行力」、「数量的スキル」、「情報活用スキル」などに関しては大きな伸びが確認され、評価できる。その他の項目も全てにおいて評価が上昇しており、その点、これまでの対応の成果と言えよう。



農学部 R2・R6 比較

<社会に出て教育成果として役立った DP 能力>

「責任ある市民としての社会性」は大きな伸びが確認され、評価できる。また、その他の項目も全てで評価が上昇しており、この点、これまでの対応の成果と言えよう。



第Ⅱ部

大学院修了生に対する

調査結果

調査概要

1. 目的

大学院修了生を対象として、本学が実施した教育の効果ならびに学生が身につけた学習の成果等を把握する。

2. 対象

令和2年9月～令和6年3月修了者（過去4か年）

3. 実施・回答時期

令和7年3月上旬に対象者へ依頼，5月末回答締切

4. 実施方法

修了生の保護者等の住所にアンケート協力依頼文書を送付。アンケートの実施方法は、Webアンケート方式（Google フォームを活用）とした。

5. サンプル件数

1,420 件送付，391 件回収（回収率 18.9%）

6. アンケート項目

Q 1：基本属性（修了時期／修了した研究科専攻）

Q 2：現在の職種・業種

Q 3：鳥取大学大学院の教育や研究の充実度

Q 4：鳥取大学大学院に対する総合的な満足度

Q 5：鳥取大学大学院での DP 能力の修得度

Q 6：鳥取大学大学院での学修成果の役立ち度

Q 7：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述）

Q 8：研究指導の改善に対する意見・要望等（自由記述）

回答者全体の属性(1/7)

<研究科・専攻>

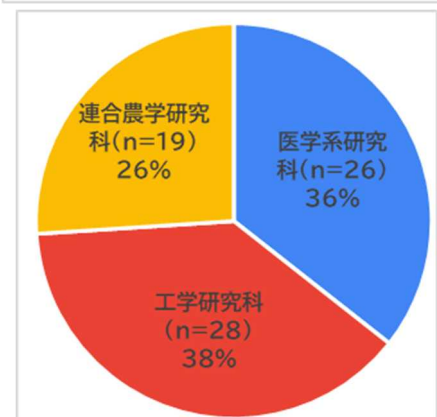
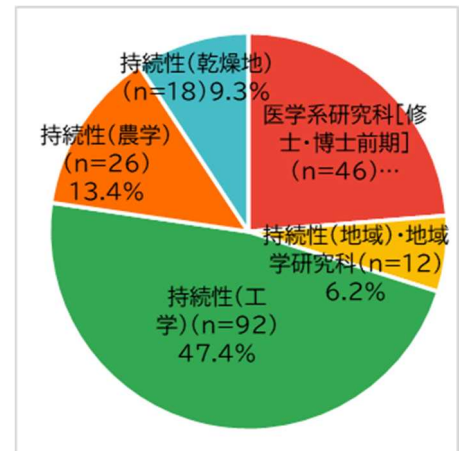
【研究科別・全体】

(修士・博士前期課程)

| 医学系研究科 | 持続性社会創生科学研究科 | | | | 計 |
|--------|------------------|-------|-------|---------------|--------|
| | 地域学専攻・ 地域学研究科 | 工学専攻 | 農学専攻 | 国際乾燥地 科学専攻 | |
| 46 | 12 | 92 | 26 | 18 | 148 |
| 23.7% | 6.2% | 47.4% | 13.4% | 9.3% | 100.0% |

(博士・博士後期課程)

| 医学系研究科 | 工学研究科 | 連合農学研究科 | 計 |
|--------|-------|---------|--------|
| 26 | 28 | 19 | 73 |
| 35.6% | 38.4% | 26.0% | 100.0% |



【研究科別×専攻別】

(修士・博士前期課程)

| 持続性社会創生科学研究科 | 地域学専攻・ 地域学研究科 | 工学専攻 | 農学専攻 | 国際乾燥地 科学専攻 | 計 |
|--------------|------------------|-------|-------|---------------|-----|
| | 12 | 92 | 26 | 18 | 148 |
| 8.1% | 62.2% | 17.6% | 12.2% | 100.0% | |

| 医学系研究科 | 医科学専攻 | 保健学専攻 | 臨床心理学 専攻 | 機能再生医 科学専攻 | 計 |
|--------|-------|-------|-------------|---------------|----|
| | 21 | 9 | 11 | 5 | 46 |
| 45.7% | 19.6% | 23.9% | 10.9% | 100.0% | |

(博士・博士後期課程)

| 医学系研究科 | 医学専攻 | 医科学専攻 | 保健学専攻 | 生命科学専攻 | 計 |
|--------|-------|-------|-------|--------|----|
| | 13 | 6 | 6 | 1 | 26 |
| 50.0% | 23.1% | 23.1% | 3.8% | 100.0% | |

| 工学研究科 | 工学専攻 | 機械宇宙工学 専攻 | 情報エレクト ロニクス専攻 | 化学・生物応 用工学専攻 | 社会基盤 工学専攻 | 計 |
|-------|-------|--------------|------------------|-----------------|--------------|----|
| | 3 | 5 | 7 | 6 | 7 | 28 |
| 10.7% | 17.9% | 25.0% | 21.4% | 25.0% | 100.0% | |

| 連合農学研究科 | 生産環境 科学専攻 | 生命資源 科学専攻 | 国際乾燥地 科学専攻 | 生物生産 科学専攻 | 生物資源 科学専攻 | 計 |
|---------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|----|
| | 3 | 5 | 7 | 3 | 1 | 19 |
| 15.8% | 26.3% | 36.8% | 15.8% | 5.3% | 100.0% | |

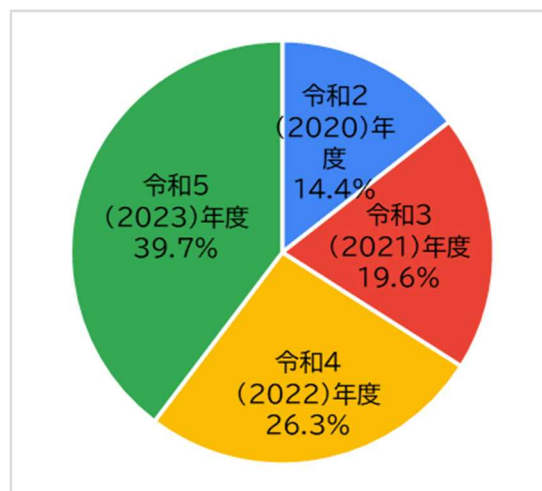
回答者全体の属性(2/7)

<修了年>

【修了年別・全体】

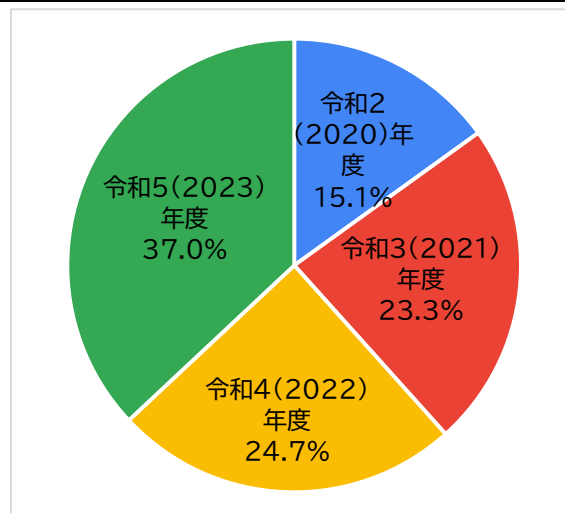
(修士・博士前期課程)

| 令和 2 (2020)年度 | 令和 3 (2021)年度 | 令和 4 (2022)年度 | 令和 5 (2023)年度 | 計 |
|---------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| 28 | 38 | 51 | 77 | 194 |
| 14.4% | 19.6% | 26.3% | 39.7% | 100.0% |



(博士・博士後期課程)

| 令和 2 (2020)年度 | 令和 3 (2021)年度 | 令和 4 (2022)年度 | 令和 5 (2023)年度 | 計 |
|---------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| 11 | 17 | 18 | 27 | 73 |
| 15.1% | 23.3% | 24.7% | 37.0% | 100.0% |

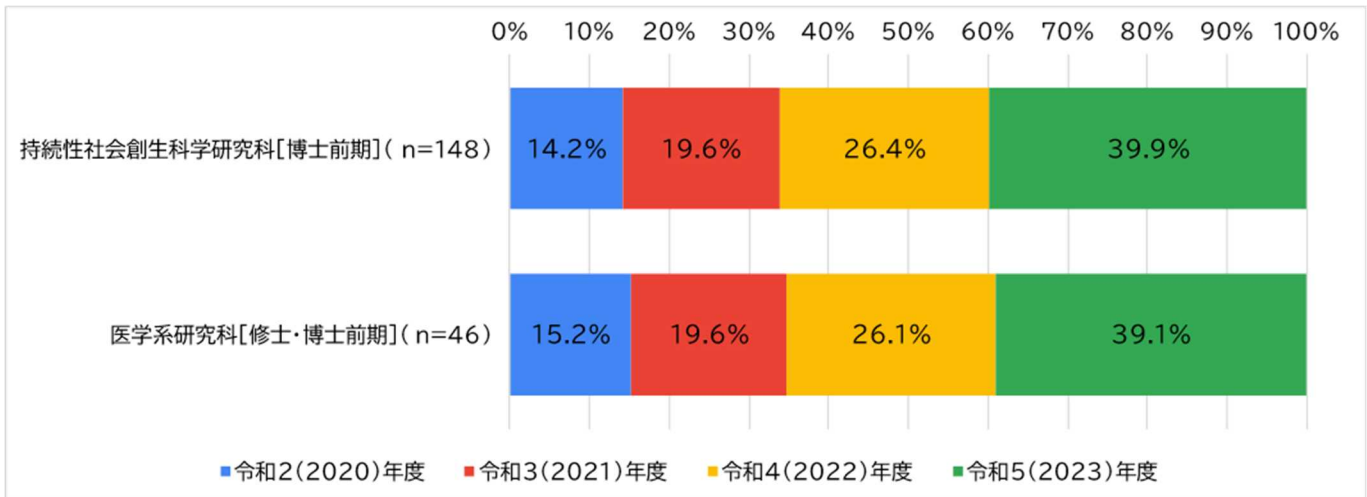


回答者全体の属性(3/7)

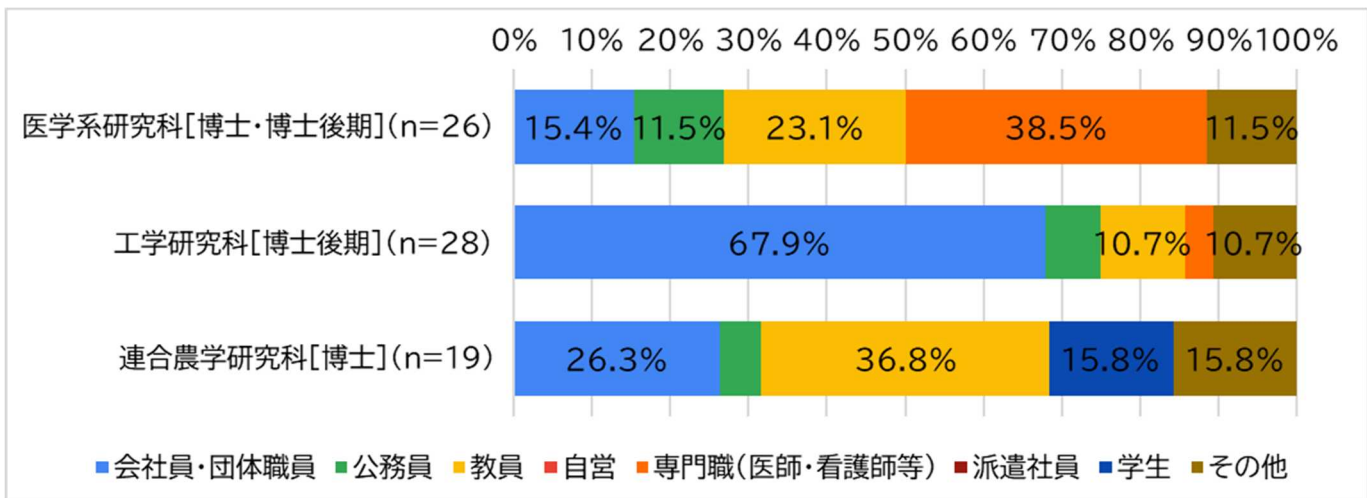
<修了年>

【修了年別×研究科別】

(修士・博士前期課程)



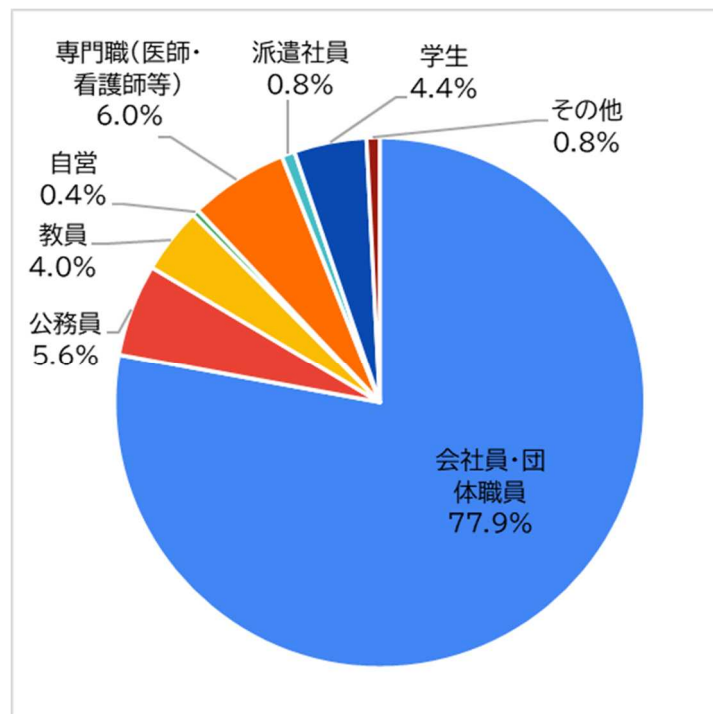
(博士・博士後期課程)



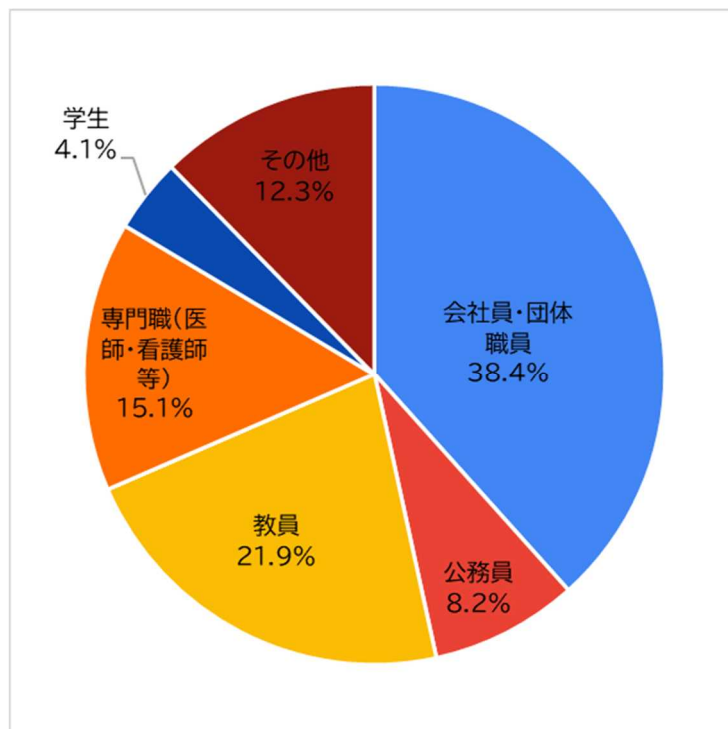
回答者全体の属性(4/7) ＜現在の職業＞

【現在の職業・全体】

(修士・博士前期課程)



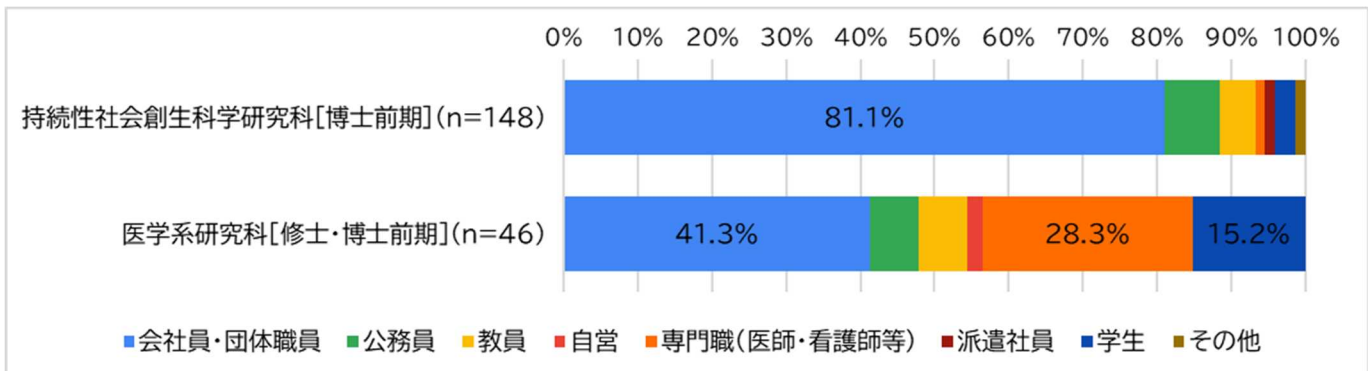
(博士・博士後期課程)



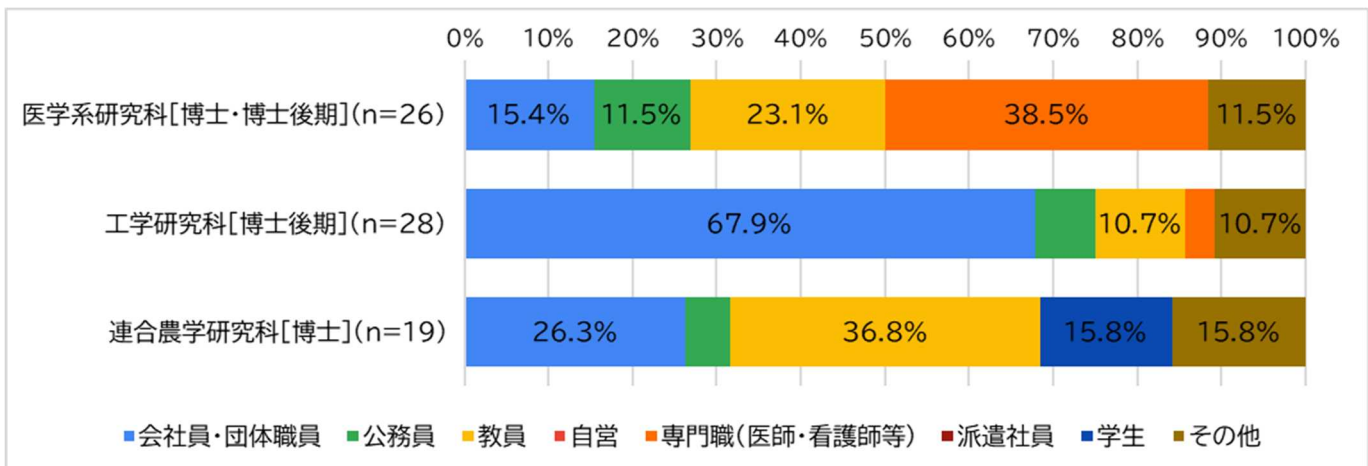
回答者全体の属性(5/7)

<現在の職業>

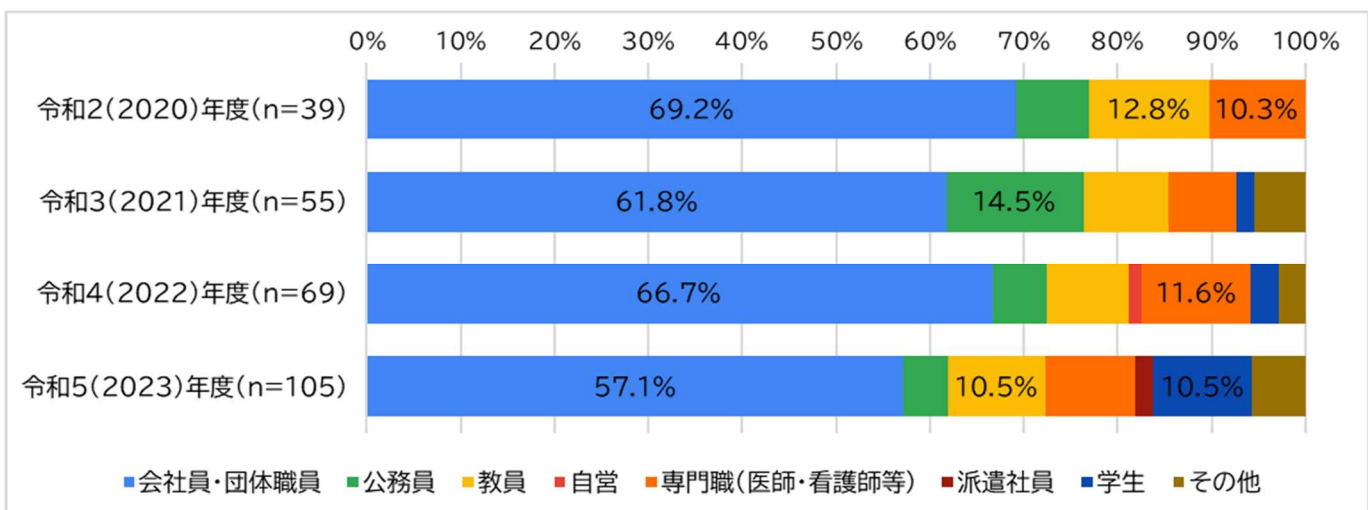
【現在の職業×研究科別】 (修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



【現在の職業×修了年別】



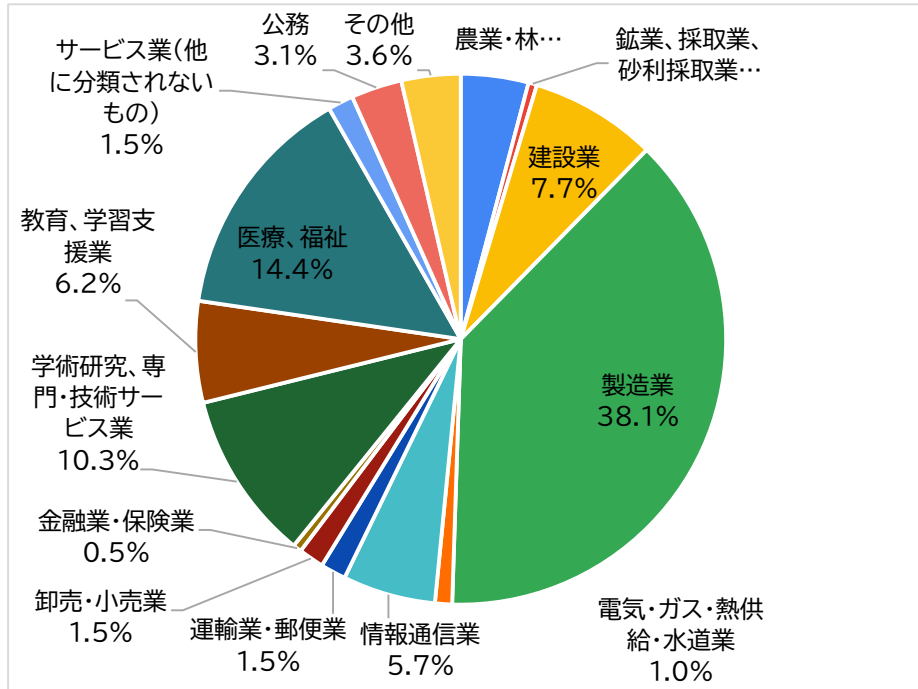
※「修士・博士前期」と「博士・博士後期」の合計値。共同獣医学研究科の1名も含まれている。

回答者全体の属性(6/7)

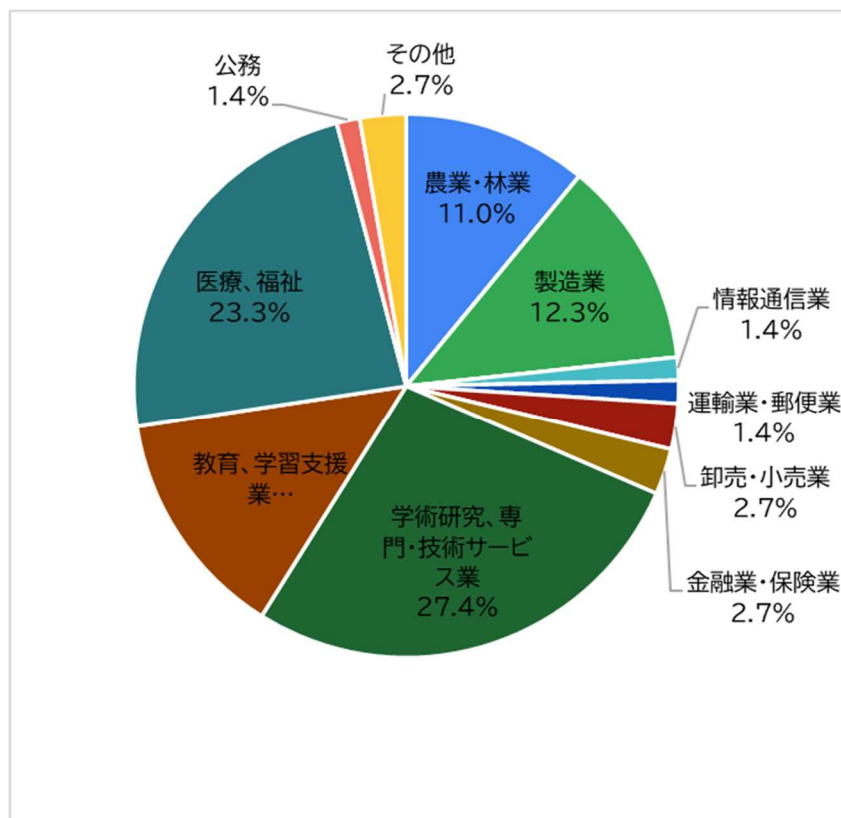
<現在の業種>

【現在の業種・全体】

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

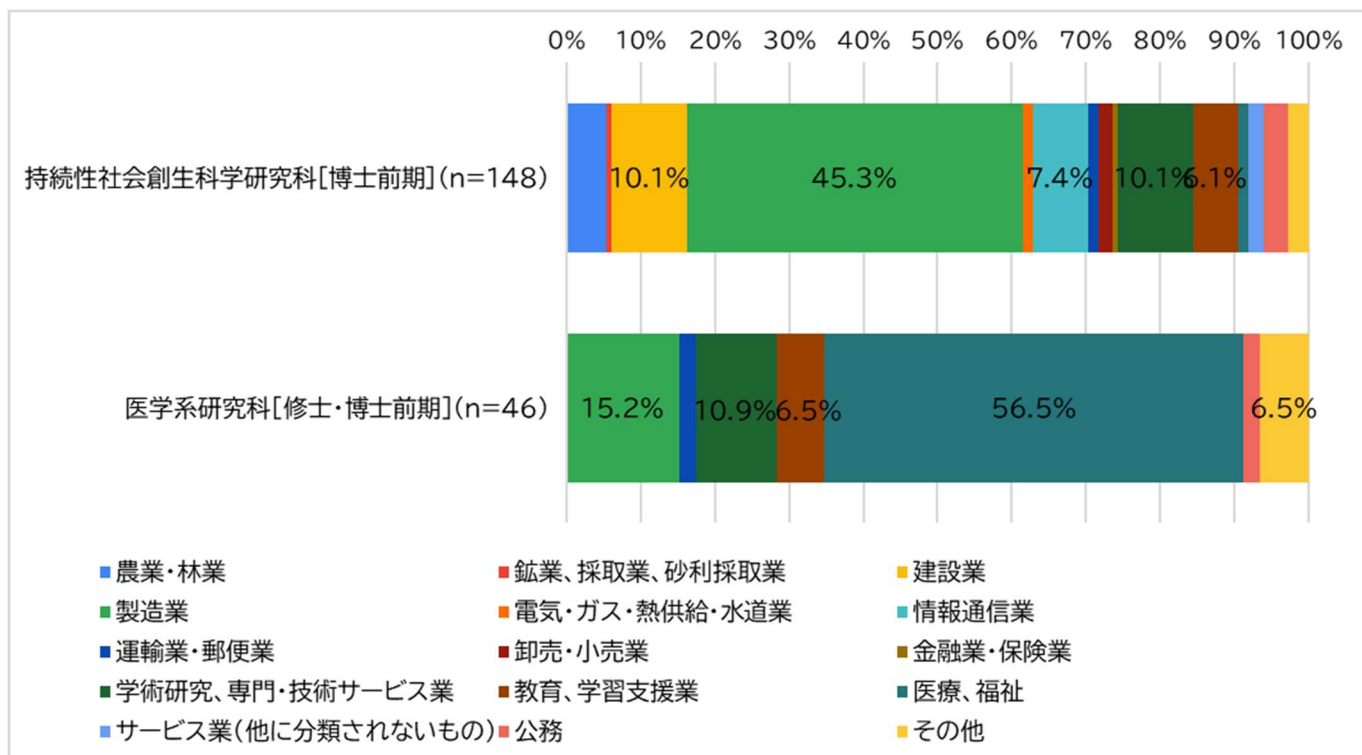


回答者全体の属性(7/7)

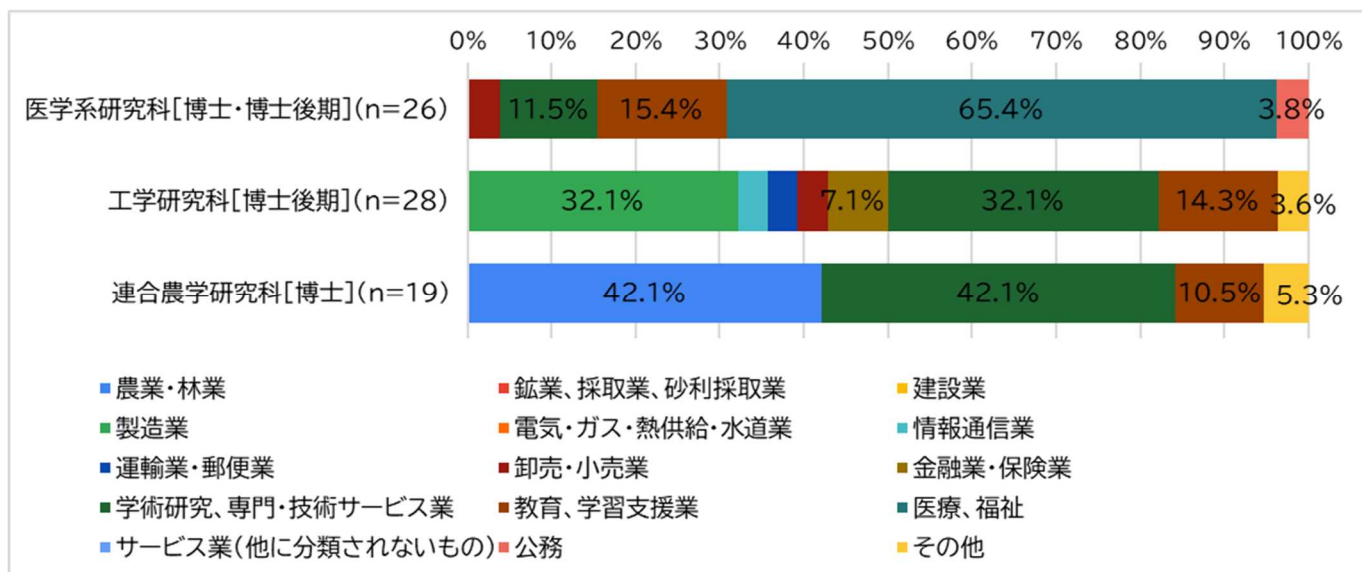
<現在の業種>

【現在の業種×研究科別】

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



総合的な満足度(1/3)

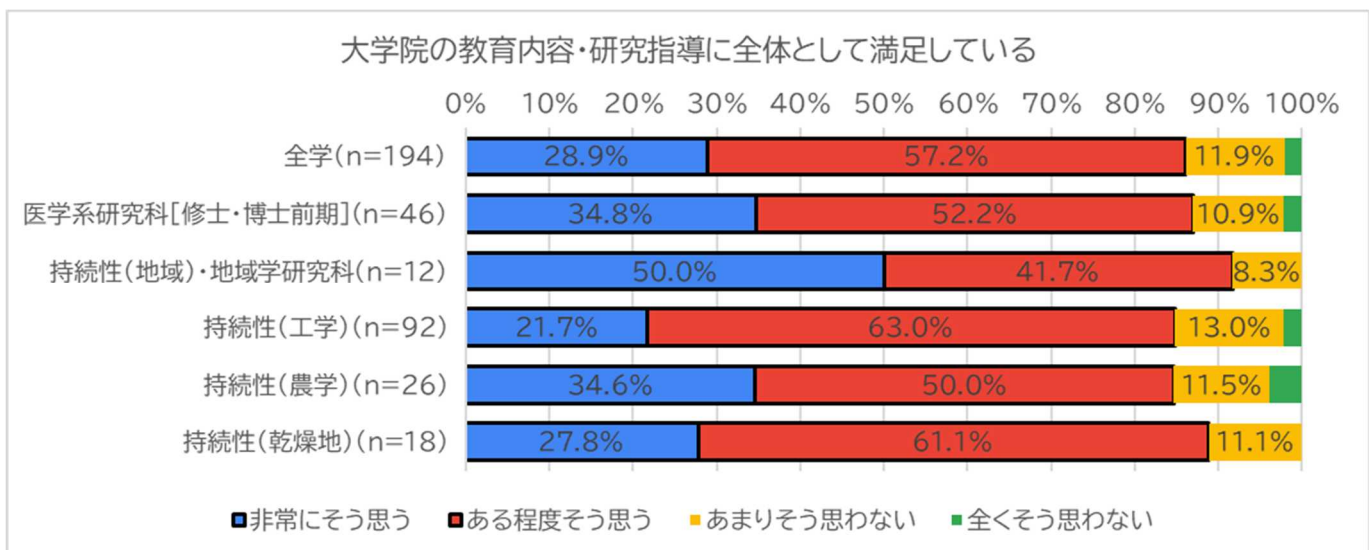
<教育内容・研究指導> <卒業後の役立ち度>

・「大学院の教育内容・研究指導に対する全体的な満足度」は全学で肯定的回答（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」）が前期で 86.1%，後期で 91.7%であった。連合農学研究科で 100%，工学研究科で 96.5%の肯定的回答であり，他の専攻・研究科でも肯定的回答が約 8 割から 9 割であった。

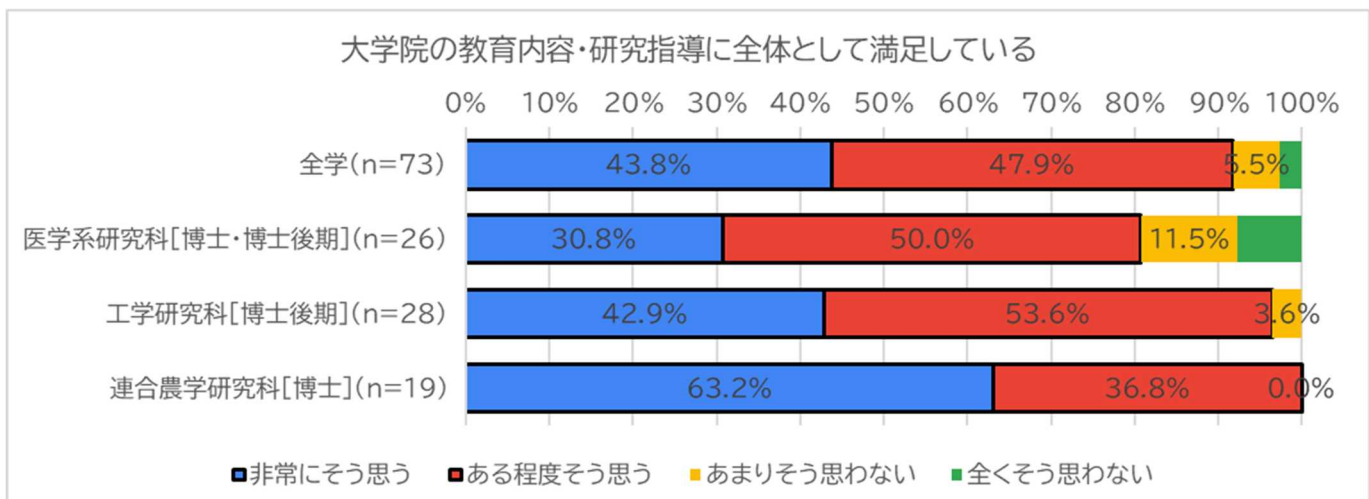
・「大学院の教育・研究の卒業後の仕事や生活への役立ち度」の肯定的回答は全学で 84.5%(前期)，89.0%(後期)だった。博士・博士後期は全研究科で約 9 割となり，修士・博士前期では医学系研究科・国際乾燥地専攻で約 9 割 5 分程度であったが，工学専攻でやや低めの 77.2%だった。

大学院の教育内容・研究指導に，全体として満足している

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

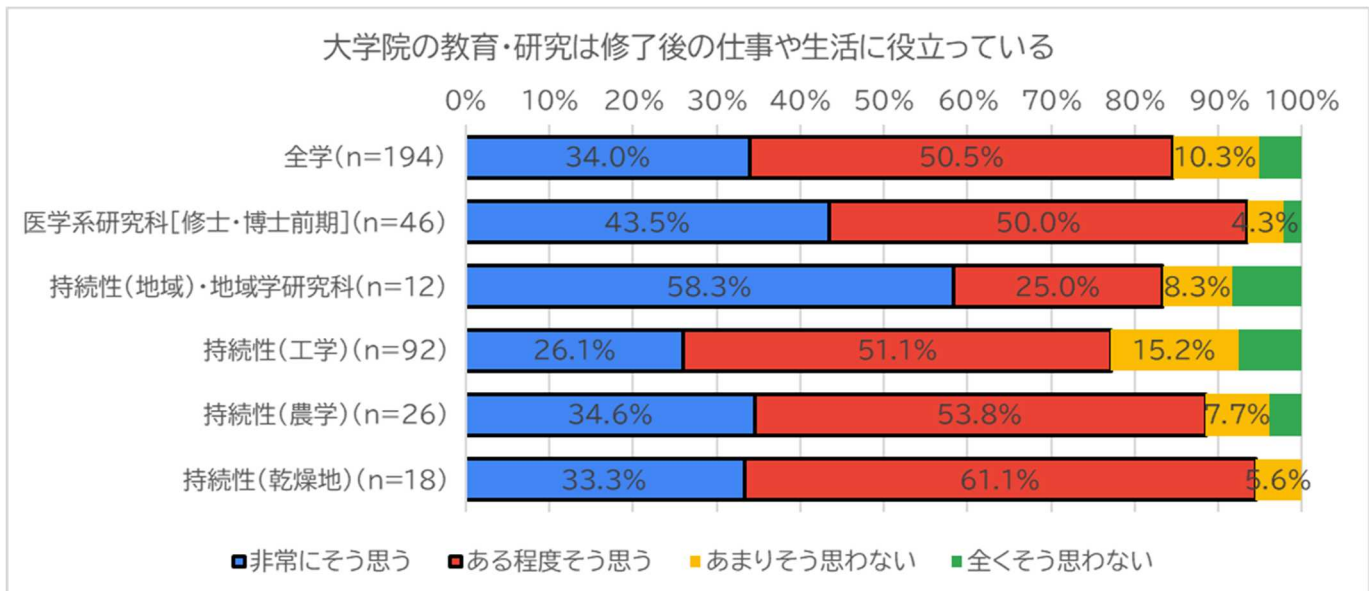


総合的な満足度(2/3)

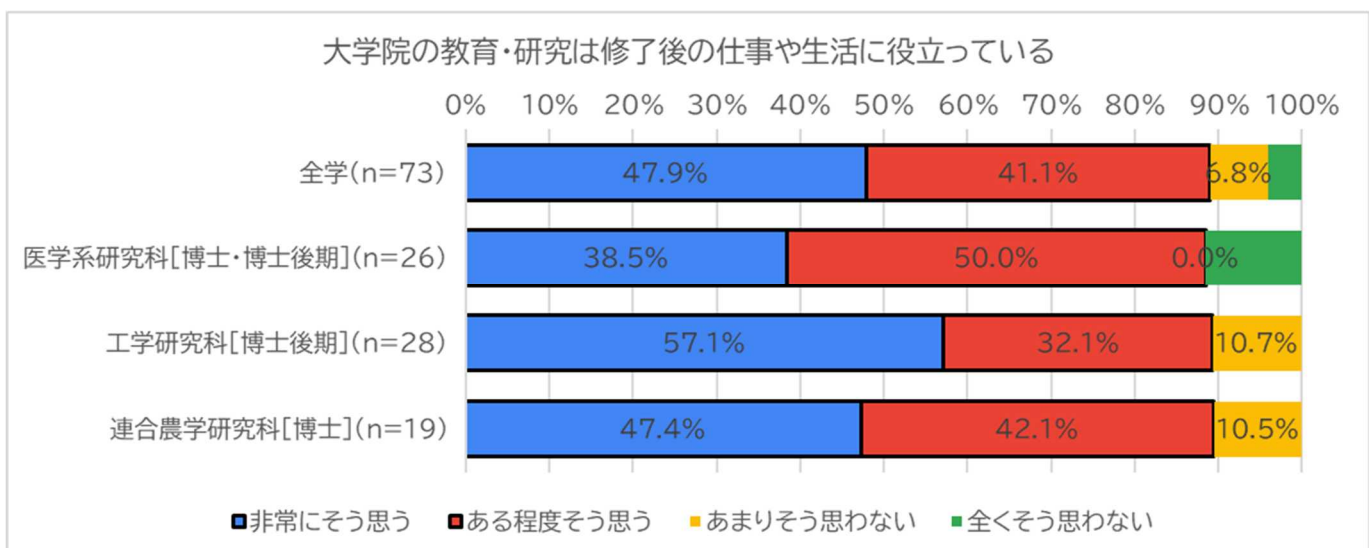
<教育内容・研究指導> <卒業後の役立ち度>

大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



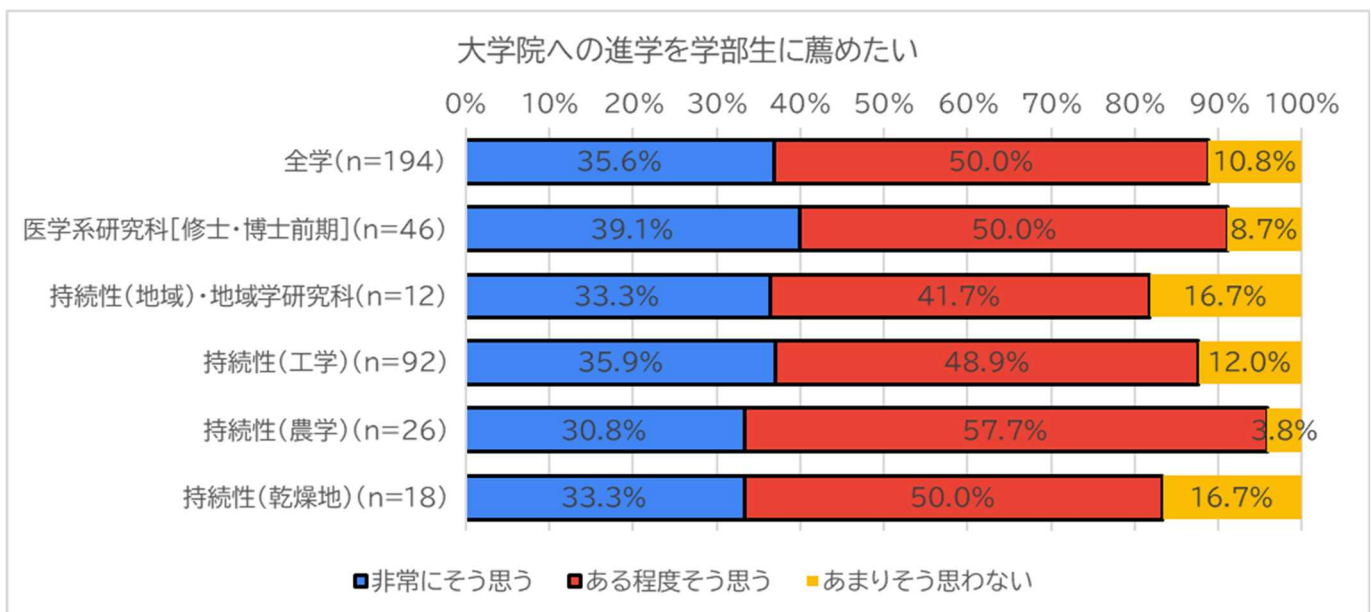
総合的な満足度(3/3)

<学部生への進学推奨度>

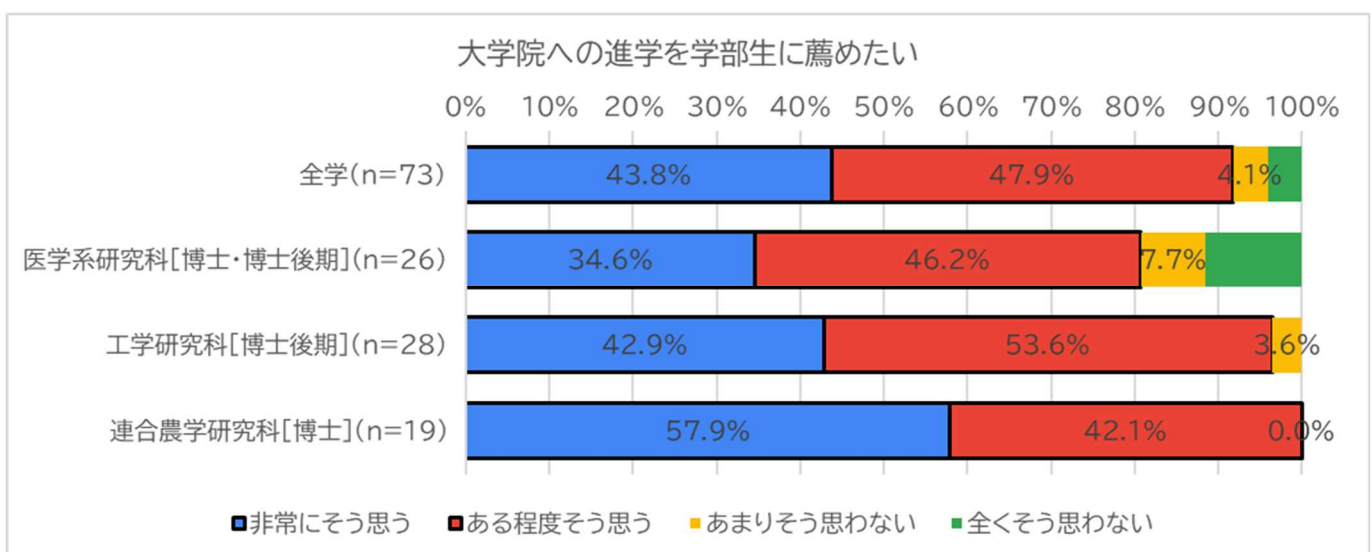
「学部生への本学大学院への進学推奨度」は、全学での肯定的回答は85.6%(前期), 91.7%(後期)だった。連合農学研究科の肯定的回答は100%, 農学専攻・工学研究科で96%を超え、いずれの専攻・研究科でも8割を超えていた。医学系研究科を除いて修士・博士前期よりも博士・博士後期で高い傾向が見られた。

大学院への進学を学部生に薦めたい

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



教育・研究の充実度(1/10)

<全学>

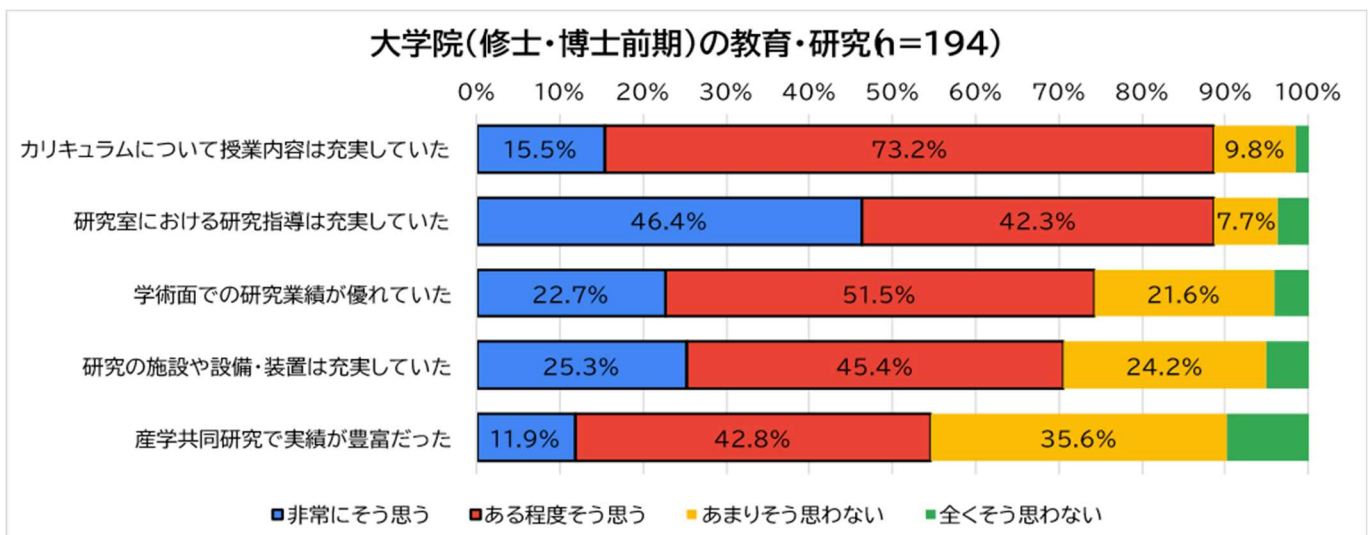
・全学では、大学院での教育・研究の充実度に関する5項目のうち、「研究指導の充実」は肯定的回答が88.7%(前期), 90.4%(後期)と高く、「非常にそう思う」との回答率も高かった。一方、「産学共同研究で実績が豊富」が最も低く、54.7%(前期), 67.1%(後期)だった。

・「研究の設備・装置の充実」については、博士・博士後期の肯定的回答が89.1%と高かったものの、修士・博士前期は70.7%とやや低い結果となった。

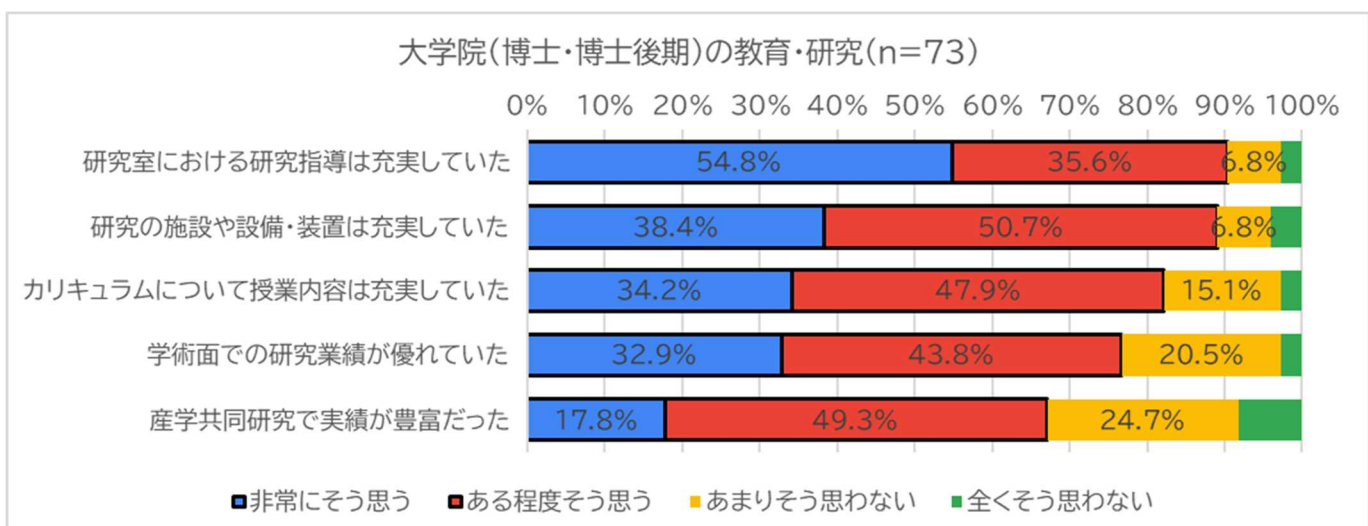
・「学術面での研究業績」については、前期・後期ともに7割5分程度の肯定的回答だった。

【全学】

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



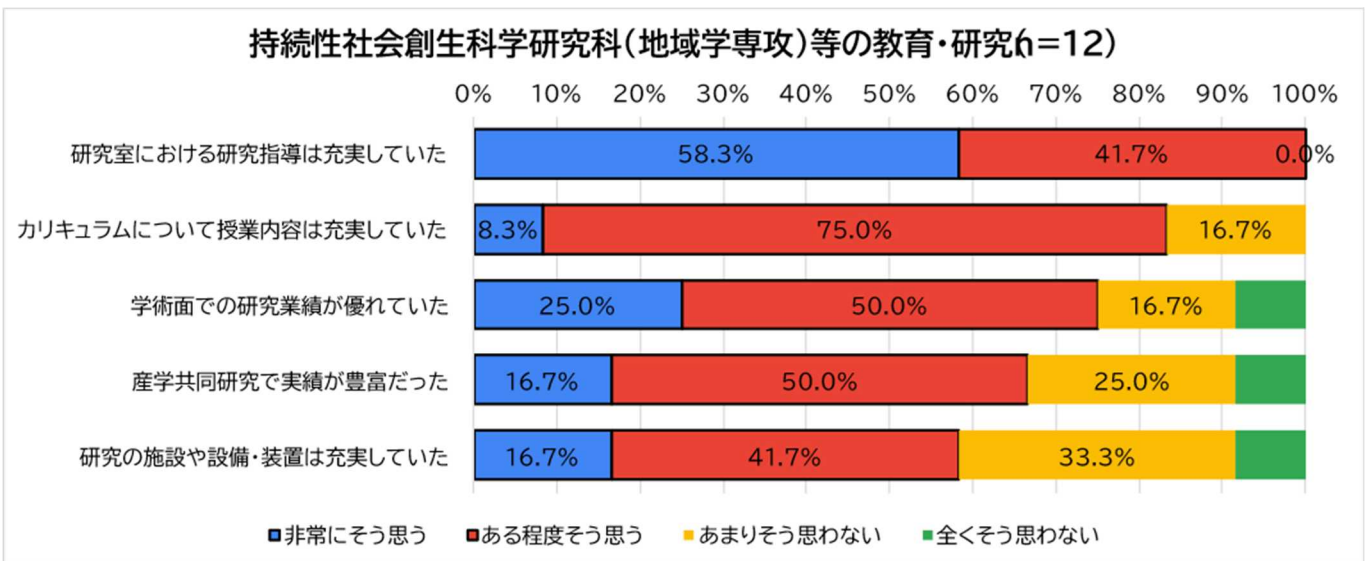
教育・研究の充実度(2/10)

<研究科>

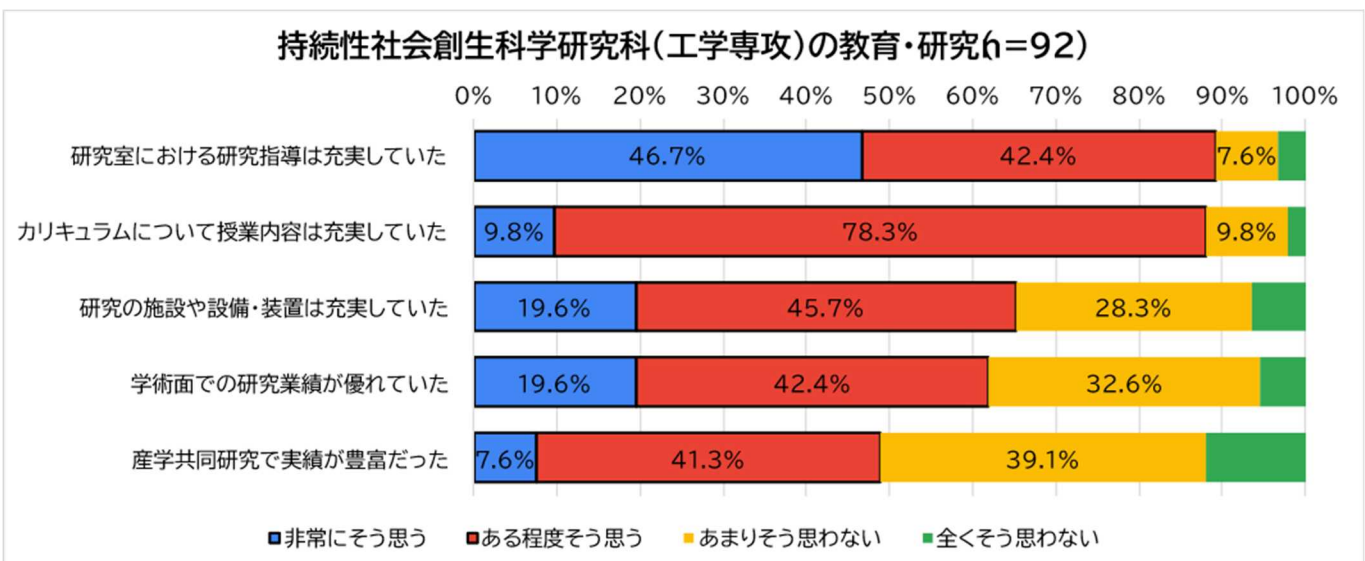
・地域学専攻・研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が100%，そのうち「非常にそう思う」が58.3%と高い充実度だった。一方、「研究の設備・装置の充実」の肯定的回答が6割を切る結果となった。

・工学専攻では、「研究指導の充実」の肯定的回答が89.1%，そのうち「非常にそう思う」46.7%と高い充実度だった。一方、「産学共同研究で実績が豊富」は肯定的回答が5割を切る結果となった。

【持続性社会創生科学研究科地域学専攻・地域学研究科】



【持続性社会創生科学研究科工学専攻】



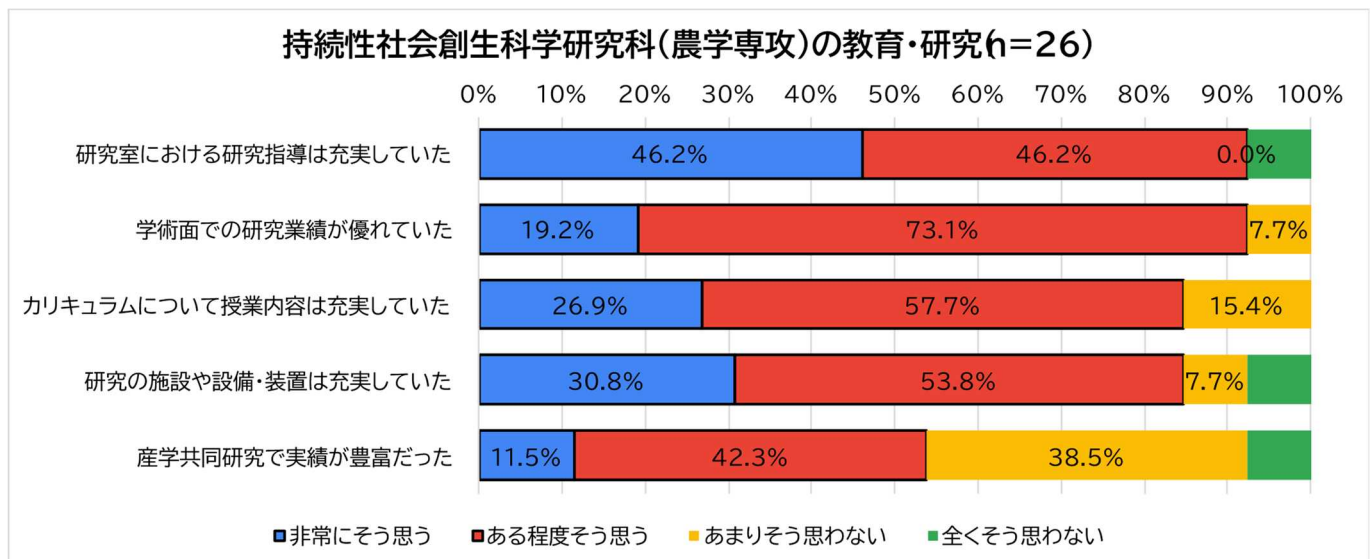
教育・研究の充実度(3/10)

<研究科>

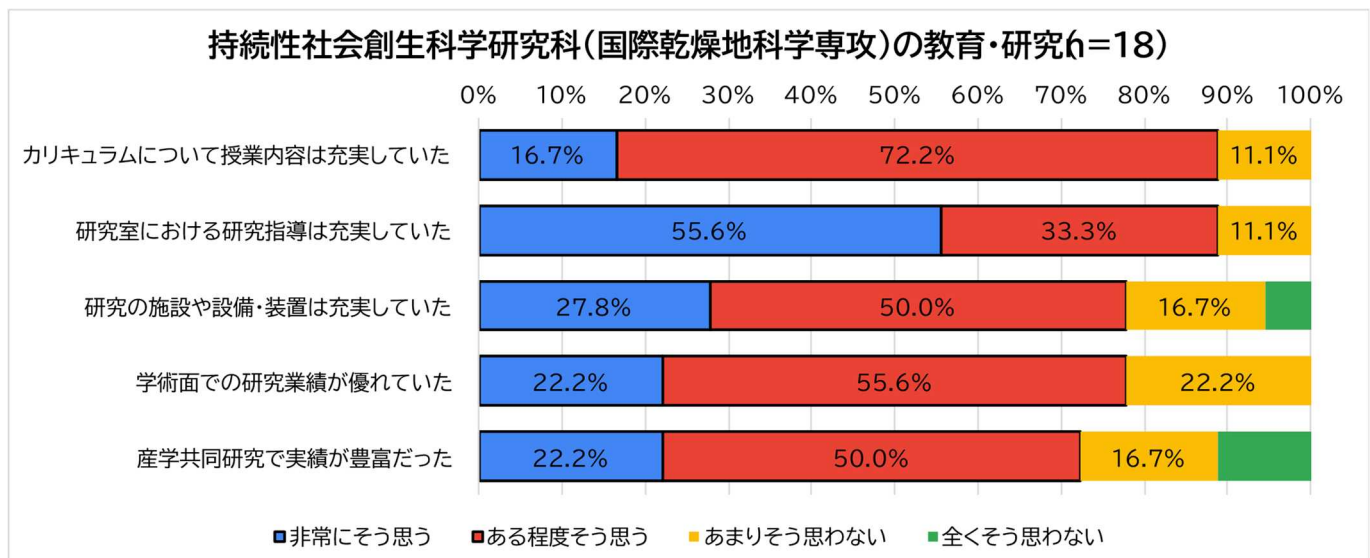
・農学専攻・研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が92.4%，そのうち「非常にそう思う」46.2%と高い充実度だった。一方、「産学共同研究で実績が豊富」は肯定的回答が53.8%であった。

・国際乾燥地科学専攻では、「カリキュラムの充実」，「研究指導の充実」がいずれも肯定的回答が88.9%と高い充実度だった。また，全ての項目で肯定的回答が7割以上だった。

【持続性社会創生科学研究科農学専攻・農学研究科（フィールド生産科学専攻・生命資源科学専攻）】



【持続性社会創生科学研究科国際乾燥地科学専攻・農学研究科（国際乾燥地科学専攻）】

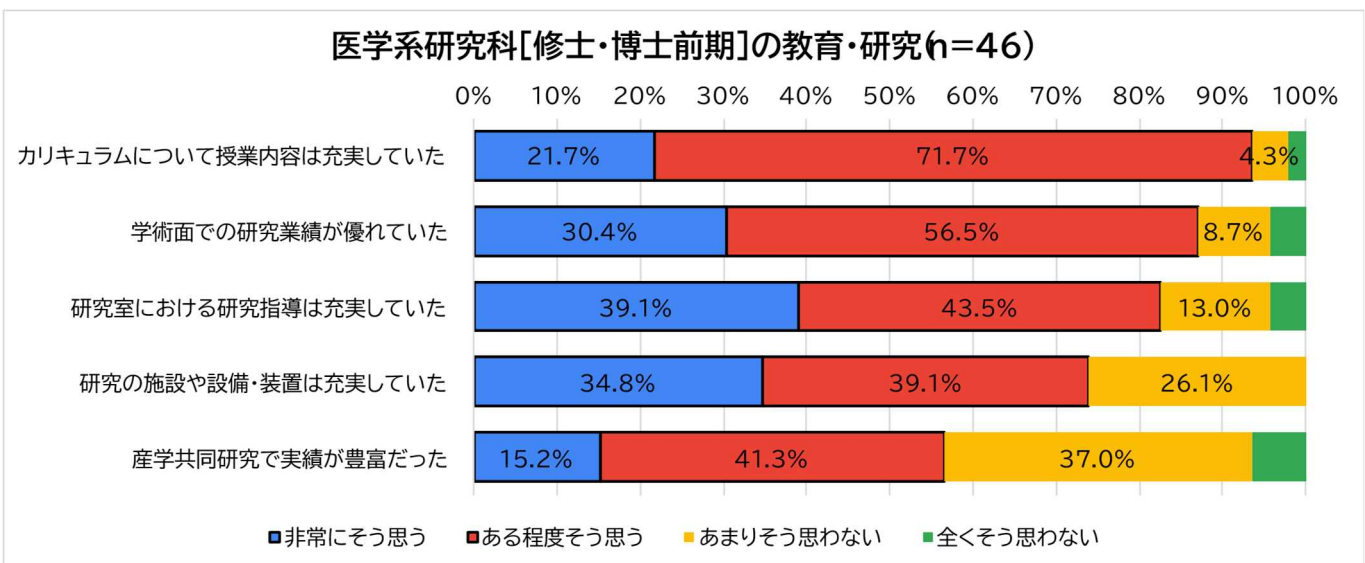


教育・研究の充実度(4/10)

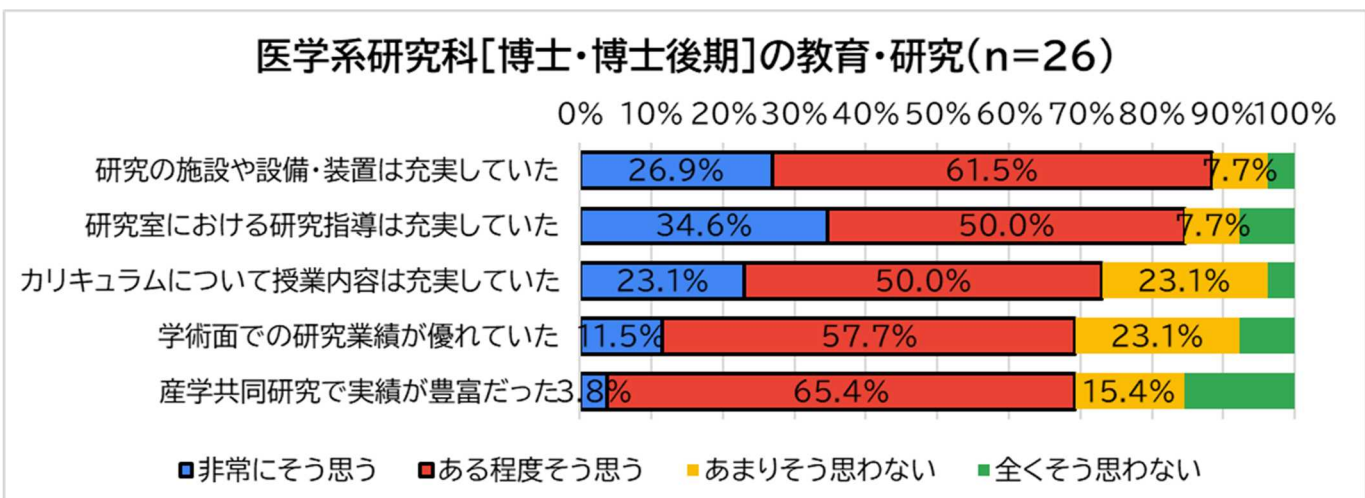
<研究科>

・医学系研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が82.6%(前期), 84.6%(後期)と高く、前期は「カリキュラムの充実」が93.4%、後期は「研究の設備・装置の充実」が88.4%と最も高くなった。肯定的回答が低い設問は、前期が「産学共同研究で実績が豊富」の56.5%、後期がともに69.2%の「産学共同研究で実績が豊富」と「学術面での研究業績」だった。一方で、前期の「学術面での研究業績」は肯定的回答が86.9%と高かった。

【医学系研究科（修士・博士前期）】



【医学系研究科（博士・博士後期）】



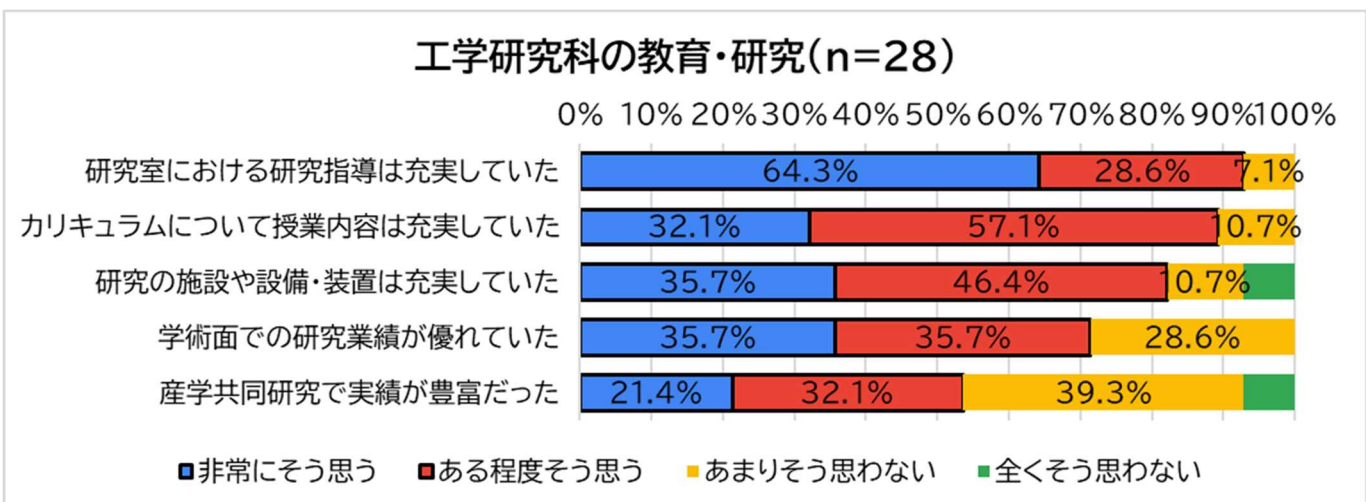
教育・研究の充実度(5/10)

<研究科>

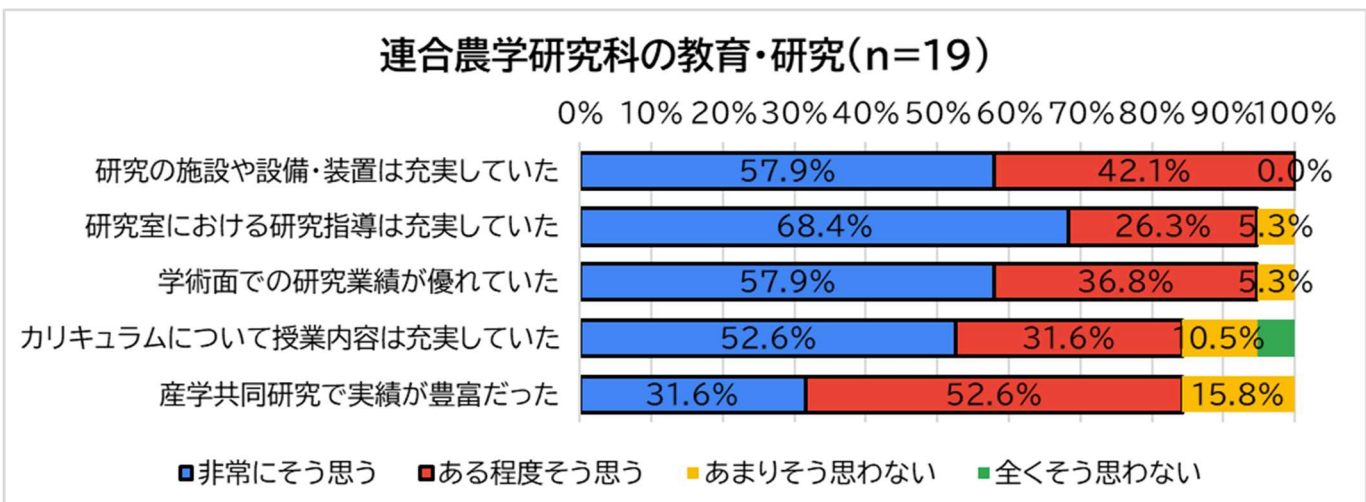
・工学研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が92.9%、そのうち「非常にそう思う」が64.3%と高い充実度だった。また、肯定的回答は「産学共同研究で実績が豊富」を除く全ての項目で7割以上だった。

・連合農学研究科では、全設問の肯定的回答が8割を超えており、「研究の設備・装置の充実」が100%、「研究指導の充実」、「学術面での研究業績」がいずれも94.7%と高かった。

【工学研究科】



【連合農学研究科】



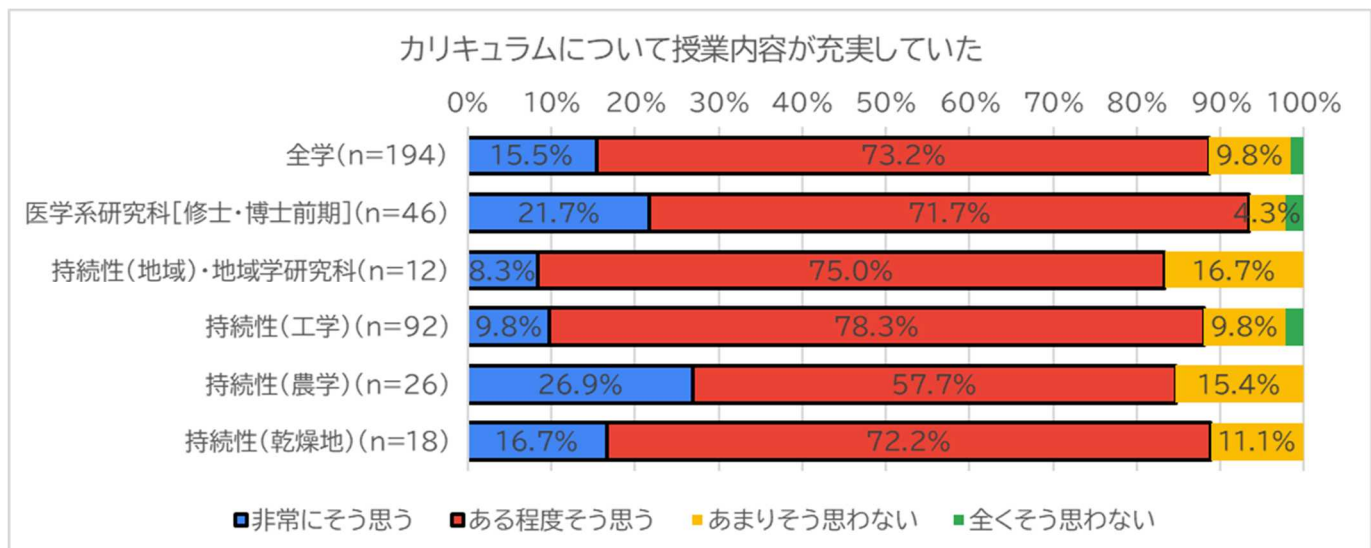
教育・研究の充実度(6/10)

<授業内容> <研究指導>

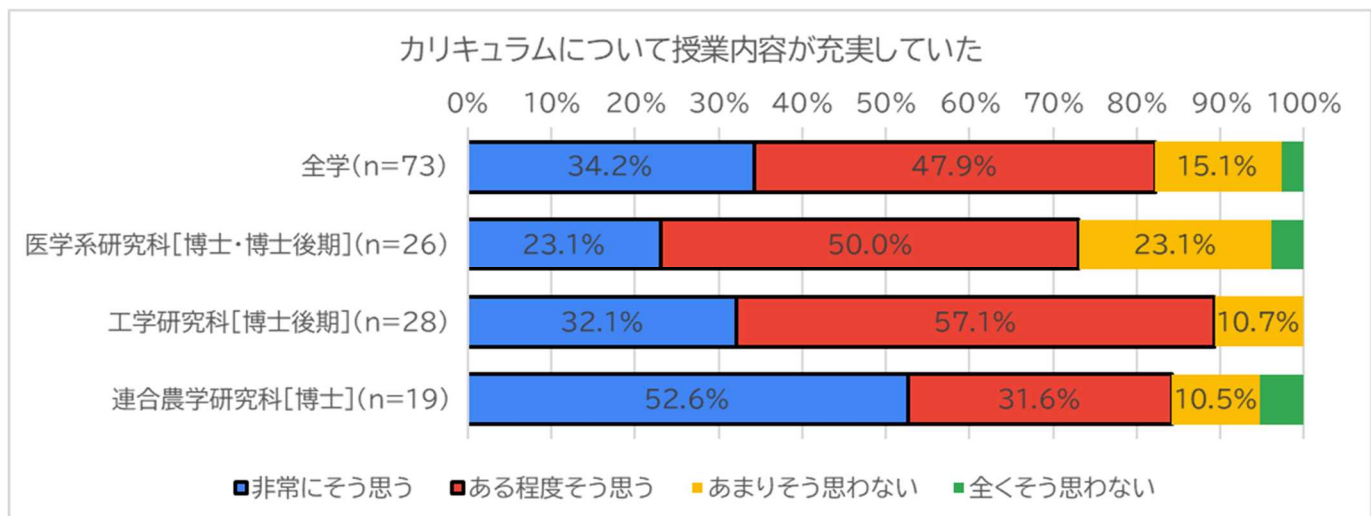
「カリキュラムについて、授業内容は充実していた」に対して、修士・博士前期の全学では88.7%の肯定的回答だった。肯定的回答は専攻によりやや差があるものの、最も高い医学系研究科で93.4%、低い地域学専攻で83.3%、農学専攻で84.6%と8割を超えていた。一方、博士・博士後期では全学で82.1%とやや低くなる傾向があるが、いずれの研究科でも「非常にそう思う」との肯定的回答が修士・博士前期よりも多くなった。

カリキュラムについて、授業内容は充実していた

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



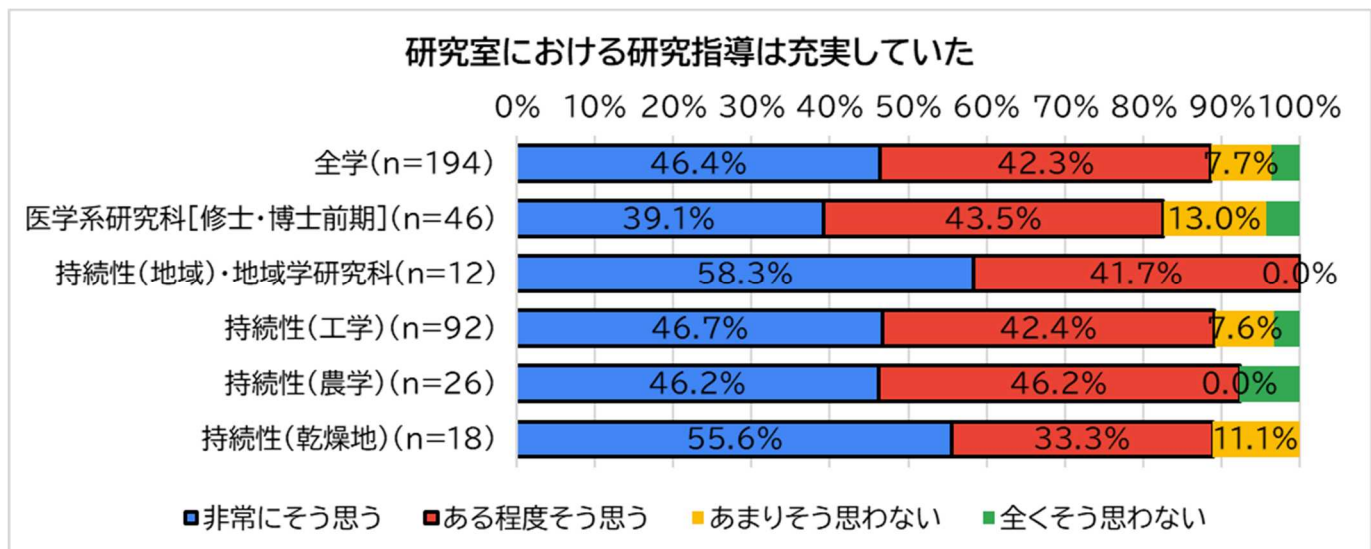
教育・研究の充実度(7/10)

<授業内容> <研究指導>

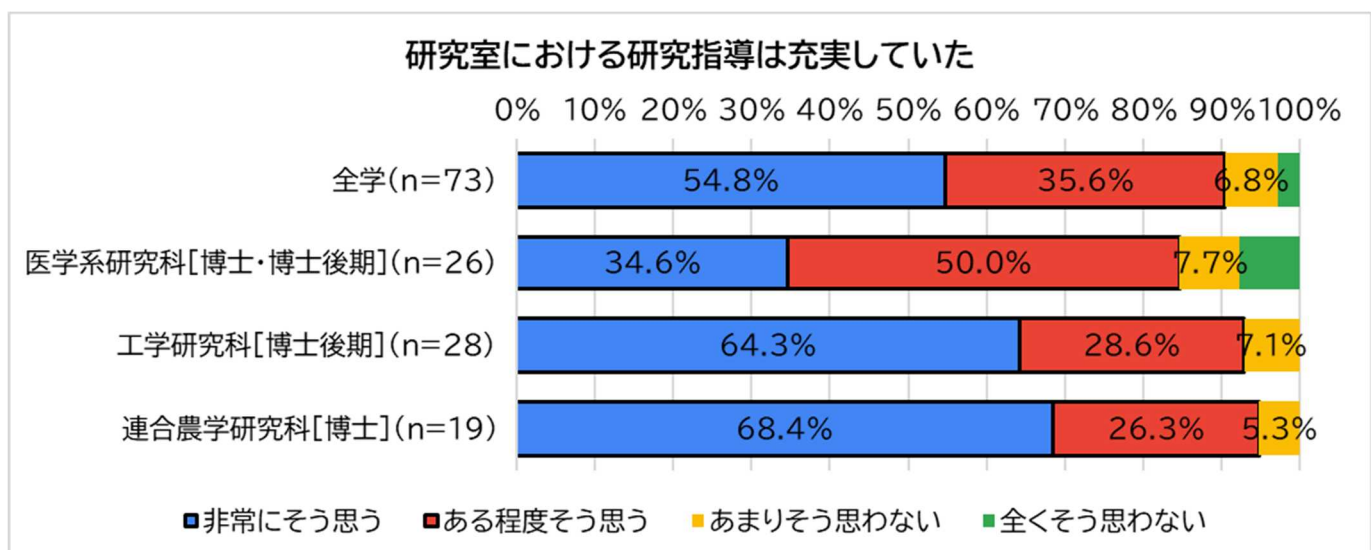
・「研究室における研究指導は充実していた」に対しては、全学での肯定的回答は88.7%(前期), 90.4%(後期)だった。特に地域学専攻が100%と高く、最も低い修士・博士前期の医学系研究科でも82.6%と8割を超える結果だった。

研究室における研究指導は充実していた

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



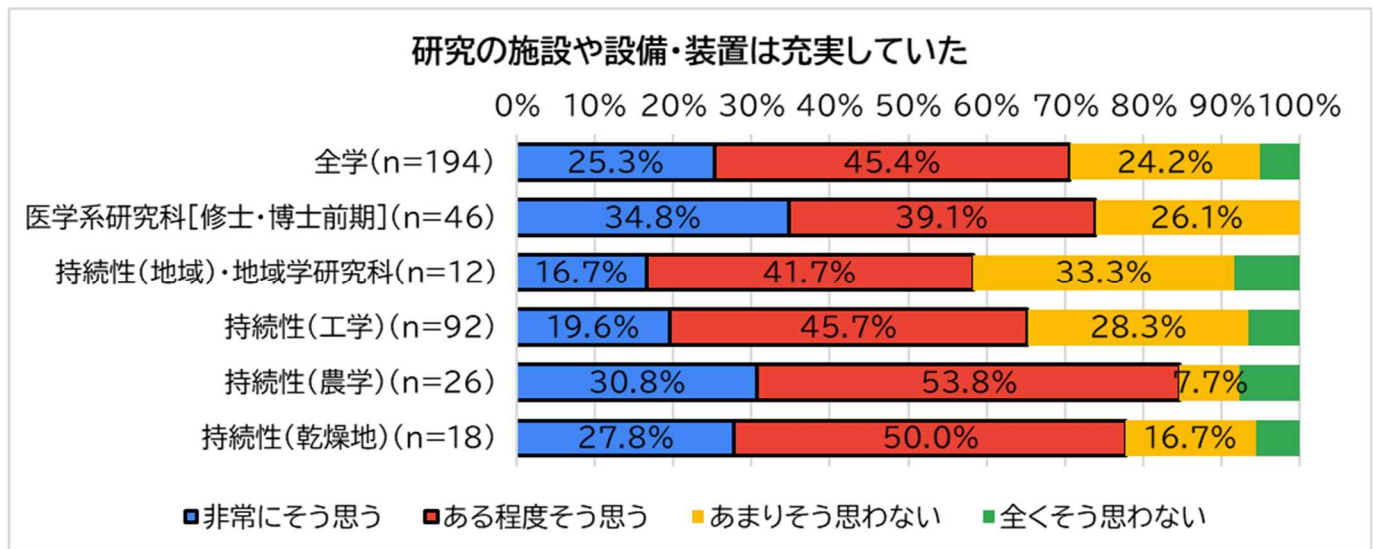
教育・研究の充実度(8/10)

<施設・設備> <学術面での研究業績>

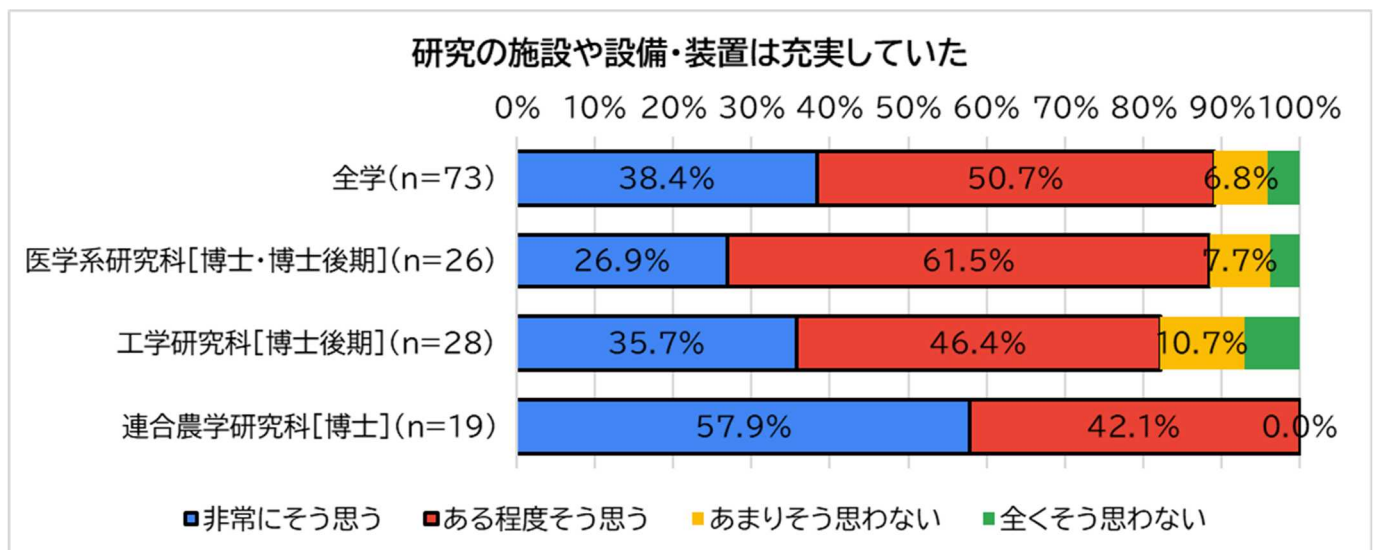
「研究の施設や設備・装置は充実していた」に対して、肯定的回答は全学の修士・博士前期で70.7%だったが、博士・博士後期では89.1%と高かった。前期では農学専攻(84.6%)、国際乾燥地科学専攻(77.8%)と高く、工学専攻(65.3%)、地域学専攻(58.4%)と低い結果となった。後期は連合農学研究科で特に高く100%、他の専攻でも8割を超えていた。

研究の施設や設備・装置は充実していた

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



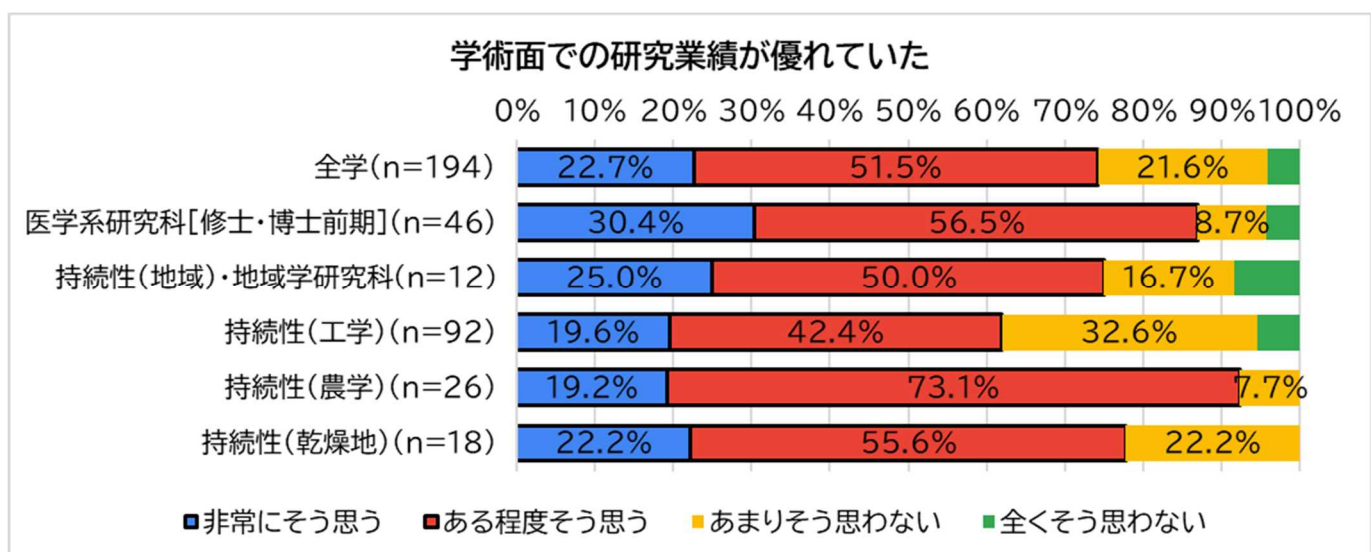
教育・研究の充実度(9/10)

<施設・設備> <学術面での研究業績>

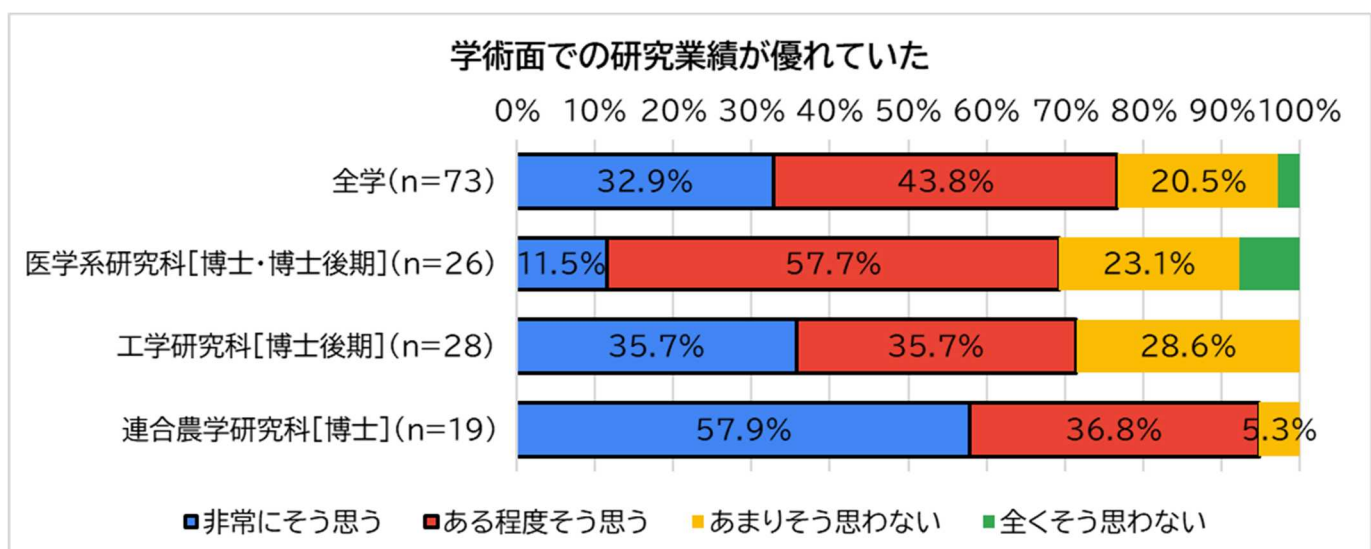
・「学術面での研究業績が優れていた」に対して、肯定的回答は全学でみた前期で74.2%，後期で76.7%だった。農学専攻，連合農学研究科で9割を超えて高く，工学専攻が6割，工学研究科が7割を超える程度となった。医学系研究科も7割を切る結果だった。

学術面での研究業績が優れていた

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



教育・研究の充実度(10/10)

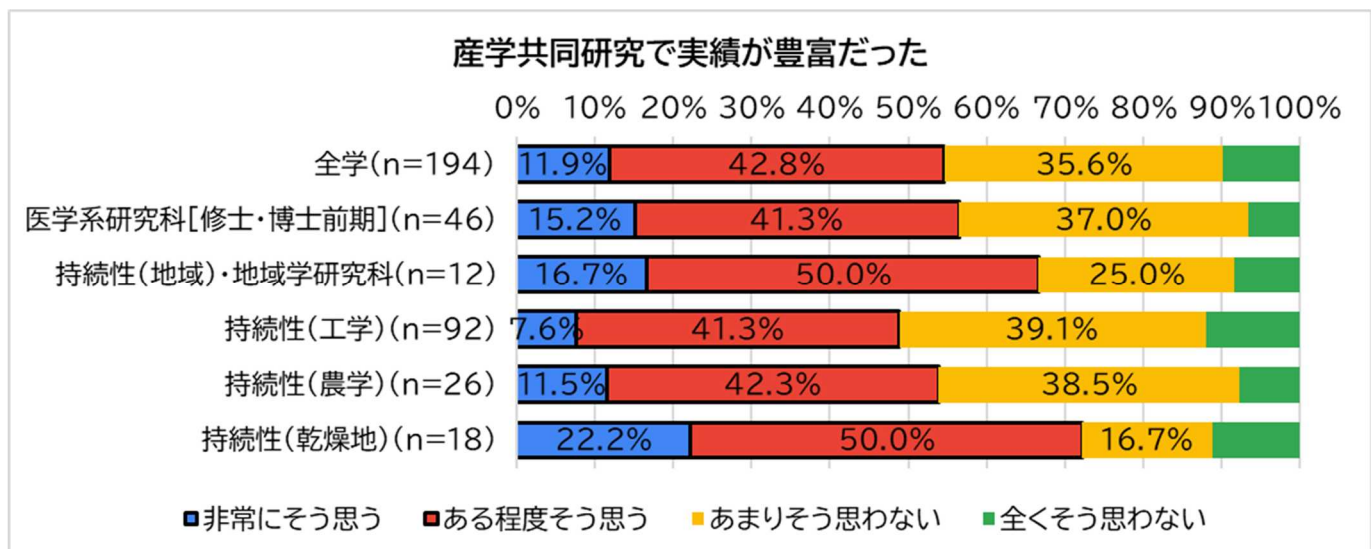
<産学共同研究での実績>

・「産学共同研究で実績が豊富だった」に対しては、全学での肯定的回答は修士・博士前期で 54.7%，博士・博士後期で 67.1%と他の項目に比べて低くなった。

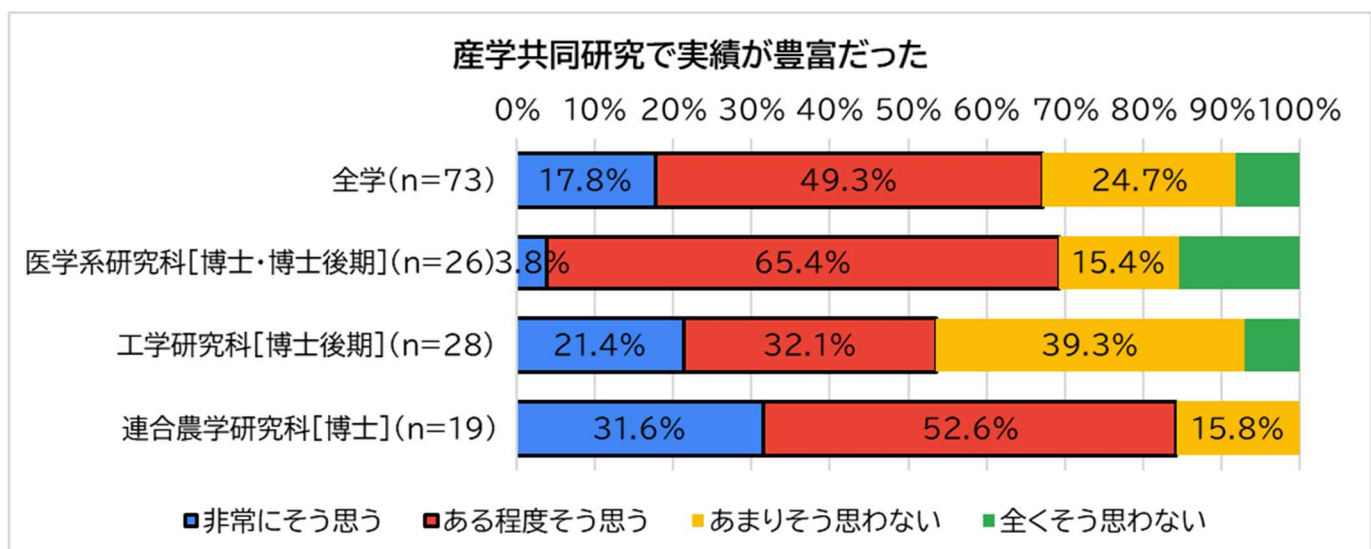
専攻別では、国際乾燥地科学専攻(72.2%)，連合農学研究科(84.2%)が高く，工学専攻，工学研究科では 5 割程度かそれをわずかに下回った。

産学共同研究で実績が豊富だった

(修士・博士前期課程)



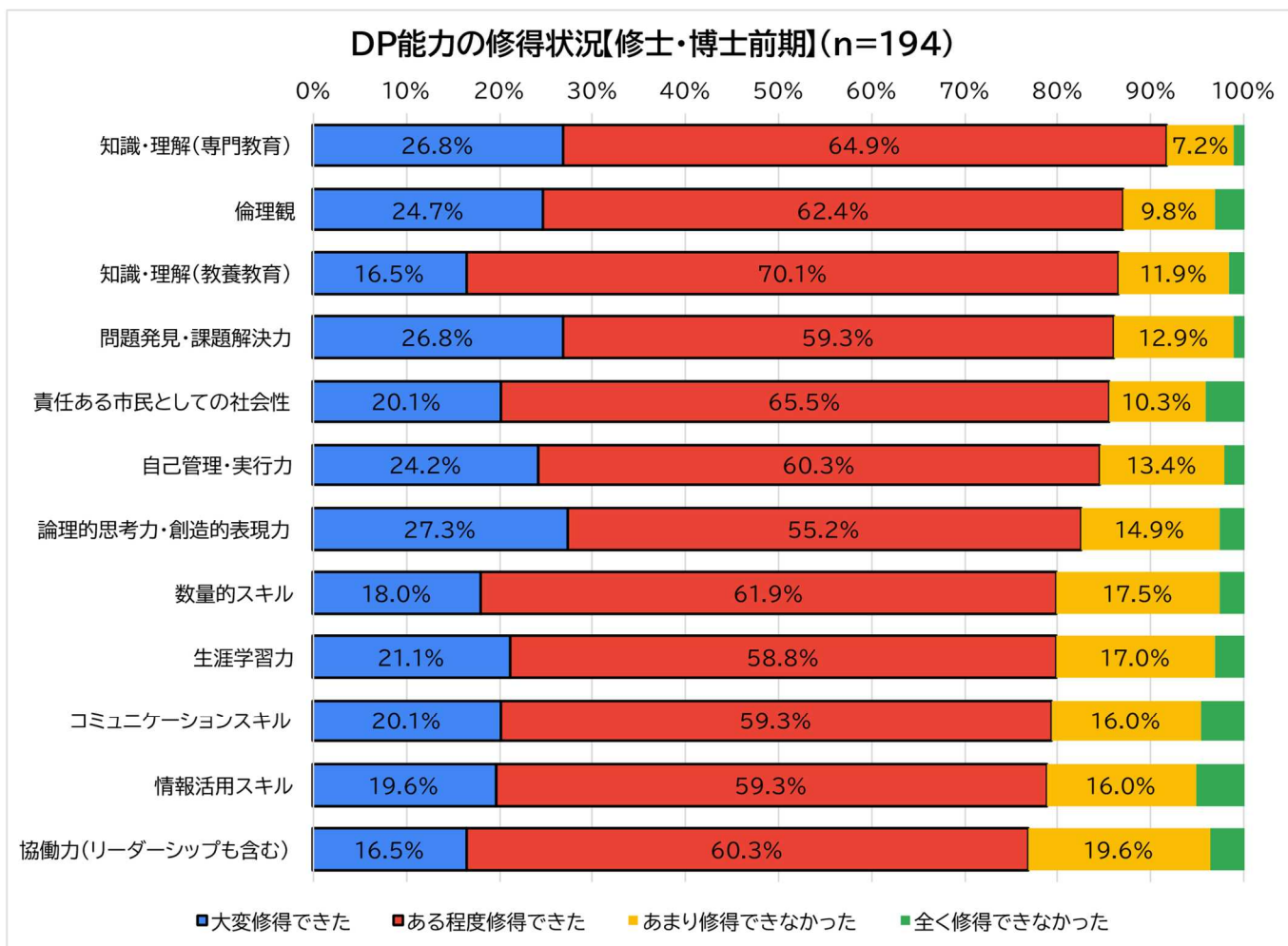
(博士・博士後期課程)



大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(1/14) <全学>

・大学院修士・博士前期課程での研究や専門教育を通じて修得できた（「大変修得できた」+「ある程度修得できた」） DP 能力は「知識・理解(専門教育)」が 91.7%と高く、「倫理観」、「知識・理解(教養教育）」、「問題発見・課題解決力」、「責任ある市民としての社会性」、「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」の順で 8 割を超えた。8 割を切ったものは、「数量的スキル」、「生涯学習力」、「コミュニケーションスキル」、「情報活用スキル」、「協働力(リーダーシップを含む)」だった。また、「全く修得できなかった」との回答がそれぞれ数%見られる点には留意する必要がある。(なお全体を通じて見ると、特定の回答者が全ての設問に否定的な回答をしている感も否めない。)

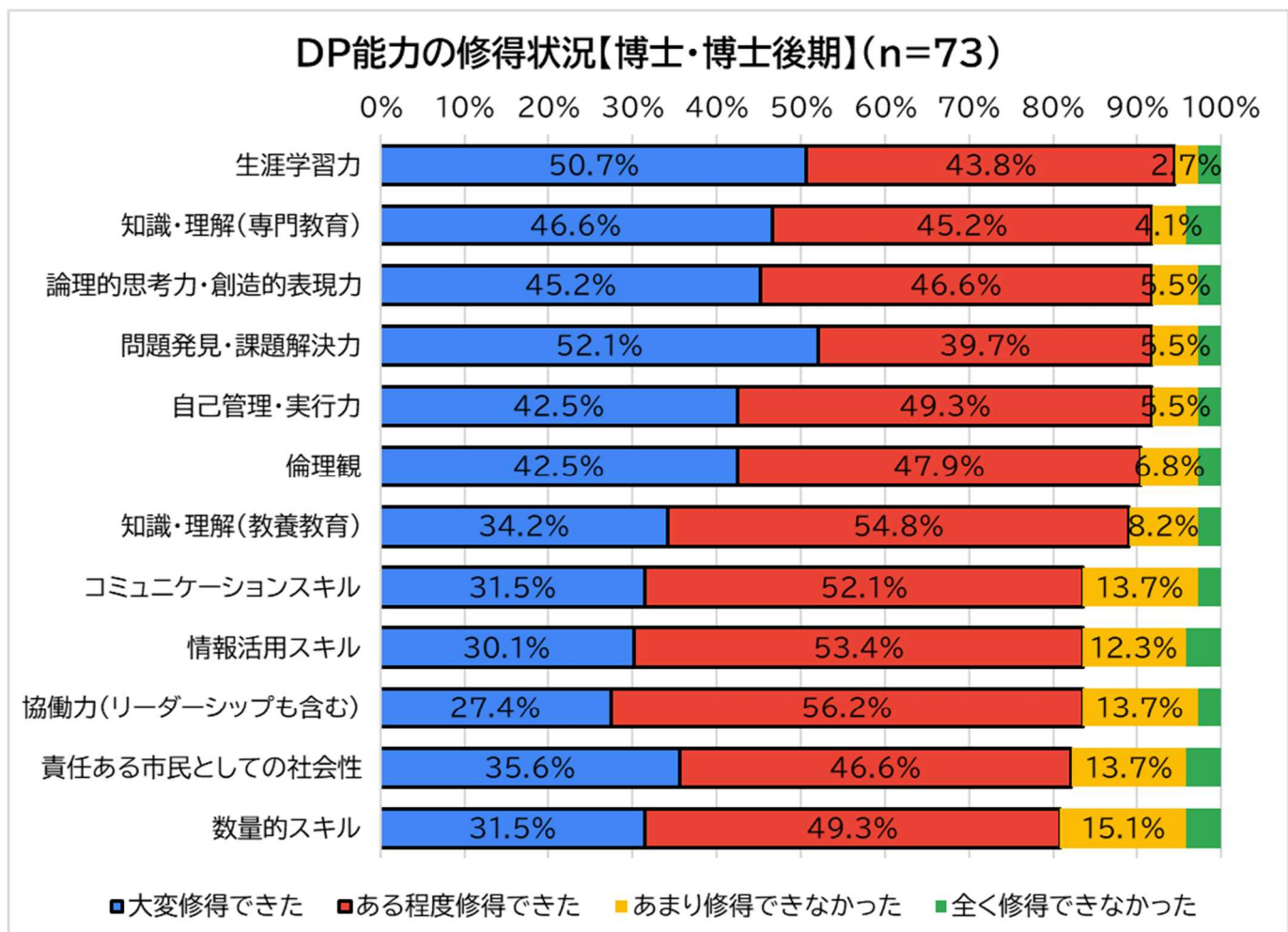
【全学】大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力 (修士・博士前期課程)



大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(2/14) 〈全学〉

・大学院博士・博士後期課程では、「大変修得できた」+「ある程度修得できた」 DP 能力は「生涯学習力」が 94.5%と最も高く、「知識・理解(専門教育)」「論理的思考力・創造的表現力」,「問題発見・課題解決力」,「自己管理・実行力」,「倫理観」が 9 割を超えた。「数量的スキル」が 80.8%と最も低かったが、その他の設問を含め 8 割を超える修得度となった。

(博士・博士後期課程)

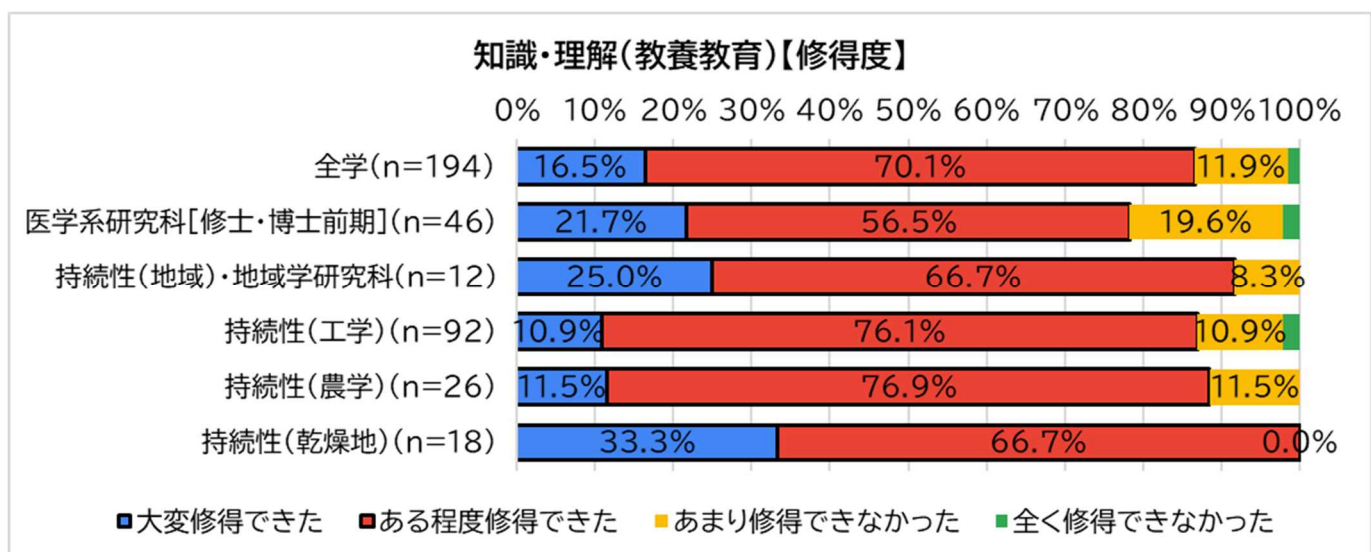


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(3/14) <知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

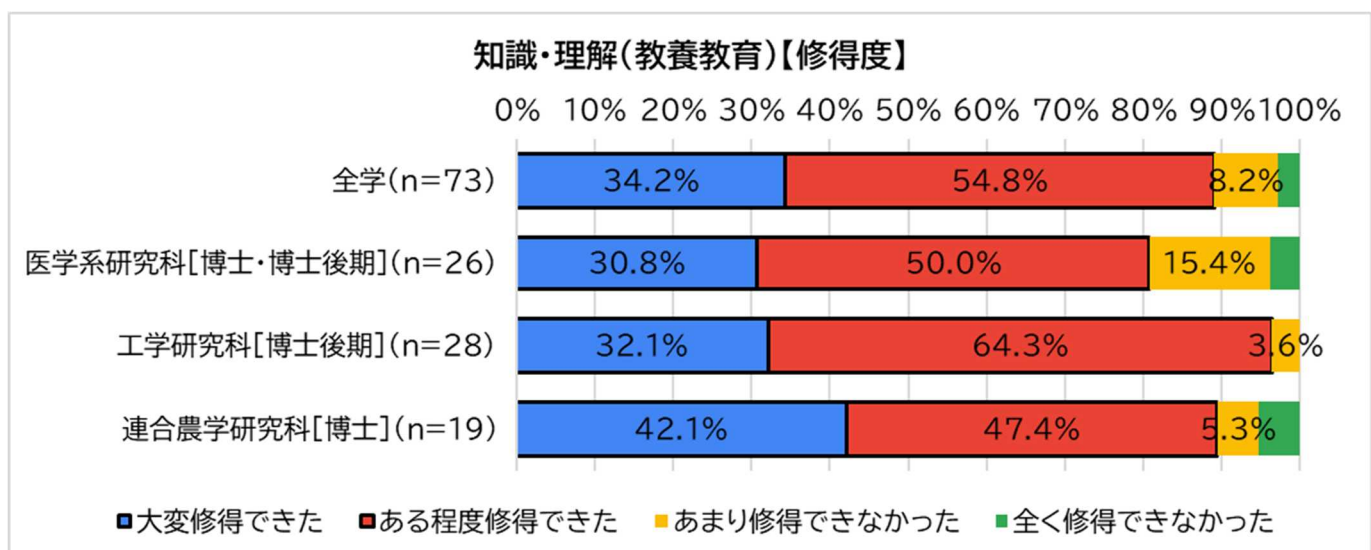
・「知識・理解（教養教育）」の修得度は全学で 86.6%(前期), 89.0%(後期)だった。医学系研究科が前・後期ともに 8 割程度にとどまるものの、国際乾燥地科学専攻の 100%をはじめ、他の専攻・研究科で 9 割前後の結果となった。

知識・理解（教養教育）

（修士・博士前期課程）



（博士・博士後期課程）

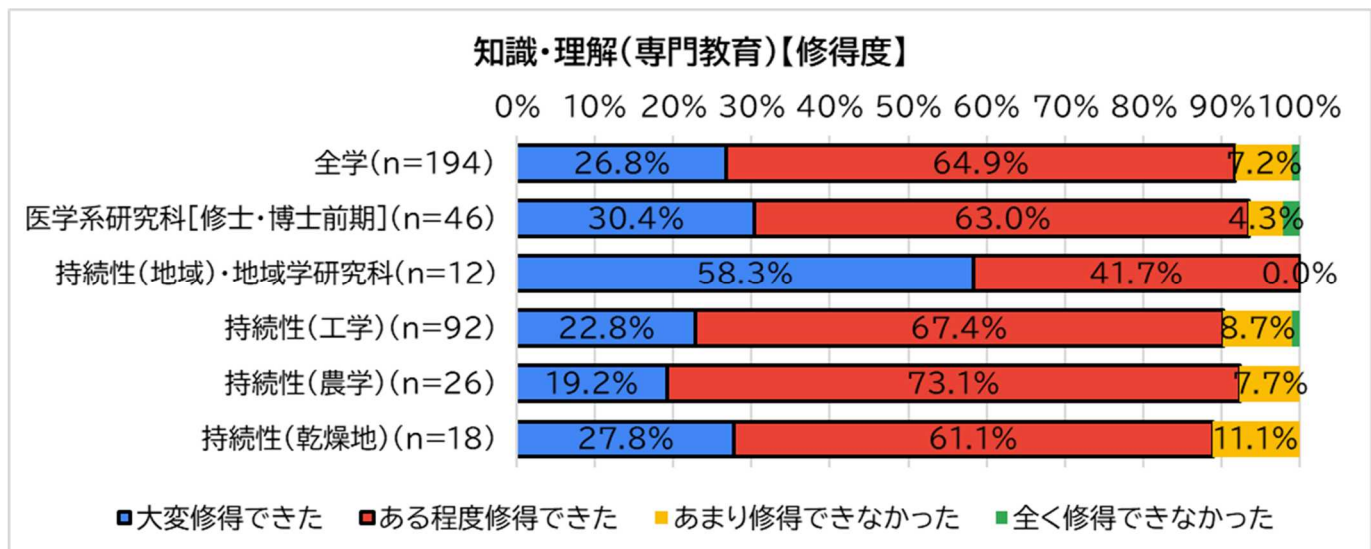


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(4/14) <知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

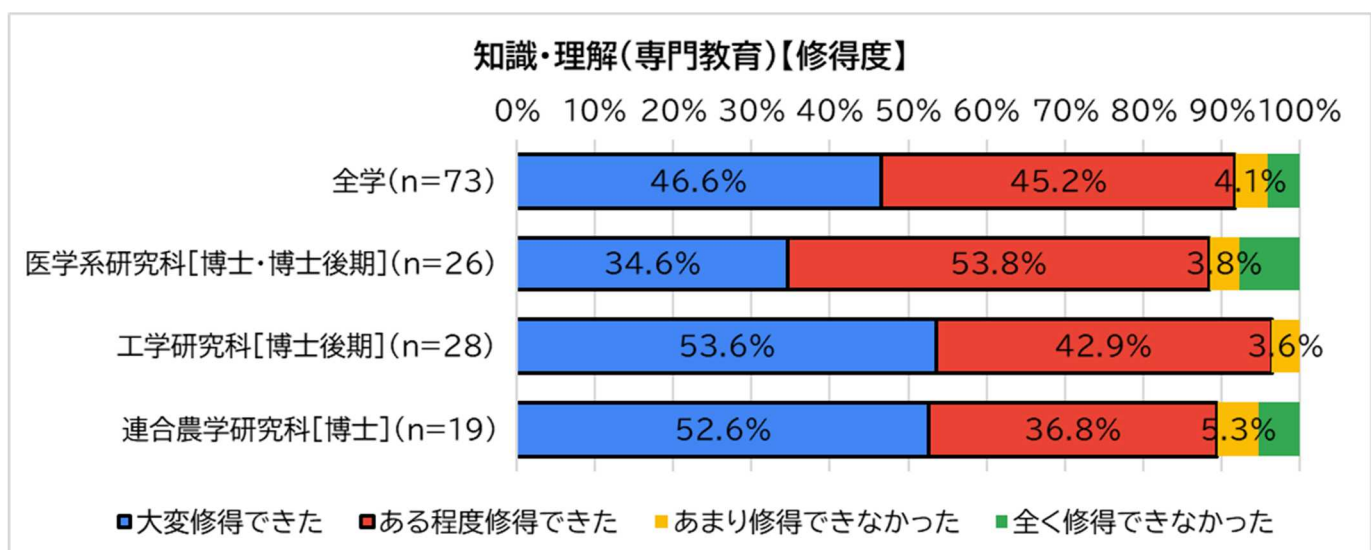
・「知識・理解（専門教育）」の修得度は、全学で 91.7%(前期), 91.8%(後期)だった。全ての専攻で 9 割程度以上であり、特に地域学専攻は 100%となった。

知識・理解（専門教育）

（修士・博士前期課程）



（博士・博士後期課程）

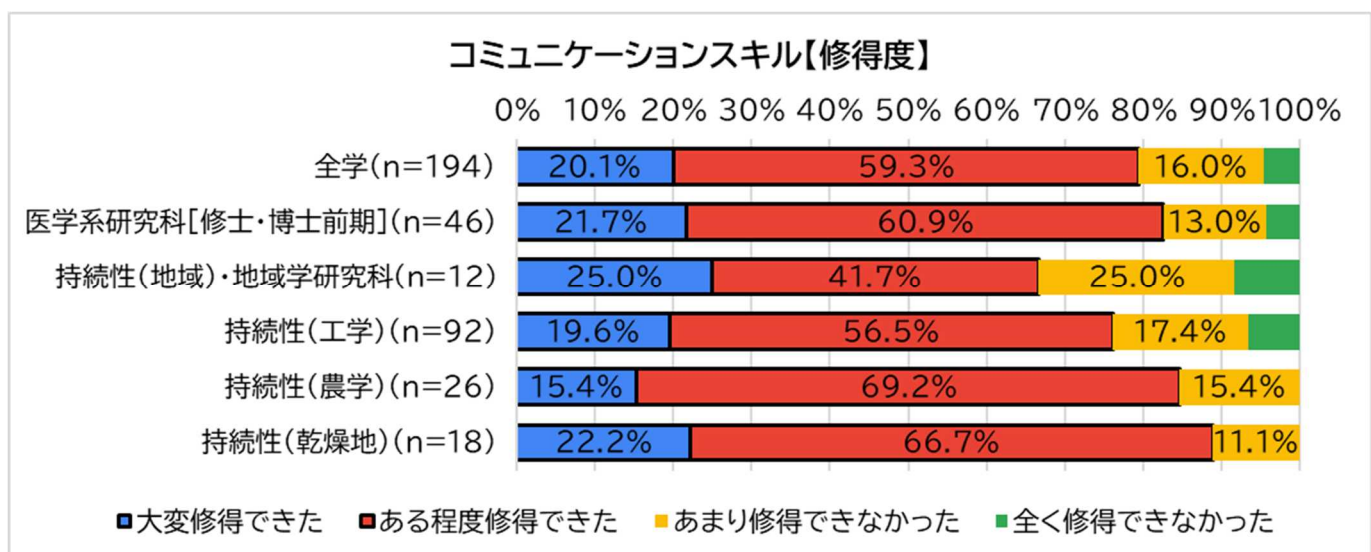


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(5/14) <コミュニケーションスキル>

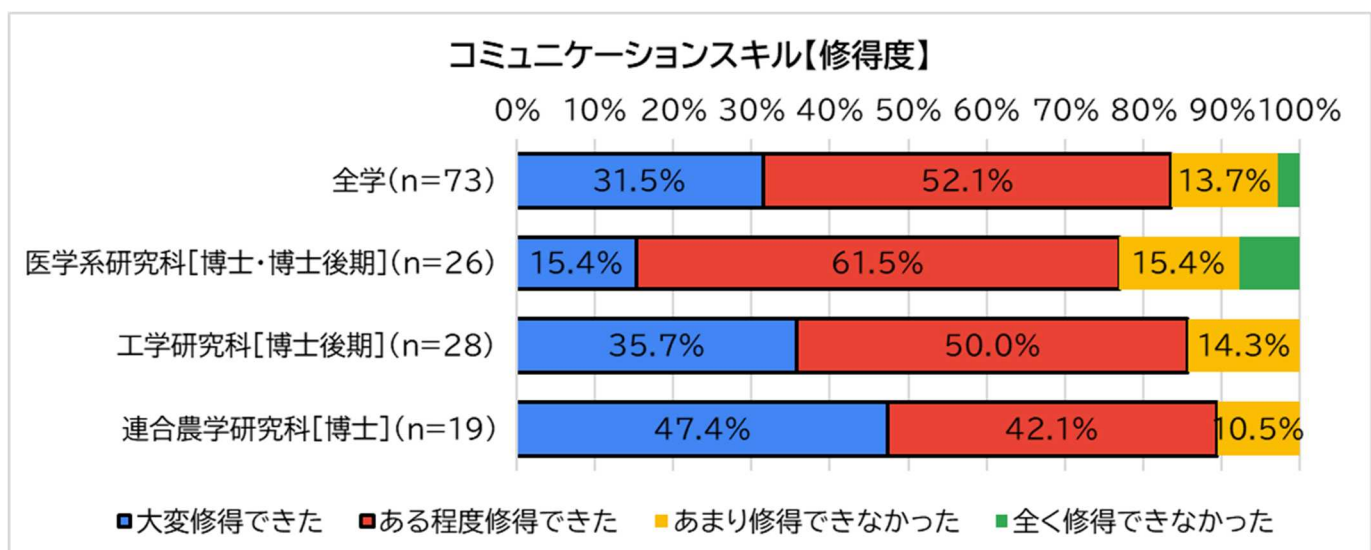
・「コミュニケーションスキル」は全学で 79.4%(前期), 83.6%(後期)の修得度だった。連合農学研究科(89.5%), 国際乾燥地科学専攻(88.9%)が高く、地域学専攻(66.7%), 工学専攻(76.1%), 後期医学系研究科(76.9%)が 8 割を切ったが、その他の専攻・研究科では 8 割を超えた。

コミュニケーションスキル

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

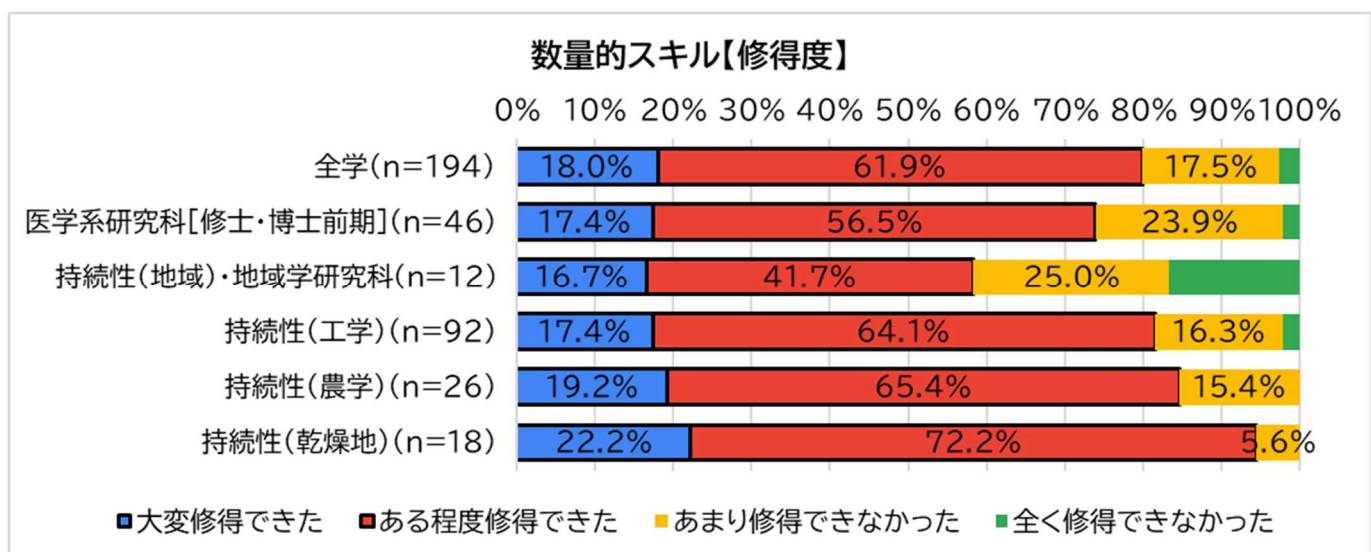


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(6/14) <数量的スキル>

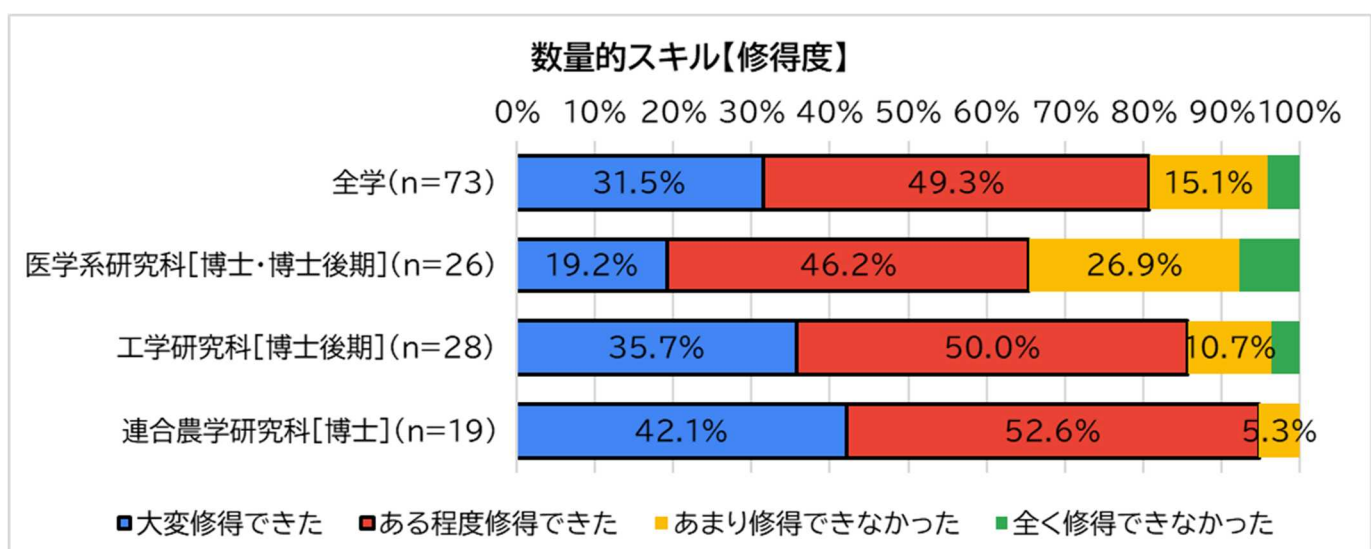
・「数量的スキル」は全学で 79.9%(前期), 80.8%(後期)の修得度だった。国際乾燥地科学専攻(94.4%), 連合農学研究科(94.7%)が高く, 地域学専攻(58.4%), 後期医学系研究科(65.4%)が目立って低く, 他は前期医学系研究科(73.9%)を除いて 8 割以上だった。

数量的スキル

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

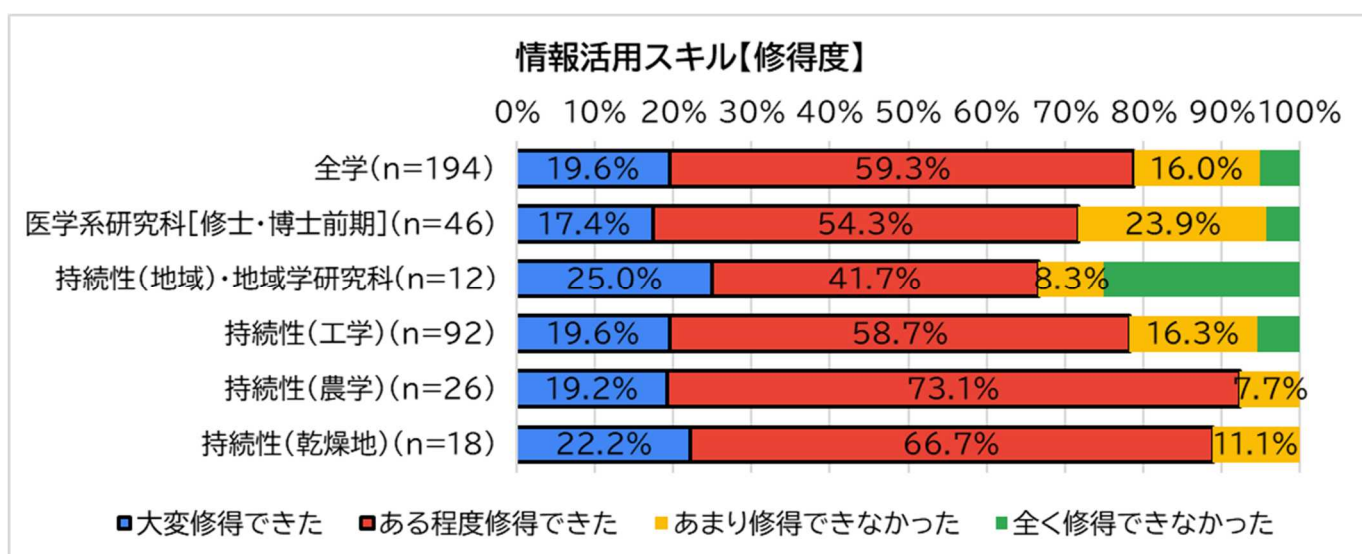


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(7/14) <情報活用スキル>

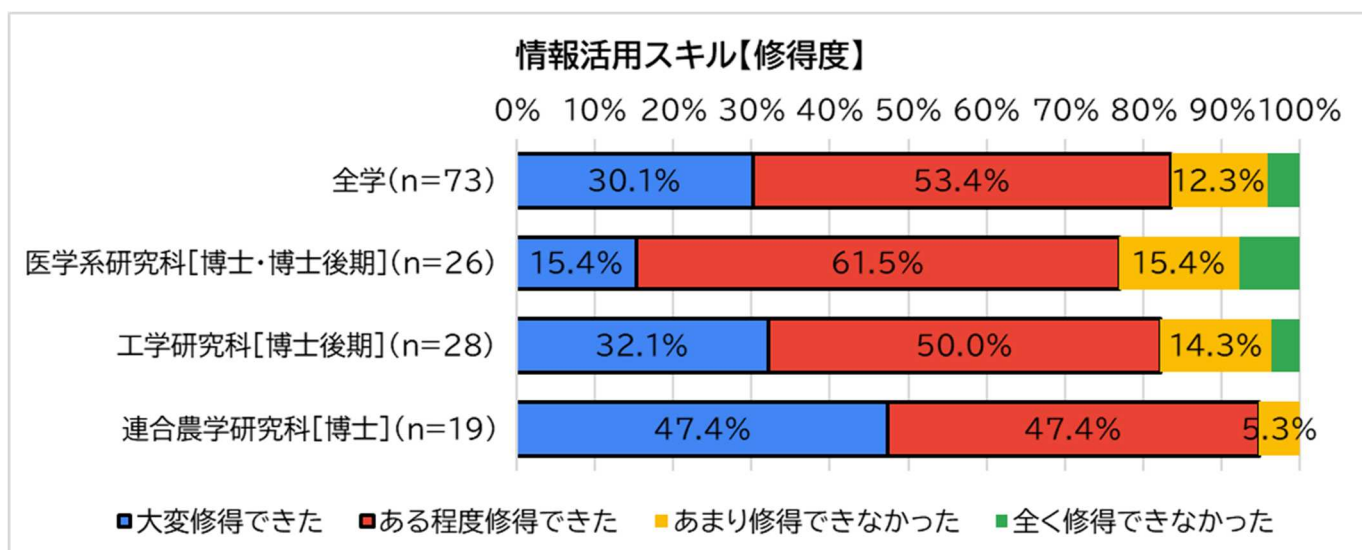
・「情報活用スキル」の全学での修得度は 78.9%(前期), 83.5%(後期)となった。前期医学系研究科で 71.7%, 後期医学系研究科で 76.9%, 地域学専攻で 66.7%, 工学専攻で 78.3%となったことを除くと, 他は 8 割を超えており, 農学専攻, 連合農学研究科は 9 割を超える修得度だった。

情報活用スキル

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

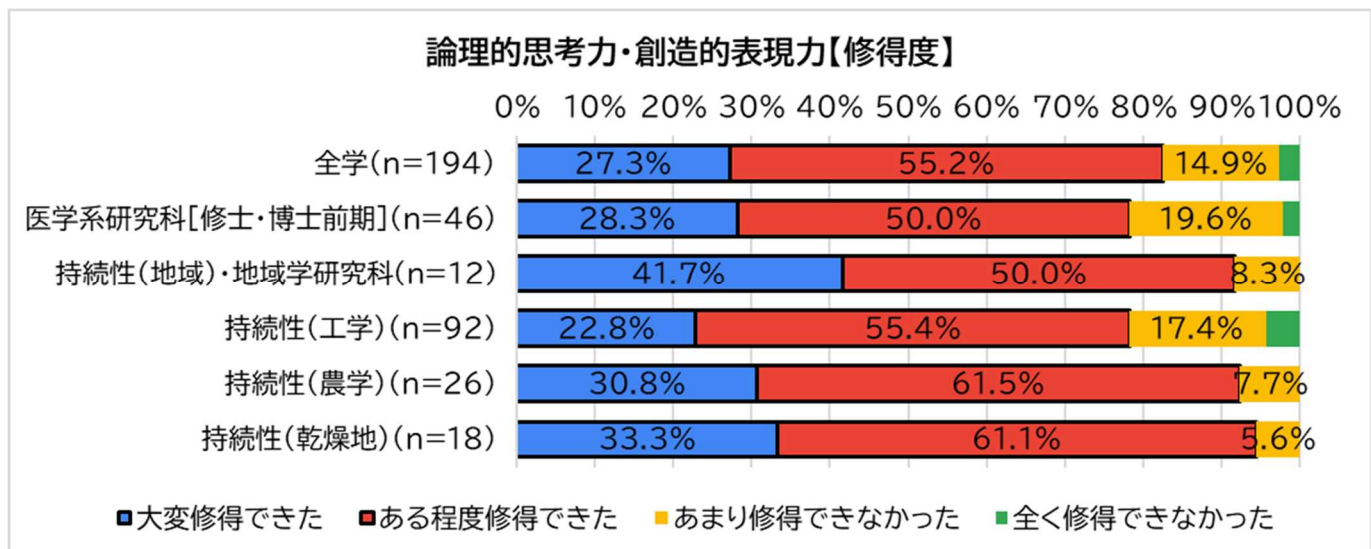


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(8/14) <論理的思考力・創造的表現力>

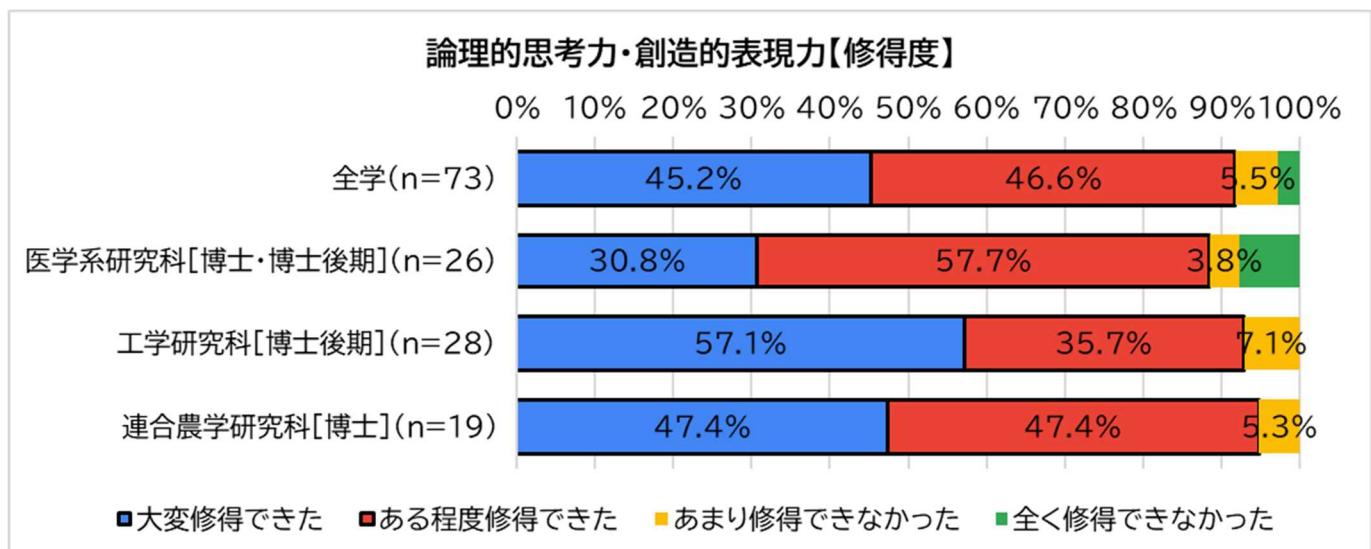
・「論理的思考力・創造的表現力」の全学での修得度は前期で 82.5%，後期で 91.8%だった。前期医学系研究科(78.3%)，工学専攻(78.2%)を除けば他は 8 割を超えた。

論理的思考力・創造的表現力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

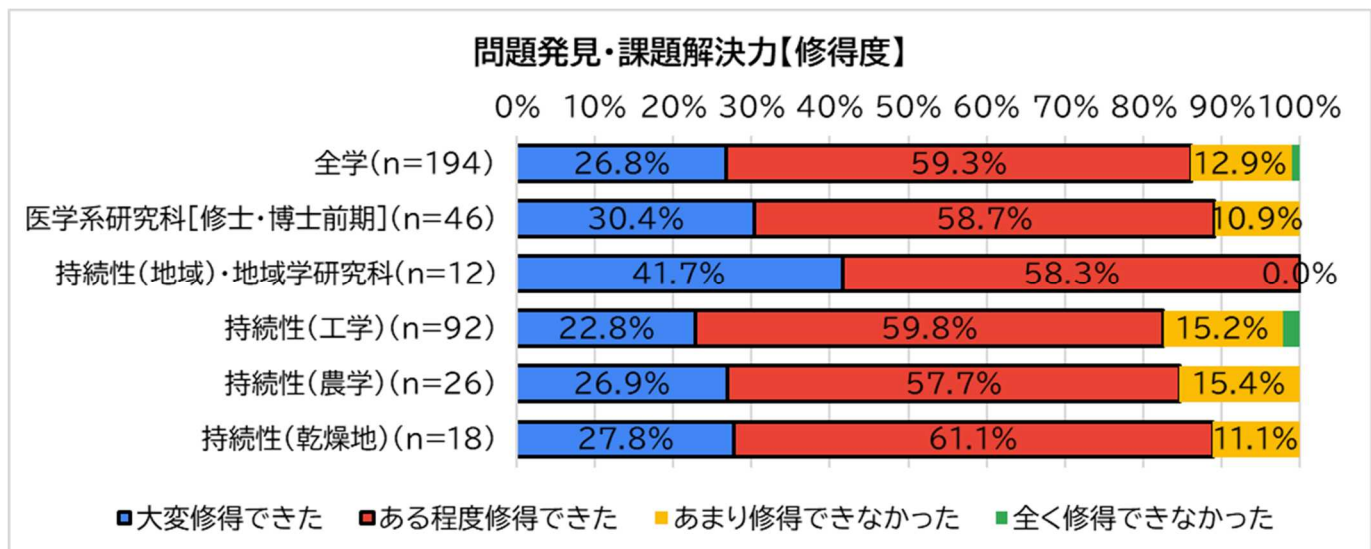


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(9/14) <問題発見・課題解決力>

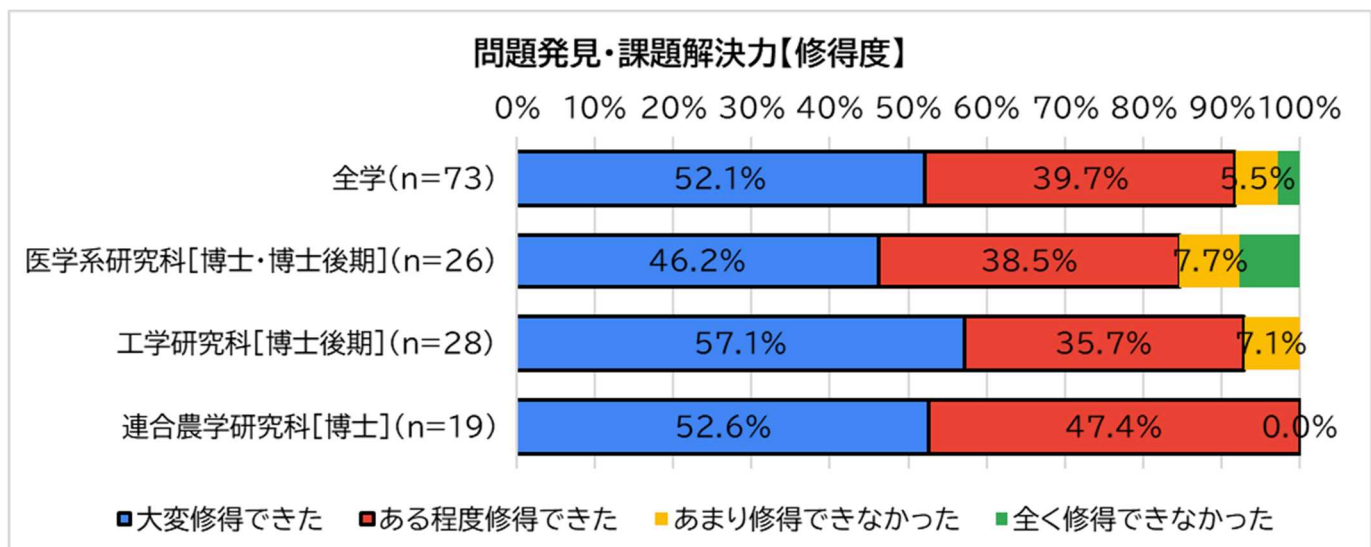
・「問題発見・課題解決力」の全学での修得度は 86.1%(前期), 91.8%(後期)だった。地域学専攻, 連合農学研究科で 100%, 工学研究科で 92.8%の他, 全ての専攻・研究科で 8 割を超えた。

問題発見・課題解決力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

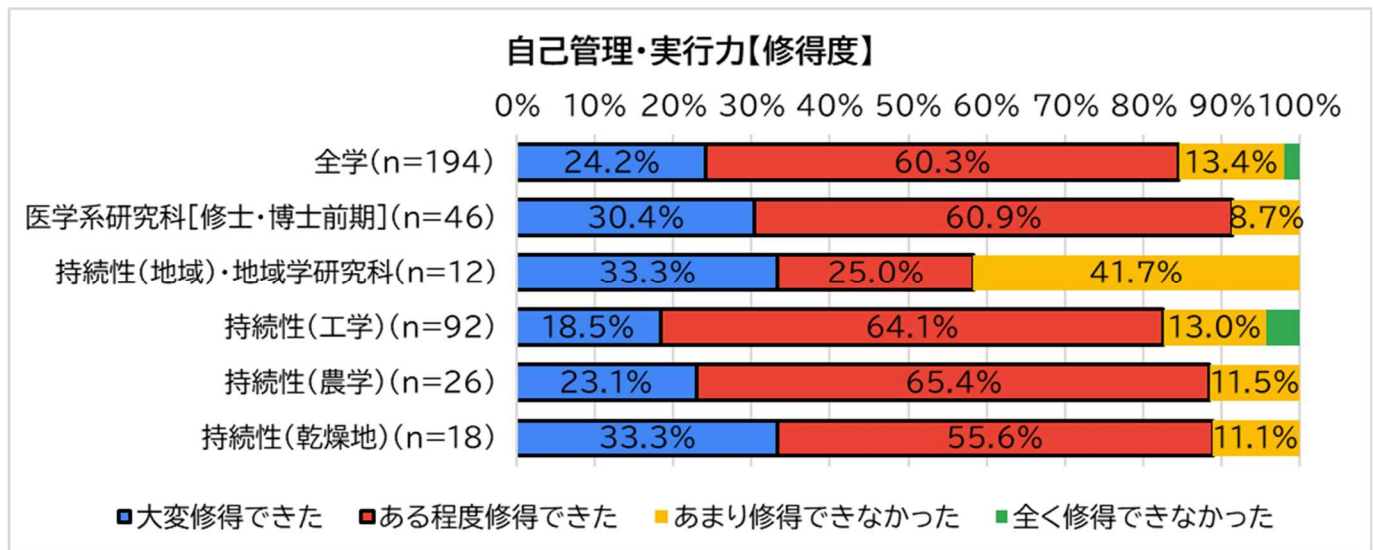


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(10/14) <自己管理・実行力>

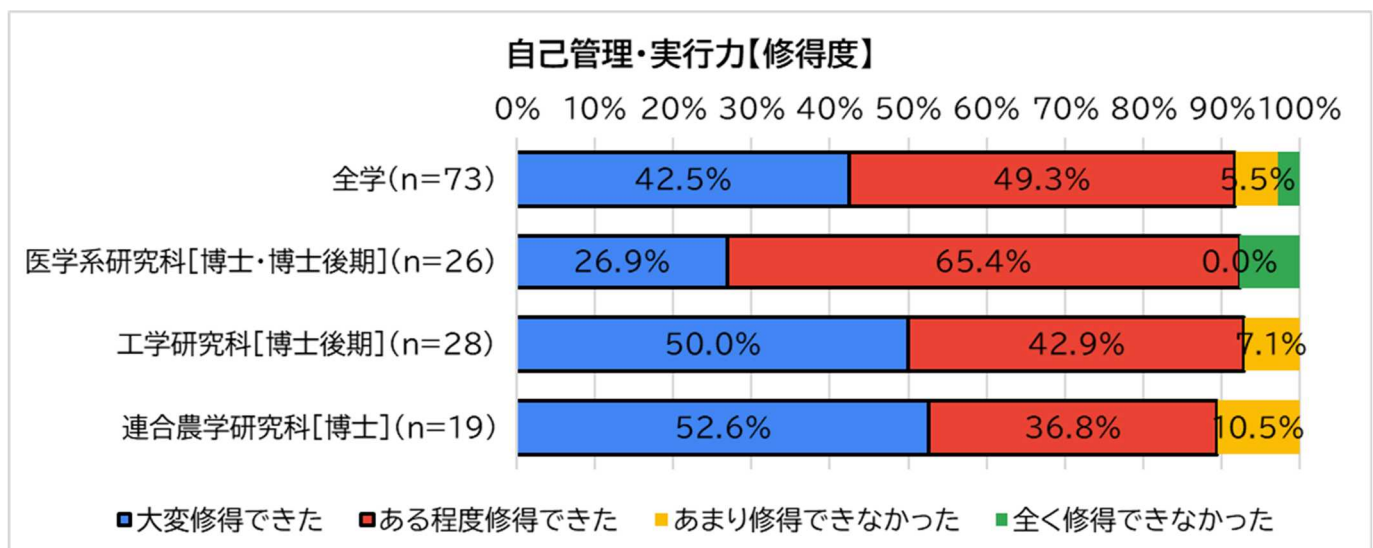
・「自己管理・実行力」の全学での修得度は前期 84.5%，後期 91.8%だった。地域学専攻の 58.3%を除き，全ての専攻・研究科で 8 割以上となった。

自己管理・実行力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

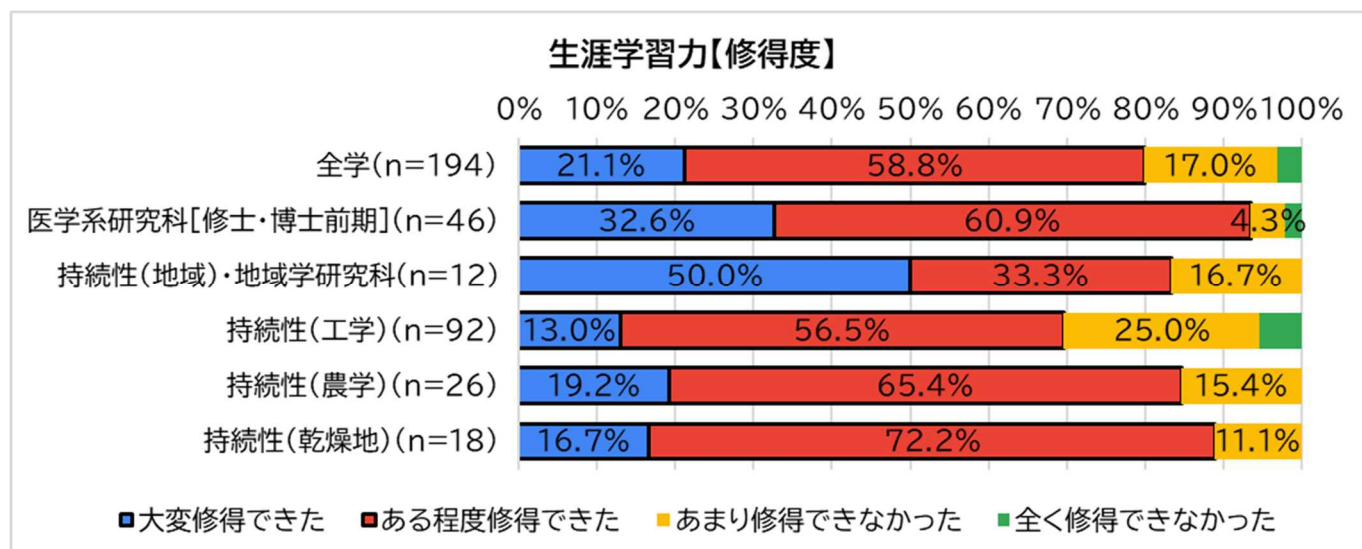


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(11/14) <生涯学習力>

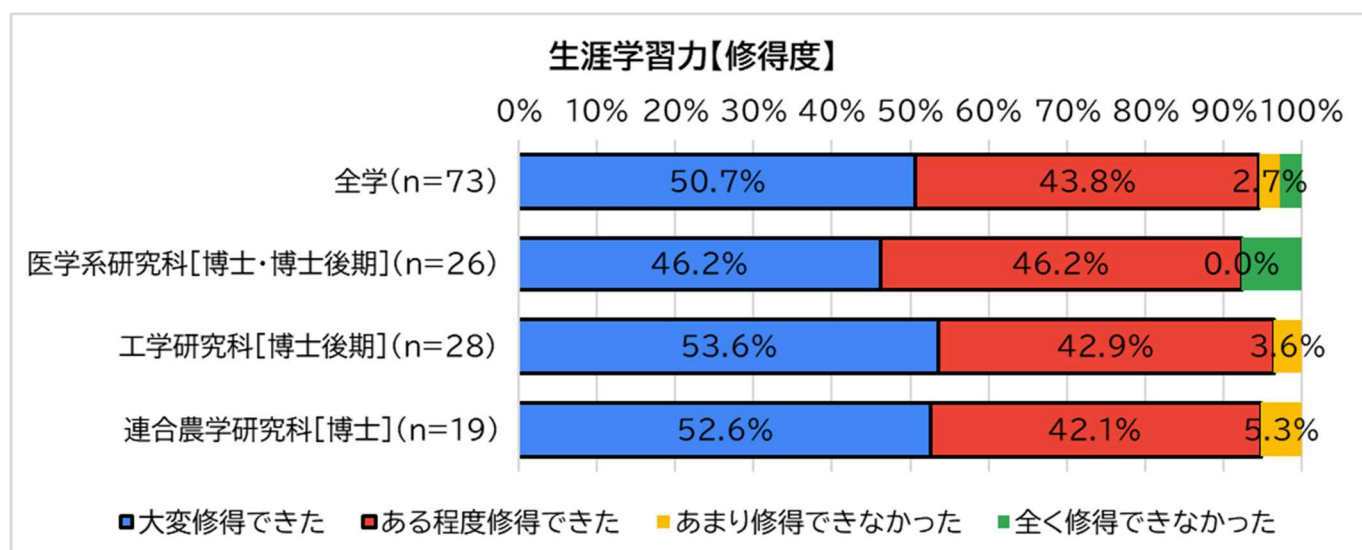
・「生涯学習力」の全学での修得度は 79.9%(前期), 94.5%(後期)だった。工学専攻で 7 割をやや下回った(69.5%)が, 前期のその他の専攻・研究科では 8 割を, 後期の研究科では 9 割を超えた。

生涯学習力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

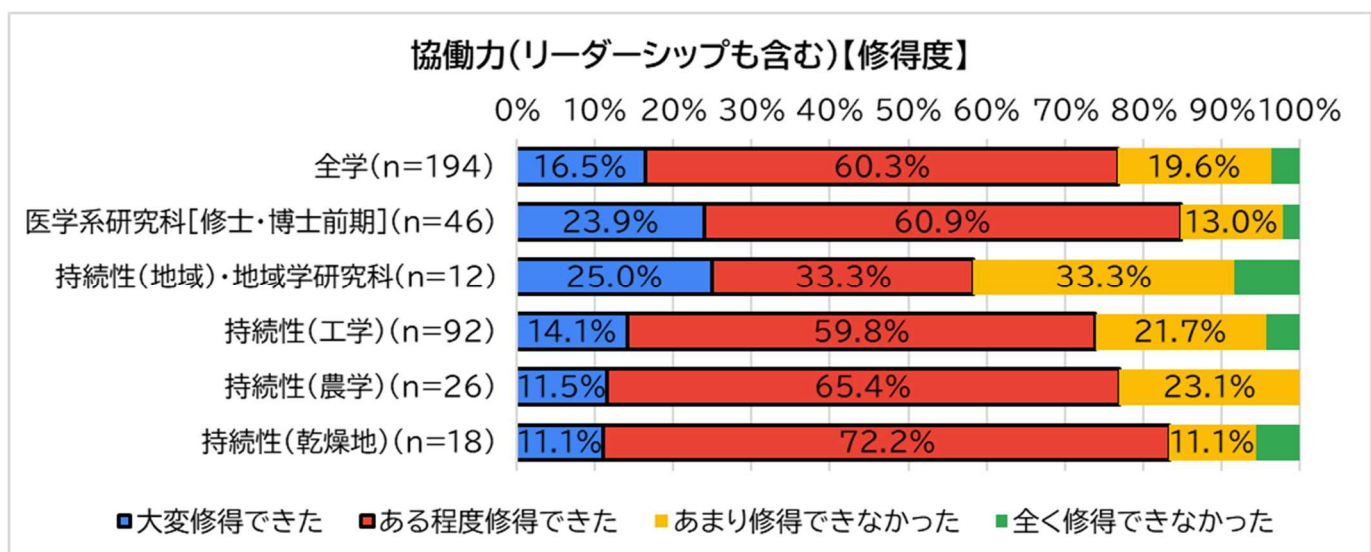


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(12/14) <協働力>

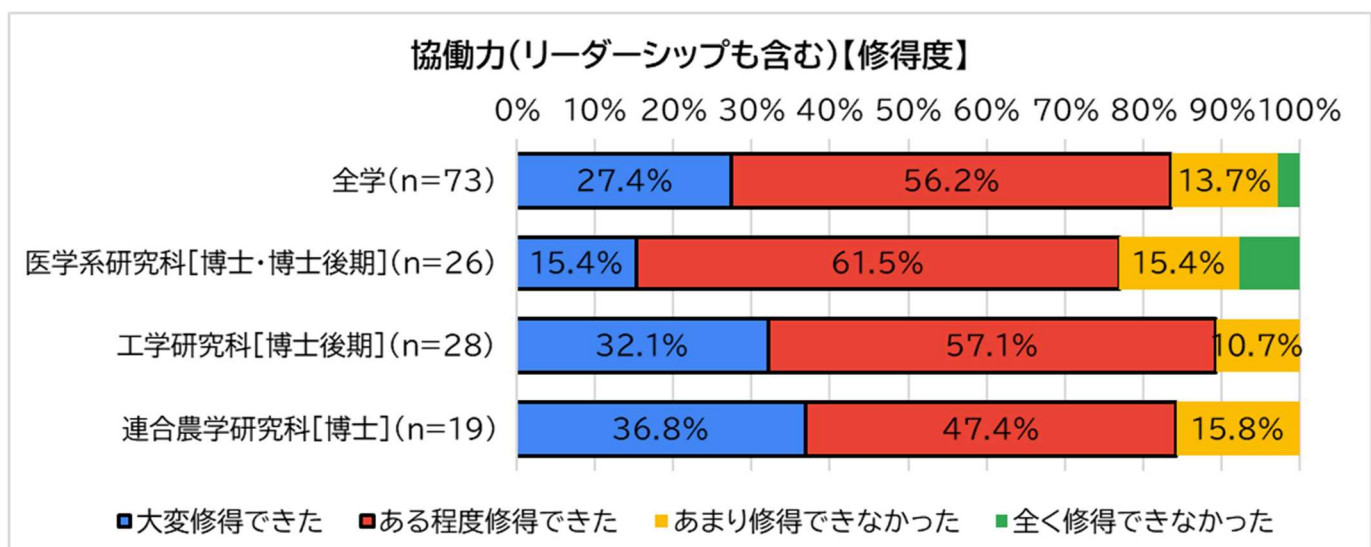
・「協働力（リーダーシップも含む）」の全学での修得度は前期が 76.8%と他の項目に比べて低く、後期は 83.6%だった。前期では地域学専攻が 58.3%，後期では医学系研究科が 76.9%とやや低いものの、他の専攻・研究科では前期で 7～8 割、後期で 8～9 割となった。

協働力（リーダーシップも含む）

（修士・博士前期課程）



（博士・博士後期課程）

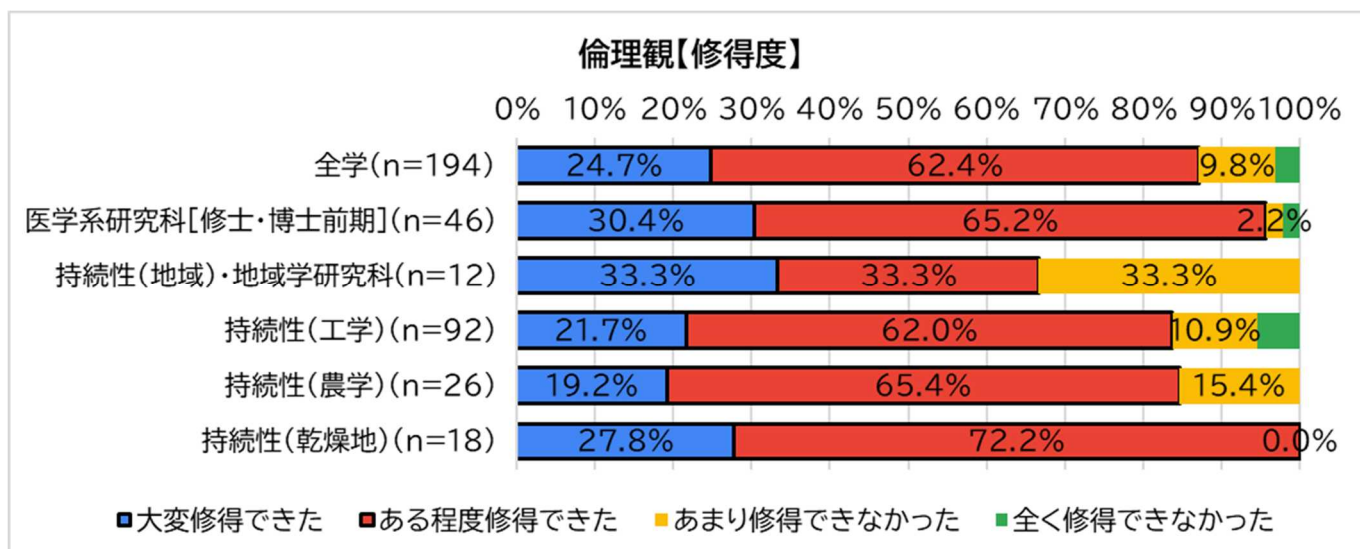


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(13/14) <倫理観>

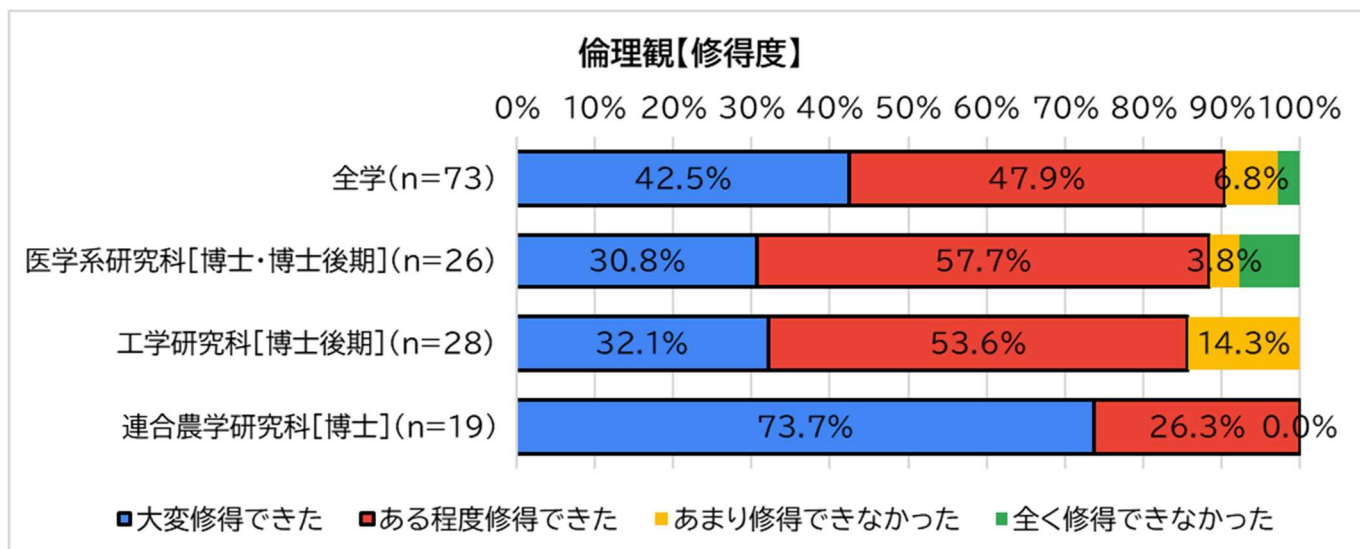
・「倫理観」は全学で 87.1%(前期), 90.4%(後期)の修得度だった。国際乾燥地科学専攻と連合農学研究科が 100%と高く、地域学専攻(66.6%)を除いて概ね 8 割 5 分以上であった。

倫理観

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

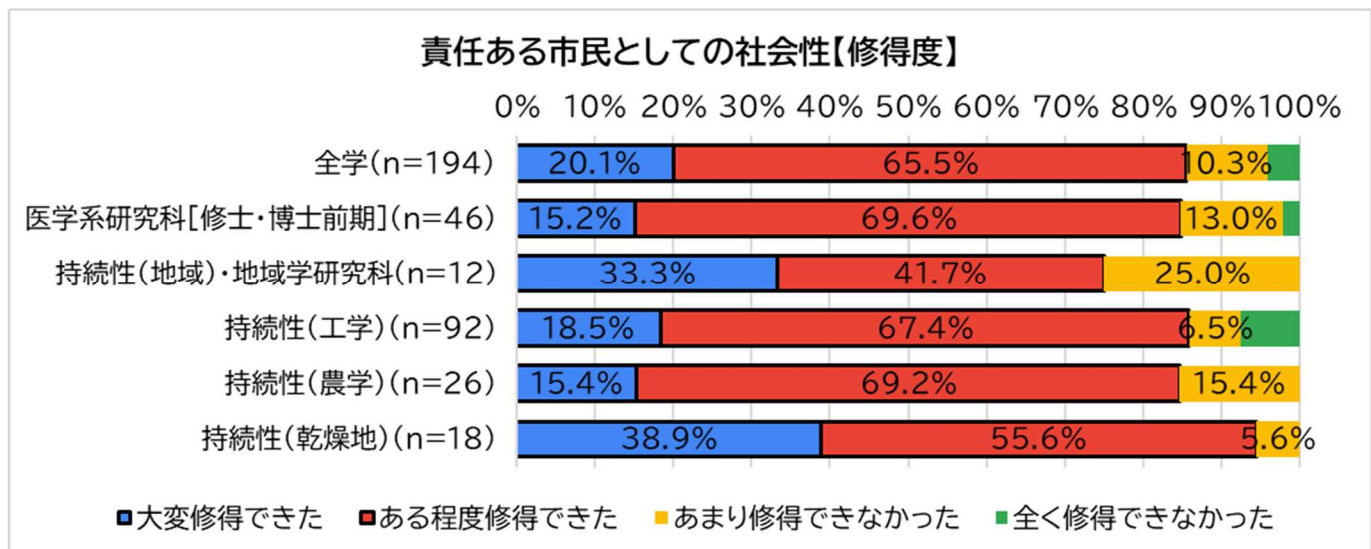


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(14/14) <社会性>

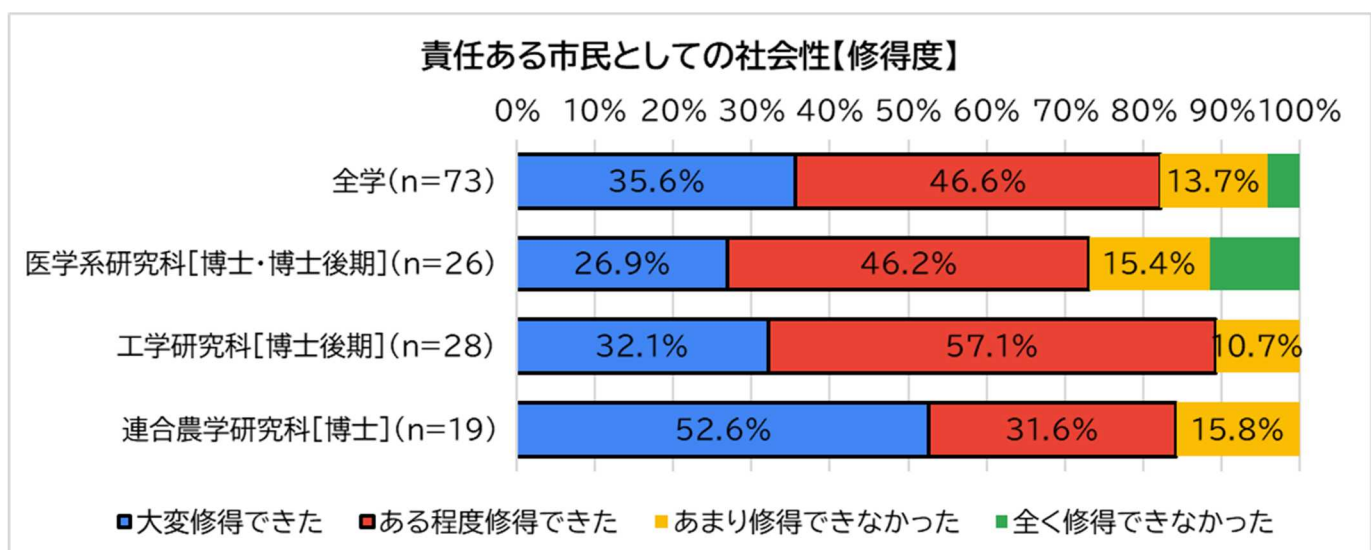
・「責任ある市民としての社会性」は全学で 85.6%(前期), 82.3%(後期)の修得度だった。国際乾燥地科学専攻は 94.4%と高く、地域学専攻で 75.0%, 後期医学系研究科で 73.1%の他は 8 割以上となった。

責任ある市民としての社会性

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



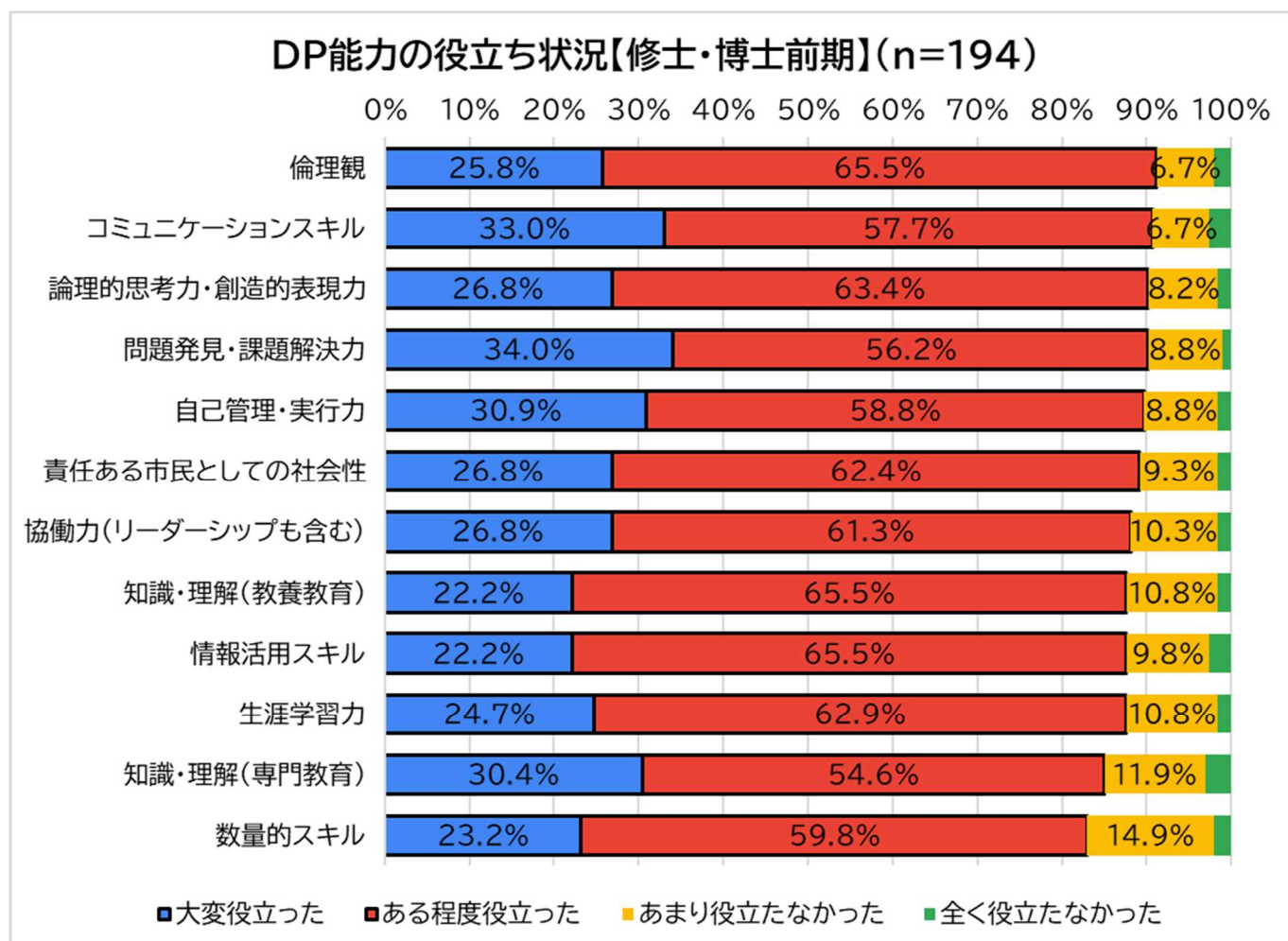
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(1/14)

<全学>

・修士・博士前期課程において、社会に出て教育成果として「役立った」（「大変役立った」+「ある程度役立った」）DP 能力は、特に「倫理観」、「コミュニケーションスキル」、「論理的思考力・創造的表現力」、「問題発見・課題解決力」が9割を超え、最も低い「数量的スキル」でも83.0%と、ほぼ全てにおいて8割以上と高かった。「知識・理解(専門教育)」が85.0%とやや低い結果となっているが、「大変役立った」の回答は3割を超え、他の項目に比べても高い部類となった。

【全学】社会に出て教育成果として役立った DP 能力

(修士・博士前期課程)

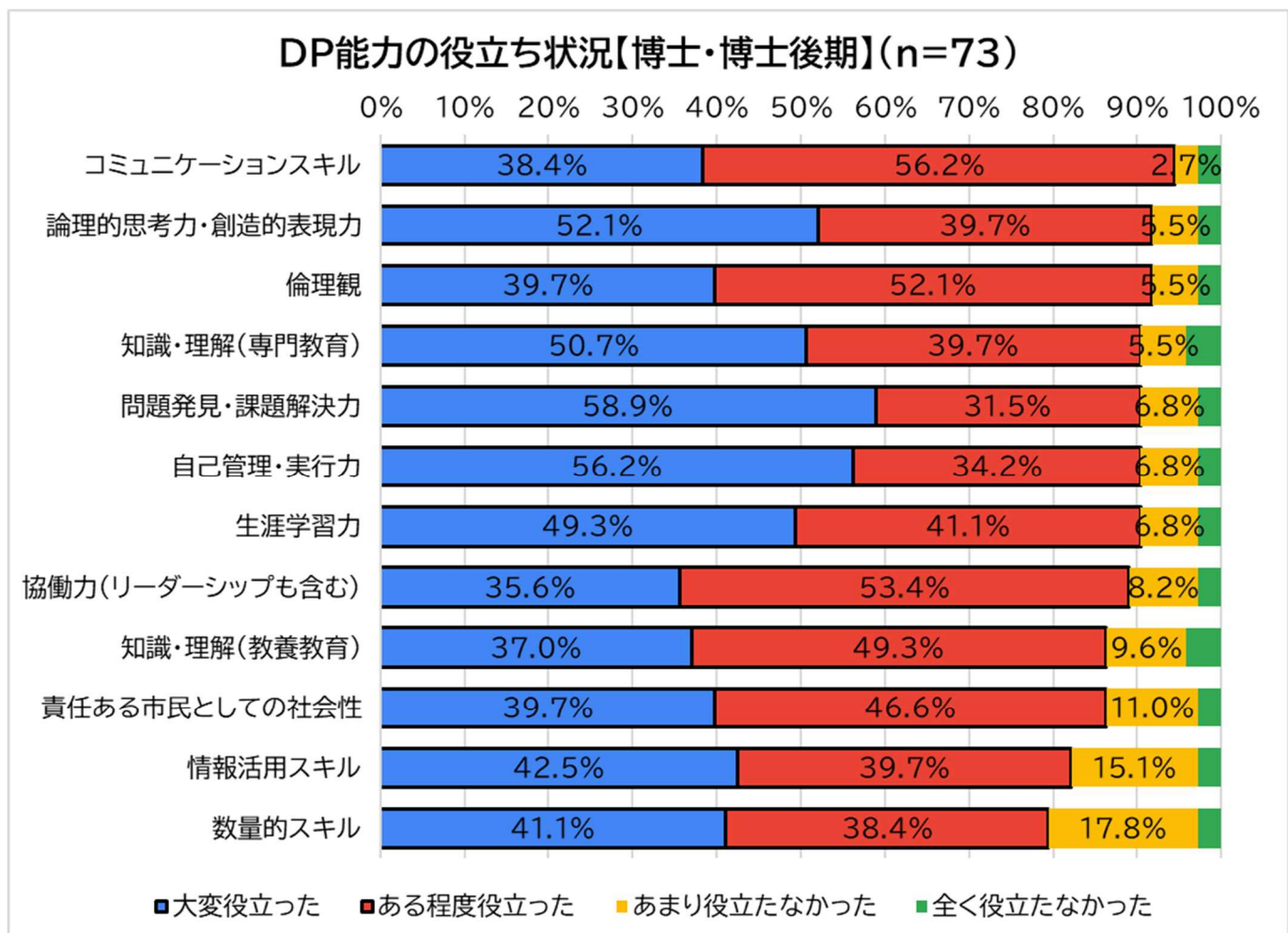


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(2/14)

<全学>

・博士・博士後期課程において、社会に出て教育成果として「役立った」（「大変役立った」+「ある程度役立った」）DP 能力は、「コミュニケーションスキル」が 94.6%と最も高く、「論理的思考力・創造的表現力」、「倫理観」、「知識・理解(専門教育)」、「問題発見・課題解決力」、「論理的思考力・創造的表現力」、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」と大半が9割を超え、「大変役立った」の回答も5割を超えているものが多い。一方で、「数量的スキル」が8割を下回り、「情報活用スキル」が82.2%とやや低い結果となった。

(博士・博士後期課程)



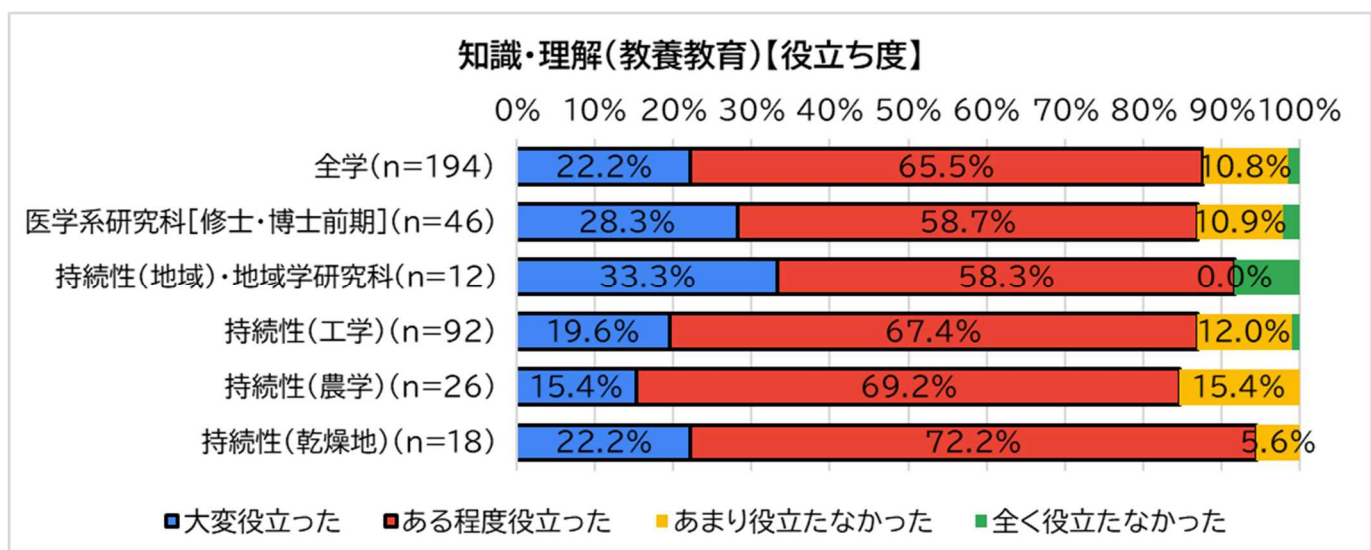
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(3/14)

<知識・理解（教養教育）>

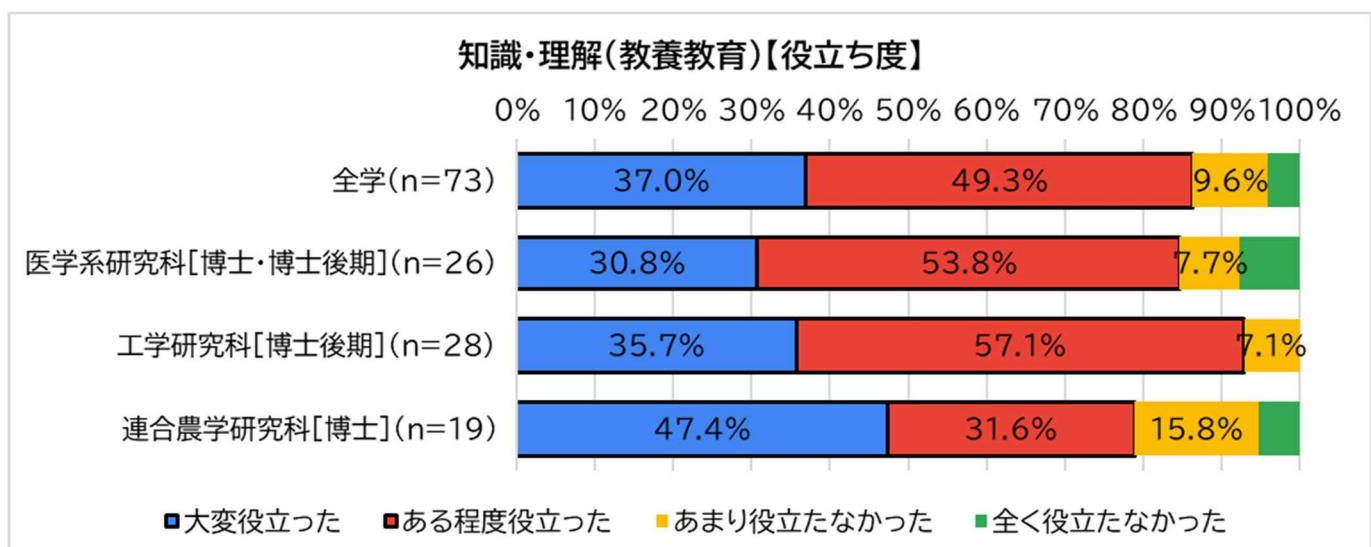
・「知識・理解（教養教育）」は全学で 87.7%(前期), 86.3%(後期)が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で 94.4%, 工学研究科で 92.8%, 地域学専攻で 91.6%と高く, その他の専攻・研究科でも連合農学研究科の 79.0%を除いて 8 割を超えている。

知識・理解（教養教育）

（修士・博士前期課程）



（博士・博士後期課程）



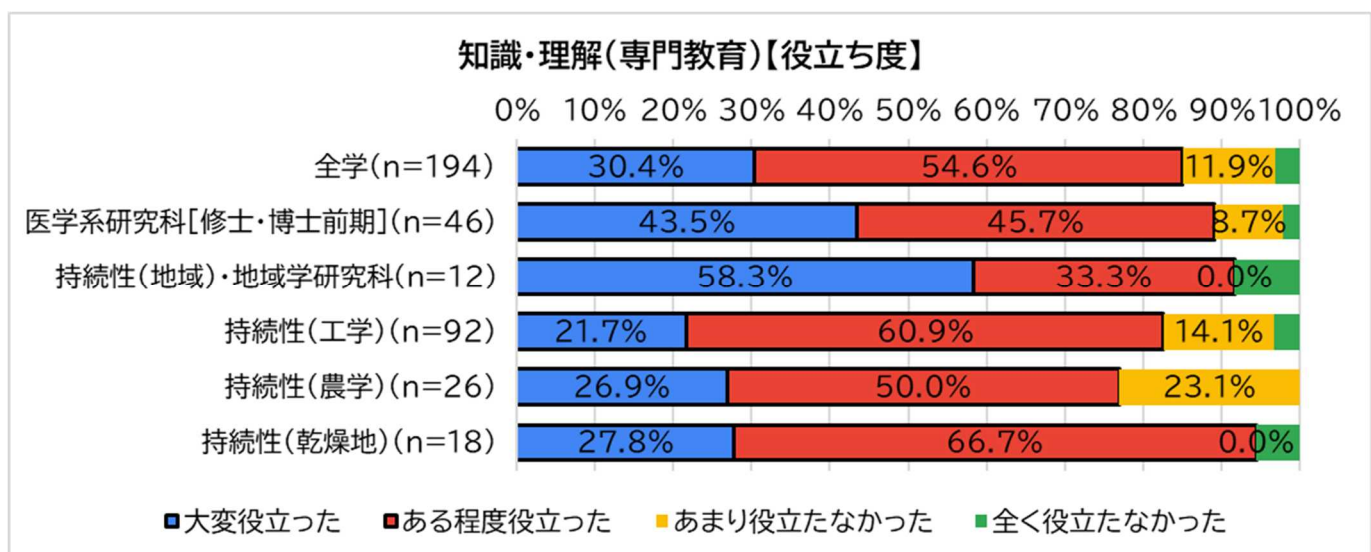
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(4/14)

<知識・理解（専門教育）>

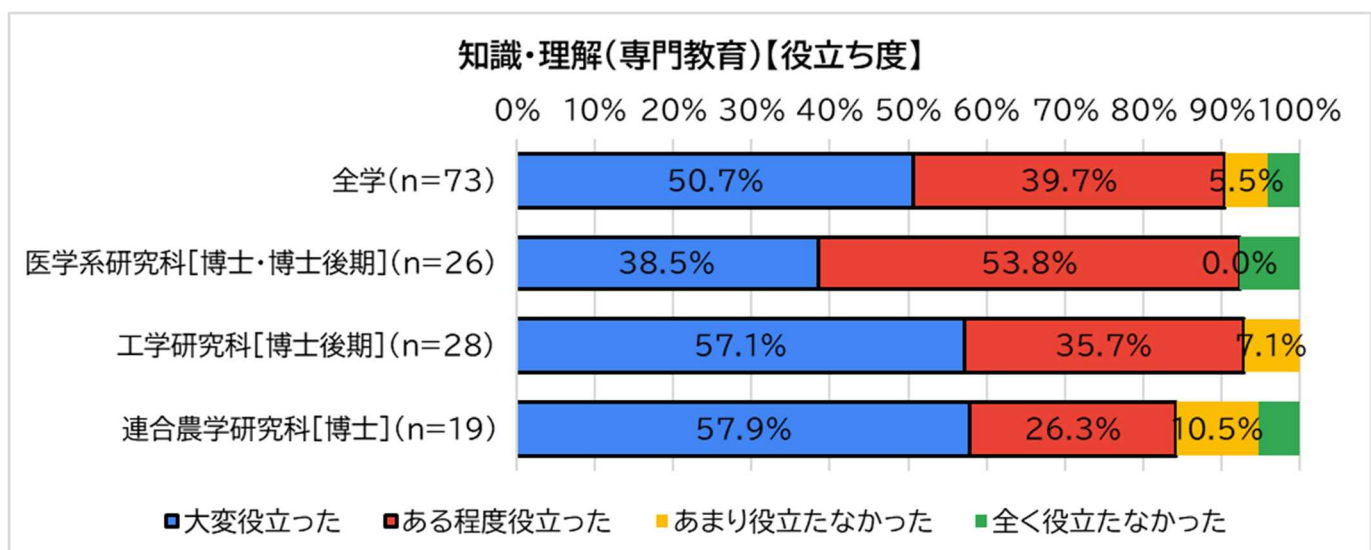
・「知識・理解（専門教育）」は全学で 85.0%(前期), 90.4%(後期)が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で 94.5%, 地域学専攻で 91.6%, 後期医学系研究科 92.3%, 工学研究科で 92.8%と特に高かった。農学専攻で 8 割を切った以外は, 他の専攻・研究科では 8 割を超えた。

知識・理解（専門教育）

（修士・博士前期課程）



（博士・博士後期課程）



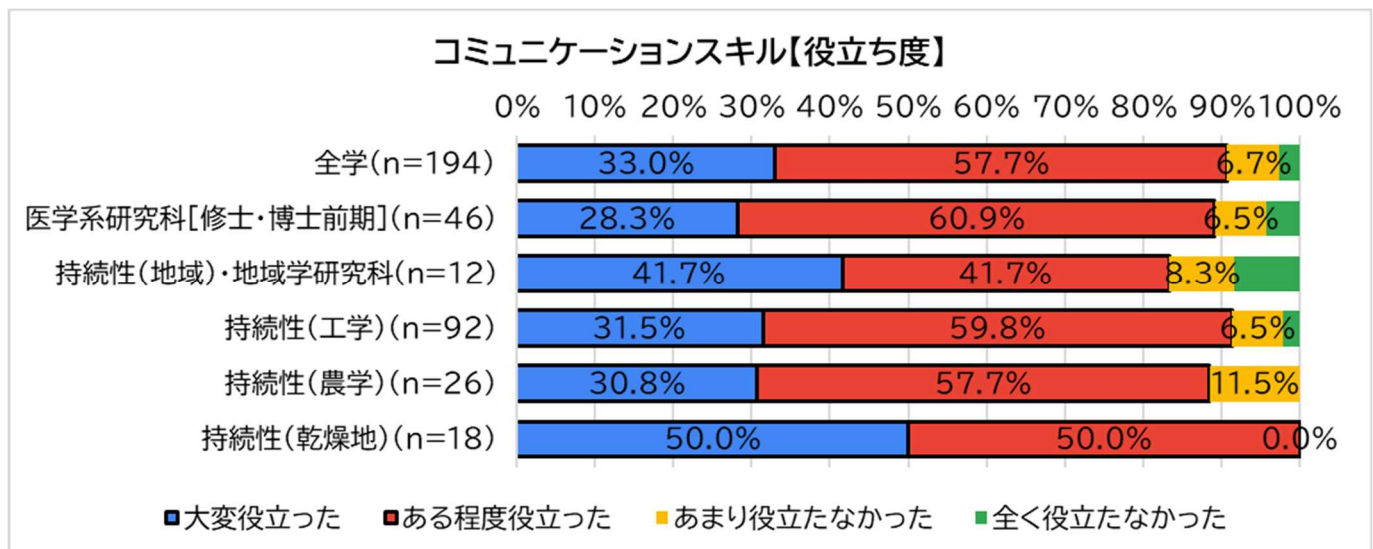
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(5/14)

<コミュニケーションスキル>

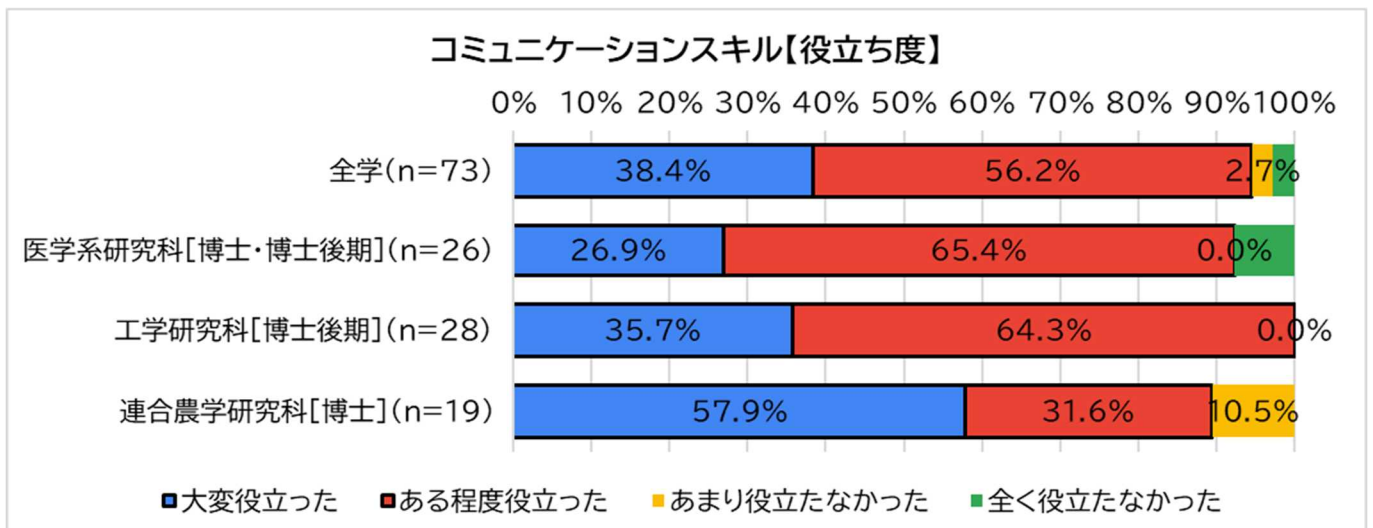
・「コミュニケーションスキル」が役立ったとの回答は、全学で 90.7%(前期), 94.6%(後期)と高かった。特に、国際乾燥地科学専攻、工学研究科で 100%となり、修士・博士前期で 8～9 割、修士・博士後期は概ね 9 割となった。

コミュニケーションスキル

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



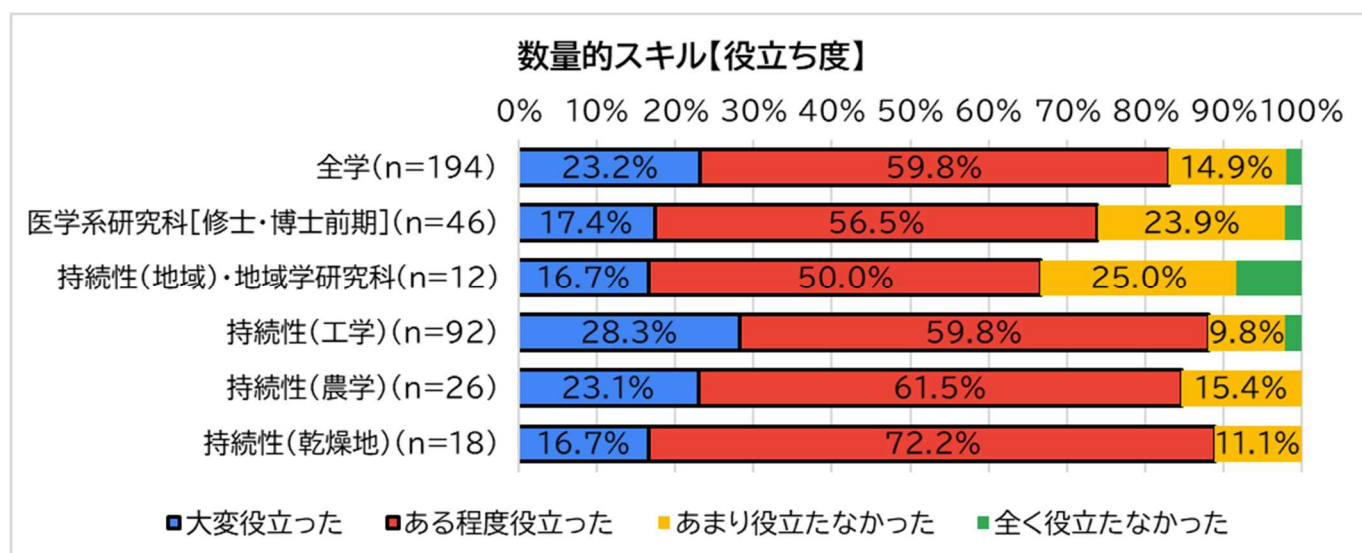
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(6/14)

<数量的スキル>

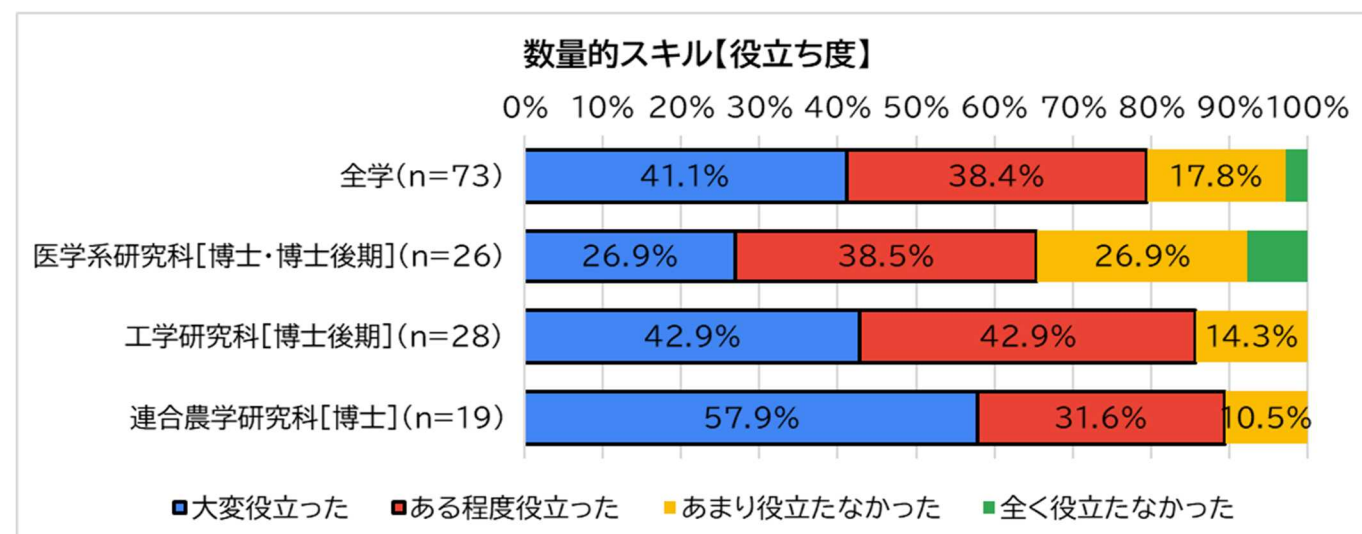
・「数量的スキル」は全学で 83.0%(前期), 79.5%(後期)が役立ったと回答し、設問の中では低い部類となった。特に、医学系研究科(前・後期), 地域学専攻が目立って低かった。

数量的スキル

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



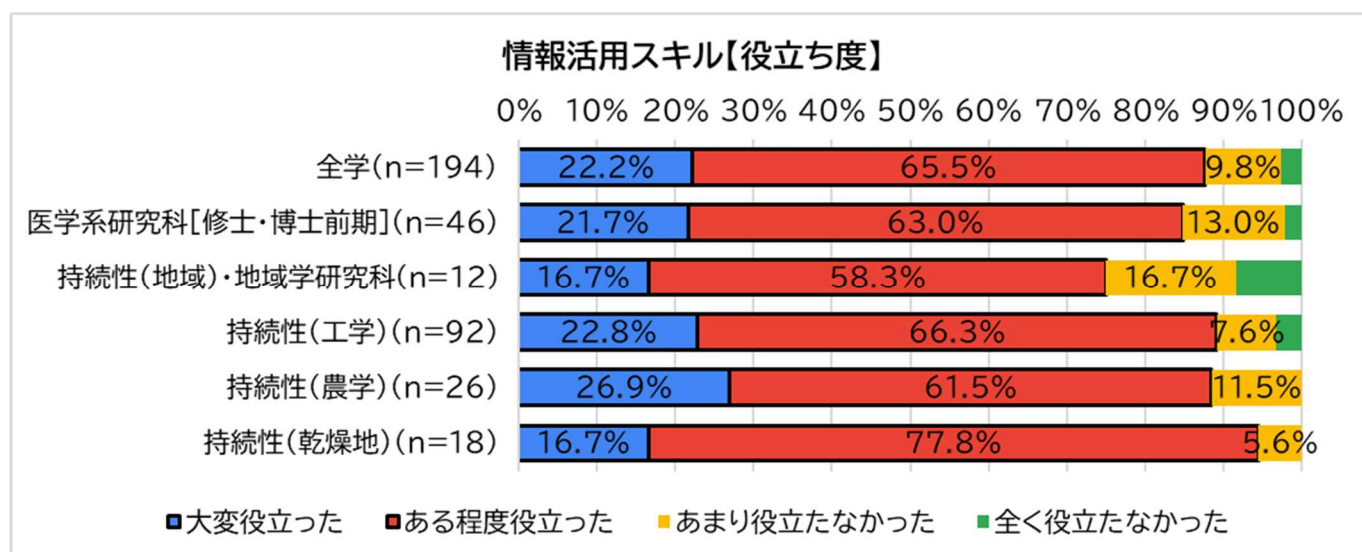
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(7/14)

<情報活用スキル>

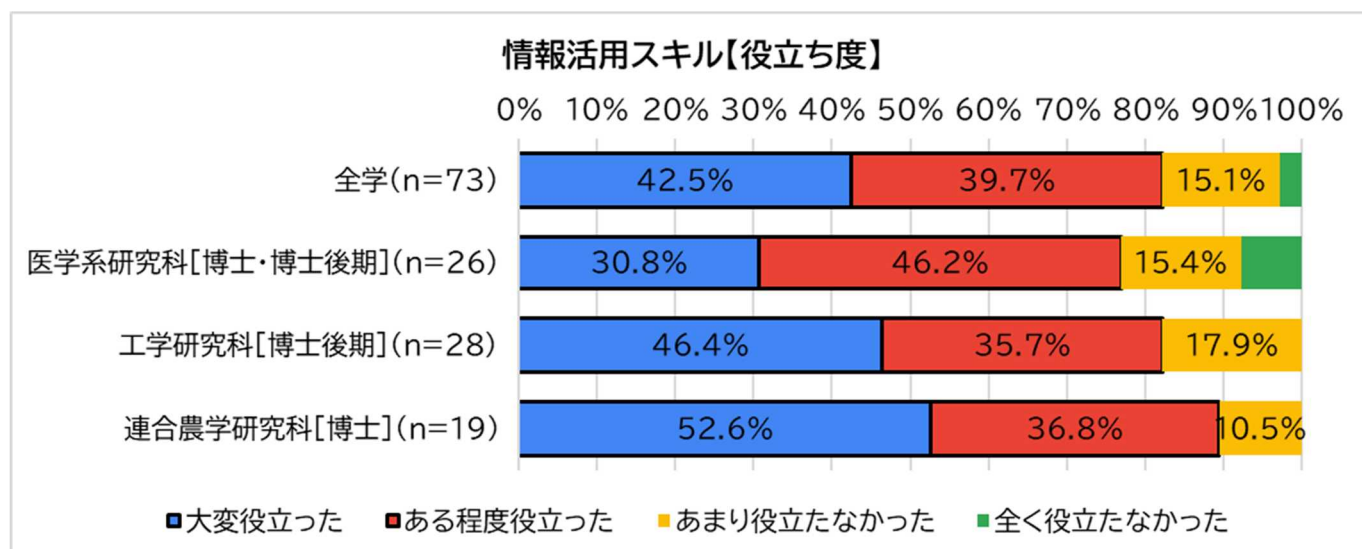
・「情報活用スキル」は全学で 87.7%(前期), 82.3%(後期)が役立ったと回答した。地域学専攻, 後期医学系研究科では 8 割を切っている。

情報活用スキル

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



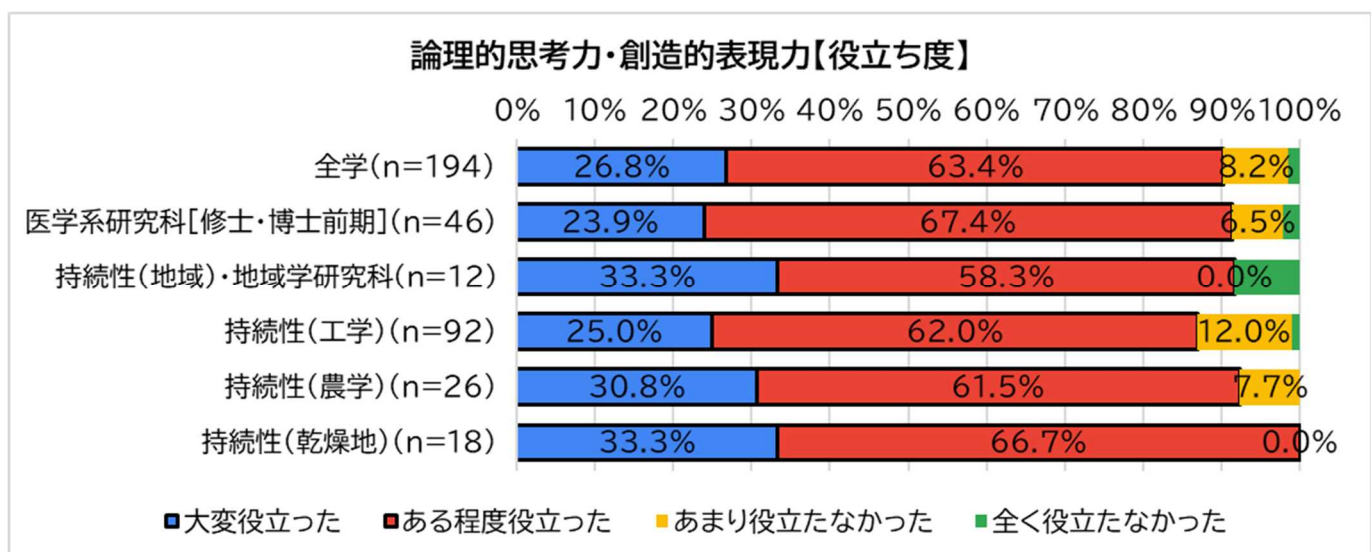
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(8/14)

<論理的思考力・創造的表現力>

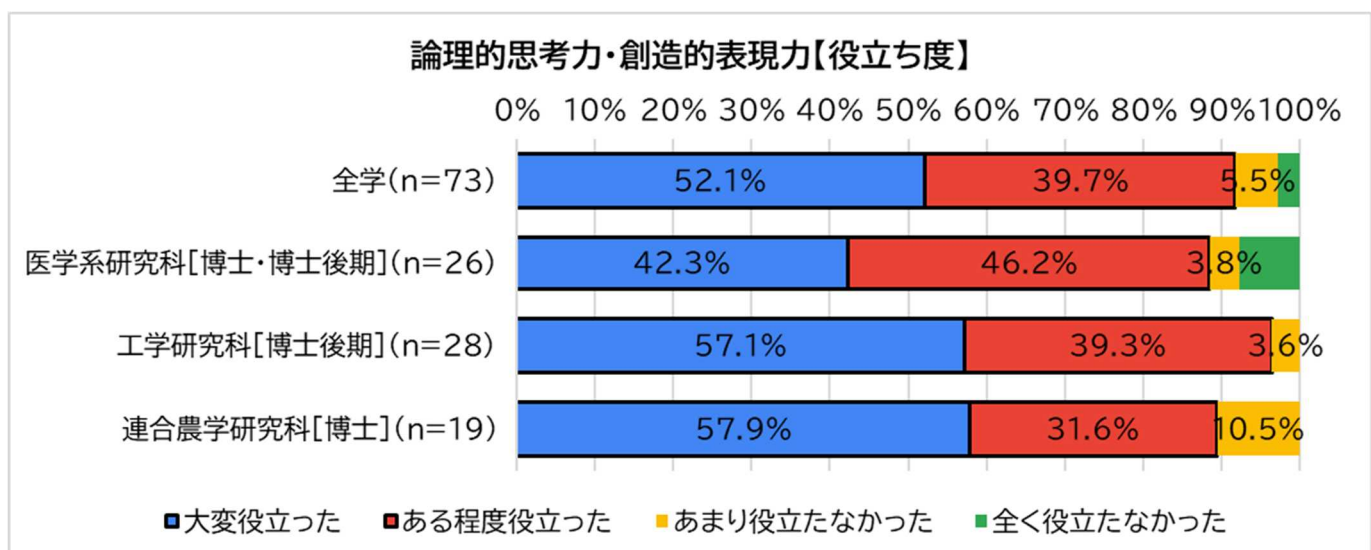
・「論理的思考力・創造的表現力」が役立ったとの回答は、全学で90.2%(前期), 91.8%(後期)と高かった。特に、国際乾燥地科学専攻で100%, 工学研究科で96.4%と高くなった。工学専攻, 後期医学系研究科, 連合農学研究科が9割をやや切っているが、他は9割を超えた。

論理的思考力・創造的表現力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



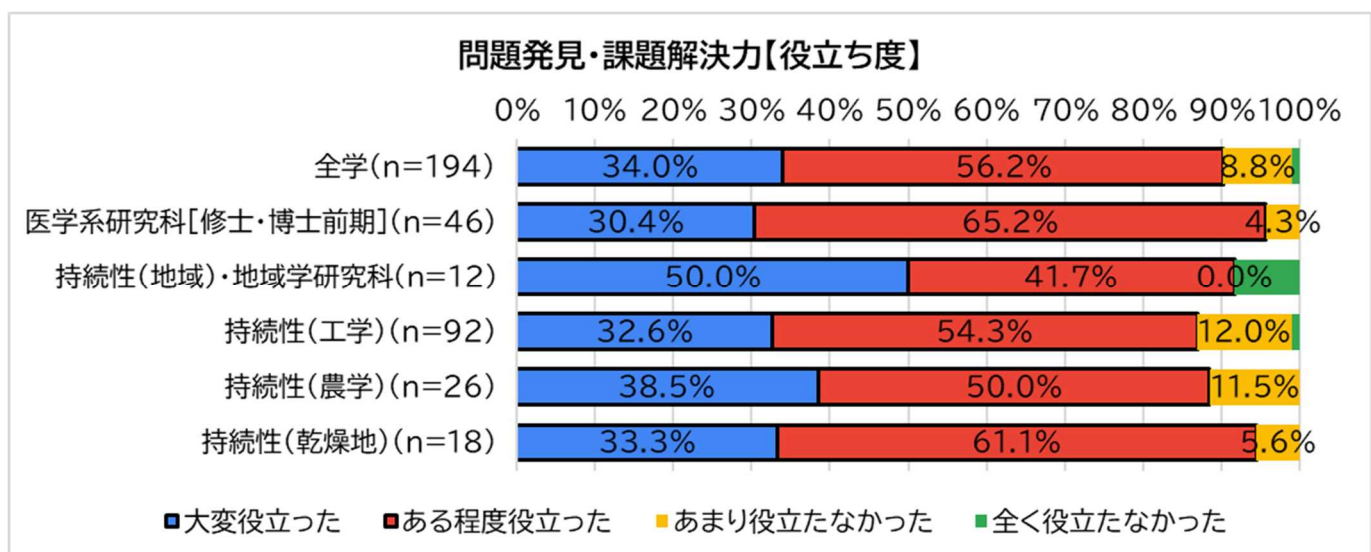
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(9/14)

<問題発見・課題解決力>

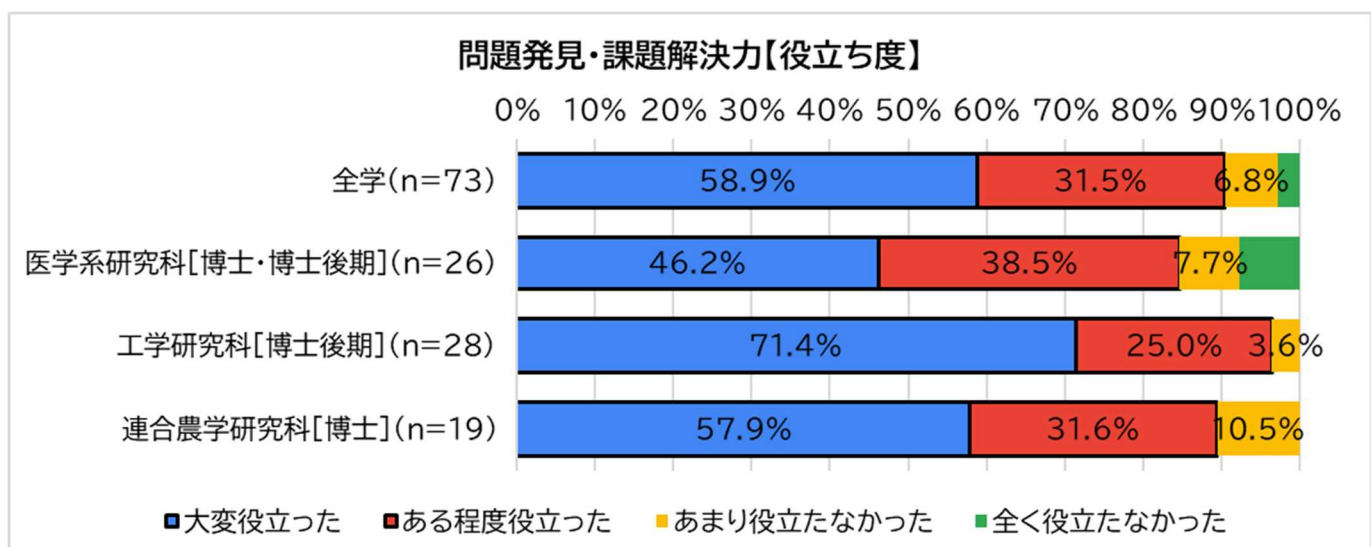
・「問題発見・課題解決力」が役立ったとの回答は、全学で 90.2%(前期), 90.4%(後期)と高かった。特に、前期医学系研究科(95.7%), 国際乾燥地科学専攻(94.4%), 工学研究科(96.5%)が高く、全専攻・研究科で 8 割 5 分程度以上となった。

問題発見・課題解決力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



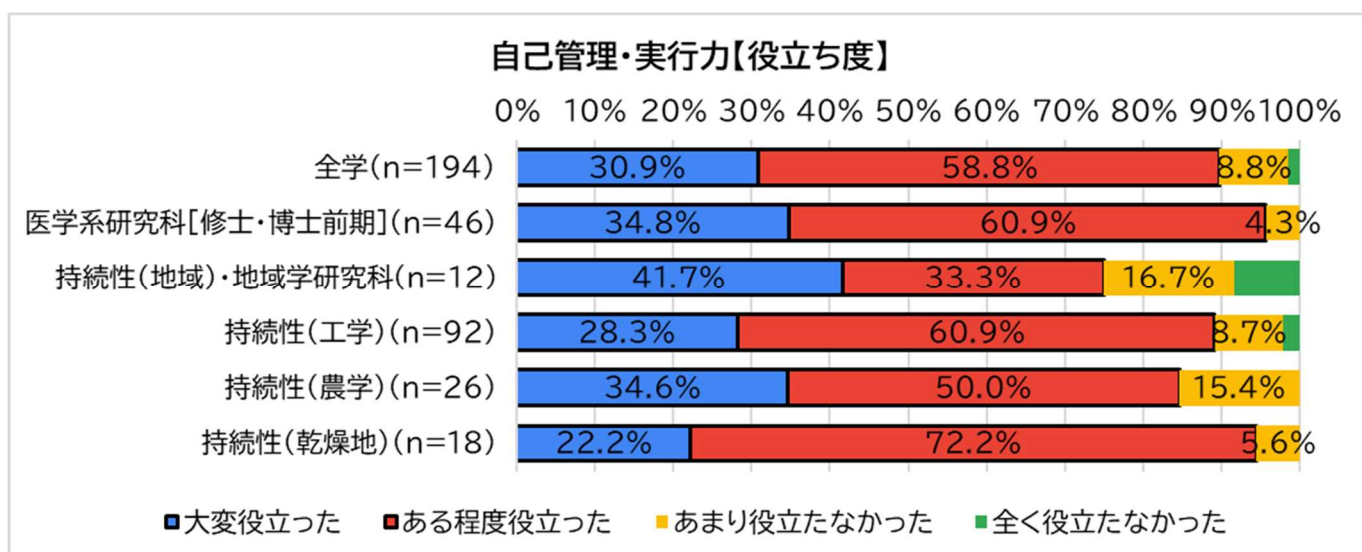
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(10/14)

<自己管理・実行力>

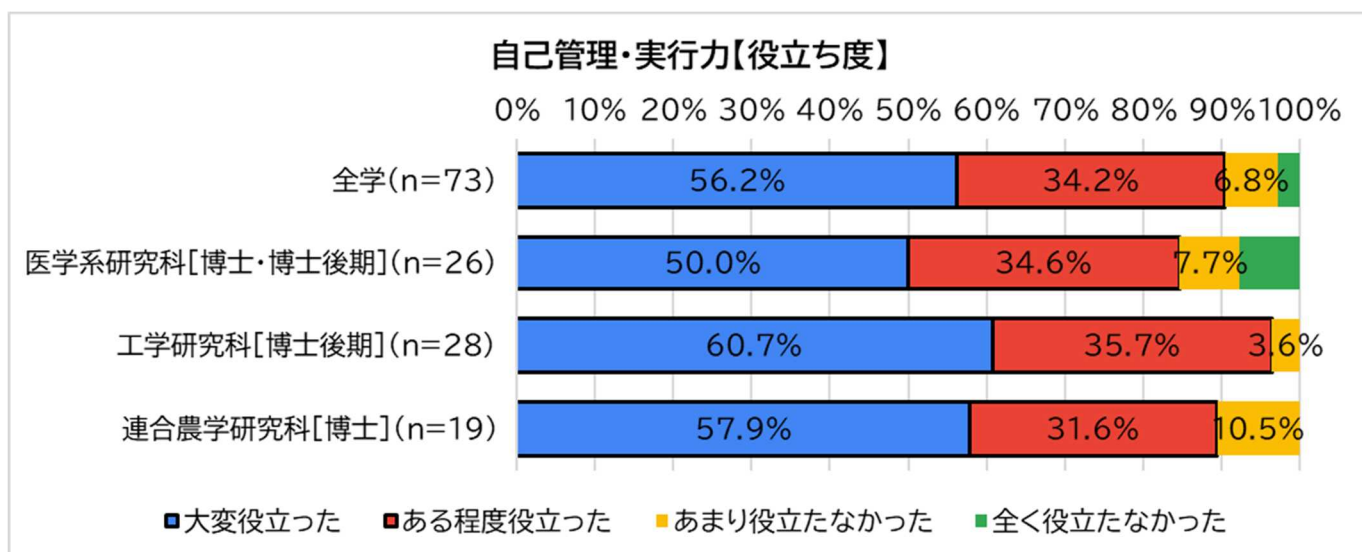
・「自己管理・実行力」は全学で 89.7%(前期), 90.4%(後期)が役立ったと回答した。特に, 前期医学系研究科(95.7%), 国際乾燥地科学専攻(94.4%), 工学研究科(96.5%)が高く, 地域学専攻の 75.0%を除いて 8割 5分程度以上となった。

自己管理・実行力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



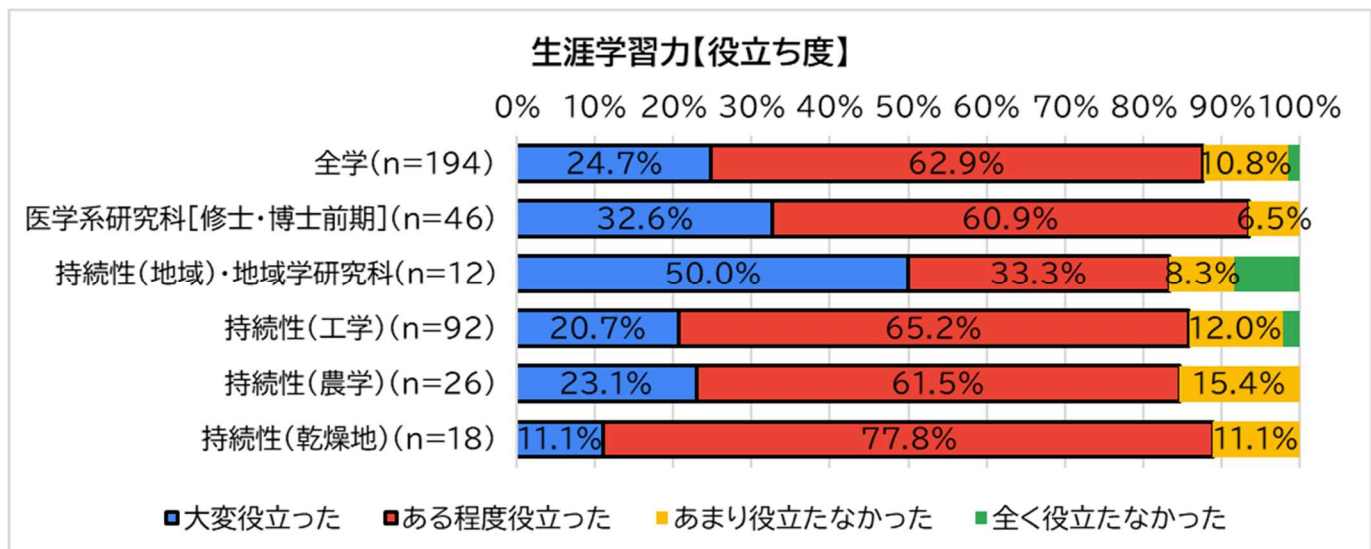
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(11/14)

<生涯学習力>

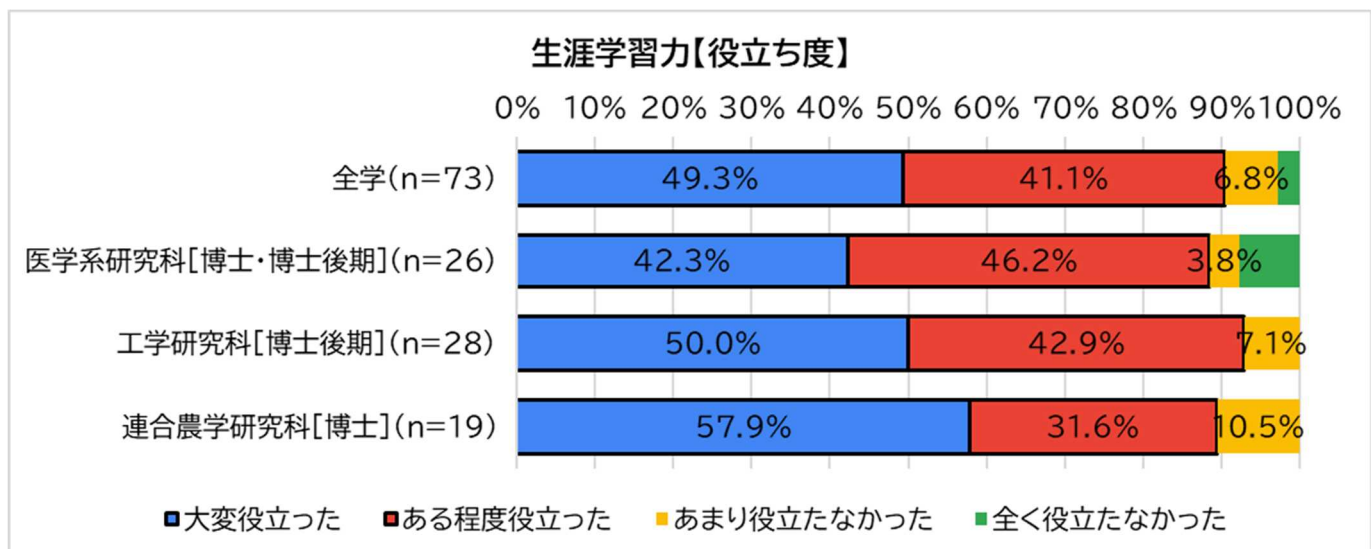
・「生涯学習力」は全学で 87.6%(前期), 90.4%(後期)が役立ったと回答した。特に, 前期医学系研究科(93.5%), 工学研究科(92.9%)が高く, 他も全て 8 割以上となった。

生涯学習力

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)

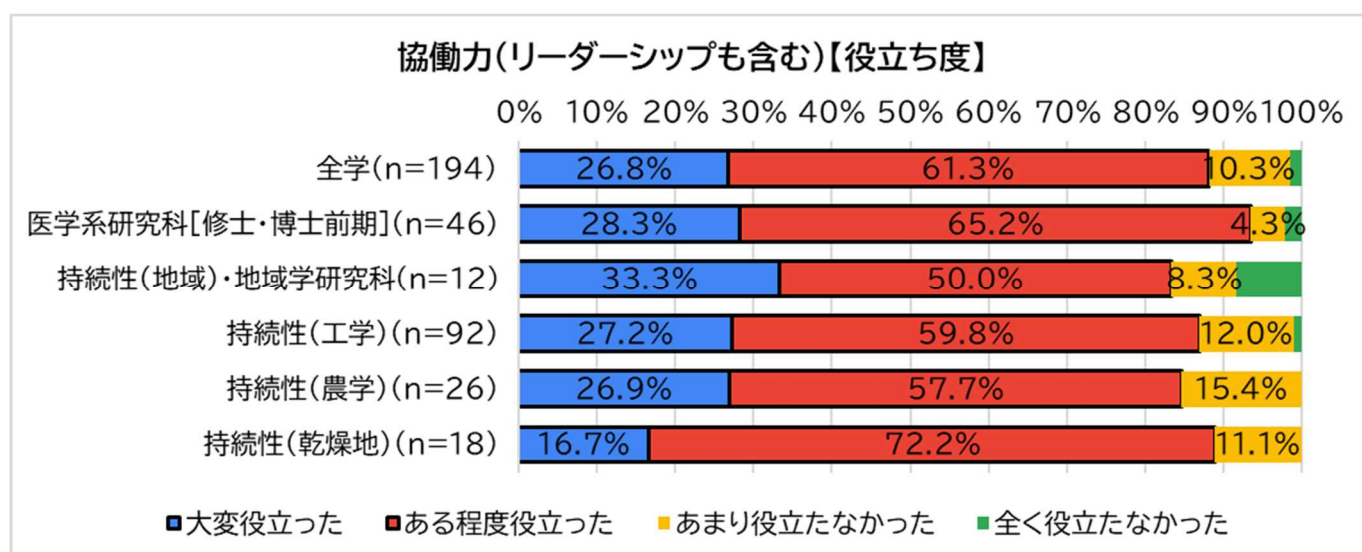


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(12/14) <協働力>

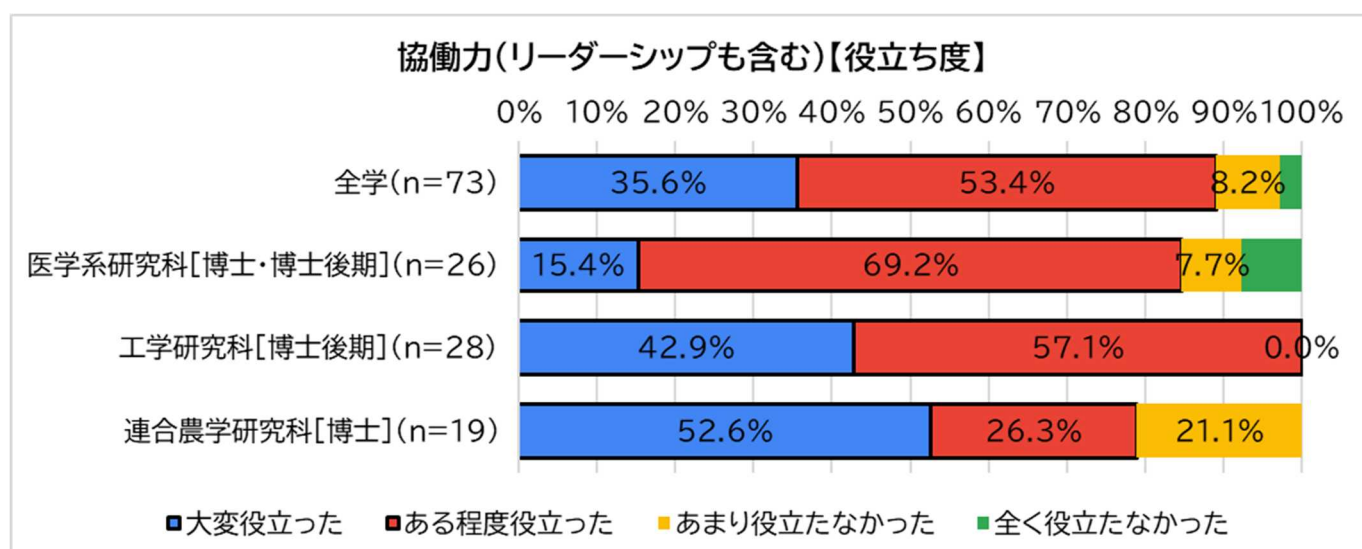
・「協働力（リーダーシップも含む）」は全学で 88.1%(前期), 89.0%(後期)が役立ったと回答した。特に, 工学研究科が 100%, 前期医学系研究科が 93.5%と高かった。連合農学研究科が 8 割を切った以外は, 他では 8 割 5 分程度以上となった。

協働力（リーダーシップも含む）

（修士・博士前期課程）



（博士・博士後期課程）



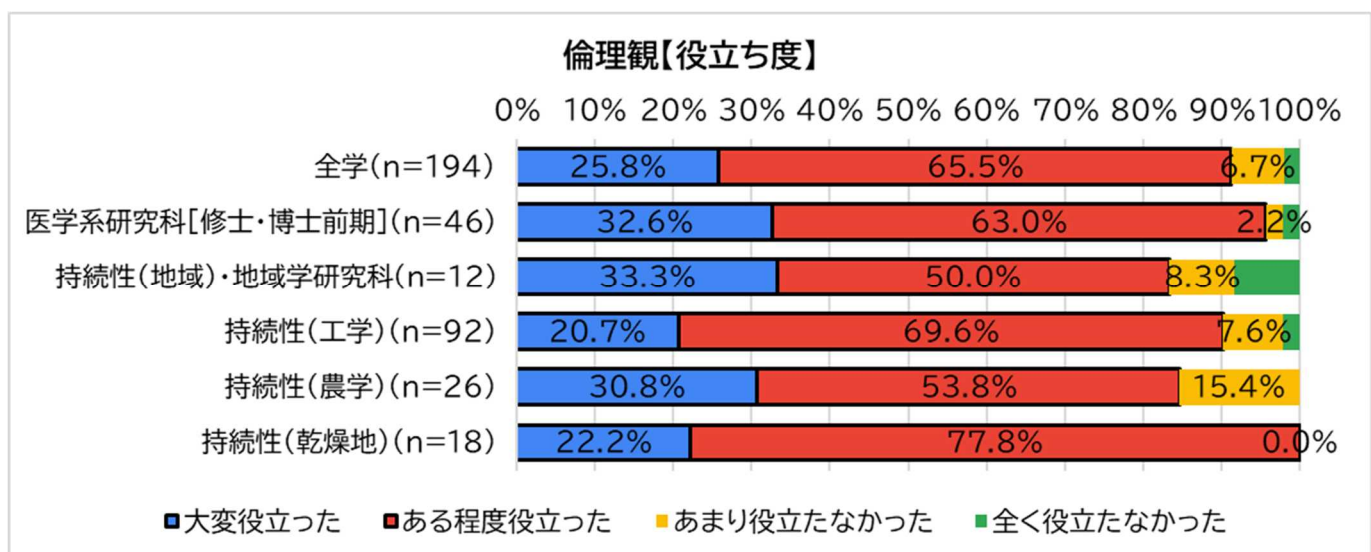
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(13/14)

<倫理観>

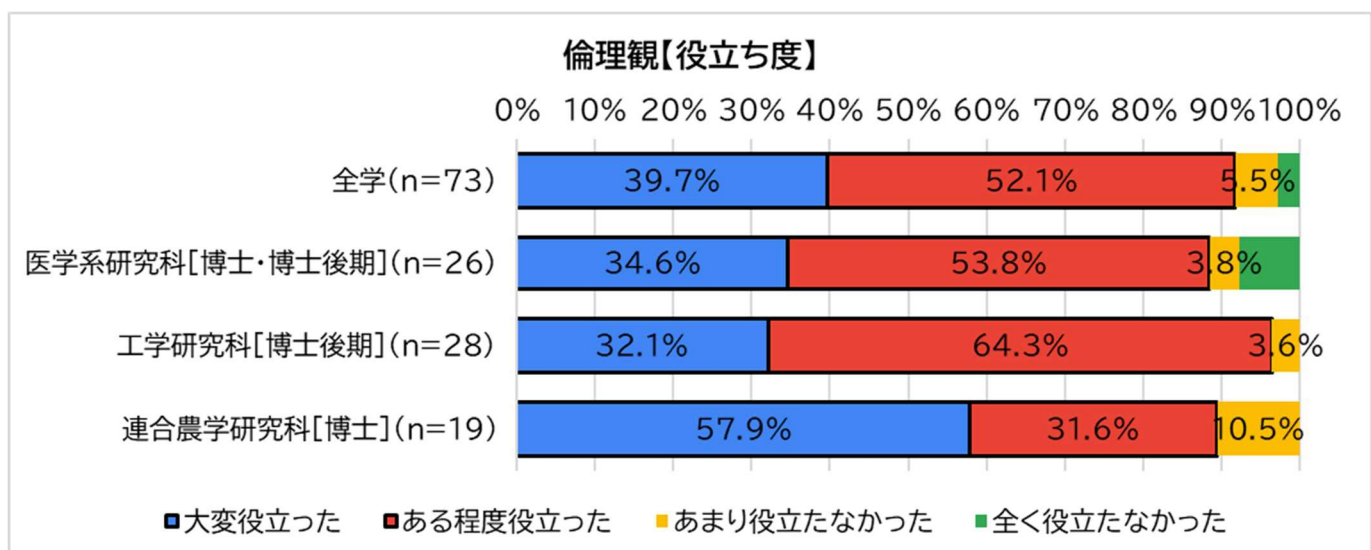
・「倫理観」は全学で 91.3%(前期), 91.8%(後期)が役立ったと回答した。特に, 国際乾燥地科学専攻の 100%をはじめ, 前期医学系研究科 95.6%, 工学専攻 90.3%, 工学研究科 96.4%と高く, 他も 8 割 5 分程度以上となった。

倫理観

(修士・博士前期課程)



(博士・博士後期課程)



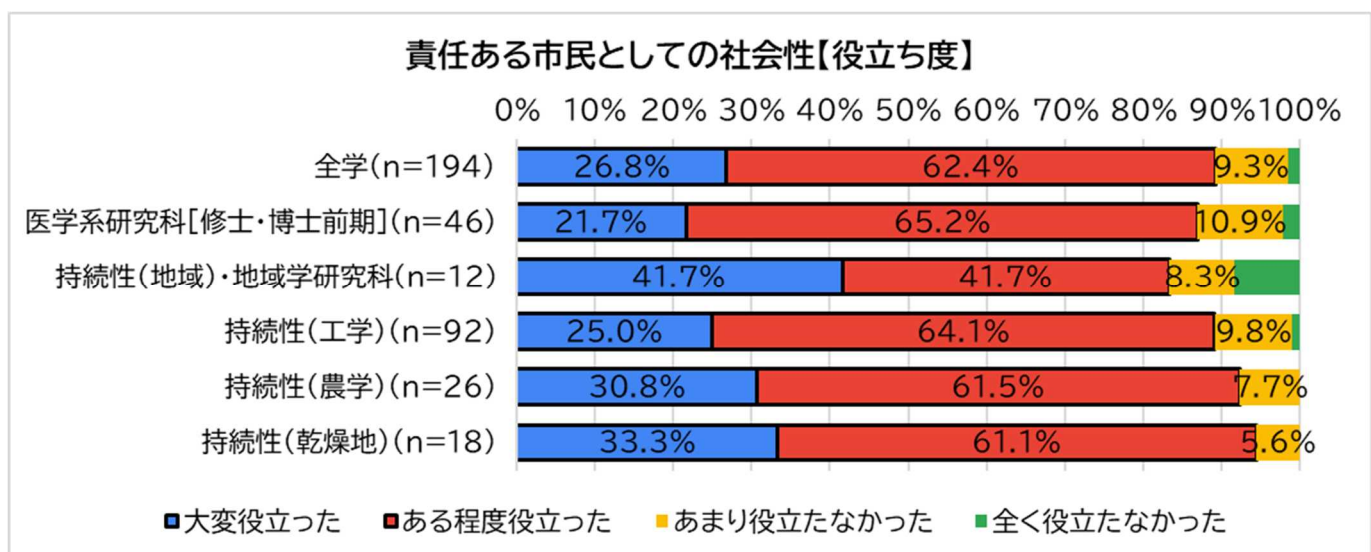
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(14/14)

<社会性>

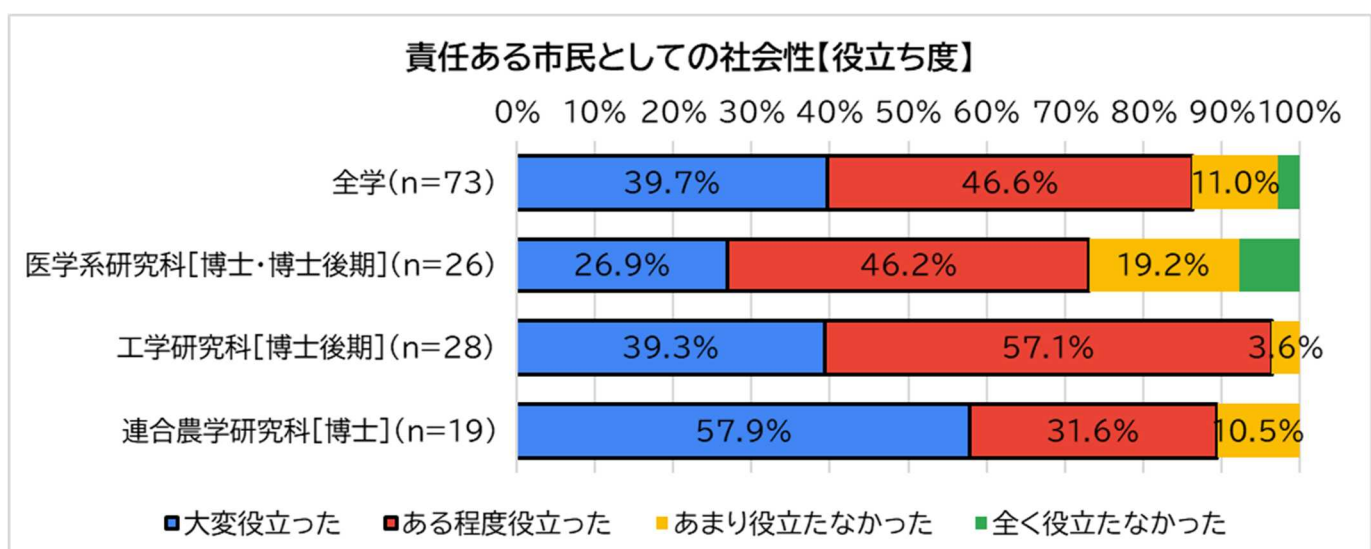
・「責任ある市民としての社会性」が役立ったとの回答は、全学で 89.2%(前期), 86.3%(後期)となった。国際乾燥地科学専攻(94.4%), 農学専攻(92.3%), 工学研究科(96.4%)が高く、後期医学系研究科が 73.1%と差が大きくなった。地域学専攻が 83.4%とやや低いが、他は 9 割弱となった。

責任ある市民としての社会性

(修士・博士前期課程)



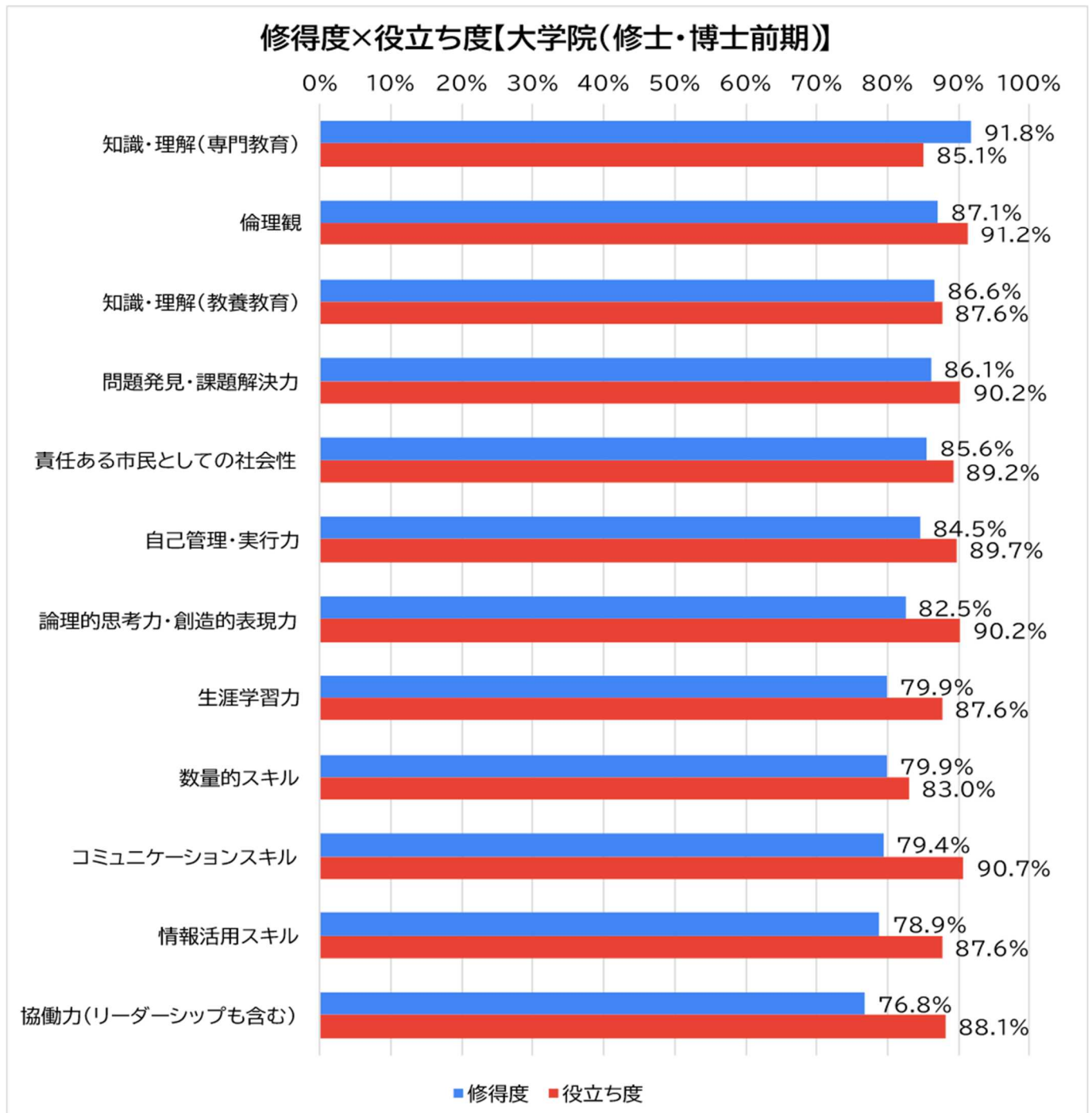
(博士・博士後期課程)



修得度×役立ち度（1/2）

・修士・博士前期について「修得度」（「大変」+「ある程度」の「修得できた」）と「役立ち度」（「大変」+「ある程度」の「役立った」）を項目毎に比較した。
・「知識・理解(専門教育)」は修得度が役立ち度を上回ったが、その他の項目では修得度方が小さい結果となった。例えば「コミュニケーションスキル」は修得度79.4%に対して役立ち度は90.7%、「協働力(リーダーシップも含む)」は修得度76.8%に対して役立ち度は88.1%、であり、役立つ能力として高く評価されていると考えられる。

(修士・博士前期課程)



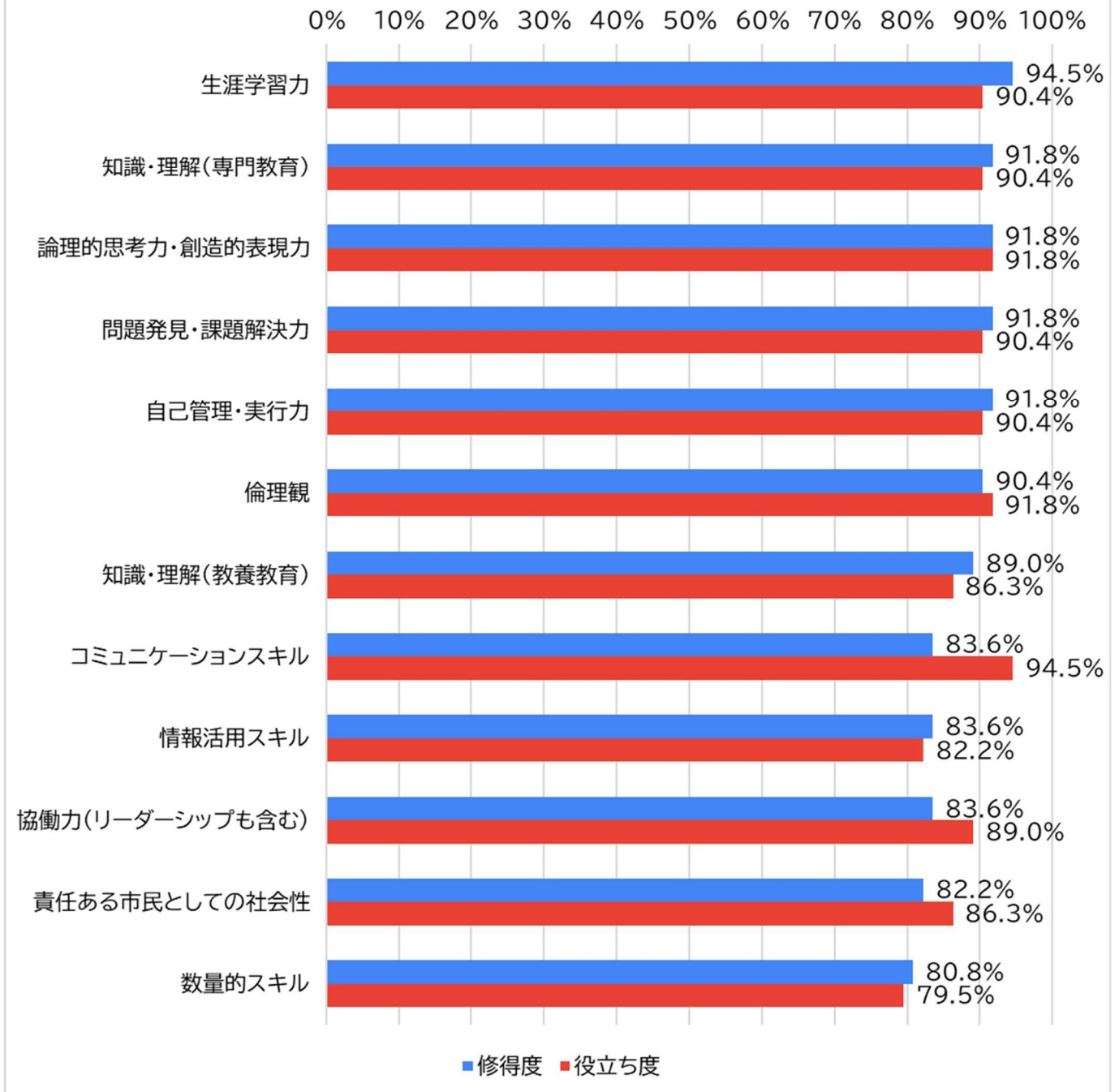
修得度×役立ち度 (2/2)

・博士・博士後期について「修得度」（「大変」+「ある程度」の「修得できた」）と「役立ち度」（「大変」+「ある程度」の「役立った」）を項目毎に比較した。

・「生涯学習力」, 「知識・理解(専門教育)」, 「問題発見・課題解決力」, 「自己管理・実行力」, 「知識・理解(教養教育)」, 「情報活用スキル」, 「数量的スキル」は修得度が役立ち度をやや上回った。一方, 「コミュニケーションスキル」, 「協働力(リーダーシップも含む)」, 「責任ある市民としての社会性」は役立ち度が修得度を顕著に上回り, 役立つ能力として高く評価されていると考えられる。

(博士・博士後期課程)

修得度×役立ち度【大学院(博士・博士後期)】



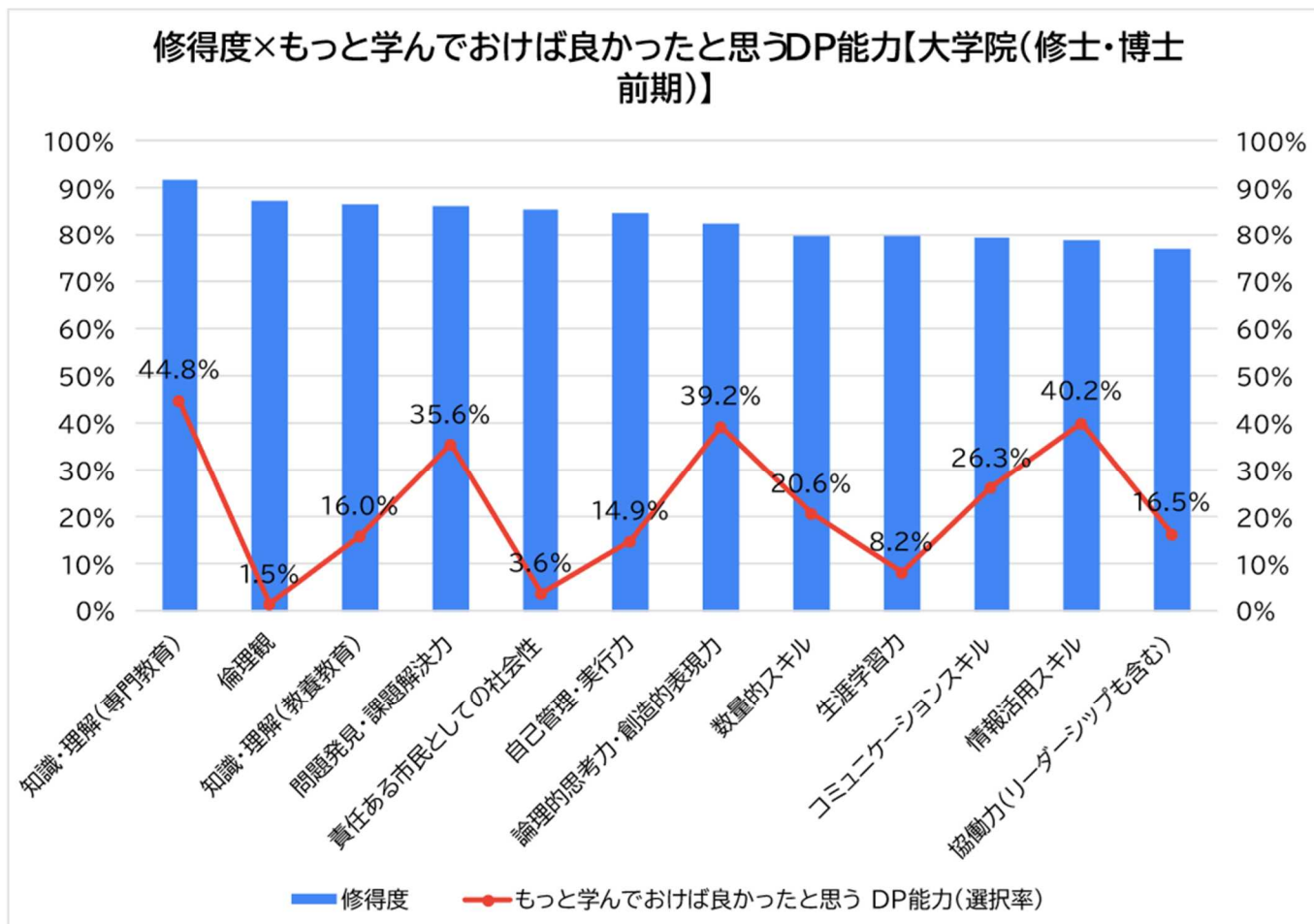
修得度×もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力 (1/2)

・修士・博士前期について、Q5：「DP 能力の修得度」及び Q6(2)：「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」において質問した 12 項目について、回答率を比較した。前者は肯定的回答率（「大変」+「ある程度」の「修得できた」）を「修得度」、後者は 12 項目から複数選択した各項目の選択率（＝ 選択件数／回答者数）を「選択率」として示す。

・「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」は「知識・理解(専門教育)」が 1 位(44.8%)、「情報活用スキル」が 2 位(40.2%)、「論理的思考力・創造的表現力」が 3 位(39.2%)、「問題発見・課題解決力」が 4 位(35.6%)と

突出して高かった。修得度では「知識・理解(専門教育)」(91.7%)と「問題発見・課題解決力」(86.1%)は高く、修得度の高さを認めながらも、さらに多く学びたい要望があると考えられる。一方、「情報活用スキル」の修得度は78.9%で12項目の中で2番目に低く、比較的低い修得度を踏まえて、学んでおけばよかった・修得すべき能力として強く認識されているといえる。

(修士・博士前期課程)

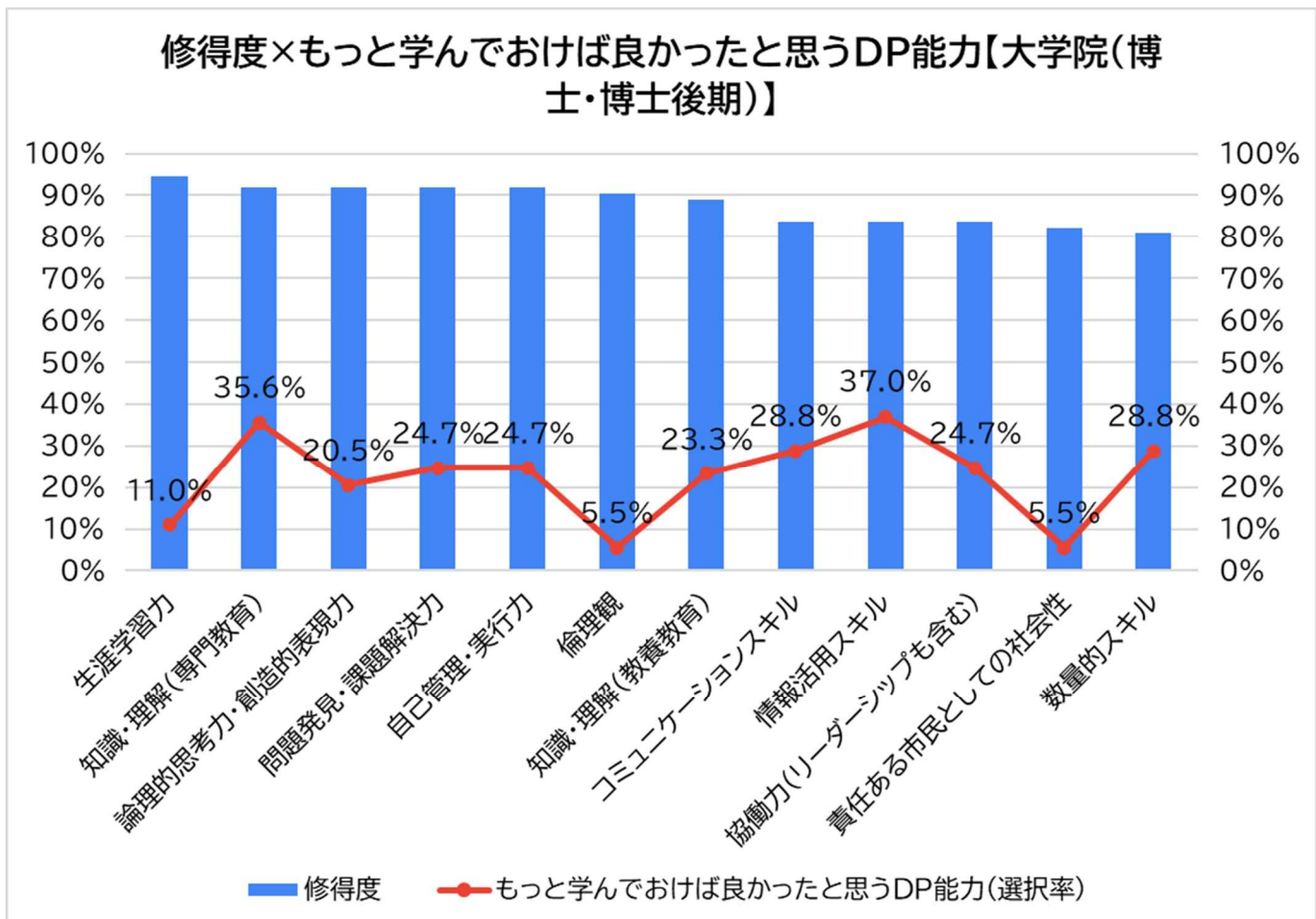


修得度×もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力 (2/2)

・博士・博士後期について、Q5：「DP 能力の修得度」及び Q6(2)：「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」において質問した 12 項目について、回答率を比較した。前者は肯定的回答率（「大変」+「ある程度」の「修得できた」）を「修得度」、後者は 12 項目から複数選択した各項目の選択率（＝選択件数／回答者数）を「選択率」として示す。

・「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」は「情報活用スキル」が 1 位 (37.0%)、「知識・理解(専門教育)」が 2 位(35.6%)、「コミュニケーションスキル」と「数量的スキル」が同率 3 位(28.8%)となり、最も低い「倫理観」と「責任ある市民としての社会性」の 5.5%を含め全体に平準な分布となった。修得度では「知識・理解(専門教育)」(91.8%)は高く、修得度の高さを認めながらも、さらに多く学びたい要望があると考えられる。一方、「情報活用スキル」の修得度は 83.5%で 12 項目の中では低い部類となり、比較的低い修得度を踏まえて、学んでおけばよかった・修得すべき能力として認識されているといえる。

(博士・博士後期課程)



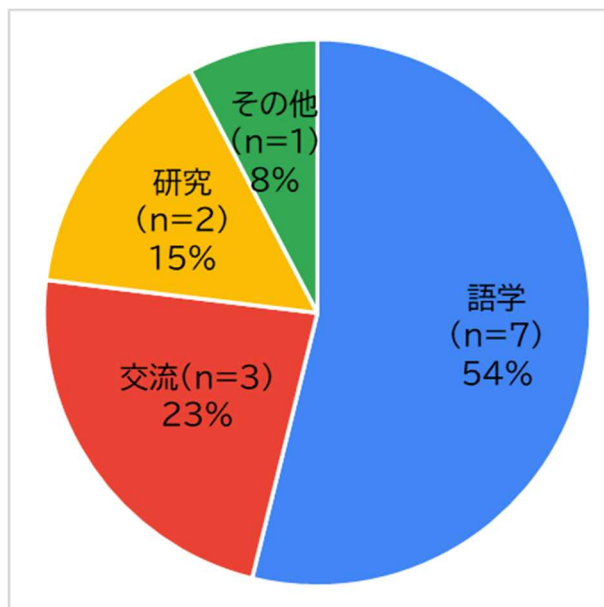
第Ⅲ部

グローバル教育

(該当する学生のみ)

海外研修・留学プログラムの目的

- ・該当する学生が 13 名と少ないが、最も多かったのは語学学習で、海外研修・留学プログラム参加者の半数以上の 7 名が目的として挙げた。
- ・このほか、交流が 3 名（23%）、専門の研究が 2 名（15%）だった。

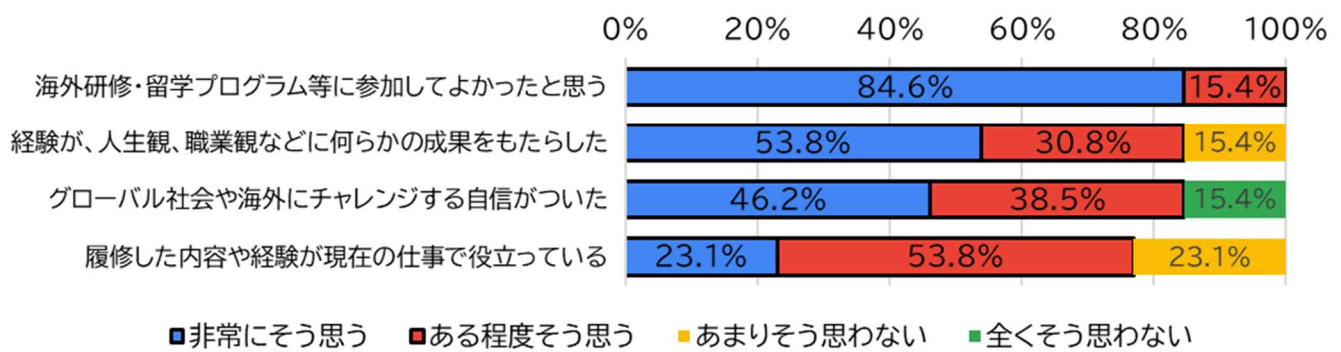


海外研修・留学プログラムの満足度

・「参加してよかったと思う」に対して、参加者全員が「非常にそう思う」または「ある程度そう思う」とプログラムに肯定的回答をしていた。

・「経験が、人生観、職業観などに何らかの成果をもたらした」「グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた」が 11 名（84.6%）、「履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている」は 10 名（76.9%）が肯定的回答をしていた。

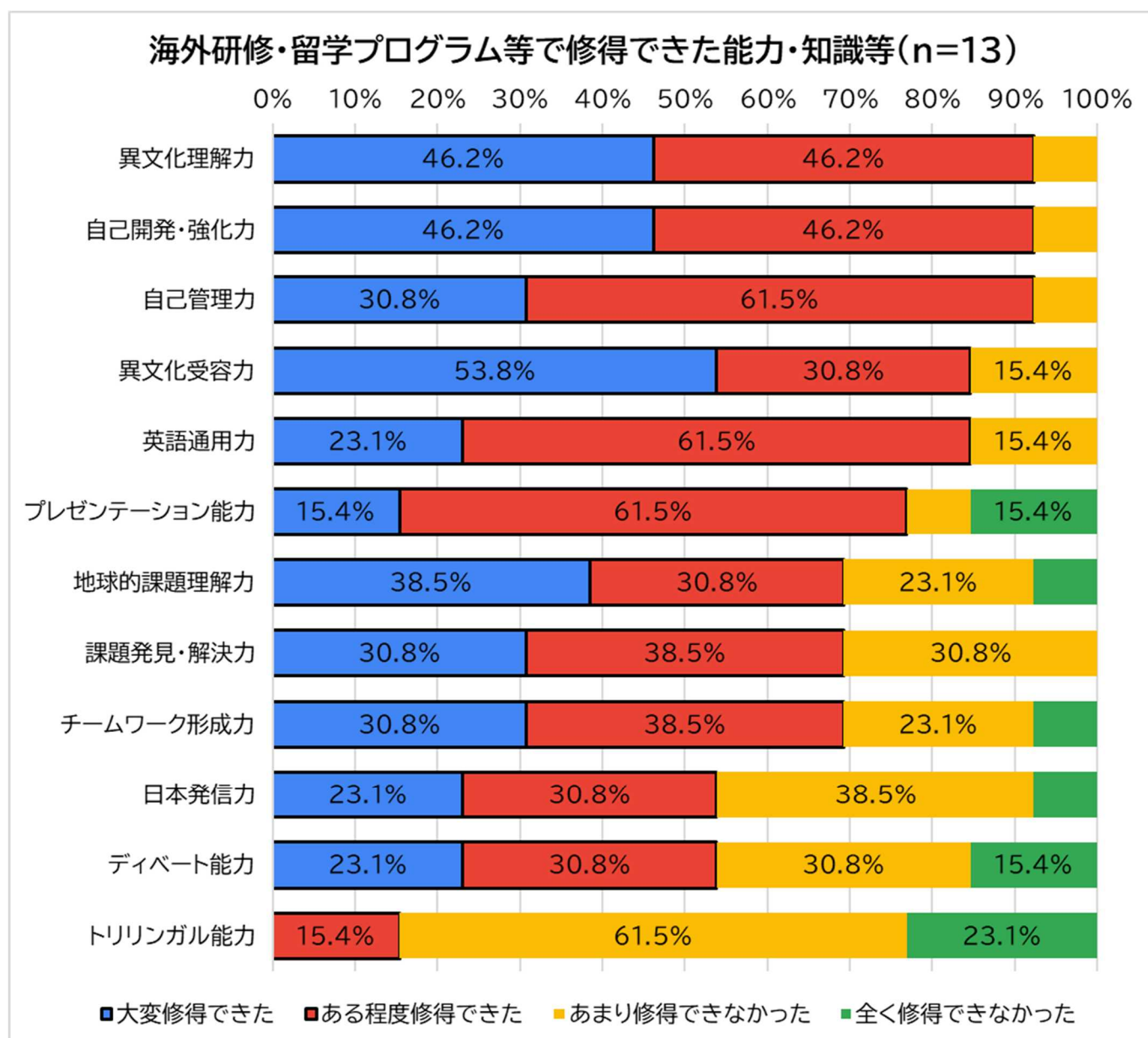
参加した海外研修・留学プログラムについてどのように感じていますか(n=13)



海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度

・異文化理解力, 自己開発・強化力, 自己管理能力は 12 名 (92.4%) , 異文化受容力, 英語運用力は 11 名 (84.6%) が「大変修得できた」「ある程度修得できた」という肯定的回答だった。

・その他の多くの項目でも 7 割程度肯定的回答を得たが, トリリンガル能力については 2 名 (15.4%) に留まり, 3 名 (23.1%) は「全く修得できなかった」と回答していることから, 英語以外の外国語の修得に関して課題があることが読み取れる。



海外研修・留学プログラムに対する 具体的な事例等（自由記述）

グローバル教育について改善点や成果をもたらした点（自由記述）

- ・ トリリンガル能力を鍛えるならば、それ専用のコースを別で設けることが望ましいと思う。研修中に培った英語での会話、ディベート能力は役に立っていると思う。また、今の会社に入ったのも海外研修の経験があったからこそなので、人生観、職業観にも大きな影響があったと思っている。
- ・ プログラムを通して、現地の本当に深刻な問題を肌で実感できたことは得難い体験であった。異国や異業種の問題に生半可な専門性や主体性を持った人材が入ると現場の負担を増やし課題解決から遠ざりかねないことを、その当人となることで実感した。合わせて国際協力に携わる方々への尊敬の念を抱くこととなった。国際交流プログラムへの参加以降、課題発見と解決の技能が高い人材となるべく進学し、現在博士後期課程へ在籍している。

第Ⅳ部

就職先企業に対する

調査結果

調査概要

1. 目的

卒業生の就職先企業から見た、学生の学習成果について、調査・分析を行う。

2. 対象

令和3年3月～令和6年3月（過去4か年）の本学卒業生の就職先

3. 実施・回収時期

令和7年3月上旬に対象者へ依頼，5月末回答締切

4. 実施方法

教育支援・国際交流推進機構キャリアセンターが保有する卒業生・修了生の就職先企業のデータを利用して，企業へアンケートの協力依頼を行った。アンケートの実施方法は，Webアンケート方式（Google フォームを活用）とした。

5. サンプル件数

2,052 件送付，391 件回収（回収率 19.1%）

6. アンケート項目

- ・基本属性（Q1:従業員規模／Q2:業種／Q3:本社所在地）
- ・鳥取大学卒業生の採用実績（Q4:人数／Q5:学部・研究科）
- ・新卒採用活動で重視する学生の能力・態度等（Q6）
- ・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い（Q7）
- ・鳥取大学卒業生のイメージ（Q8）
- ・鳥取大学卒業生の DP 能力（Q9）
- ・教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述）（Q10）

7. その他

* 本調査結果においては，特にことわりのない限り，「卒業生」は学部卒業生と大学院修了生の双方を指す。

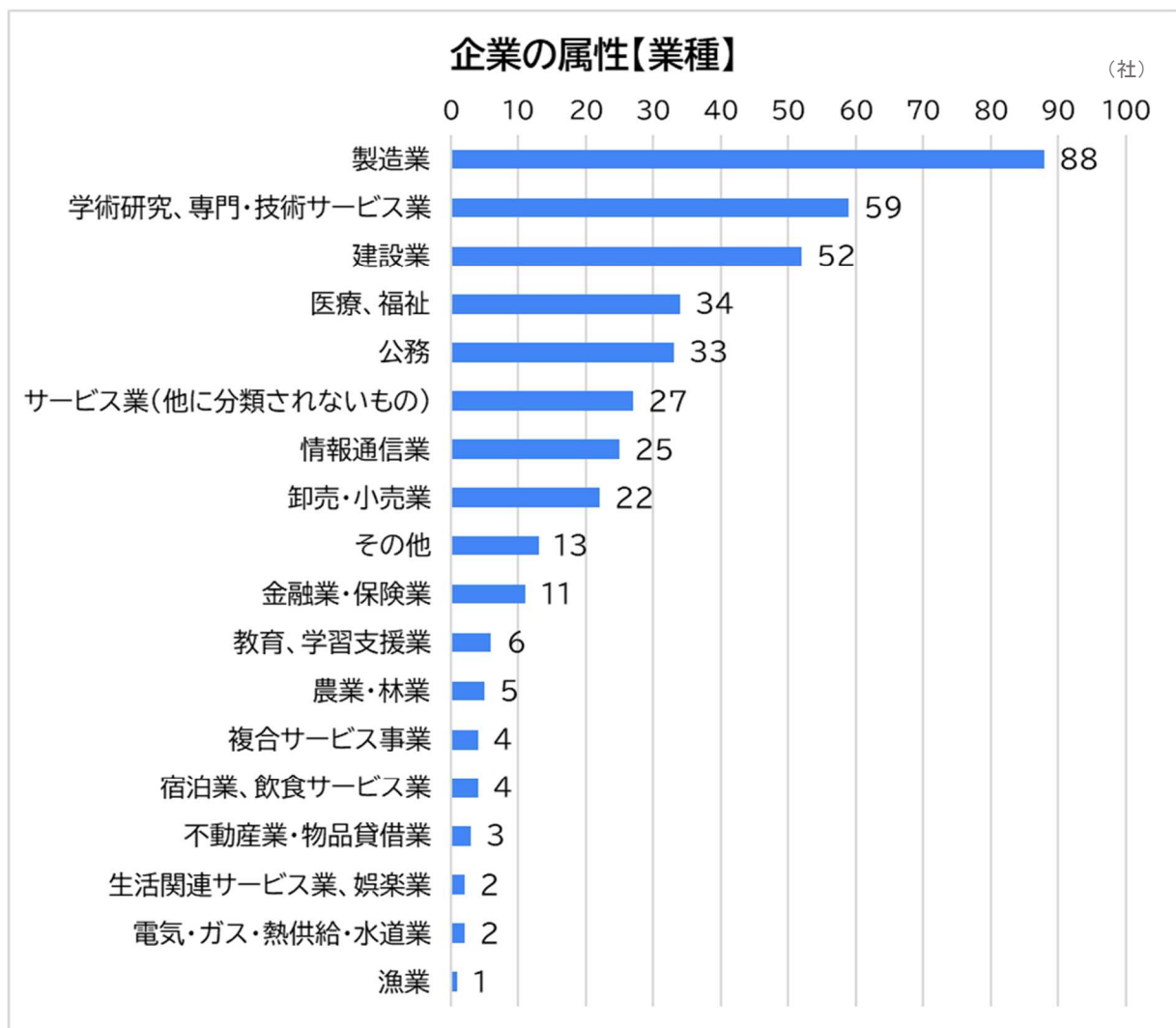
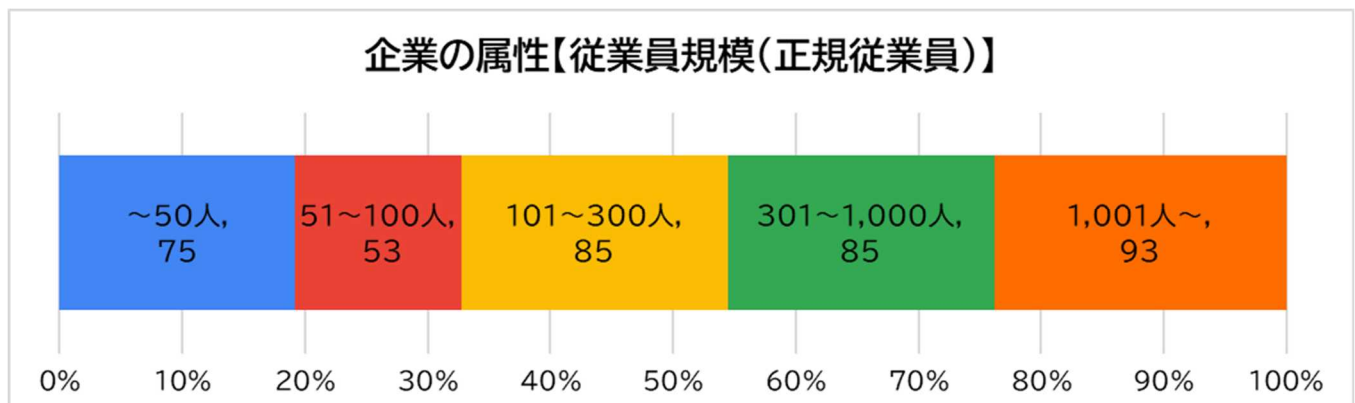
第1章

回答企業の属性・新卒者

一般に関する回答

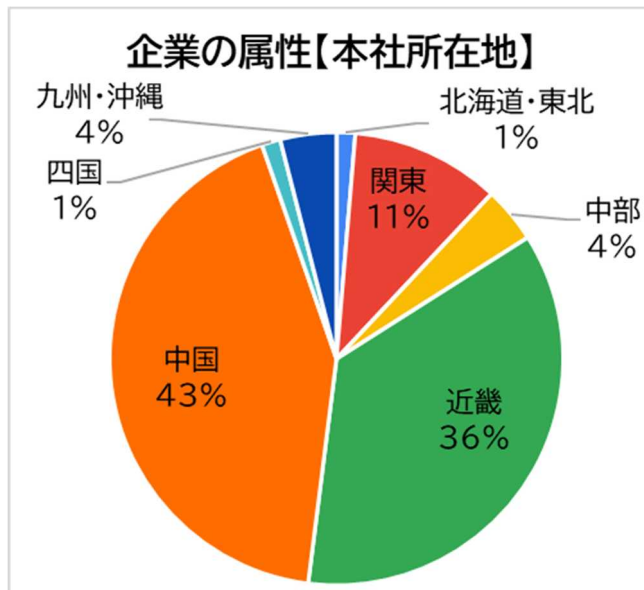
回答企業全体の属性(1/2)

<従業員規模> <業種>



回答企業全体の属性(2/2) ＜本社所在地＞

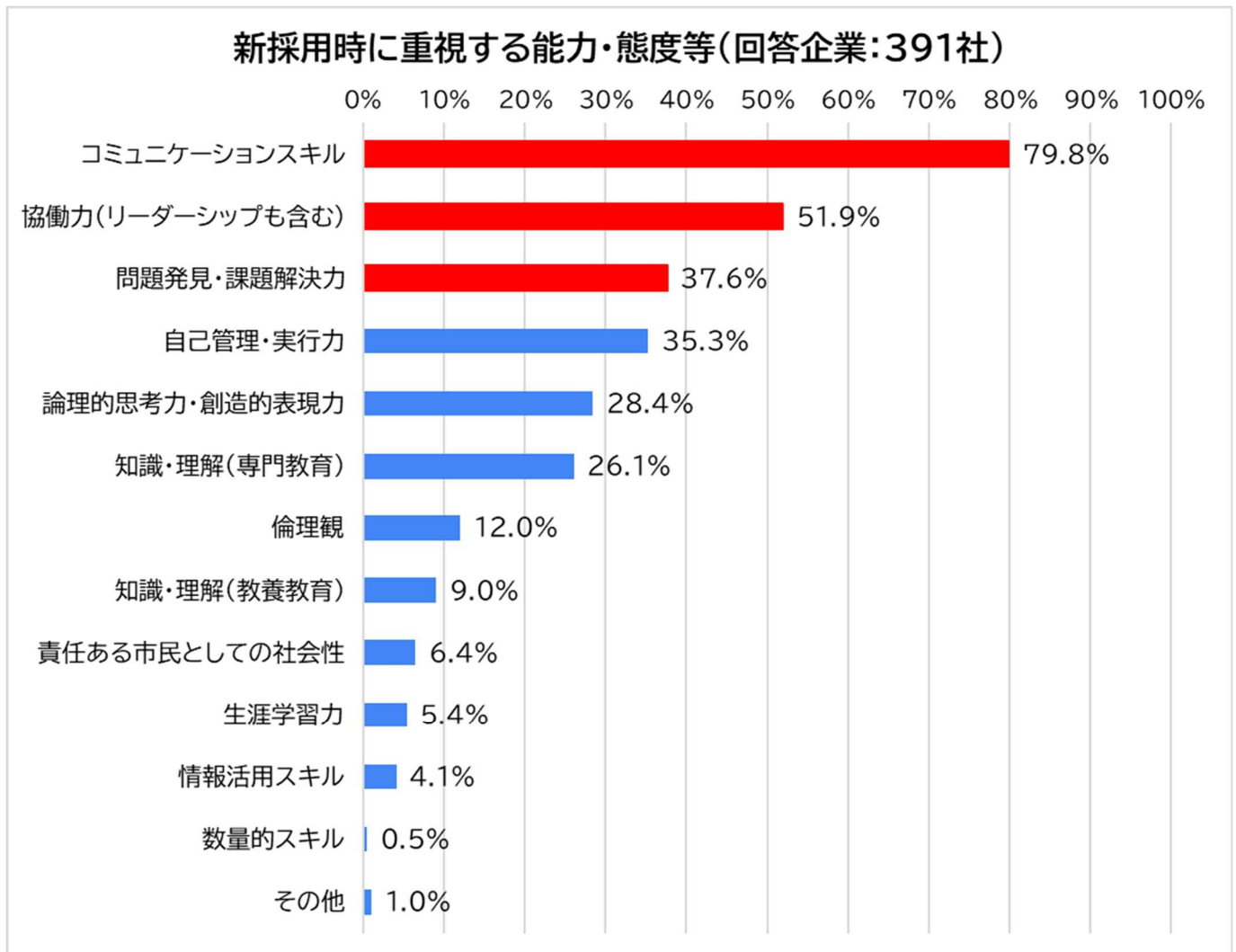
- ・回答企業の属性を本社の所在地別にみると、中国地方と近畿地方に本社を置く企業がそれぞれ4割前後を占め、両地方の合計で全体の8割を占めた。次に多かったのが関東地方で、1割ほどを占めた。
- ・また都道府県別にみると、鳥取が最多で、次いで東京、大阪、兵庫、岡山、広島の順となった。



| 九州・沖縄 | 四国 | 中国 | 近畿 | 中部 | 関東 | 北海道・東北 |
|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|
| 13 | 11 | 128 | 112 | 47 | 75 | 5 |
| 福岡県 4 | 徳島県 | 鳥取県 59 | 滋賀県 4 | 新潟県 | 茨城県 4 | 北海道 4 |
| 佐賀県 | 香川県 5 | 島根県 14 | 京都府 16 | 富山県 2 | 栃木県 1 | 青森県 1 |
| 長崎県 2 | 愛媛県 6 | 岡山県 29 | 大阪府 43 | 石川県 1 | 群馬県 3 | 岩手県 |
| 熊本県 1 | 高知県 | 広島県 22 | 兵庫県 42 | 福井県 6 | 埼玉県 2 | 宮城県 |
| 大分県 2 | | 山口県 4 | 奈良県 3 | 山梨県 | 千葉県 2 | 秋田県 |
| 宮崎県 1 | | | 和歌山県 4 | 長野県 2 | 東京都 51 | 山形県 |
| 鹿児島県 2 | | | | 岐阜県 4 | 神奈川県 12 | 福島県 |
| 沖縄県 1 | | | | 静岡県 4 | | |
| | | | | 愛知県 26 | | |
| | | | | 三重県 2 | | |

新卒採用時に重視する能力・態度等

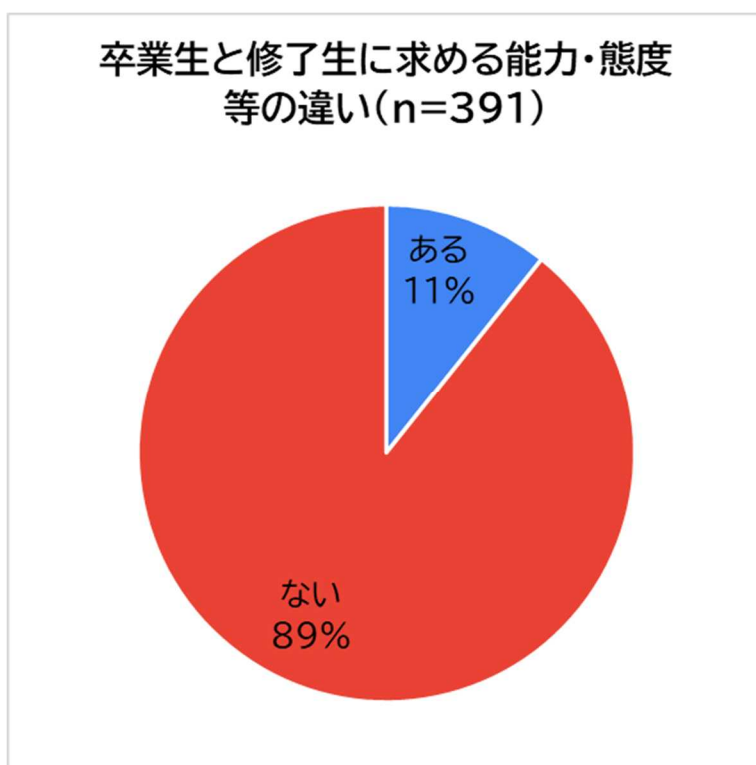
・近年の新卒採用活動で重視する、学生に求める能力・態度等を3つ選んでもらったところ、「コミュニケーションスキル」が特に抜きん出て多く、8割の企業で回答を集めた。「協働力（リーダーシップも含む）」も、半数の企業が選択した。そのほか、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」、「知識・理解（専門教育）」の順に、回答が多く集まった。



学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い

・直近5年間での新卒活動において、学部卒業生と大学院修了生とのあいだで求める能力・態度等に違いがあるかどうかを聞いたところ、「ない」と回答した企業・団体等が9割近くを占めた。前々回（平成29年度）・前回（令和2年度）調査のいずれでも「ある」の回答が1割前後だったことから、企業・団体等が求める能力・態度等に大きな変化は見られなかった。

・また、求める能力・態度等に違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求めるか、具体的に聞いたところ、大学院修了生に対してはより高度な専門性や専門知識を求める、という趣旨の回答が大半を占めた。その一方で、コミュニケーションスキル・社会人スキル・社会性といった、他者とともにものごとに取り組むうえで求められる要素や、問題や課題を発見してそれを解決に導く力など、いわゆるソフトスキルといわれる能力や態度を挙げた回答もみられた。大学院修了生に求めるものとして、より高度な専門性と、コミュニケーション能力等のソフトスキルが挙げられている点は、前回調査でも同様の傾向がみられた。



学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い (具体的記述) (1/2)

- ・ 専門的知見
- ・ 工学専攻の修士課程におきましては、自ら課題を見つけて解決に取り組む姿勢が学部卒よりも求められます。
- ・ 言葉遣い、態度、業務的能力が著しく劣っている。
- ・ コミュニケーション能力などの社会性
- ・ 専門知識の構築のみならず、それらを臨床応用してさまざまな局面で活用できる、理解力と判断力、そして実行力を高めていただきたい
- ・ 学術探究心が優れている
- ・ 大学院生には、自身の研究に対する専門知識等を求めています
- ・ "御校で取り組んでおられる論理的思考力、創造的表現力を採用試験の論文で主に見るようになった。
- ・ あとは基本的なところ、第一印象や社会人としてのマナー、話し方や言葉遣いは重要視している。"
- ・ 言葉遣いや知識など
- ・ 専門的な知識および考え方
- ・ 学部生は素直さとコミュニケーション能力、大学院生は専門性を活かす力
- ・ より実践的で即戦力に近い知識を身に付けている
- ・ 学部卒よりも詳細な知識
- ・ 専門的知識
- ・ 大学院でのより高度な専門知識を習得。大学院で得た学びを積極的に生かそうとする態度。
- ・ "当社採用の方は否定的で協調性の無い方で苦労しました。自己の要求ばかり主張し、社会人としての自覚の低さを感じました。現在はユーチューバーで事実無根のネタで当社の悪口をアップしており、とても残念でなりません。
- ・ 肯定的で建設的な思考を持ち、自発的に行動できる人材を求めます。"
- ・ 学部卒業生に対し、問題点を明確にし、自ら解決していこうとする意識を求めます。
- ・ 専門性と基礎学力を大学院卒に求める
- ・ 専門知識を持っているだけでなく、他者との関わり方に長けていることが望ましい
- ・ 学部、院生に関わらず自ら考え行動できる力
- ・ 当たり前のことを当たり前出来ない学生が多いので、最低限自己管理の出来る学生を採用している
- ・ 大学院修了者には、専門的知識、研究実施能力を求める
- ・ コミュニケーションスキル
- ・ 院卒生はプレゼン力を期待している
- ・ 学部卒業生よりも大学院卒業生の方が経験年数が多いこともあり、より大人で落ち着いた受け答えができている。
- ・ 専門的知識と能力

学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い (具体的記述) (2/2)

- ・ 大学院卒者は専門知識やスキル, 学部卒者より即戦力として
- ・ 指示待ち。
- ・ 大学院卒業者により深い獣医学臨床の専門知識を求める
- ・ 専門知識
- ・ 鳥大生と会う機会がなくなっている。
- ・ 専門知識・スキルを大学院修了者により強く求める
- ・ コミュニケーション
- ・ 専門的知識, 経験
- ・ 大学院はより専門能力を重視しています。

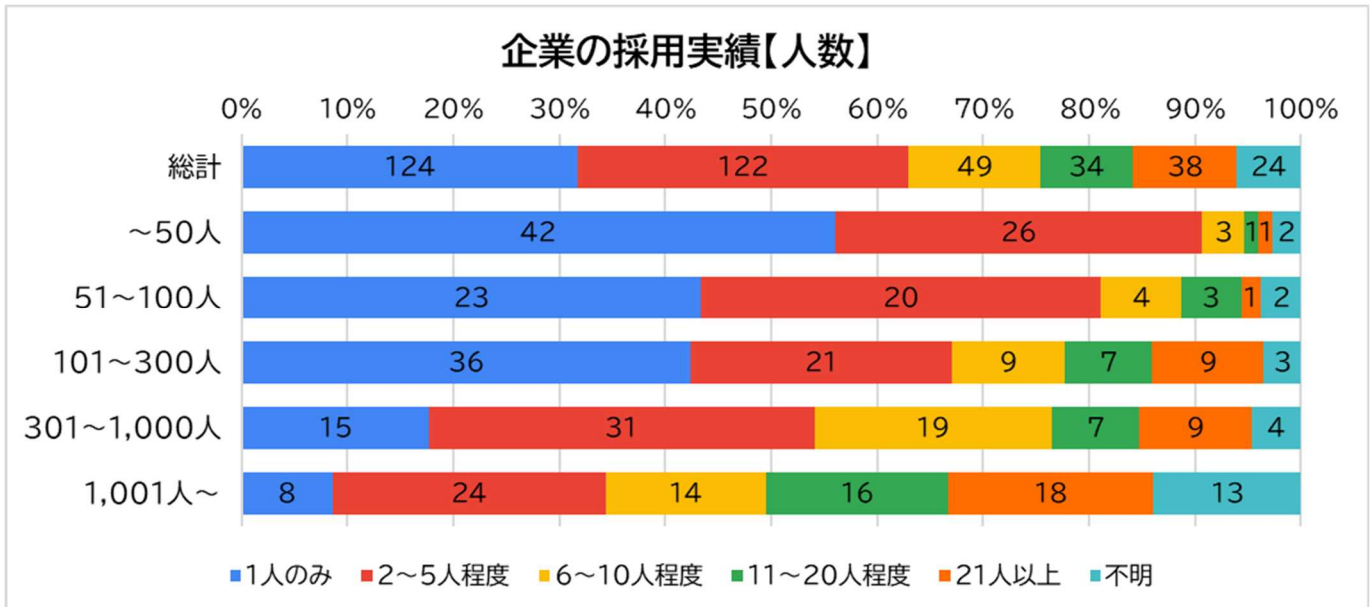
第2章

本学卒業生に関する回答

本学卒業生の採用実績(1/2)

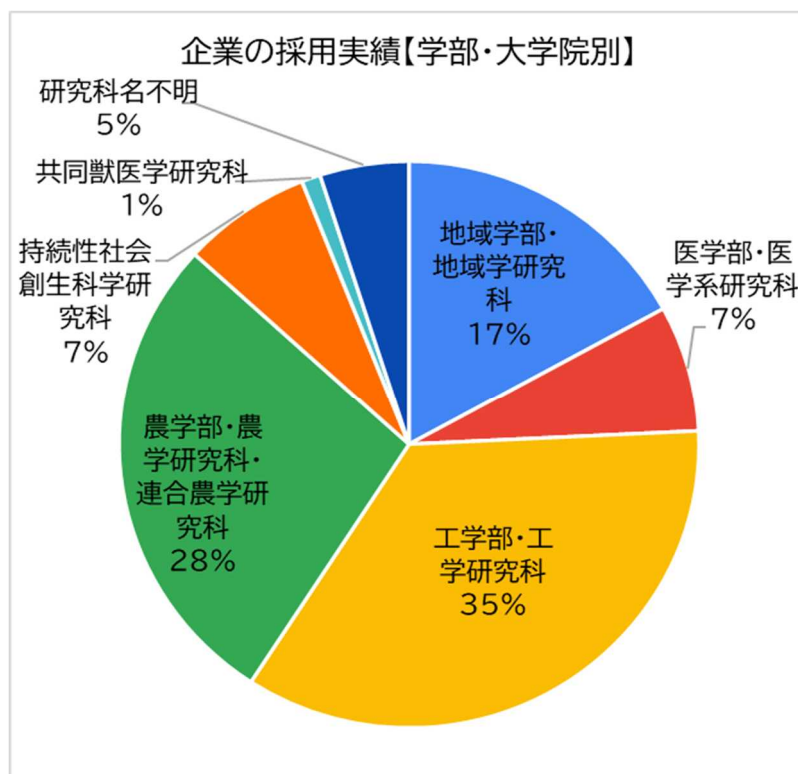
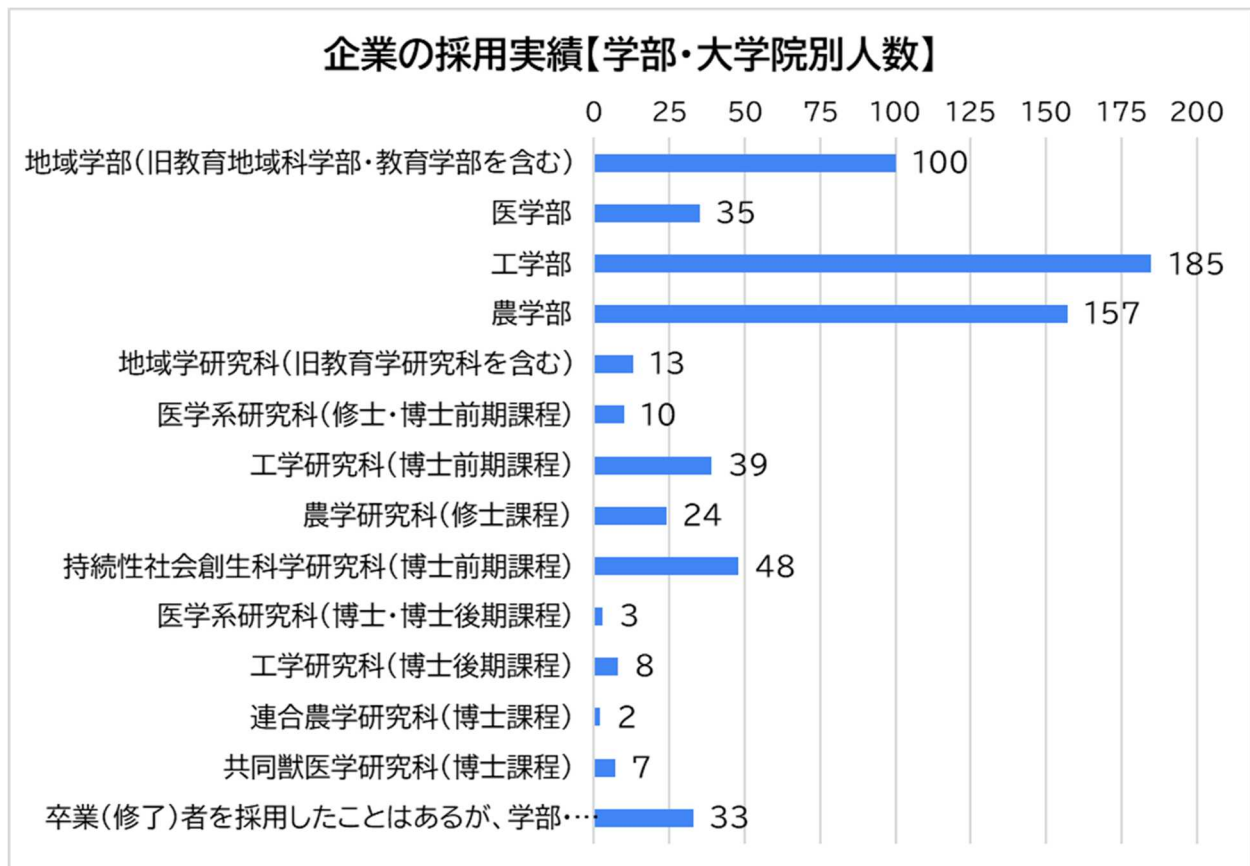
<人数>

・各社がこれまでに採用した本学学生の採用実績（人数）は、おおむね従業員規模に比例する傾向となっている。



本学卒業生の採用実績(2/2)

<学部・研究科>

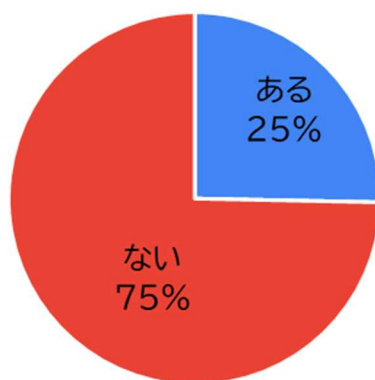


本学卒業生のイメージ

・本学卒業（修了）者に対して、何かイメージされる特徴があるかを聞いたところ、「ある」と回答した企業・団体等は4分の1にとどまった。ちなみに前々回（平成29年度）・前回（令和2年度）と、「ある」の割合は調査ごとに減少が続いている。

・さらに、イメージされる特徴がある場合、どのようなものかを具体的に書いてもらったところ、単語の出現度数として最も多かったのが「真面目」・「まじめ」で、40件を数えた。また、「誠実」・「実直」・「素直」・「責任感」・「信用できる」があわせて25件、「勤勉」・「努力家」・「コツコツ」があわせて9件など、ものごとに対して着実に・ひたむきに取り組む姿勢が本学卒業生の代表的なイメージとなっていることがうかがえることは、これまでの調査と同様である。一方で、「コミュニケーション能力」・「協調性」・「協力」・「協働」・「社交性」があわせて21件、「明るい」・「前向き」・「積極性」があわせて11件あるなど、社会における他者との良好な関係構築や主体的な姿勢を評価されている卒業生がいることもうかがえる。

本学卒業(修了)者に対するイメージ(n=391)



| 順位 | キーワード（類義語含む） | 出現度数(回) |
|----|---------------------------|---------|
| 1 | 真面目・まじめ | 40 |
| 2 | 誠実・実直・素直・責任感・信用できる | 25 |
| 3 | コミュニケーション能力・協調性・協力・協働・社交性 | 21 |
| 4 | 明るい・前向き・積極性 | 11 |
| 4 | 優秀・能力が高い | 11 |
| 6 | 勤勉・努力家・コツコツ | 9 |
| 7 | 地元志向・地域愛 | 7 |
| 8 | 専門知識・研究力 | 6 |

本学卒業生のイメージ（具体的記述）（1/3）

- ・ 総合大学であり、多様な分野にまたがり協働しているイメージ
- ・ 物事に対して真摯に取り組む学生
- ・ 地元貢献志向が強め
- ・ 一生懸命で真面目な学生が多い
- ・ 専門知識が十分にあることはもちろんのこと、社内外とのやりとりを効率的に実施することができる。設計の仕様についてのやりとりにおいて、顧客の要望を聞くだけでなく自社の主張も果たすことができる。
- ・ 真面目で誠実な方が多い
- ・ 素直でまじめにと組む姿が印象的です
- ・ 誠実・真面目
- ・ 前向きな姿勢で業務に取り組まれている印象があります
- ・ コミュニケーション能力が高い。また真面目で誠実
- ・ 勤勉，熱心
- ・ コミュニケーション能力が高い（特に上下関係を構築するのが上手な方が多い）
- ・ 真面目な方が多く社内交流も積極的に取る印象があります。
- ・ 真面目でおとなしい
- ・ 問題解決能力がある
- ・ 真面目にコツコツ頑張ることができる印象です。
- ・ 真面目に取り組む
- ・ 物事を真摯に受け止め取り組む姿勢，真面目さなど。
- ・ 元気で明るい
- ・ 専門知識を学生時代に深く身に付けられている印象があります
- ・ 真面目で専門知識が豊富
- ・ 社会人において、一定基準のスキルがある。
- ・ 真面目
- ・ 知的で真面目
- ・ 丁寧で真面目，勤勉な方です
- ・ 大学入学前より常に勉強する環境で過ごしているため，学習する意欲があり，理解が早い。
- ・ 全国情勢に疎い
- ・ 真面目に業務に取り組む社員が多いイメージです。
- ・ 素直で柔軟性に長けている
- ・ 知識の吸収力が高く，的確な業務を行ってくれる。また自分が行う仕事への責任感が強く，頼れる存在である。
- ・ 基礎能力高く，勤勉であることから仕事を任せられる安心感。
- ・ 賢く，優秀
- ・ まじめでコツコツと進めて行く。

本学卒業生のイメージ（具体的記述）（2/3）

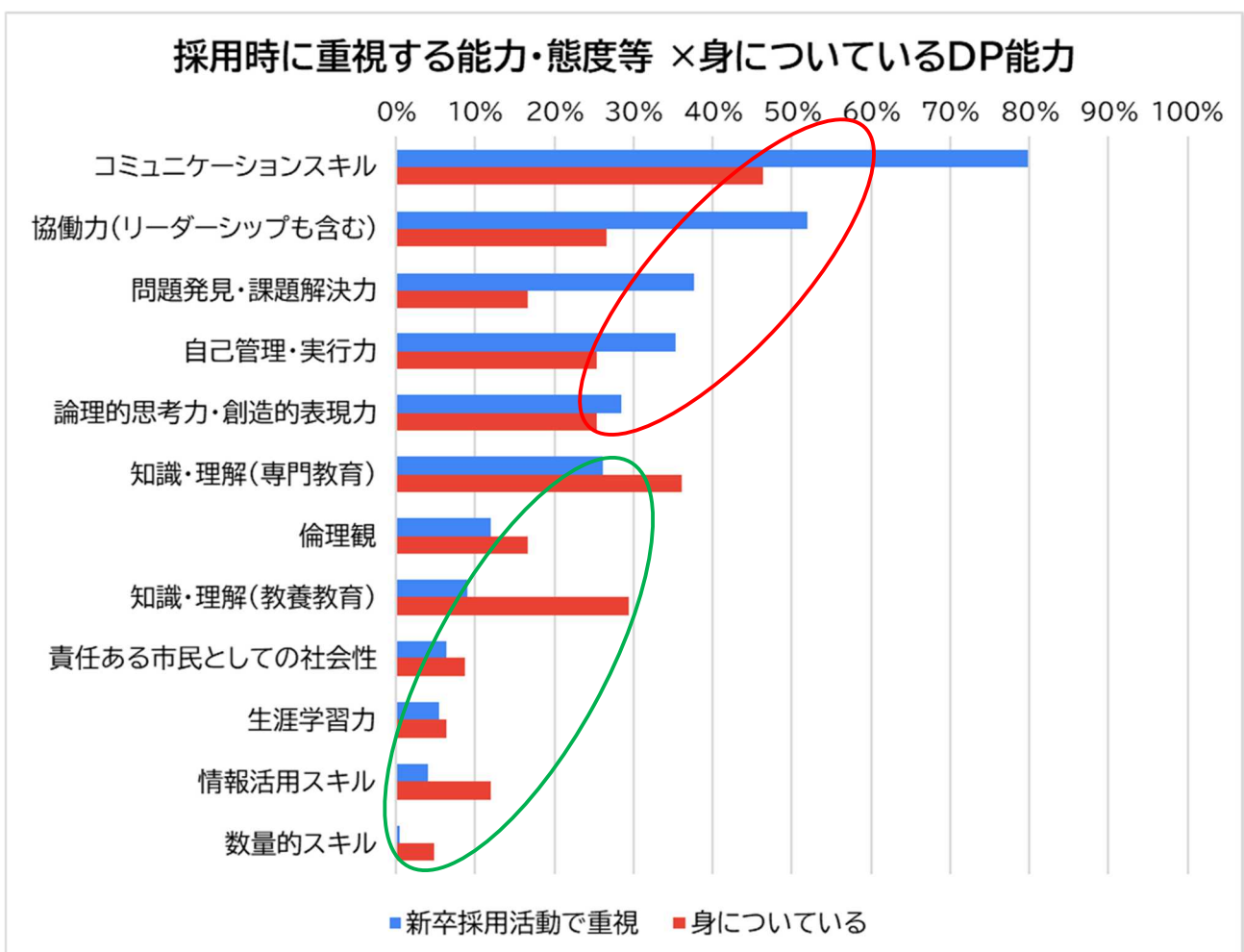
- ・ コミュニケーション能力が高いように感じています。
- ・ コミュニケーションスキルが高く、協働力もあり役職につき活躍している。
- ・ 素直で普通の感覚を持ち協調性があるか方が多い印象
- ・ 素直 真面目
- ・ 真面目で優秀な人物
- ・ 非常に真面目で誠実。
- ・ 地域（特に山陰地方）に対する愛着や課題意識を持っている。
- ・ 能力が高い印象
- ・ コツコツ資格を取得し、経験を積んで、活躍してくれる。
- ・ 人付き合いに長けており、気配りができる
- ・ 真面目な傾向。
- ・ 真面目で優秀
- ・ 明るく何にでもトライしてくれる
- ・ アイデアを出しながら仕事を進めることができる
- ・ 大人しく、真面目
- ・ 真面目で実直に業務に取り組むイメージ
- ・ まじめで地頭が良い
- ・ 基礎的知識に欠ける
- ・ 実直・素直、コミュニケーション力はやや不足
- ・ コミュニケーション能力の高さと物怖じせず積極的に業務に取り組む姿勢がみられる。
- ・ 堅実で、ポテンシャルも高い。
- ・ 自ら考える力がある
- ・ 総じて真面目な印象
- ・ 理解力が高い
- ・ 活躍する期待
- ・ 素直であり、実行力がある
- ・ 真面目で素直
- ・ 鳥取大学出身者としての特徴は現時点で特に感じていないが、岡山市にある中国四国農政局との距離感をどう感じているのか、こちら側として気になっている。
- ・ 真面目で素直
- ・ 出身地問わず、鳥取県内での就職を考えているイメージ。
- ・ 真面目、おとなしい
- ・ 素直で性格がよいとおもいます
- ・ 地元意識が強い
- ・ 農業、林業などの技術職を中心に活躍いただいています。
- ・ 誠実 寛容さ 真面目

本学卒業生のイメージ（具体的記述）（3/3）

- ・ 明るく前向き
- ・ 世間知らずで、客観性が低く、メタ認知能力が弱い。独自の価値観を重視する唯我独尊型。
- ・ 真面目で静かだが、必要なときは意見を言う
- ・ 非常に真面目で、しっかりとしている印象がある。
- ・ まじめで信用できる
- ・ 社会性がありコミュニケーション能力の高い職員が多いです。
- ・ 誠実・協力的
- ・ まじめでコツコツと物事を進める
- ・ 素朴で勤勉なイメージを持っています。
- ・ 社交性が高く周りとは協同して仕事を進めることができる
- ・ まじめで協調性のある人材
- ・ スキルが高い
- ・ まじめな方が多い
- ・ 自主性があり人柄がよい
- ・ 自立性が高い。
- ・ 幅広い知識、技術を習得している
- ・ 真面目で向上心がある
- ・ 誠実であり、担当職務について責任を持って遂行されている印象を持つ
- ・ 採用は1人ですが、真面目で、素直な人柄です。
- ・ 研究力にたけ、真面目でおとなしい
- ・ 努力家が多い
- ・ 真面目だが優先して行うべきことの判断力が弱く、せっかくの努力が評価されない。
- ・ 前向きで努力を惜しまず常に真摯な姿勢
- ・ 大人しい方が多い。
- ・ 基礎学力がある
- ・ 勤勉で真面目である
- ・ 私大より知識・教養の能力が高い
- ・ 物理（特に力学）を土台に、社会課題に向き合う意識と、専門性に一貫性のある学生
- ・ 従順で大人しめ。リーダーシップを持つ人材は少ない印象。

新卒採用時に重視する能力・態度等×身につけているDP能力

- ・新卒採用活動で重視する能力・態度等（問6）と、本学卒業生の印象として「身につけている」と感じられるDP能力（問9）を比較したところ、「新卒採用活動で重視」において最も回答を集めた「コミュニケーションスキル」は、「身につけている」とする回答でも最多を集めた。
- ・一方、「コミュニケーションスキル」に次いで「身につけている」と感じられるDP能力は、「知識・理解（専門教育）」、「知識・理解（教養教育）」の順となったが、「新卒採用活動で重視」のほうではそれぞれ6番目・8番目にとどまった。

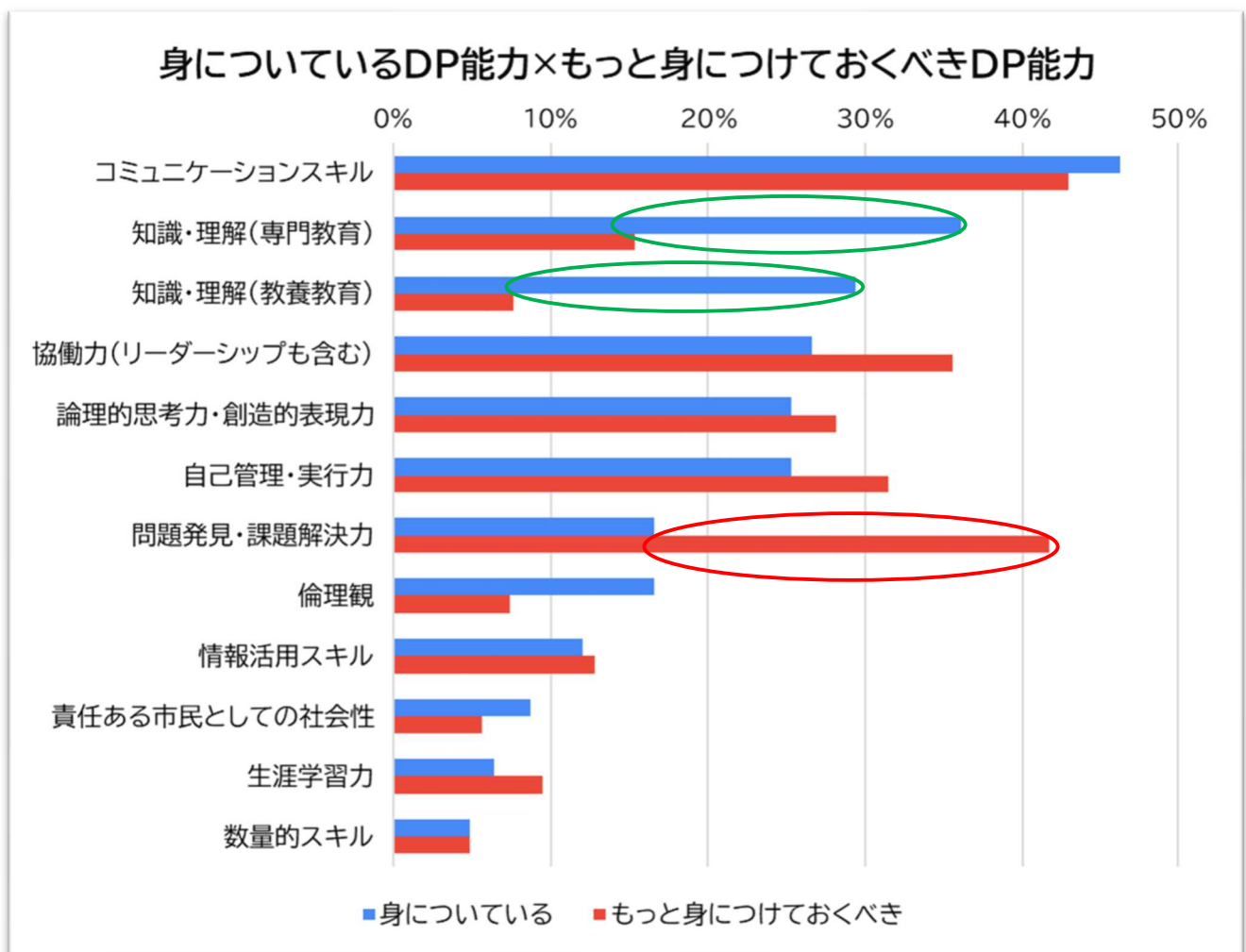


本学卒業生の DP 能力(1/2)

身につけている×もっと身につけておくべき

・「身につけている」が最も多く選ばれたのは「コミュニケーションスキル」だったが、その半面、「もっと身につけておくべき」の割合も最多だった。「コミュニケーションスキル」に次いで「身につけている」とされたのは「知識・理解（専門教育）」や「知識・理解（教養教育）」で、この二つについては「身につけている」が「もっと身につけておくべき」を大きく上回った。

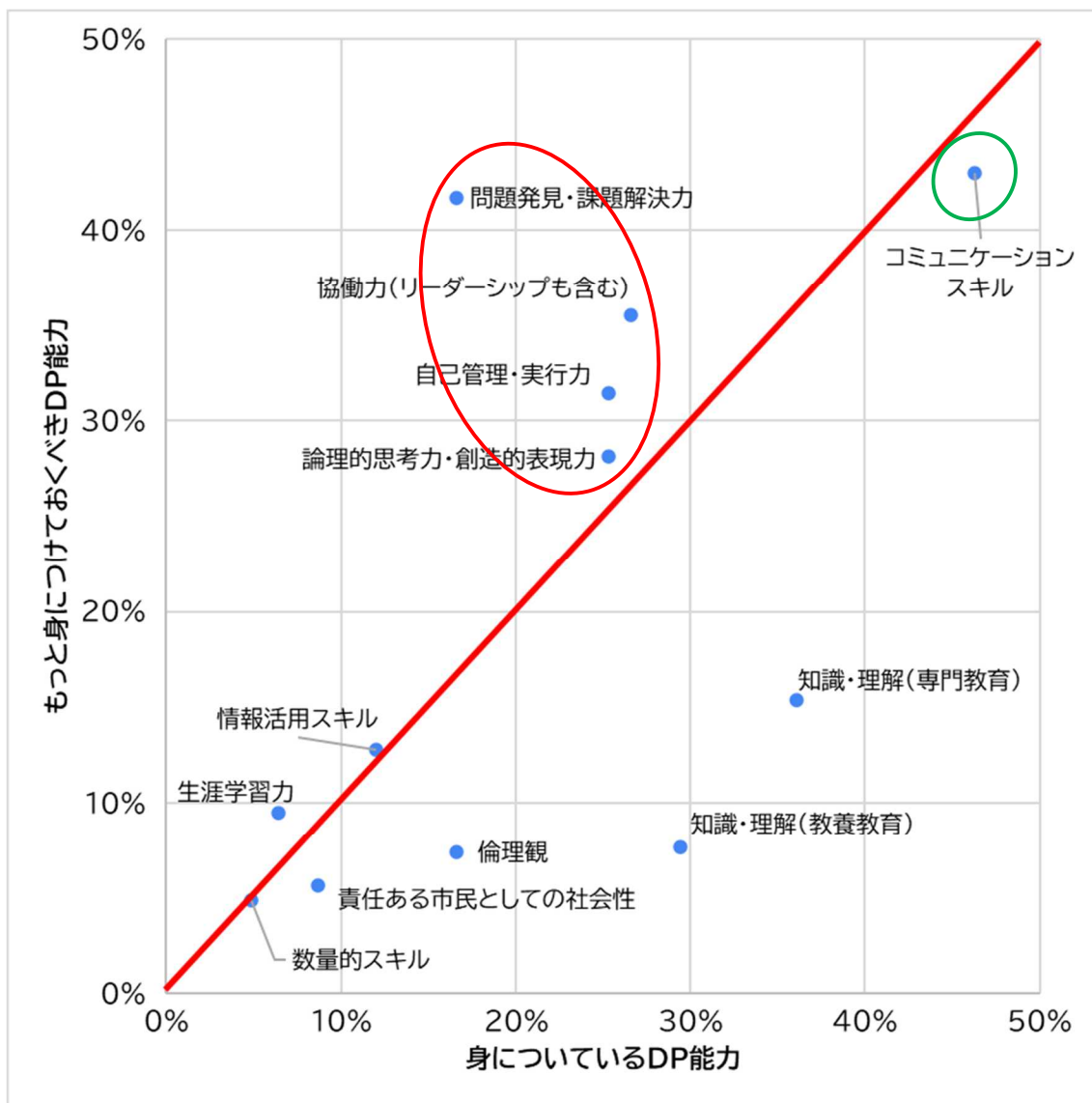
・一方、「もっと身につけておくべき」が「コミュニケーションスキル」と同程度に多かった「問題発見・課題解決力」では、「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を大きく上回っており、「コミュニケーションスキル」と比べ企業側の評価に大きな違いがみられる。また「協働力（リーダーシップも含む）」や「自己管理・実行力」でも、「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を上回った。



本学卒業生の DP 能力(2/2) 身につけている×もっと身につけておくべき

・「コミュニケーションスキル」については、「身につけている」が最も多く選ばれた一方で、「もっと身につけておくべき」のほうでも最多の割合を占めており、双方同じような値となっている。

・また、「もっと身につけておくべき」の選択割合が二番目に多かった「問題発見・課題解決力」について、「身につけている」の選択割合との差が大きく開いている点や、「協働力（リーダーシップも含む）」、「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」等で「もっと身につけておくべき」が多く選択されている点も、注目すべき部分といえる。



教育・学生支援に対する意見・要望等 (自由記述) (1/3)

- ・基本的には過去の調査でも同様ではあるが、人材獲得難に拍車がかかっている状況を反映して、本学学生の採用機会につながる情報提供や取組の強化についての要望を多くいただいた。
- ・鳥取県内での交流の拡大や、卒業後の定着に対する要望も、前回調査同様、数多くいただいた。
- ・在学中の教育に関する意見・要望としては、他者とのコミュニケーション能力や社会性の涵養について言及のあるものがいくつかみられた。

- ・ キャリア教育等で、業界説明会など実施される際は参加させていただきますので、ぜひお声がけ下さい。
- ・ Q9(1)の回答が必須だったため上から順にチェック入れましたが、回答は「なし」です。
- ・ 積極的な職場体験のすすめ
- ・ 学生とお話ができる機会などあればお声がけいただけますと幸いです。
- ・ 交流のある鳥取大学の学生は、主体的で自分の信念ややりたいことに向かって努力している印象があります。県外に出て行かれる方が多いのが残念ですが、さらに魅力ある地域にするために鳥取で活動する一企業として共に努力を重ねたいと思います。
- ・ 説明会を複数回開催し、本選考直前ではなく、夏のインターン参加を検討する場として設けるのが良いのではないかと考えます。夏の段階でさまざまな企業を見る機会を提供することで、学生の興味を深めるきっかけとなり、有意義な場になるかと存じます。
- ・ 鳥取大学をご卒業された社員の方には大変ご活躍いただいております。今後とも、優秀な学生の皆様とお会いできる機会があることを楽しみにしております。
- ・ 引き続き、鳥取県からの人材を育てて頂きたいです。(ブランドとして)
- ・ 海外留学など国際交流の機会を増やし、専門領域における世界観を養い、国際社会共通の課題を探究し取り組むことができるような人材を輩出していただきたい
- ・ お世話になっております。当社に入社いただいた貴学の卒業生は品行方正で能力も高く、入社当初から活躍されています。良い教育・指導をありがとうございます。
- ・ "本アンケートには、依頼を受けた市教育委員会が分かる範囲で回答していますが、採用は県教育委員会が行っていますことにご留意ください。
- ・ 引き続き、一人でも多くの熱意ある教職員の育成をお願いできれば幸いです。"
- ・ "まだ採用人数が少ないのですが、現在活躍されている卒業生は、非常に優秀だと感じています。まだまだ経験年数も浅いですが、今後の成長に期待もしていますし、将来的に部署の運営にも尽力できる人材だと思っています。
- ・ 当院での採用の際に、必ずしも応募があるわけではないので、ニーズにあう情報発信が出来ていないのかもしれないかもしれません。ご要望等ありましたら、ご教授いただけますと幸いです。"
- ・ 現在、弊社の研究開発拠点で 2022 年入社の方が頑張っております。その節はありがとうございました。

教育・学生支援に対する意見・要望等 (自由記述) (2/3)

- ・ 地域特性を活かした独自の研究（乾燥地）を実施されておられます。今後地域課題が多様化していく中で、地域性に特化した研究は地域防災においても重要な役割を果たされるのではないかと感じております。
- ・ 正解のないことを考察する能力を持ってもらいたい
- ・ 勤続 2 年で退職しました(令和 6 年 6 月末)
- ・ "入社当初から積極性に欠けており、本人に合った指導方法を考えて懸命に対応しましたが、3 ヶ月で退職しました。
- ・ 大学院卒業の方だったからか、研究室にいるような感覚で出勤されていたため、会社の求める働き方ではなく残念な結果になってしまったのかと思います。
- ・ DP 能力の表にあるコミュニケーションスキルとはまた違った、人と円滑にコミュニケーションをとる力が極端に不足されていたので、学力だけでなくそういったことを大学でもお伝えいただけると良いかと思います。"
- ・ 働くことの意味、何のために大学で学んでいるのか
- ・ 素晴らしい学生さんが今立派になっています。是非現学生の方にはインターンシップに来て欲しいと思います。
- ・ お世話になっております。鳥取大学ご卒業の学生さんには、今後ともぜひご縁を頂戴したいと思います。広く、合同企業説明会などの機会があればうれしく思います。今後もよろしくお願ひ申し上げます。
- ・ 社会性がある方が、成長しやすい傾向にあると思います。
- ・ 学生様との交流機会があれば、ご連絡をいただけると大変ありがたいと思います！
- ・ 卒業者は皆活躍しております！是非、学生の採用活動を宜しくお願ひ申し上げます。
- ・ "弊社はチームでものづくりを行うため、様々な場所とのやりとりが多く発生します。実験などでも学科を跨いで一つのものを作り上げる経験などがあるとさらに良いと感じています。
- ・ 今年も OBOG 訪問で伺い、選考まで進んでいただきました！今後もこのご縁を繋いでいきたいと考えておりますので、引き続き何卒よろしくお願ひいたします。"
- ・ 地域に残り、地域を愛し、守り発展させたいとより思ってもらえるような教育をこれからもよろしくお願ひします。
- ・ 社会人にとって、学術的、専門的な知識はもとより、コミュニケーションスキルや社会性、自己調整力などが求められる時代だと感じています。これからの社会のリーダーを育成する視点を大学での教育にさらに期待しています。
- ・ 様々な年代の方と会話を経験し、広くコミュニケーションを図ることが出来る人材を育てていただければ幸いです。
- ・ 学部での基本的な知識を理解させ、専門に活かす教育が不十分と思う。
- ・ 来年 2 月末まで募集しておりますので、気軽にお問ひ合わせ下さい。

教育・学生支援に対する意見・要望等 (自由記述) (3/3)

- ・ 2024 年卒ではご縁をいただき誠にありがとうございます。卒業生から弊社の仕事や経験についてご紹介することも可能でございます。ご要望等ございましたら、ぜひお声がけください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 学生には何事にも積極的に挑戦する姿勢を持ってほしい
- ・ "貴学卒業生に IT エンジニアとしてご活躍いただいております。信頼できるお人柄、コツコツと努力を積み重ねる実直な点が素晴らしいと感じています。
- ・ 鳥取地域に拠点を持つ企業として、引き続き学生と鳥取地域の企業との交流を進めていただけましたら嬉しく思います。"
- ・ 中国四国農政局では、採用活動及びインターンシップを積極的に取り組んでおります。また、鳥取県拠点も官署として構えております。より一層、連携したいと考えておりますので、学生向け業務説明会等の機会がありましたら、ぜひよろしくお願いいたします。
- ・ 鳥取県の活力になる人材の供給
- ・ 鳥大生に限らず、入社後の離職率がたかくなっています。勿論会社側も改善していかねばならない人多々あるとおもいますが、学生の意識が年々低くなっていると思います。新卒者に時間のお金をかけて育てようと試みるも、離職が多いと、社会的な無駄損失です。働くとは、社会人とは、社会にこうけんすること、損失をばらまくためではないという気構えを持って卒業してきてほしいです。
- ・ コミュニケーション能力、協調性の向上
- ・ Q9 (2) で選択したものは、より習得し社会に貢献していただきたいと、期待を込めて選択させて頂きました。
- ・ 共同獣医学科で、組織で仕事をするという社会人教育を徹底いただきたい。採用のみならず、採用にいたらなかったケースでも、唯我独尊、社会性の無さが目立つ。

第Ⅴ部
就職先企業・学部卒業生・
大学院修了生のデータ関連性

分析の観点

就職先企業・団体等, 学部卒業生及び大学院修了生を対象に収集した3種類のアンケート結果において, 学部・研究科での教育効果や学修成果(DP能力の修得度等)に関する設問に注目し, 共通する項目間の関連性について分析を行った。

※就職先企業向けアンケートでは, 学部卒業生と大学院修了生を区別していないため, 同一のアンケート結果(集計値)を使用してグラフを作成。

■就職先企業・団体等

[Q9:鳥取大学卒業生・修了生のDP能力等]

- ①「身につけている」(3つまで選択可)の**選択率**(回答件数/総回答企業数) ⇒ **企業「修得している」**
- ②「もっと身につけておくべき」(3つまで選択可)の**選択率**(選択件数/総回答企業数) ⇒ **企業「もっと修得すべき」**

■学部卒業生

[Q6:卒業生におけるDP能力の修得度]

- ③**肯定的回答**(大変修得できた+ある程度修得できた)の**回答率**(回答者数/総回答者数) ⇒ **卒業生「修得できた」**

[Q7:卒業生におけるDP能力の社会での役立ち度]

- ④**肯定的回答**(大変役立った+ある程度役立った)の**回答率**(回答者数/総回答者数) ⇒ **卒業生「役立った」**
- ⑤「もっと学んでおけば良かった」(3つまで選択可)の**選択率**(選択件数/総回答者数) ⇒ **卒業生「もっと学んでおけば良かった」**

■大学院修了生

[Q5:修了生におけるDP能力の修得度]

- ⑥**肯定的回答**(大変修得できた+ある程度修得できた)の**回答率**(回答者数/総回答者数) ⇒ **修了生「修得できた」**

[Q6:修了生におけるDP能力の社会での役立ち度]

- ⑦**肯定的回答**(大変役立った+ある程度役立った)の**回答率**(回答者数/総回答者数) ⇒ **修了生「役立った」**
- ⑧「もっと学んでおけば良かった」(3つまで選択可)の**選択率**(選択件数/総回答者数) ⇒ **修了生「もっと学んでおけば良かった」**

設問項目の関係

就職先企業・団体，学部卒業生，大学院修了生向けアンケートにおける DP 能力等の対応関係は，以下のとおりである。

| アンケートの設問(DP 能力等) | 就職先企業・ 団体等 | 学部 卒業生 | 大学院 修了生 |
|------------------|---------------|-----------|------------|
| 知識・理解(教養教育) | ○ | ○ | ○ |
| 知識・理解(専門教育) | ○ | ○ | ○ |
| コミュニケーションスキル | ○ | ○ | ○ |
| 数量的スキル | ○ | ○ | ○ |
| 情報活用スキル | ○ | ○ | ○ |
| 論理的思考力・創造的表現力 | ○ | ○ | ○ |
| 問題発見・課題解決力 | ○ | ○ | ○ |
| 自己管理・実行力 | ○ | ○ | ○ |
| 生涯学習力 | ○ | ○ | ○ |
| 協働力(リーダーシップも含む) | ○ | ○ | ○ |
| 倫理観 | ○ | ○ | ○ |
| 責任ある市民としての社会性 | ○ | ○ | ○ |

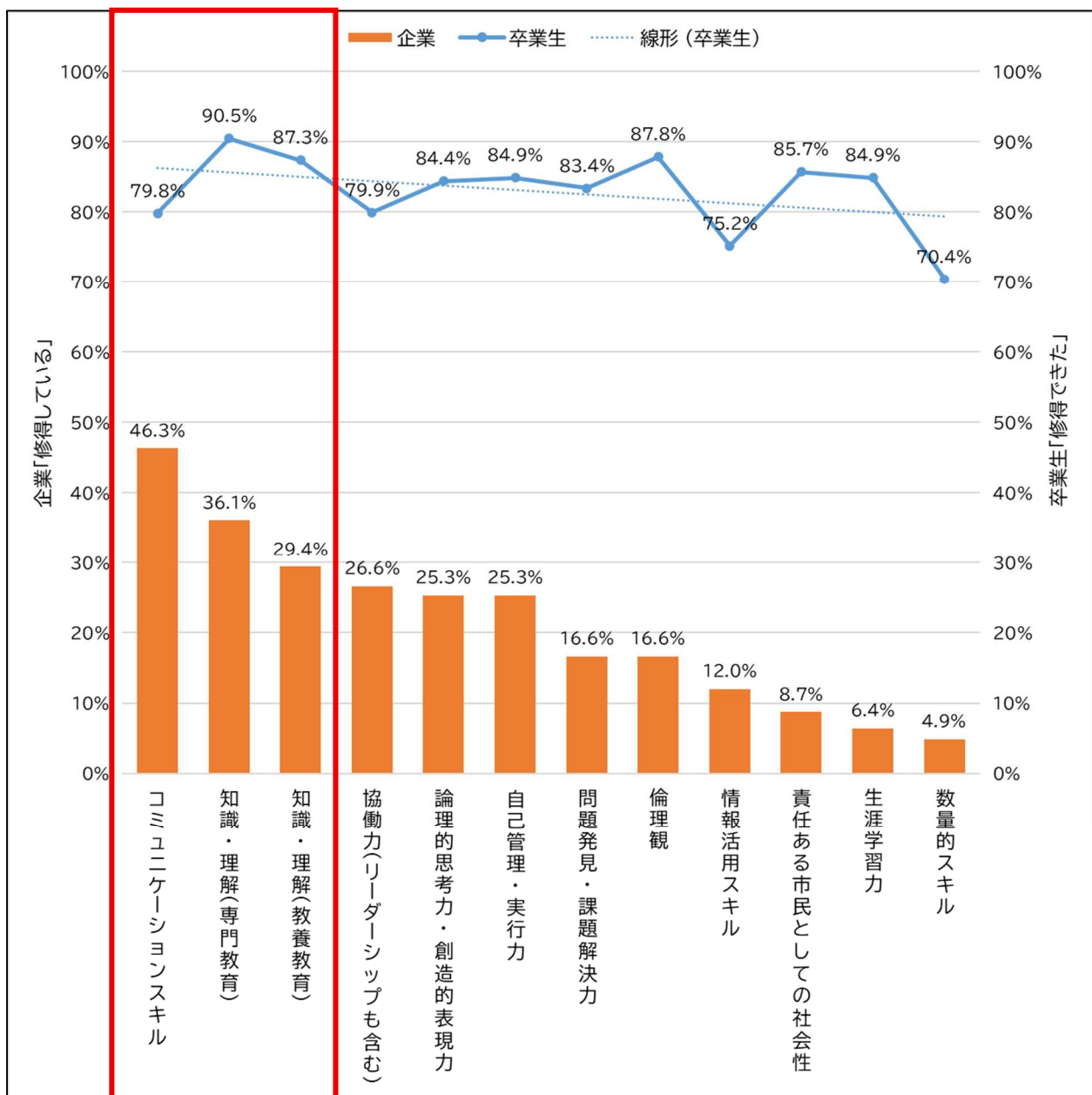
各アンケート結果を組み合わせ，以下に示す4つの観点により「教育効果」や「学修成果」について検討を行った。各対応関係は，以下のとおり。

| 観点 | アンケート結果の組み合わせ* |
|-------|---|
| 修得度 | 企業「修得している」(①)×卒業生・修了生「修得できた」(③・⑥) |
| 要望度 | 企業「もっと修得すべき」(②)×卒業生・修了生「修得できた」(③・⑥) |
| ギャップ度 | 企業「もっと修得すべき」(②)×卒業生・修了生「役立った」(④・⑦) |
| 不足度 | 企業「もっと修得すべき」(②)×卒業生・修了生「もっと学んでおけば良かった」(⑤・⑧) |

*丸数字は，「分析の観点」で示した項目(番号)と対応

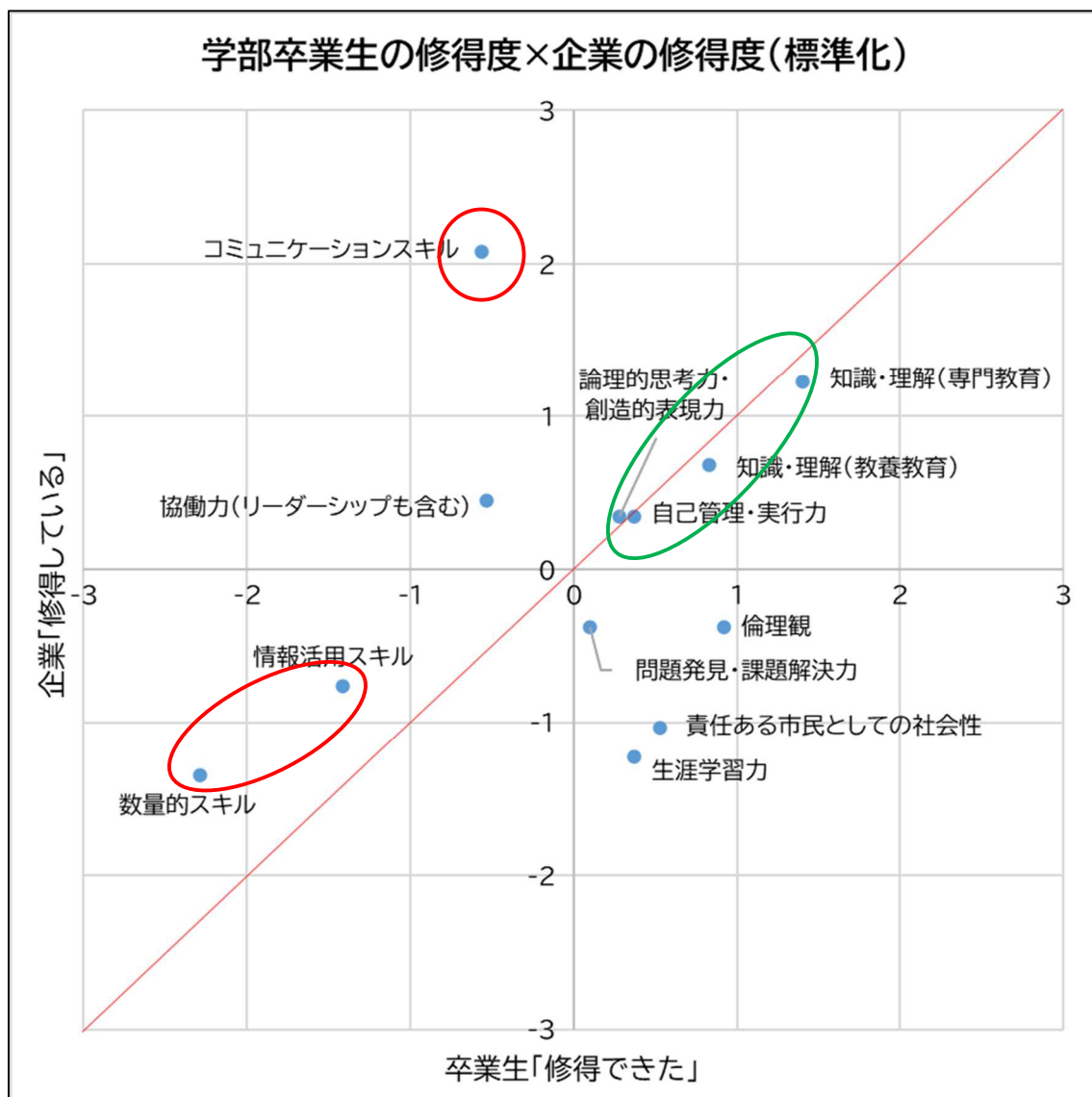
【修得度】企業の評価×卒業生の自己評価(1/2)

- DP能力等について、企業「修得している」の選択率(棒グラフ:降順)と卒業生「修得できた」の肯定的回答率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「修得している」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「知識・理解(専門教育)」と「知識・理解(教養教育)」であるが、卒業生の自己評価では2つの「知識・理解」は同様に高いものの、「コミュニケーションスキル」は79.8%と低かった。
- 卒業生の自己評価が低かった項目は、「数量的スキル」が70.4%と最も低く、次に「情報活用スキル」が75.2%であった。



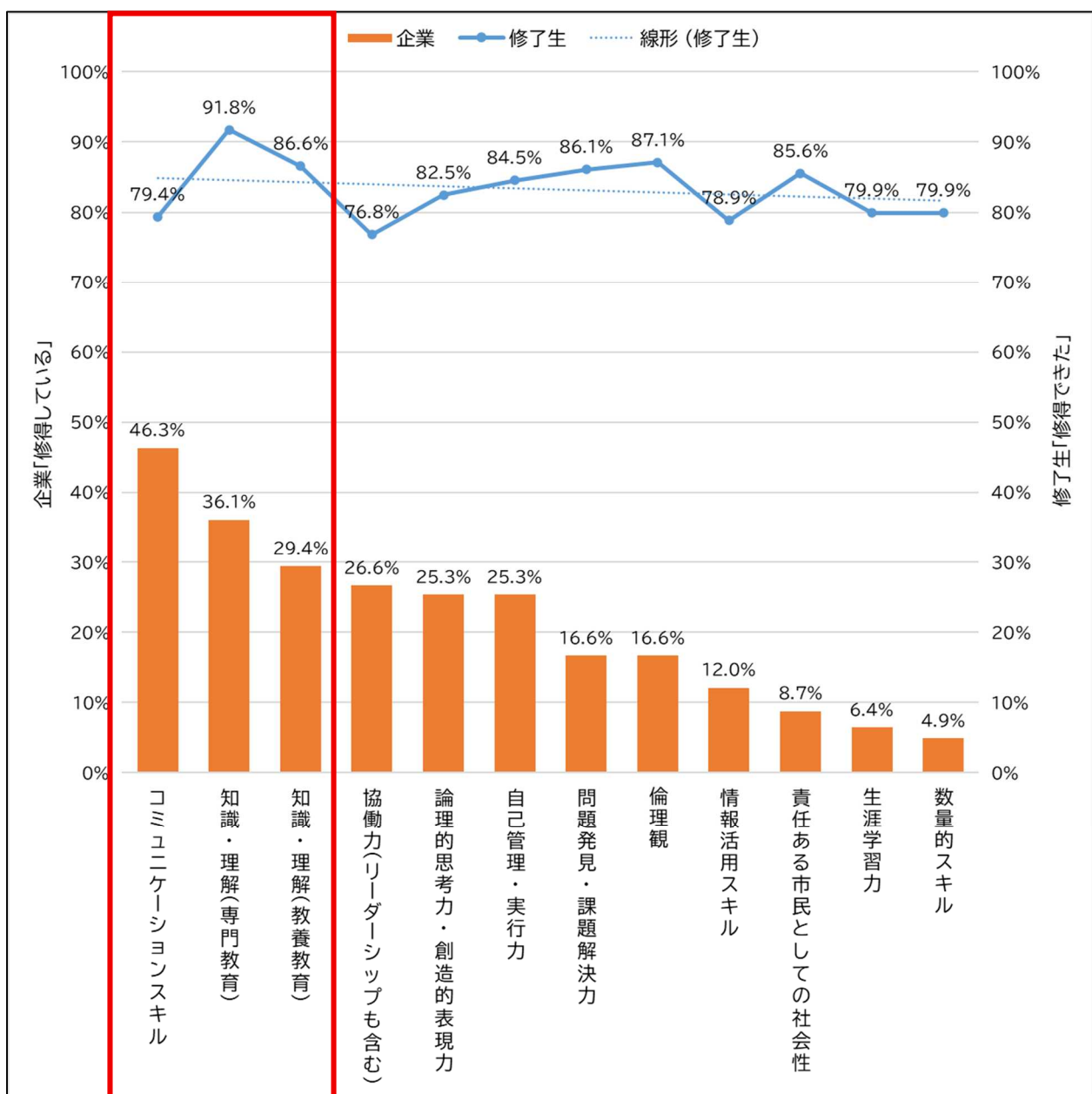
【修得度】企業の評価×卒業生の自己評価(2/2)

- 企業「修得している」の選択率と卒業生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した。
- 卒業生の自己評価と企業の評価がともに高いのが右上の領域であり、「知識・理解(専門教育)」、「知識・理解(教養教育)」、「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の4つが該当している。
- 卒業生の自己評価と企業の評価がともに低いのが左下の領域であり、「情報活用スキル」と「数量的スキル」の2つが該当している。
- 卒業生の自己評価は低いが企業の評価は高いのが左上の領域であり、「コミュニケーションスキル」と「協働力(リーダーシップも含む)」の2つが該当している。特に、「コミュニケーションスキル」のギャップが大きい。



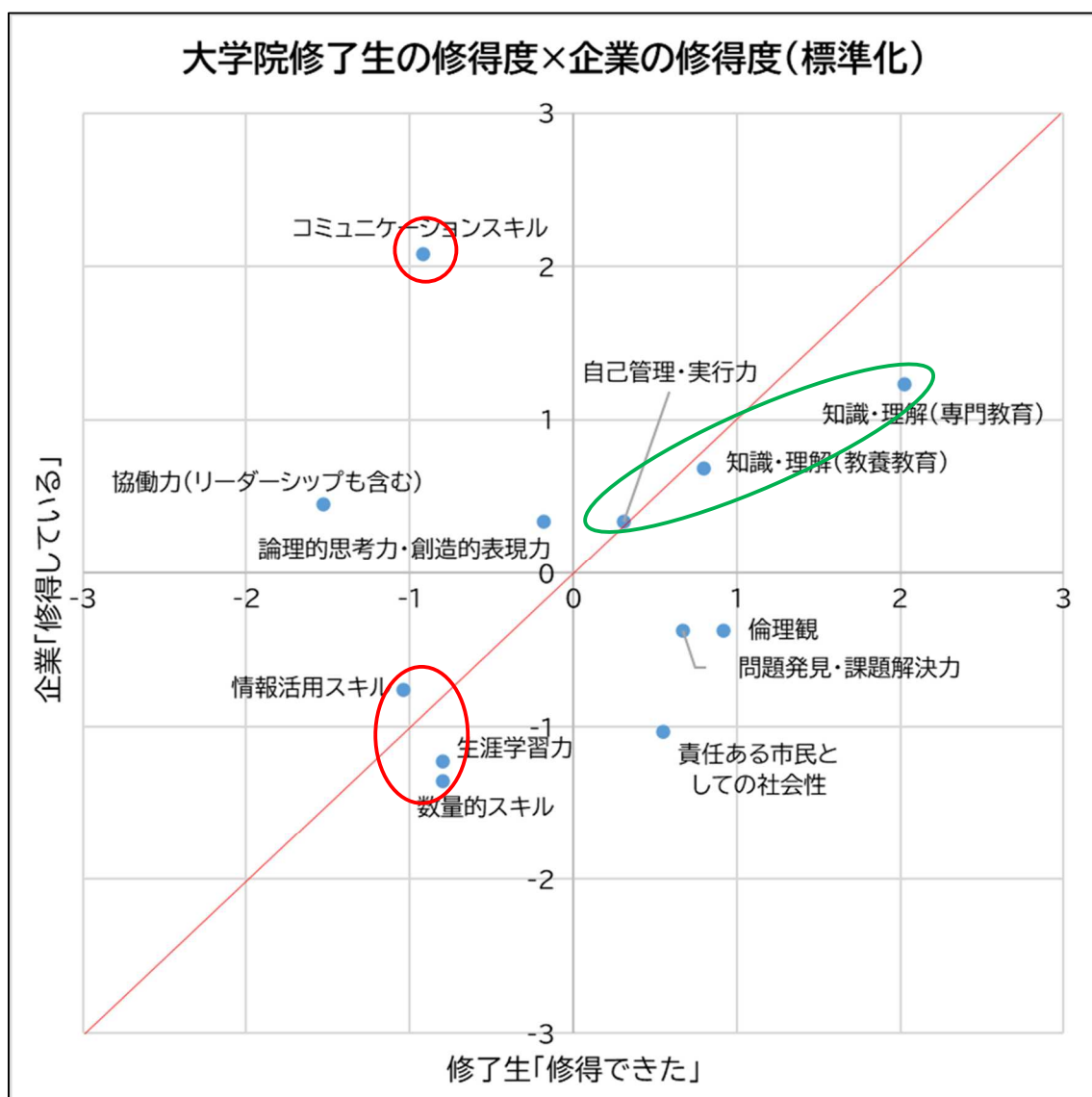
【修得度】企業の評価×修了生の自己評価(1/2)

- DP 能力等について、企業「修得している」の選択率(棒グラフ:降順)と修了生「修得できた」の肯定的回答率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「修得している」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「知識・理解(専門教育)」と「知識・理解(教養教育)」であるが、修了生の自己評価では2つの「知識・理解」は同様に高いものの、「コミュニケーションスキル」は79.4%と低かった。
- 修了生の自己評価が低かった項目は、「協働力(リーダーシップも含む)」が76.8%と最も低く、次に「情報活用スキル」が78.9%であった。



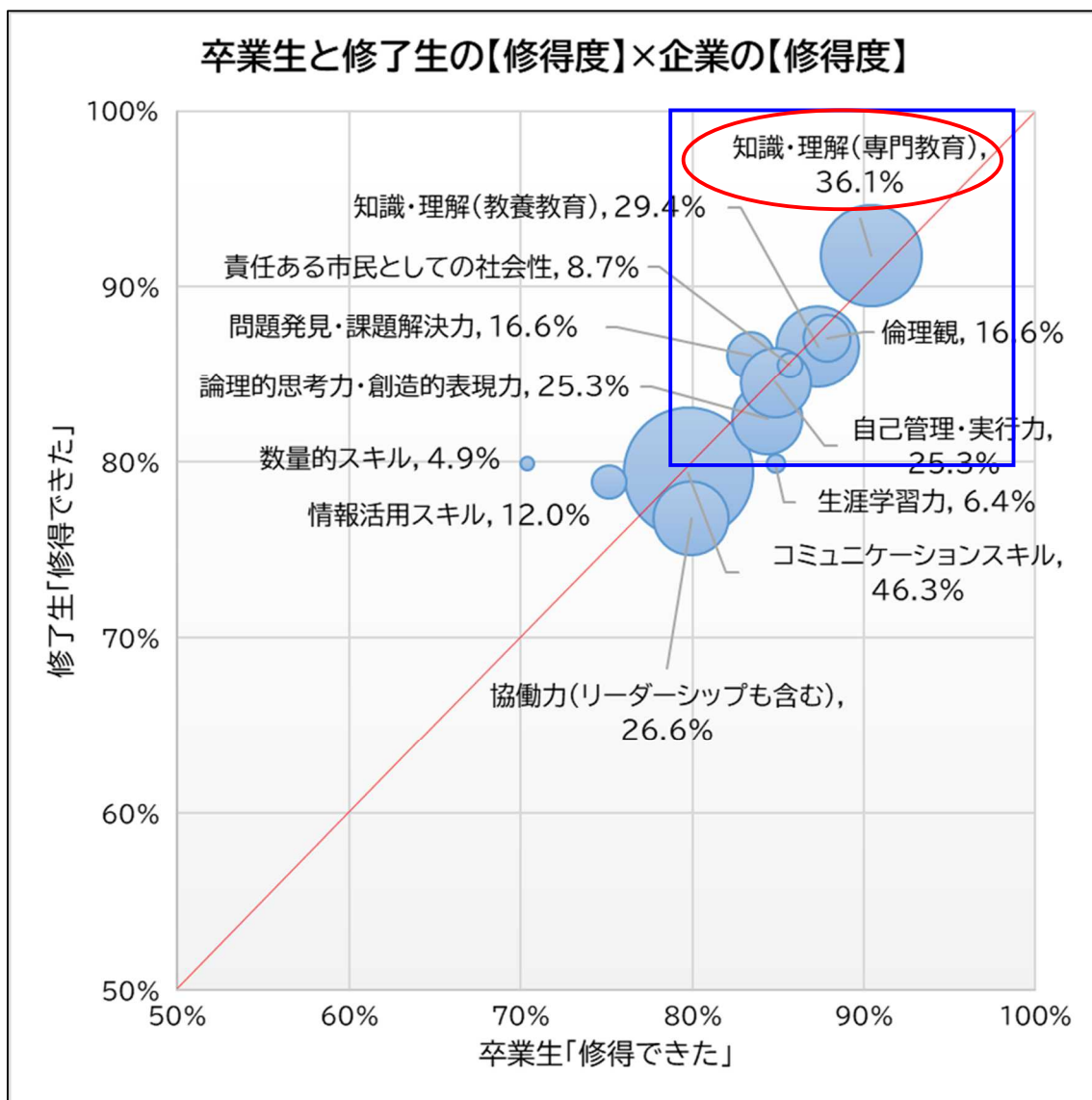
【修得度】企業の評価×修了生の自己評価(2/2)

- 企業「修得している」の選択率と修了生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した。
- 修了生の自己評価と企業の評価がともに高いのが右上の領域であり、「知識・理解(専門教育)」、「知識・理解(教養教育)」と「自己管理・実行力」の3つが該当している。
- 修了生の自己評価と企業の評価がともに低いのが左下の領域であり、「情報活用スキル」、「生涯学習力」と「数量的スキル」の3つが該当している。
- 修了生の自己評価は低いが企業の評価は高いのが左上の領域であり、「コミュニケーションスキル」、「協働力(リーダーシップも含む)」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。特に、卒業生と同様、「コミュニケーションスキル」のギャップが大きい。



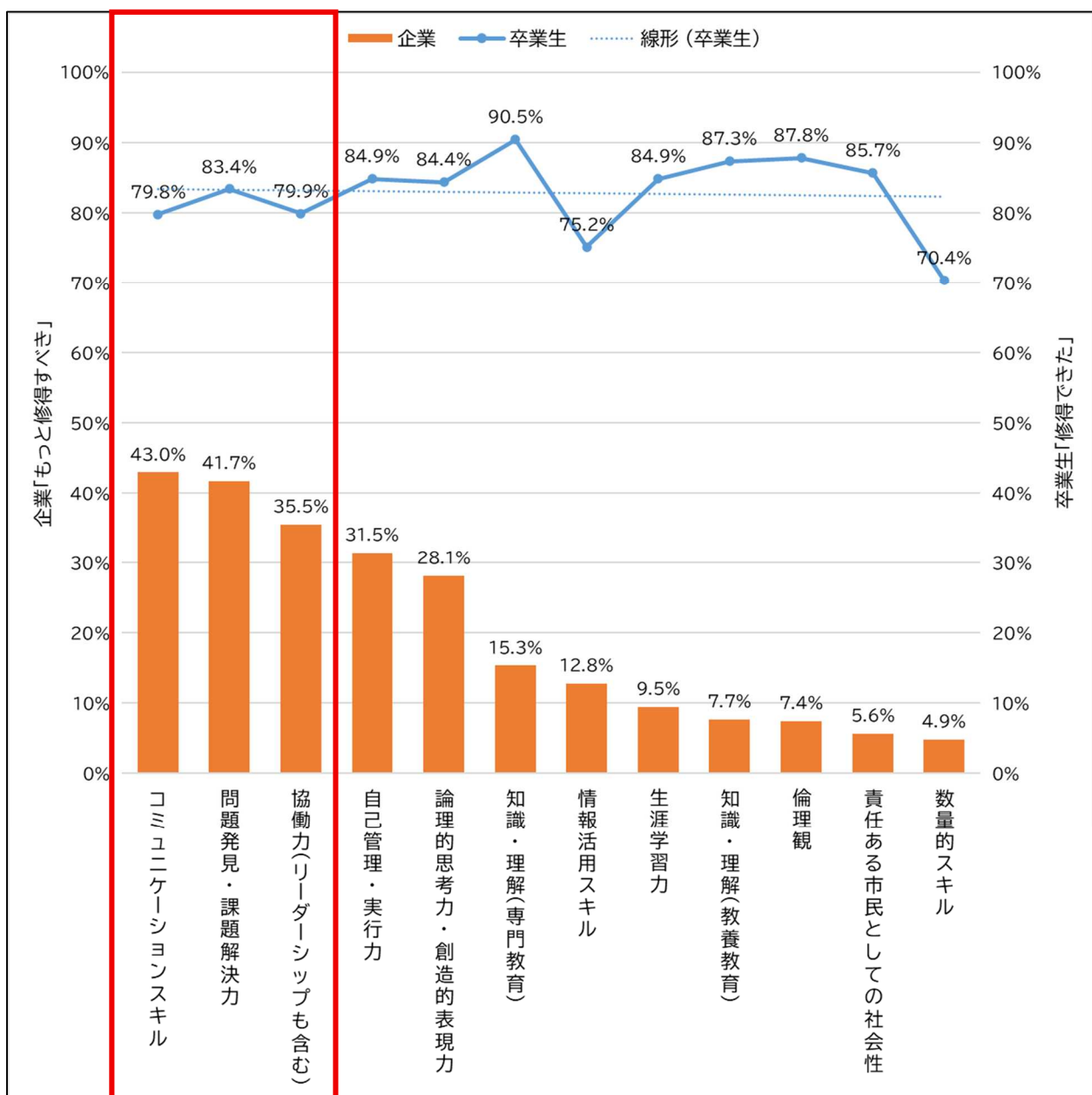
【修得度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP 能力等の修得度について、卒業生・修了生「修得できた」と企業「修得している」の関係性を示す。円の大きさ(数字)は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「修得できた」×修了生「修得できた」:0.76
 - 企業「修得している」×卒業生「修得できた」:0.32
 - 企業「修得している」×修了生「修得できた」:0.18
- 卒業生と修了生の DP 能力の修得度がともに 80%以上の項目は7個あった。特に、「**問題発見・課題解決力**」と「**知識・理解(専門教育)**」の2項目については、修了生の修得度が高くなる傾向がみられた。
- この中で、本学学生及び就職先企業が「身につけている(修得している)」と最も高く評価した項目は、「**知識・理解(専門教育)**」の **36.1%**であった。



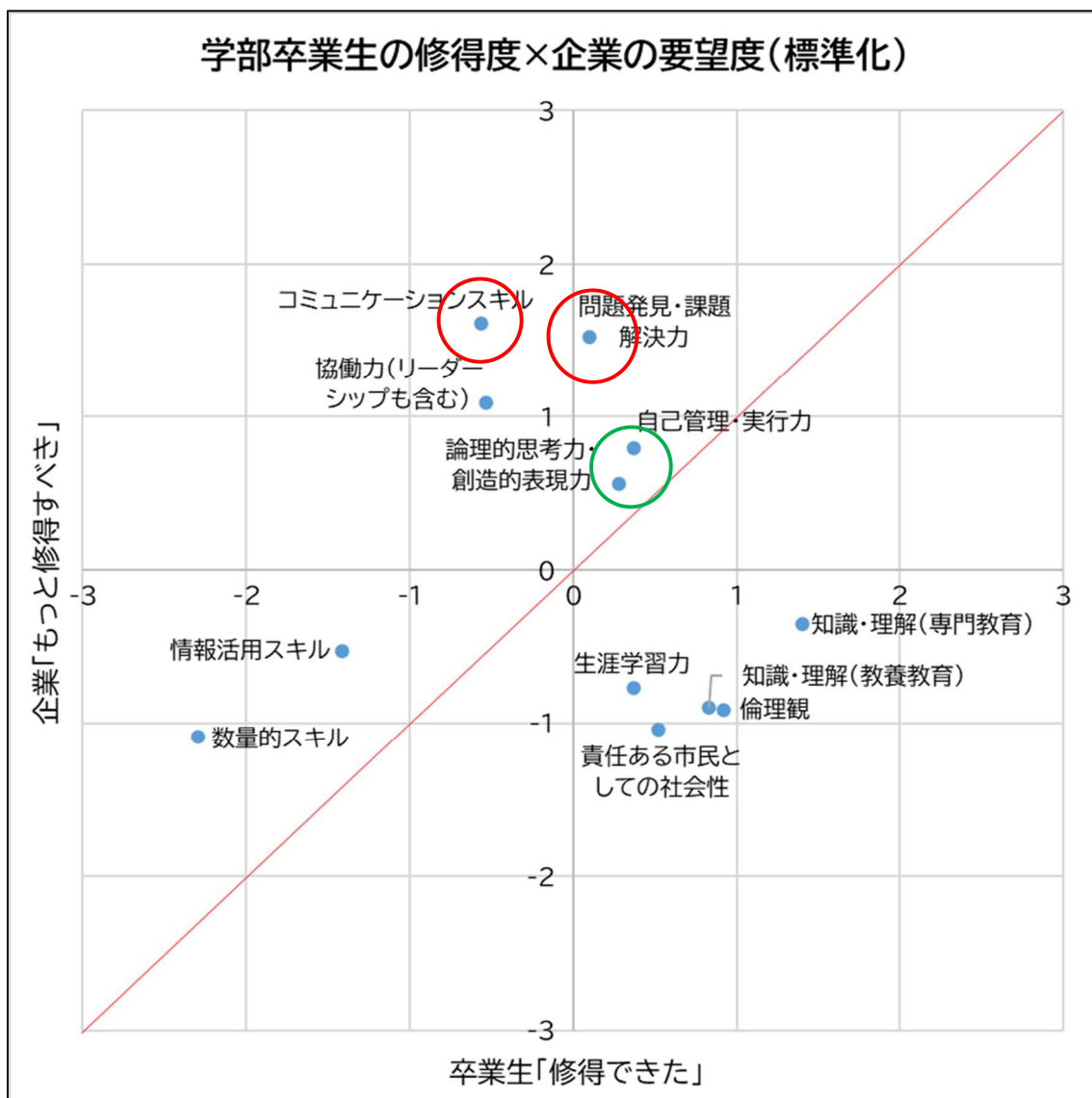
【要望度】企業の評価×卒業生の自己評価(1/2)

- DP能力等について、企業「もっと修得すべき」の選択率(棒グラフ:降順)と卒業生「修得できた」の肯定的回答率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力(リーダーシップも含む)」であるが、卒業生の自己評価ではこれら3項目はさほど高くなかった。
- 卒業生の自己評価が最も高かった項目は「知識・理解(専門教育)」の90.5%であったが、最も低かった項目は「数量的スキル」の70.4%であり、次は「情報活用スキル」の75.2%であった。



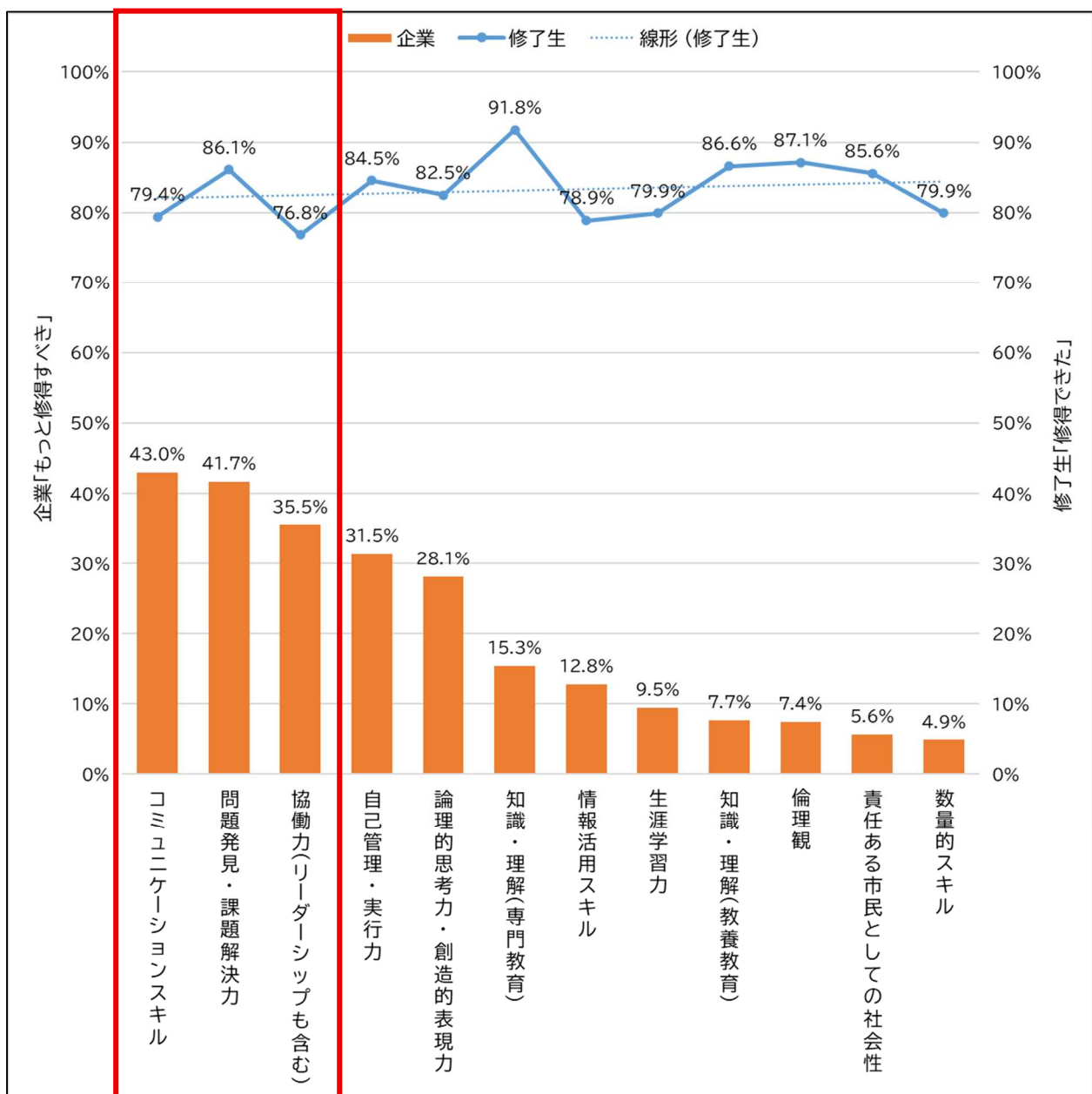
【要望度】企業の評価×卒業生の自己評価(2/2)

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と卒業生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した。
- 卒業生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力が右上の領域であり、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。特に、「問題発見・課題解決力」については、企業は卒業生の結果以上に高いレベルを求めている。
- 卒業生の自己評価は低いが、企業が要望する DP 能力が左上の領域であり、「コミュニケーションスキル」と「協働力(リーダーシップも含む)」の2つが該当している。特に、「コミュニケーションスキル」については、企業は「問題発見・課題解決力」と同等レベルのものを求めている。



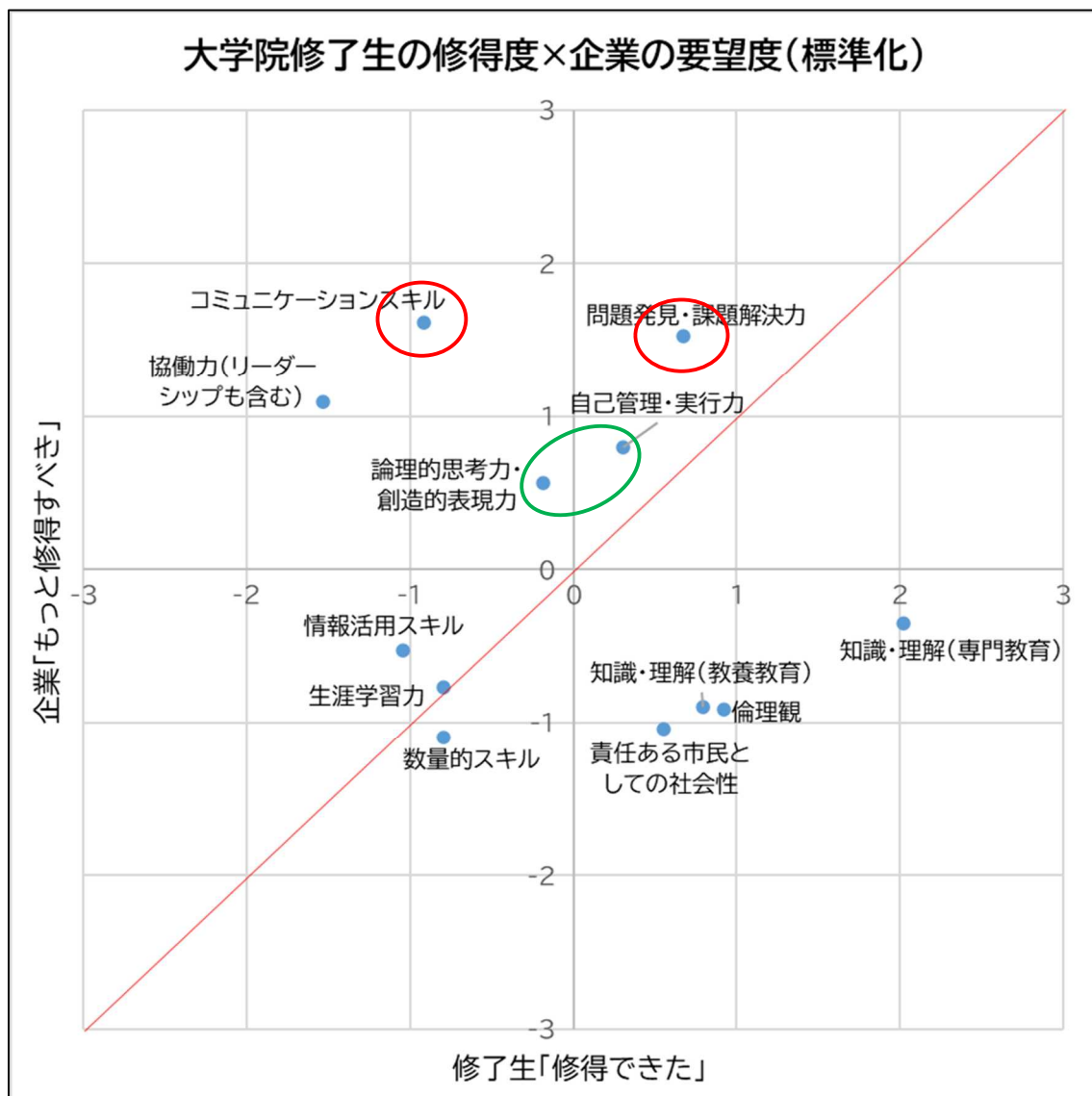
【要望度】企業の評価×修了生の自己評価(1/2)

- DP能力等について、企業「もっと修得すべき」の選択率(棒グラフ:降順)と修了生「修得できた」の肯定的回答率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力(リーダーシップも含む)」であるが、修了生の自己評価ではこれら3項目はさほど高くなかった。
- 修了生の自己評価が最も高かった項目は「知識・理解(専門教育)」の91.8%であったが、最も低かった項目は「協働力(リーダーシップも含む)」の76.8%であり、次は「情報活用スキル」の78.9%であった。



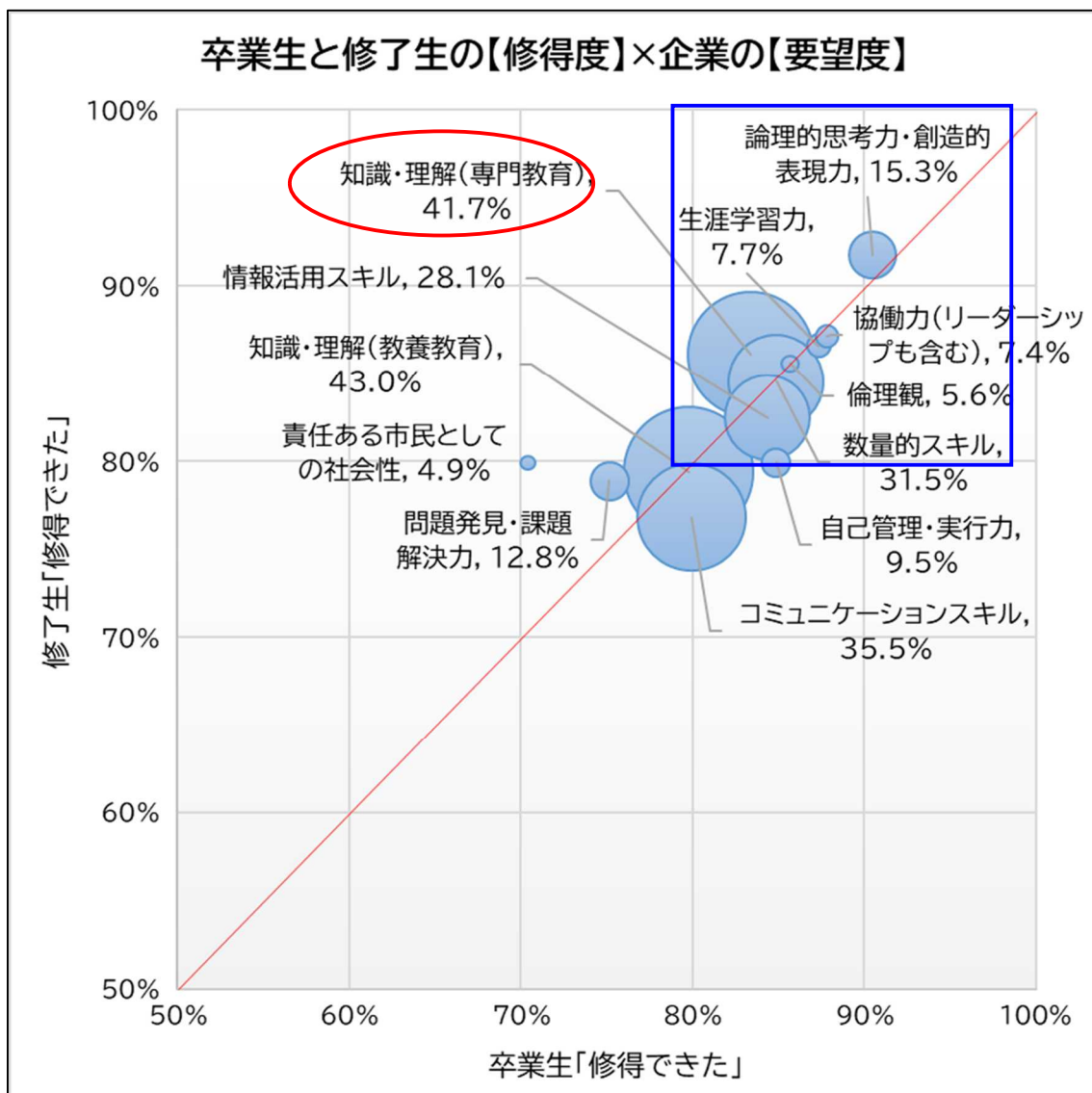
【要望度】企業の評価×修了生の自己評価(2/2)

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と修了生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した。
- 修了生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力が右上の領域であり、「問題発見・課題解決力」と「自己管理・実行力」の2つが該当している。特に、「問題発見・課題解決力」については、卒業生と同様、企業は修了生の結果以上に高いレベルを求めている。
- 修了生の自己評価は低いが、企業が要望する DP 能力が左上の領域であり、「コミュニケーションスキル」、「協働力(リーダーシップも含む)」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。特に、「コミュニケーションスキル」についても、卒業生と同様、企業は「問題発見・課題解決力」と同等レベルのものを求めている。



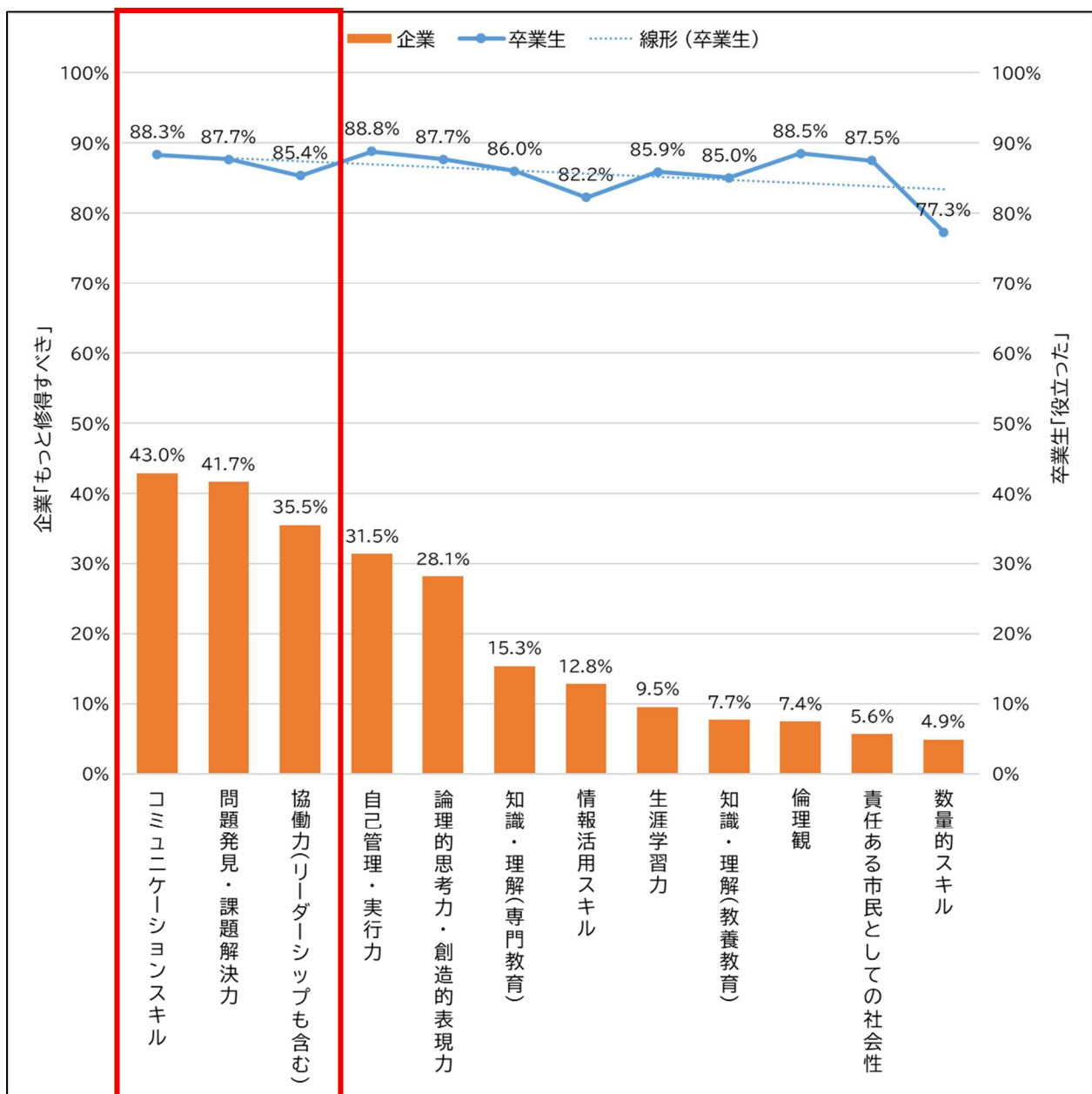
【要望度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP能力等の修得度について、卒業生・修了生「修得できた」と企業「もっと修得すべき」の関係性を示す。円の大きさ(数字)は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「修得できた」×修了生「修得できた」:0.76
 - 企業「もっと修得すべき」×卒業生「修得できた」:-0.04
 - 企業「もっと修得すべき」×修了生「修得できた」:-0.23
- 卒業生と修了生のDP能力の修得度がともに80%以上の項目は7個あった。特に、「知識・理解(専門教育)」と「論理的思考力・創造的表現力」の2項目については、修了生の修得度が高くなる傾向がみられた。
- この中で、本学学生が「身につけている(修得している)」と思っているが、就職先企業は「もっと身につけておくべき」と最も強く要望している項目は、「知識・理解(専門教育)」の41.7%であった。



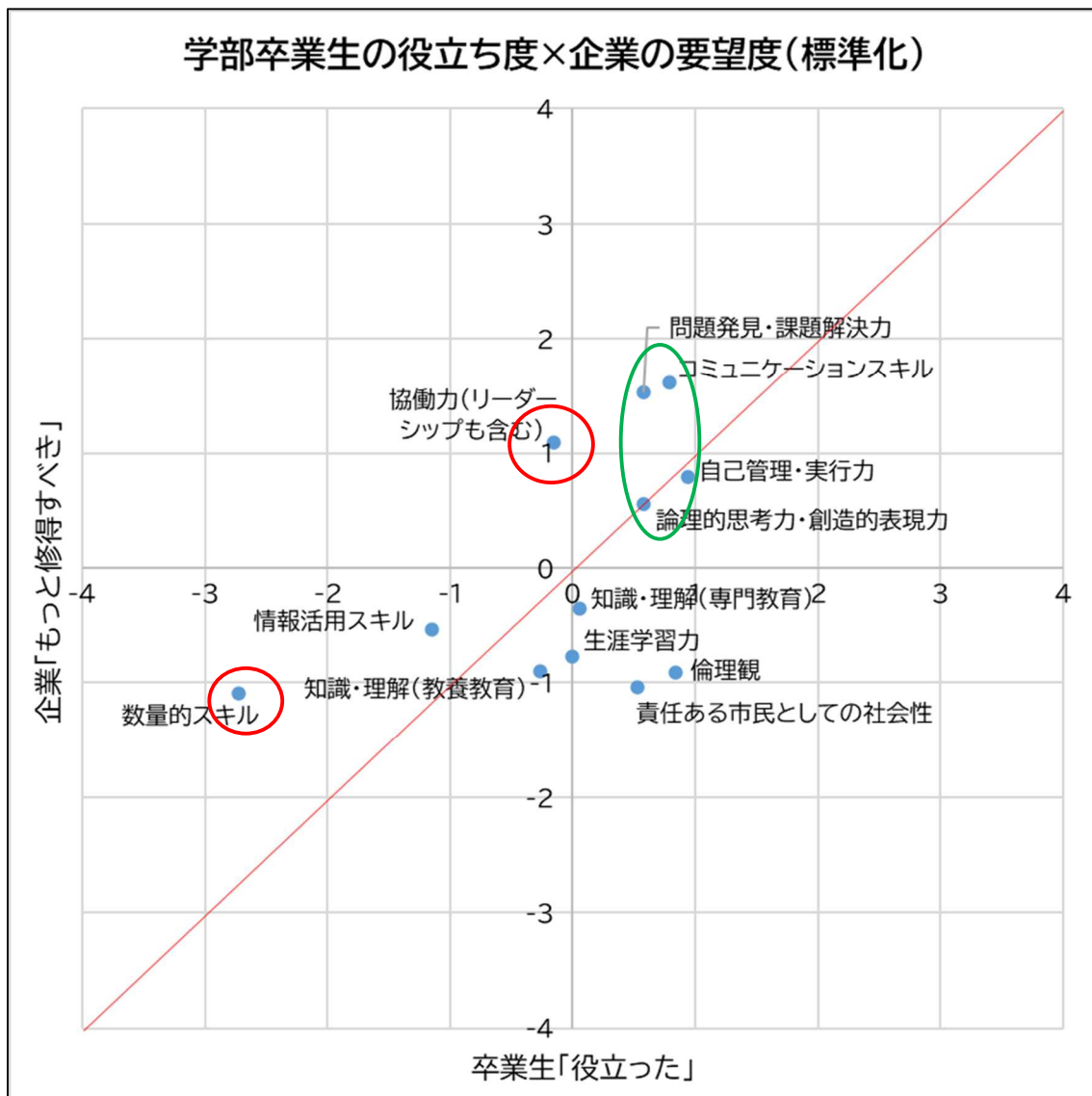
【ギャップ度】企業の評価×卒業生の自己評価(1/2)

- DP能力等について、企業「もっと修得すべき」の選択率(棒グラフ:降順)と卒業生「役立った」の肯定的回答率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力(リーダーシップも含む)」であるが、卒業生の自己評価では「コミュニケーションスキル」は88.3%とやや高かった。
- 卒業生の自己評価が最も高かった項目は「自己管理・実行力」の88.8%であったが、最も低かった項目は「数量的スキル」の77.3%であった。



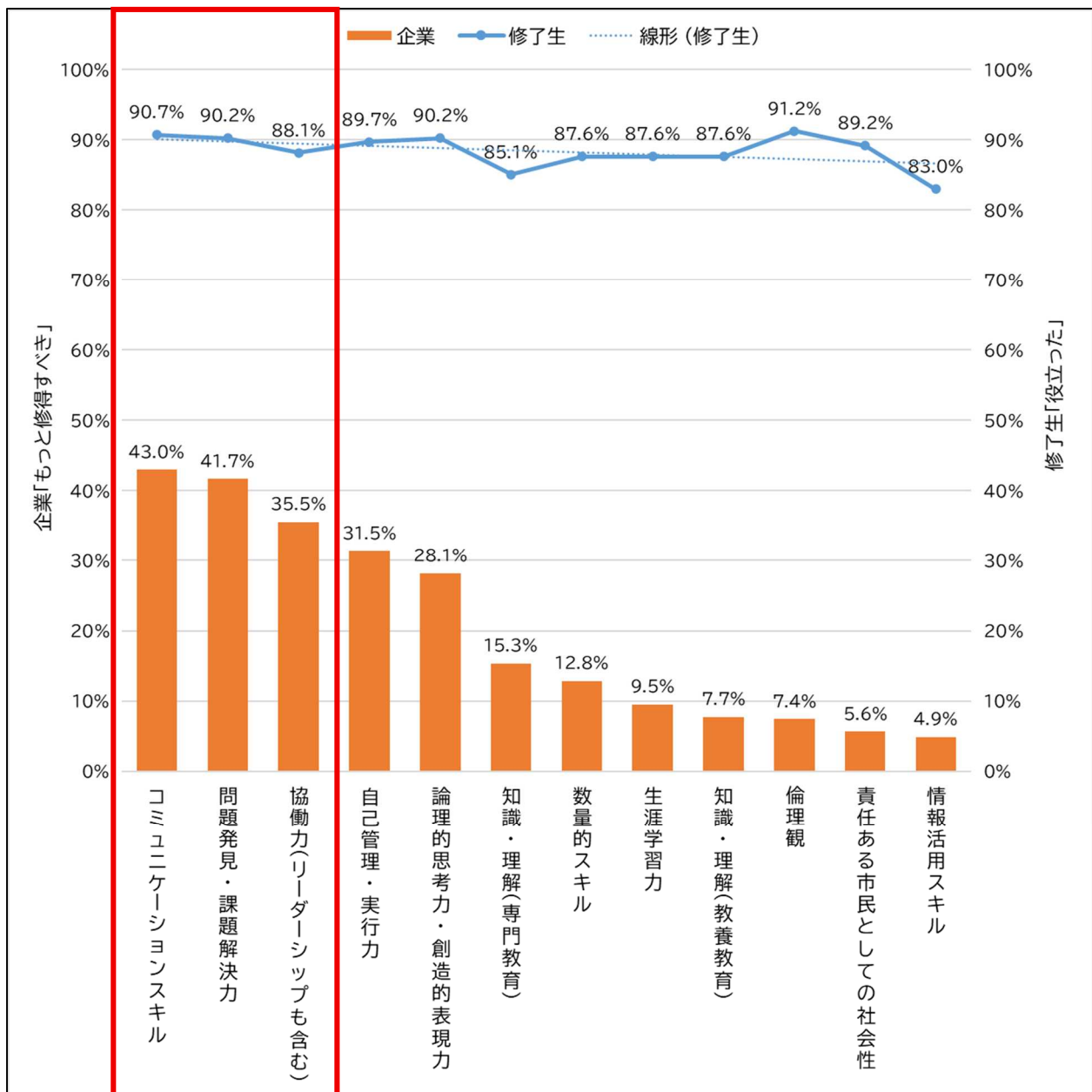
【ギャップ度】企業の評価×卒業生の自己評価(2/2)

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と卒業生「役立った」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した。
- 卒業生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力が右上の領域であり、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の4つが該当している。
- 卒業生の自己評価は低いが、企業が要望する DP 能力が左上の領域であり、「協働力(リーダーシップも含む)」が該当している。
- 卒業生の自己評価が低く、企業もあまり要望していない DP 能力が左下の領域であり、「情報活用スキル」、「数量的スキル」と「知識・理解(教養教育)」の3つが該当している。特に、「数量的スキル」のギャップが少し大きい。



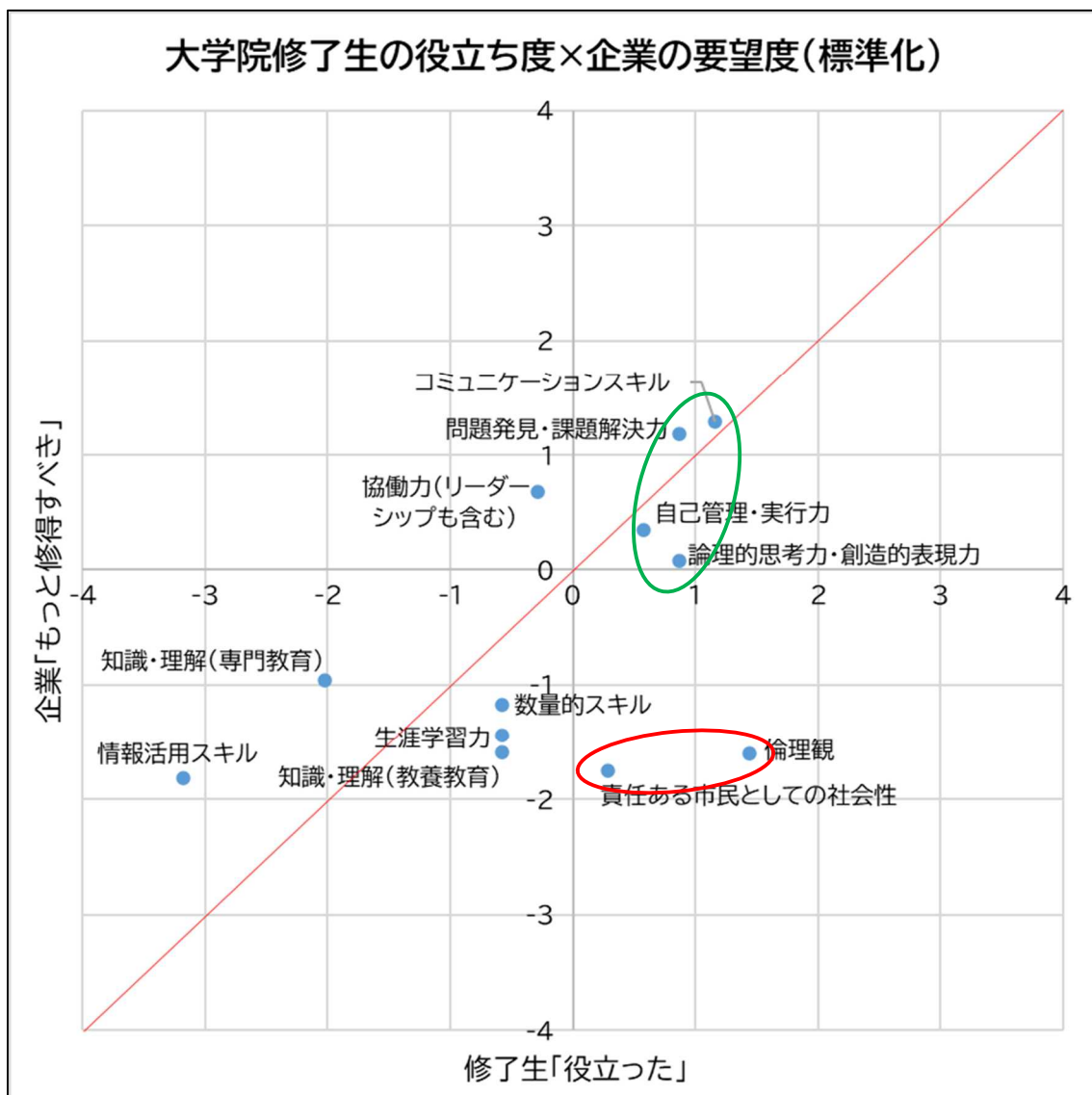
【ギャップ度】企業の評価×修了生の自己評価(1/2)

- DP 能力等について、企業「もっと修得すべき」の選択率(棒グラフ:降順)と修了生「役立った」の肯定的回答率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力(リーダーシップも含む)」であるが、修了生の自己評価では「コミュニケーションスキル」と「問題発見・課題解決力」はやや高かった。
- 修了生の自己評価では、全 DP 能力の修得度が 80%以上であった。



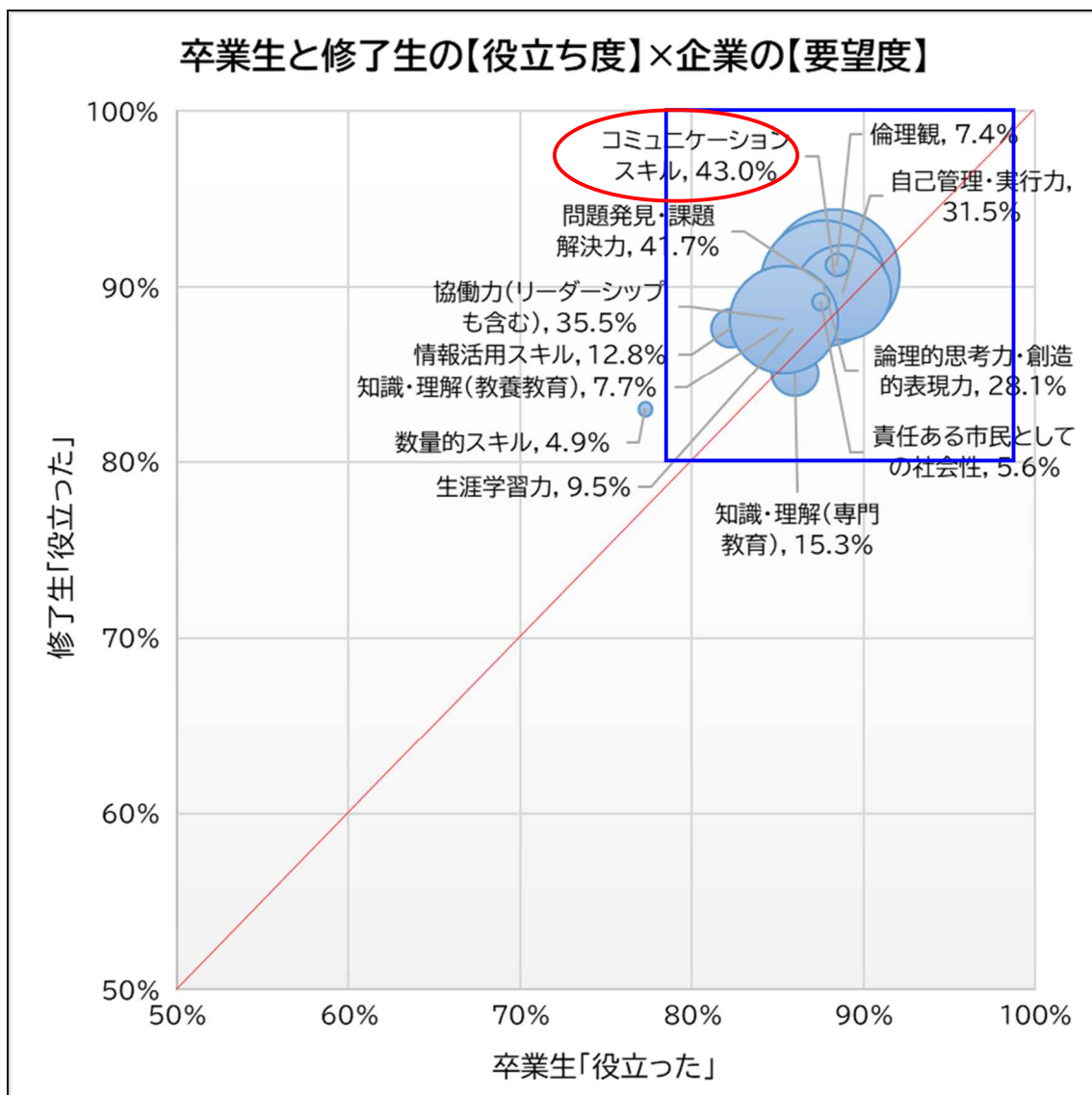
【ギャップ度】企業の評価×修了生の自己評価(2/2)

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と修了生「役立った」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した。
- 修了生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力が右上の領域であり、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の4つが該当している。
- 修了生の自己評価は高いが、企業があまり要望していない DP 能力が右下の領域であり、「倫理観」と「責任ある市民としての社会性」の2つが該当している。
- 修了生の自己評価が低く、企業もあまり要望していない DP 能力が左下の領域であり、「知識・理解(専門教育)」、「数量的スキル」、「生涯学習力」、「知識・理解(教養教育)」と「情報活用スキル」の5つが該当している。



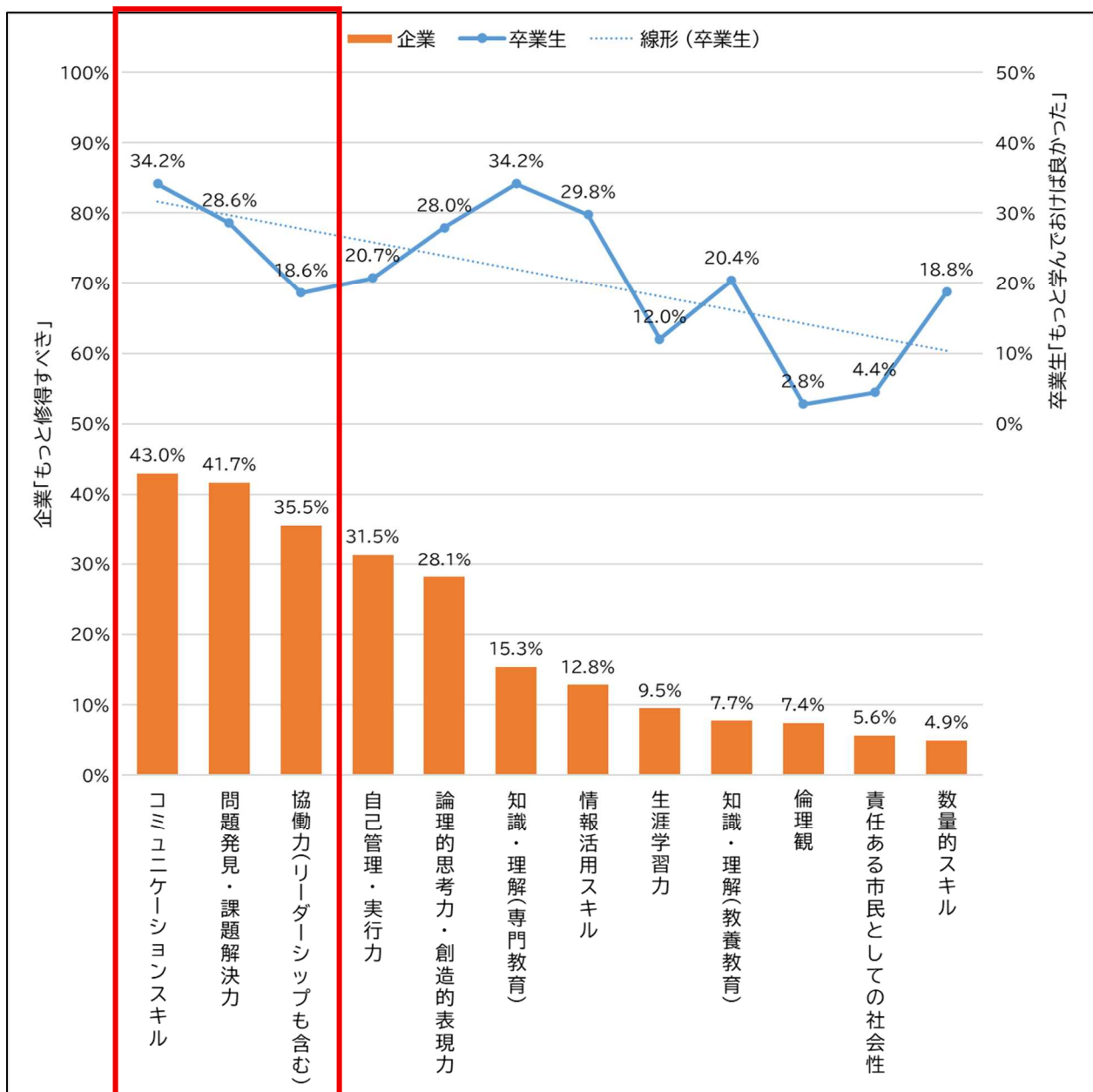
【ギャップ度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP 能力等の修得度について、卒業生・修了生「役立った」と企業「もっと修得すべき」の関係性を示す。円の大きさ(数字)は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「役立った」×修了生「役立った」:0.85
 - 企業「もっと修得すべき」×卒業生「役立った」:0.46
 - 企業「もっと修得すべき」×修了生「役立った」:0.49
- 卒業生と修了生の DP 能力の役立ち度がともに 80%以上の項目は 11 個あった。特に、「**情報活用スキル**」、「**協働力(リーダーシップも含む)**」、「**倫理観**」等の 10 項目については、修了生の役立ち度が高くなる傾向がみられた。
- この中で、本学学生が「社会で役立っている(役立った)」と思っているが、就職先企業は「もっと身につけておくべき」と最も強く要望している項目は、「**コミュニケーションスキル**」の **43.0%**であった。



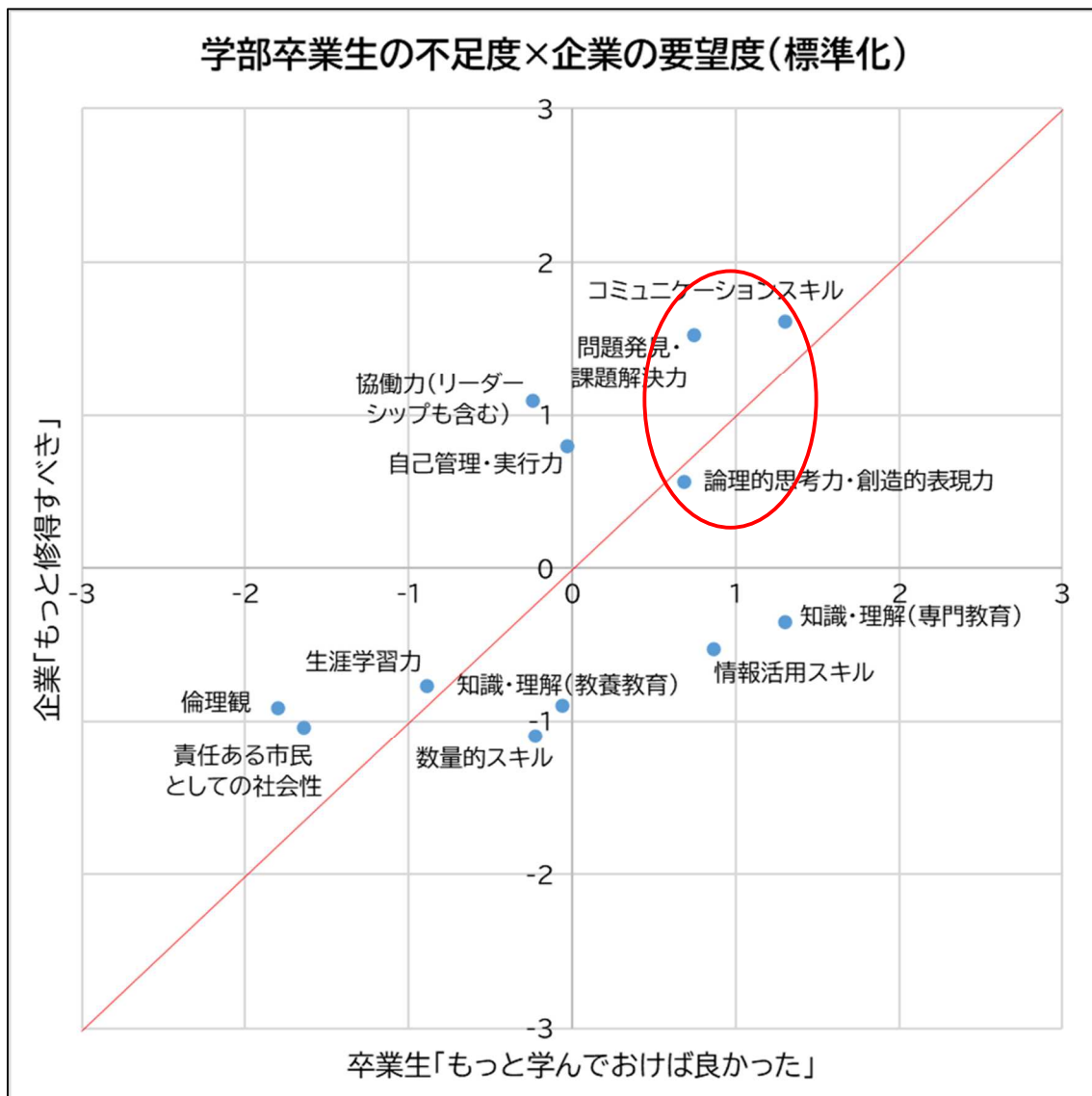
【不足度】企業の評価×卒業生の自己評価(1/2)

- DP能力等について、企業「もっと修得すべき」の選択率(棒グラフ:降順)と卒業生「もっと学んでおけば良かった」の選択率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力(リーダーシップを含む)」であるが、卒業生の自己評価では「コミュニケーションスキル」は同様に高いものの、「協働力(リーダーシップを含む)」はさほど高くなかった。
- 卒業生の自己評価が最も高かった項目は「コミュニケーションスキル」と「知識・理解(専門教育)」の34.2%であったが、最も低かった項目は「倫理観」の2.8%であった。



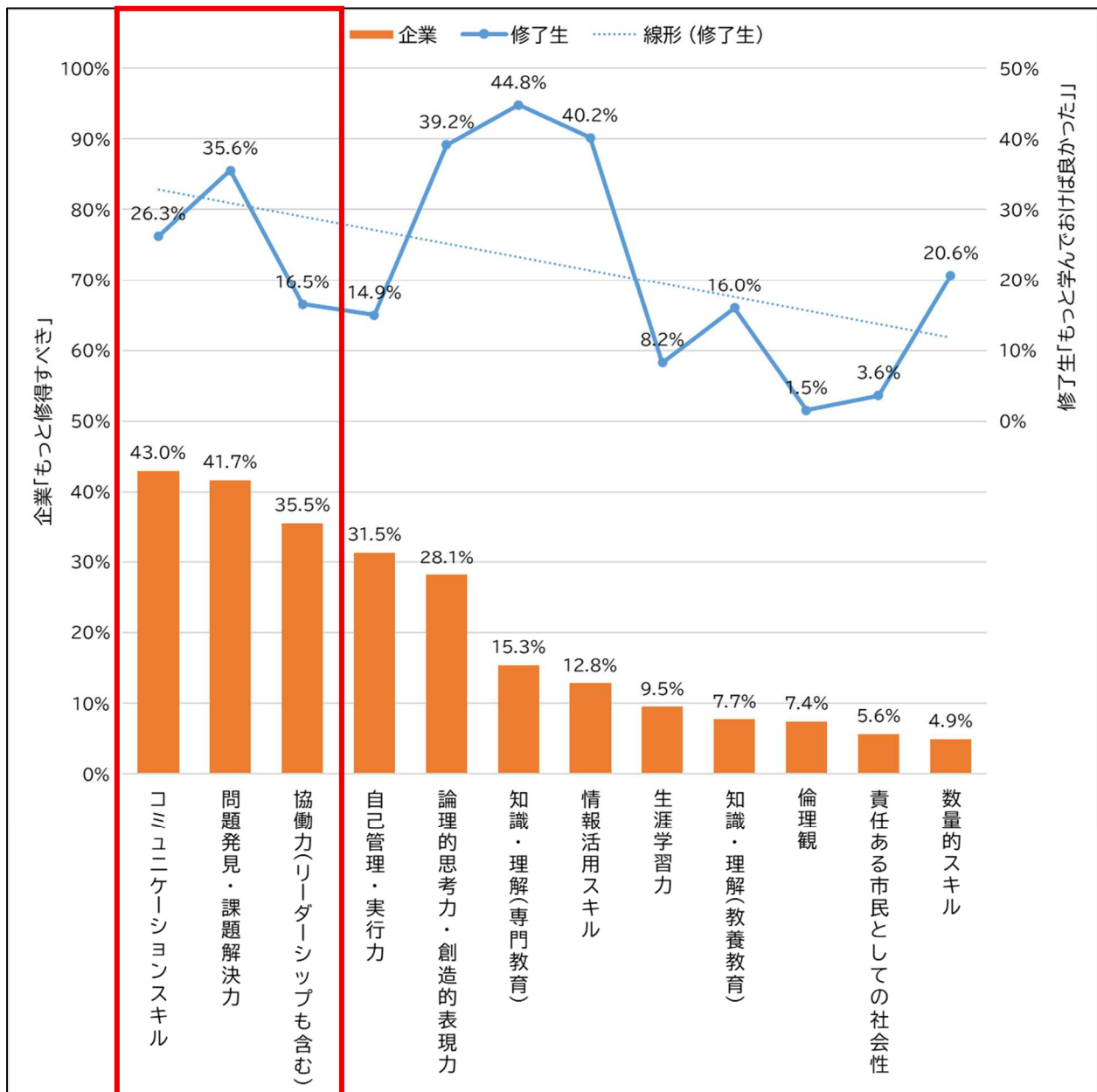
【不足度】企業の評価×卒業生の自己評価(2/2)

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と卒業生「もっと学んでおけば良かった」の選択率について、両者の結果を標準化して比較した。
- 卒業生の後悔と企業の要望が強い DP 能力が右上の領域であり、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。
- 卒業生の後悔と企業の要望が強くない DP 能力が左下の領域であり、「生涯学習力」、「倫理観」、「責任ある市民としての社会性」、「知識・理解(教養教育)」と「数量的スキル」の5つが該当している。
- 卒業生の後悔はあまり強くないが、企業の要望がやや強い DP 能力が左上の領域であり、「協働力(リーダーシップも含む)」と「自己管理・実行力」の2つが該当している。



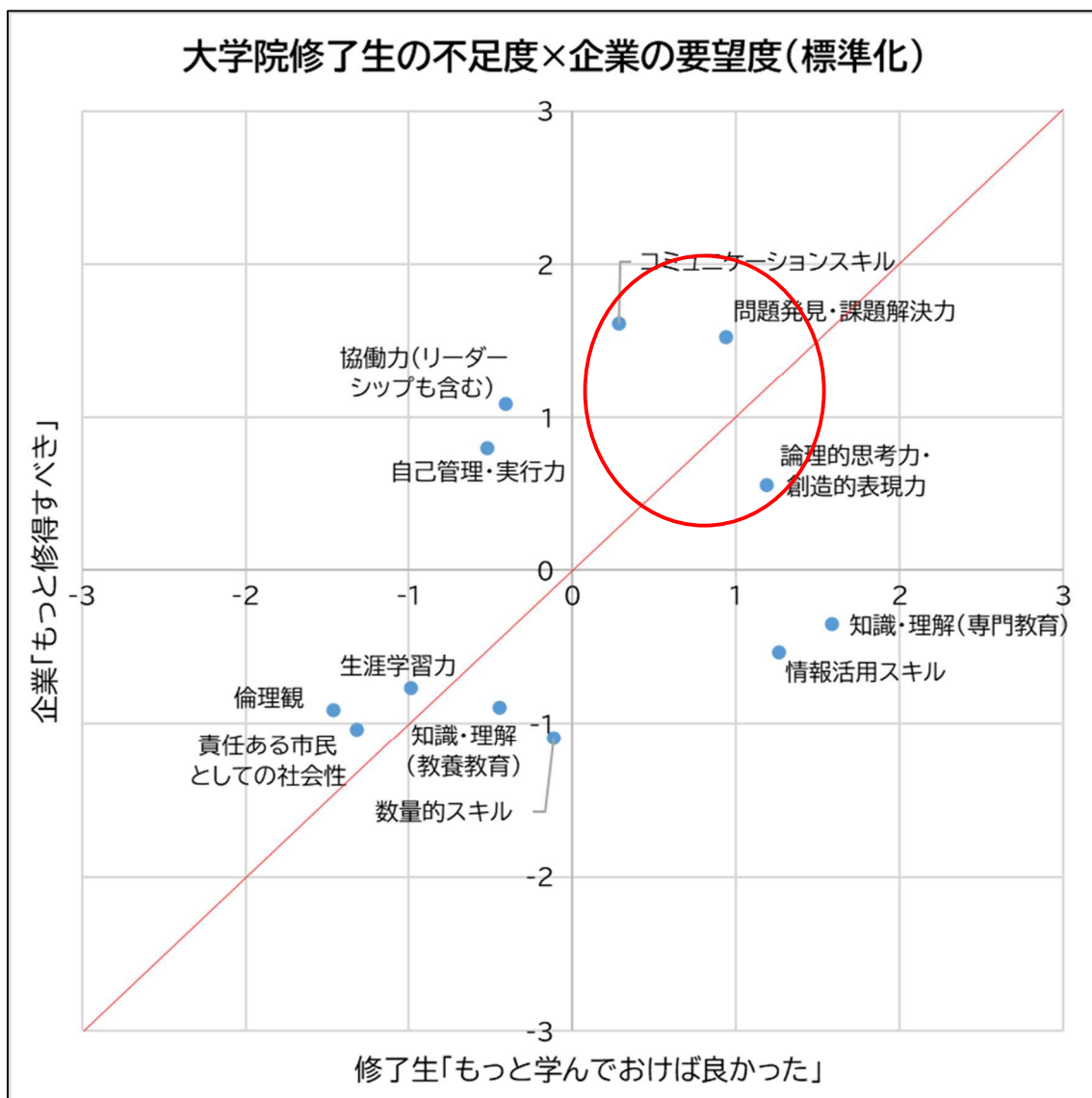
【不足度】企業の評価×修了生の自己評価(1/2)

- DP能力等について、企業「もっと修得すべき」の選択率(棒グラフ:降順)と修了生「もっと学んでおけば良かった」の選択率(折れ線グラフ)を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力(リーダーシップを含む)」であるが、修了生の自己評価では「問題発見・課題解決力」は同様に高いものの、「協働力(リーダーシップを含む)」はさほど高くなかった。
- 修了生の自己評価が最も高かった項目は「知識・理解(専門教育)」の44.8%であったが、最も低かった項目は「倫理観」の1.5%であった。



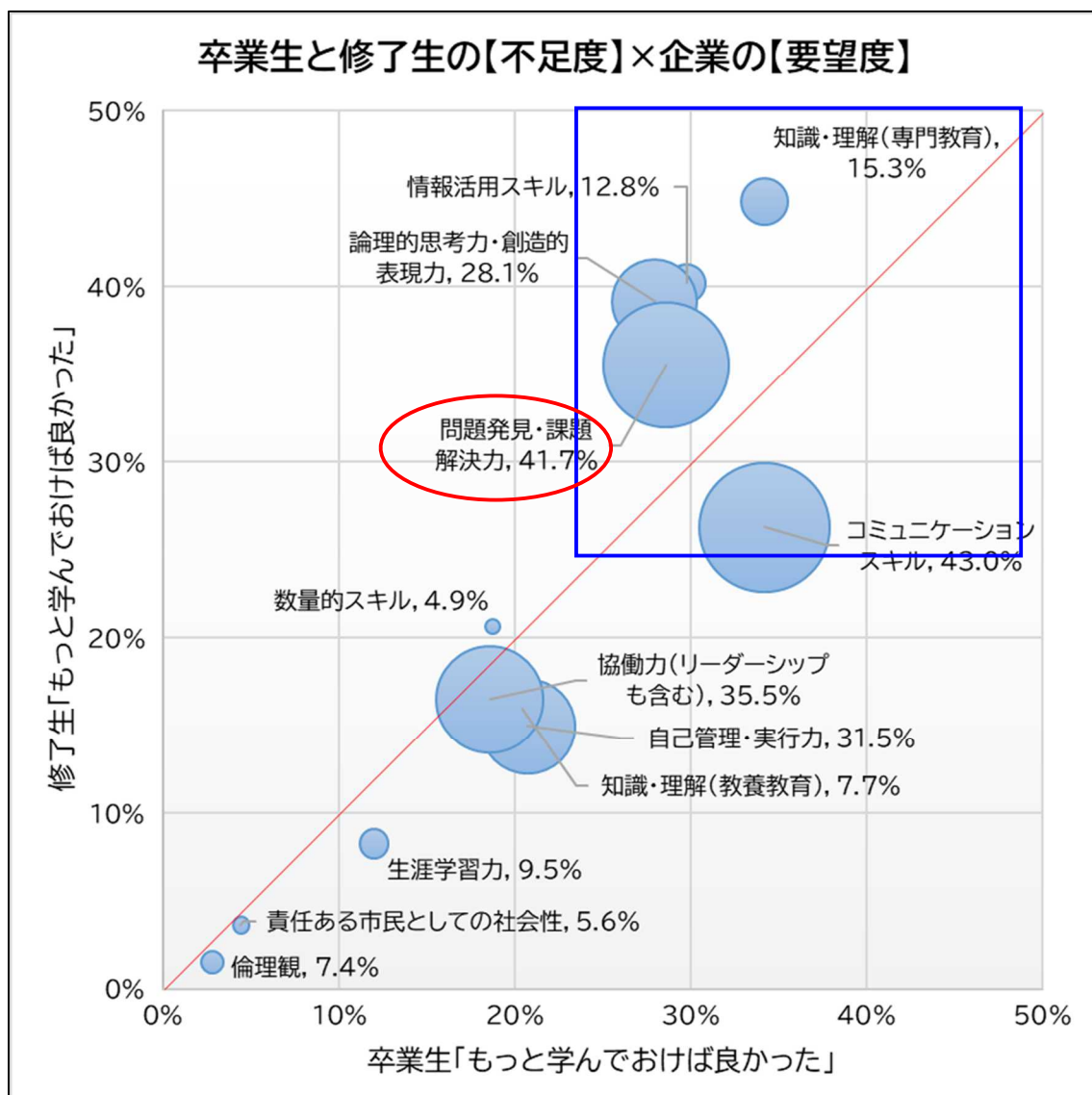
【不足度】企業の評価×修了生の自己評価(2/2)

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と修了生「もっと学んでおけば良かった」の選択率について、両者の結果を標準化して比較した。
- 修了生の後悔と企業の要望が強い DP 能力が右上の領域であり、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。
- 修了生の後悔は強くないが、企業の要望が強い DP 能力が左上の領域であり、「協働力(リーダーシップも含む)」と「自己管理・実行力」の2つが該当している。
- 修了生の後悔と企業の要望が強くない DP 能力が左下の領域であり、「生涯学習力」、「倫理観」、「責任ある市民としての社会性」、「知識・理解(教養教育)」と「数量的スキル」の5つが該当している。



【不足度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP 能力等の修得度について、卒業生・修了生「もっと学んでおけば良かった」と企業「もっと修得すべき」の関係性を示す。円の大きさ(数字)は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「もっと学んでおけば良かった」×修了生「もっと学んでおけば良かった」:0.91
 - 企業「もっと修得すべき」×卒業生「もっと学んでおけば良かった」:0.56
 - 企業「もっと修得すべき」×修了生「もっと学んでおけば良かった」:0.37
- 卒業生と修了生の DP 能力の不足度がともに 25%以上の項目は5個あった。特に、「論理的思考力・創造的表現力」、「知識・理解(専門教育)」、「情報活用スキル」と「問題発見・課題解決力」の4項目については、修了生の不足度が高くなる傾向がみられた。
- この中で、本学学生が「もっと学んでおけば良かった(もっと学ぶべき)」と思っており、就職先企業も「もっと身につけておくべき(もっと修得すべき)」と最も強く要望している項目は、「問題発見・課題解決力」の **41.7%**であった。



第VI部

まとめ

まとめ

本学の各学部・研究科が実施している教育活動に対する客観的評価を得ることを目的として、令和3年3月から令和6年3月までの期間の学部卒業生、大学院修了生を対象に、また当該期卒業生・修了生の就職先企業を対象に、令和6年度末（令和7年3月）に「鳥取大学の教育力」に関するアンケート調査を実施した。それぞれの詳細な調査結果については、第1部から第V部の報告をご覧くださいと、ここでは、今回調査結果の概要、平成29年度実施及び令和2年度の既往調査との比較結果について述べることにする。

1. 学部卒業生に対する調査結果

総合的な満足度に関する設問：

「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」については、全学で89.3%が肯定的回答を行い、学部別では地域学部91.5%、医学部83.0%、工学部87.8%、農学部94.8%で、地域学部と農学部では9割をこえる高い肯定的回答であった。

「大学教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」については、全学で81.4%が肯定的回答を行い、学部別では農学部が最も多く85.2%で、次いで医学部84.5%、工学部80.3%、地域学部75.4%だった。

「高校生に対する本学受験の推奨度」は、全学で80.9%が肯定的回答をした。学部別では、農学部85.2%、地域学部82.3%で2学部が8割を超える肯定的回答をした。工学部は79.8%で、医学部は76.3%で8割には及ばなかったが75%をこえる肯定的回答であった。

教育・研究の充実度に関する設問：

大学の教育・研究の充実度に関する14項目のうち、肯定的回答は「専門教育が充実していた」（90.3%）で最も多かった。最も少なかったものは「著名な教授・講師が多かった」（48.8%）で、14項目の全てにおいて4割以上の肯定的回答を得た。「非常にそう思う」という強い肯定的回答が2割を超えるものは、「少人数による指導が受けられた」（31.1%）、「専門教育が充実していた」（30.9%）、「教員との交流が多かった」（24.8%）、「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた」（20.9%）の4項目だった。

詳しく見ていくと、「教養教育の充実」に関して、全学では85.5%が肯定的回答であり、農学部では88.4%が肯定的回答であった。一番少ない医学部でも78.5%であった。全体的に高い肯定的回答であった。「専門教育の充実」については、農学部で94.8%、医学部と工学部でも約9割の肯定的回答であった。地域学部でも87.7%の肯定的回答であり、全学的に専門教育が充実していたという結果であった。

「外国語学習に積極的」であったかどうかの質問には、農学部と地域学部では肯定的回答が6割を超えていた。医学部では30.4%、工学部では46.2%と低めの肯定的回答であり、学部間で差が見られた。

「工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた」について、全学では70.8%の肯定的回答であった。地域学部で最も高く74.6%の肯定的回答で、農学部73.5%、工学部70.8%、医学部63.7%の肯定的回答であった。医学部を除く3学部では肯定回答が7割を超えた結果となった。

「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」に関しては、地域学部で83.8%の肯定的回答であったのに対し、医学部では6割を下回る肯定的回答となった。学部間で差が見られた。「少人数による指導が受けられた」に関しても、学部間で差がみられる。肯定的回答は地域学部で最も多く85.4%、医学部で一番少なく51.9%であった。農学部が77.4%、工学部62.8%であった。「実践教育」と「少人数の指導」という観点では、地域学部が他学部より目立って高い肯定的回答となった。

「教員との交流が多かった」に関しては、学部間の差がみられた。肯定的回答は農学部で 79.3%，一方、工学部では 55.9%となった。地域学部は 75.4%で、医学部は 63.0%であった。「学習意欲が湧く授業が多かった」について、農学部では 81.3%の肯定的回答であった。ついで地域学部が 73.0%，医学部と工学部がそれぞれ 65.9%、63.9%となった。

「教員との交流」と「学習意欲」の点では、工学部が一番低い肯定的回答であった。

「他学部の授業が選択できた」について、地域学部で 67.7%，工学部で 53.2%，農学部で 52.2%，医学部では 33.3%の肯定的回答であった。

「学習面での施設・設備が充実していた」について、全学平均が約 7 割の肯定的回答であった。医学部で 7 割を下回っていたが、学部間で大きな差はなかった。

「著名な教授・講師が多かった」について、全学平均では約 5 割が肯定的回答をしている。

「学術面での研究業績が優れていた」について、全学平均では 66.8%で、比較的高い肯定的回答であった。農学部と工学部では約 7 割の肯定的回答であった。

「産学共同研究で実績が豊富だった」に関して、全学で 56.7%，農学部 63.2%，工学部で 62.8%と比較的高い肯定的回答であり、医学部では少し低めの 44.5%であった。

「研究面での施設・設備が充実していた」については、農学部で 77.5%と一番高い肯定的回答であった。地域学部と工学部では 60%台であるが、医学部では 57%と比較的低めの肯定的回答であった。

交流活動・支援体制の充実度に関する設問：

「大学の交流活動・サポート体制に対する肯定的回答」について問う 9 項目のうち、肯定的回答の多い順でみると「クラブ・サークル活動が盛んだった」（79.6%）が最も多く、「IT 活用教育に熱心だった」（35.4%）が最も少なくなっており、今後改善の余地がある。

「学生生活の支援体制」と「就職活動の支援体制」の充実度、「地域社会との交流」の活発さに関しては約 6 割以上が肯定的回答であった。

「地域社会との交流が盛んだった」について、地域学部が圧倒的に高く 81.6%を超える肯定的回答であった。農学部で 63.8%，工学部で 56.4%，医学部では 5 割未満であり、学部間で差が見られた。

「国際交流が活発だった」について、地域学部で最も高く 70.8%の肯定的回答である一方で、医学部では 30.4%と学部間で差が大きく見られた。

「クラブ・サークル活動が盛んだった」について、全学で約 8 割の肯定的回答であった。医学部で最も多く 83.7%で、一番低い工学部でも 76.6%と高い回答率で学部間の差もあまりなかった。

「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」に関しては、地域学部が 62.3%で肯定的回答が一番多く、工学部では約 41.5%で一番少なかった。医学部と農学部では 40%台であった。

「資格取得のサポートに積極的だった」について、医学部で最も多く 59.2%の肯定的回答であった。地域学部でも 5 割を超えているが、工学部では 34.6%と比較的低めの肯定的回答であった。

「IT 活用教育に熱心だった」について、全学的に 35.4%と肯定的回答が低く、工学部が一番高く 46.3%だったものの、医学部、農学部では 3 割を下回った。全体的に肯定的回答が低く、改善の余地が見られる。

「海外留学制度が充実していた」に関しては、学部間で差が見られた。農学部で最も多く約 7 割が肯定的回答で、地域学部で 63.1%，工学部で 54.3%，医学部で最も少なく 37.8%であった。学部間で差が見られた。

・「学生生活の支援体制が充実していた」について、全学平均が 71.8%，地域学部，工学部，農学部で 7 割を超える

肯定的回答であった。一番低い医学部でも 62.2%と学部間で大きな差はなかった。

「就職活動の支援体制が充実していた」に関しては、全学では 65.8%の肯定的回答であった。農学部と工学部の 2 学部では 7 割を超えていた一方で、医学部では約 5 割の肯定的回答であった。

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力に関する設問：

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力 12 項目の中で、「知識・理解（専門教育）」が最も高い修得度だった（90.4%）。「倫理観」「知識・理解（教養教育）」「責任ある市民としての社会性」「自己管理・実行力」「生涯学習力」「論理的思考力・創造的表現力」「問題発見・課題解決力」「協働力」で 8 割を超える肯定的回答であった。「コミュニケーションスキル」は 78.9%，また「情報活用スキル」「数量的スキル」の肯定的回答はそれぞれ 75.2%，70.4%であった。

詳しく見ていくと、「知識・理解（教養教育）」について、全学で 87.3%の高い肯定的回答であった。農学部で最も多く 93.6%，地域学部，工学部では 85%以上，医学部で最も少なく 79.2%であった。「大変修得できた」に限れば医学部が他学部の約 1/2 であった。「知識・理解（専門教育）」についても全学で 90.4%の高い肯定的回答であった。特に農学部では 94.2%，医学部で 91.9%と高い肯定的回答であった。他の 2 学部でも 85%を超える肯定的回答であった。

「コミュニケーションスキル」について、全学で約 8 割の肯定的回答で、地域学部，農学部で 8 割以上，医学部と工学部で 8 割弱の肯定的回答であった。「大変修得できた」に限れば医学部が他学部の約 1/2 であった。

「数量的スキル」について、全学で 70.4%の肯定的回答であった。4 学部のうち，工学部が最も高く 84.5%，地域学部が最も低い 52.3%の肯定的回答であり，学部間の差が際立っている。

「情報活用スキル」について、全学で 75.2%の肯定的回答であった。農学部・工学部でそれぞれ 80.0%，79.7%であるのに対し，医学部・地域学部でそれぞれ 70.4%，67.7%の肯定的回答。「大変修得できた」に限れば学部間の差が際立っている。

「論理的思考力・創造的表現力」について、全学で 84.3%の肯定的回答であった。工学部が最も高く 87.7%，次いで農学部，地域学部，医学部の順で，それぞれ 85.1%，83.1%，80.0%の肯定的回答であった。

「問題発見・課題解決力」について、全学で 83.4%の肯定的回答であった。工学部で 87.7%，農学部で 83.8%，地域学部・医学部で 80.0%の肯定的回答であった。

「自己管理・実行力」について、全学で 84.9%の肯定的回答，なかでも農学部で 92.3%と最も高く，次いで工学部 84.1%，地域学部 82.3%，医学部 80.0%であった。

「生涯学習力」について、全学で 84.8%の肯定的回答であった。農学部 90.4%，地域学部 86.1%と相対的に高く，工学部 82.4%，医学部 80.8%と低めの肯定的回答であった。医学部の「大変修得できた」の割合が他 3 学部の 1/2 に満たないが目立つ。

「協働力（リーダーシップも含む）」について、全学で 80.0%の肯定的回答。農学部 84.5%，医学部 80.0%，地域学部 79.3%，工学部 76.6%であった。医学部の「大変修得できた」の割合が他 3 学部の約 1/2 である。

「倫理観」について、全学平均では 87.9%の肯定的回答であった。医学部が相対的に最も高く 92.6%，次いで地域学部の 87.7%，農学部の 86.5%，工学部の 85.7%であった。

「責任ある市民としての社会性」について、全学は 75.7%の肯定的回答であった。農学部で 87.1%，地域学部，工学部，医学部で約 85%であったが，医学部の「大変修得できた」の割合が他 3 学部の約 1/2 である。

社会に出て教育成果として役立った DP 能力に関する設問：

社会に出て教育成果として役立った DP 能力について、「大変役立った」または「ある程度役立った」と回答した割合の多い順に、「自己管理・実行力」、「倫理観」、「コミュニケーションスキル」、「論理的思考力・創造的表現力」、「問題発見・課題解決力」、「責任ある市民としての社会性」、「知識・理解（専門教育）」、「生涯学習力」、「協働力（リーダーシップも含む）」、「知識理解（教養教育）」、「情報活用スキル」と続く。12 項目中 11 項目の能力について 80%以上が役立ったとの回答に対し、相対的に低いのは「数量的スキル」（77.3%）であり、今後改善する必要がある。

詳しく見ていくと、「知識・理解（教養教育）」に関しては、全学で 85.0%が役立ったとしている。このうち農学部が 89.0%で最も高く、次いで工学部が 85.1%、医学部 83.7%、地域学部 81.5%となっている。「知識・理解（専門教育）」に関しては、全学で 86.0%が役に立ったとしている。なかでも医学部は 93.3%となっており、次いで農学部 87.1%、工学部 85.6%と続き、地域学部は相対的に最も低く 77.7%であった。

「コミュニケーションスキル」については、全学で 88.3%が役立ったと回答している。学部別では地域学部、農学部がそれぞれ 92.4%、91.0%と高く、工学部、医学部がそれぞれ 85.6%、85.2%となっている。

「数量的スキル」については、全学で 77.3%が役立ったと回答している。学部別では工学部が 86.7%で最も高く、次いで農学部が 80.6%、医学部が 74.8%と続き、地域学部が 62.3%で最も低い。学部間の差が顕著である。

「情報活用スキル」については、全学で 82.2%であった。農学部・工学部に比べ、地域学部・医学部の肯定的回答が低い（農学部 85.2%、工学部 84.5% vs. 地域学部 78.4%、医学部 79.3%）。なお「大変役立った」のみを見ると、医学部 11.9%は工学部 32.4%の約 1/3 にとどまる。

「論理的思考力・創造的表現力」については全学で 87.7%であった。農学部・工学部に比べ、地域学部・医学部の肯定的回答が低い（工学部 92.0%、農学部 89.7% vs. 医学部 83.7%、地域学部 83.1%）。医学部の「大変役立った」の割合が 17.0%と低いのが目立つ。

「問題発見・課題解決力」については、全学で 87.7%が役立ったと回答。学部別では農学部が 89.7%で最も高く、工学部が 88.8%、地域学部が 86.2%、医学部が 85.2%と続く。医学部の「大変役立った」との回答割合が 19.3%と相対的に低いのが目立つ。

「自己管理・実行力」については、全学で 88.8%が役立ったと回答。学部別では農学部が 91.6%で最も高く、地域学部 88.4%、医学部 88.2%、工学部 87.3%と続く。「大変役立った」の割合は医学部が他学部に比べ低い。

「生涯学習力」については、全学で 85.9%が役立ったとの回答。農学部が最も高く 89.1%、次いで工学部 87.2%、地域学部 83.1%、医学部 83.0%と続く。医学部で「大変役立った」が他学部に比べ低い。

「協働力（リーダーシップも含む）」については、全学では 85.4%が役立ったと回答。農学部が最も高く 88.4%、地域学部 86.9%、工学部 83.6%、医学部 83.0%と続く。「大変役立った」について医学部が他学部の約 1/2 に留まるのが目立つ。

「倫理観」については、全学で 88.5%が役立ったと回答。肯定的回答は 4 学部でほとんど同じ回答率であるが、医学部の「大変役立った」との回答割合が他 3 学部の 2/3 となっている。

「責任ある市民としての社会性」については、全学で 87.5%が役立ったと回答。学部別では農学部が 89.7%で最も高く、地域学部 87.7%、工学部 86.7%、医学部 85.9 と続く。前項同様、医学部の「大変役立った」との回答割合が他 3 学部の約 1/2 であるのが目立つ。

「修得度」と学修成果としての「役立ち度」を比較すると、「知識・理解」（専門教育および教養教育）を除き、役立ち度が修得度を上回っている。特に「コミュニケーションスキル」「情報活用スキル」「数量的スキル」についてはその上回り幅が大きい。

「在学中にもっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」について、全学では「知識・理解（専門教育）」「コミュニケーションスキル」を選択した割合が最も高く 34.2%、次いで「情報活用スキル」が 29.8%と続く。「知識・理解（専門教育）」は、全学の 90.4%が「十分」・「ある程度」修得したと回答しているので、さらに専門分野に対する知識・理解を深めたい意識が強いと思われる。なお最も低い項目の「倫理観」・「責任ある市民としての社会性」については、修得度は低くない。

学部別で見ると、地域学部では「知識・理解（教養教育）」「論理的思考力・創造的表現力」、医学部では「情報活用スキル」「コミュニケーションスキル」、工学部では「知識理解（専門教育）」「コミュニケーションスキル」、農学部では「知識理解（専門教育）」「コミュニケーションスキル」「情報活用スキル」となっており、地域学部とその他学部間に明らかな差異が見られる。

2. 平成 29 年度・令和 2 年度実施のアンケート調査結果との比較

前回（令和 2 年度）、前々回（平成 29 年度）の調査に比べ、3 項目すべてにおいて肯定的な回答率は増えている。増加幅については、「教育内容に全体として満足している」の回答率が 85.3%から 89.3%へと 4.0 ポイントの増加であるのに対し、「卒業後に役立っている」は 1.9 ポイント、「鳥取大学への受験を薦めたい」は 1.4 ポイントの増加に留まる。このことから推測されることとしては、鳥取大学に入学して良かったと思っている卒業生が増えたものの、他に進学したい大学があるならば、鳥取大学への入学をぜひ薦めたい割合はそれほどでもないということになるのか。

「教育・研究の充実度」については、前回、前々回の調査から今回令和 6 年度調査にかけて、14 項目中 12 項目で肯定的回答が上昇している。最も増加幅が大きかったのは「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた」(+8.6 ポイント)。減少した 2 項目は「学習面での施設・設備が充実していた」「外国語学習に積極的だった」である。前者の減少幅は 0.4 ポイント、後者の減少幅は 1.0 ポイントとわずかであるが、前者については次回の調査においても引き続き注視する必要がある。

「交流活動・支援体制の充実度」については、2 項目を除いて前回調査より増加している。前回調査より上回った項目のうち、最も上回り幅が大きかったのが「IT 活用教育に熱心だった」で、15.3 ポイントの増加であった。前回から減少している 2 項目はいずれも国際交流に関する「海外留学制度が充実していた」「国際交流が活発であった」で、特に後者は前々回の調査よりも減少している。「IT 活用教育に熱心だった」も含めコロナ禍での影響がかなり関係していると思われる。

「大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力」については、全ての項目が前回調査よりも上回っている。前回調査では 8 割を超える項目が 12 項目中 3 項目であったが、今回調査では 8 項目に増えており、残り 4 項目についても 2 項目はほぼ 8 割に達している。

「社会に出て教育成果として役立った DP 能力」についても、全ての項目が前回調査よりも上回っている。前回調査では 8 割を超える項目が 12 項目中 7 項目であったが、今回調査では 11 項目に増えている。下位 2 項目が上記「修得した DP 能力」の下位 2 項目と同じであることは検討を要する。

3. 大学院修了生に対する調査結果

総合的な満足度に関する設問：

「大学院の教育内容・研究指導に対する全体的な満足度」は全学で肯定的回答が前期で 86.1%、後期で 91.7%であった。連合農学研究科で 100%、工学研究科で 96.5%の肯定的回答であり、他の専攻・研究科でも肯定的回答が約 8 割から 9 割であった。

「大学院の教育・研究の卒業後の仕事や生活への役立ち度」の肯定的回答は全学で 84.5%(前期)、89.0%(後期)だ

った。博士・博士後期は全研究科で約 9 割となり、修士・博士前期では医学系研究科・国際乾燥地専攻で約 9 割 5 分程度であったが、工学専攻でやや低めの 77.2%だった。

「学部生への本学大学院への進学推奨度」は、全学での肯定的回答は 85.6%(前期)、91.7%(後期)だった。連合農学研究科の肯定的回答は 100%、農学専攻・工学研究科で 96%を超え、いずれの専攻・研究科でも 8 割を超えていた。医学系研究科を除いて修士・博士前期よりも博士・博士後期で高い傾向が見られた。

教育・研究の充実度に関する設問：

全学では、大学院での教育・研究の充実度に関する 5 項目のうち、「研究指導の充実」は肯定的回答が 88.7%(前期)、90.4%(後期)と高く、「非常にそう思う」との回答率も高かった。一方、「産学共同研究で実績が豊富だった」が最も低く、54.7%(前期)、67.1%(後期)だった。「研究の設備・装置の充実」については、博士・博士後期の肯定的回答が 89.1%と高かったものの、修士・博士前期は 70.7%とやや低い結果となった。「学術面での研究業績」については、前期・後期ともに 7 割 5 分程度の肯定的回答だった。

専攻・研究科を個別に見ると、地域学専攻・研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が 100%、そのうち「非常にそう思う」が 58.3%と高い充実度だった。一方、「研究の設備・装置の充実」の肯定的回答が 6 割を切る結果となった。工学専攻では、「研究指導の充実」の肯定的回答が 89.1%、そのうち「非常にそう思う」46.7%と高い充実度だった。一方、「産学共同研究で実績が豊富」は肯定的回答が 5 割を切る結果となった。農学専攻・研究科では、「研究指導の充実」が肯定的回答 92.4%、そのうち「非常にそう思う」46.2%と高い充実度だった。一方、「産学共同研究で実績が豊富」は肯定的回答が 53.8%であった。国際乾燥地科学専攻では、「カリキュラムの充実」、「研究指導の充実」がいずれも肯定的回答が 88.9%と高い充実度だった。また、全ての項目で肯定的回答が 7 割以上だった。

医学系研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が 82.6%(前期)、84.6%(後期)と高く、前期は「カリキュラムの充実」が 93.4%、後期は「研究の設備・装置の充実」が 88.4%と最も高くなった。肯定的回答が低い設問は、前期が「産学共同研究で実績が豊富」の 56.5%、後期がともに 69.2%の「産学共同研究で実績が豊富」と「学術面での研究業績」だった。一方で、前期の「学術面での研究業績」は肯定的回答が 86.9%と高かった。

工学研究科では、「研究指導の充実」の肯定的回答が 92.9%、そのうち「非常にそう思う」が 64.3%と高い充実度だった。また、肯定的回答は「産学共同研究で実績が豊富」を除く全ての項目で 7 割以上だった。連合農学研究科では、全設問の肯定的回答が 8 割を超えており、「研究の設備・装置の充実」が 100%、「研究指導の充実」、「学術面での研究業績」がいずれも肯定的回答が 94.7%と高かった。

「カリキュラムについて、授業内容は充実していた」に対して、修士・博士前期の全学では 88.7%の肯定的回答だった。肯定的回答は専攻によりやや差があるものの、最も高い医学系研究科で 93.4%、低い地域学専攻で 83.3%、農学専攻で 84.6%と 8 割を超えていた。一方、博士・博士後期では全学で 82.1%とやや低くなる傾向があるが、いずれの研究科でも「非常にそう思う」との肯定的回答が修士・博士前期よりも多くなった。

「研究室における研究指導は充実していた」に対しては、全学での肯定的回答は 88.7%(前期)、90.4%(後期)だった。特に地域学専攻が 100%と高く、最も低い修士・博士前期の医学系研究科でも 82.6%と 8 割を超える結果だった。

「研究の施設や設備・装置は充実していた」に対して、肯定的回答は全学の修士・博士前期で 70.7%だったが、博士・博士後期では 89.1%と高かった。前期では農学専攻(84.6%)、国際乾燥地科学専攻(77.8%)と高く、工学専攻(65.3%)、地域学専攻(58.4%)と低い結果となった。後期は連合農学研究科で特に高く 100%、他の専攻でも 8 割を超えていた。

「学術面での研究業績が優れていた」に対して、肯定的回答は全学でみた前期で 74.2%、後期で 76.7%だった。農学

専攻，連合農学研究科で9割を超えて高く，工学専攻が6割，工学研究科が7割を超える程度となった。医学系研究科も7割を切る結果だった。

「産学共同研究で実績が豊富だった」に対しては，全学での肯定的回答は修士・博士前期で54.7%，博士・博士後期で67.1%と他の項目に比べて低くなった。専攻別では，国際乾燥地科学専攻(72.2%)，連合農学研究科(84.2%)が高く，工学専攻，工学研究科では5割程度かそれをわずかに下回った。

大学院での研究・専門教育を通じて修得したDP能力に関する設問：

大学院修士・博士前期課程での研究や専門教育を通じて修得できたDP能力は，全学を通して「知識・理解(専門教育)」が91.7%と高く，「倫理観」，「知識・理解(教養教育)」，「問題発見・課題解決力」，「責任ある市民としての社会性」，「自己管理・実行力」，「論理的思考力・創造的表現力」の順で8割を超えた。8割を切ったものは，「数量的スキル」，「生涯学習力」，「コミュニケーションスキル」，「情報活用スキル」，「協働力(リーダーシップを含む)」だった。大学院博士・博士後期課程では，修得できたDP能力は「生涯学習力」が94.5%と最も高く，「知識・理解(専門教育)」，「論理的思考力・創造的表現力」，「問題発見・課題解決力」，「自己管理・実行力」，「倫理観」が9割を超えた。「数量的スキル」が80.8%と最も低かったが，その他の設問を含め8割を超える修得度となった。ただし，「全く修得できなかった」との回答がそれぞれ数%見られる点には留意する必要がある。なお全体を通じて見ると，特定の回答者が全ての設問に否定的な回答をしている感も否めない。

「知識・理解(教養教育)」の修得度は全学で86.6%(前期)，89.0%(後期)だった。医学系研究科が前・後期ともに8割程度にとどまるものの，国際乾燥地科学専攻の100%をはじめ，他の専攻・研究科で9割前後の結果となった。「知識・理解(専門教育)」の修得度は，全学で91.7%(前期)，91.8%(後期)だった。全ての専攻で9割程度以上であり，特に地域学専攻は100%となった。

「コミュニケーションスキル」は全学で79.4%(前期)，83.6%(後期)の修得度だった。連合農学研究科(89.5%)，国際乾燥地科学専攻(88.9%)が高く，地域学専攻(66.7%)，工学専攻(76.1%)，後期医学系研究科(76.9%)が8割を切ったが，その他の専攻・研究科では8割を超えた。

「数量的スキル」は全学で79.9%(前期)，80.8%(後期)の修得度だった。国際乾燥地科学専攻(94.4%)，連合農学研究科(94.7%)が高く，地域学専攻(58.4%)，後期医学系研究科(65.4%)が目立って低く，他は前期医学系研究科(73.9%)を除いて8割以上だった。「情報活用スキル」の全学での修得度は78.9%(前期)，83.5%(後期)となった。前期医学系研究科で71.7%，後期医学系研究科で76.9%，地域学専攻で66.7%，工学専攻で78.3%となったことを除くと，他は8割を超えており，農学専攻，連合農学研究科は9割を超える修得度だった。

「論理的思考力・創造的表現力」の全学での修得度は前期で82.5%，後期で91.9%だった。前期医学系研究科(78.3%)，工学専攻(78.2%)を除けば他は8割を超えた。

「問題発見・課題解決力」の全学での修得度は86.1%(前期)，91.8%(後期)だった。地域学専攻，連合農学研究科で100%，工学研究科で92.8%の他，全ての専攻・研究科で8割を超えた。

「自己管理・実行力」の全学での修得度は前期84.5%，後期91.8%だった。地域学専攻の58.3%を除き，全ての専攻・研究科で8割以上となった。

「生涯学習力」の全学での修得度は79.9%(前期)，94.5%(後期)だった。工学専攻で7割をやや下回った(69.5%)が，前期のその他の専攻・研究科では8割を，後期の研究科では9割を超えた。

「協働力(リーダーシップも含む)」の全学での修得度は前期が76.8%と他の項目に比べて低く，後期は83.6%だった。前期では地域学専攻が58.3%，後期では医学系研究科が76.9%とやや低いものの，他の専攻・研究科では前期で

7～8割, 後期で8～9割となった。

「倫理観」は全学で87.1%(前期), 90.4%(後期)の修得度だった。国際乾燥地科学専攻と連合農学研究科が10割と高く, 地域学専攻(66.6%)を除いて概ね8割5分以上であった。

「責任ある市民としての社会性」は全学で85.6%(前期), 82.3%(後期)の修得度だった。国際乾燥地科学専攻は94.4%と高く, 地域学専攻で75.0%, 後期医学系研究科で73.1%の他は8割以上となった。

社会に出て教育成果として役立った DP 能力に関する設問 :

修士・博士前期課程において, 社会に出て教育成果として「役立った」DP 能力は, 特に「倫理観」, 「コミュニケーションスキル」, 「論理的思考力・創造的表現力」, 「問題発見・課題解決力」が9割を超え, 最も低い「数量的スキル」でも83%と, ほぼ全てにおいて8割以上と高かった。「知識・理解(専門教育)」が85.0%とやや低い結果となっているが, 「大変役立った」の回答は3割を超え, 他の項目に比べても高い部類となった。博士・博士後期課程においては, 「コミュニケーションスキル」が94.6%と最も高く, 「論理的思考力・創造的表現力」, 「倫理観」, 「知識・理解(専門教育)」, 「問題発見・課題解決力」, 「論理的思考力・創造的表現力」, 「問題発見・課題解決力」, 「自己管理・実行力」と大半が9割を超え, 「大変役立った」の回答も5割を超えているものが多い。一方で, 「数量的スキル」が8割を下回り, 「情報活用スキル」が82.2%とやや低い結果となった。

「知識・理解(教養教育)」は全学で87.7%(前期), 86.3%(後期)が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で94.4%, 工学研究科で92.8%, 地域学専攻で91.6%と高く, その他の専攻・研究科でも連合農学研究科の79.0%を除いて8割を超えている。「知識・理解(専門教育)」は全学で85.0%(前期), 90.4%(後期)が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で94.5%, 地域学専攻で91.6%, 後期医学系研究科92.3%, 工学研究科で92.8%と特に高かった。農学専攻で8割を切った以外は, 他の専攻・研究科では8割を超えた。

「コミュニケーションスキル」が役立ったとの回答は, 全学で90.7%(前期), 94.6%(後期)と高かった。特に, 国際乾燥地科学専攻, 工学研究科で10割となり, 修士・博士前期で8～9割, 修士・博士後期は概ね9割となった。

「数量的スキル」は全学で83.0%(前期), 79.5%(後期)が役立ったと回答し, 設問の中では低い部類となった。特に, 医学系研究科(前・後期), 地域学専攻が目立って低かった。

「情報活用スキル」は全学で87.7%(前期), 82.3%(後期)が役立ったと回答した。地域学専攻, 後期医学系研究科では8割を切っている。

「論理的思考力・創造的表現力」が役立ったとの回答は, 全学で90.2%(前期), 91.8%(後期)と高かった。特に, 国際乾燥地科学専攻で100%, 工学研究科で96.4%と高くなった。工学専攻, 後期医学系研究科, 連合農学研究科が9割をやや切っているが, 他は9割を超えた。

「問題発見・課題解決力」が役立ったとの回答は, 全学で90.2%(前期), 90.4%(後期)と高かった。特に, 前期医学系研究科(95.7%), 国際乾燥地科学専攻(94.4%), 工学研究科(96.5%)が高く, 全専攻・研究科で8割5分程度以上となった。

「自己管理・実行力」は全学で89.7%(前期), 90.4%(後期)が役立ったと回答した。特に, 前期医学系研究科(95.7%), 国際乾燥地科学専攻(94.4%), 工学研究科(96.5%)が高く, 地域学専攻の75%を除いて8割5分程度以上となった。

「生涯学習力」は全学で87.6%(前期), 90.4%(後期)が役立ったと回答した。特に, 前期医学系研究科(93.5%), 工学研究科(92.9%)が高く, 他も全て8割以上となった。

「協働力(リーダーシップも含む)」は全学で88.1%(前期), 89.0%(後期)が役立ったと回答した。特に, 工学研究科

が 100%，前期医学系研究科が 93.5%と高かった。連合農学研究科が 8 割を切った以外は，他では 8 割 5 分程度以上となった。

「倫理観」は全学で 91.3%(前期)，91.8%(後期)が役立ったと回答した。特に，国際乾燥地科学専攻の 100%をはじめ，前期医学系研究科 95.6%，工学専攻 90.3%，工学研究科 96.4%と高く，他も 8 割 5 分程度以上となった。「責任ある市民としての社会性」が役立ったとの回答は，全学で 89.2%(前期)，86.3%(後期)となった。国際乾燥地科学専攻(94.4%)，農学専攻(92.3%)，工学研究科(96.4%)が高く，後期医学系研究科が 73.1%と差が大きくなった。地域学専攻が 83.4%とやや低い，他は 9 割弱となった。

「修得度」と「役立ち度」を項目毎に比較した。修士・博士前期について，「知識・理解(専門教育)」は修得度が役立ち度を上回ったが，その他の項目では修得度の方が小さい結果となった。例えば「コミュニケーションスキル」は修得度 79.4%に対して役立ち度は 90.7%，「協働力(リーダーシップも含む)」は修得度 76.8%に対して役立ち度は 88.1%，であり，役立つ能力として高く評価されていると考えられる。博士・博士後期については，「生涯学習力」，「知識・理解(専門教育)」，「問題発見・課題解決力」，「自己管理・実行力」，「知識・理解(教養教育)」，「情報活用スキル」，「数量的スキル」は修得度が役立ち度をやや上回った。一方，「コミュニケーションスキル」，「協働力(リーダーシップも含む)」，「責任ある市民としての社会性」は役立ち度が修得度を顕著に上回り，役立つ能力として高く評価されていると考えられる。

「DP 能力の修得度」及び「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」において質問した 12 項目について回答率を比較した。前者は肯定的回答率を「修得度」，後者は 12 項目から複数選択した各項目の選択率を「選択率」として示す。修士・博士前期について，「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」は「知識・理解(専門教育)」が 1 位(44.8%)，「情報活用スキル」が 2 位(40.2%)，「論理的思考力・創造的表現力」が 3 位(39.2%)，「問題発見・課題解決力」が 4 位(35.6%)と突出して高かった。修得度では「知識・理解(専門教育)」(91.7%)と「問題発見・課題解決力」(86.1%)は高く，修得度の高さを認めながらも，さらに多く学びたい要望があると考えられる。一方，「情報活用スキル」の修得度は 78.9%で 12 項目の中で 2 番目に低く，比較的低い修得度を踏まえて，学んでおけばよかった・修得すべき能力として強く認識されているといえる。博士・博士後期については，「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」は「情報活用スキル」が 1 位(37.0%)，「知識・理解(専門教育)」が 2 位(35.6%)，「コミュニケーションスキル」と「数量的スキル」が同率 3 位(28.8%)となり，最も低い「倫理観」と「責任ある市民としての社会性」の 5.5%を含め全体に平準な分布となった。修得度では「知識・理解(専門教育)」(91.8%)は高く，修得度の高さを認めながらも，さらに多く学びたい要望があると考えられる。一方，「情報活用スキル」の修得度は 83.5%で 12 項目の中では低い部類となり，比較的低い修得度を踏まえて，学んでおけばよかった・修得すべき能力として認識されているといえる。

4. グローバル教育に関する調査結果 (該当する学生のみ)

グローバル教育に関する設問：

コロナ禍の期間を含むため該当する学生が 13 名と少ないが，「海外研修・留学プログラムの目的」として最も多かったのは語学学習で，海外研修・留学プログラム参加者の半数以上の 7 名が目的として挙げた。このほか，交流が 3 名 (23%)，専門の研究が 2 名 (15%) だった。

満足度に関しては，「参加してよかったと思う」に対して，参加者全員が「非常にそう思う」または「ある程度そう思う」とプログラムに肯定的回答をしていた。「経験が，人生観，職業観などに何らかの成果をもたらした」「グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた」が 11 名 (84.6%)，「履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている」は 10 名 (76.9%) が肯定的回答をしていた。

修得度については、異文化理解力、自己開発・強化力、自己管理能力は 12 名（92.4%）、異文化受容力、英語運用力は 11 名（84.6%）が「大変修得できた」「ある程度修得できた」という肯定的回答だった。その他の多くの項目でも 7 割程度肯定的回答を得たが、トリリンガル能力については 2 名（15.4%）に留まり、3 名（23.1%）は「全く修得できなかった」と回答していることから、英語以外の外国語の修得に関して課題があることが読み取れる。

5. 就職先企業に対する調査結果

令和 3 年 3 月から令和 6 年 3 月までの期間に本学を卒業・修了した学生の就職先から、以下のようなアンケート回答結果を得た。なお、各社がこれまでに採用した本学学生の採用実績（人数）は、おおむね従業員規模に比例する傾向となっている。

本学卒業（修了）者に対して、何かイメージされる特徴があるかを聞いたところ、「ある」と回答した企業・団体等は 4 分の 1 にとどまり、前々回（平成 29 年度）・前回（令和 2 年度）と「ある」の割合は減少が続いている。さらに、イメージされる特徴がある場合、どのようなものを具体的に書いてもらったところ、単語の出現度数として最も多かったのが「真面目」・「まじめ」で、40 件を数えた。また、「誠実」・「実直」・「素直」・「責任感」・「信用できる」があわせて 25 件、「勤勉」・「努力家」・「コツコツ」があわせて 9 件など、ものごとに対して着実にひたむきに取り組む姿勢が本学卒業生の代表的なイメージとなっていることがうかがえることは、これまでの調査と同様である。一方で、「コミュニケーション能力」・「協調性」・「協力」・「協働」・「社交性」があわせて 21 件、「明るい」・「前向き」・「積極性」があわせて 11 件あるなど、社会における他者との良好な関係構築や主体的な姿勢を評価されている卒業生がいることもうかがえる。

新卒採用活動で重視する能力・態度等と、本学卒業生の印象として「身につけている」と感じられる D P 能力を比較したところ、「新卒採用活動で重視」において最も回答を集めた「コミュニケーションスキル」は、「身につけている」とする回答でも最多を集めた。一方、「コミュニケーションスキル」に次いで「身につけている」と感じられる D P 能力は、「知識・理解（専門教育）」、「知識・理解（教養教育）」の順となったが、「新卒採用活動で重視」のほうではそれぞれ 6 番目・8 番目にとどまった。

「身につけている」が最も多く選ばれたのは「コミュニケーションスキル」だったが、その半面、「もっと身につけておくべき」の割合も最多だった。「コミュニケーションスキル」に次いで「身につけている」とされたのは「知識・理解（専門教育）」や「知識・理解（教養教育）」で、この二つについては「身につけている」が「もっと身につけておくべき」を大きく上回った。一方、「もっと身につけておくべき」が「コミュニケーションスキル」と同程度に多かった「問題発見・課題解決力」では、「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を大きく上回っており、「コミュニケーションスキル」と比べ企業側の評価に大きな違いがみられる。また「協働力（リーダーシップも含む）」や「自己管理・実行力」でも、「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を上回った。「コミュニケーションスキル」については、「身につけている」が最も多く選ばれた一方で、「もっと身につけておくべき」のほうでも最多の割合を占めており、双方同じような値となっている。また、「もっと身につけておくべき」の選択割合が二番目に多かった「問題発見・課題解決力」について、「身につけている」の選択割合との差が大きく開いている点や、「協働力（リーダーシップも含む）」、「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」等で「もっと身につけておくべき」が多く選択されている点も、注目すべき部分といえる。

教育・学生支援に対する意見・要望等について、基本的には過去の調査でも同様ではあるが、人材獲得難に拍車がかかっている状況を反映して、本学学生の採用機会につながる情報提供や取組の強化についての要望を多くいただいた。鳥取県内での交流の拡大や、卒業後の定着に対する要望も、前回調査同様、数多くいただいた。在学中の教育に関する意見・要望としては、他者とのコミュニケーション能力や社会性の涵養について言及のあるものがいくつかみられた。

6. 就職先企業・学部卒業生・大学院修了生のデータ関連性

就職先企業・団体等，学部卒業生及び大学院修了生を対象に収集した3種類のアンケート結果において，学部・研究科での教育効果や学修成果（DP能力の修得度等）に関する設問に注目し，共通する項目間の関連性について，以下の4つの観点から「教育効果」や「学修成果」について分析を行った。

「修得度」：企業「修得している」×卒業生・修了生「修得できた」

「要望度」：企業「もっと修得すべき」×卒業生・修了生「修得できた」

「ギャップ度」：企業「もっと修得すべき」×卒業生・修了生「役立った」

「不足度」：企業「もっと修得すべき」×卒業生・修了生「もっと学んでおけば良かった」

修得度について：

卒業生に関して，企業が「修得している」と回答した上位3項目は，「コミュニケーションスキル」，「知識・理解（専門教育）」と「知識・理解（教養教育）」であるが，卒業生の自己評価では2つの「知識・理解」は同様に高いものの，「コミュニケーションスキル」は79.8%と低かった。卒業生の自己評価が低かった項目は，「数量的スキル」が70.4%と最も低く，次に「情報活用スキル」が75.2%であった。

卒業生の自己評価と企業の評価がともに高いものに，「知識・理解（専門教育）」，「知識・理解（教養教育）」，「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の4つが該当している。卒業生の自己評価と企業の評価がともに低いものは，「情報活用スキル」と「数量的スキル」の2つが該当している。また，卒業生の自己評価は低い企業の評価は高い項目として「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップも含む）」の2つが該当している。特に，「コミュニケーションスキル」のギャップが大きい。

修了生に関して，企業が「修得している」と回答した上位3項目は，「コミュニケーションスキル」，「知識・理解（専門教育）」と「知識・理解（教養教育）」であるものの，修了生の自己評価では2つの「知識・理解」は同様に高いものの，「コミュニケーションスキル」は79.4%と低かった。修了生の自己評価が低かった項目は，「協働力（リーダーシップも含む）」が76.8%と最も低く，次に「情報活用スキル」が78.9%であった。

修了生の自己評価と企業の評価がともに高い項目として，「知識・理解（専門教育）」，「知識・理解（教養教育）」と「自己管理・実行力」の3つが該当している。修了生の自己評価と企業の評価がともに低いものは，「情報活用スキル」，「生涯学習力」と「数量的スキル」の3つが該当している。修了生の自己評価は低い企業の評価は高いものとして，「コミュニケーションスキル」，「協働力（リーダーシップも含む）」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。特に，卒業生と同様，「コミュニケーションスキル」のギャップが大きい。

卒業生・修了生「修得できた」と企業「修得している」の関係性では，卒業生と修了生のDP能力の修得度がともに80%以上の項目が7個あった。特に，「問題発見・課題解決力」と「知識・理解（専門教育）」の2項目については，修了生の修得度が高くなる傾向がみられた。この中で，本学学生及び就職先企業が「身につけている（修得している）」と最も高く評価した項目は，「知識・理解（専門教育）」の36.1%であった。

要望度について：

卒業生に関して，企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は，「コミュニケーションスキル」，「問題発見・課題解決力」と「協働力（リーダーシップも含む）」であるが，卒業生の自己評価ではこれら3項目はさほど高くなかった。卒業生の自己評価が最も高かった項目は「知識・理解（専門教育）」の90.5%であったが，最も低かった項目は「数量的スキル」の70.4%であり，次は「情報活用スキル」の75.2%であった。

卒業生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力として、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。特に、「問題発見・課題解決力」については、企業は卒業生の結果以上に高いレベルを求めている。卒業生の自己評価は低いが、企業が要望する DP 能力では、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップも含む）」の2つが該当している。特に、「コミュニケーションスキル」については、企業は「問題発見・課題解決力」と同等レベルのものを求めている。

修了生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力（リーダーシップも含む）」であったが、修了生の自己評価ではこれら3項目はさほど高くなかった。修了生の自己評価が最も高かった項目は「知識・理解（専門教育）」の91.8%であったが、最も低かった項目は「協働力（リーダーシップも含む）」の76.8%であり、次は「情報活用スキル」の78.9%であった。

修了生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力として、「問題発見・課題解決力」と「自己管理・実行力」の2つが該当している。特に、「問題発見・課題解決力」については、卒業生と同様、企業は修了生の結果以上に高いレベルを求めている。修了生の自己評価は低いが、企業が要望する DP 能力では、「コミュニケーションスキル」、「協働力（リーダーシップも含む）」と「論理的思考力・創造的表現力」の3つが該当している。特に、「コミュニケーションスキル」についても、卒業生と同様、企業は「問題発見・課題解決力」と同等レベルのものを求めている。

卒業生・修了生「修得できた」と企業「もっと修得すべき」の関係性では、卒業生と修了生の DP 能力の修得度がともに80%以上の項目は7個あった。特に、「知識・理解（専門教育）」と「論理的思考力・創造的表現力」の2項目については、修了生の修得度が高くなる傾向がみられた。この中で、本学学生が「身につけている（修得している）」と思っているが、就職先企業は「もっと身につけておくべき」と最も強く要望している項目は、「知識・理解（専門教育）」の41.7%であった。

ギャップ度について：

卒業生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力（リーダーシップも含む）」のうち、卒業生の自己評価では「コミュニケーションスキル」は88.3%とやや高かった。卒業生の自己評価が最も高かった項目は「自己管理・実行力」の88.8%であったが、最も低かった項目は「数量的スキル」の77.3%であった。

卒業生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力としては、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の4つが該当している。卒業生の自己評価は低いが、企業が要望する DP 能力は、「協働力（リーダーシップも含む）」が該当している。卒業生の自己評価が低く、企業もあまり要望していない DP 能力では、「情報活用スキル」、「数量的スキル」と「知識・理解（教養教育）」の3つが該当している。特に、「数量的スキル」のギャップが少し大きい。

修了生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力（リーダーシップも含む）」であるが、修了生の自己評価では「コミュニケーションスキル」と「問題発見・課題解決力」はやや高かった。修了生の自己評価では、全 DP 能力の修得度が80%以上であった。

修了生の自己評価が高く、企業が要望する DP 能力として、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」、「自己管理・実行力」と「論理的思考力・創造的表現力」の4つが該当している。修了生の自己評価は高いが、企業もあまり要望していない DP 能力では、「倫理観」と「責任ある市民としての社会性」の2つが該当している。修了生の自己評価が低く、企業もあまり要望していない DP 能力は、「知識・理解（専門教育）」、「数量的スキル」、「生涯学習力」、「知識・理解（教養教育）」と「情報活用スキル」の5つが該当している。

卒業生・修了生「役立った」と企業「もっと修得すべき」の関係性では、卒業生と修了生の DP 能力の役立ち度がともに 80%以上の項目が 11 個あった。特に、「情報活用スキル」、「協働力（リーダーシップも含む）」、「倫理観」等の 10 項目については、修了生の役立ち度が高くなる傾向がみられた。この中で、本学学生が「社会で役立っている（役立った）」と思っているが、就職先企業は「もっと身につけておくべき」と最も強く要望している項目は、「コミュニケーションスキル」の 43.0%であった。

不足度について：

卒業生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位 3 項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力（リーダーシップを含む）」だが、卒業生の自己評価では「コミュニケーションスキル」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」はさほど高くなかった。卒業生の自己評価が最も高かった項目は「コミュニケーションスキル」と「知識・理解（専門教育）」の 34.2%であったが、最も低かった項目は「倫理観」の 2.8%であった。

卒業生の後悔と企業の要望が強い DP 能力として、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「論理的思考力・創造的表現力」の 3 つが該当している。卒業生の後悔と企業の要望が強くない DP 能力では、「生涯学習力」、「倫理観」、「責任ある市民としての社会性」、「知識・理解（教養教育）」と「数量的スキル」の 5 つが該当している。卒業生の後悔はあまり強くないが、企業の要望がやや強い DP 能力としては、「協働力（リーダーシップも含む）」と「自己管理・実行力」の 2 つが該当している。

修了生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位 3 項目は、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、修了生の自己評価では「問題発見・課題解決力」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップも含む）」はさほど高くなかった。修了生の自己評価が最も高かった項目は「知識・理解（専門教育）」の 44.8%であったが、最も低かった項目は「倫理観」の 1.5%であった。

修了生の後悔と企業の要望が強い DP 能力がとしては、「コミュニケーションスキル」、「問題発見・課題解決力」と「論理的思考力・創造的表現力」の 3 つが該当している。修了生の後悔は強くないが、企業の要望が強い DP 能力については、「協働力（リーダーシップも含む）」と「自己管理・実行力」の 2 つが該当している。また、修了生の後悔と企業の要望が強くない DP 能力は、「生涯学習力」、「倫理観」、「責任ある市民としての社会性」、「知識・理解（教養教育）」と「数量的スキル」の 5 つが該当している。

卒業生・修了生「もっと学んでおけば良かった」と企業「もっと修得すべき」の関係性では、卒業生と修了生の DP 能力の不足度がともに 25%以上の項目は 5 個あった。特に、「論理的思考力・創造的表現力」、「知識・理解（専門教育）」、「情報活用スキル」と「問題発見・課題解決力」の 4 項目については、修了生の不足度が高くなる傾向がみられた。この中で、本学学生が「もっと学んでおけば良かった（もっと学ぶべき）」と思っており、就職先企業も「もっと身につけておくべき（もっと修得すべき）」と最も強く要望している項目は、「問題発見・課題解決力」の 41.7%であった。

前回（令和 2 年度実施）と今回（令和 6 年度実施）との比較を以下の資料に掲載しているが、学部の DP 能力では全学的に「生涯学習力」、「責任ある市民としての社会性」の修得度が大きく伸びており、工学部・農学部での伸びが大きい。総合的な満足度については、工学部・農学部で伸びている反面、地域学部・医学部では前回で高い水準にあったところからやや減少傾向も見られる。大学院については、DP 能力「責任ある市民としての社会性」が修得度・役立ち度ともに全学で伸びている。持続性(農学)・医学系研究科では伸びている DP 能力が多いが、その他は大きな伸びと減少が DP 能力毎に分布している傾向がある。全学的に「大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている」とする満足度及び「カリキュラムについて授業内容は充実していた」の回答が大きく伸びている。

以上のように、今回の調査結果からは本学の教育活動にかかる貴重な客観的評価が得られたと同時に、同結果は学部卒業生・大学院修了生・就職先企業からの意見・要望としていくつかの課題を提示している。特に「問題発見・課題解決力」については、卒業生・修了生・就職先企業の三者ともが、不十分、あるいはもっと涵養すべきであると回答している点には留意すべきである。また、前回アンケートで指摘された「国際化への対応力」についても、今後とも強化の継続が必要である。

本学では学部・研究科によって教育目標や養成する人材像が明確に異なっている。例えば医学部や医学系研究科では、（医療研究者を含む）医療従事者の育成という極めて明確な方向性があり、卒業・修了後の進路も医療関係に集中している。当然のことながら、今回の調査結果はこのような事情を明瞭に反映している。したがって、設問項目の全てについて、学部・研究科毎の結果を横並びにして単純に比較できないのは言うまでもない。しかし、今回の結果から学部・研究科毎にある程度の傾向を抽出することは、十分に可能であり、その意味で今回のアンケート調査結果は、それぞれの学部・研究科における今後の教育改革において、極めて貴重な情報を提供し得る。この調査結果が、今後、本学の教育目標や教育ブランドデザインの見直し、あるいは、各学部・研究科における教育改善の取り組みに大いに活用されることを期待する。

最後に、本調査に回答いただきました調査対象者の皆様、アンケートの配布・回収および報告書の編集に協力いただきました学生部教育支援課教務支援係の皆様方に感謝の意を表します。

令和8年2月

資料

令和6年度及び令和2年度の比較データ【学部卒業生】

- 学部卒業生向けアンケートでは、令和6年度回答(N=608)及び令和2年度回答(N=443)を使用して集計作業を行った。ただし、「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は対象外とした。
- 全アンケートの結果については、以下の項目において「**肯定的回答率**」により比較を行った。
 - **総合的な満足度【3項目】**: («非常にそう思う»+«ある程度そう思う»)／回答件数
 - **充実度【教育10項目, 研究4項目, 交流活動4項目及びサポート体制5項目】**: («非常にそう思う»+«ある程度そう思う»)／回答件数
 - **DP能力の修得度【12項目】**: (大変修得できた+ある程度修得できた)／回答件数
 - **DP能力の役立ち度【12項目】**: (大変役立った+ある程度役立った)／回答件数
- アンケート結果欄における「**赤色セル**」は **80%以上**, ポイント差欄における「**青色セル**」は **10ポイント差以上の増減**を示す。

■アンケート結果の概要

- **総合的な満足度**において、令和6年度は「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」(地域学部)や「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」(医学部・工学部)で70%程度の値がみられるものの、**大学の各項目で高い満足度**を示していた。ポイント差において、**地域学部や医学部では前回より10ポイント以上減少**していた。
- **充実度**において、令和6年度の**教育では大学の「専門教育」と「教養教育」(医学部を除く)で高い充実度**を示していた。ポイント差において、**研究では大学の「産学共同研究の実績が豊富」, サポート体制では大学の「IT活用教育に熱心」**が前回より**10ポイント以上増加**していた。また、医学部では大半の項目で減少傾向がみられるものの、**工学部や農学部では多くの項目で10ポイント以上増加**していた。
- **DP能力の修得度**において、令和6年度の「**知識・理解(専門教育)**」, 「**倫理観**」, 「**知識・理解(教養教育)**」が**上位**を占めていた。ポイント差において、**大学では「生涯学習力」と「責任ある市民としての社会性」**, **工学部や農学部では多くの項目で10ポイント以上増加**していた。
- **DP能力の役立ち度**において、令和6年度の「**数量的スキル**」を除く**全DP能力が高い値**を示していた。ポイント差において、**工学部や農学部では半数程度の項目で10ポイント以上増加**していた。

令和6年度及び令和2年度の比較データ【学部卒業生】

| DP能力の修得度 | 令和6年度アンケート(%) (大変修得できた+ある程度修得できた) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (大変修得できた+ある程度修得できた) | | | | | ポイント差 | | | | |
|-----------------|--------------------------------------|------|------|------|------|--------------------------------------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|
| | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 |
| 知識・理解(教養教育) | 87.3 | 88.5 | 79.3 | 87.2 | 93.5 | 80.1 | 84.3 | 79.8 | 76.3 | 82.1 | 7.2 | 4.1 | -0.6 | 11.0 | 11.4 |
| 知識・理解(専門教育) | 90.5 | 87.7 | 91.9 | 88.3 | 94.2 | 86.7 | 84.3 | 93.6 | 83.5 | 85.7 | 3.8 | 3.4 | -1.7 | 4.8 | 8.5 |
| コミュニケーションスキル | 79.8 | 83.8 | 78.5 | 76.6 | 81.3 | 74.5 | 78.3 | 81.7 | 64.0 | 77.7 | 5.3 | 5.5 | -3.1 | 12.6 | 3.6 |
| 数量的スキル | 70.4 | 52.3 | 63.7 | 84.6 | 74.2 | 63.9 | 61.4 | 62.4 | 66.9 | 63.4 | 6.5 | -9.1 | 1.3 | 17.7 | 10.8 |
| 情報活用スキル | 75.2 | 67.7 | 70.4 | 79.8 | 80.0 | 66.6 | 63.9 | 68.8 | 69.8 | 62.5 | 8.6 | 3.8 | 1.6 | 10.0 | 17.5 |
| 論理的思考力・創造的表現力 | 84.4 | 83.1 | 80.0 | 87.8 | 85.2 | 77.7 | 79.5 | 79.8 | 74.1 | 78.6 | 6.7 | 3.6 | 0.2 | 13.7 | 6.6 |
| 問題発見・課題解決力 | 83.4 | 80.0 | 80.0 | 87.8 | 83.9 | 78.1 | 80.7 | 82.6 | 73.4 | 77.7 | 5.3 | -0.7 | -2.6 | 14.4 | 6.2 |
| 自己管理・実行力 | 84.9 | 82.3 | 80.0 | 84.0 | 92.3 | 79.7 | 78.3 | 87.2 | 74.8 | 79.5 | 5.2 | 4.0 | -7.2 | 9.2 | 12.8 |
| 生涯学習力 | 84.9 | 86.2 | 80.7 | 82.4 | 90.3 | 74.5 | 77.1 | 79.8 | 67.6 | 75.9 | 10.4 | 9.0 | 0.9 | 14.8 | 14.4 |
| 協働力(リーダーシップも含む) | 79.9 | 79.2 | 80.0 | 76.6 | 84.5 | 76.5 | 83.1 | 82.6 | 69.1 | 75.0 | 3.4 | -3.9 | -2.6 | 7.5 | 9.5 |
| 倫理観 | 87.8 | 87.7 | 92.6 | 85.6 | 86.5 | 84.2 | 90.4 | 88.1 | 81.3 | 79.5 | 3.6 | -2.7 | 4.5 | 4.3 | 7.0 |
| 責任ある市民としての社会性 | 85.7 | 85.4 | 85.2 | 85.1 | 87.1 | 74.9 | 86.7 | 75.2 | 71.9 | 69.6 | 10.7 | -1.4 | 10.0 | 13.2 | 17.5 |
| 国際化への対応力 | | | | | | 54.4 | 59.0 | 48.6 | 48.2 | 64.3 | | | | | |
| 社会参加への行動力 | | | | | | 67.0 | 86.7 | 65.1 | 54.0 | 70.5 | | | | | |

| DP能力の役立ち度 | 令和6年度アンケート(%) (大変役立った+ある程度役立った) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (大変役立った+ある程度役立った) | | | | | ポイント差 | | | | |
|-----------------|------------------------------------|------|------|------|------|------------------------------------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|
| | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 |
| 知識・理解(教養教育) | 85.0 | 81.5 | 83.7 | 85.1 | 89.0 | 77.9 | 83.1 | 79.8 | 74.8 | 75.9 | 7.2 | -1.6 | 3.9 | 10.3 | 13.1 |
| 知識・理解(専門教育) | 86.0 | 77.7 | 93.3 | 85.6 | 87.1 | 81.5 | 78.3 | 93.6 | 77.0 | 77.7 | 4.5 | -0.6 | -0.2 | 8.7 | 9.4 |
| コミュニケーションスキル | 88.3 | 92.3 | 85.2 | 85.6 | 91.0 | 81.0 | 88.0 | 87.2 | 73.4 | 79.5 | 7.3 | 4.4 | -2.0 | 12.3 | 11.5 |
| 数量的スキル | 77.3 | 62.3 | 74.8 | 86.7 | 80.6 | 72.0 | 67.5 | 73.4 | 76.3 | 68.8 | 5.3 | -5.2 | 1.4 | 10.4 | 11.9 |
| 情報活用スキル | 82.2 | 78.5 | 79.3 | 84.6 | 85.2 | 78.3 | 79.5 | 80.7 | 79.9 | 73.2 | 3.9 | -1.1 | -1.5 | 4.7 | 11.9 |
| 論理的思考力・創造的表現力 | 87.7 | 83.1 | 83.7 | 92.0 | 89.7 | 84.4 | 85.5 | 87.2 | 82.7 | 83.0 | 3.2 | -2.5 | -3.5 | 9.3 | 6.6 |
| 問題発見・課題解決力 | 87.7 | 86.2 | 85.2 | 88.8 | 89.7 | 84.4 | 86.7 | 88.1 | 79.9 | 84.8 | 3.2 | -0.6 | -2.9 | 9.0 | 4.9 |
| 自己管理・実行力 | 88.8 | 88.5 | 88.1 | 87.2 | 91.6 | 83.1 | 88.0 | 86.2 | 77.7 | 83.0 | 5.7 | 0.5 | 1.9 | 9.5 | 8.6 |
| 生涯学習力 | 85.9 | 83.1 | 83.0 | 87.2 | 89.0 | 80.8 | 89.2 | 84.4 | 71.2 | 79.5 | 5.0 | -6.1 | -1.4 | 16.0 | 9.6 |
| 協働力(リーダーシップも含む) | 85.4 | 86.9 | 83.0 | 83.5 | 88.4 | 78.6 | 88.0 | 85.3 | 81.3 | 74.1 | 6.8 | -1.0 | -2.4 | 2.2 | 14.3 |
| 倫理観 | 88.5 | 87.7 | 88.9 | 88.8 | 88.4 | 83.3 | 88.0 | 89.0 | 77.7 | 76.8 | 5.2 | -0.3 | -0.1 | 11.1 | 11.6 |
| 責任ある市民としての社会性 | 87.5 | 87.7 | 85.9 | 86.7 | 89.7 | 79.9 | 89.2 | 82.6 | 55.4 | 73.2 | 7.6 | -1.5 | 3.4 | 31.3 | 16.5 |
| 国際化への対応力 | | | | | | 58.9 | 66.3 | 59.6 | 63.3 | 57.1 | | | | | |
| 社会参加への行動力 | | | | | | 74.9 | 89.2 | 79.8 | 74.1 | 74.1 | | | | | |

※「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は除く

| 総合的な満足度 | 令和6年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | ポイント差 | | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|------|------|------|------|-------------------------------------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|
| | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 |
| 鳥取大学の教育内容に、全体として満足している | 89.3 | 91.5 | 83.0 | 87.8 | 94.8 | 85.3 | 91.6 | 89.9 | 76.3 | 87.5 | 4.0 | 0.0 | -6.9 | 11.5 | 7.3 |
| 鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている | 81.4 | 75.4 | 84.4 | 80.3 | 85.2 | 79.5 | 85.5 | 90.8 | 71.9 | 73.2 | 2.0 | -10.2 | -6.4 | 8.4 | 11.9 |
| 鳥取大学への受験を高校生に薦めたい | 80.9 | 82.3 | 76.3 | 79.8 | 85.2 | 79.5 | 84.3 | 87.2 | 71.2 | 78.6 | 1.5 | -2.0 | -10.9 | 8.6 | 6.6 |

| 充実度 | 令和6年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | ポイント差 | | | | |
|-------------------------|-------------------------------------|------|------|------|------|-------------------------------------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|
| | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 大学 | 地域学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 |
| 教養教育が充実していた | 85.5 | 87.7 | 78.5 | 86.7 | 88.4 | 79.0 | 88.0 | 76.1 | 77.0 | 77.7 | 6.5 | -0.3 | 2.4 | 9.7 | 10.7 |
| 専門教育が充実していた | 90.3 | 86.9 | 89.6 | 89.4 | 94.8 | 87.8 | 83.1 | 89.9 | 84.2 | 93.8 | 2.5 | 3.8 | -0.3 | 5.2 | 1.1 |
| 外国語学習に積極的だった | 50.2 | 63.8 | 30.4 | 46.3 | 60.6 | 51.2 | 60.2 | 37.6 | 43.2 | 67.9 | -1.1 | 3.6 | -7.2 | 3.1 | -7.2 |
| 工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた | 70.7 | 74.6 | 63.7 | 70.7 | 73.5 | 63.2 | 79.5 | 66.1 | 55.4 | 58.0 | 7.5 | -4.9 | -2.4 | 15.3 | 15.5 |
| 参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた | 66.4 | 83.8 | 55.6 | 60.6 | 68.4 | 57.8 | 74.7 | 56.9 | 47.5 | 58.9 | 8.7 | 9.1 | -1.3 | 13.2 | 9.5 |
| 少人数による指導が受けられた | 68.9 | 85.4 | 51.9 | 62.8 | 77.4 | 64.6 | 81.9 | 62.4 | 51.8 | 69.6 | 4.4 | 3.5 | -10.5 | 11.0 | 7.8 |
| 教員との交流が多かった | 67.6 | 75.4 | 63.0 | 55.9 | 79.4 | 66.8 | 80.7 | 72.5 | 48.2 | 74.1 | 0.8 | -5.3 | -9.5 | 7.6 | 5.2 |
| 学習意欲が湧く授業が多かった | 70.7 | 73.1 | 65.9 | 63.8 | 81.3 | 65.0 | 72.3 | 68.8 | 53.2 | 70.5 | 5.7 | 0.8 | -2.9 | 10.6 | 10.8 |
| 他学部の授業が選択できた | 51.6 | 67.7 | 33.3 | 53.2 | 52.3 | 45.4 | 53.0 | 38.5 | 44.6 | 47.3 | 6.3 | 14.7 | -5.2 | 8.6 | 4.9 |
| 学習面での施設・設備が充実していた | 71.4 | 73.1 | 65.9 | 71.8 | 74.2 | 71.8 | 69.9 | 75.2 | 70.5 | 71.4 | -0.4 | 3.2 | -9.3 | 1.3 | 2.8 |
| 著名な教授・講師が多かった | 48.8 | 43.8 | 45.2 | 48.9 | 56.1 | 44.0 | 37.3 | 44.0 | 46.8 | 45.5 | 4.8 | 6.5 | 1.1 | 2.2 | 10.6 |
| 学術面での研究業績が優れていた | 66.8 | 61.5 | 64.4 | 69.7 | 69.7 | 62.8 | 61.4 | 60.6 | 61.9 | 67.0 | 4.0 | 0.1 | 3.9 | 7.8 | 2.7 |
| 産学共同研究で実績が豊富だった | 56.7 | 53.1 | 44.4 | 62.8 | 63.2 | 46.3 | 51.8 | 40.4 | 42.4 | 52.7 | 10.5 | 1.3 | 4.1 | 20.3 | 10.5 |
| 研究面での施設・設備が充実していた | 66.6 | 63.1 | 57.0 | 67.0 | 77.4 | 64.3 | 60.2 | 54.1 | 70.5 | 69.6 | 2.3 | 2.8 | 2.9 | -3.5 | 7.8 |
| 地域社会との交流が盛んだった | 62.0 | 81.5 | 48.9 | 56.4 | 63.9 | 59.1 | 85.5 | 60.6 | 46.8 | 53.6 | 2.9 | -4.0 | -11.7 | 9.6 | 10.3 |
| 国際的な交流が活発だった | 54.4 | 70.8 | 30.4 | 50.0 | 67.1 | 58.7 | 77.1 | 45.0 | 46.0 | 74.1 | -4.2 | -6.3 | -14.6 | 4.0 | -7.0 |
| クラブ・サークル活動が盛んだった | 79.6 | 81.5 | 83.7 | 76.6 | 78.1 | 74.3 | 79.5 | 84.4 | 70.5 | 65.2 | 5.3 | 2.0 | -0.7 | 6.1 | 12.9 |
| 学外学習による職業体験や社会体験が多かった | 50.7 | 62.3 | 45.2 | 41.5 | 56.8 | 45.4 | 65.1 | 48.6 | 30.2 | 46.4 | 5.3 | -2.8 | -3.4 | 11.3 | 10.3 |
| 資格取得のサポートに積極的だった | 45.9 | 52.3 | 59.3 | 34.6 | 42.6 | 45.1 | 42.2 | 57.8 | 38.1 | 43.8 | 0.7 | 10.1 | 1.5 | -3.6 | -1.2 |
| IT活用教育に熱心だった | 35.4 | 36.2 | 28.1 | 46.3 | 27.7 | 20.1 | 18.1 | 19.3 | 26.6 | 14.3 | 15.3 | 18.1 | 8.9 | 19.7 | 13.5 |
| 海外留学制度が充実していた | 56.4 | 63.1 | 37.8 | 54.3 | 69.7 | 60.0 | 74.7 | 37.6 | 61.2 | 69.6 | -3.6 | -11.6 | 0.2 | -6.9 | 0.0 |
| 学生生活の支援体制が充実していた | 71.9 | 70.0 | 62.2 | 75.0 | 78.1 | 67.5 | 72.3 | 67.0 | 64.0 | 68.8 | 4.4 | -2.3 | -4.8 | 11.0 | 9.3 |
| 就職活動の支援体制が充実していた | 65.8 | 65.4 | 50.4 | 72.9 | 71.0 | 61.6 | 66.3 | 56.0 | 66.9 | 57.1 | 4.2 | -0.9 | -5.6 | 6.0 | 13.8 |

※「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は除く

令和6年度及び令和2年度の比較データ【大学院修了生】

- 大学院修了生向けアンケートでは、修士・博士前期課程を対象とし、令和6年度回答(N=194)及び令和2年度回答(N=178)を使用して集計作業を行った。ただし、「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は対象外とした。
- 両アンケートの結果については、以下の項目において「**肯定的回答率**」により比較を行った。
 - **総合的な満足度【3項目】**: (「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」) / 回答件数
 - **充実度【教育2項目, 研究3項目】**: (「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」) / 回答件数
 - **DP能力の修得度【12項目】**: (大変修得できた+ある程度修得できた) / 回答件数
 - **DP能力の役立ち度【12項目】**: (大変役立った+ある程度役立った) / 回答件数
- アンケート結果欄における「**赤色セル**」は **80%以上**, ポイント差欄における「**青色セル**」は **10ポイント差以上の増減**を示す。

■アンケート結果の概要

- **総合的な満足度**において、令和6年度は「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」(持続性(工学))や「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」(持続性(地域学))で70%程度の値がみられるものの、**大学院の3項目で高い満足度**を示していた。ポイント差において、**大学院の「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」が前回より10ポイント以上増加**していた。
- **充実度**において、令和6年度の教育では**大学院の「カリキュラムの授業内容」と「研究室における研究指導」で高い充実度**を示していた。ポイント差においても、**大学院の「カリキュラムの授業内容」が前回より10ポイント以上増加**していた。また、持続性(乾燥地)では全項目で減少傾向、持続性(農学)や医学系研究科では全項目で増加傾向がみられた。
- **DP能力の修得度**において、令和6年度の「**知識・理解(専門教育)**」、「**倫理観**」、「**知識・理解(教養教育)**」が上位を占めていた。ポイント差において、**大学院の「責任ある市民としての社会性」が前回より10ポイント以上増加**していた。また、持続性(乾燥地)では概ね減少傾向、持続性(農学)や医学系研究科では概ね増加傾向がみられた。
- **DP能力の役立ち度**において、令和6年度の「**倫理観**」、「**コミュニケーションスキル**」、「**論理的思考力・創造的表現力**」と「**問題発見・課題解決力**」が上位を占めていた。ポイント差において、**大学院の「責任ある市民としての社会性」が前回より10ポイント以上増加**していた。また、持続性(地域学)では概ね減少傾向、持続性(工学・農学)や医学系研究科では概ね増加傾向がみられた。

令和6年度及び令和2年度の比較データ【大学院修了生】

| DP能力の修得度 | | 令和6年度アンケート(%) (大変修得できた+ある程度修得できた) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (大変修得できた+ある程度修得できた) | | | | | ポイント差 | | | | | | | |
|-----------------|----------------------------|--------------------------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------------------------------|------|--------------|-------------|-------------|--------------|------------|------|--------------|-------------|-------------|--------------|------------|
| 修士・博士前期 | | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 |
| 知識・理解(教養教育) | | 86.6 | 91.7 | 87.0 | 88.5 | 100.0 | 78.3 | 79.2 | 80.0 | 82.1 | 77.3 | 83.3 | 71.8 | 7.4 | 11.7 | 4.9 | 11.2 | 16.7 | 6.5 |
| 知識・理解(専門教育) | | 91.8 | 100.0 | 90.2 | 92.3 | 88.9 | 93.5 | 89.9 | 80.0 | 87.4 | 95.5 | 100.0 | 92.3 | 1.9 | 20.0 | 2.8 | -3.1 | -11.1 | 1.2 |
| コミュニケーションスキル | | 79.4 | 66.7 | 76.1 | 84.6 | 88.9 | 82.6 | 73.6 | 70.0 | 76.8 | 68.2 | 91.7 | 64.1 | 5.8 | -3.3 | -0.8 | 16.4 | -2.8 | 18.5 |
| 数量的スキル | | 79.9 | 58.3 | 81.5 | 84.6 | 94.4 | 73.9 | 78.1 | 60.0 | 83.2 | 72.7 | 91.7 | 69.2 | 1.8 | -1.7 | -1.6 | 11.9 | 2.8 | 4.7 |
| 情報活用スキル | | 78.9 | 66.7 | 78.3 | 92.3 | 88.9 | 71.7 | 81.5 | 80.0 | 83.2 | 72.7 | 100.0 | 76.9 | -2.6 | -13.3 | -4.9 | 19.6 | -11.1 | -5.2 |
| 論理的思考力・創造的表現力 | | 82.5 | 91.7 | 78.3 | 92.3 | 94.4 | 78.3 | 86.5 | 90.0 | 87.4 | 81.8 | 91.7 | 84.6 | -4.0 | 1.7 | -9.1 | 10.5 | 2.8 | -6.4 |
| 問題発見・課題解決力 | | 86.1 | 100.0 | 82.6 | 84.6 | 88.9 | 89.1 | 83.7 | 80.0 | 82.1 | 86.4 | 100.0 | 82.1 | 2.4 | 20.0 | 0.5 | -1.7 | -11.1 | 7.1 |
| 自己管理・実行力 | | 84.5 | 58.3 | 82.6 | 88.5 | 88.9 | 91.3 | 79.2 | 80.0 | 77.9 | 72.7 | 91.7 | 82.1 | 5.3 | -21.7 | 4.7 | 15.7 | -2.8 | 9.3 |
| 生涯学習力 | | 79.9 | 83.3 | 69.6 | 84.6 | 88.9 | 93.5 | 83.1 | 90.0 | 83.2 | 77.3 | 91.7 | 82.1 | -3.2 | -6.7 | -13.6 | 7.3 | -2.8 | 11.4 |
| 協働力(リーダーシップも含む) | | 76.8 | 58.3 | 73.9 | 76.9 | 83.3 | 84.8 | 76.4 | 80.0 | 78.9 | 63.6 | 100.0 | 69.2 | 0.4 | -21.7 | -5.0 | 13.3 | -16.7 | 15.6 |
| 倫理観 | | 87.1 | 66.7 | 83.7 | 84.6 | 100.0 | 95.7 | 82.0 | 60.0 | 82.1 | 81.8 | 91.7 | 84.6 | 5.1 | 6.7 | 1.6 | 2.8 | 8.3 | 11.0 |
| 責任ある市民としての社会性 | | 85.6 | 75.0 | 85.9 | 84.6 | 94.4 | 84.8 | 73.6 | 70.0 | 75.8 | 68.2 | 100.0 | 64.1 | 12.0 | 5.0 | 10.1 | 16.4 | -5.6 | 20.7 |
| 国際化への対応力 | | | | | | | | 53.4 | 60.0 | 51.6 | 72.7 | 91.7 | 33.3 | | | | | | |
| 社会参加への行動力 | | | | | | | | 61.2 | 60.0 | 60.0 | 68.2 | 91.7 | 51.3 | | | | | | |
| DP能力の役立ち度 | | 令和6年度アンケート(%) (大変役立った+ある程度役立った) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (大変役立った+ある程度役立った) | | | | | ポイント差 | | | | | | | |
| 修士・博士前期 | | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 |
| 知識・理解(教養教育) | | 87.6 | 91.7 | 87.0 | 84.6 | 94.4 | 87.0 | 78.7 | 100.0 | 76.8 | 81.8 | 75.0 | 76.9 | 9.0 | -8.3 | 10.1 | 2.8 | 19.4 | 10.0 |
| 知識・理解(専門教育) | | 85.1 | 91.7 | 82.6 | 76.9 | 94.4 | 89.1 | 80.9 | 100.0 | 77.9 | 86.4 | 75.0 | 82.1 | 4.2 | -8.3 | 4.7 | -9.4 | 19.4 | 7.1 |
| コミュニケーションスキル | | 90.7 | 83.3 | 91.3 | 88.5 | 100.0 | 89.1 | 82.6 | 100.0 | 84.2 | 72.7 | 91.7 | 76.9 | 8.1 | -16.7 | 7.1 | 15.7 | 8.3 | 12.2 |
| 数量的スキル | | 83.0 | 66.7 | 88.0 | 84.6 | 88.9 | 73.9 | 79.8 | 70.0 | 83.2 | 72.7 | 91.7 | 74.4 | 3.2 | -3.3 | 4.9 | 11.9 | -2.8 | -0.4 |
| 情報活用スキル | | 87.6 | 75.0 | 89.1 | 88.5 | 94.4 | 84.8 | 84.8 | 100.0 | 85.3 | 77.3 | 100.0 | 79.5 | 2.8 | -25.0 | 3.9 | 11.2 | -5.6 | 5.3 |
| 論理的思考力・創造的表現力 | | 90.2 | 91.7 | 87.0 | 92.3 | 100.0 | 91.3 | 86.0 | 100.0 | 85.3 | 81.8 | 91.7 | 84.6 | 4.3 | -8.3 | 1.7 | 10.5 | 8.3 | 6.7 |
| 問題発見・課題解決力 | | 90.2 | 91.7 | 87.0 | 88.5 | 94.4 | 95.7 | 87.1 | 90.0 | 87.4 | 81.8 | 100.0 | 84.6 | 3.1 | 1.7 | -0.4 | 6.6 | -5.6 | 11.0 |
| 自己管理・実行力 | | 89.7 | 75.0 | 89.1 | 84.6 | 94.4 | 95.7 | 86.0 | 90.0 | 85.3 | 77.3 | 100.0 | 87.2 | 3.7 | -15.0 | 3.9 | 7.3 | -5.6 | 8.5 |
| 生涯学習力 | | 87.6 | 83.3 | 85.9 | 84.6 | 88.9 | 93.5 | 85.4 | 100.0 | 82.1 | 77.3 | 91.7 | 92.3 | 2.2 | -16.7 | 3.8 | 7.3 | -2.8 | 1.2 |
| 協働力(リーダーシップも含む) | | 88.1 | 83.3 | 87.0 | 84.6 | 88.9 | 93.5 | 79.8 | 80.0 | 77.9 | 72.7 | 91.7 | 84.6 | 8.4 | 3.3 | 9.1 | 11.9 | -2.8 | 8.9 |
| 倫理観 | | 91.2 | 83.3 | 90.2 | 84.6 | 100.0 | 95.7 | 82.0 | 80.0 | 80.0 | 77.3 | 100.0 | 84.6 | 9.2 | 3.3 | 10.2 | 7.3 | 0.0 | 11.0 |
| 責任ある市民としての社会性 | | 89.2 | 83.3 | 89.1 | 92.3 | 94.4 | 87.0 | 78.1 | 100.0 | 73.7 | 77.3 | 91.7 | 79.5 | 11.1 | -16.7 | 15.4 | 15.0 | 2.8 | 7.5 |
| 国際化への対応力 | | | | | | | | 58.4 | 60.0 | 61.1 | 59.1 | 75.0 | 46.2 | | | | | | |
| 社会参加への行動力 | | | | | | | | 68.0 | 100.0 | 64.2 | 68.2 | 91.7 | 61.5 | | | | | | |
| 総合的な満足度 | | 令和6年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | ポイント差 | | | | | | | |
| 修士・博士前期 | | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 |
| 総合 | 大学院の教育内容・研究指導に全体として満足している | 86.1 | 91.7 | 84.8 | 84.6 | 88.9 | 87.0 | 80.3 | 90.0 | 80.0 | 77.3 | 100.0 | 74.4 | 5.7 | 1.7 | 4.8 | 7.3 | -11.1 | 12.6 |
| | 大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている | 84.5 | 83.3 | 77.2 | 88.5 | 94.4 | 93.5 | 71.9 | 90.0 | 62.1 | 72.7 | 91.7 | 84.6 | 12.6 | -6.7 | 15.1 | 15.7 | 2.8 | 8.9 |
| | 大学院への進学を学部生に薦めたい | 85.6 | 75.0 | 84.8 | 88.5 | 83.3 | 89.1 | 75.8 | 60.0 | 77.9 | 68.2 | 91.7 | 74.4 | 9.7 | 15.0 | 6.9 | 20.3 | -8.3 | 14.8 |
| 充実度 | | 令和6年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | 令和2年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う) | | | | | ポイント差 | | | | | | | |
| 修士・博士前期 | | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 | 大学院 | 持続性 (地域学) | 持続性 (工学) | 持続性 (農学) | 持続性 (乾燥地) | 医学系 研究科 |
| 教育 研究 | カリキュラムについて授業内容は充実していた | 88.7 | 83.3 | 88.0 | 84.6 | 88.9 | 93.5 | 77.5 | 80.0 | 81.1 | 63.6 | 91.7 | 71.8 | 11.1 | 3.3 | 7.0 | 21.0 | -2.8 | 21.7 |
| | 研究室における研究指導は充実していた | 88.7 | 100.0 | 89.1 | 92.3 | 88.9 | 82.6 | 82.0 | 90.0 | 81.1 | 86.4 | 100.0 | 74.4 | 6.6 | 10.0 | 8.1 | 5.9 | -11.1 | 8.2 |
| | 学術面での研究業績が優れていた | 70.6 | 58.3 | 65.2 | 84.6 | 77.8 | 73.9 | 74.2 | 60.0 | 72.6 | 77.3 | 100.0 | 71.8 | -3.5 | -1.7 | -7.4 | 7.3 | -22.2 | 2.1 |
| | 研究の施設や設備・装置は充実していた | 74.2 | 75.0 | 62.0 | 92.3 | 77.8 | 87.0 | 66.3 | 50.0 | 68.4 | 63.6 | 83.3 | 61.5 | 7.9 | 25.0 | -6.5 | 28.7 | -5.6 | 25.4 |
| | 産学共同研究で実績が豊富だった | 54.6 | 66.7 | 48.9 | 53.8 | 72.2 | 56.5 | 46.1 | 50.0 | 43.2 | 50.0 | 83.3 | 38.5 | 8.6 | 16.7 | 5.8 | 3.8 | -11.1 | 18.1 |

令和7年3月

卒業生 各位

鳥取大学長 中島 廣光

「鳥取大学 卒業生アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「授業アンケート」や「学生実態調査」等のアンケート結果に基づき、授業改善や学生支援活動の充実等を行っています。在学生には様々な形でアンケート調査等にご協力頂いておりますが、卒業生として見た本学の教育・研究の支援や修得すべきもの、という点も今後の教育・研究支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、アンケートをお願い申し上げる次第です。

つきましては、ご多忙中のこととは存じますが、下記のWebサイトから**令和7年5月30日(金)**までにアンケートにご回答くださいますよう、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。敬具

【卒業生アンケート調査票】

<https://forms.gle/dvjLLqWF4Vpsncev5>

【グローバル教育アンケート調査票】

<https://forms.gle/nCDJWJZ2VmWMmcDEA>



※所要時間5分程度です。個人が特定されるような集計・分析は行ないません。
※鳥取大学公式Webサイト(<https://www.tottori-u.ac.jp/>) TOPページ > 「PICK UP」の「教育力アンケート」のバナーからもアクセスできます。

【卒業生ご本人へのご転送のお願い】

このお願いは、在学時に学務支援システムにご登録された保護者様のご住所宛に送付させていただいております。誠に勝手ながら、卒業生の皆様にご回答をお願いしたく、ご本人がご不在の場合は、お手数とは存じますが、本ハガキをカメラで撮影しメール等でお送りいただく、又は本ハガキをご転送いただく等により、ご本人にお知らせいただけますと幸甚に存じます。

※在学時に本学が取得した個人情報の取扱いについては、
鳥取大学公式Webサイト(右記QRコード参照)をご確認ください。



【本アンケートに関するお問合せ先】

鳥取大学学生部教育支援課教務支援係(鳥取市湖山町南4丁目101)

TEL: 0857-31-6774、E-mail: st-kyoumushien@ml.adm.tottori-u.ac.jp

2025/11/10 15:13 【鳥取大学】卒業生アンケート調査票

【鳥取大学】卒業生アンケート調査票

令和2年度～令和5年度において、本学の地域学部、医学部、工学部及び農学部を卒業した方が対象です。

yanotaka@tottori-u.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

Q1. (1) 卒業時期 *

選択

Q1. (2) 卒業した学部・学科 *

選択

Q1. (3) このアンケートをどうやって知りましたか。 *

大学から送られたハガキ

大学からのメール

鳥取大学公式Webサイト

その他:

Q2. (1) 職業 *

選択

Q2. (2) 業種 *

選択

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLS8SMRG7s6FuoniAMBGC_3XmzeCvIHde_hi-N8v7O-N-Lg7g/viewform 1/9

2025/11/10 15:13 【鳥取大学】卒業生アンケート調査票

Q3. 鳥取大学（学部）の教育や研究について、現在どのように感じていますか。 *

| | 非常にそう思う | ある程度そう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 教養教育が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 専門教育が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 外国語学習に積極的だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 少人数による指導が受けられた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 教員との交流が多かった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学習意欲が湧く授業が多かった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 他学部の授業が選択できた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学習面での施設・設備が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 著名な教授・講師が多かった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学術面での研究業績が優れていた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 産学共同研究で実績が豊富だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 研究面での施設・設備が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLS8SMRG7s6FuoniAMBGC_3XmzeCvIHde_hi-N8v7O-N-Lg7g/viewform 2/9

2025/11/10 15:13 【鳥取大学】卒業生アンケート調査票

Q4. 鳥取大学（学部）の交流活動やサポート体制について、現在どのように感じていますか。 *

| | 非常にそう思う | ある程度そう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 地域社会との交流が盛んだった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 国際交流が活発だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| クラブ・サークル活動が盛んだった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学外学習による職業体験や社会体験が多かった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 資格取得のサポートに積極的だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| IT活用教育に熱心だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 海外留学制度が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学生生活の支援体制が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 就職活動の支援体制が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLS8SMRG7s6FuoniAMBGC_3XmzeCvIHde_hi-N8v7O-N-Lg7g/viewform 3/9

2025/11/10 15:13 【鳥取大学】卒業生アンケート調査票

Q4. 鳥取大学（学部）の交流活動やサポート体制について、現在どのように感じていますか。 *

| | 非常にそう思う | ある程度そう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 地域社会との交流が盛んだった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 国際交流が活発だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| クラブ・サークル活動が盛んだった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学外学習による職業体験や社会体験が多かった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 資格取得のサポートに積極的だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| IT活用教育に熱心だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 海外留学制度が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学生生活の支援体制が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 就職活動の支援体制が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLS8SMRG7s6FuoniAMBGC_3XmzeCvIHde_hi-N8v7O-N-Lg7g/viewform 3/9

Q 6. あなたは鳥取大学（学部）での教育や学生生活を通じて、以下のDP能力*はどの程度修得できたと思いますか。

| | 大変修得できた | ある程度修得できた | あまり修得できなかった | 全く修得できなかった |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 知識・理解（教養教育） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 知識・理解（専門教育） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| コミュニケーションスキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 数量的スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 情報活用スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 論理的思考力・創造的表現力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 問題発見・課題解決力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 自己管理・実行力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 生涯学習力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 協働力（リーダーシップも含む） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 倫理観 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 責任ある市民としての社会性 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |



Q 7. (1) あなたが社会に出てから、以下のDP能力はどの程度役立ちましたか。

| | 大変役立った | ある程度役立った | あまり役立たなかった | 全く役立たなかった |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 知識・理解（教養教育） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 知識・理解（専門教育） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| コミュニケーションスキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 数量的スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 情報活用スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 論理的思考力・創造的表現力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 問題発見・課題解決力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 自己管理・実行力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 生涯学習力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 協働力（リーダーシップも含む） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 倫理観 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 責任ある市民としての社会性 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |



Q 7. (2) 在学中（学部）にもっと学んでおけば良かったと思うDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

- 知識・理解（教養教育）
- 知識・理解（専門教育）
- コミュニケーションスキル
- 数量的スキル
- 情報活用スキル
- 論理的思考力・創造的表現力
- 問題発見・課題解決力
- 自己管理・実行力
- 生涯学習力
- 協働力（リーダーシップも含む）
- 倫理観
- 責任ある市民としての社会性

Q 8. 鳥取大学（学部）で受講した授業や先生からの指導、在学中に参加した課外活動等の中で、社会に出てから「これは本当に役立った」と感じるものは、どのようなものでしょうか。授業科目名（卒業研究を含む）、先生の名前、クラブ・サークル活動名等について、具体的に記入ください。

回答を入力

Q 9. 今後の鳥取大学（学部）における教育や学生支援の改善等のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

回答を入力

アンケートは以上です。ご意見、ご要望、お時間をいただきありがとうございます。今後とも鳥取大学をよろしくお願いたします。

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。



このフォームは 国立大学法人 鳥取大学 内部で作成されました。 - フォームのオーナーに問い合わせる

【鳥取大学】グローバル教育に関するアンケート調査票

鳥取大学では、国際社会の中核となり得る人材を育成するための取り組みの一環として、海外研修・留学プログラムの充実に努めています。

本学在学中に、海外研修・留学プログラム等に参加した方が対象になります。該当の方のみ、以下の質問にお答えください。

【鳥取大学から海外へ】 <https://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/ja/global-study>
※「海外研修・留学プログラム等」とは、例えば、海外で行われる外国語研修、海外実践教育プログラム、海外での実習・演習・フィールドワーク・学生交流プログラム、海外の大学の研究インターンシップ、交換留学、留学等、海外で行われる教育・研究活動のことを指します。ただし、単なる海外旅行は含まれません。

yanotaka@tottori-u.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

Q1. あなたが海外研修・留学プログラム等に参加した目的についてお答えください (複数該当する場合は、代表的なものを1つを選んでください)。

- 語学
- 交流
- 研究
- その他



Q2. 在学中に参加した海外研修・留学プログラム等について、現在どのように感じていますか。

| | 非常にそう思う | ある程度そう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 海外研修・留学プログラム等に参加してよかったと思う。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 海外研修・留学等によって、グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 海外研修・留学等で履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 海外研修・留学等での経験が、人生観・職業観などに何らかの成果をもたらした。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

本学のグローバル教育で育成する能力・知識等

| | |
|-------------|---|
| 自己開発・強化力 | 自分自身のありたい姿についての明確な意を持ち、その実現のための能力を主体的・継続的に高める力 |
| 自己管理能力 | 海外の異なる異文化環境でもこれこれのいふステップを持ち、与えられた仕事を自己責任で自ら判断して遂行する力 |
| 課題発見・解決力 | 世界の潮流を冷静に判断し、適切な視野で課題を見つけ、その解決に向けて適切なある異文化圏を導く力 |
| 日本発信力 | 日本人としての誇りと伝統的なアイデンティティを醸成し、日本の歴史、社会、文化および国際競争力の日本事例を説明するとともに、それをグローバル社会に向けて発信できる知識と能力 |
| 地球的課題理解力 | 地球環境問題や地球資源問題の現状の課題とその解決を越え、取り組みの必要性を理解し、その解決のために最も取り組みたいなど、「地球の良」としての意識 |
| 異文化理解力 | 日本とは異なる文化、習慣、価値観などを文化の多様性として理解する能力 |
| 異文化受容力 | 外国人を含む多様な人間と協力、行動して新しい価値を生み出す力 |
| 英語通用力 | 異文化とのコミュニケーションの基盤としての英語運用能力 |
| トリリンガル能力 | 現地コミュニティとの良好な関係に必要な言語的な能力による異文化運用能力 |
| プレゼンテーション能力 | 自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることができる力 |
| ディベート能力 | 相手の考えを丁寧聞き、ニーズに基づいた意見を表明することができる力 |
| チームワーク形成力 | 人間関係に関する調整がスムーズに行き渡るように意識しつつ、異なる文化の背景を知る外国人とのチームワークを形成でき、より高いパフォーマンスを達成することもできる力 |



Q3. 海外研修・留学プログラム等の経験を通じて、以下の能力・知識等は、どの程度修得できたと思いますか。

| | 大変修得できた | ある程度修得できた | あまり修得できなかった | 全く修得できなかった |
|-------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 自己開発・強化力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 自己管理能力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 課題発見・解決力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 日本発信力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 地球的課題理解力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 異文化理解力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 異文化受容力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 英語通用力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| トリリンガル能力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| プレゼンテーション能力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ディベート能力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| チームワーク形成力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q4. 海外研修・留学プログラム等に参加したことで、良かった点、改善が必要な点、研修の内容や経験が現在の仕事で役立った点、海外経験が人生観・職業観などに何らかの成果をもたらした点等があれば、具体的に記入ください。

回答を入力

アンケートは以上です。ご意見、ご要望、お時間をいただきありがとうございます。今後とも鳥取大学をよろしくお願いいたします。



令和7年3月

修了生 各位

鳥取大学長 中島 廣光

「鳥取大学大学院 修了生アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「授業アンケート」や「学生実態調査」等のアンケート結果に基づき、授業改善や学生支援活動の充実等を行っています。在学生には、様々な形でアンケート調査等を行っていますが、本学修了生として見た本学の教育・研究の支援や修得すべきもの、という点も今後の教育・研究支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、アンケートをお願い申し上げる次第です。

つきましては、ご多忙中のこととは存じますが、下記の Web サイトから**令和7年5月30日(金)**までにアンケートにご回答くださいますよう、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。 敬具

【修了生アンケート調査票】

<https://forms.gle/pDQrv8M4xocY7eyQA>



※所要時間5分程度のアンケートです。

回答者個人が特定されるような集計・分析は行ないません。

※鳥取大学公式Webサイト

(<https://www.tottori-u.ac.jp/>) TOPページ > 「PICK UP」の「教育力アンケート」のバナーからもアクセスできます。

【修了生ご本人へのご転送のお願い】

このお願いは、在学時に学務支援システムにご登録された保護者様の住所宛に送付させていただいております。誠に勝手ながら、ご回答を修了生の皆様をお願いしたく、ご本人がご不在の場合は、お手数とは存じますが、本ハガキをカメラで撮影しメール等でお送りいただく、又は本ハガキをご転送いただく等により、ご本人にお知らせいただけますと幸甚に存じます。

※在学時に本学が取得した個人情報の取扱いについては、鳥取大学公式Webサイト(右記QRコード参照)をご確認ください。



【本アンケートに関するお問合せ先】

鳥取大学学生部教育支援課教務支援係(鳥取市湖山町南4丁目101)

TEL: 0857-31-6774、E-mail: st-kyoumushien@ml.adm.tottori-u.ac.jp

2025/11/10 15:28 【鳥取大学】修了生アンケート調査票

【鳥取大学】修了生アンケート調査票

令和2年度～令和5年度において、本学の地域学研究科、持続性社会創生科学研究科、医学系研究科、工学研究科、連合農学研究科及び共同獣医学研究科を修了した方が対象です。

yanotaka@tottori-u.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

Q1. (1) 修了時期 *

選択

Q1. (2) 修了した研究科・専攻 *

選択

Q1. (3) このアンケートをどうやって知りましたか。 *

大学から送られたハガキ

大学からのメール

鳥取大学公式Webサイト

その他:

Q2. (1) 職業 *

選択

①

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeU6FACfWmHdJEAE-qsblUIQd5VM9FG3ZEh63_Co5aRbA/viewform 1/8

2025/11/10 15:28 【鳥取大学】修了生アンケート調査票

Q2. (2) 業種 *

選択

Q3. 鳥取大学（大学院）の教育や研究について、現在どのように感じていますか。

| | 非常にそう思う | ある程度そう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| カリキュラムについて、授業内容が充実していた？ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 研究室における研究指導が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 研究の施設や設備・装置が充実していた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学術面での研究業績が優れていた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 産学共同研究で実績が豊富だった | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

②

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeU6FACfWmHdJEAE-qsblUIQd5VM9FG3ZEh63_Co5aRbA/viewform 2/8

2025/11/10 15:28 【鳥取大学】修了生アンケート調査票

Q4. 鳥取大学（大学院）を総合的に見ると、現在どのように感じていますか。 *

| | 非常にそう思う | ある程度そう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない |
|----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 大学院の教育内容・研究指導に、全体として満足している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 大学院の教育・研究は修了後の仕事や生活に役立っている | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 大学院への進学を学部生に薦めたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

鳥取大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す能力等（DP能力）

| 能力 | 説明 |
|---------------|--|
| 知識・理解（教養教育） | 文化、芸術、政治に関する幅広い知識と理解 Literature, history, and understanding of culture, society and values (Liberal Arts Education) |
| 知識・理解（専門教育） | 特定分野の深い専門知識と理解 In-depth knowledge and understanding of a particular field or area of expertise (Specialized Education) |
| コミュニケーションスキル | 日本語・英語の両方で聴く、話す、書く、読むことができる Ability to read, write, listen, and speak in Japanese and other selected foreign languages |
| 数値的スキル | 数値的データについて、その構造や意味を理解し、分析し、解釈し、表現することができる Ability to analyze, understand, and interpret numerical and other quantitative information, and make quantitative judgments |
| 問題発見・解決能力 | 未知な課題を自ら発見し、適切な方法で解決することができる Ability to identify and analyze diverse situations, make meaningful judgments, and act effectively in responding with sound judgement |
| 問題発見・解決能力 | 問題発見・解決能力、問題の発見、解決、評価、改善、モニタリングなどを含む、自己主導で学業を遂行することができる Ability to analyze and assess situations and knowledge in a multifaceted and logical manner and implement solutions to address such situations and resolve them |
| 自己管理・実行力 | 目標を設定し、それに必要な知識・技能・資源を、自己責任で確保することができる Ability to (1) identify a problem, (2) gather resources, and (3) reliably resolve the problem |
| 自己管理・実行力 | 自己責任で、積極的に行動し、適切な判断と自己調整を行うことができる Ability to take proactive and self-directed action, and reliably act in order to ensure the goals and objectives are achieved (Self-Management and Execution Skills) |
| 協働能力 | 多様な人々と協働して学業を遂行することができる Ability to effectively collaborate and independently assess other production |
| 倫理観 | 多様な状況下において、倫理的判断を行い、適切な行動をとることができる Ability to integrate and reflectively act in diverse circumstances, and to provide direction to others in order to enable them to achieve their goals (Leadership) |
| 責任ある市民としての社会性 | 社会の発展と持続可能性に貢献することができる Ability to act in accordance with one's conscience and the norms and values of society |
| 責任ある市民としての社会性 | 社会の発展と持続可能性に貢献することができる Ability to have an awareness of one's role as a member of society, proactively exercise one's duties and rights, and actively participate in the development of society |

①

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeU6FACfWmHdJEAE-qsblUIQd5VM9FG3ZEh63_Co5aRbA/viewform 3/8

2025/11/10 15:28 【鳥取大学】修了生アンケート調査票

Q5. あなたは鳥取大学（大学院）での研究や専門教育を通じて、以下のDP能力はどの程度修得できたと思いますか。

| | 大変修得できた | ある程度修得できた | あまり修得できなかった | 全く修得できなかった |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 知識・理解（教養教育） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 知識・理解（専門教育） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| コミュニケーションスキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 数値的スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 情報活用スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 論理的思考力・創造的表現力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 問題発見・課題解決力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 自己管理・実行力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 生涯学習力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 協働力（リーダーシップも含む） | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 倫理観 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 責任ある市民としての社会性 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

②

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeU6FACfWmHdJEAE-qsblUIQd5VM9FG3ZEh63_Co5aRbA/viewform 4/8

Q 6. (1) あなたが社会に出てから、以下のDP能力はどの程度役立ちましたか。

| | 大変役立った | ある程度役立った | あまり役立たなかった | 全く役立たなかった |
|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 知識・理解 (教養教育) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 知識・理解 (専門教育) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| コミュニケーションスキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 数論的スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 情報活用スキル | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 論理的思考力・創造的表現力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 問題発見・課題解決力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 自己管理・実行力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 生涯学習力 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 協働力 (リーダーシップも含む) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 倫理観 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 責任ある市民としての社会性 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |



Q 6. (2) 在学中 (大学院) にもっと学んでおけば良かったと思うDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

- 知識・理解 (教養教育)
- 知識・理解 (専門教育)
- コミュニケーションスキル
- 数論的スキル
- 情報活用スキル
- 論理的思考力・創造的表現力
- 問題発見・課題解決力
- 自己管理・実行力
- 生涯学習力
- 協働力 (リーダーシップも含む)
- 倫理観
- 責任ある市民としての社会性

Q 7. 鳥取大学 (大学院) で受講した授業や研究指導の中で、社会に出てから「これは本当に役立った」と感じるものは、どのようなものでしょうか。授業科目名、先生の名前、研究室名等について、具体的にご記入ください。

回答を入力

Q 8. 今後の鳥取大学 (大学院) における研究指導の改善等のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

回答を入力

アンケートは以上です。ご意見、ご要望、お時間をいただきありがとうございます。今後とも鳥取大学をよろしくお願いいたします。

送信

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 国立大学法人 鳥取大学 内部で作成されました。・[フォームのオーナーに問い合わせる](#)
このフォームが不審だと思われる場合 [報告](#)



各位

鳥取大学長 中島 廣光

「鳥取大学教育力アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では、机上の学びだけでなく、地域のさまざまな現場に赴いて理解を深める「インターンシップ」や「フィールド実習」を実施する他、多様な地域貢献活動に参画することを奨励しております。地域コミュニティの発展や経済の活性化等に貢献でき、地域や職場で活躍できる人材の養成を目指しています。

このような本学卒業生（修了生）がその就職先でいかに評価されているか、という点も今後の教育・学生支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたびアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、アンケートはWebアンケート方式で実施させていただきますので、回答は下記のWebサイトから令和7年5月30日（金）までにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【アンケートの回答方法に関するお願い】

- ・ 下記の「Google Forms」又は「Microsoft Forms」のいずれか一方のアンケート調査票から、ご回答をお願いいたします。どちらもアンケート内容は同じです。
- ・ アンケートは、人事・採用ご担当者様にご回答いただくことを想定しています。複数人の卒業生（修了生）がお世話になっている事業所の場合、所属もまた複数、多地域にわたると思われれます。その場合は、人事・採用ご担当者様が、総括してご回答くださるようお願い申し上げます。
- ・ 集計の際に企業名等並びに回答者個人が特定されるような分析は行ないません。
- ・ 本アンケートに係る個人情報等は、本アンケート以外に利用しません。

【就職先企業・団体等へのアンケート調査票】

Google Forms

<https://forms.gle/kPSohVFe66TnzBmS9>

Microsoft Forms

<https://forms.office.com/r/4WHYNVcJGr>

【本アンケートに関するお問合せ先】

鳥取大学学生部教育支援課教務支援係

鳥取市湖山町南4丁目101, TEL: 0857-31-6774, E-mail: st-kyoumushien@ml.adm.tottori-u.ac.jp

2025/11/10 16:16 【鳥取大学】就職先企業・団体等へのアンケート調査票

【鳥取大学】就職先企業・団体等へのアンケート調査票

鳥取大学の学部・研究科を卒業（修了）した学生を採用された企業・団体等が対象です。

yanotaka@tottori-u.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

Q1. 貴社の従業員規模（正規従業員）について *

選択

Q2. 貴社の業種について *

選択

Q3. 貴社の本社（本部）の所在地について *

選択

Q4. 貴社でこれまでに採用した鳥取大学卒業（修了）者の実績人数について *

選択

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSchAb5_Lbrp4P5myPE51Hx1SeACDNWJto4IZ1Zi0K7zdw/viewform 1/6

2025/11/10 16:16 【鳥取大学】就職先企業・団体等へのアンケート調査票

Q5. 貴社でこれまでに採用した鳥取大学卒業（修了）者の学部・大学院について *

地域学部（旧教育地域科学部・教育学部を含む）
 医学部
 工学部
 農学部
 地域学研究科（旧教育学研究科を含む）
 医学系研究科（修士・博士前期課程）
 工学研究科（博士前期課程）
 農学研究科（修士課程）
 持続性社会創生科学研究科（博士前期課程）
 医学系研究科（博士・博士後期課程）
 工学研究科（博士後期課程）
 適合農学研究科（博士課程）
 共同獣医学研究科（博士課程）
 卒業（修了）者を採用したことはあるが、学部・研究科名は分からない

鳥取大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す能力等（DP能力）

| | |
|--|--|
| 知識・理解 (教養教育) Knowledge and Understanding (Liberal Arts Education) | 文化、社会、自然に関する幅広い知識とその理解 Extensive knowledge and understanding of culture, society and nature |
| 知識・理解 (専門教育) Knowledge and Understanding (Specialized Education) | 特定の専門分野に関する深い知識とその理解 In-depth knowledge and understanding of a specific area of expertise |
| コミュニケーションスキル Communication Skills | 日本語と外国語の両方を用いて、読み、書き、話すことができる Read, write, listen and speak in Japanese and another foreign language. |
| 数値的スキル Quantitative Skills | 自然や社会の現象について、データ、数値やモデルを用いて分析し、理解し、表現することができる Analyze, understand, and represent natural and social phenomena by utilizing data, mathematical formulas, and models. |
| 情報活用スキル Information Application Skills | 多岐にわたる情報源から必要な情報を抽出し、その有用性を判断し、適切に活用することができる Collect and analyze diverse information, make appropriate judgments, and use it effectively in accordance with moral principles. |
| 問題発見・課題解決力 Problem-finding and problem-solving skills | 複雑な問題を発見し、論理的に分析し、解決する。あるいは、新しい問題を発見し、その解決方法を提案することができる Identify a problem, analyze it logically, and propose the solution necessary to solve it, and ensure that the problem is solved. |
| 自己管理・実行力 Self-management and execution skills | 自ら目標を設定し、計画を立て、進捗を確認し、必要に応じて調整し、目標を達成することができる Self-disciplined, proactive, and able to ensure that goals and objectives are achieved. |
| 学習能力 Learning Capabilities | 卒業後も自ら進んで学習することができる Students are motivated to study independently and independently after graduation. |
| 協働力 (リーダーシップを含む) Collaboration skills (including leadership) | 多様な環境下において、他者と協働し、チームを形成し、目標を達成するために貢献することができる Able to cooperate and collaborate with others in diverse environments, and to provide direction to others and mobilize resources to achieve their goals. |
| 倫理観 Ethics | 社会規範や社会の発展に貢献することを志す Act in accordance with social conventions and the norms and laws of society. |
| 責任ある市民としての社会性 Social Responsible Citizenship | 社会の一員としての自覚と責任を持ち、社会の発展に貢献することを目指す Have an awareness of their role as a member of society and be actively involved in the development of society while properly exercising their rights and duties. |

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSchAb5_Lbrp4P5myPE51Hx1SeACDNWJto4IZ1Zi0K7zdw/viewform 2/6

2025/11/10 16:16 【鳥取大学】就職先企業・団体等へのアンケート調査票

Q6. 近年の貴社の新採用活動で重視される、学生に求める能力・態度等について、以下の中から3つ選んでください。

知識・理解 (教養教育)
 知識・理解 (専門教育)
 コミュニケーションスキル
 数値的スキル
 情報活用スキル
 論理的思考力・創造的表現力
 問題発見・課題解決力
 自己管理・実行力
 生涯学習力
 協働力 (リーダーシップも含む)
 倫理観
 責任ある市民としての社会性
 その他:

Q7. (1) 直近5年間で貴社の新採用活動において、学部卒業者と大学院卒業（修了）者に求める能力・態度等に違いはありますか。

ある
 ない

Q7. (2) 違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求められますか。具体的な違いをご記入ください。

回答を入力

Q8. (1) 鳥取大学卒業（修了）者の印象として、何かイメージされる特徴はありますか。

ある
 ない

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSchAb5_Lbrp4P5myPE51Hx1SeACDNWJto4IZ1Zi0K7zdw/viewform 3/6

2025/11/10 16:16 【鳥取大学】就職先企業・団体等へのアンケート調査票

Q8. (2) イメージされる特徴がある場合、どのようなものでしょうか。具体的な特徴をご記入ください。

回答を入力

Q9. (1) 鳥取大学卒業（修了）者の印象として「身につけている」と感じられるDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

知識・理解 (教養教育)
 知識・理解 (専門教育)
 コミュニケーションスキル
 数値的スキル
 情報活用スキル
 論理的思考力・創造的表現力
 問題発見・課題解決力
 自己管理・実行力
 生涯学習力
 協働力 (リーダーシップも含む)
 倫理観
 責任ある市民としての社会性

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSchAb5_Lbrp4P5myPE51Hx1SeACDNWJto4IZ1Zi0K7zdw/viewform 4/6

Q9. (2) 大学での教育や研究指導等において「もっと身につけておくべき」と感じられるDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

- 知識・理解（教養教育）
- 知識・理解（専門教育）
- コミュニケーションスキル
- 数値的スキル
- 情報活用スキル
- 論理的思考力・創造的表現力
- 問題発見・課題解決力
- 自己管理・実行力
- 生涯学習力
- 協働力（リーダーシップも含む）
- 倫理観
- 責任ある市民としての社会性

Q10. 今後の鳥取大学における教育、研究指導、学生支援の改善等のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

回答を入力

アンケートは以上です。ご意見、ご要望、お時間をいただきありがとうございました。今後とも鳥取大学をよろしく願っています。

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 国立大学法人 鳥取大学 内部で作成されました。 - フォームのオーナーに問い合わせる

このフォームが不審だと思われる場合 報告

Google フォーム



「鳥取大学の教育力」アンケート

報告書作成WG

| | | |
|---------------------------|-----|-------|
| 理事（教育担当）, 教育支援・国際交流推進機構長 | | 坂口 裕樹 |
| 教育支援・国際交流推進機構 高等教育開発センター長 | | 香川 敬生 |
| 高等教育開発センター | 教 授 | 小林 昌博 |
| 高等教育開発センター | 准教授 | 瀬戸 邦弘 |
| 高等教育開発センター | 准教授 | 三好 雅之 |
| 入学センター | 教 授 | 森川 修 |
| データサイエンス教育センター | 教 授 | 橋本 隆司 |
| キャリアセンター | 准教授 | 長尾 博暢 |
| 経営戦略本部 | 教 授 | 大野 賢一 |
| 学生部教育支援課長 | | 小林 俊太 |
| 学生部教育支援課教務支援係長 | | 矢野 隆士 |